

# 新保遺跡 III

奈良・平安時代編

# 蛭沢遺跡

一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第19集一

1988

群馬県教育委員会  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



資料	(附)群馬県埋蔵文化財
	調査事業団保管
No. <sup>98-</sup> 4986	平成10年5月13日

01-320
37
(7)



# 新保遺跡 III

奈良・平安時代編

# 蛭沢遺跡

一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第19集一

1988

群馬県教育委員会  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





新保遺跡全景 南西上空より



## 序

新しい交通システムである関越自動車道は関東平野を南から北へと縦断して建設されました。この建設により群馬県は新しい時代を迎え、その影響も測り知れないものがあります。群馬県はこの大動脈をつうじて首都圏に連なるようになりました。

この建設に先行する発掘調査は群馬県教育委員会によって昭和52～55年にわたり実施され、その結果本遺跡地は弥生時代～平安、中近世にいたる複合遺跡であることが判明しました。その弥生時代大溝編については『新保遺跡 I』ですでに昭和60年に報告しました。本編はその続きである奈良・平安・中・近世編であります。

本地域は榛名山東南麓に広がる扇状地端に井野川支流である染谷川及びその自然堤防上を利用して営まれた村落であります。奈良・平安時代には集落と掘立柱建物跡群があり、古代群馬郡の村が存在したことが推定され、また中世屋敷も検出されました。部分の発掘で全容の解明には至りませんが、古代から中近世に至る村落考察の有力な手掛かりがえられました。

発掘調査及び整理事業の実施に当たりまして、日本道路公団東京第二建設局、群馬県教育委員会文化財保護課関係各位並びに極寒から酷暑へと厳しい自然条件の中で発掘調査に従事していただきました地元を始めとする周辺地域の皆様に感謝いたします。また本報告書が研究者に活用されるとともに、広く県民の皆様に利用され、群馬の古代社会の解明に益するところがあれば幸いです。

昭和63年2月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 清水一郎



## 例 言

1. 本書は関越自動車道（新潟線）建設工事に伴い事前調査された新保・蛭沢遺跡の発掘調査報告書第3分冊である。
2. 新保遺跡は群馬県高崎市新保町、新保田中町に所在する。  
蛭沢遺跡は群馬県高崎市日高町に所在する。
3. 新保遺跡は縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中・近世・各時期にわたる複合遺跡である。本書は奈良平安編『新保遺跡III』であり弥生・古墳時代編『新保遺跡II』とはFA降下以前、以後により分けてある。  
蛭沢遺跡は古墳～平安時代にわたる遺跡である。
4. 事業主体 日本道路公団第二建設局
5. 調査主体 群馬県教育委員会
6. 整理主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
7. 発掘調査期間 新保遺跡 昭和52年8月22日～昭和55年3月25日  
蛭沢遺跡 昭和53年11月7日～昭和54年1月17日
8. 発掘調査担当者  
新保遺跡  
平野進一（助群馬県埋蔵文化財調査事業団） 佐藤明人（助群馬県埋蔵文化財調査事業団）  
真下高幸 群馬県教育委員会 石塚久則 同上  
巾隆之 同上 洞口正史 群馬県立歴史博物館  
大江正行（助群馬県埋蔵文化財調査事業団） 小野和之（助群馬県埋蔵文化財調査事業団）  
蛭沢遺跡  
真下高幸 群馬県教育委員会
9. 発掘調査嘱託員・調査員  
新保遺跡  
荒川弘 埼玉県妻沼町教育委員会 黒沢はるみ（助群馬県埋蔵文化財調査事業団）  
飯田陽一（助群馬県埋蔵文化財調査事業団） 反町公己  
大塚昌彦 渋川市教育委員会 三浦京子（助群馬県埋蔵文化財調査事業団）  
茂木由行 吉井町教育委員会
10. 発掘調査に関わった、群馬県教育委員会事務局文化財保護課職員（昭和52～54年度）  
磯貝福七 白石保三郎 森田秀策 松本浩一 飯塚喜代子 女屋 等  
阿久津宗二 大井田利興
11. 本書作成にあたっては次の方々から御助言、御指導を受けた。  
石井栄一 金子浩昌 小林裕二 須田 努 玉口時雄 林部 均  
宮崎重雄
12. 本書の執筆者  
真下高幸 新保遺跡住居跡11～20号住居跡・蛭沢遺跡 1、2、3、5  
大江正行 新保遺跡 6-(1)、(2)

佐藤明人 新保遺跡 1、3、4

友廣哲也 上記以外

13. 本書中の獣骨の鑑定は金子浩昌氏（早稲田大学）、石材の鑑定は飯島静雄氏（群馬地質学協会）に依頼した。

14. 本書の作成及び資料整理担当者

（昭和61年度）

鈴木幹子	天田光江	今井あや子	岩淵フミ子	大友美代子	金子ひろ子
神谷順子	小林恵美子	篠原富子	関正江	山崎由紀枝	吉田文子
竜崎めぐみ	六反田達子				

（昭和62年度）

大友美代子	金子ひろ子	狩野君江	小林恵美子	篠原富子	茂木範子
吉田文子					

15. 本書作成事務に関わった（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団役員及び職員

白石保三郎	梅沢重昭	井上唯雄	松本浩一	大沢秋良	田口紀雄
上原啓巳	定方隆史	平野進一	国定均	笠原秀樹	須田朋子
吉田有光	柳岡良宏	野島のぶ江	吉田恵子	吉田笑子	並木綾子
今井もと子	石田智子	松井美智子	大澤美佐保	大島敬子	

16. 遺物の写真は宇貫達夫氏（タツミ写真スタジオ）に依頼した。

17. 井戸遺構一覧表（15号井戸～39号井戸）の備考欄は原澤ポーリング㈱の堀削時所見報告に依る。

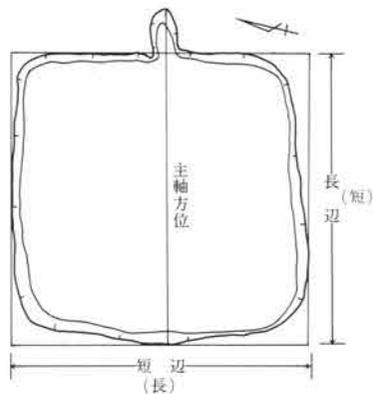
18. 遺物の保存処理は関 邦一、北爪健二、小材浩一が担当した。

19. 出土遺物・図版・写真・その他の調査記録は一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

20. 本書の編集は友廣が担当した。

## 凡 例

1. 新保・蛭沢遺跡のグリッドは国家座標（IX系）に基づくものである。
2. 新保遺跡は南からA～D区に分かれ、A～C区とD区は遺構番号が別であるためD区の遺構には頭にDと付してある。住居跡に付した番号は調査した順に付したものをそのまま用いた。よって、番号そのものはいかなる順位も示すものではない。
3. 本書中の遺構図版は基本的には1/60、竈個別図は1/30の縮小率である。但し溝・井戸はこの限りではない。このような図版にはその縮小率を付してある。
4. 遺構図版中のスクリーンパターンは  は焼土を示し  は灰を示す。
5. 本書中の遺物図版についてはそれぞれ比例尺を付したが基本的には1/3である。但し遺物によってはその限りではない。このような図版には比例尺を付した。
6. 本書における遺物観察は表組みでこれを示した。計測値単位はcm・gである。
7. 土器観察表中細砂粒は1mm以下を示し他は実値を記してある。色調については農林省農林水産技術会議事務局監修新版標準土色帳に基づいている。
8. 本書における遺構図版中の断面基準は標高でこれを表した。
9. 住居跡の方位・規模は下図のように算出した。



# 目 次

卷頭図版

序

例 言

凡 例

## 新保遺跡

1	発掘調査の経緯と調査過程	1
2	立地と周辺の遺跡	2
3	調査の方法	5
4	基本層序	6
5	検出された遺構と遺物	8
(1)	竪穴住居跡	8
(2)	掘立柱建物跡 奈良時代掘立柱建物跡	161
	中・近世掘立柱建物跡	178
(3)	井戸・土坑・溝・奈良時代生活面	188
	土坑跡	206
	墓壇跡	217
	溝跡	218
	出土陶磁器	231
	D区溝出土遺物	235
	木器	244
	奈良時代生活面の遺物	265
	埴輪	268
6	考察	273
(1)	瓦類	273
(2)	中・近世陶・磁器、軟式陶器、土師質陶器について	308
7	まとめ	309

## 蛭沢遺跡

1 発掘調査の経緯と調査過程	317
2 調査の方法	317
3 基本層序	317
4 検出された遺構と遺物	318
(1) 竪穴住居跡	318
(2) 溝跡	320
(3) 土坑跡	322
(4) 井戸跡	324
5 まとめ	331

# 挿 図 目 次

新 保 遺 跡		頁			
第 1 図	発掘調査の経過		1		
第 2 図	新保遺跡と周辺の遺跡	1 : 50,000	4		
第 3 図	遺跡全体グリッド設定図	1 : 250	5		
第 4 図	新保遺跡標準土層図		6		
第 5 図	1号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	8		
第 6 図	1号住居跡遺物図	1 : 3	8		
第 7 図	2号住居跡遺構図	1 : 60	9		
第 8 図	2号住居跡竈図	1 : 30	10		
第 9 図	2号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	10		
第 10 図	2号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	11		
第 11 図	2号住居跡遺物図 (3)	1 : 3	12		
第 12 図	3号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	14		
第 13 図	3号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	15		
第 14 図	3号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	16		
第 15 図	3号住居跡遺物図 (3)	1 : 3	17		
第 16 図	4号住居跡遺構図	1 : 60	19		
第 17 図	4号住居跡遺物図	1 : 3	20		
第 18 図	5号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	22		
第 19 図	5号住居跡遺物図	1 : 30	23		
第 20 図	6号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	24		
第 21 図	6号住居跡遺物図	1 : 3	24		
第 22 図	7号住居跡遺構図	1 : 60	25		
第 23 図	7号住居跡遺物図	1 : 3	25		
第 24 図	8号住居跡・11号・12号・14号土坑遺構図	1 : 60	26		
第 25 図	8号住居跡遺物図	1 : 3	27		
第 26 図	10号・11号住居跡遺構図	1 : 60	28		
第 27 図	10号・11号住居跡竈図	1 : 30	29		
第 28 図	10号住居跡遺物図	1 : 3	29		
第 29 図	11号住居跡遺物図	1 : 3	30		
第 30 図	14号住居跡遺構図	1 : 60	30		
第 31 図	14号住居跡竈図	1 : 30	31		
第 32 図	14号住居跡遺物図	1 : 3	31		
第 33 図	15号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	32		
第 34 図	15号住居跡遺物図	1 : 3	33		
第 35 図	17号住居跡遺構図	1 : 60	35		
第 36 図	17号住居跡遺物図	1 : 3	35		
第 37 図	18号住居跡遺構図	1 : 60	37		
第 38 図	18号住居跡竈図	1 : 30	37		
第 39 図	18号住居跡遺物図	1 : 3	38		
第 40 図	19号住居跡遺構図	1 : 60	38		
第 41 図	19号住居跡竈図	1 : 30	39		
第 42 図	19号住居跡遺物図	1 : 3	39		
第 43 図	20号住居跡遺構図	1 : 60	40		
第 44 図	20号住居跡竈図	1 : 30	40		
第 45 図	20号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	40		
第 46 図	20号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	41		
第 47 図	21号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	41		
第 48 図	21号住居跡遺物図	1 : 3	42		
第 49 図	22号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	43		
第 50 図	22号住居跡遺物図	1 : 3	43		
第 51 図	23号住居跡遺構図	1 : 60	44		
第 52 図	24号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	44		
第 53 図	24号住居跡遺物図	1 : 3	44		
第 54 図	27号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	45		
第 55 図	27号住居跡遺物図	1 : 3	46		
第 56 図	28号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	47		
第 57 図	28号住居跡遺物図	1 : 3	47		
第 58 図	30号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	49		
第 59 図	30号住居跡遺物図	1 : 3	49		
第 60 図	31号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	50		
第 61 図	31号住居跡遺物図	1 : 3	50		
第 62 図	32号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	51		
第 63 図	32号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	51		
第 64 図	32号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	52		
第 65 図	33A・B号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	53		
第 66 図	33号住居跡遺物図	1 : 3	54		
第 67 図	34号・66号住居跡遺構図	1 : 60	55		
第 68 図	66号住居跡遺物図	1 : 3	56		
第 69 図	35号住居跡遺構図	1 : 60	56		
第 70 図	35号住居跡遺物図	1 : 3	56		
第 71 図	36号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	57		
第 72 図	37号・38号住居跡遺構図	1 : 60	58		
第 73 図	37号住居跡遺物図	1 : 3	59		
第 74 図	39号住居跡・85号・86号・87号土坑遺構図	1 : 60	60		
第 75 図	39号住居跡遺物図	1 : 3	60		
第 76 図	41号住居跡・89号・90号・98号土坑遺構図	1 : 60	61		
第 77 図	41号住居跡竈図	1 : 30	62		
第 78 図	41号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	62		
第 79 図	41号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	63		
第 80 図	42号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	64		
第 81 図	42号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	64		
第 82 図	42号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	65		
第 83 図	43号・61号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	66		
第 84 図	43号・61号住居跡遺物図	1 : 3	66		
第 85 図	44号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	67		
第 86 図	44号住居跡遺物図	1 : 3	68		
第 87 図	45号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	68		
第 88 図	45号住居跡遺物図	1 : 3	69		
第 89 図	47号住居跡遺構図	1 : 60	69		
第 90 図	47号住居跡遺物図	1 : 3	69		
第 91 図	48号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	70		
第 92 図	48号住居跡遺物図	1 : 3	71		
第 93 図	49号住居跡遺構図	1 : 60	72		
第 94 図	49号住居跡遺物図	1 : 3	72		
第 95 図	50号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	73		
第 96 図	50号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	74		
第 97 図	50号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	75		
第 98 図	51号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	77		
第 99 図	51号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	77		
第 100 図	51号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	78		
第 101 図	52号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	79		
第 102 図	52号住居跡遺物図	1 : 3	80		
第 103 図	53号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	81		
第 104 図	53号住居跡遺物図	1 : 3	81		
第 105 図	54号住居跡遺構図	1 : 60	82		
第 106 図	54号住居跡竈図	1 : 30	83		
第 107 図	54号住居跡遺物図	1 : 3	83		
第 108 図	56号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	84		
第 109 図	58号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	85		
第 110 図	58号住居跡遺物図	1 : 3	85		
第 111 図	59号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	86		

第112图	59号住居跡遺物図	1 : 3	86	第174图	210B号住居跡遺構図	1 : 60	129
第113图	62号住居跡遺構図	1 : 60	87	第175图	211号住居跡遺構図	1 : 60	129
第114图	62号住居跡竈図	1 : 30	88	第176图	211号住居跡遺物図	1 : 3	129
第115图	62号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	88	第177图	D-1号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	130
第116图	62号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	89	第178图	D-1号住居跡遺物図	1 : 3	131
第117图	63号住居跡遺構図	1 : 60	90	第179图	D-2号住居跡遺構図	1 : 60	131
第118图	63号住居跡遺物図	1 : 3	90	第180图	D-2号住居跡竈図	1 : 30	132
第119图	65号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	91	第181图	D-2号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	132
第120图	65号住居跡遺物図	1 : 3	92	第182图	D-2号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	133
第121图	67号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	93	第183图	D-3号・D-9号住居跡遺構図	1 : 60	134
第122图	67号住居跡遺物図	1 : 3	93	第184图	D-3号住居跡遺物図	1 : 3	134
第123图	68号住居跡遺構図	1 : 60	94	第185图	D-3号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	135
第124图	68号住居跡遺物図	1 : 3	95	第186图	D-3号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	136
第125图	69号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	96	第187图	D-9号住居跡遺物図	1 : 3	137
第126图	69号住居跡遺物図	1 : 3	96	第188图	D-4号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	139
第127图	71号住居跡遺構図	1 : 60	97	第189图	D-4号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	139
第128图	73号住居跡遺構図	1 : 60	97	第190图	D-4号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	140
第129图	73号住居跡竈図	1 : 30	98	第191图	D-5号住居跡遺構図	1 : 60	141
第130图	73号住居跡遺物図	1 : 3	98	第192图	D-5号住居跡竈図	1 : 30	142
第131图	75号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	100	第193图	D-5号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	142
第132图	75号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	100	第194图	D-5号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	143
第133图	75号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	101	第195图	D-6号住居跡遺構図	1 : 60	144
第134图	76号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	102	第196图	D-6号住居跡竈図	1 : 30	145
第135图	76号住居跡遺物図	1 : 3	103	第197图	D-6号住居跡遺物図	1 : 3	145
第136图	78号住居跡遺構図	1 : 60	103	第198图	D-7号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	146
第137图	79号住居跡遺構図	1 : 60	104	第199图	D-7号住居跡遺物図	1 : 3	146
第138图	79号住居跡遺物図	1 : 3	104	第200图	D-8号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	147
第139图	80号住居跡遺構図	1 : 60	105	第201图	D-8号住居跡遺物図	1 : 3	148
第140图	80号住居跡遺物図	1 : 3	105	第202图	D-11号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	149
第141图	81号住居跡竈図	1 : 30	105	第203图	D-11号住居跡遺物図	1 : 3	149
第142图	81号住居跡遺物図	1 : 3	106	第204图	D-12号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	150
第143图	82号住居跡遺構図	1 : 60	107	第205图	D-12号住居跡遺物図	1 : 3	150
第144图	82号住居跡竈図	1 : 30	107	第206图	D-13号住居跡遺構図	1 : 60	151
第145图	82号住居跡遺物図	1 : 3	107	第207图	D-13号住居跡竈図	1 : 30	152
第146图	85号住居跡遺構図	1 : 60	108	第208图	D-13号住居跡遺物図	1 : 3	152
第147图	87号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	109	第209图	D-14号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	153
第148图	87号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	109	第210图	D-14号住居跡遺物図	1 : 3	154
第149图	87号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	110	第211图	D-15号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	155
第150图	89号住居跡遺構図	1 : 60	111	第212图	D-15号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	155
第151图	89号住居跡遺物図	1 : 3	112	第213图	D-15号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	156
第152图	90号住居跡遺構図	1 : 60	112	第214图	D-16号住居跡遺構図	1 : 60	157
第153图	90号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	112	第215图	D-16号住居跡竈図	1 : 30	158
第154图	90号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	113	第216图	D-16号住居跡遺物図	1 : 3	158
第155图	91号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	114	第217图	D-17号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	159
第156图	91号住居跡遺物図	1 : 3	115	第218图	D-18号住居跡遺構図	1 : 60	159
第157图	92号住居跡遺構図	1 : 60	117	第219图	D-18号住居跡遺物図	1 : 3	160
第158图	92号住居跡遺物図	1 : 3	117	第220图	1号掘立柱建物跡遺構図	1 : 80	166
第159图	93号住居跡遺構図	1 : 60	118	第221图	2号掘立柱建物跡遺構図	1 : 80	167
第160图	93号住居跡遺物図	1 : 3	118	第222图	2号・3号掘立柱建物跡遺構図	1 : 80	168
第161图	146号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	119	第223图	3号掘立柱建物跡遺構図	1 : 80	169
第162图	146号住居跡遺物図 (1)	1 : 3	119	第224图	6号掘立柱建物跡遺構図	1 : 80	170
第163图	146号住居跡遺物図 (2)	1 : 3	120	第225图	7号・8号掘立柱建物跡遺構図	1 : 80	171
第164图	147号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	120	第226图	9号掘立柱建物跡遺構図	1 : 80	172
第165图	147号住居跡遺物図	1 : 3	121	第227图	10号掘立柱建物跡遺構図	1 : 80	173
第166图	148号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	121	第228图	13号掘立柱建物跡遺構図	1 : 80	174
第167图	148号住居跡遺物図	1 : 3	122	第229图	掘立柱建物跡遺物図 (1)	1 : 3	175
第168图	207号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	122	第230图	掘立柱建物跡遺物図 (2)	1 : 3	176
第169图	207号住居跡遺物図	1 : 3	123	第231图	1号・2号掘立柱建物跡遺構図(中近世)	1 : 80	180
第170图	208号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	124	第232图	3号・4号掘立柱建物跡遺構図(〃)	1 : 80	181
第171图	208号住居跡遺物図	1 : 3	125	第233图	5号・6号掘立柱建物跡遺構図(〃)	1 : 80	182
第172图	209号・210A号住居跡遺構図、竈図	1 : 60・30	127	第234图	D-1号・2号掘立柱建物跡遺構図(〃)	1 : 80	183
第173图	209号住居跡遺物図	1 : 3	128	第235图	D-3号・4号掘立柱建物跡遺構図(〃)	1 : 80	184

第236図	D-5号掘立柱建物跡遺構図(中近世)	1:80	185
第237図	D-6号掘立柱建物跡遺構図( // )	1:80	186
第238図	9号井戸遺構図	1:80	187
第239図	1号・3号井戸遺構図	1:40	199
第240図	4号~9号井戸遺構図	1:40	200
第241図	11号~15号井戸遺構図	1:40	201
第242図	16号~20号井戸遺構図	1:40	202
第243図	21号~28号井戸遺構図	1:40	203
第244図	29号~38号井戸遺構図	1:40	204
第245図	39号・41号・D-1号・2号井戸遺構図	1:40	205
第246図	土坑遺構図(1)	1:60	206
第247図	土坑遺構図(2)	1:60	207
第248図	土坑遺構図(3)	1:60	208
第249図	土坑遺構図(4)	1:60	209
第250図	土坑遺構図(5)	1:60	210
第251図	土坑遺構図(6)	1:60	211
第252図	土坑遺構図(7)	1:60	212
第253図	土坑遺構図(8)	1:60	213
第254図	土坑遺構図(9)	1:60	214
第255図	土坑遺構図(10)	1:60	215
第256図	土坑遺構図(11)	1:60	216
第257図	墓塚遺構図	1:60	217
第258図	溝遺構図(1)	1:160・80	218
第259図	溝遺構図(2)	1:60	219
第260図	溝遺構図(3)	1:60	220
第261図	溝遺構図(4)	1:120	221
第262図	溝遺構図(5)	1:120・60	222
第263図	溝遺構図(6)	1:60	223
第264図	井戸遺物図(1)	1:3	224
第265図	井戸遺物図(2)	1:3	225
第266図	井戸遺物図(3)	1:3	226
第267図	土坑遺物図(1)	1:3	227
第268図	土坑遺物図(2)	1:3	228
第269図	溝遺物図(1)	1:3	229
第270図	溝遺物図(2)	1:3	230
第271図	溝遺物図(3)	1:3	231
第272図	溝遺物図(4)	1:3	232
第273図	溝遺物図(5)	1:3	233
第274図	溝遺物図(6)	1:3	234
第275図	D-1号・D-2号溝遺物図	1:3	235
第276図	D-4号溝遺物図(1)	1:3	236
第277図	D-4号溝遺物図(2)	1:3	237
第278図	D-4号溝遺物図(3)	1:3	238
第279図	D-4号溝遺物図(4)	1:3	239
第280図	D-4号溝遺物図(5)	1:3	240
第281図	D-4号溝遺物図(6)	1:3	241
第282図	D-4号溝遺物図(7)	1:3	242
第283図	D-4号溝遺物図(8)	1:3	243
第284図	木器図(1)	1:4・3	244
第285図	木器図(2)	1:3	245
第286図	木器図(3)	1:3	246
第287図	木器図(4)	1:3	247
第288図	古銭	1:1	248
第289図	遺構外遺物図	1:3	249

第290図	奈良時代生活面遺物図(1)	1:3	265
第291図	奈良時代生活面遺物図(2)	1:3	266
第292図	埴輪図(1)	1:3	268
第293図	埴輪図(2)	1:3	269
第294図	埴輪図(3)	1:3	270
第295図	埴輪図(4)	1:3	271
第296図	埴輪図(5)	1:3	272
第297図	新保遺跡出土女・男瓦統計図		274
第298図	女・男瓦統計図		275
第299図	上野国における鏡瓦の変遷		278
第300図	新保遺跡予測される対応の鏡・宇瓦		279
第301図	鏡瓦分布図		281
第302図	上野国分寺式鏡瓦に対応する須恵器上限・下限形態		282
第303図	瓦出土分布図		284
第304図	瓦図(1)	1:3	288
第305図	瓦図(2)	1:3	289
第306図	瓦図(3)	1:3	290
第307図	瓦図(4)	1:3	291
第308図	瓦図(5)	1:3	292
第309図	瓦図(6)	1:3	293
第310図	瓦図(7)	1:3	294
第311図	瓦図(8)	1:3	295
第312図	瓦図(9)	1:3	296
第313図	新保遺跡集落変遷図(古墳時代)		312
第314図	新保遺跡集落変遷図(奈良時代)		313
第315図	新保遺跡集落変遷図(平安時代)(中近世)		314

### 蛭沢遺跡

第316図	基本層序		317
第317図	1号住居跡遺構図	1:60	318
第318図	1号住居跡遺物図(1)	1:3	318
第319図	1号住居跡遺物図(2)	1:3	319
第320図	2号住居跡遺構図	1:60	319
第321図	2号住居跡遺物図	1:3	319
第322図	3号住居跡遺構図	1:60	320
第323図	溝遺構図(1)	1:60	320
第324図	溝遺構図(2)	1:60	321
第325図	溝遺構図(3)	1:60	322
第326図	土坑遺構図(1)	1:60	322
第327図	土坑遺構図(2)	1:60	323
第328図	土坑遺物図	1:3	323
第329図	1号井戸遺構図	1:40	324
第330図	1号井戸遺物図(1)	1:3	324
第331図	1号井戸遺物図(2)	1:3	325
第332図	2号井戸遺構図	1:40	326
第333図	2号井戸遺物図	1:3	326
第334図	3号井戸遺構図	1:40	327
第335図	3号井戸遺物図(1)	1:3	327
第336図	3号井戸遺物図(2)	1:3	328
第337図	板碑	1:3	329

## 表 目 次

<b>新保遺跡</b>	
第1表	周辺の遺跡一覧表 ..... 3
第2表	1号住居跡遺物観察表 ..... 9

第3表	2号住居跡遺物観察表 ..... 12
第4表	3号住居跡遺物観察表 ..... 18
第5表	4号住居跡遺物観察表 ..... 21
第6表	5号住居跡遺物観察表 ..... 23

第7表	6号住居跡遺物觀察表	24
第8表	7号住居跡遺物觀察表	25
第9表	8号住居跡遺物觀察表	27
第10表	10号住居跡遺物觀察表	29
第11表	11号住居跡遺物觀察表	30
第12表	14号住居跡遺物觀察表	32
第13表	15号住居跡遺物觀察表	34
第14表	17号住居跡遺物觀察表	36
第15表	18号住居跡遺物觀察表	38
第16表	19号住居跡遺物觀察表	39
第17表	20号住居跡遺物觀察表	41
第18表	21号住居跡遺物觀察表	42
第19表	22号住居跡遺物觀察表	43
第20表	24号住居跡遺物觀察表	45
第21表	27号住居跡遺物觀察表	46
第22表	28号住居跡遺物觀察表	48
第23表	30号住居跡遺物觀察表	49
第24表	31号住居跡遺物觀察表	50
第25表	32号住居跡遺物觀察表	52
第26表	33号住居跡遺物觀察表	54
第27表	66号住居跡遺物觀察表	56
第28表	35号住居跡遺物觀察表	57
第29表	37号住居跡遺物觀察表	59
第30表	39号住居跡遺物觀察表	60
第31表	41号住居跡遺物觀察表	63
第32表	42号住居跡遺物觀察表	65
第33表	43・61号住居跡遺物觀察表	67
第34表	44号住居跡遺物觀察表	68
第35表	45号住居跡遺物觀察表	69
第36表	47号住居跡遺物觀察表	70
第37表	48号住居跡遺物觀察表	71
第38表	49号住居跡遺物觀察表	72
第39表	50号住居跡遺物觀察表	75
第40表	51号住居跡遺物觀察表	78
第41表	52号住居跡遺物觀察表	80
第42表	53号住居跡遺物觀察表	82
第43表	54号住居跡遺物觀察表	83
第44表	58号住居跡遺物觀察表	85
第45表	59号住居跡遺物觀察表	87
第46表	62号住居跡遺物觀察表	89
第47表	63号住居跡遺物觀察表	91
第48表	65号住居跡遺物觀察表	92
第49表	67号住居跡遺物觀察表	94
第50表	68号住居跡遺物觀察表	95
第51表	69号住居跡遺物觀察表	97
第52表	73号住居跡遺物觀察表	99
第53表	75号住居跡遺物觀察表	101
第54表	76号住居跡遺物觀察表	103
第55表	79号住居跡遺物觀察表	104
第56表	80号住居跡遺物觀察表	105
第57表	81号住居跡遺物觀察表	106
第58表	82号住居跡遺物觀察表	108
第59表	87号住居跡遺物觀察表	111
第60表	89号住居跡遺物觀察表	112
第61表	90号住居跡遺物觀察表	113
第62表	91号住居跡遺物觀察表	116
第63表	92号住居跡遺物觀察表	117
第64表	93号住居跡遺物觀察表	118
第65表	146号住居跡遺物觀察表	120
第66表	147号住居跡遺物觀察表	121
第67表	148号住居跡遺物觀察表	122
第68表	207号住居跡遺物觀察表	123
第69表	208号住居跡遺物觀察表	126

第70表	209号住居跡遺物觀察表	128
第71表	211号住居跡遺物觀察表	129
第72表	D-1号住居跡遺物觀察表	131
第73表	D-2号住居跡遺物觀察表	133
第74表	D-3号住居跡遺物觀察表	137
第75表	D-9号住居跡遺物觀察表	138
第76表	D-4号住居跡遺物觀察表	140
第77表	D-5号住居跡遺物觀察表	143
第78表	D-6号住居跡遺物觀察表	145
第79表	D-7号住居跡遺物觀察表	146
第80表	D-8号住居跡遺物觀察表	148
第81表	D-11号住居跡遺物觀察表	149
第82表	D-12号住居跡遺物觀察表	151
第83表	D-13号住居跡遺物觀察表	152
第84表	D-14号住居跡遺物觀察表	154
第85表	D-15号住居跡遺物觀察表	156
第86表	D-16号住居跡遺物觀察表	158
第87表	D-18号住居跡遺物觀察表	160
第88表	掘立柱建物跡遺構一覽表(1)(奈良)	162
第89表	掘立柱建物跡遺構一覽表(2)(奈良)	162
第90表	掘立柱建物跡遺物觀察表	177
第91表	掘立柱建物跡遺構一覽表(中世)	179
第92表	井戸遺構一覽表	189
第93表	土坑遺構一覽表	190
第94表	墓壇遺構一覽表	196
第95表	溝遺構一覽表	196
第96表	陶磁器觀察表	250
第97表	土坑遺物觀察表	252
第98表	溝遺物觀察表	254
第99表	D区溝遺物觀察表	256
第100表	陶磁器觀察表	264
第101表	奈良時代生活面遺物觀察表	266
第102表	女・男瓦の破片数量比較	274
第103表	女・男瓦の厚さの比較	276
第104表	瓦觀察表 1類A	297
第105表	瓦觀察表 1類B-1	304
第106表	瓦觀察表 1類B-2	305
第107表	瓦觀察表 1類B-3	306
第108表	瓦觀察表 1類B-4	306
第109表	瓦觀察表 1類C	306
第110表	瓦觀察表 2類A	307
第111表	瓦觀察表 2類B	307
第112表	瓦觀察表 3類	307

## 蛭沢遺跡

第113表	1号住居跡遺物觀察表	319
第114表	2号住居跡遺物觀察表	320
第115表	土坑遺物觀察表	323
第116表	1号井戸遺物觀察表	325
第117表	2号井戸遺物觀察表	326
第118表	3号井戸遺物觀察表	329
第119表	土坑遺構一覽表	330
第120表	井戸遺構一覽表	330

# 写真目次

## 新保遺跡

卷頭	新保遺跡全景	76号住居跡	19号井戸
P L 1	1号住居跡・竈	78号住居跡	21号井戸
	2号住居跡・竈・貯蔵穴	79号住居跡	22号井戸
	3・7号住居跡	80号住居跡	23号井戸
	3号住居跡竈	81号住居跡	24号井戸
	4号住居跡	82号住居跡	26号井戸
P L 2	5号住居跡・竈	P L 12	87号住居跡・竈
	6号住居跡		89号住居跡
	8号住居跡・竈		91号住居跡
	10・11号住居跡		93号住居跡
	10号住居跡竈		146号住居跡
P L 3	11号住居跡竈		148号住居跡
	14号住居跡・竈	P L 13	207号住居跡・竈
	15号住居跡・遺物		208号住居跡・竈
	17号住居跡		209号住居跡
	18号住居跡・竈		210B号住居跡
P L 4	19号住居跡・竈		211号住居跡
	20号住居跡・竈		54号住居跡遺物(馬歯)
	21号住居跡・竈	P L 14	D-1号住居跡・竈
	24号住居跡・竈		D-2号住居跡・竈
P L 5	26号住居跡		D-3・9号住居跡
	27号住居跡・竈		D-4号住居跡・竈
	28号住居跡・竈		D-5号住居跡
	30号住居跡	P L 15	D-6号住居跡・竈
	31号住居跡・竈		D-7号住居跡・竈
P L 6	32号住居跡・竈		D-8号住居跡・竈
	33号住居跡・竈		D-11号住居跡・竈
	34・66号住居跡	P L 16	D-12号住居跡・竈
	35号住居跡		D-13号住居跡・竈
	36号住居跡・竈		D-14号住居跡
	37号住居跡		D-15号住居跡・竈
P L 7	39号住居跡		D-17号住居跡
	41号住居跡・竈	P L 17	1号掘立柱建物跡
	42号住居跡・竈		2号掘立柱建物跡
	43・61号住居跡		3号掘立柱建物跡
	44号住居跡		7号掘立柱建物跡
	45号住居跡・竈	P L 18	8・9号掘立柱建物跡
	48号住居跡		9号掘立柱建物跡
P L 8	48号住居跡・竈		10号掘立柱建物跡・(P-14)
	50号住居跡・竈		13号掘立柱建物跡
	51号住居跡・竈		中世小穴群
	52号住居跡・竈		中世1号掘立柱建物跡
	53号住居跡	P L 19	D-1号掘立柱建物跡
P L 9	53号住居跡・竈		D-2号掘立柱建物跡
	54号住居跡・竈		D-3号掘立柱建物跡
	56号住居跡		D-4号掘立柱建物跡
	58号住居跡・竈		D-5号掘立柱建物跡
	59号住居跡・竈		D-6号掘立柱建物跡
P L 10	43号住居跡遺物(瓦)	P L 20	1号井戸
	62号住居跡		3号井戸
	63号住居跡		8号井戸
	65号住居跡		9号井戸
	67号住居跡・竈		11号井戸
	69号住居跡		12号井戸
	73号住居跡		13号井戸
P L 11	75号住居跡・竈		15号井戸
		P L 21	17号井戸
			31号井戸
		P L 22	32号井戸
			33・34号井戸
			35号井戸
			36・37号井戸
			38号井戸
			39号井戸
		P L 23	2号土坑
			3号土坑
			4号土坑
			6号土坑
			7号土坑
			9号土坑
			10号土坑
			11・12号土坑
		P L 24	14号土坑
			20号土坑
			21号土坑
			22号土坑
			23号土坑
			25号土坑
			26号土坑
			28号土坑
		P L 25	29号土坑
			30号土坑
			31号土坑
			32号土坑
			33号土坑
			34号土坑
			35号土坑
			36号土坑
		P L 26	38号土坑
			40号土坑
			43号土坑
			44号土坑
			45号土坑
			54号土坑
			57号土坑
			64号土坑
		P L 27	65号土坑
			66号土坑
			67号土坑
			92号土坑
			93号土坑
			106号土坑
			126号土坑
		P L 28	201号土坑
			202号土坑
			D-25号土坑
			D-29号土坑
			D-32号土坑
			1号墓壇

3号墓壇  
 P L 29 1号溝  
 13号溝  
 16号溝  
 35号溝  
 43号溝  
 46号溝  
 59号溝  
 143号溝  
 P L 30 D-4号溝  
 P L 31 1・2号住居跡遺物  
 P L 32 3・4・5・6・7号住居跡遺物  
 P L 33 10・11・14・15・17・18号住居跡遺物  
 P L 34 19・20・21・24・28号住居跡遺物  
 P L 35 30・31・32・33・41・42・44・49号住居跡遺物  
 P L 36 50・52・53・54号住居跡遺物  
 P L 37 62・65・67号住居跡遺物  
 P L 38 67・68・73・75・79・80・81・82・87・90・91号住居跡遺物  
 P L 39 91・93・146・148・207・208・209・211号住居跡遺物  
 P L 40 D-2・D-3・D-4・D-9号住居跡遺物  
 P L 41 D-4・D-5・D-6・D-8・D-12号住居跡遺物  
 P L 42 D-13・D-14・D-15・D-16号住居跡遺物  
 P L 43 2・3・9・10・13号掘立柱建物跡遺物  
 P L 44 16・19・21・26・29・30・33号井戸遺物  
 P L 45 22・23・30号井戸遺物  
 P L 46 9・10・12・14・D-25・28・D-32・43・54・98・126・211号土坑遺物  
 P L 47 1・3・15・16・33・43・58・128号溝遺物  
 P L 48 1・38・43・127・128号溝遺物  
 P L 49 128・134号溝遺物  
 P L 50 D-1・D-2・D-4号溝遺物  
 P L 51 D-4号溝遺物  
 P L 52 D-4号溝遺物  
 P L 53 D-4号溝遺物  
 P L 54 D-4号溝遺物  
 P L 55 D-4号溝遺物  
 P L 56 D-4号溝遺物  
 P L 57 D-4号溝遺物  
 P L 58 奈良時代生活面遺物  
 P L 59 4・11・14・15・20・21・22・24・27・28・49・50号住居跡遺物  
 P L 60 30・31・32・33・35・37・39・41号住居跡遺物  
 P L 61 42・43・44・47・48・50・51・61号住居跡遺物  
 P L 62 54・62・63・68・69・73・75号住居跡遺物  
 P L 63 79・81・87・89・90・91・146・147・207・208号住居跡遺物  
 P L 64 208・209・D-2・D-3・D-4・D-5・D-9号住居跡遺物  
 P L 65 17・18・19・D-5・D-8・D-9・D-11・D-12・D-15・D-18号住居跡遺物  
 18・19・33・34・39号井戸遺物  
 P L 66 32・89・98・106号土坑遺物  
 134号溝遺物  
 P L 67 134・D-4号溝遺物

P L 68 奈良時代生活面遺物  
 P L 69 1・4・8・27・33・35・45・48・62・91・92号住居跡遺物(瓦)  
 P L 70 43・87号住居跡遺物(瓦)  
 P L 71 D-2・D-3・D-4・D-11・D-12号住居跡遺物(瓦)  
 1・2・8・10・11号掘立柱建物跡遺物(瓦)  
 P L 72 2・10号掘立柱建物跡遺物(瓦)  
 3・30・198号土坑遺物(瓦)  
 D-1号溝遺物(瓦)  
 P L 73 D-1・D-4号溝遺物(瓦)  
 P L 74 D-4号溝遺物(瓦)  
 P L 75 D-4号溝遺物(瓦)  
 P L 76 2・3・5・62・65号住居跡遺物(埴輪)  
 P L 77 1・2・9・10号掘立柱建物跡遺物(埴輪)  
 3・10・12・162号土坑遺物(埴輪)  
 P L 78 奈良時代生活面遺物(埴輪)  
 P L 79 奈良時代生活面遺物(埴輪)  
 P L 80 5・6・11・13号井戸遺物(木器)  
 P L 81 16・17・18・22・23・25・26号井戸遺物(木器)  
 P L 82 26・30・32・33号井戸遺物(木器)  
 P L 83 128・134号溝遺物(木器)  
 P L 84 2・3号住居跡遺物(石)  
 P L 85 3号住居跡遺物(石)  
 P L 86 8・14・44・48・49・61・D-3号住居跡遺物(石)  
 P L 87 D-3号住居跡遺物(石)  
 奈良時代生活面遺物(石)  
 P L 88 遺構外遺物  
 D-1号溝遺物(軒丸瓦)  
 P L 89 古銭  
 P L 90 3・4・6・15・19・26・31号井戸遺物(種子)

### 蛭沢遺跡

P L 91 第1トレンチ  
 第2トレンチ  
 第3トレンチ  
 第4トレンチ  
 1号住居跡・竈  
 2号住居跡  
 3号住居跡  
 P L 92 1号土坑  
 3号土坑  
 5・6・7号土坑  
 1号井戸  
 2号井戸  
 3号井戸  
 P L 93 2号住居跡遺物  
 3号土坑遺物  
 1・2号井戸遺物  
 P L 94 2・3号井戸遺物  
 P L 95 3号井戸遺物  
 住居跡・井戸・土坑遺物  
 P L 96 遺構外遺物(板碑)  
 P L 97 1・2号井戸遺物(種子)  
 P L 98 蛭沢遺跡全景



# 1. 発掘調査の経緯と調査過程

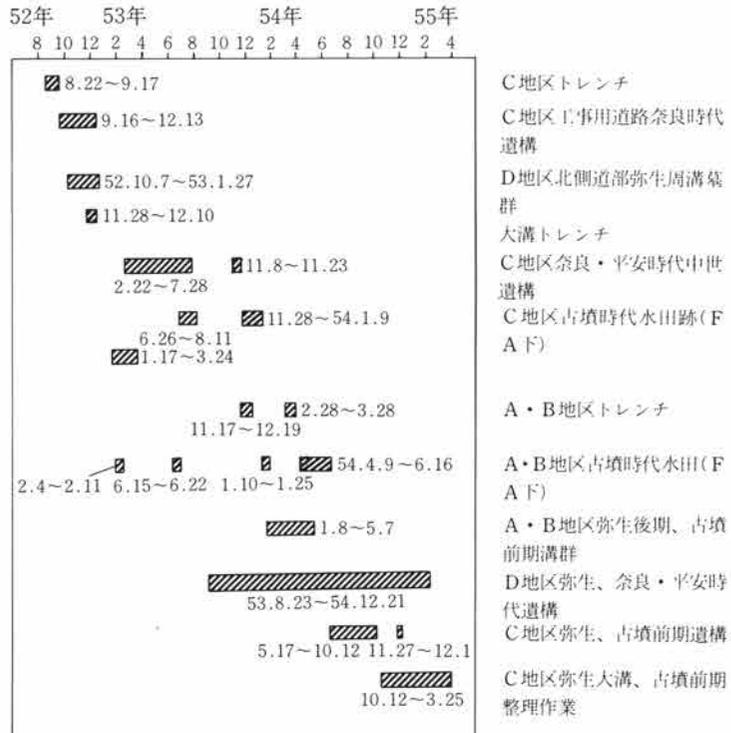
新保遺跡の発掘調査は昭和52年8月22日に開始された。新保遺跡の調査開始時期は前橋インターチェンジ以南、関越自動車道発掘調査予定遺跡では、日高遺跡、中尾遺跡に遅れること1年余り、55年度開通予定をひかえ、建設工事日程は逼迫し始めていた。このため新保遺跡の発掘調査は終始道路建設工事日程と小刻みに絡み合わせつつ進められた。なかでも調査進行上節となったのは北側側道工事、染谷川橋脚の工事、県道井野停車場線カルパートボックス工事、B・C地区西側よう壁工事、及びその搬入道路工事など、その節々で工事側とのきめ細かな日程調整を重ねながら調査は進められた。遺跡自体の内容は調査が遺跡内全域へのトレンチ調査、グリッド平面調査へと進むにつれ、文化層は厚く3面以上の重なりを見せ、それぞれの面で著しい遺構の確認がなされていくに及び工事側と調査側との日程調査は益々困難さを増していった。この期間、日程上の問題を乗り切るために調査側では日高遺跡の調査の終了をまって53年7月より、この調査班を本遺跡の調査班に合流させ、更に鳥羽遺跡の調査を一時中断させ染谷川の右岸D地区の調査、一部大溝の調査に投入するなどの措置を講じた。工事側も期間的配慮、あるいは人的、他様々な面で、便宜を図るなどの協力があり、調査は多大な成果をもって昭和55年3月終了を見るところとなった。調査の進行経過は、図に示すとうりであるが以下これに従ってそれぞれ概要を記す。

## C地区トレンチ調査

52年8月22日よりC地区において、グリッド平面調査に先立ち、地区全域にわたってトレンチ調査を実施した。トレンチの規格は縦2m、幅1.5m。トレンチの長軸方向をグリッドの主軸方向（北西—東南）とし、10m方眼（5グリッド方眼）に1箇所、総計52箇所にトレンチを設定し、トレンチ発掘調査を行った。第I層、第II層を除去し、第III層榛名山ニツ岳火砕流(FPF-1)氾濫層上面にて、奈良・平安期の竪穴住居跡などの遺構群を確認する。本トレンチ調査においてはこれら遺構の発掘は進めず、その広がりや層位との関係を把握するに止どめた。52年9月17日終了。

## C地区工事用道路、奈良・平安時代遺構発掘調査

本遺跡の以北において工事が着手されるに及び、工事用資材等の搬入用道路を緊急に設置する必要が生じた。B地区北半部が未買収地区があったため、三角状に約650㎡の調査区を設け、調査対象を奈良・平安期以後の文化層（第III層上部）のみに限定し、調査を進めた。以下の文化層の調査については後日の工事用道路付け替え後に行うこととした。約3ヶ月間の調査により奈良期の遺構を主とし、竪穴住居跡、土坑、



第1図 発掘調査の経過

## 2 立地と周辺の遺跡

掘立柱建物跡などを検出した。

### B地区中・近世遺構の調査

53年10月13日 B地区側道部の調査、3号井戸の調査着手。54年5月23日よりB地区中世井戸群、溝群の調査。10月20日 1回目の航空写真撮影。

54年1月17日 4月28日 航空写真撮影。55年2月8日 文化財の集い（現地説明会）。55年2月12日 発掘調査終了。以後現地にて整理作業。3月25日撤収。

### C地区奈良・平安時代遺構の調査

第三層（二ツ岳火砕流氾濫層）上面精査により遺構確認を行う。C地区河川改修部（路線外約1,000㎡）南端部より順次北方向に調査を進める。53年3月3日、C地区北西半部（C10ライン以北）の表土除去終了する。10号住居跡の検出に着手。遺構確認面は第三層黄褐色微細土である。これに対し奈良・平安期の遺構覆土は灰褐色土であり、両層の峻別は容易である。個別遺構検出調査前の、第三層上面精査にては遺構の輪郭は明確で、遺構検出時にも遺構壁面は容易に検出することができた。河川改修部（55～70C35～48付近）では表土は浅く、第三層、第四層が欠落しており、奈良・平安期と弥生、古墳前期の遺構確認面が第五層、ローム質土層面で、相互に切り合った状態で検出される。53年7月28日、9号10号掘立柱遺構の調査を終了し、C地区北西半部（C10ライン以北）の奈良・平安期の遺構調査を終了する。この調査では奈良・平安期を主とする住居跡、土坑群の他、溝、掘立柱遺構など多くの遺構が検出された。53年11月8日よりC地区C10ライン以南の第三層二ツ岳火砕流（FPF-1）氾濫層上面の遺構確認を行う。中世柱穴群、墓塚などの遺構を検出する。53年11月23日、同調査終了。54年4月10日よりB地区において平安期の住居跡4軒を（207号～210A号住居跡）調査する。

### D地区本線道路部分の調査

53年12月18日 D地区表土除去開始、表土除去は浅間B軽石層の面までとする。54年1月8日 鳥羽遺跡調査班が鳥羽遺跡の調査を一時中断し、D地区の本線道路部の調査に入る。54年1月11日 旧地形復元のためのトレンチ調査、1月22日より奈良・平安期の住居跡の発掘。

## 2. 立地と周辺の遺跡

新保遺跡は、榛名山中腹を水源とする染谷川の自然堤防上に位置する。付近の地形は榛名山の火砕流堆積層と河川の氾濫による堆積土層よりなり、北西に隣接するように蛭沢遺跡がある。蛭沢遺跡と新保遺跡は位置的にも資料内容からも別ちがたい性格を示す。

このような立地は榛名山・浅間山などの火山災害により成り立っている。4世紀に浅間山C軽石、6世紀に榛名山二ツ岳のFA・FP、さらに天仁元年（1108）降下と言われる浅間山B軽石などがある。この火山灰や火山軽石の下から多くの遺跡が検出されている。

周辺の遺跡は日高遺跡<sup>(3)</sup>を始めとし中尾遺跡<sup>(4)</sup>・鳥羽遺跡<sup>(5)</sup>・大八木遺跡<sup>(9)</sup>・正観寺遺跡<sup>(7)</sup>・菅谷遺跡<sup>(21)</sup>・国分寺中間遺跡<sup>(6)</sup>がある。日高遺跡は弥生時代の住居跡・周溝墓・壺棺墓などが検出され浅間B軽石に覆われた水田跡が報告されている。大八木遺跡から検出されたB軽石下水田跡は水路を伴い真北に地割りがなされている。さらに一町約110mで四辺を区画してある。このような地割りは日高遺跡にもその痕跡が見られる。新保遺跡に隣接する村前遺跡<sup>(19)</sup>からも同時期の水田跡が検出されている。

次にこのような生産遺跡を取り巻く住居跡群を見ると北に接する中尾遺跡がある。この遺跡は古墳時代の遺構は少ないが奈良時代から平安時代に渡り約300軒に及ぶ住居群を確認した。鳥羽遺跡でも同じく奈良・平安時代の住居跡が800余軒の他奈良時代の掘立柱建物跡・小鍛冶跡が検出されている。菅谷遺跡は平安時代の住居跡とともに墨書土器が検出され正観寺遺跡との性格上のつながりを有している。また国分寺中間遺跡も同時期の住居跡が1,000軒を越えて検出されている。鳥羽遺跡は染谷川を挟んだ対岸に国府推定地を控えている。

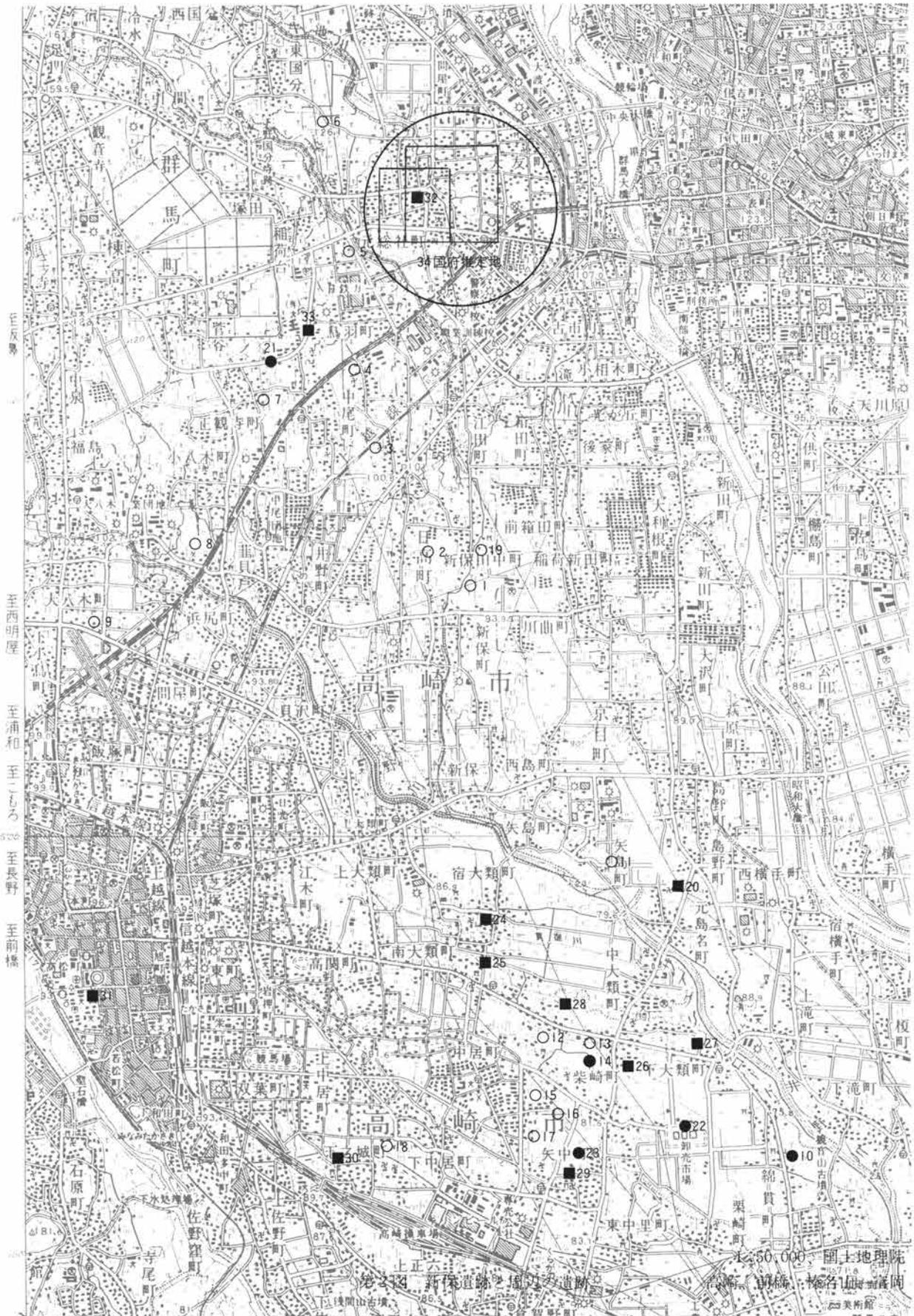
群馬町から高崎市に流れ込む井野川流域では小八木遺跡<sup>(8)</sup>・芦田貝戸遺跡でB軽石下水田跡がある。新保遺跡南周辺にも同時期の水田跡が多数報告されており、名を上げると村間<sup>(14)</sup>・富士塚前A遺跡、東原<sup>(13)</sup>・富士塚・富士塚前B遺跡、新掘<sup>(12)</sup>・根際<sup>(15)</sup>・吹手西A<sup>(16)</sup>・富士塚B遺跡、天王前遺跡、村北A<sup>(17)</sup>・天王前遺跡、宝昌寺裏遺跡、柴崎前<sup>(18)</sup>・村北B遺跡がある。その中で村間<sup>(14)</sup>・富士塚A遺跡、天王前遺跡、村北A<sup>(17)</sup>・天王前遺跡では水田跡に伴い大形水路や基準となる畦畔も報告されている。このように条里制が伺える遺跡は下之城町に下之城条里遺跡<sup>(18)</sup>がある。この遺跡では発掘が一部に限られているとのことわりがあるが道水路が坪や里の境界になると里の一辺が108~110m内外で地割りは長辺形であったが後に改変された想定ができるなどの報告がされている。住居跡は下大類遺跡<sup>(22)</sup>で約20軒検出され、銅製の八稜鏡が検出された。また矢中村東遺跡<sup>(23)</sup>では銅製の[物部私印]が検出されている。

やや周辺範囲が広がったが新保遺跡に目を戻すと北西約2kmに推定東山道が北東に向かい延びている。現在国府域を取り巻く生産遺構と居住域の関係は十分な資料とは言えないが地理的な意味とともに社会的な環境をもその背景として加えておきたい。

第1表 新保遺跡と周辺の遺跡

No	遺跡名	遺跡の概要	文献
10	綿貫遺跡	奈良・平安時代住居跡	〃 1985
11	鈴之宮遺跡	平安時代住居跡	高崎市教育委員会
12	新掘・根際・吹手西A・富士塚B遺跡	平安時代水田跡、水利遺構	高崎市文化財調査報告書 第80集
13	東原・富士塚・富士塚前B遺跡	平安時代水田跡、水路跡	〃 第62集
14	村間・富士塚前A遺跡	平安時代水田跡、土坑跡、大型水路跡	〃 第49集
15	天王前遺跡	平安時代水田跡、大型水路、池状遺構、墨書土器	〃 第35集
16	村北A・天王前遺跡	平安時代水田跡、大・小型水路	〃 第40集
17	宝昌寺裏遺跡	平安時代水田跡、住居跡館跡	〃 第43集
18	下之城条里遺構の調査	条里制遺構、中世館跡	群馬県埋蔵文化財調査事業団1981
1	新保遺跡	本報告の遺跡	
2	蛭沢遺跡	〃	
3	日高遺跡IV	奈良・平安時代住居跡、掘立柱建物跡、水田跡等	高崎市教育委員会 1982
4	中尾遺跡	奈良・平安時代住居跡群	群馬県教育委員会 群馬県埋蔵文化財調査事業団1983
5	鳥羽遺跡	奈良・平安時代住居跡群、特殊な掘立柱建物跡	群馬県埋蔵文化財調査事業団年報 1982~1986
6	国分寺中間地域遺跡	奈良・平安時代住居跡群	〃 1982~1986
7	正観寺遺跡群	平安時代水田跡、住居跡	高崎市教育委員会
8	小八木遺跡	B軽石下水田跡	〃 I 1979, II 1980
9	大八木遺跡	平安時代水田跡	〃 1981

2 立地と周辺の遺跡



### 3 調査の方法

19	新保田中村前遺跡	奈良・平安時代住居跡 水田跡	勸群馬県埋蔵文化財調査事業団年報 4. 5. 1985. 1986
20	元島名B・吹屋遺跡	室町～安土桃山時代城郭跡	勸群馬県埋蔵文化財調査事業団1982
21	菅谷遺跡	平安時代住居跡	群馬町教育委員会 1980
22	下大類遺跡	平安時代住居跡、八稜鏡	下村北・砂内遺跡 高崎市教育委員会
23	矢中村東遺跡	平安時代水田・水利遺跡 「物部私印」	高崎市文化財報告書 第60集

24	大類館跡	室町・安土桃山
25	大類館跡	鎌倉・室町
26	大類寄居跡	室町
27	降照屋敷跡	室町・安土桃山
28	集人屋敷跡	室町
29	矢中七騎館	室町・安土桃山

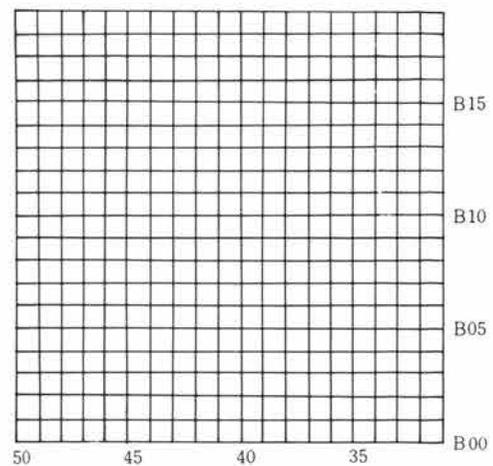
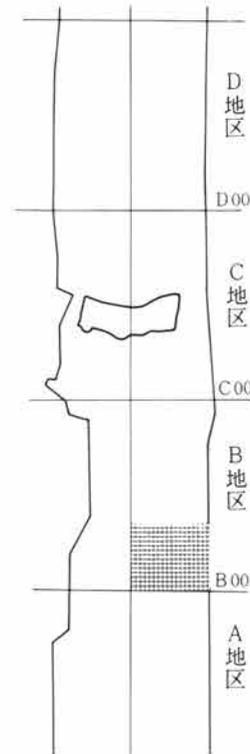
30	下之城跡	室町・安土桃山
31	高崎城	中世
32	蒼海城	中世
33	中尾城	中世
34	国府推定地	中世

本表は大江正行「元島名B・吹屋遺跡」山崎一「群馬県古城墓址の研究上・下」を参考文献として引用した。

## 3. 調査の方法

**グリッド設定法** 関越自動車道の建設予定区域は幅員約80mである。この区域は遺跡をN-44°-Wの方向に貫く、路線内には中央に建設工事用測量杭が設置されている。この杭の内、STA134+00とSTA135+00を結んでグリッドのx軸の中軸線とした。両杭間の距離100m。次にこれに直行してy軸を設け、グリッドはSTA杭を基点としてx、y軸を2mごとに区切り、遺跡全体に2m方眼の網を行きわたらせた。

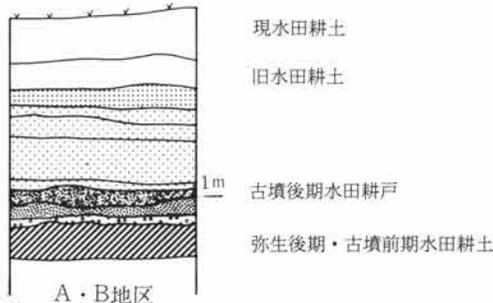
グリッド呼称法は、y軸については、x軸中軸線との交点を50として北東から西南に2mごとに数字が増す。x軸方向はSTA134+00杭をA00、100m北西方向のSTA135+00をB00さらに100mの間隔をもってC00、及びD00の点を設定し、それぞれの間をA～D地区とした。各地区間に設定された50グリッドは頭にアルファベットを付して00～49の数字で呼ぶこととした。たとえばあるグリッドを呼ぶには50A29、60B07という具合である。



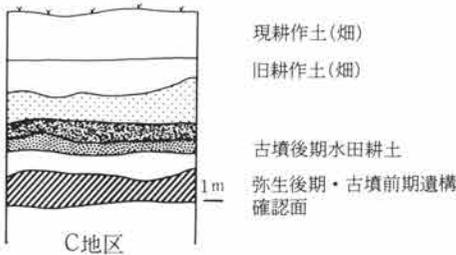
第3図 遺跡全体グリッド設定図 31～50-B00～19

4 基本層序

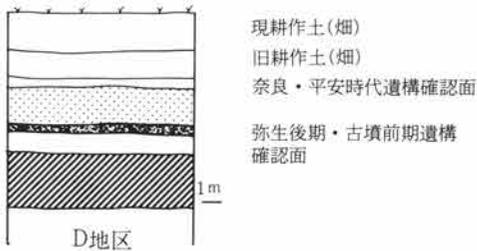
# 4. 基本層序



- 第I層 暗灰褐色土
- 第II層 暗灰褐色土
- 第III層 暗灰色土 ニツ岳火砕流氾濫層
- 第IV層 明黄褐色土 ニツ岳火砕流氾濫層
- ニツ岳火山灰層 (FA) 風成
- 第IVの層 黒色土
- 第IVb層 灰黒色土
- 第V層 灰白色土 シルト層



- 第I層 暗灰褐色土
- 第II層 灰褐色土
- 第III層 黄褐色土ニツ岳火砕流 FPF-1 沈濫層ニツ岳火山灰層 (FA) 風成
- 第IVa層 黒色土
- 第IVa層 黒褐色土
- 第IVb層 黒褐色土
- 第V層 灰黄褐色土 ロームに次堆積層



- 第I層 灰褐色土
- 第II層 灰褐色土
- 浅間B軽石層
- 第III層 灰褐色土 ニツ岳火砕流主体氾濫層 FPF-1
- ニツ岳火山灰層 (FA) 風成
- 第IVa層 黒褐色土 浅間C軽石主体混土層
- 第IVb層 黒褐色土
- 第IV層 灰褐色土

第4図 新保遺跡標準土層図

標準層位

本遺跡の標準的な自然堆積層は染谷川の左岸(C地区)、右岸の両微高地、東南部低湿地区の3地区に若干様相を異にする。遺跡の周辺地域は榛名山東南麓末端部に位置しており、地味は自然堤防状の微高地、あるいは旧くは河道であった埋積谷が無数に存在している。染谷川は遺跡中央部を南北に貫流おり、C地区を中心に染谷川の縁辺は帯状に自然堤防状微高地が形成され、その後背地である東南部のA地区はより低湿となっている。遺跡の占地はこれに従い、弥生、古墳時代ではC地区微高地帯に住居群、東南部低湿地帯のA地区には多数の水田に関わる溝群などが多数見られる。あるいは染谷川の右岸D地区には周溝墓を中心とした遺構が見られる。以後集落の占地はこの地形条件に従いながら、古墳後期には遺跡地全面水田となり、ニツ岳に伴う災害後奈良・平安時代にいたって再びC地区は居住域、A地区は水田を主とした生産域となる。本遺跡は弥生～中・近世にわたる複合遺跡であるが、終始上記の土地条件に従って占地の変遷があった。

以下では本遺跡の標準土層について上記A・B地区、C地区、D地区の3地区に従って説明を加えたい。

第I層 暗灰褐色土で1793年浅間大噴火による浅間A軽石を含む。厚さは25cm前後で現耕作土である。C、D地区では畑耕作土であり、A地区では水田耕作土である。

第II層 暗灰褐色土で12世紀降下した浅間B軽石層を含んでいる。厚さ12cm前後であり、D地区の一部で最下層において浅間B軽石層の薄い堆積が認められるが、A・B地区、C地区では浅間B軽石層としては認めることができない。

第III層 黄褐色土で古墳時代後期榛名山ニツ岳火山噴火に伴う火砕流(FPF-1)氾濫層である。この層は各地区により厚さや粒子の状態に差異が見られる。その状況より現染谷川方向に氾濫の中心があると認められる。C地区においては堆積状況は地点により著しく異なり、北部においては厚さ40cm前後で、随所に3～5cmの軽石粒のレンズ状の堆積が見られる。C地区北西部から河川改修部にかけて

#### 4 基本層序

は殆どこの氾濫層は見られない。また、C地区はFA下においては水田跡に伴う大規模な水路跡や全体に窪地状の大溝部など複雑な起伏が見られるが、第III層上面はこれらの区域にあってほぼ平坦である。第III層上面は奈良・平安期、中・近世の遺構確認面である。

A地区においては第III層の堆積は厚い。これはA地区はC地区に比べてIV a層上面において40～50cm低く、厚さの違いはこの比高差によるものと思われる。土質は黄褐色の微細な灰状で等質であり、縞状の堆積状態で見られる。直下層のFA化層と視覚的に峻別しにくい。A地区においては第III層最上部15cm前後は耕作土化した状態が認められる。暗灰色でやや粘質である。この層の直上層は浅間B軽石を含む第II層であるが、純層の状態では見ることができないため畦などを検出することはできなかった。

D地区においては第III層の堆積は薄く灰褐色を呈し、やや粘質味が強い。厚さは20cm以下である。第III層上面はC地区と同様に奈良・平安期の遺構確認面である。

二ツ岳火山灰層（FA層） 第III層の直下層である。黄褐色を呈し、灰質で、均質であり、風性堆積である。FA層の直下は古墳水田面であり、水田面はこの層を除去することにより精細に検出することができる。D地区においてはFA層下に水田跡を見ることはできなかった。

第IV層 a層 黒色粘質土である。4世紀に降下した浅間C軽石を多量に含んでいる。第IV層の堆積状態は地区により差異が大きい。C地区では厚さ10cm。弥生、古墳前期の土期を主とする遺物包含層である。最上層3～4cmは古墳後期水田（FA下水田）の耕地であり、黒色味が強く、やや軽石の混在が少ない。上面は小区画の畦を形成している。

A地区では湿潤であり、黒色の軟らかい粘質土で、厚さ7cm前後。浅間C軽石層の直上層であるが、軽石の混入は目立たない。上面は小区画の畦を形成する区域あるいはこれが潰れて明確でない区域などがあるが、全体に足跡が深く踏み込まれた状態で無数に見られる。

浅間C軽石層 浅間C軽石の有り方は地区によって様子を異にしている。C地区においては第IV a層中に混在した状態で見られるが、A地区では純層に近い状態で見られる。この軽石層の直下には水田に伴う溝や畦が検出されている。

第IV b層 黒色粘質土で浅間C軽石層は含まれない。C地区では上半部は弥生時代遺物包含層、下半部は同期の遺構の基盤となっている。厚さは15～20cm。A地区では灰黒色の粘質土であり、上部は水田耕作土の可能性が高い。厚さは20cm弱。D地区ではC地区と同様である。

第IV c層 C地区において、大溝の北西側（右岸）縁辺部付近の大溝覆土で、弥生、古墳期住居跡がのる黒褐色土（第IV b層に対応）の下位層。暗褐色土でやや砂質、土器、獣骨などを見る。

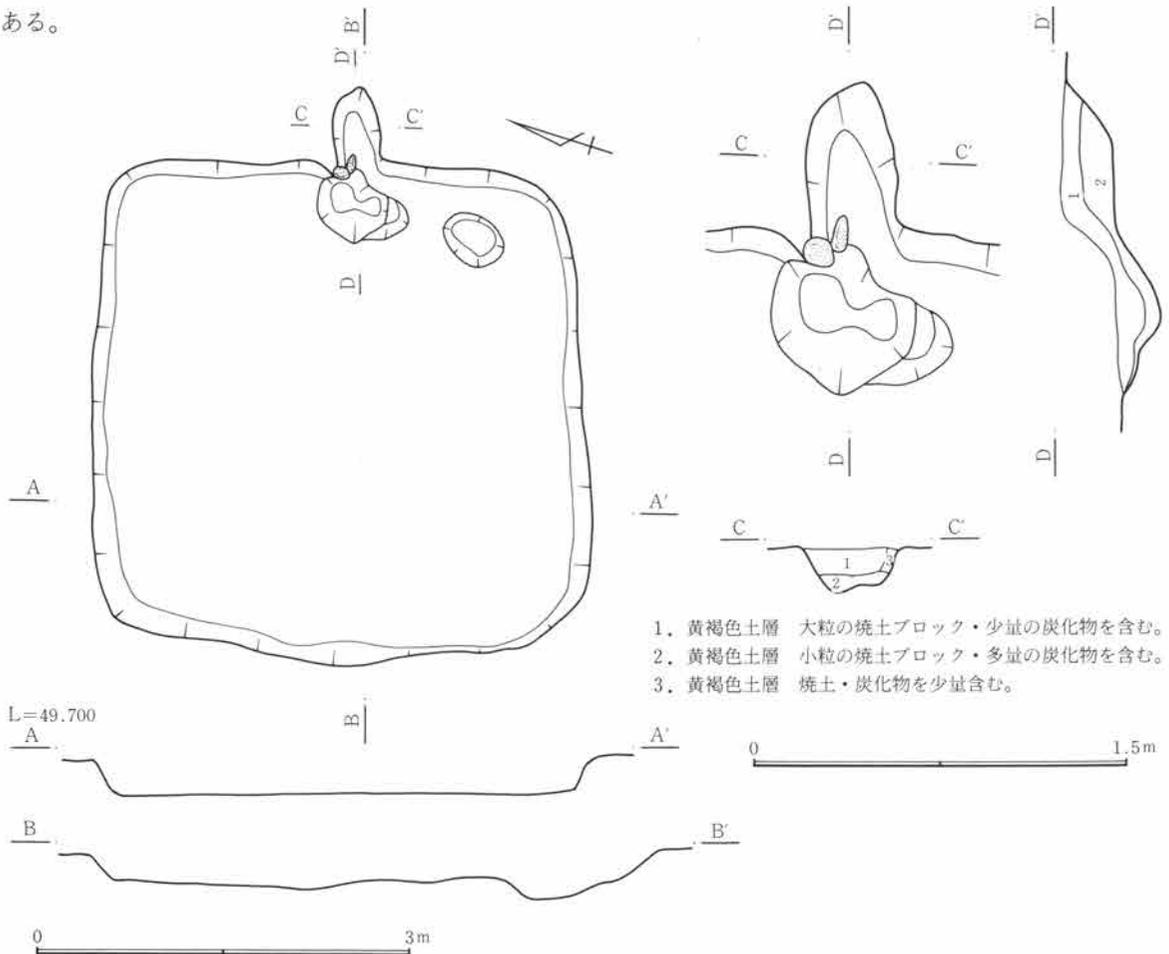
第V層 C地区では2次堆積ローム層である。最上部の50cm前後は暗灰褐色でやや砂質であり、遺物はまったく含まれない。この下位層は黒色で砂礫層である。厚さは20～30cm。この下は淡褐色ローム質土層である。第V層上面からローム質土面まで約1.2mである。A地区においては第V層上部はシルト層であるが、この地区では上部ローム層の標準的層序が確認できる。シルト層下、上位から黄色板鼻軽石層（YP）、水成BP層、砂層（泥流氾濫層）、前橋泥流といった堆積が第V層上面から約3mに達する厚さの堆積層にて観察できる。

## 5. 検出された遺構と遺物

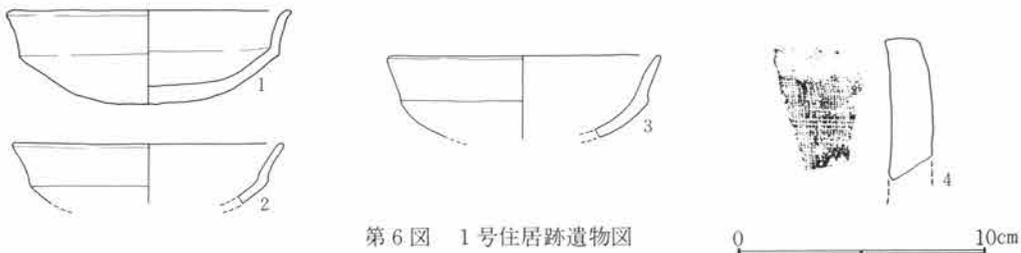
### (1) 竪穴住居跡

#### 1号住居跡 (第5図、PL 1・31・69)

当住居跡はC区南東に位置し3号掘立柱建物跡の東にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.1m、短辺4mである。平面形態はほぼ正方形を呈する。主軸方位はN-75°-Eである。壁高の遺存は良好で約20cm~30cmを測り立ち上がる。床面はほぼ平坦をなし貯蔵穴は竈の西に検出された。規模は約50cm×約40cm、深さ約35cmを測る。壁周溝・柱穴などの諸施設は確認されていない。竈は東壁中央に検出され、袖幅約30cm、燃烧部長約70cmである。竈右袖は壁がそのまま掘り残してあり、左袖部からは石が検出された。燃烧部の前面は低くなり煙道部は燃烧部と明確な境を持たず立ち上がる。覆土中の瓦は近接する掘立柱建物跡の遺物である。



第5図 1号住居跡遺構図・竈図



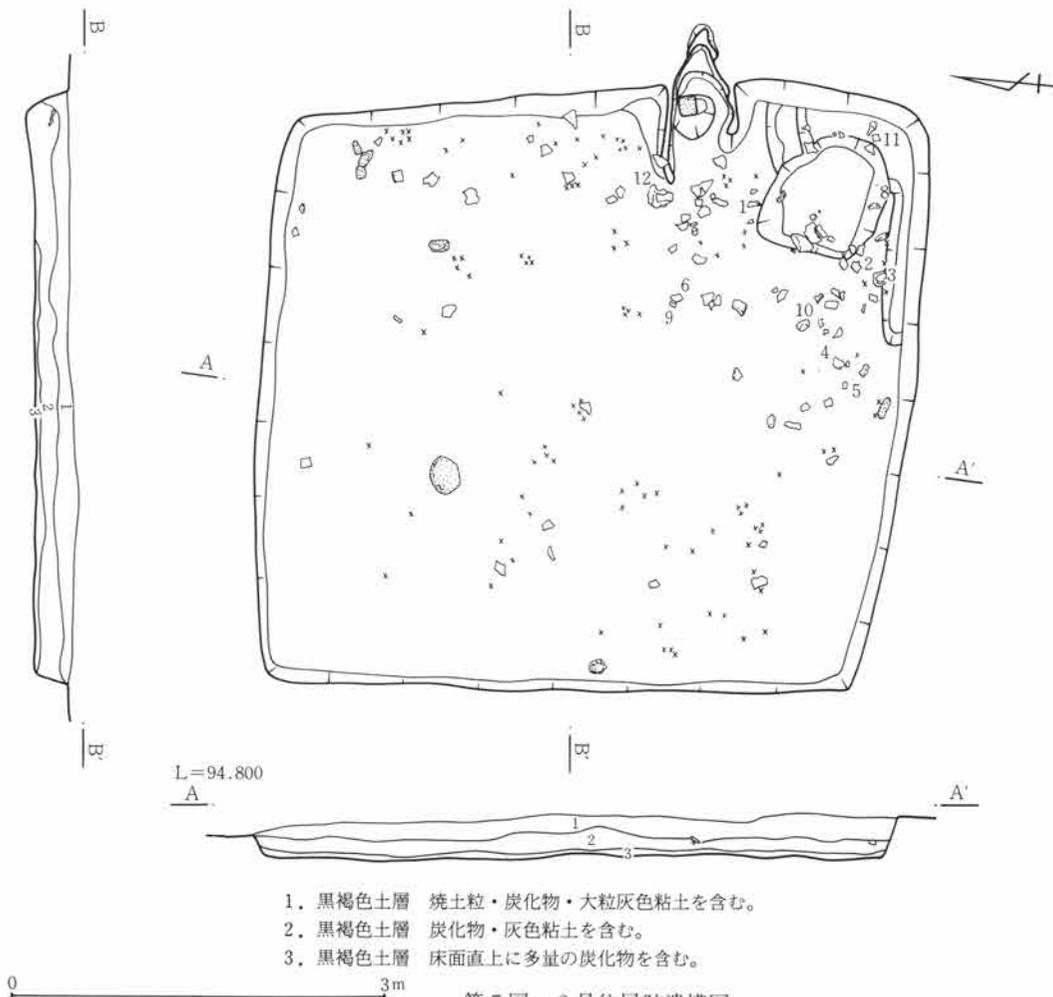
第6図 1号住居跡遺物図

第2表 1号住居跡遺物観察表

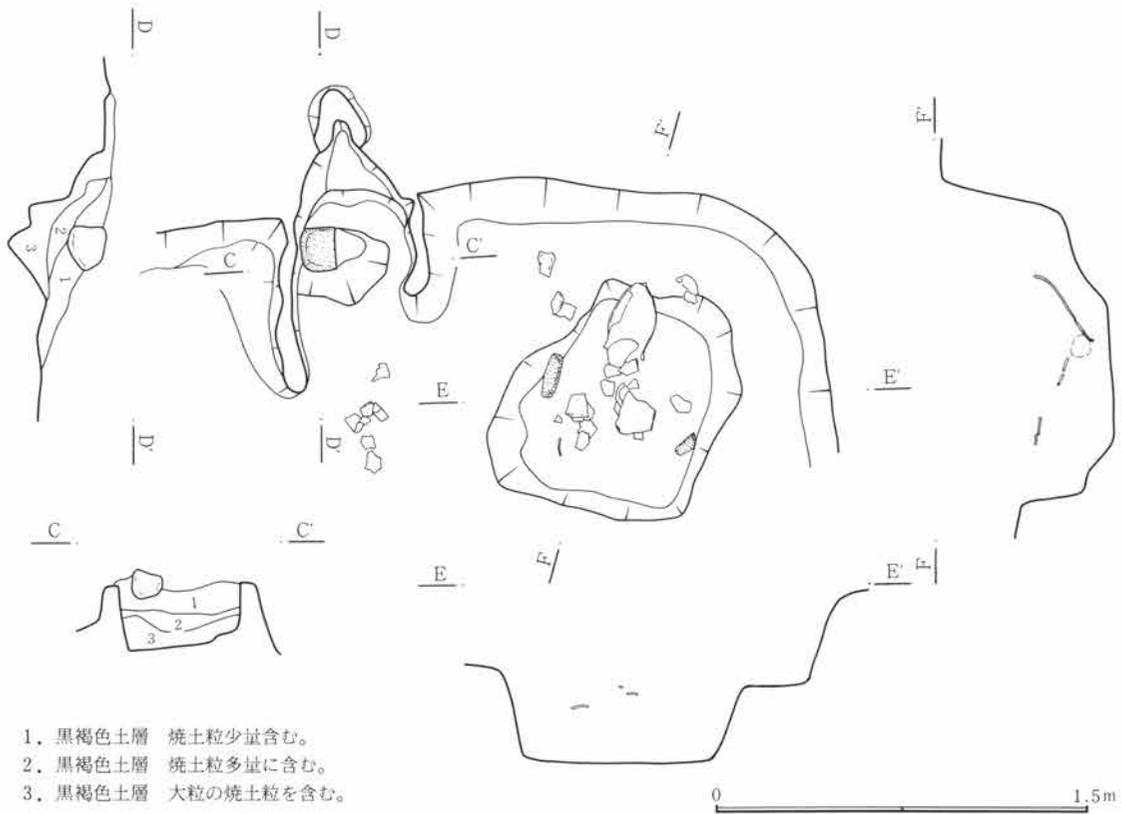
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	口-11.5 高-3.7	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 外面 ヘラケズリ後ヘラ調整。内面 ナデ。	①酸化 ②明橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④完形
No-2	坏土師	(口)11.0	覆土	口縁部 ヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-3	坏土師	(口)11.0	覆土	口縁部 ヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-4	平瓦	瓦観察表、1類A-住4参照			

## 2号住居跡 (第7・8図、PL1・31・76・84)

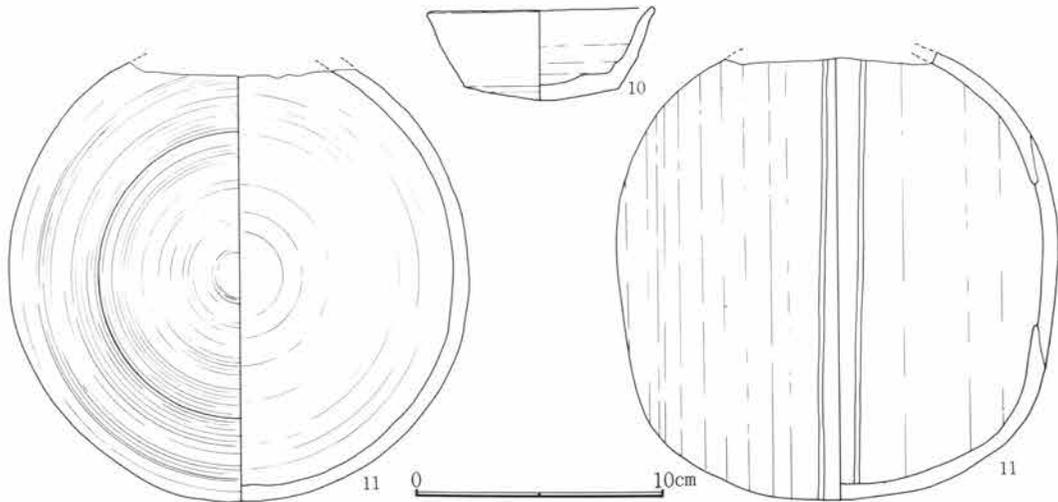
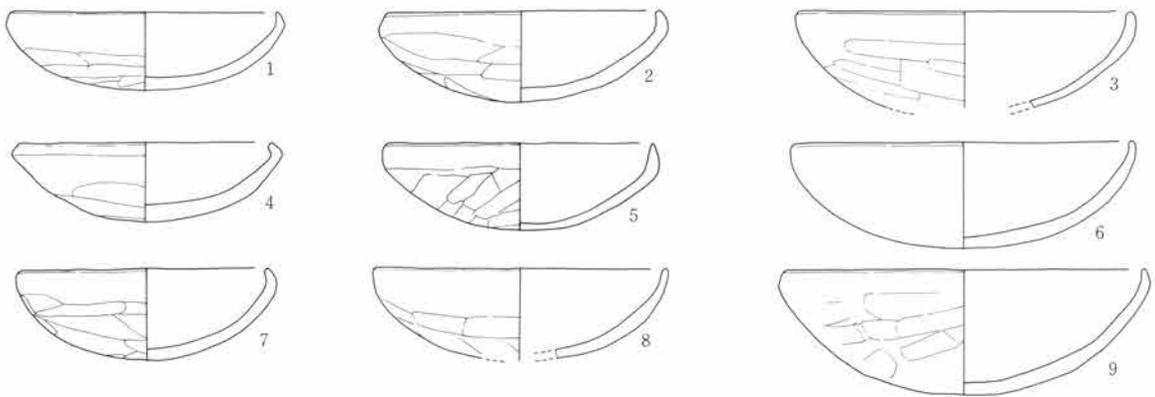
当住居跡はC区南東に位置し染谷川左岸にある。東に7号掘立柱建物跡があり、南に3号住居跡がある。他の遺構との重複はない。規模は長辺5.5m、短辺4.9mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-95°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面は約8cmの比高を持ち北東部が高くなる。貯蔵穴は竈の右袖前南東部コーナーに検出された。規模は約115cm×約90cm、深さ約40cmを測る。壁周溝・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南で検出され、袖幅約50cm、燃燒部長約110cm、煙道部長約20cmを測る。両袖部の遺存は良く特に左袖は壁上面より約70cm床面上に延びている。



5. 検出された遺構と遺物

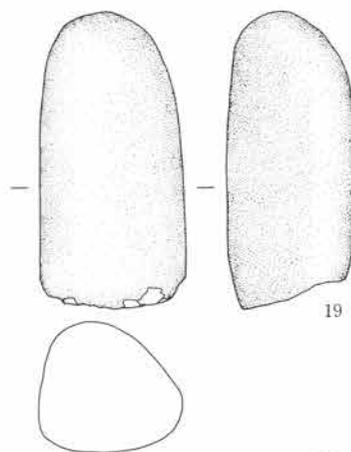
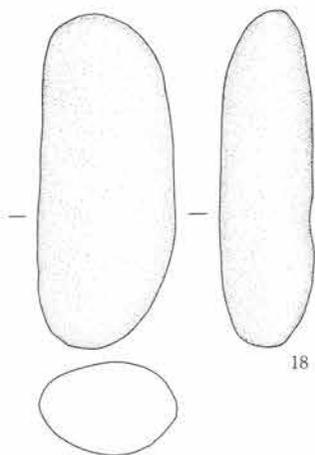
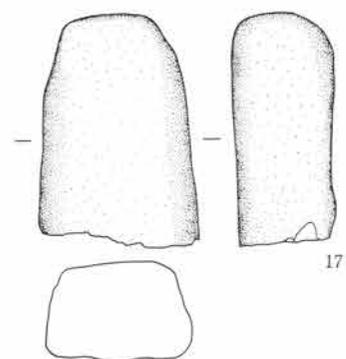
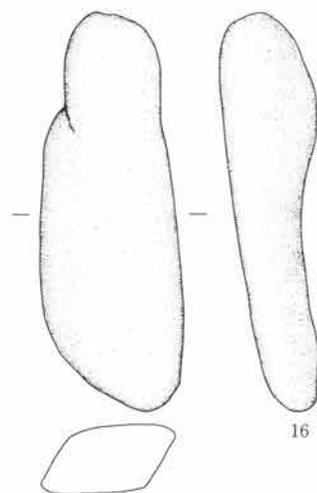
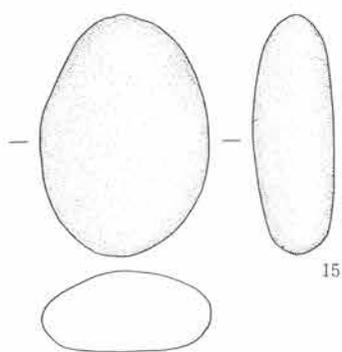
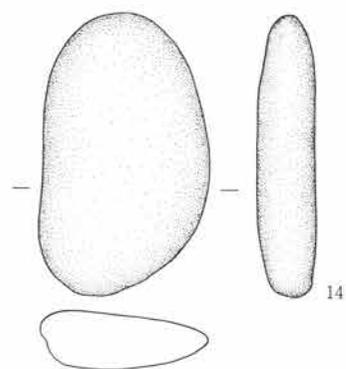
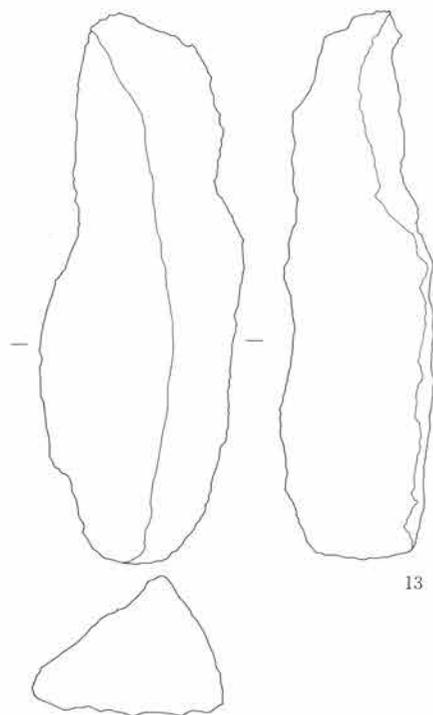
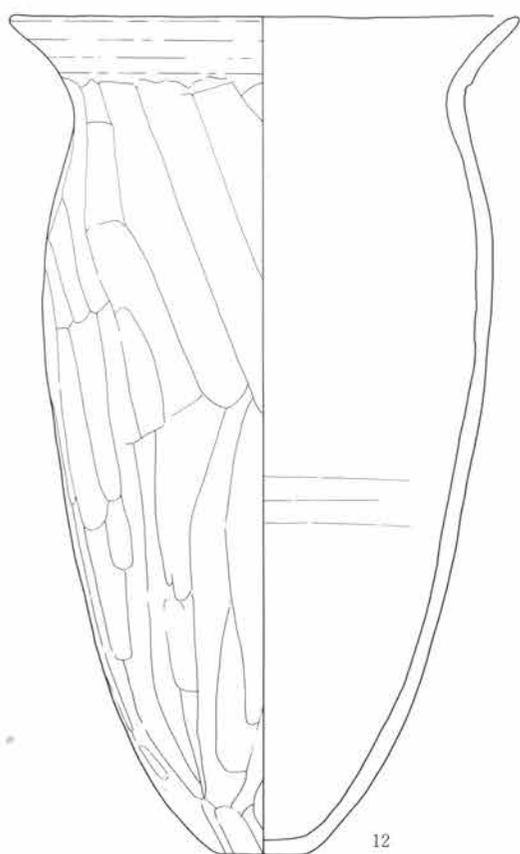


第8図 2号住居跡竈図



第9図 2号住居跡遺物図(1)

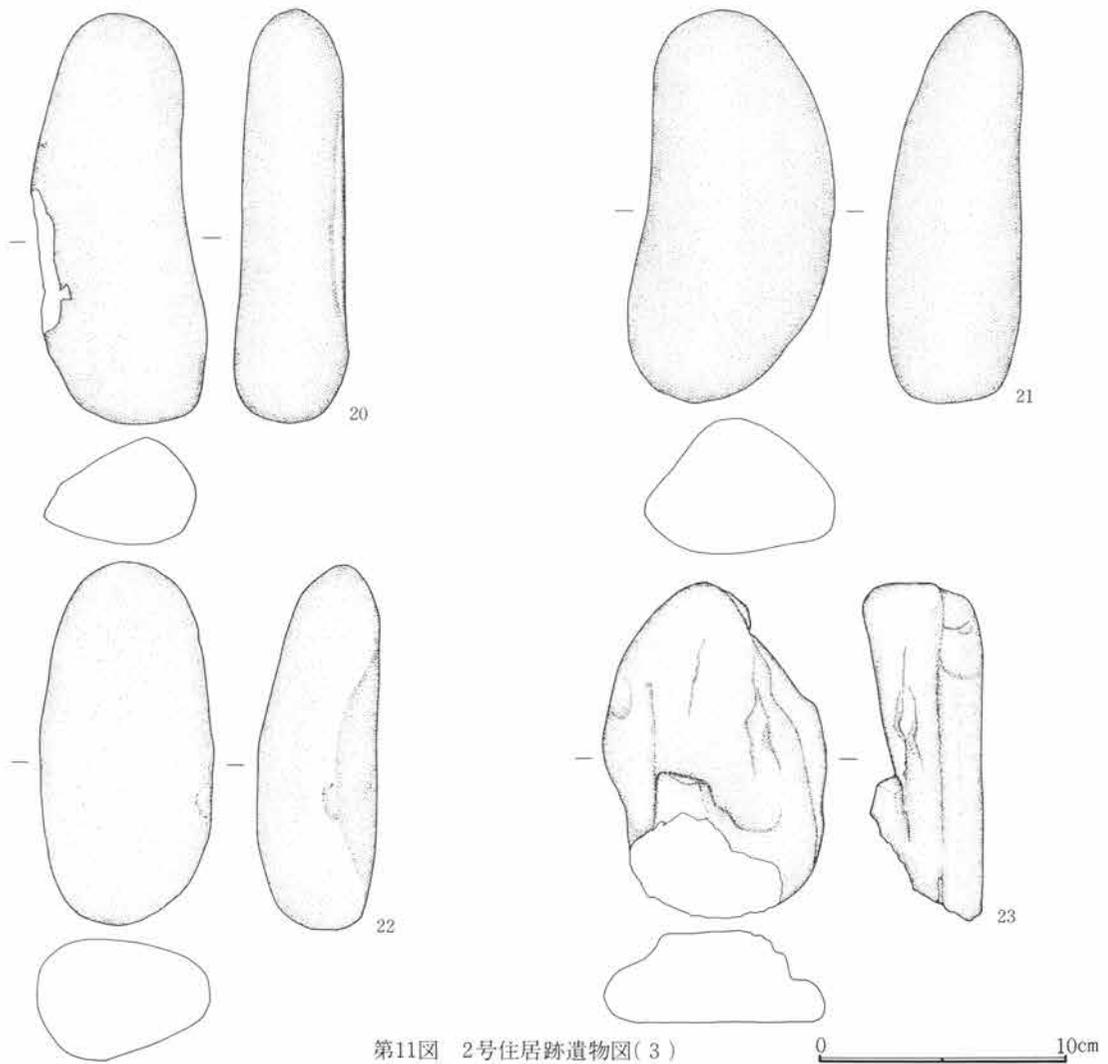
(1) 竖穴住居跡



第10图 2号住居跡遺物图(2)

0 10cm

5. 検出された遺構と遺物



第11図 2号住居跡遺物図(3)

第3表 2号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)10.2 (高)3.1	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-2	坏土師	(口)11.0 (高)3.6	覆土	口縁部 内傾する。外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-3	坏土師	(口)11.6	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-4	坏土師	(口)9.8 (高)3.1	覆土	口縁部 内側に屈曲する。外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-5	坏土師	(口)10.8	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-6	坏土師	(口)3.8 (高)4.2	貯蔵穴内	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ痕不明瞭。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形

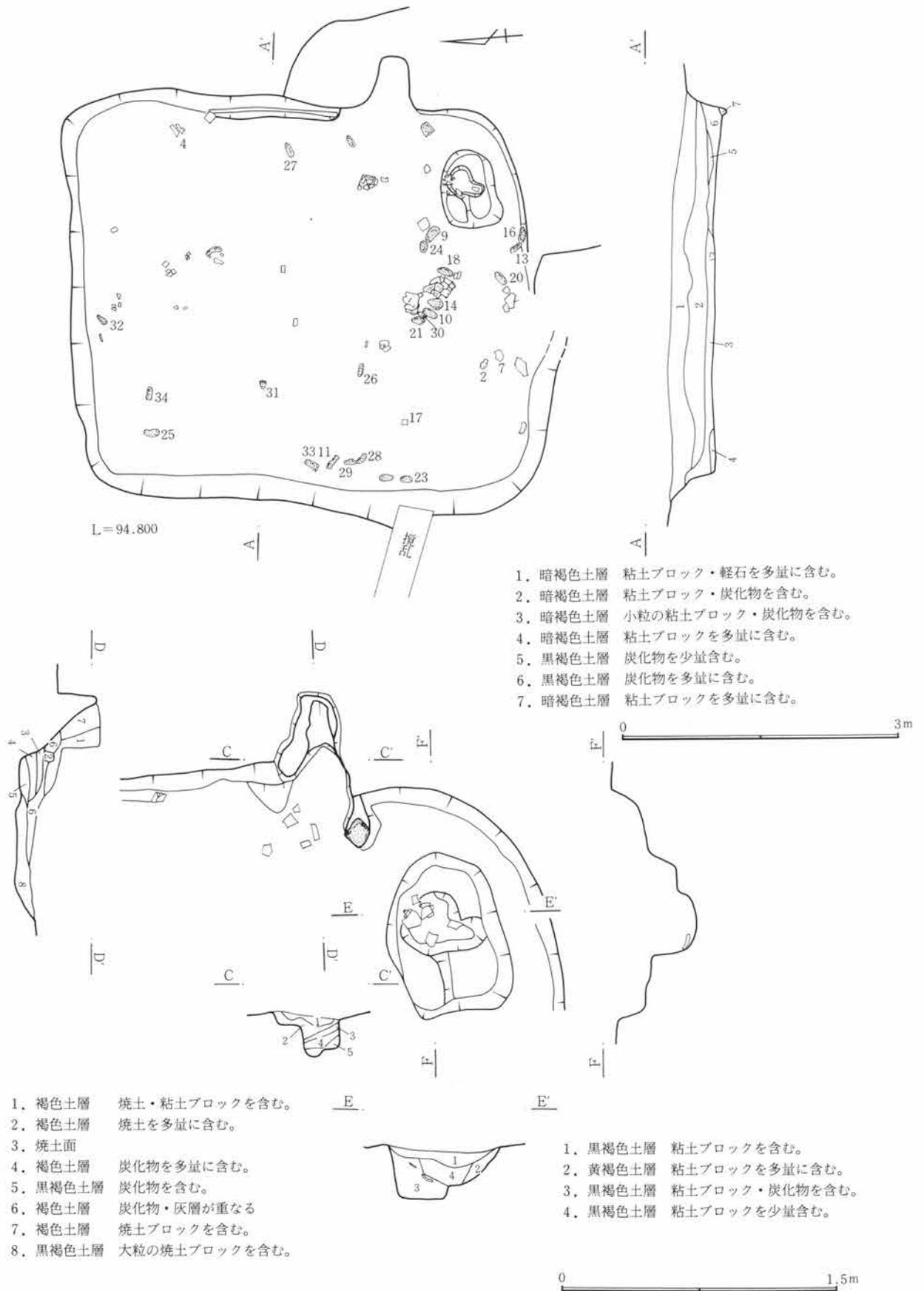
## (1) 竪穴住居跡

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-7	坏土師	(口)9.8 (高)3.5	覆土	口縁部 内傾する。外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-8	坏土師	(口)11.8	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-9	坏土師	(口)14.6	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-10	坏須恵	(口)9.2 (高)3.6 (底)6.2	覆土	雑な整形。底部 回転ヘラ調整(右廻り)。	①還元 ②灰褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部一部欠損
No-11	瓶須恵		貯蔵穴内		①還元 ②灰褐色 ③密 ④頸下 $\frac{1}{2}$ 残存
No-12	甕土師	(口)20.4 (高)33.3 (底)3.6	貯蔵穴内	外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 口縁部 ヨコナデ。体部 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-13	石	(長)(厚)cm g 21.8×75 1,012	貯蔵穴内	輝石安山岩。	粗粒
No-14	石	11.2×6.6 271	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-15	石	16.0×5.5 450	覆土	石英閃緑岩。	
No-16	石	9.5×6.8 305	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-17	石	9.0×6.0 426	覆土	珪質頁岩。	
No-18	石	13.2×5.4 412	覆土	溶結凝灰岩。	
No-19	石	11.5×5.8 587	覆土	輝石安山岩。	細粒
No-20	石	16.4×6.0 722	貯蔵穴内	石英閃緑岩。	
No-21	石	15.6×7.5 948	貯蔵穴内	輝石安山岩。	粗粒
No-22	石	14.4×7.0 728	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-23	石	13.3×8.8 699	覆土	閃緑岩。	

## 3号住居跡(第12図、PL1・32・76・84・85)

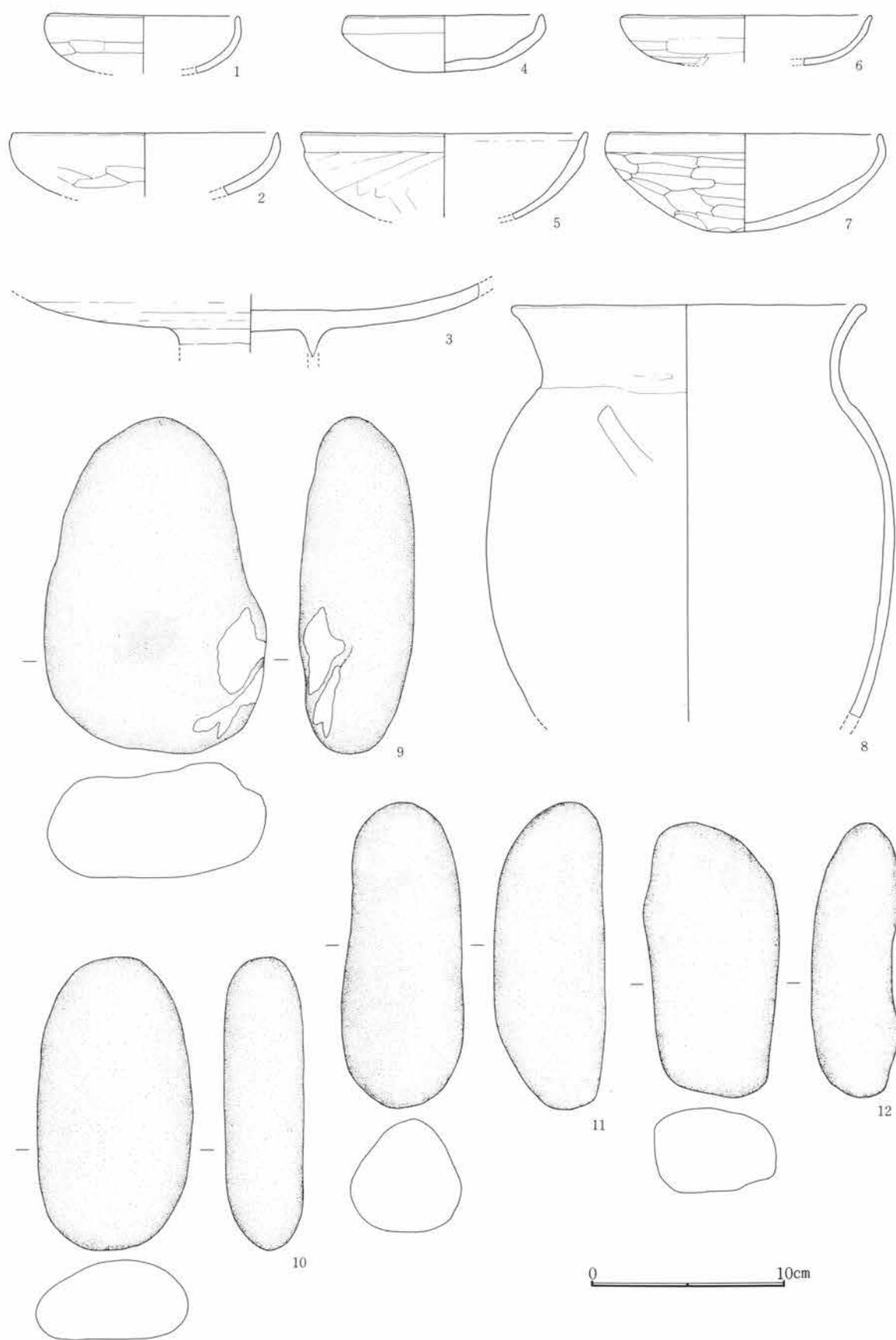
当住居跡はC区東南部に位置し2号住居跡の南にある。他の遺構との重複は東南部で7号住居跡と重複する。また住居跡上に2号掘立柱建物跡がある。新旧関係は7号住居跡より新しくさらに2号掘立柱建物跡は両住居跡より新しい。規模は長辺5.6m、短辺4.3mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-97°-Eである。壁高は約40cmを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦をなし貯蔵穴は南東コーナーに検出された。規模は約90cm×約60cm、深さ約30cmを測る。壁周溝・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。左袖部は掘立柱建物跡の柱穴により一部削平されているが右袖部からは石が検出された。袖幅は約40cm、燃焼部長約80cmを測る。燃焼部と煙道部との境は明確でない。

5. 検出された遺構と遺物



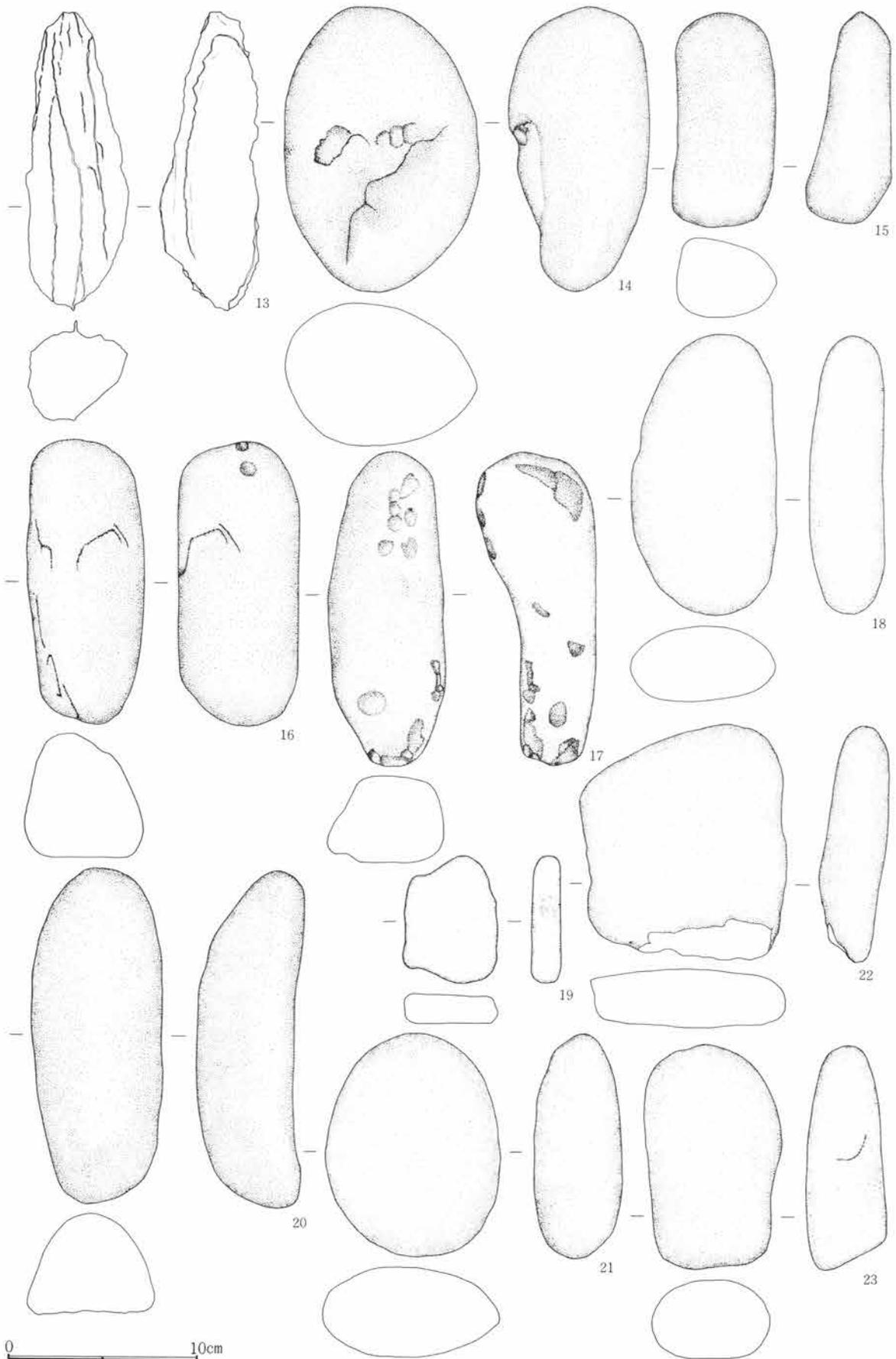
第12図 3号住居跡遺構図・竈図

(1) 竖穴住居跡



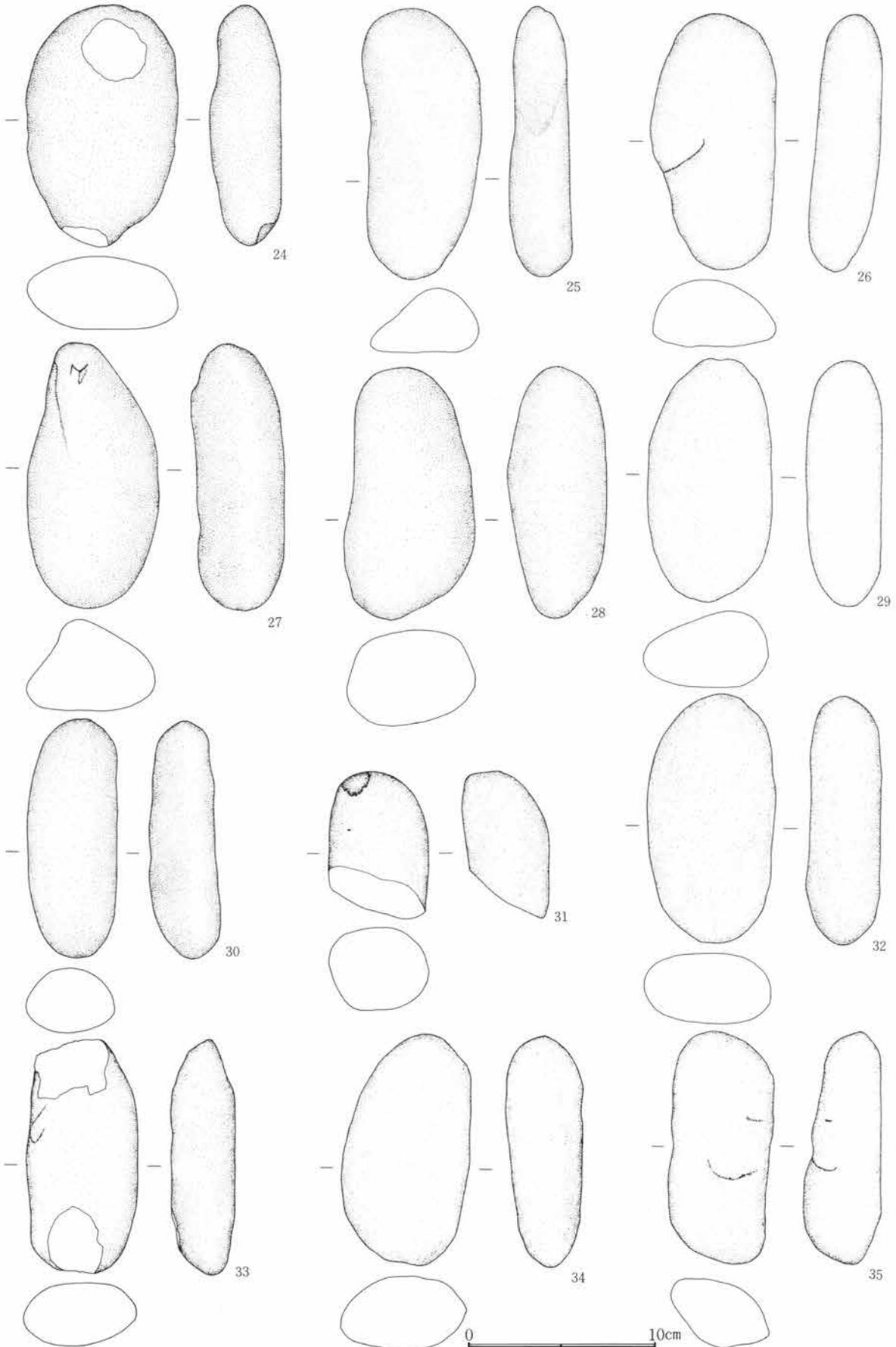
第13图 3号住居跡遺物图(1)

5. 検出された遺構と遺物



第14図 3号住居跡遺物図(2)

(1) 竪穴住居跡



第15図 3号住居跡遺物図(3)

5. 検出された遺構と遺物

第4表 3号住居跡遺物観察表

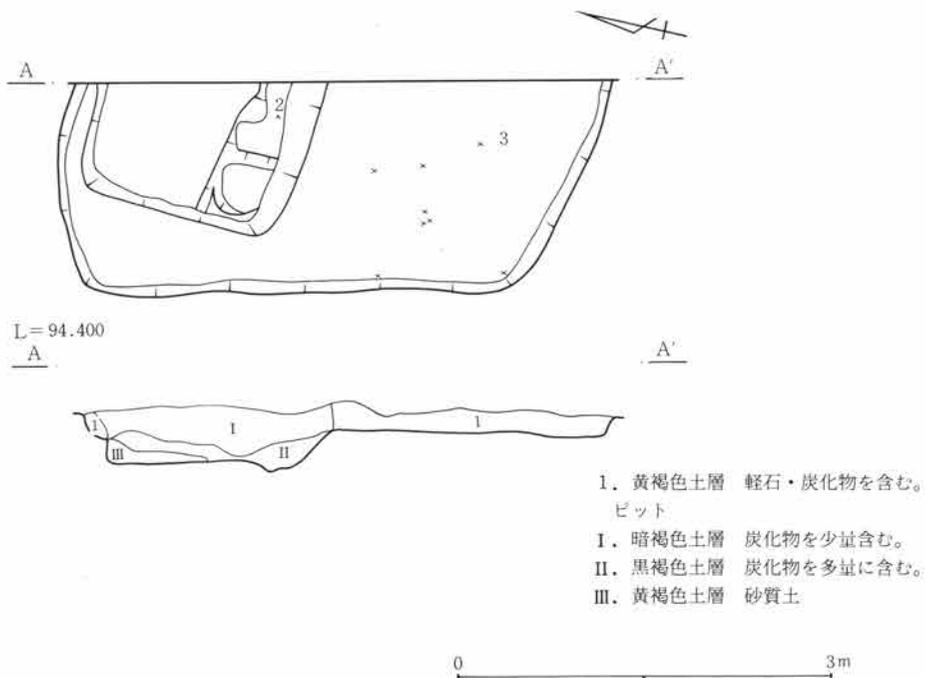
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)10.1	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-2	坏土師	(口)13.7	貯蔵穴内	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁一部残存
No-3	広盤須恵		覆土	回転ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④%残存
No-4	坏土師	(口)10.1 (高)2.9	貯蔵穴内	口縁やや内傾する。口縁部 ヨコナデ。 内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④%残存
No-5	坏土師	(口)14.9	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色、外面黒褐色 ③細砂粒含む ④破片
No-6	坏土師	(口)13.0	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁%残存
No-7	坏土師	(口)14.0 (高)5.0	覆土	口縁部内傾する。口縁部 外面 ヨコナデ。 内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④%残存
No-8	甕土師	(口)18.2	覆土	口縁部 ヨコナデ。頸部 ヘラ痕残る。 胴部 ヘラケズリ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④%残存
No-9	石	(長) (厚) cm g 17.0× 5.9 1,622	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-10	石	15.0× 8.0 778	覆土	石英閃緑岩。	
No-11	石	15.5× 6.3 863	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-12	石	14.0× 6.8 693	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-13	石	15.4× 5.0 470	覆土	輝緑岩。	
No-14	石	14.8× 10.2 1,376	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-15	石	11.0× 4.2 416	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-16	石	14.7× 6.3 935	覆土	石英閃緑岩。	
No-17	石	16.3× 6.0 782	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-18	石	14.5× 7.5 702	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-19	石	6.5× 4.8 89	覆土	溶結凝灰岩。	
No-20	石	17.3× 6.8 1,032	覆土	閃緑岩。	
No-21	石	11.5× 9.2 692	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-22	石	12.2× 10.5 712	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-23	石	11.6× 7.2 553	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-24	石	12.7× 8.0 537	覆土	輝石安山岩。	粗粒

## (1) 竪穴住居跡

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-25	石	(長) (厚) cm 14.2× 6.0 g 421	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-26	石	13.3× 6.5	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-27	石	13.8× 7.0	覆土	かこう岩。	
No-28	石	13.2× 6.8	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-29	石	12.8× 6.6	覆土	輝石安山岩。	細粒
No-30	石	12.5× 4.8	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-31	石	7.3× 5.3	覆土	石英斑岩。	
No-32	石	13.0× 6.7	覆土	石英閃緑岩。	
No-33	石	12.3× 5.8	覆土	変質安山岩。	
No-34	石	12.2× 6.7	覆土	溶結凝灰岩。	
No-35	石	12.1× 5.4	覆土	輝石安山岩。	粗粒

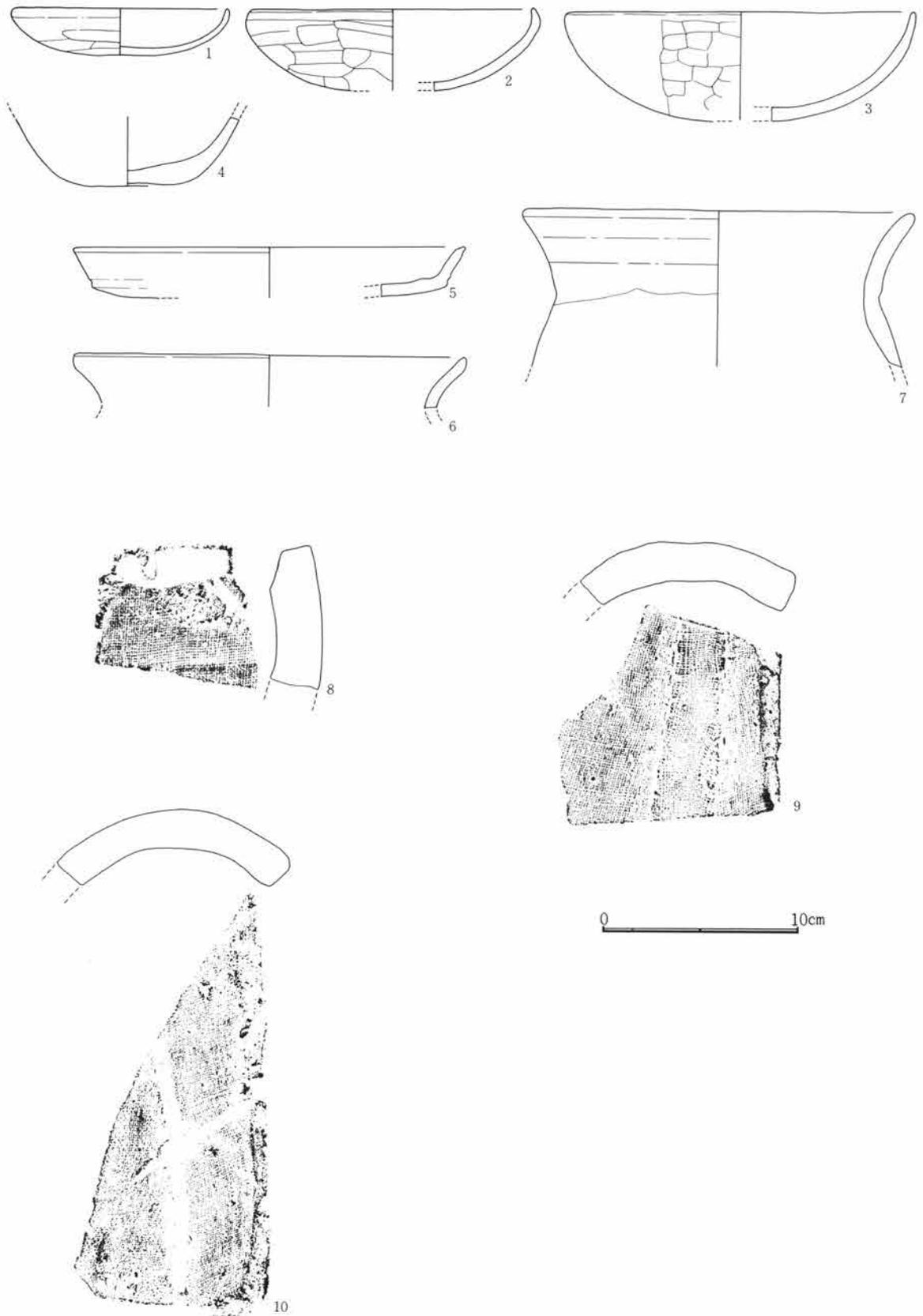
## 4号住居跡 (第16図、PL 1・32・59・69)

当住居跡はC区南東部に位置し2号掘立柱建物跡の東にある。他の遺構との重複は床東部に土坑が検出されている。新旧関係は土坑が新しい。住居跡の東半部は調査区域外にある。規模・主軸方位は不明であるが西壁長は3.4mを測る。壁高は約10cmを測る。床面は約10cmの比高を持ち南が低くなる。土坑は床面西に検出され東半部は調査区域外にある。西壁約1.6mで深さ約30cm~40cmを測る。



第16図 4号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



第17図 4号住居跡遺物図

## (1) 竪穴住居跡

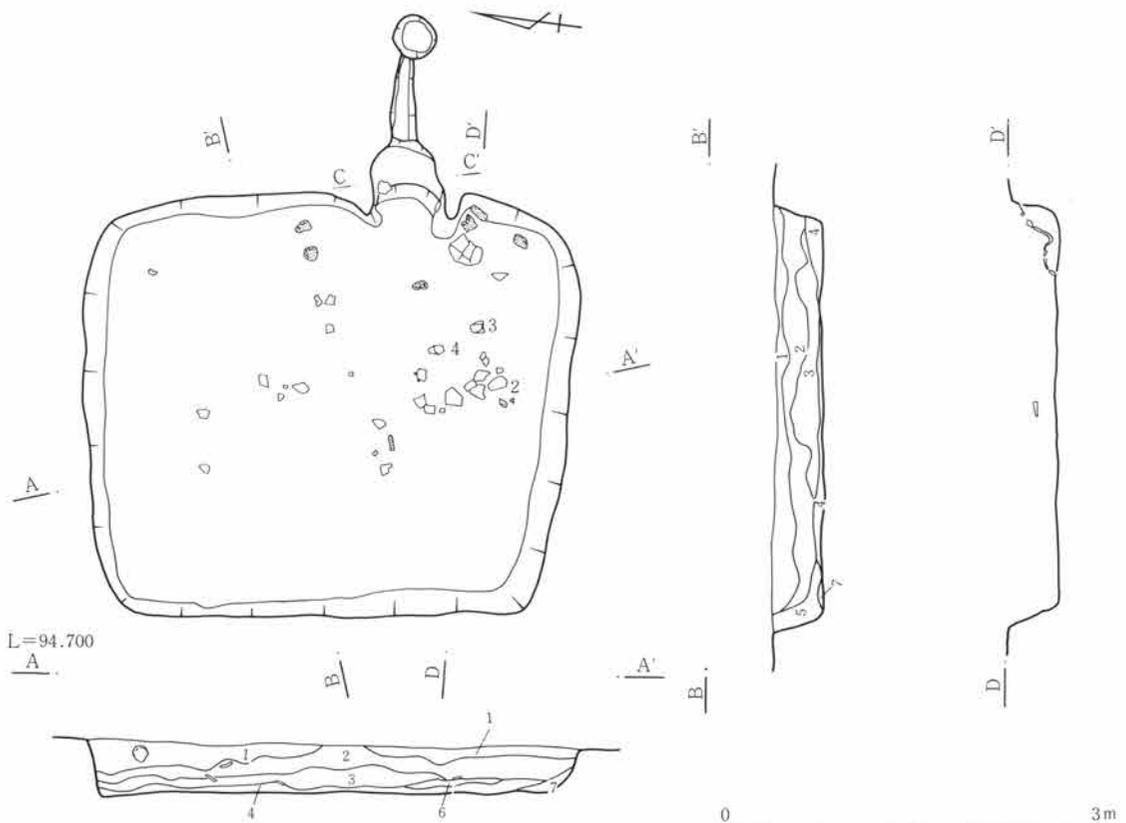
第5表 4号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)11.0 (高)2.3	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏土師	(口)4.3	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④残存
No-3	坏土師	(口)17.8	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④残存
No-4	坏須恵	(底)5.2	覆土	底部 手持ちヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④残存
No-5	坏須恵	(口)19.0	覆土	底部 手持ちヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④残存
No-6	甕土師	(口)19.9	覆土	口縁部 内・外面共に雑なナデ。	①酸化 ②明赤褐色 ③細砂粒含む ④口縁破片
No-7	甕土師	(口)20.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④残存
No-8	平瓦	瓦観察表、1類A-住8参照			
No-9	丸瓦	瓦観察表、1類A-住9参照			
No-10	丸瓦	瓦観察表、1類A-住10参照			

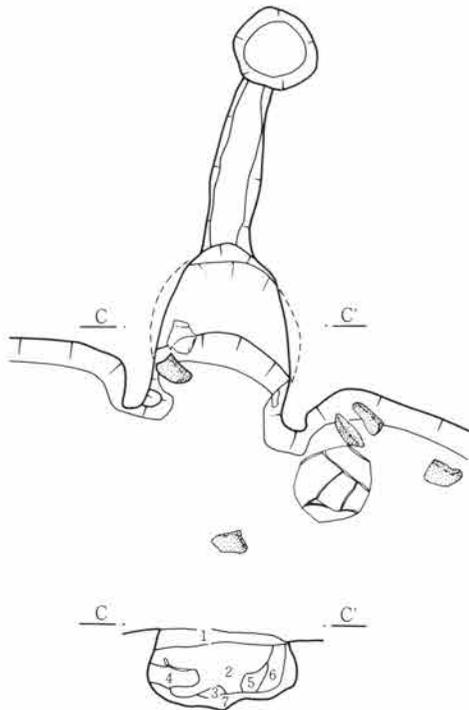
## 5号住居跡 (第18図、PL2・32・76)

当住居跡はC区南に位置し1号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4m、短辺3.4mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-85°-Eである。壁高は30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなす。貯蔵穴・壁周溝・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。袖幅約50cm、燃烧部長約60cm、煙道部長約90cmを測る。竈の遺存状況は良く長い煙道部と煙り出しの小穴も確認された。両袖はやや内湾する形で壁を掘り残してある。煙道部は約70cmの長さを持ちほぼ平坦をなす。煙道部先端の小穴は約30cmの深さを測る。

5. 検出された遺構と遺物



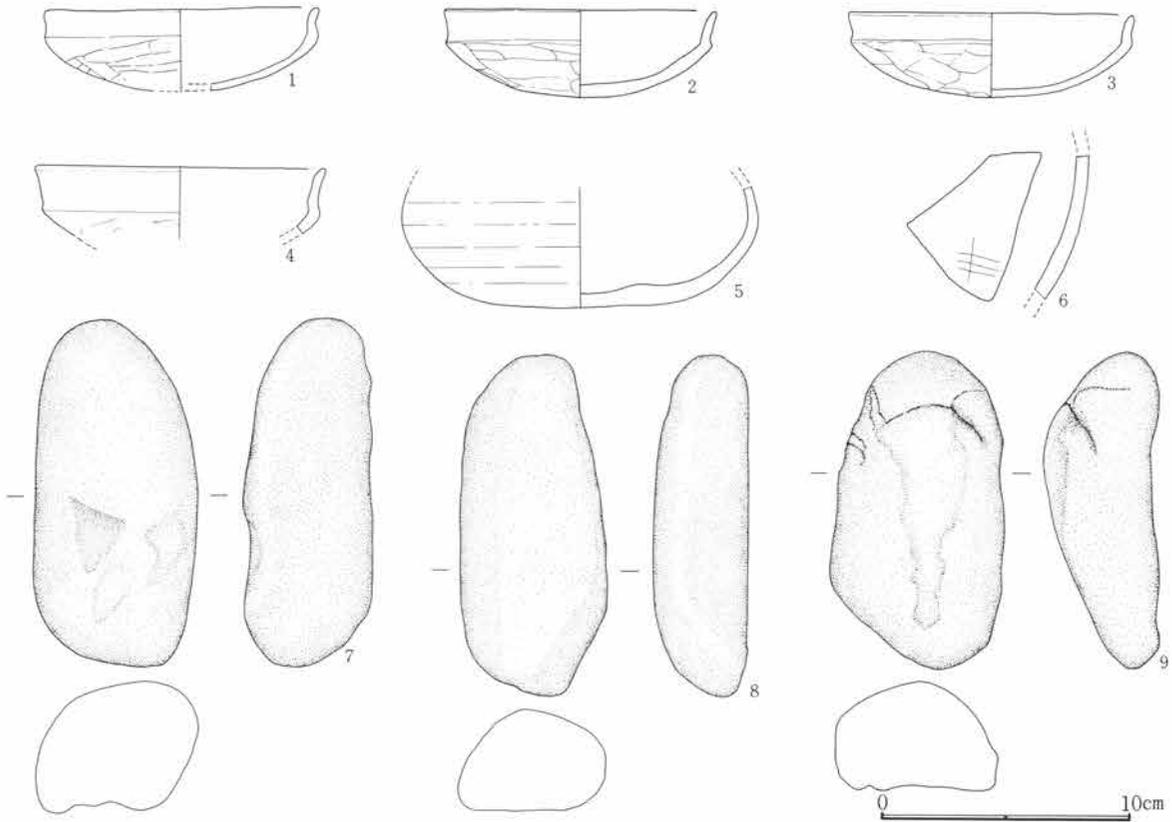
1. 黒褐色土層 大粒の軽石・炭化物和少量の焼土を含む。
2. 黒褐色土層 軽石・ロームブロック・炭化物を少量含む。
3. 黒褐色土層 軽石・炭化物を少量含む。
4. 灰褐色土層 軽石・炭化物を少量含む。
5. 黒褐色土層 軽石を少量含む。
6. 黒褐色土層
7. 褐色土層 砂質土。



1. 黒褐色土層 大粒の軽石を多量に含む。
2. 黒褐色土層 小粒の軽石・焼土・炭化物を含む。
3. 褐色土層 少量の軽石・焼土を含む。
4. 褐色土層 焼土を少量含む。
5. 褐色土層 多量の焼土と炭化物を少量含む。
6. 褐色土層 粘土ブロックと少量の焼土・炭化物を含む。
7. 褐色土層 多量の焼土を含む。

第18図 5号住居跡遺構図・竈図

## (1) 竪穴住居跡



第19図 5号住居跡遺物図

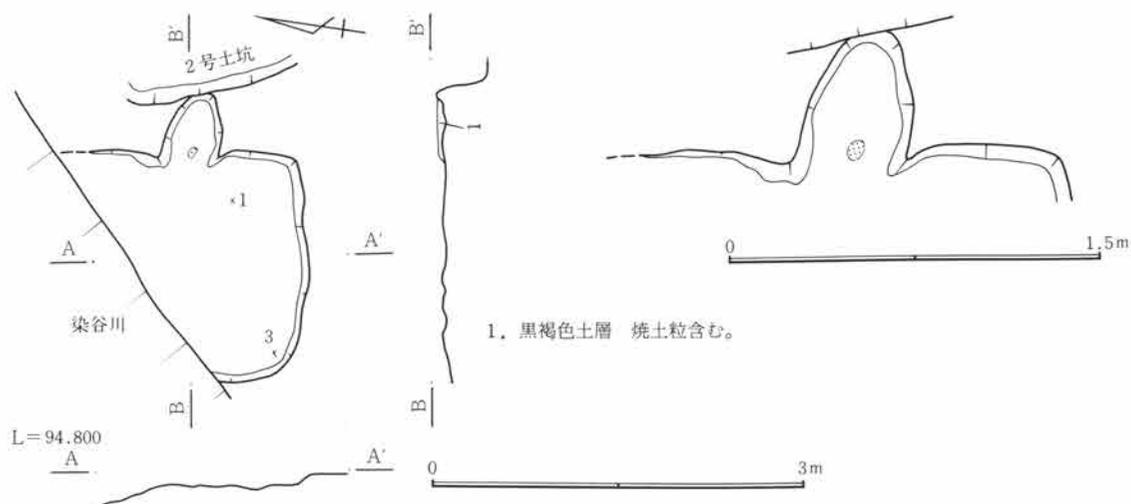
第6表 5号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)11.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④%残存
No-2	坏土師	(口)11.0 (高)3.5	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-3	坏土師	(口)11.4 (高)3.4	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③1mm程の砂粒含む ④%残存
No-4	坏土師	(口)11.8 (高)4.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④%残存
No-5	壺須恵		覆土	底部 手持ちヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③密 ④%残存
No-6	坏土師		覆土	内面 卅ヘラ記号状に確認。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④破片
No-7	石	(長) (厚) cm 13.6×6.5 g 707	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-8	石	13.5×5.8 470	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-9	石	12.5×7.0 468	覆土	デイサイト?	

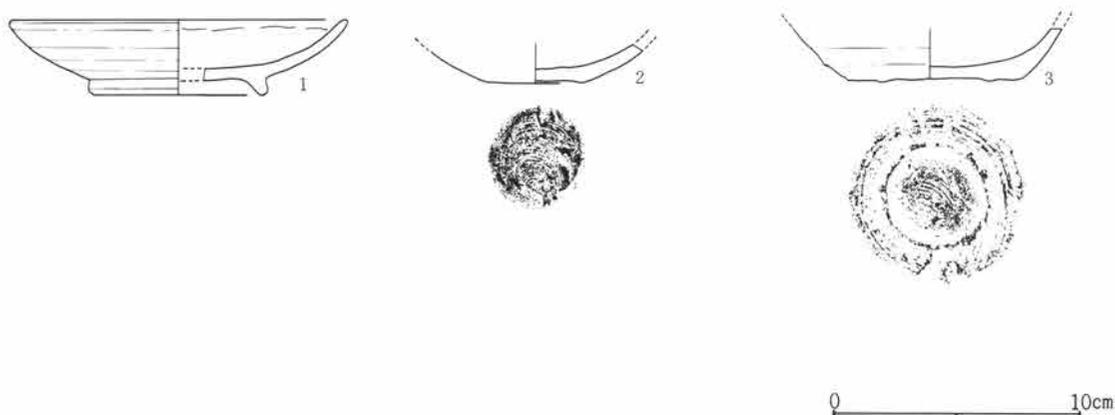
5. 検出された遺構と遺物

6号住居跡 (第20図、PL 1・32)

当住居跡はC区東部に位置し2号住居跡の西にあり、北部を染谷川により削平されている。他の遺構との重複は東で竈の煙道部の先端を2号土坑と重複するが新旧関係は不明である。規模は南壁で約1.8mを測る。主軸方位はN-85°-Eである。壁高は約10cmを測り床面はほぼ平坦をなす。壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。袖幅約40cm、燃烧部長約55cmを測る。



第20図 6号住居跡遺構図・竈図



第21図 6号住居跡遺物図

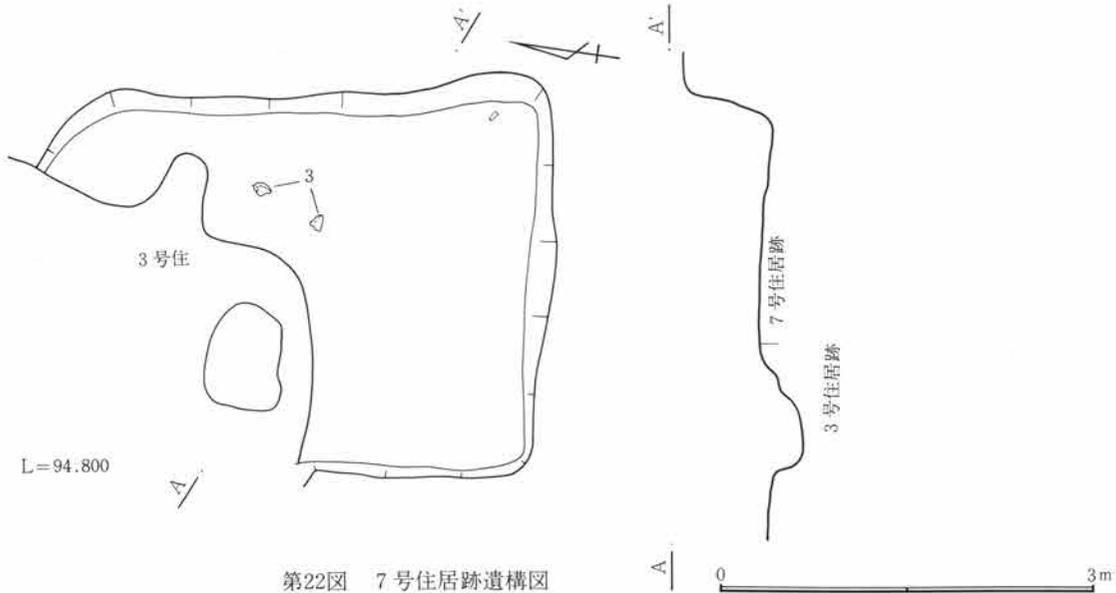
第7表 6号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	皿 須恵	(口)13.6 (高)2.9 (底)7.0	覆土	口縁部 釉(内面)。 付高台。	①還元 ②灰色 ③細砂粒含み密 ④1/2残存
No-2	坏 須恵	(底)4.0	覆土	底部 回転糸切り。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④底部のみ残存
No-3	坏 須恵	(底)6.5	覆土	付高台欠落。底部 糸切痕2面。 2回切り直しが考えられる。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④底部のみ残存

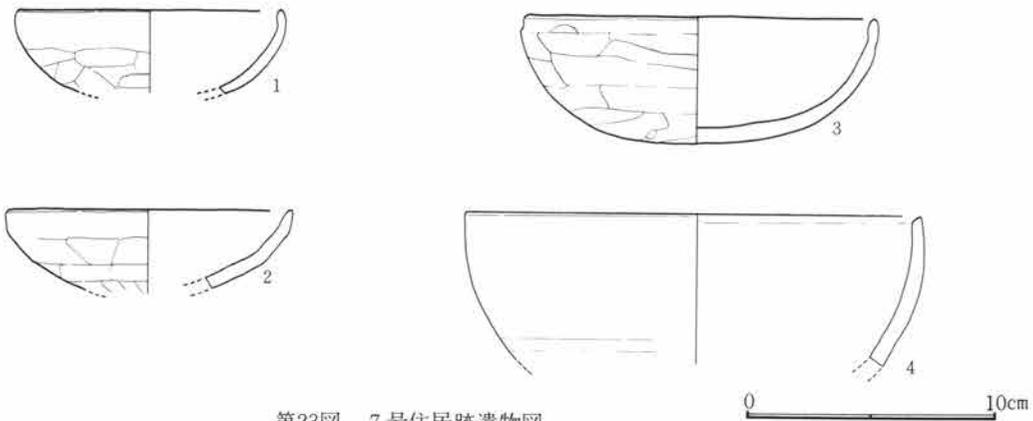
(1) 竪穴住居跡

7号住居跡 (第22図、PL 1・32)

当住居跡はC区南東部に位置し2号住居跡の南にある。他の遺構との関係は住居跡北部で3号住居跡、住居跡中央部で2号掘立柱建物跡と重複している。新旧関係は古い順に7号住→3号住→2号掘立柱建物跡である。規模は長辺約3.7m、短辺約3mである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし壁周溝・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。



第22図 7号住居跡遺構図



第23図 7号住居跡遺物図

第8表 7号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)10.7	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-2	坏土師	(口)11.5	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-3	坏土師	(口)14.0 (高)5.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-4	鉢須恵	(口)18.2	覆土	底部 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存

5. 検出された遺構と遺物

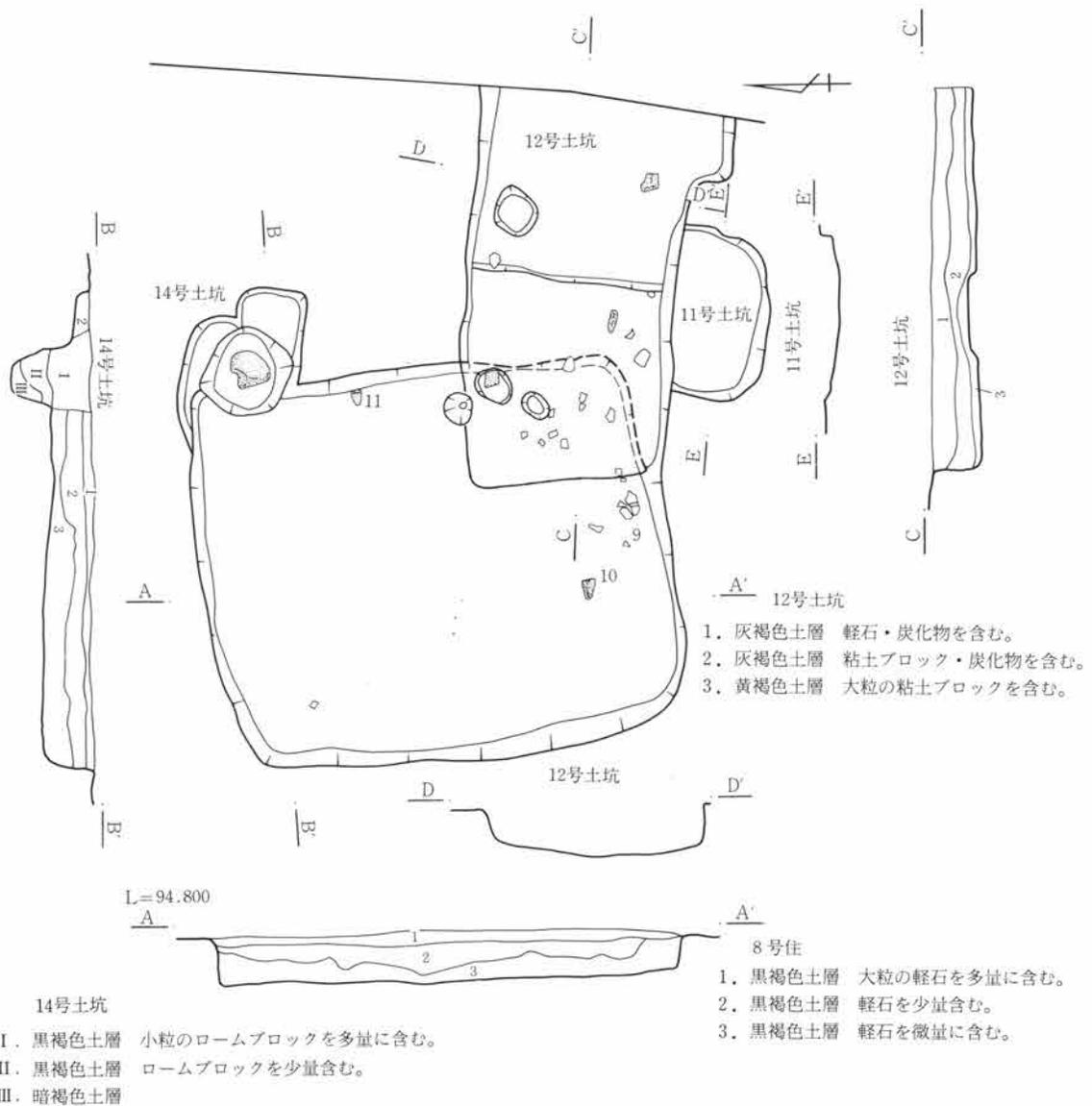
8号住居跡 (第24図、PL 2・69・86)

当住居跡はC区南東部に位置し6号掘立柱建物跡の南にある。他の遺構との関係は南東部で12号土坑と重複している。新旧関係は住居跡が古い。また東北部で住居跡より新しい14号土坑と重複している。規模は長辺4m、短辺3.3mである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなす。竈は12号土坑による削平により検出されていない。

12号土坑は東西に約1.1mを測り東壁は調査区域外に延びている。南北は約1.7mを測り11号土坑と重複している。深さは約30cmである。また土坑を東西に分けるように段を持ち更に約5cm東側が深くなっている。

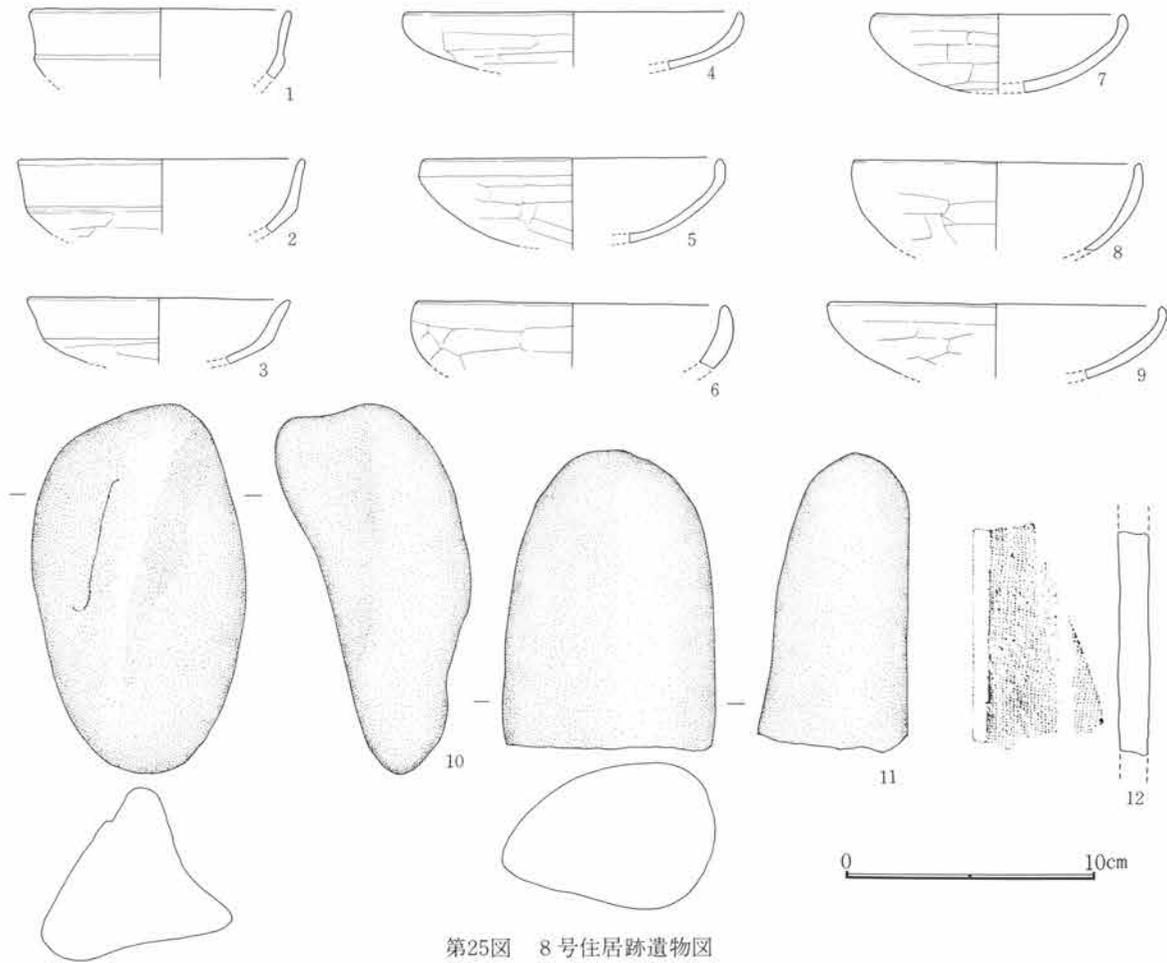
11号土坑は北側は12号土坑により切られているが東西長は約1.4mを測り深さ約15cmを測る。

14号土坑は北東コーナーにあり8号住居跡の壁を壊す形で検出されている。



第24図 8号住居跡遺構図

## (1) 竪穴住居跡



第25図 8号住居跡遺物図

第9表 8号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)10.6	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-2	坏土師	(口)11.4	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-3	坏土師	(口)10.6	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-4	坏土師	(口)13.7	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒 含む ④破片
No-5	坏土師	(口)12.2	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒 含む ④破片
No-6	坏土師	(口)13.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-7	坏土師	(口)10.3	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒 含む ④破片
No-8	坏土師	(口)11.6	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④破片

5. 検出された遺構と遺物

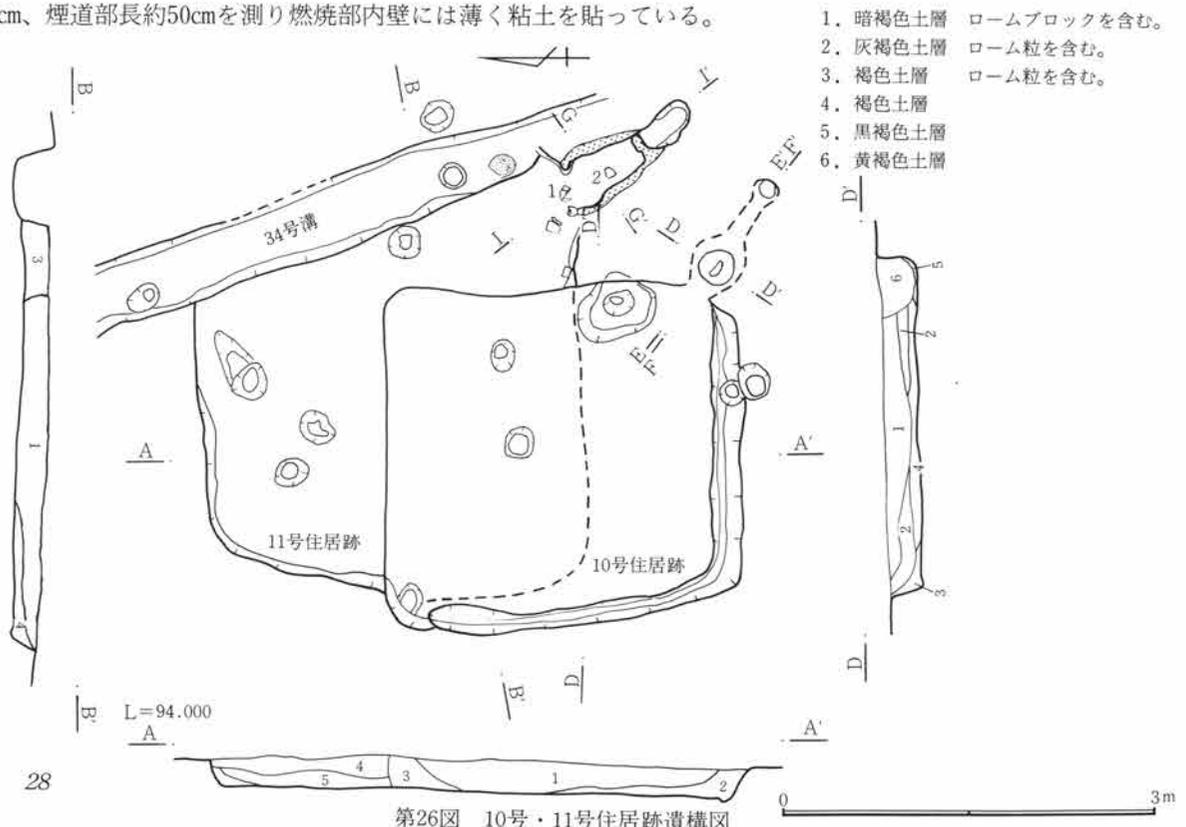
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-9	坏土師	(口)13.6	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-10	石	(長) (厚) cm g 14.5×8.5 866	覆土	流紋岩。	
No-11	石	11.8×8.5 932	覆土	石英閃緑岩。	
No-12	平瓦	瓦観察表、1類A一住12参照			

10号住居跡 (第26・27図、PL 2・33)

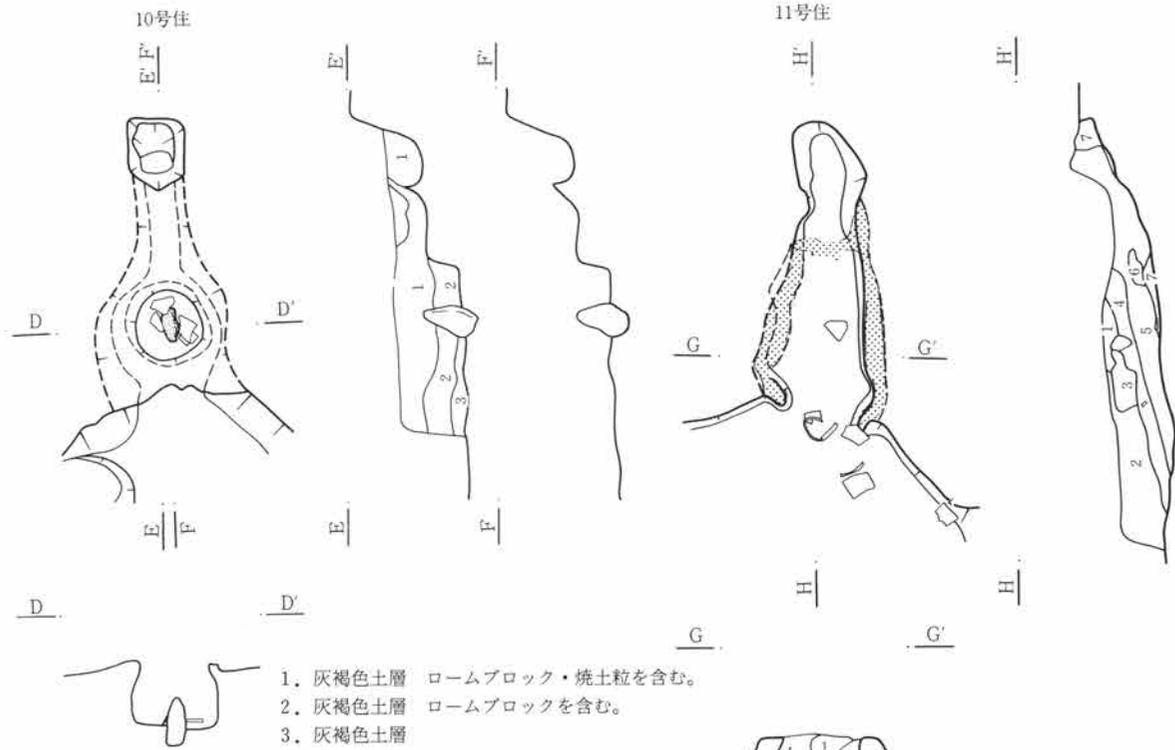
当住居跡は染谷川河川改修部最西端に位置し東側半分を11号住居跡と重複している。新旧関係は11号住居跡より新しい。平面形態はほぼ正方形を呈する。主軸方位は竈主軸でN-92°-Eである。壁高は約20cmを測り床面は平坦である。貯蔵穴は確認されず、竈左側約60cm×50cm、深さ約20cmの小穴が確認された。壁周溝は幅約10cm、深さ約5cmで南・西壁に沿って確認された。柱穴は検出されていない。竈は東壁南コーナーに検出され、遺存状況は良好である。燃烧部幅約20cm、同長約50cm、煙道部長約60cmを測る。天井部は凹面状に遺存し燃烧部に直径約27cmの円形の甕掛け坑を確認した。この坑の下からは棒状の川原石が支脚として使われている。煙道部断面は凹面状で、内面に粘土を貼付している。底面は平坦をなし煙出し部は約50度の傾斜をもって立ち上がる。

11号住居跡 (第26・27図、PL 2・3・33・59)

当住居跡は染谷川河川改修部最西端に位置し、東壁を34号溝南壁を10号住居跡と重複する。新旧関係は34号溝より旧く10号住居跡より新しい。規模は西壁で3mを測る。主軸方位は竈主軸でN-75°-Eである。壁高は約10cmを測る。床面はほぼ平坦をなし小穴は検出されたが、壁周溝・貯蔵穴・柱穴など諸施設は確認されていない。竈は南西コーナーに検出された。燃烧部両側は壁を利用しており、燃烧部幅約30cm、同長約60cm、煙道部長約50cmを測り燃烧部内壁には薄く粘土を貼っている。

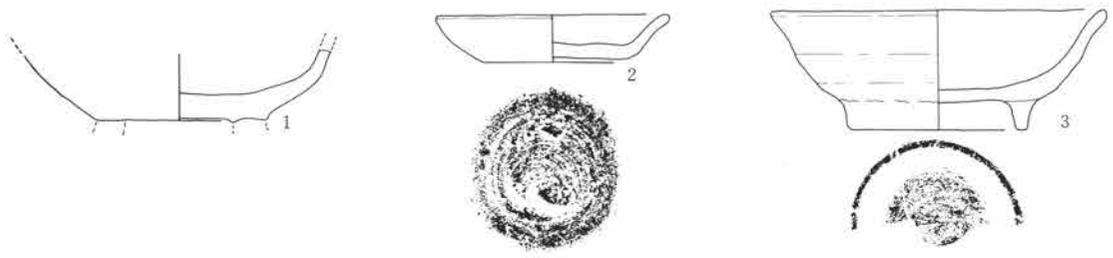


(1) 竪穴住居跡



第27図 10号・11号住居跡竈図

1. 灰褐色土層
2. 褐色土層 ローム粒・焼土ブロックを含む。
3. 砂岩
4. 褐色土層 ローム粒・灰を含む。
5. 褐色土層 焼土ブロック・灰を含む。
6. 焼土面
7. 黒褐色土層 焼土粒・灰を多量に含む。

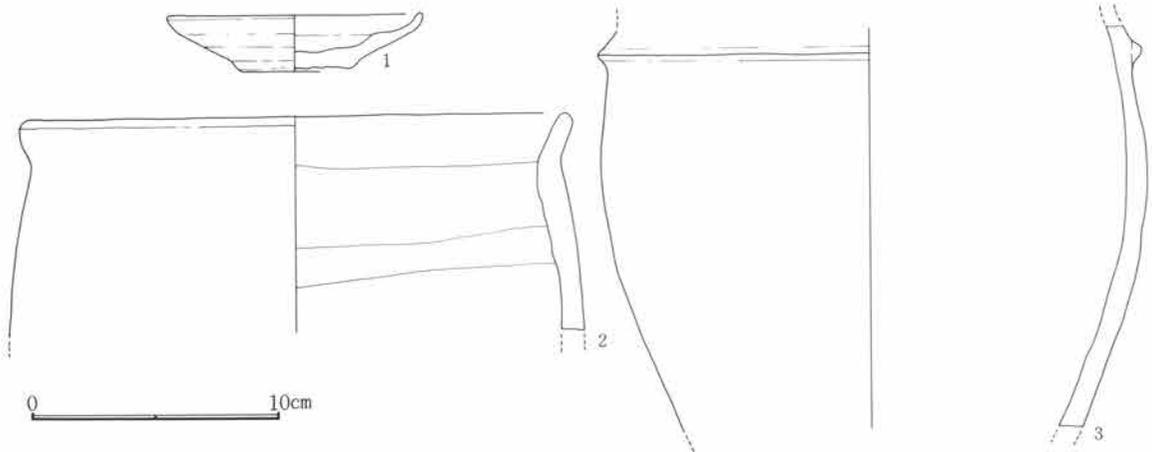


第28図 10号住居跡遺物図

第10表 10号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	碗 土師	(底)6.8	覆土	高台欠落。底部 手持ちヘラ調整。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④残存
No-2	皿 土師	(口)9.5 (高)1.8 (底)5.8	竈内	底部 回転糸切り。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④残存
No-3	碗 土師	(口)13.4 (高)4.7 (底)7.0	覆土	付高台。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④残存

5. 検出された遺構と遺物



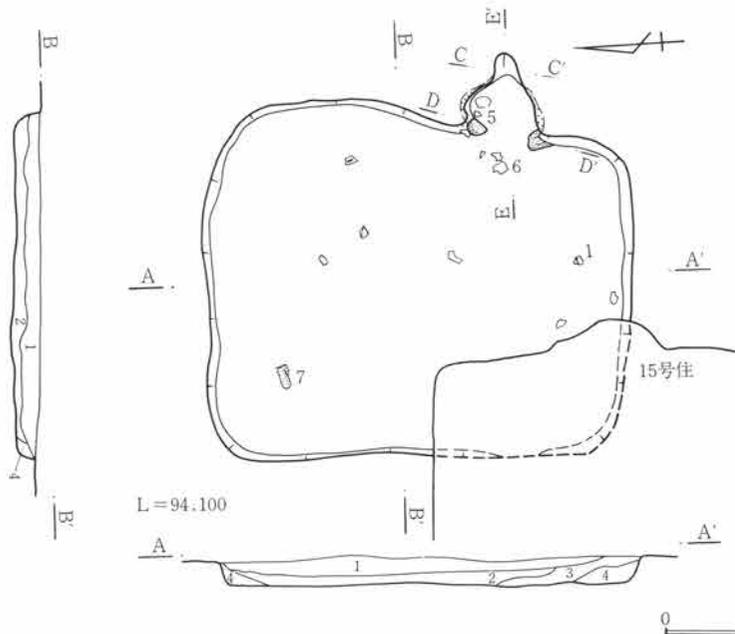
第29図 11号住居跡遺物図

第11表 11号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	皿 土師	(口)10.2 (高)2.2 (底)4.3	覆土	内面轆轤痕明瞭に残る。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④1/3残存
No-2	甕 土師	(口)22.2	覆土	内・外面共雑なナデ調整。	①酸化 ②赤褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④1/3残存(口縁~胴部)
No-3	羽釜		覆土	内・外面共雑なナデ調整。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁~胴部破片

14号住居跡 (第30・31図、PL 3・33・59・86)

当住居跡は染谷川改修部にあり南西部で15号住居跡北壁で73号土坑と重複している。新旧関係は15号住居跡より旧く73号土坑より新しい。規模は長辺3.5m、短辺2.6mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-104°-Eである。壁高は約20cmを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦であり壁の周辺ではやや高くなる。壁周溝・貯蔵穴・柱穴など諸施設は確認されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。燃焼部幅

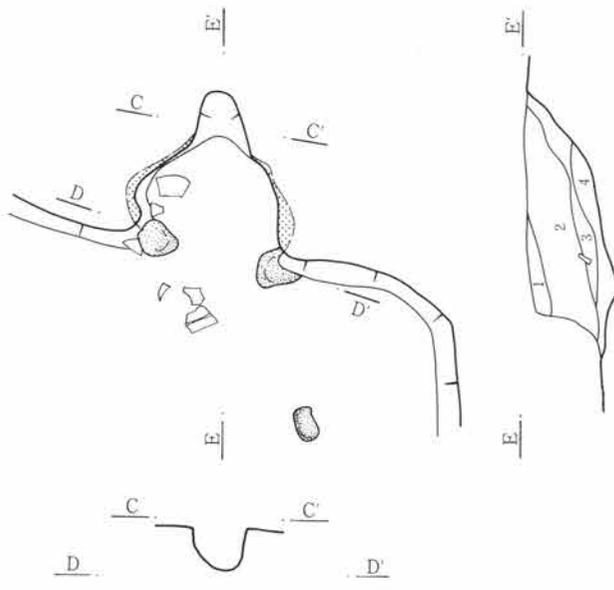


約50cm、同長約50cmを測り、さらに煙道部長約15cmを測る。遺存状況は良く燃焼部両壁、煙道部の一部が残っており、壁は内傾した状況で焼土ブロックとなり残存している。燃焼部内からは炭化物・焼土・灰が多く検出され、特に天井部の崩壊した焼土ブロックが煙道部から多量に検出されている。

1. 褐色土層 軽石を多量に含む。
2. 暗褐色土層 軽石を含む。
3. 灰褐色土層 粘土粒多量に含む。
4. 暗褐色土層

第30図 14号住居跡遺構図

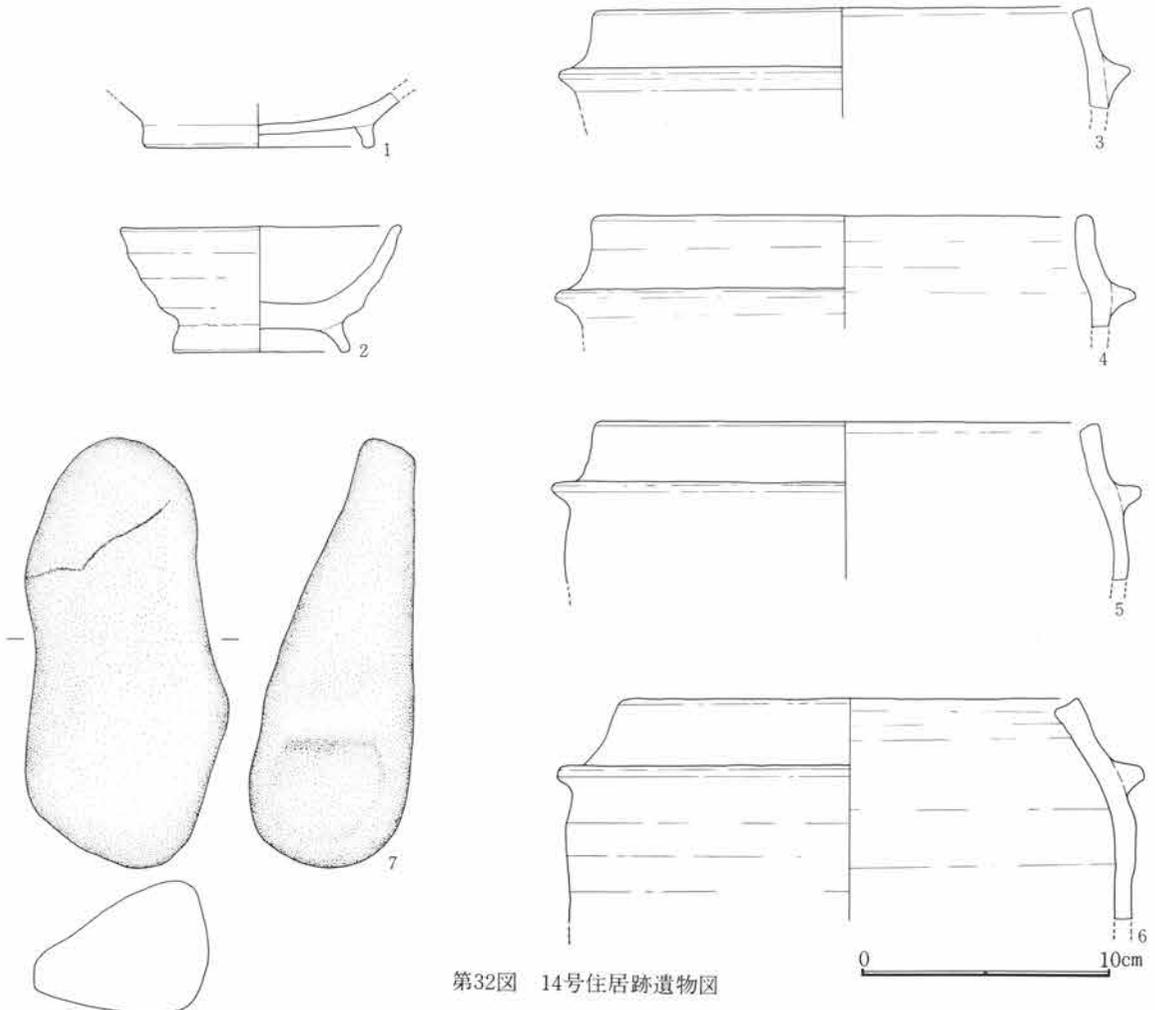
(1) 竖穴住居跡



- 1. 黒褐色土層 軽石を含む。
- 2. 黒褐色土層 軽石・炭化物・焼土粒を含む。
- 3. 赤褐色土層 焼土ブロックを含む。
- 4. 灰層 炭化物を含む。

0 1.5m

第31図 14号住居跡竈図



第32図 14号住居跡遺物図

0 10cm

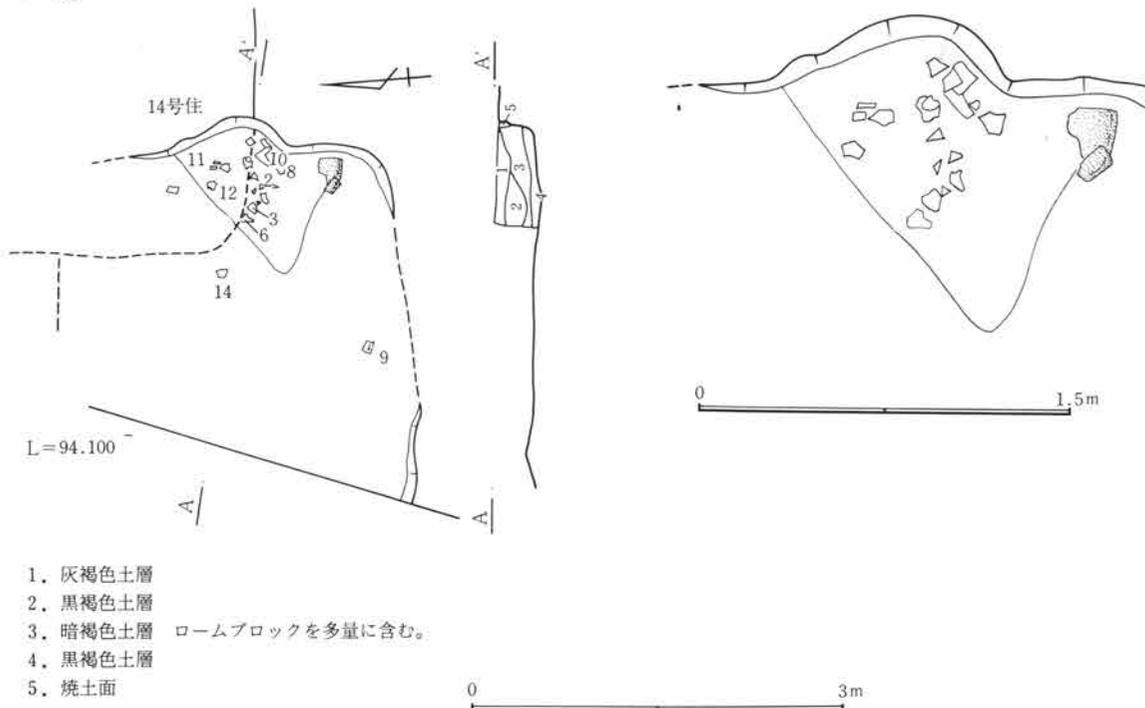
5. 検出された遺構と遺物

第12表 14号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴須恵	(底)9.2	覆土	付高台。底部 回転ヘラ調整。内面 釉。	①還元 ②灰色 ③密 ④底部のみ½残存
No-2	埴須恵	(口)11.3 (高)5.0 (底)7.0	覆土	付高台。外面 轆轤痕明瞭に残る。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-3	羽釜	(口)20.0	覆土	内・外共ナデ。銚 断面短く、やや上を向く。銚の貼り付け痕明瞭。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽釜	(口)20.0	竈内	口縁部はやや内傾し、端部は直立する。内・外面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-5	羽釜	(口)20.2	覆土	口縁部はやや内傾する。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-6	羽釜	(口)18.2	覆土	口縁部 内傾する。内・外面丁寧なナデ。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存
No-7	石	(長) (厚) cm g 17.0×7.8 1.023	覆土	輝石安山岩。	粗粒

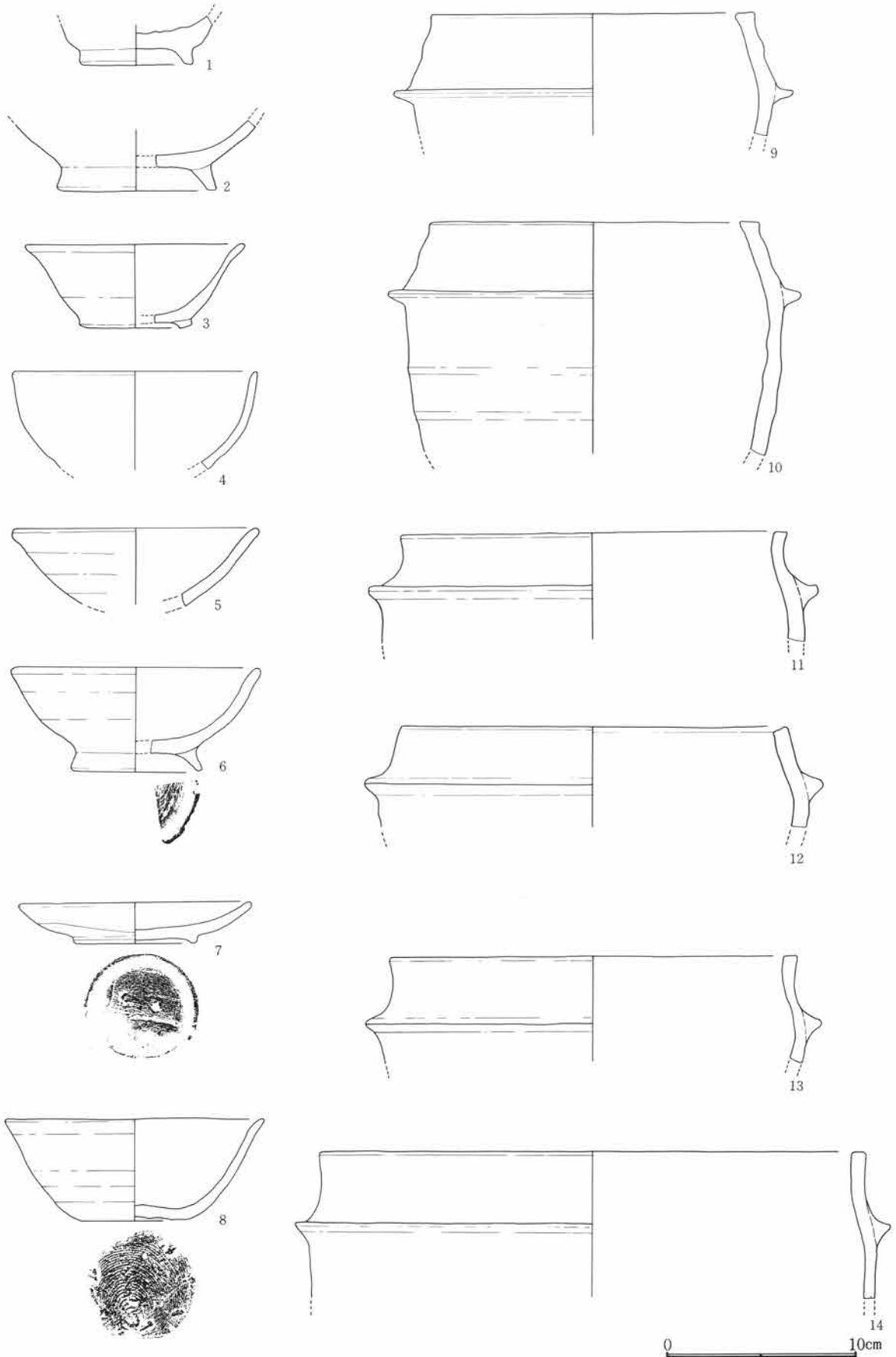
15号住居跡 (第33図、PL 3・33・59)

当住居跡は染谷川河川改修部にあり、西部を染谷川により消失している。北東部で14号住居跡と重複している。新旧関係は14号住居跡より新しい。平面形態は長方形を呈するものと考えられる。主軸方位は竈長軸でN-94°-Eである。壁高は約10cmを測り、床面はほぼ平坦であるが床面が堅く遺存しているのは竈周辺のみである。竈は東壁に検出された。燃焼部幅約70cm、同長約20cmを測る。焼土は燃焼部奥壁より検出されている。



第33図 15号住居跡遺構図・竈図

(1) 竖穴住居跡



第34图 15号住居跡遺物図

5. 検出された遺構と遺物

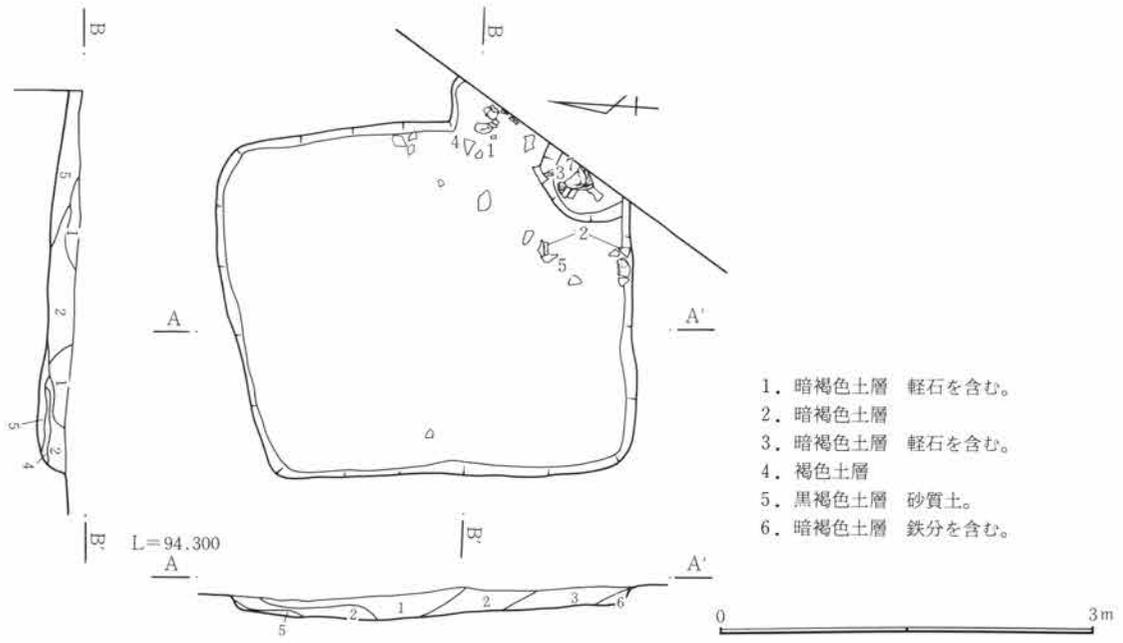
第13表 15号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴土師	(底)6.0	覆土	内面底部に轆轤痕明瞭。底部 手持ちヘラ調整。付高台。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④底部のみ残存
No-2	埴土師	(底)8.4	覆土	付高台。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④底部のみ残存
No-3	埴土師	(口)11.5 (高)4.4 (底)5.9	覆土	付高台。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④残存
No-4	坏須恵	(口)12.8	覆土		①還元 ②灰白色 ③密 ④破片
No-5	埴須恵	(口)14.0	覆土	内面黒色付着。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-6	坏須恵	(口)13.1 (底)6.9	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④残存
No-7	皿須恵	(口)12.2 (高)2.1 (底)6.3	覆土	付高台。回転糸切り。口縁付近軸。	①還元 ②灰色 ③密 ④残存
No-8	坏須恵	(口)13.6 (高)5.3 (底)5.6	覆土	底部 回転糸切り、右廻り。	①還元 ②灰色 ③細砂粒含む ④残存
No-9	羽釜	(口)15.0	覆土	銕 接合部より口縁部に向けて内傾する。内外面共ナデ。	①酸化 ②黒褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-10	羽釜	(口)17.3	覆土	銕 接合部より口縁部に向けて内傾する。内外面共雑なナデ。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④残存
No-11	羽釜	(口)20.2	覆土	銕 接合部より口縁部に向けて外反する。銕接合丁寧なナデ。内・外面共にナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-12	羽釜	(口)20.6	覆土	銕 接合部より口縁部に向けやや内傾する。銕 接合部内・外面共丁寧なナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-13	羽釜	(口)21.5	覆土	内・外面ナデ。銕 断面三角形。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-14	羽釜	(口)28.5	覆土	大型の羽釜。内・外面共にナデ。銕 やや短く、上を向く。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④残存

17号住居跡 (第35図、PL 3・33)

当住居跡は染谷川河川改修部中央南端部に位置する。南東部と竈の一部及び南東部は河川改修予定外に入り未調査である。規模は長辺3.3m、短辺2.9mである。平面形態は長方形を呈し主軸方位はN-80°-Eである。壁高は約10~20cmを測り、垂直に立ち上がり遺存は良好であった。床面は堅く締まりほぼ平坦をなし中央部がやや低くなる。竈周辺はとくに堅くなる。床面直下には軽石が1~2cm堆積していた。竈は南半部は調査区域外のため正確な規模は確認されていないが、燃焼部は壁外に約40cmを測る。燃焼部内壁は崩壊し壁面は明確でない。また竈手前右側に深さ約10cmの浅い掘り込みが検出された。

(1) 竪穴住居跡



第35図 17号住居跡遺構図



第36図 17号住居跡遺物図

## 5. 検出された遺構と遺物

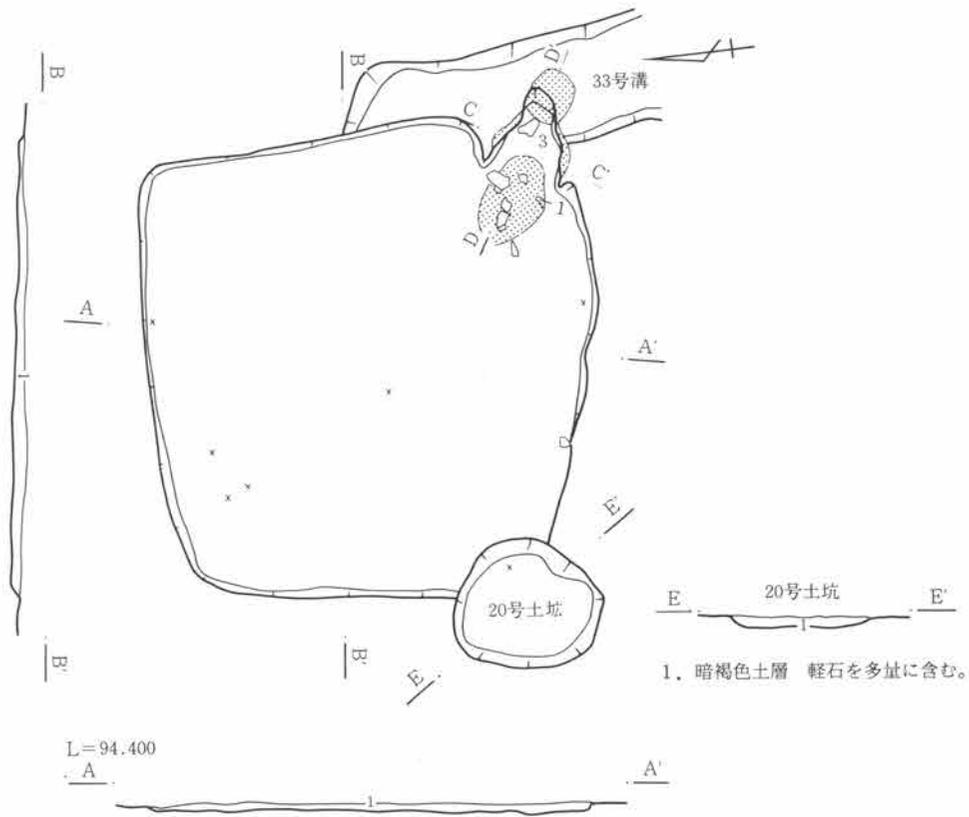
第14表 17号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	口-11.6 高-4.1 底-5.1	覆土	底部 手持ちヘラ調整。	①やや酸化 ②淡橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-2	羽釜	(口)22.0	覆土	口縁部 内傾する。鏝は丁寧な貼り付。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-3	羽釜	(口)20.0	覆土	鏝 断面やや下を向く。	①還元 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽釜	(口)20.0	覆土	鏝 断面やや下を向く。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含み密 ④口縁部破片
No-5	羽釜	(口)22.0	覆土	内・外面 鏝共にナデ。	①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-6	羽釜	(口)19.8	覆土	鏝 接合部より口縁部に向けて内傾する。鏝は上を向く。	①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部のみ $\frac{1}{2}$ 残存
No-7	羽釜		覆土	内・外面共にナデ。	①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④破片

### 第18号住居跡 (第37・38図、PL 3・33)

当住居跡は染谷川河川改修部やや西に位置する。東南部・西南部でそれぞれ20号土坑・33号溝と重複している。新旧関係は33号溝より新しく20号土坑より古い。規模は長辺3.8m、短辺3.7mを測る。平面形態はほぼ正方形を呈する。壁高は約5cmを測り主軸方位はN-89°-Eである。床面はほぼ平坦であるが堅く締まってはいない。壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は確認されていない。竈は東南コーナーに検出された。竈の上半部は消失している。下半部の残りは少ないが、内壁の立ち上がり、底面の状況等比較的遺存度は良い。内壁面は良く焼け、また灰・焼土も多量にあり長期に渡る使用が考えられる。

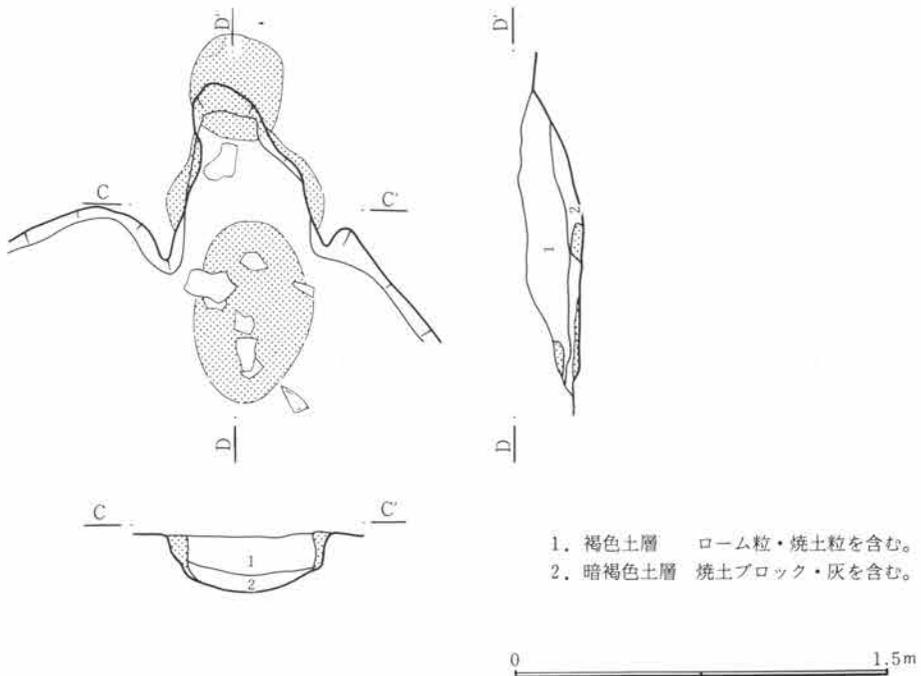
(1) 竪穴住居跡



1. 灰褐色土層 軽石・鉄分を含む。

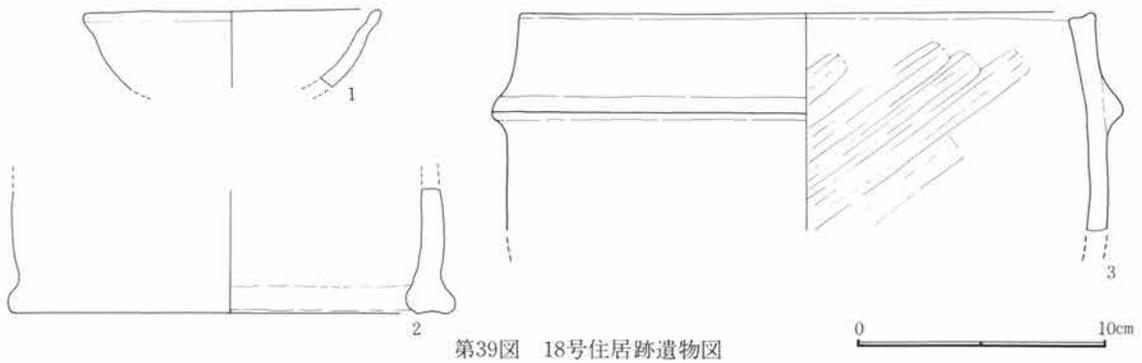
0 3m

第37図 18号住居跡遺構図



第38図 18号住居跡竈図

5. 検出された遺構と遺物



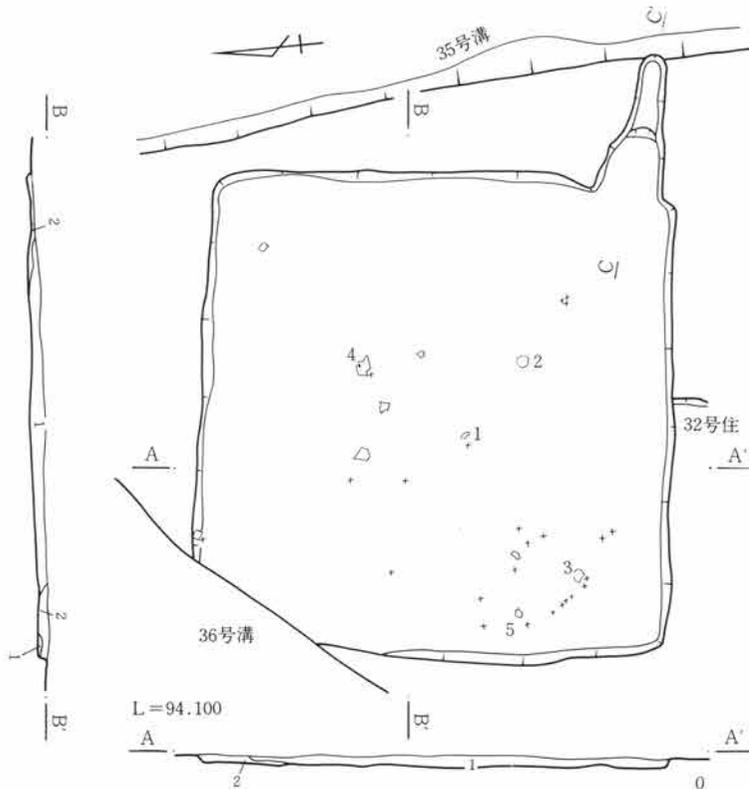
第39図 18号住居跡遺物図

第15表 18号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 土 師	(口径)12.0	覆 土		①酸化 ②明赤褐色 ③細砂粒含む ④残存
No-2	甌 土 師	(底)18.0	覆 土	内・外面共に雑なナデ。	①酸化 ②橙色 ③2～3mmの砂粒含む ④底部破片
No-3	羽 釜	(口径)23.0	覆 土	鐙は短く、貼付は雑である。内面 ヘラ状工具によるナデ。	①還元 ②灰褐色 ③1～2mmの砂粒含む ④口縁部破片

第19号住居跡 (第40・41図、PL 4・34)

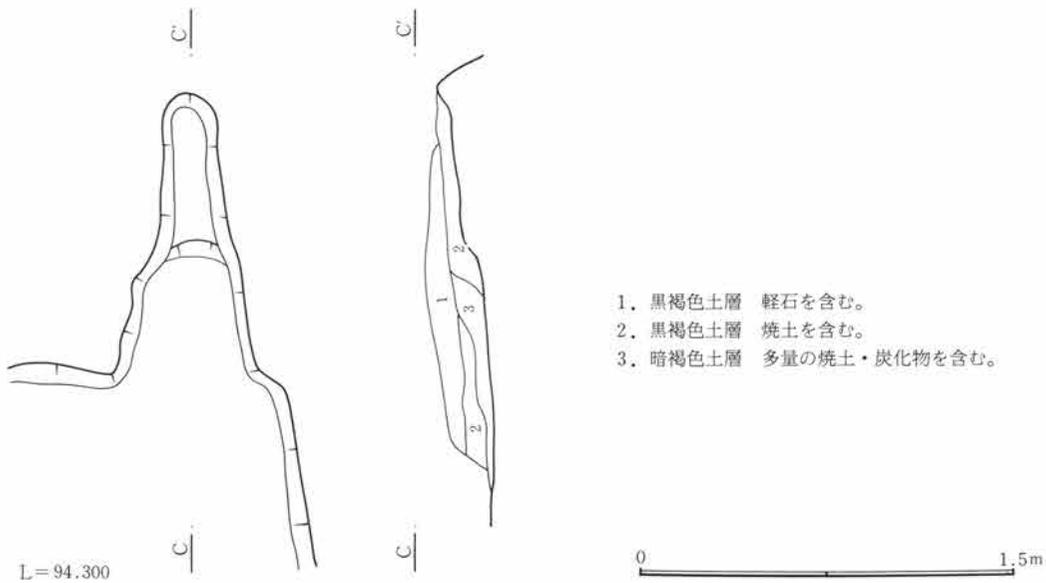
当住居跡は染谷川河川改修区やや西寄りに位置する。他の遺構との重複関係は南西部で32号住居跡、北西部で36号溝と重複している。新旧関係は32号住居跡より新しくさらに両住居跡より36号溝が新しい。平面形態は正方形を呈し、規模は1辺3.9mを測る。主軸方位はN-96°-Eである。壁高は約5～8cmを測る。床面



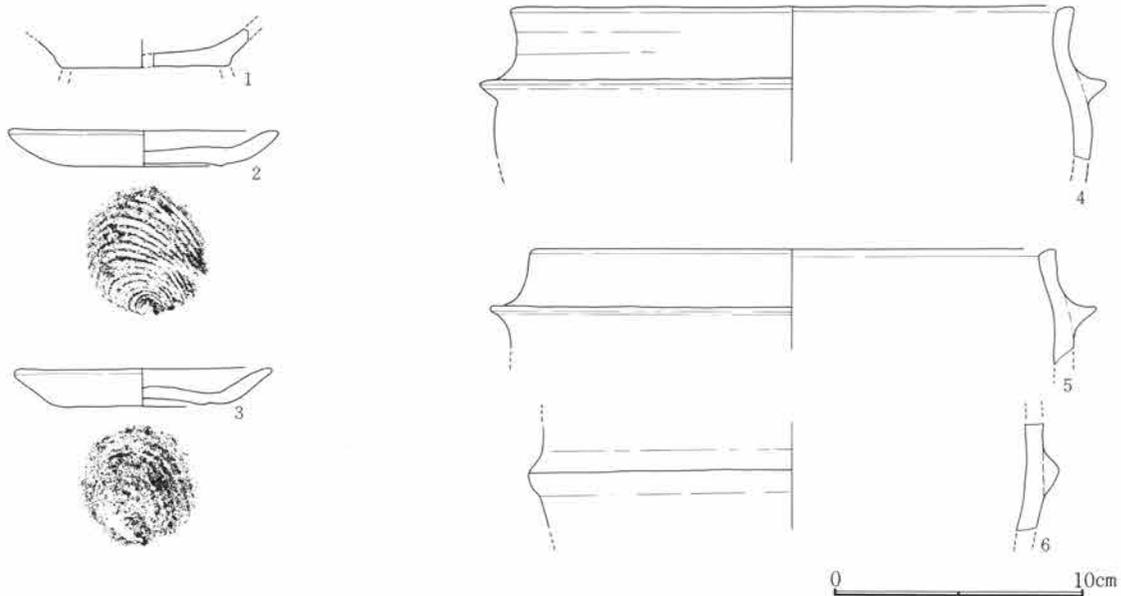
は堅く締まりほぼ平坦をなす。壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は東南部に検出され、南壁の延長線上にある。袖幅は約40cm、燃烧部長約60cmを測り、燃烧部底面はほぼ平坦で内壁は良く焼けている。両袖部と燃烧部中央からは石が検出された。さらに約40cmの緩やかに立ち上がる煙道部を持つ。

- 1. 暗褐色土層 軽石を少量含む。
- 2. 暗褐色土層 軽石を微量含む。

(1) 竪穴住居跡



第41図 19号住居跡竈区



第42図 19号住居跡遺物区

第16表 19号住居跡遺物観察表

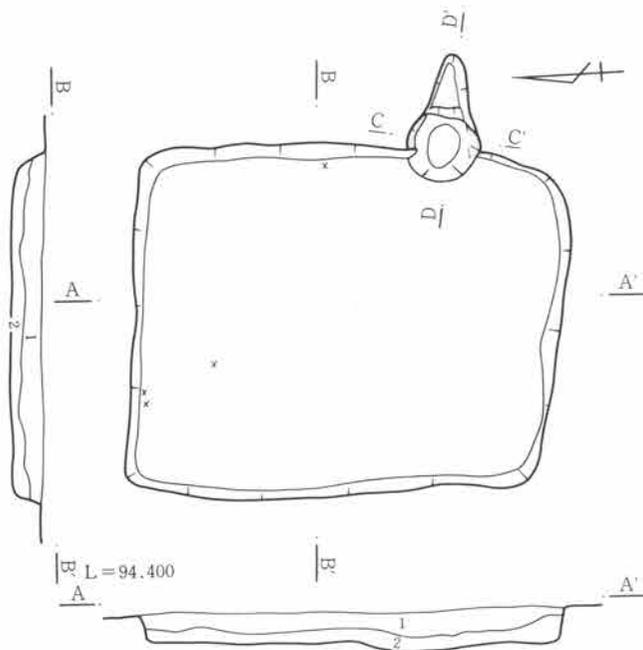
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師		覆土	高台欠落。	①酸化 ②にぶい赤橙色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-2	皿土師	口-10.9 高-1.4 底-6.3	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④%残存
No-3	皿土師	口-10.4 高-1.5 底-6.6	覆土	底部 回転糸切り。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④%残存
No-4	羽釜	(口)22.4	覆土	鏝丁寧な貼付。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

5. 検出された遺構と遺物

No-5	羽釜 (口)21.0	覆土	内・外面共丁寧なナデ。	①還元 ②灰赤色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-6	羽釜	竈付近覆土	鈔短く、丁寧な貼付。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④破片

第20号住居跡 (第43・44図、PL 4・34・59)

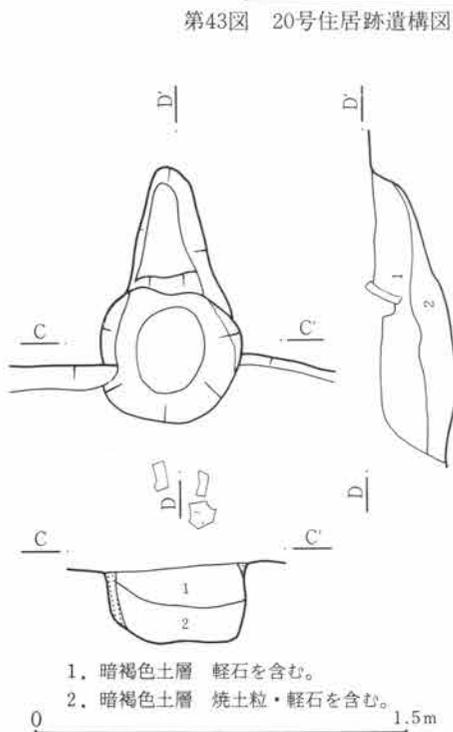
当住居跡は染谷川河川改修部ほぼ中央に位置し、56号住居跡と重複している。新旧関係は56号住居跡より



新しい。平面形態は長方形を呈し、規模は長辺3.7m、短辺2.9mである。主軸方位はN-93°-Eである。壁の遺存は良好で約25cmを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面は比高差約5cmあり堅く、中央部はやや低くなっている。また竈周辺は特に堅い。壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は確認されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。燃烧部幅約50cm、同長約30cm、煙道部長約40cmを測る。燃烧部中央には河原石を支脚として用いている。内壁面は崩壊し、内部に焼土ブロックとして堆積していた。燃烧部と煙道部の境に甕を横臥して補強材としている。

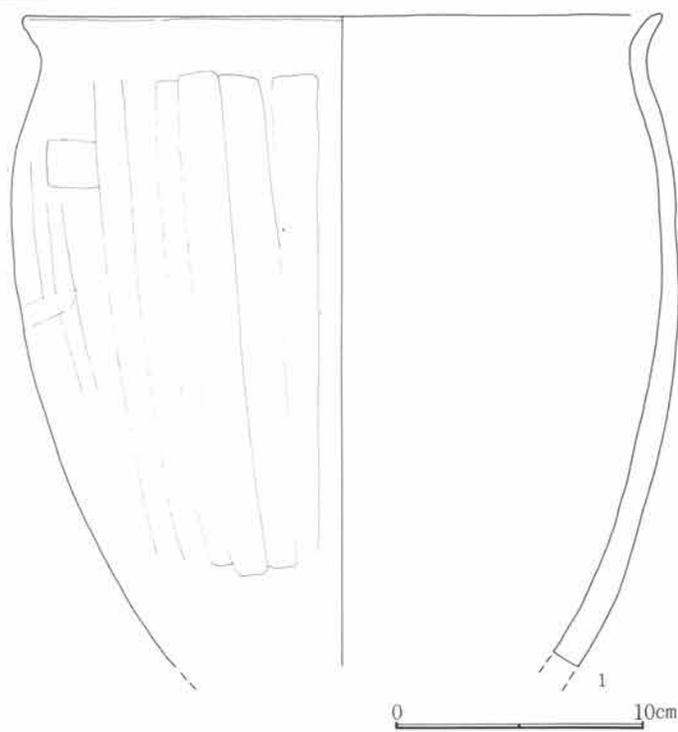
1. 暗褐色土層 軽石を含む。
2. 暗褐色土層 軽石・粘土粒含む。

第43図 20号住居跡遺構図



1. 暗褐色土層 軽石を含む。
2. 暗褐色土層 焼土粒・軽石を含む。

第44図 20号住居跡竈図



第45図 20号住居跡遺物(1)

(1) 竪穴住居跡



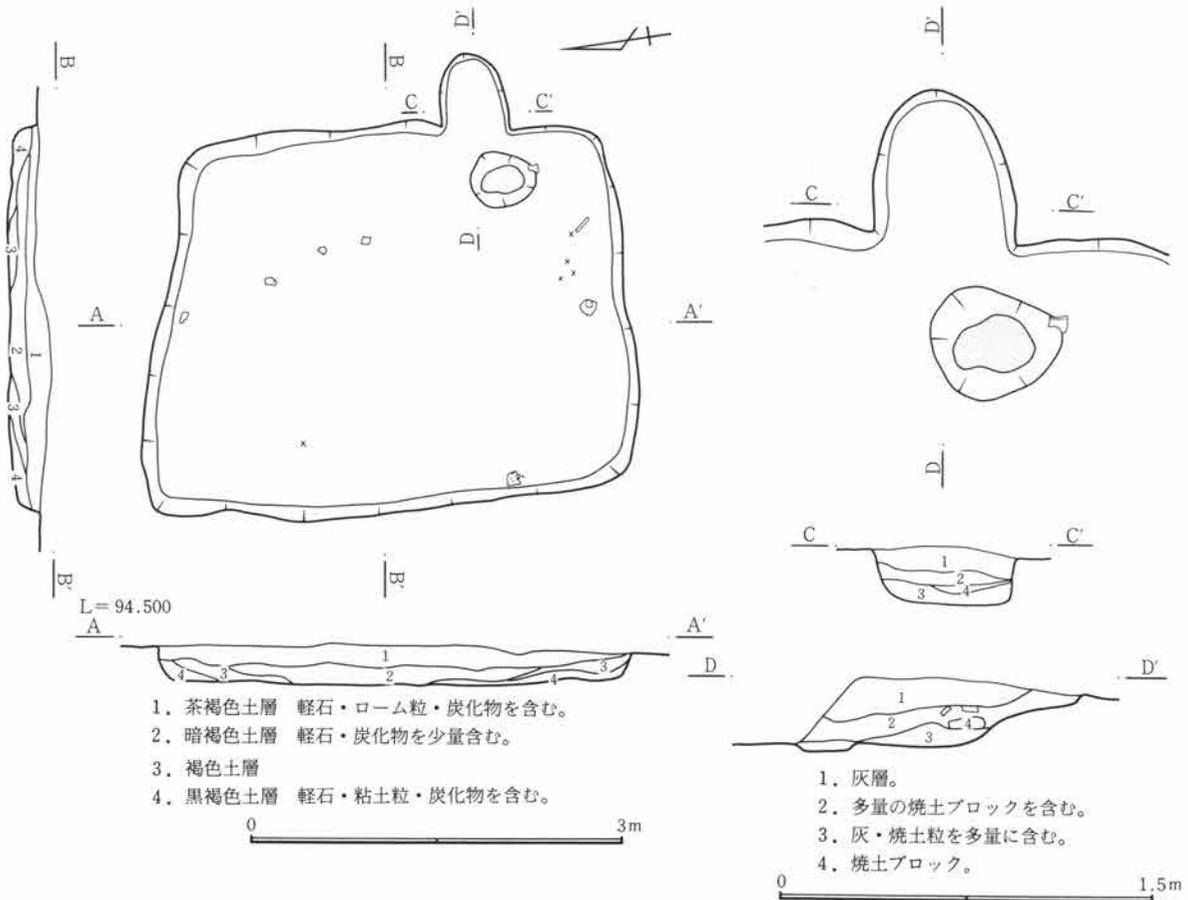
第46図 20号住居跡遺物図(2)

第17表 20号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	甕 土師	口-25.7	覆土	口縁部 ヨコナデ。胴部 外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ調整。	①酸化 ②にぶい橙色 ③2~3 mmの砂粒含む ④破片
No-2	羽釜		覆土	鈿 短くやや下を向く。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④破片

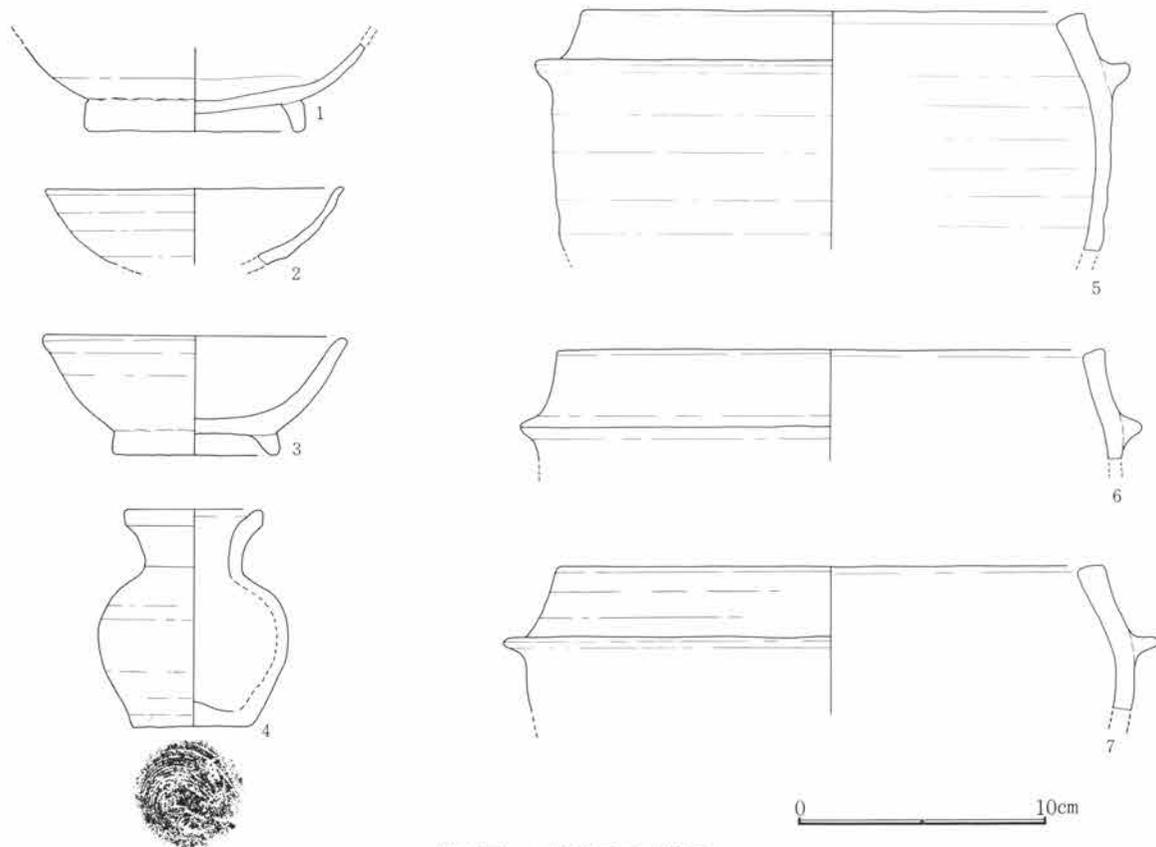
21号住居跡 (第47図、PL 4・34・59)

当住居跡は染谷川河川改修部中央に位置し20・56号住居跡の東にある。他の遺構との重複は無い。規模は長辺4m、短辺3.1mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-96°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は検出されていない。また竈前面から約50cm×40cm、深さ約10cmで灰を堆積した小穴を検出した。この小穴のそばから石を検出した。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約55cm、同長約70cmを測る。煙道部は明確に確認できなかったが燃焼部奥壁寄りに緩やかに傾斜する段を持つ。



第47図 21号住居跡遺構図・竈図

5. 検出された遺構と遺物



第48図 21号住居跡遺物図

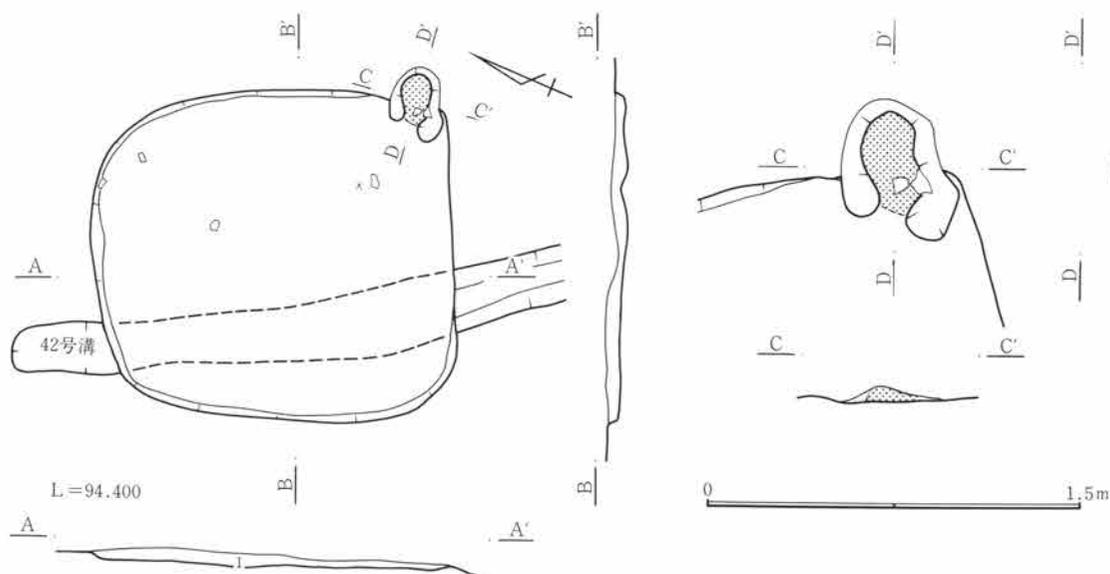
第18表 21号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴須恵	(底)9.0	覆土	内・外面共にナデ。内面に重ね焼痕あり。付高台やや丸。器肉厚く軸。底部 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰色 ③密 ④底部のみ残存
No-2	坏須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共軸。	①還元 ②灰色 ③密 ④口縁部破片
No-3	埴須恵	口-12.0 高-4.6 底-6.7	覆土	付高台。底部 糸切り後、ナデ調整。	①酸化 ②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
No-4	壺須恵	口-5.6 高-8.6 底-4.8	覆土	体部 回転ヘラ削痕あり。底部 回転糸切り。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④完形
No-5	羽釜	(口)20.5	覆土	内・外面 丁寧なナデ。鐳は上を向く。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
No-6	羽釜	(口)22.0	覆土	鐳は短かく、丁寧な貼付。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-7	羽釜	(口)22.0	覆土	鐳は薄く、やや上を向く。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

(1) 竪穴住居跡

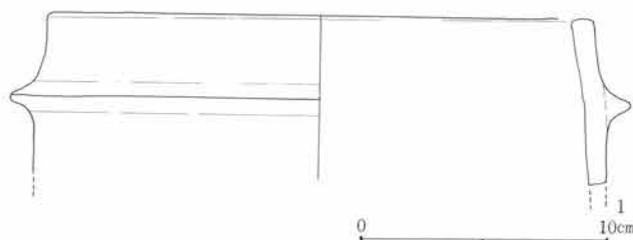
22号住居跡 (第49図、PL59)

当住居跡は染谷川河川改修部中央に位置し21号住居跡の東南にある。他の遺構との関係は住居跡西側で42号溝と重複している。新旧関係は住居跡が新しい。規模は長辺2.9m、短辺2.7mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-66°-Eである。壁高は約3~5cmと壁の遺存状況は良くない。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁、南壁コーナーに検出された。左右の袖はやや内湾して遺存しており、袖幅は約30cm、燃烧部長約50cmを測る。両袖は壁より約20cm住居跡内にある。竈内は住居跡と同様遺存状況は悪く覆土は火床に近くなると焼土の量が増え灰は余り含まない単一の状況を示す。



1. 暗褐色土層 ロームブロックを含む。

第49図 22号住居跡遺構図・竈図

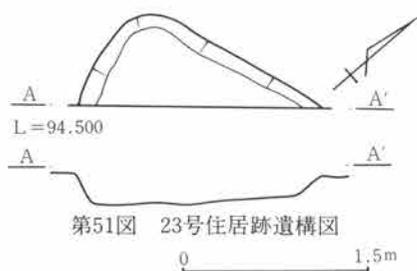


第50図 22号住居跡遺物図

第19表 22号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽釜	(口)22.0	覆土	鑄は短く、断面は三角形。貼付けのナデは雑。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片

5. 検出された遺構と遺物



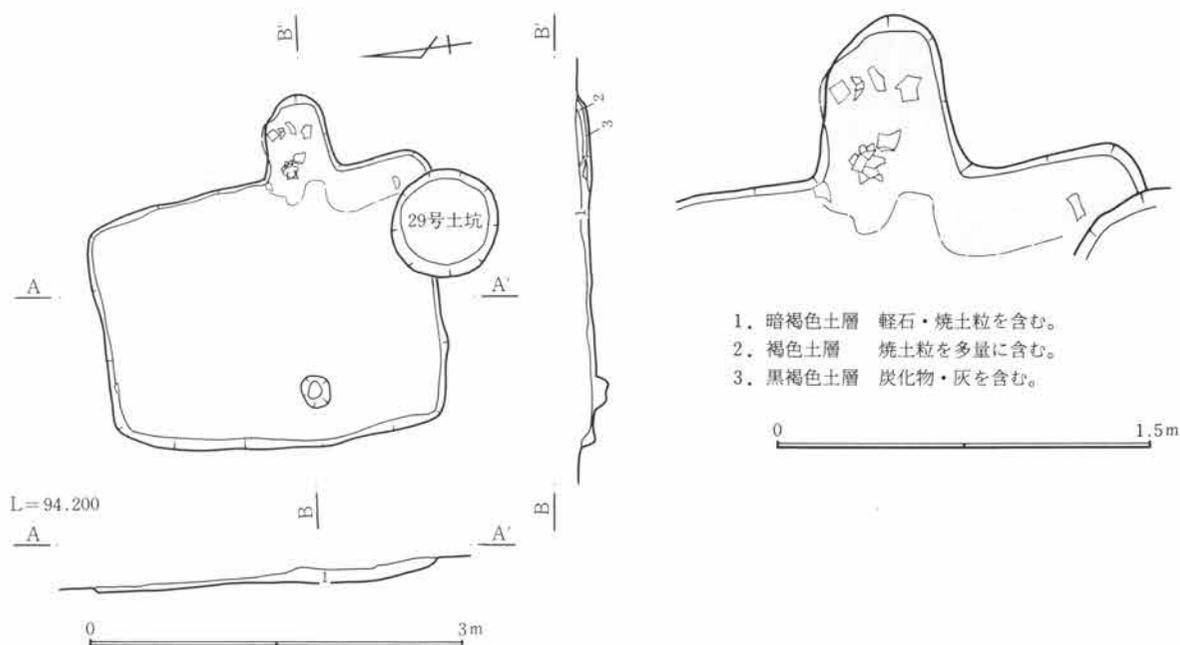
第51図 23号住居跡遺構図

23号住居跡 (第51図)

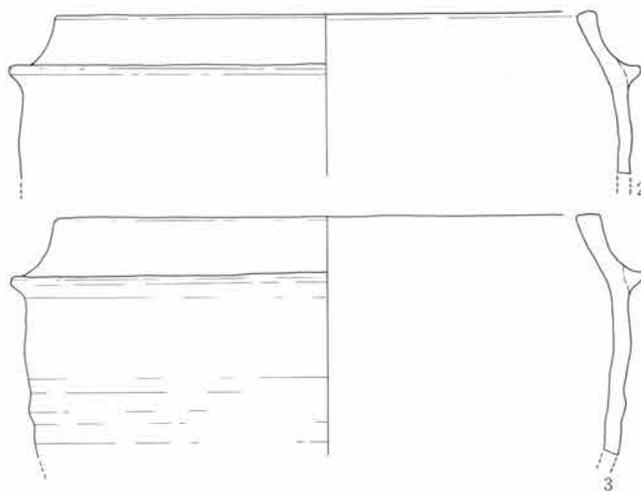
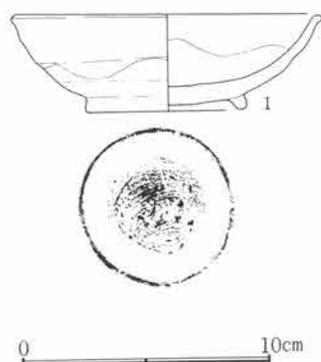
当住居跡は染谷川河川改修部中央東端に位置し33号住居跡の東にある。住居跡の大半は調査区域外にあるため部分的に検出された。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなす。竈・壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は検出されていない。

24号住居跡 (第52図、PL 4・34・59)

当住居跡は染谷川河川改修部ほぼ中央に位置し20・56号住居跡の南にある。南東コーナー付近で29号土坑と重複している。新旧関係は住居跡が古い。規模は長辺3m、短辺2.2mを測る。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-86°-Eである。壁高は約10cmを測り、床面はほぼ平坦をなす。壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は確認されていない。西壁中央付近床面に小穴を1基確認している。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約60cm、同長約60cmである。焼土・灰層が右袖部から南東コーナーにまで及んでいる。



第52図 24号住居跡遺構図・竈図



第53図 24号住居跡遺物図

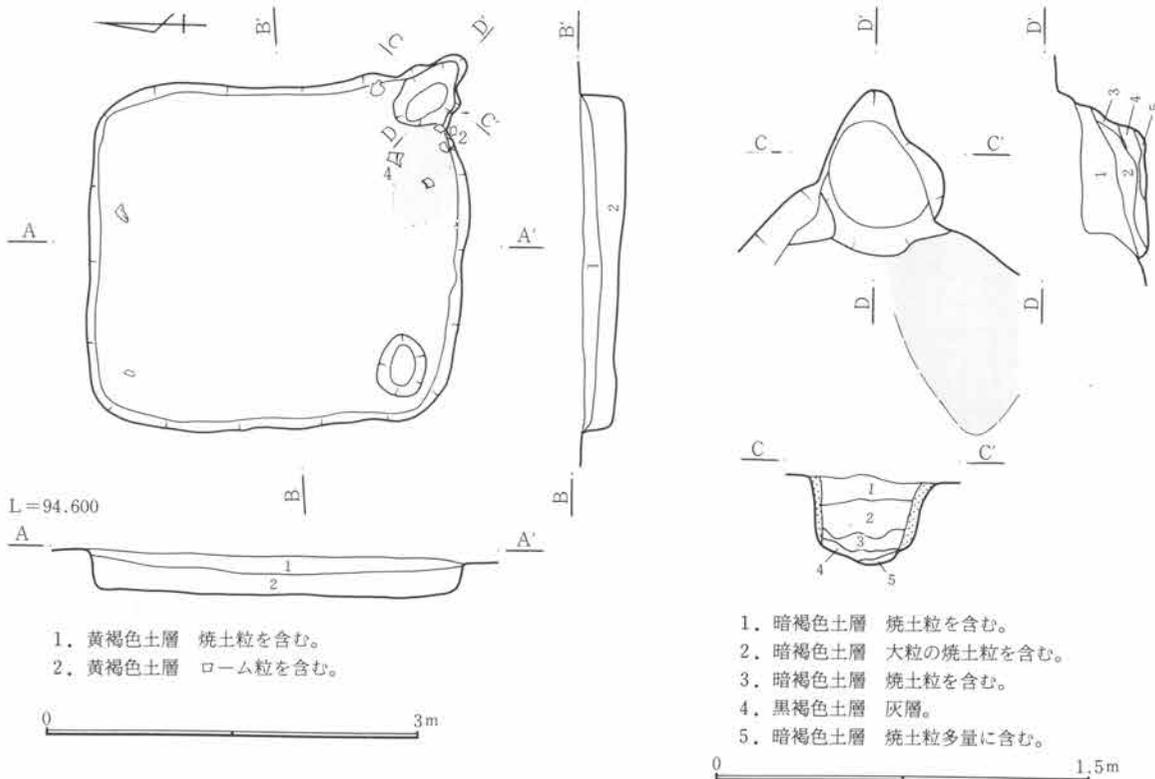
## (1) 竪穴住居跡

第20表 24号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴 灰 釉	口-12.5 高-3.8 底-6.5	覆 土	口縁部 内・外面共に釉。付高台。底部 回転糸切り。	①還元 ②灰白色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-2	羽 釜	(口)21.5	覆 土	内・外面共雑なナデ。鋳は上を向く。	①やや酸化 ②浅黄橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	羽 釜	(口)21.8	覆 土	内・外面共ナデ。鋳は短く上を向く。轆轤痕残る。	①酸化 ②橙色 ③細砂砂粒含む ④口縁部破片

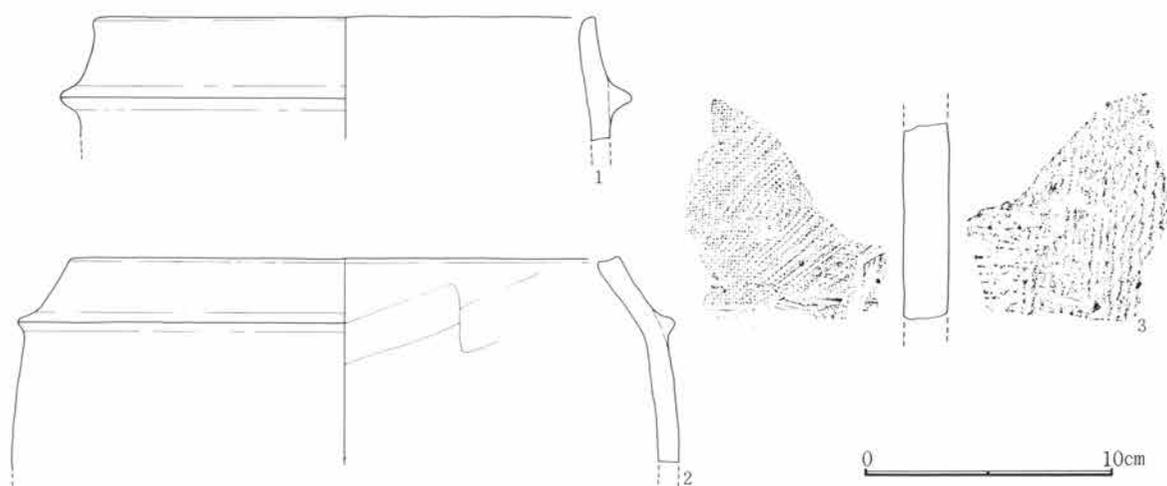
## 27号住居跡 (第54図、PL 5・59・69)

当住居跡は染谷川河川改修部東北部に位置し36号住居跡の東南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.2m、短辺2.9mを測る。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-89°-Eである。壁高は20cm~30cmを測る。床面は平坦をなし、南西コーナーに貯蔵穴と思われる落ち込みを確認した。規模は約50cm×35cm、深さ約30cmを測る。壁周溝・柱穴などの施設は確認されていない。竈は南東コーナーで確認された。燃焼部幅約60cm、同長約55cmを測る。灰層が竈手前南壁に沿って広がっている。



第54図 27号住居跡遺構図・竈図

5. 検出された遺構と遺物



第55図 27号住居跡遺物図

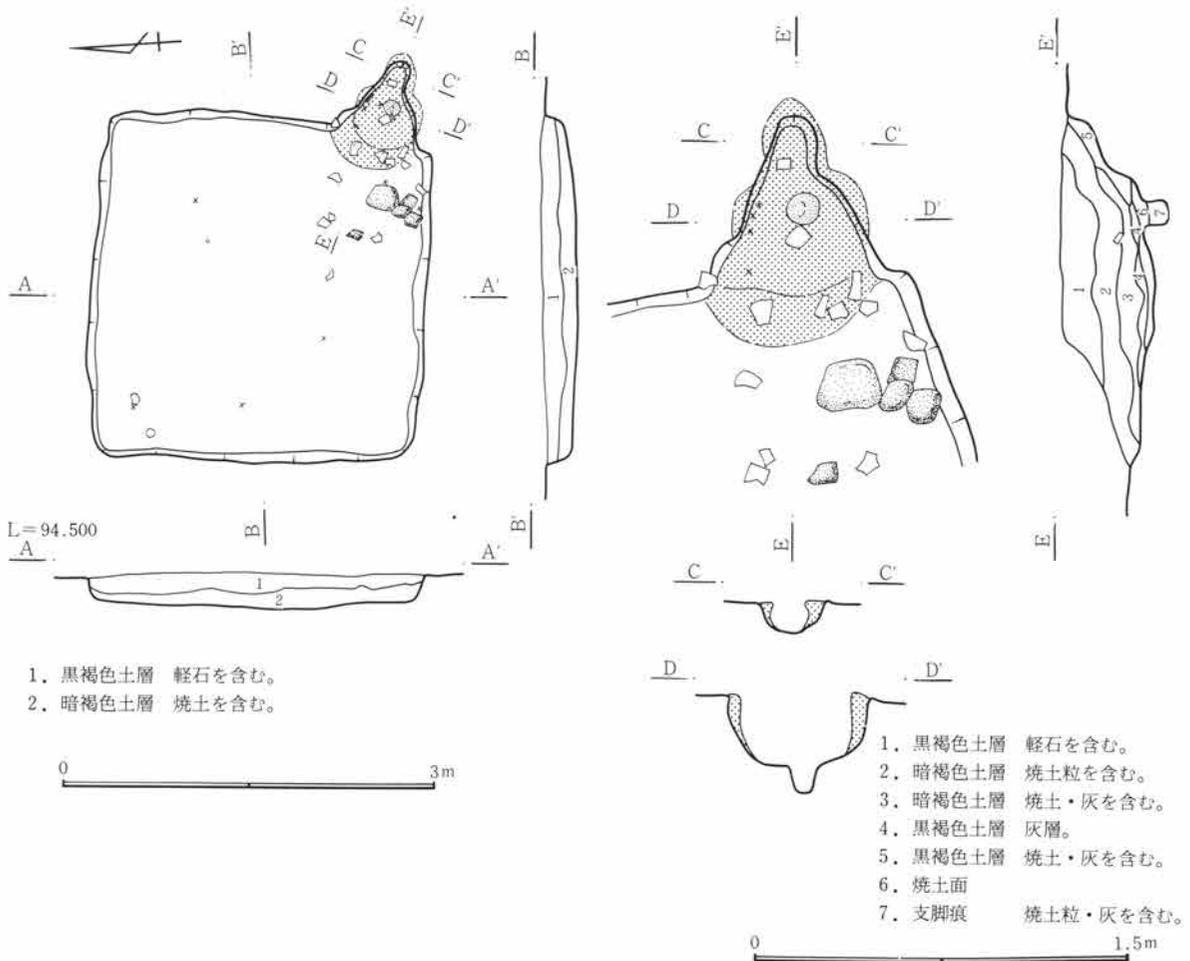
第21表 27号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽釜	(口)20.1	覆土	鈔短く、断面は三角形。体部内・外面共雑なナデ。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mm砂粒含む ④口縁部破片
No-2	羽釜	(口)22.2	覆土	鈔短い。体部内面ヘラ状工具によるナデ。	①やや酸化 ②にぶい赤褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	平瓦	瓦観察表、1類B-2 No.4 参照			

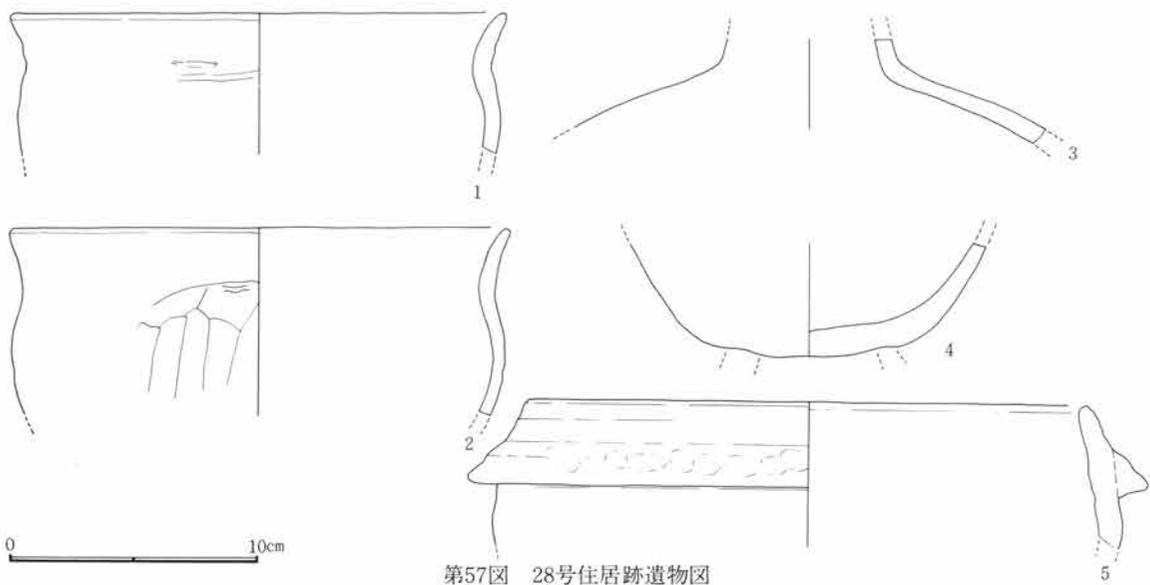
28号住居跡 (第56図、PL 5・34・59)

当住居跡は染谷川河川改修部中央に位置する。他の遺構との重複はない。規模は1辺2.8mで、平面形態はほぼ正方形に近い。主軸方位はN-93°-Eである。壁高は約15cm~20cmを測り、やや斜めに立ち上がる。床面はほぼ平坦をなし堅く締まっている。床面に焼けた部分があり、床上にも焼土が散布しており、焼失家屋の可能性はある。壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は確認されていない。竈は東南コーナーに検出された。燃焼部幅約60cm、同長約40cm、煙道部長約25cmを測る。煙出しの部分は直に立ち上がる。燃焼部壁は良く焼けており粘土を張った事が確認できた。袖部右手前より砂岩が検出された。燃焼部中央より支脚の痕と思われる小穴が検出された。

(1) 竪穴住居跡



第56図 28号住居跡遺構図・竈図



第57図 28号住居跡遺物図

5. 検出された遺構と遺物

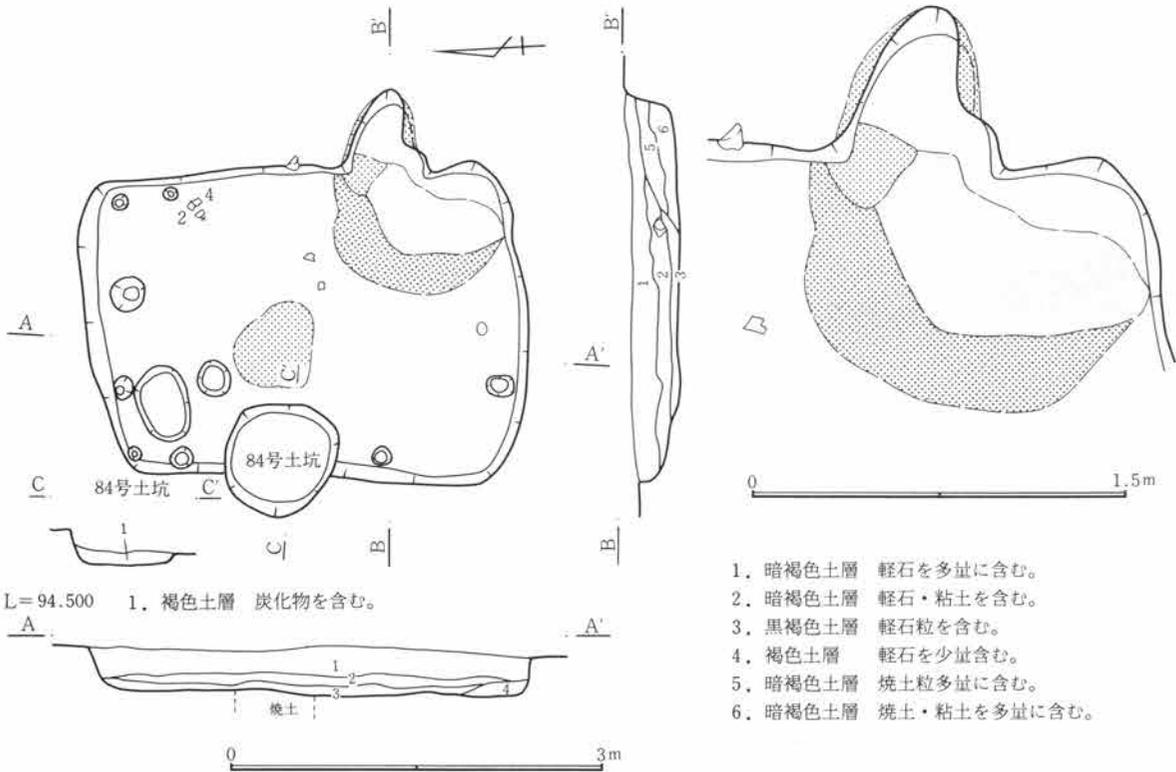
第22表 28号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	甕 土師	(口)20.0	覆土	頸部にヘラ痕あり。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	甕 土師	(口)20.0	覆土	頸部にヘラ痕あり。頸部より下ヘラケズリ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	長頸壺 須恵		覆土		①還元 ②灰色 ③密 ④頸部破片
No-4	碗 土師	(底)7.0	覆土	高台欠落。底部 手持ちヘラ調整。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④%残存
No-5	羽釜		覆土	全体的に雑なナデ調整。鏝 下を向く。鏝上に指頭痕あり。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

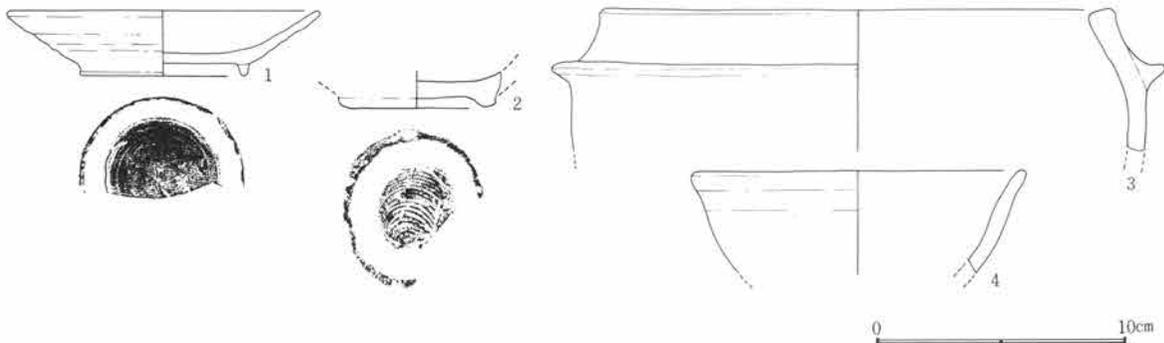
30号住居跡 (第58図、PL 5・35・60)

当住居跡は染谷川河川改修部ほぼ中央に位置し28号住居跡の南にある。他の遺構との関係は西壁で84号土坑と重複している。新旧関係は土坑が新しい。規模は長辺3.6m、短辺2.6mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-91°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなす。壁周溝・貯蔵穴・柱穴と確定することは難しいが小穴が7ヶ所確認されている。1番大きなもので約60cm×40cm、深さ約7~8cmあり、他の小穴も同様の深さをもつ。約20cmを越える深さのものもあるが配置などからみて柱穴と断定しがたい。竈は東壁南寄りに検出された。燃烧部幅約60cm、同長約60cmである。竈の遺存状況は良好で燃烧部内に焼土が堆積している。竈前面に広い範囲で灰・焼土の散布がある。また住居跡中央に焼土が堆積していた。

(1) 竪穴住居跡



第58図 30号住居跡遺構図・竈図



第59図 30号住居跡遺物図

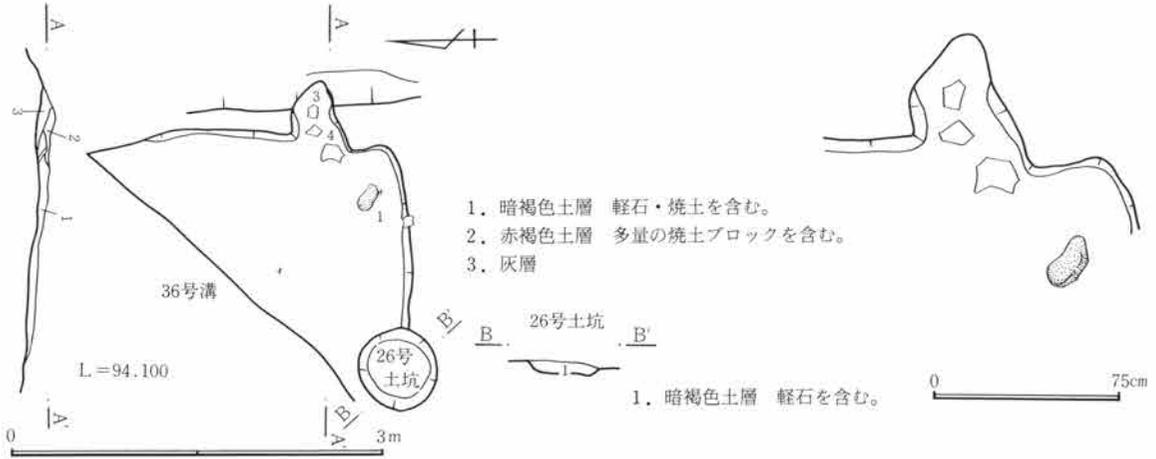
第23表 30号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	皿 灰釉	口-12.5 高-2.6 底-6.6	覆土	口縁部 内・外面共釉。付高台。底部 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含み密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-2	碗 土師	底-6.0	覆土	底部 回転糸切り。内面 黒色付着。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④底部%残存
No-3	羽釜	(口)20.5	覆土	鈔 上を向き、丁寧な貼付、ナデ。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	坏 土師	(口)13.0	覆土		①やや酸化②にぶい赤褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

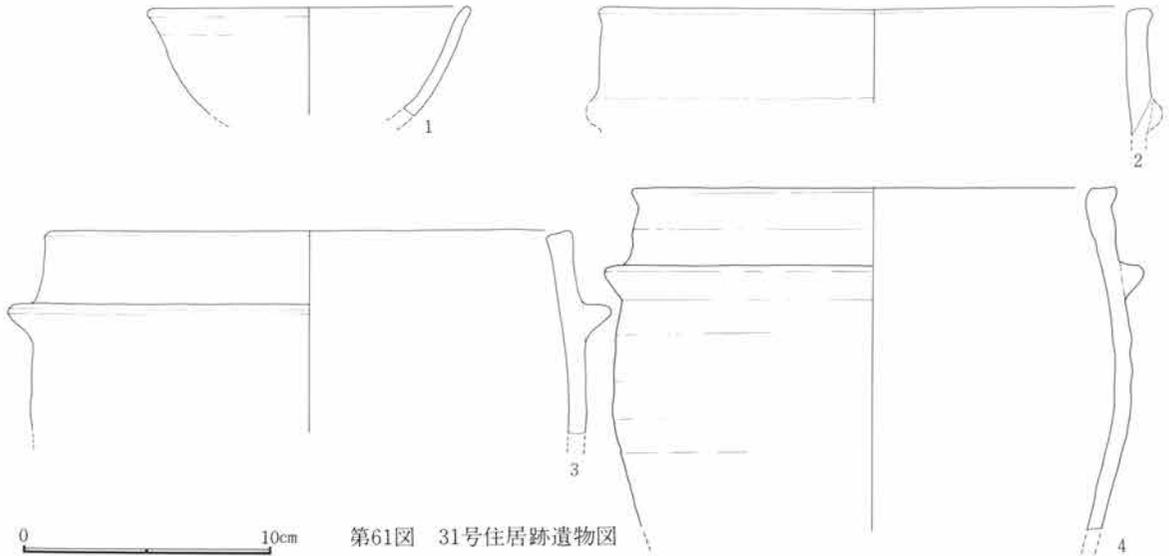
5. 検出された遺構と遺物

31号住居跡 (第60図、PL 5・35・60)

当住居跡は染谷川河川改修部中央西端に位置し19号住居跡の北にある。他の遺構との関係は西半分で36号溝と重複しており、南壁で26号土坑と重複している。新旧関係は溝土坑が新しい。規模、平面形態は不明である。壁高は約5cmを測り、床面はほぼ平坦をなす。竈は東壁に検出された。燃烧部幅約50cm、同長約60cmである。



第60図 31号住居跡遺構図・竈図



第61図 31号住居跡遺物図

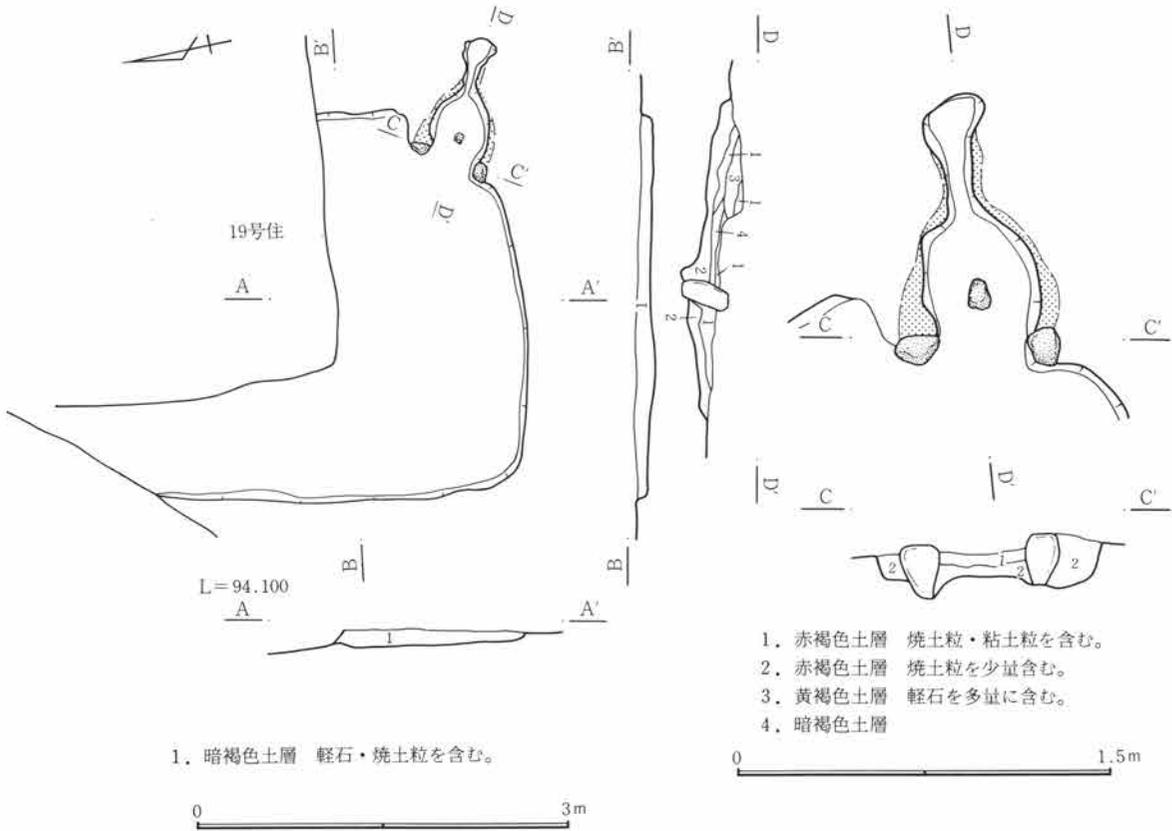
第24表 31号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	(口)13.0	覆土	外面 轆轤成形痕あり。	①やや還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	羽釜	(口)22.1	覆土	鈿 下半部欠落	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	羽釜	(口)21.2	覆土	鈿 上を向く。	①還元 ②灰褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽釜	口-19.2	覆土	鈿 短く上を向く。体部 外面 轆轤成形痕明瞭に残る。	①酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④1/2残存

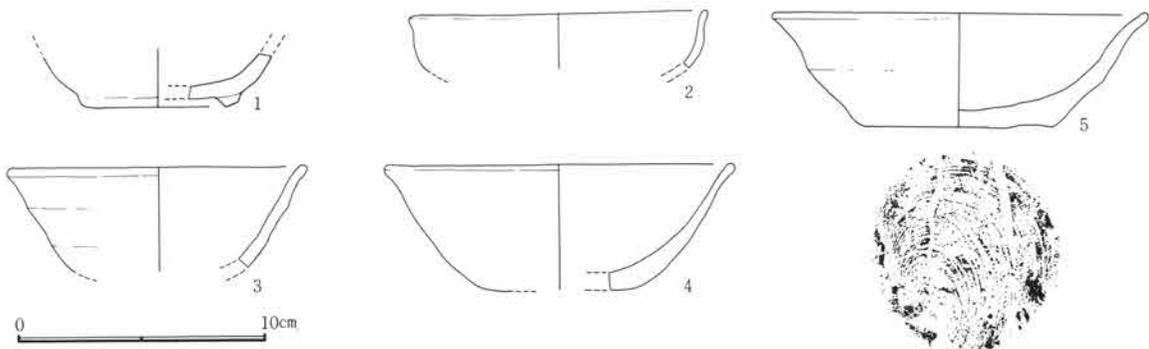
(1) 竪穴住居跡

32号住居跡 (第62図、PL 6・35・60・69)

当住居跡は染谷川河川改修部南西部に位置し31号住居跡の南にある。他の遺構との関係は19号住居跡と重複している。新旧関係は19号住居跡が新しい。さらに北西部を36号溝と重複しており、溝より古い。規模は東西長約3m、南北長約3.6mを測る。平面形態は長方形を呈するものと思われる。主軸方位は竈長軸でN-97°-Eである。壁高は5cm~10cmを測り、床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は確認できなかった。竈は南東コーナーに検出された。遺存状況は良好で、両袖部は住居跡の床面内に突き出している。規模は燃烧部幅約50cm、同長約60cm、煙道部長約45cmを測る。燃烧部煙道部との境はレベル的には差がなく平坦に延びる。平面形の上では燃烧部奥壁で約10cmの幅になり約25cmの長さを測る。更に煙出し部では約20cmの幅をもつ。両袖部からは砂岩が検出された。また燃烧部中央部より支脚石が検出された。

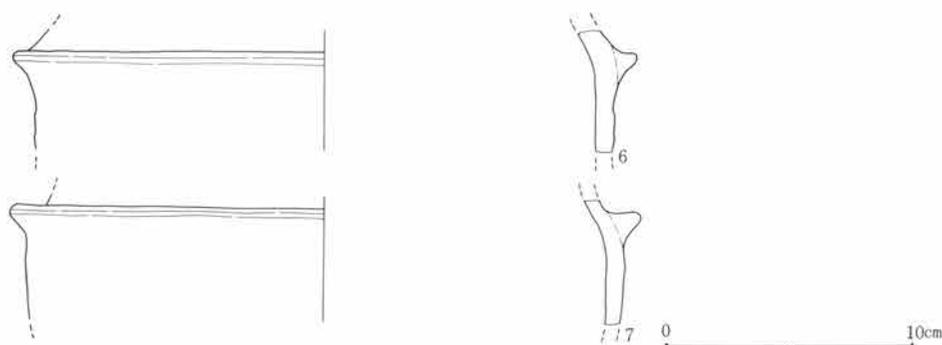


第62図 32号住居跡遺構図・竈図



第63図 32号住居跡遺物図(1)

5. 検出された遺構と遺物



第64図 32号住居跡遺物図(2)

第25表 32号住居跡遺物観察表

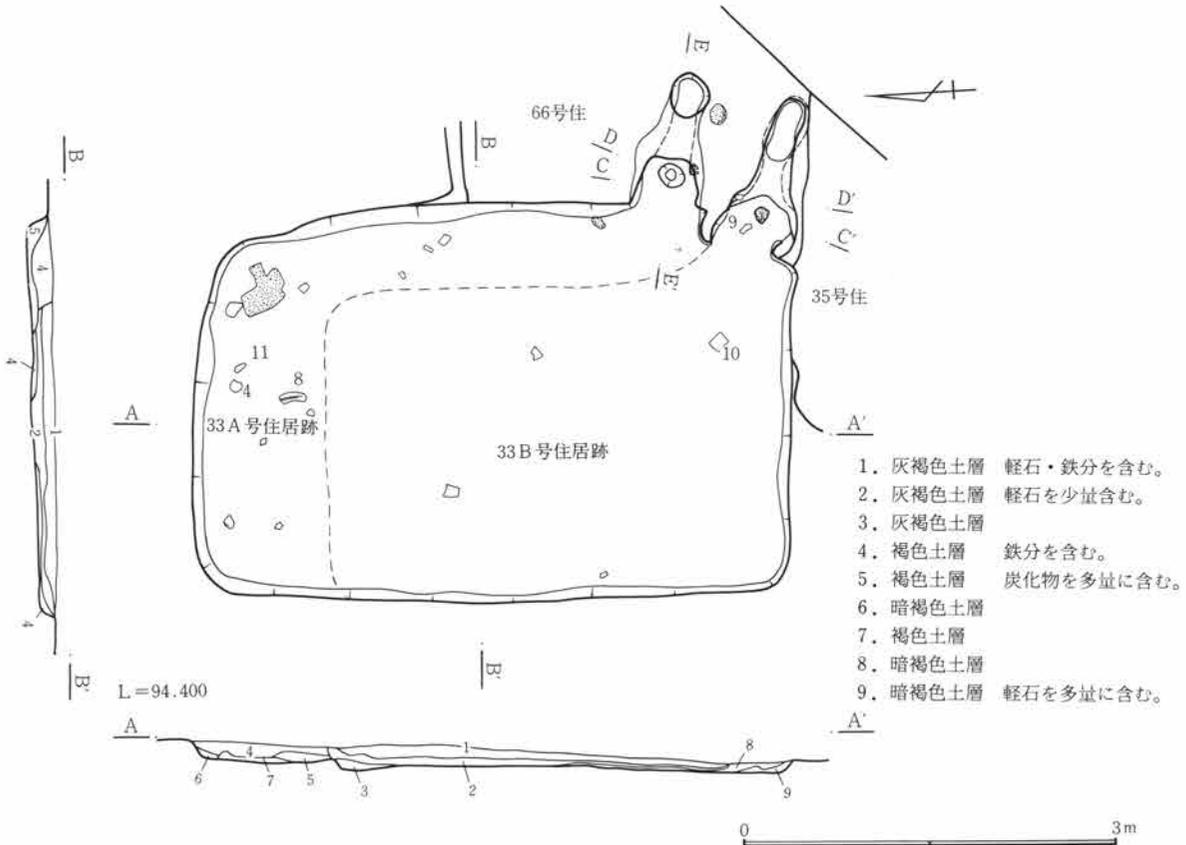
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴須恵	(底)6.1	覆土	底部 糸切痕あり。	①酸化 ②褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④底部破片
No-2	坏土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	坏須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 やや外反する。体部 外面 轆轤成形痕あり。	①酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mm砂粒含む ④口縁部破片
No-4	坏	口-14.0 高-5.0 底-6.0	覆土	口縁部 外反する。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④1/2残存
No-5	坏須恵	口-15.0 高-4.6 底-7.7	覆土	口縁部 外反する。底部 回転糸切り。体部 外面 轆轤成形痕あり。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④1/2残存
No-6	羽釜		覆土		①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④破片
No-7	羽釜		覆土	銕 上を向き、貼付は丁寧なナデ。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③密 ④口縁部破片

33A・B号住居跡 (第65図、PL 6・35・60・69)

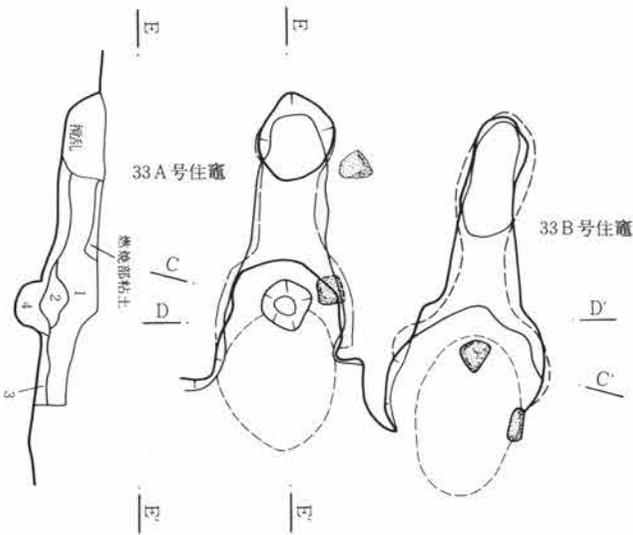
33A住居跡は染谷川河川改修区中央東端に位置し21号住居跡の東にある。当初1軒と考えられたが床面やセクションの状況などから2軒と判断しそれぞれにA・Bと分けた。これは平面プラン上でA・Bとの間で約5cmBが低くなること、床面境に壁の立ち上がりを確認したことによる。他の遺構との関係は34・35・66号住居跡と重複している。新旧関係は古い順に34号住→66号住→35号住→33A号住→33B号住居跡である。規模は長辺4.7m、短辺3.1mを測る。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-93°-Eである。壁高は約10cm~15cmである。床面はほぼ平坦をなし壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は確認されていない。竈は東壁南寄りに検出された。燃烧部幅約60cm、同長約60cm、煙道部幅約50cmを測る。竈の遺存状況は良好で燃烧部奥壁、煙道部の天井部が遺存している。燃烧部中央より支脚痕と思われる小穴が検出されている。

33B号住居跡の状況は33A号住居跡に述べたとおりである。33A号住居跡より新しく南壁は2軒共有するものと思われる。規模は長辺3.6m、短辺2.8mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-87°-Wである。壁高は約10cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。遺存状況は良好で煙道部天井が残っている。袖幅約50cm、燃烧部長約50cm、煙道部長約70cmを測る。右袖部、燃烧部中央より石が検出された。

(I) 竪穴住居跡



1. 灰褐色土層 軽石・鉄分を含む。
2. 灰褐色土層 軽石を少量含む。
3. 灰褐色土層
4. 褐色土層 鉄分を含む。
5. 褐色土層 炭化物を多量に含む。
6. 暗褐色土層
7. 褐色土層
8. 暗褐色土層
9. 暗褐色土層 軽石を多量に含む。

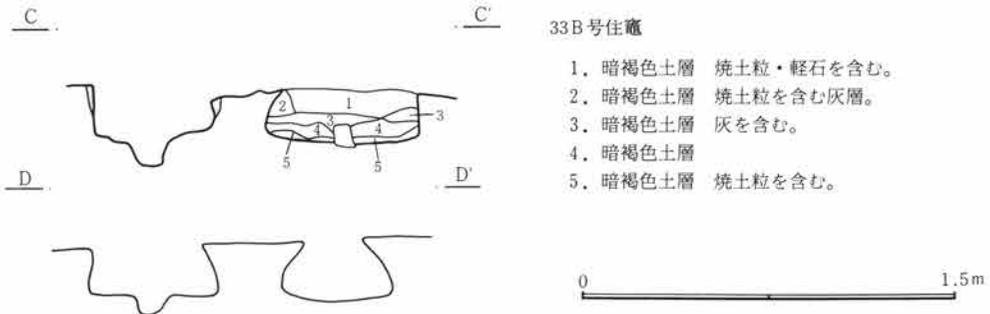


33A号住竈

1. 暗褐色土層 軽石を含む。
2. 黒褐色土層 炭化物・灰・焼土を含む。
3. 焼土ブロック
4. 暗褐色土層 焼土を少量含む。

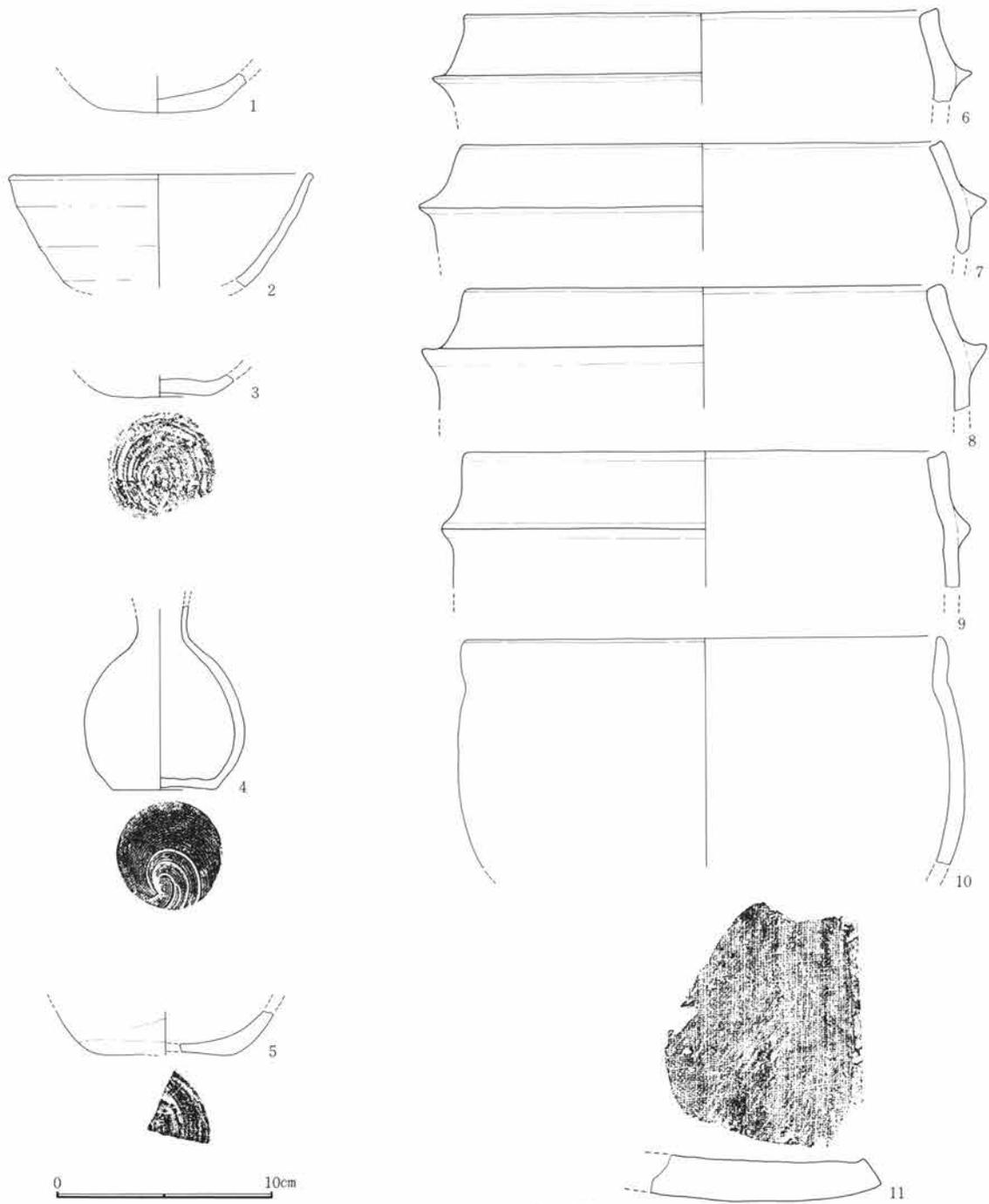
33B号住竈

1. 暗褐色土層 焼土粒・軽石を含む。
2. 暗褐色土層 焼土粒を含む灰層。
3. 暗褐色土層 灰を含む。
4. 暗褐色土層
5. 暗褐色土層 焼土粒を含む。



第65図 33A・B号住居跡遺構図・竈図

5. 検出された遺構と遺物



第66図 33号住居跡遺物図

第26表 33号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 土師	(底)4.5	覆土	底部 手持ちヘラ調整。	①酸化 ②淡黄色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-2	坏 須恵	(口)13.8	覆土	内・外面釉。	①還元 ②灰白色 ③密 ④口縁部破片

## (1) 竪穴住居跡

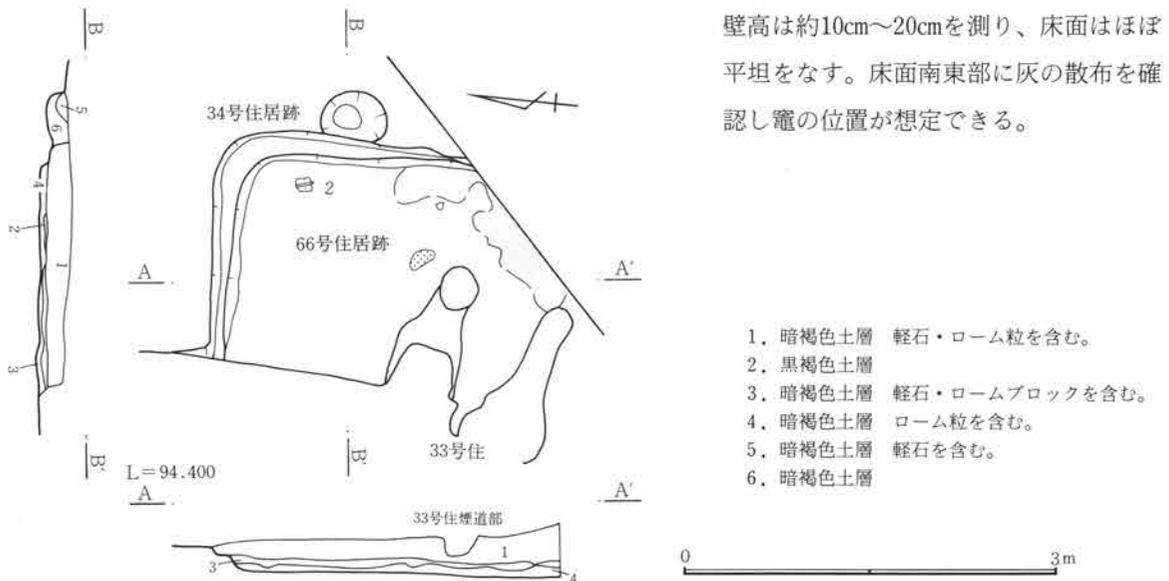
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-3	坏土師	底-4.8	覆土	底部 回転糸切り。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④底部のみ残存
No-4	壺須恵	底-4.8	覆土	頸部から胴下部に刷毛塗りの釉。底部 回転糸切り。右廻り。内面、上部に釉のこぼれ痕	①やや酸化 ②灰色 ③密 ④頸部上欠落
No-5	坏土師	(底)6.2	覆土	底部 回転調整痕あり。	①酸化 ②淡橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-6	羽釜	(口)22.0	覆土	鏝 短く断面三角形。貼付は丁寧なナデ。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-7	羽釜	(口)22.0	覆土	鏝 短く下を向く。貼付は雑なナデ。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-8	羽釜	(口)22.0	覆土	鏝 短く上を向く。貼付は丁寧なナデ。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部残存
No-9	羽釜	(口)22.0	覆土	鏝 短く丸味をもつ。貼付は雑なナデ。	①やや還元 ②赤橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-10	壺土師	(口)22.0	覆土	内・外面共に雑なヘラ調整。	①酸化 ②赤褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-11	平瓦	瓦観察表、1類A-住11参照			

## 34号住居跡 (第67図、PL 6)

当住居跡は染谷川河川改修区中央東端に位置し、33号住居跡の東にある。遺存状況は東北壁の一部が残ったのみである。他の遺構との関係は33号住居跡・66号住居跡と重複している。新旧関係は66号住居跡が新しく更に33号住居跡が新しい。規模、主軸方位は不明である。壁高は約10cmを測り床面は平坦をなす。

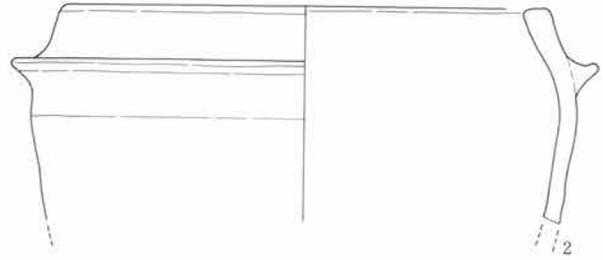
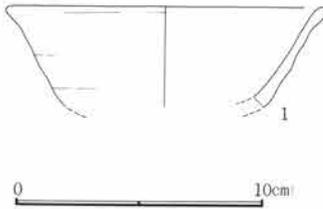
## 66号住居跡 (第67図、PL 6)

当住居跡は染谷川河川改修区中央東端に位置し33号住居跡の東にある。東南部は調査区域外に在るため未調査である。他の遺構との関係は33号住居跡・34号住居跡と重複している。規模、主軸方位は不明である。



第67図 34号・66号住居跡遺構図

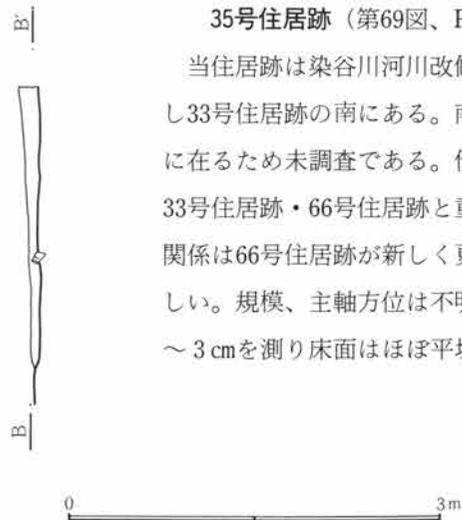
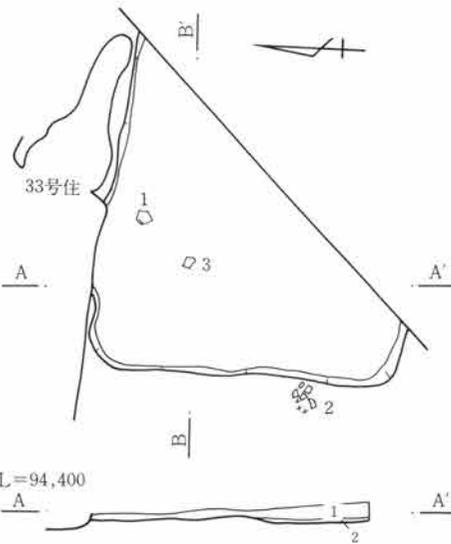
5. 検出された遺構と遺物



第68図 66号住居跡遺物図

第27表 66号住居跡遺物観察表

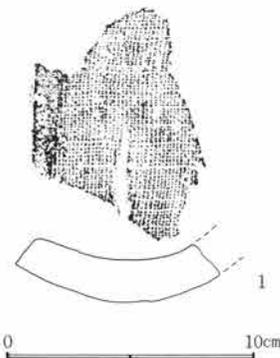
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	(口)13.0	覆土	口縁部 外反する。外面 轆轤成形痕あり。	①酸化 ②にぶい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④破片
No-2	羽釜	(口)19.5	覆土	鏝上を向く、貼付は丁寧なナデ。外面 轆轤成形痕残る。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片



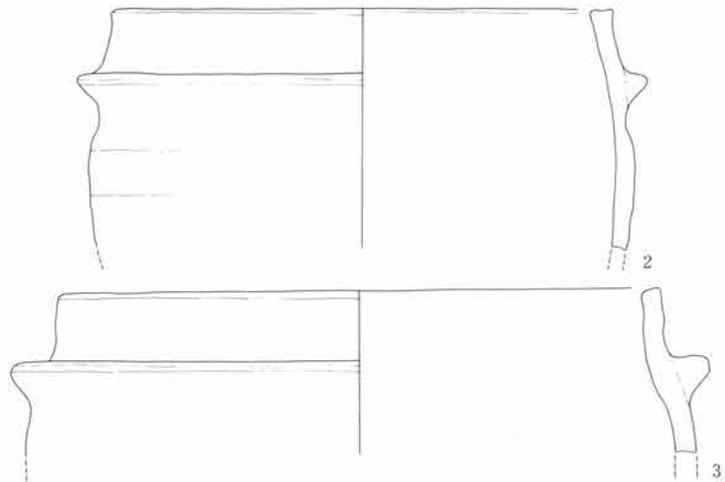
35号住居跡 (第69図、PL 6・60・69)

当住居跡は染谷川河川改修部中央東端に位置し33号住居跡の南にある。南東部は調査区域外に在るため未調査である。他の遺構との関係は33号住居跡・66号住居跡と重複している。新旧関係は66号住居跡が新しく更に33号住居跡が新しい。規模、主軸方位は不明である。壁高は2~3cmを測り床面はほぼ平坦をなす。

1. 暗褐色土層 軽石を含む。
2. 黄褐色土層 ロームブロックを含む。



第69図 35号住居跡遺構図



第70図 35号住居跡遺物図

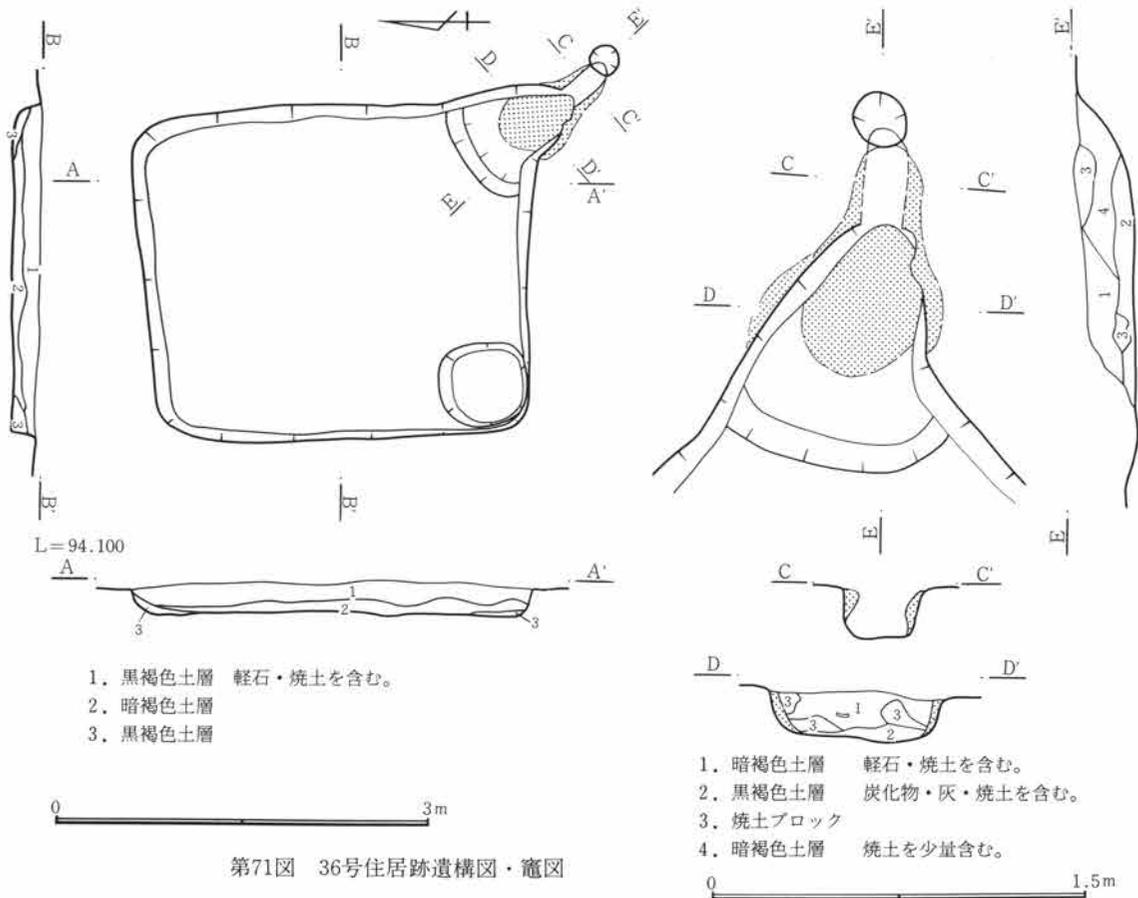
## (1) 竪穴住居跡

第28表 35号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	丸瓦	瓦観察表、2類B-No-1参照			
No-2	羽釜	(口)20.1	覆土	鏝 狭く上を向く。貼付は丁寧なナデ。外面轆轤成形痕残る。	①やや還元 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	羽釜	(口)23.5	覆土	鏝 丸味を持ち上を向く。貼付はやや雑	①やや還元 ②明赤褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

## 36号住居跡 (第71図、PL 6)

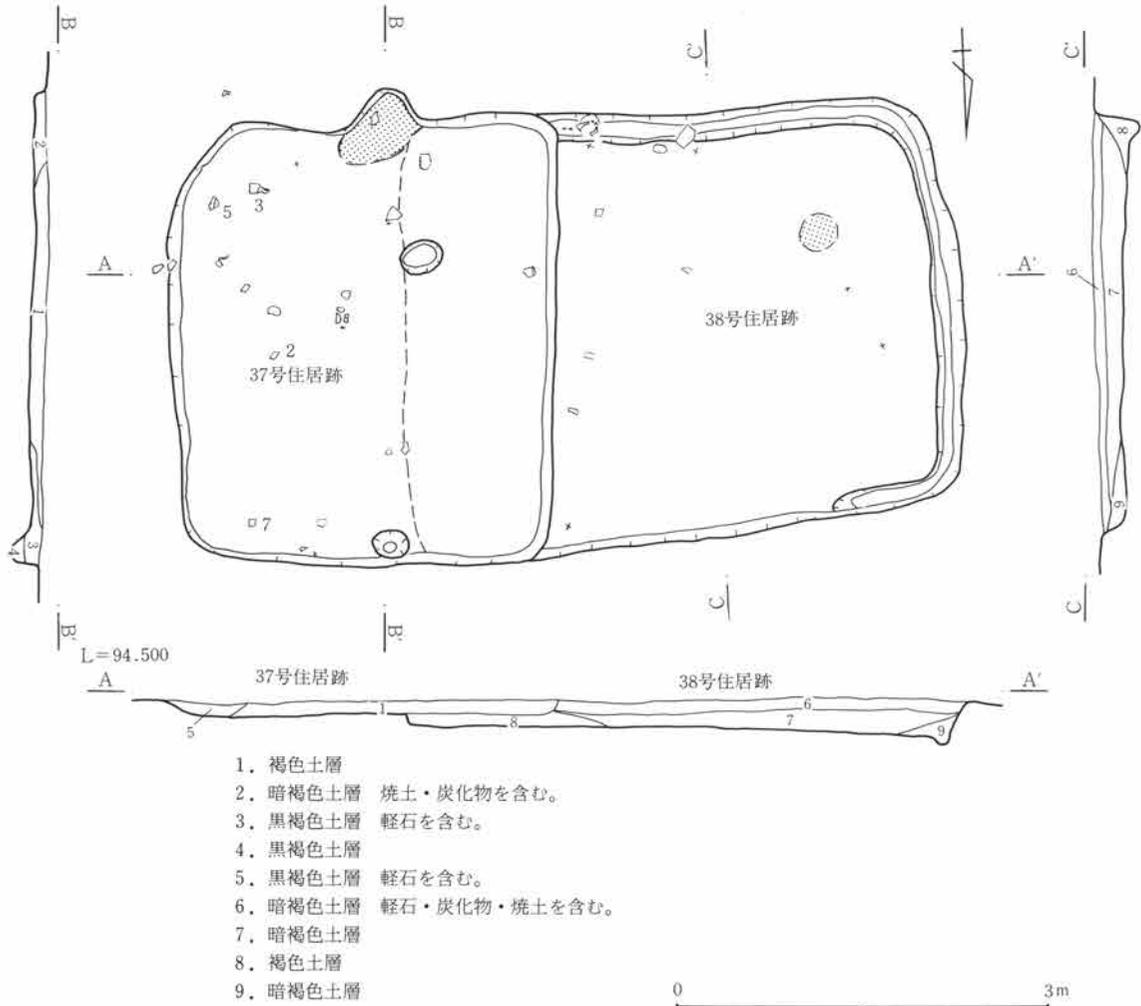
当住居跡は染谷川河川改修区北部に位置し41号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.2m、短辺2.7mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約20cmを測り垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦をなし堅く踏み締めてあり竈前面と中央部が特に堅い。南西コーナーに落ち込みを確認した。規模は約65cm×55cm、深さ約20cmである。最低面より焼土が検出され灰捨て穴と思われる。竈は南東コーナーに検出された。遺存状況は良好で煙道天井部が約30cm残っている。規模は燃烧部幅約70cm、同長約70cm、煙道部長約50cmを測る。煙道部の断面はカマボコ状を呈する。両袖部から煙道部天井にかけて粘土を張っている。燃烧部中央に径約8cmの支脚痕と思われる小穴が検出された。



5. 検出された遺構と遺物

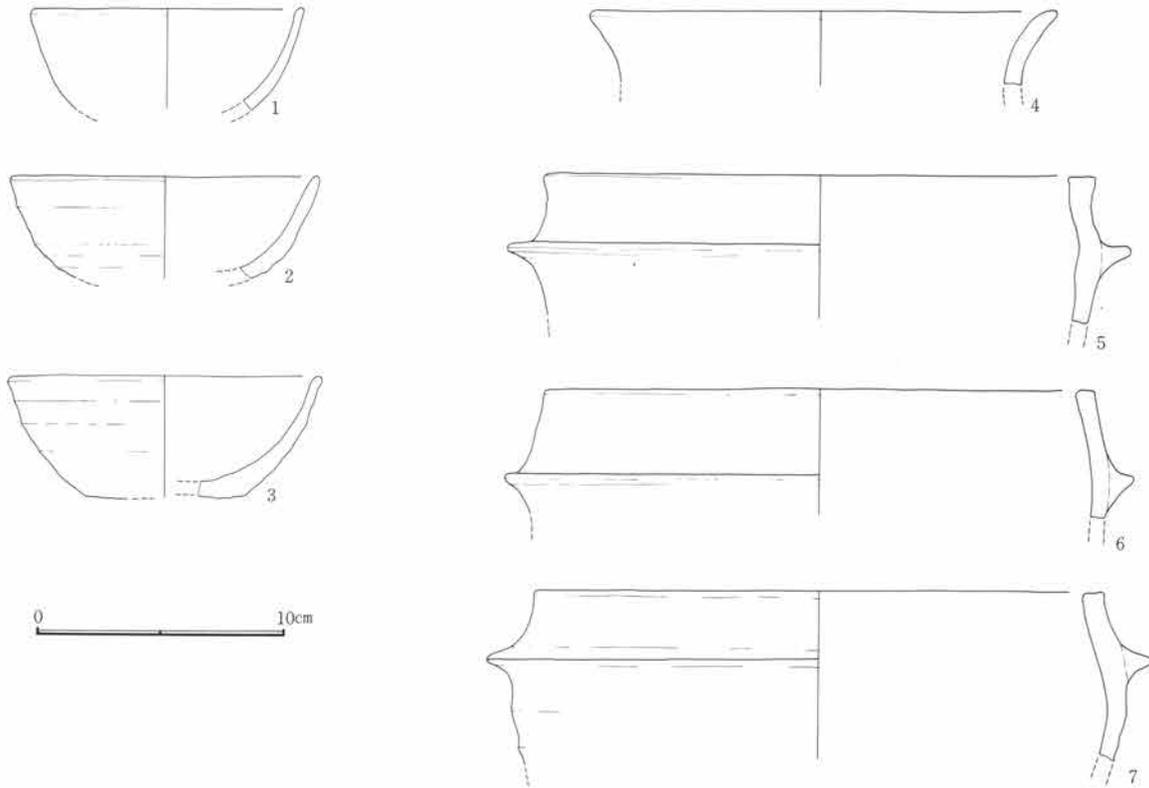
37・38号住居跡（第72図、PL 6・60）

当住居跡は染谷川河川改修区北端中央に位置し41号住居跡の西にある。他の遺構との関係は38号住居跡と重複している。新旧関係は当住居跡が新しい。また38号住居跡からはS字状口縁台付甕など古式土師器や弥生土器が多数検出されている。規模は長辺3.6m、短辺3.2mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-180°-Eである。壁の遺存は悪く壁高は5～6cmを測る。床面は竈周辺は堅く平坦をなすが壁周辺になると多いところで約8cmの比高をもち凹凸の状態である。壁周溝・貯蔵穴・柱穴はない。小穴は2ヶ所検出され、竈前面と北壁中央である。規模は約35cm×30cm、深さ約20cmを測る。また北壁中央の小穴は約25cm×20cm、深さ約15cmを測り位置的に考えて出入口が想定できる。竈は南壁中央に検出された。燃烧部幅約45cm、同長約40cmを測る。竈内面には粘土が張ってある。



第72図 37・38号住居跡遺構図

## (1) 竪穴住居跡



第73図 37号住居跡遺物図

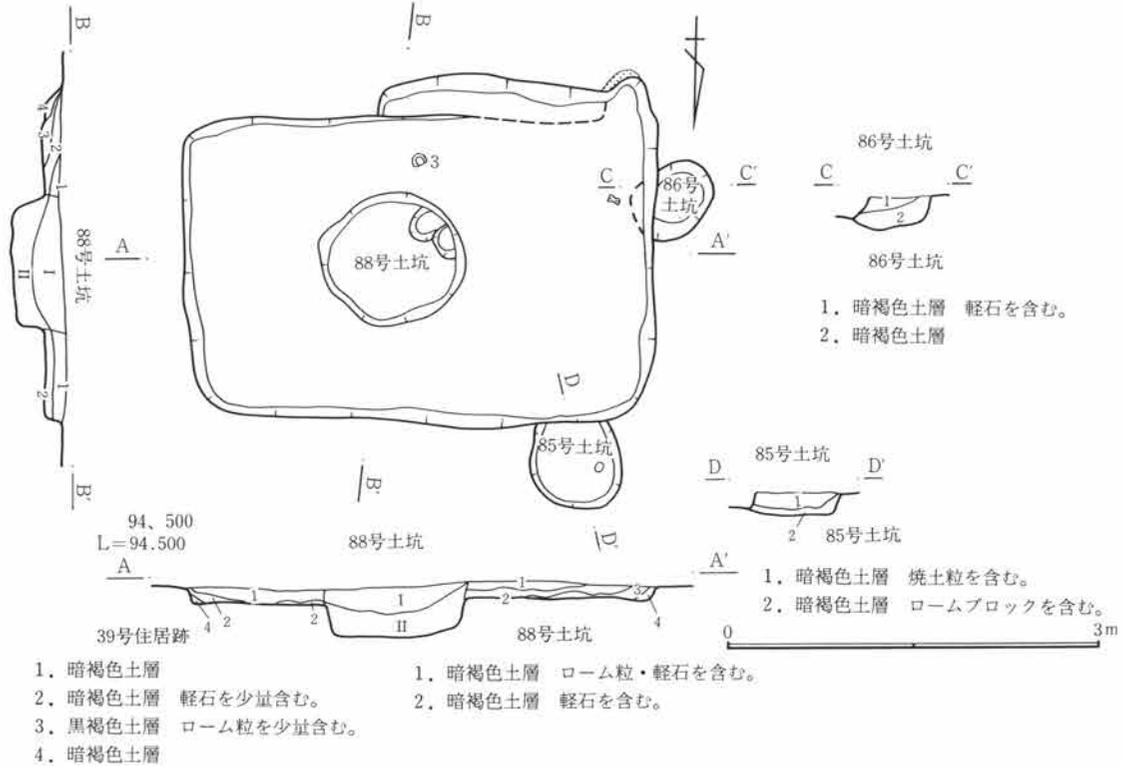
第29表 37号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	(口)10.7	覆土		①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏須恵	(口)12.7	覆土	外面 雑な整形。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	坏須恵	(口)12.5 (高)5.0 (底)6.0	覆土	底部 高台欠落痕あり。	①酸化 ②にぶい橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	壺土師	(口)18.8	覆土	口縁部 外面 ヨコナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-5	羽釜	(口)22.0	覆土	鈔 上を向く。丁寧な貼付。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-6	羽釜	(口)22.0	覆土	鈔 上を向く。丁寧なナデ。	①やや還元 ②淡黄色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-7	羽釜	(口)22.7	覆土		①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

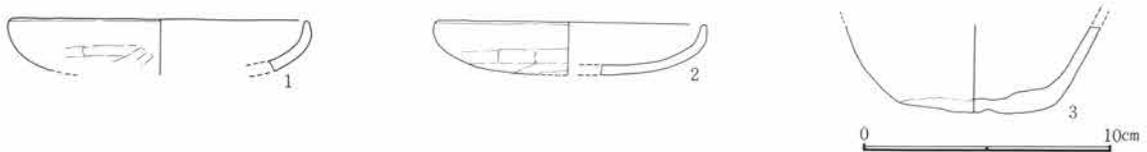
5. 検出された遺構と遺物

39号住居跡 (第74図、PL 7・60)

当住居跡は染谷川河川改修区とC区との境にあり、41号住居跡の北にある。他の遺構との関係は82・85・88号土坑と重複している。82・85号土坑は住居跡より旧く88号土坑は住居跡より新しい。規模は長辺3.9m、短辺2.5mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-68°-Eである。壁高は約15cmを測り南壁を除き遺存は良好である。床面はほぼ平坦をなし検出の状態は良好である。竈は南壁コーナーに検出された。明確な形で検出は出来なかったが焼土の堆積から判断された。燃焼部は明確には確認できなかったが煙道部の一部が確認されたのみである。



第74図 39号住居跡遺構図



第75図 39号住居跡遺物図

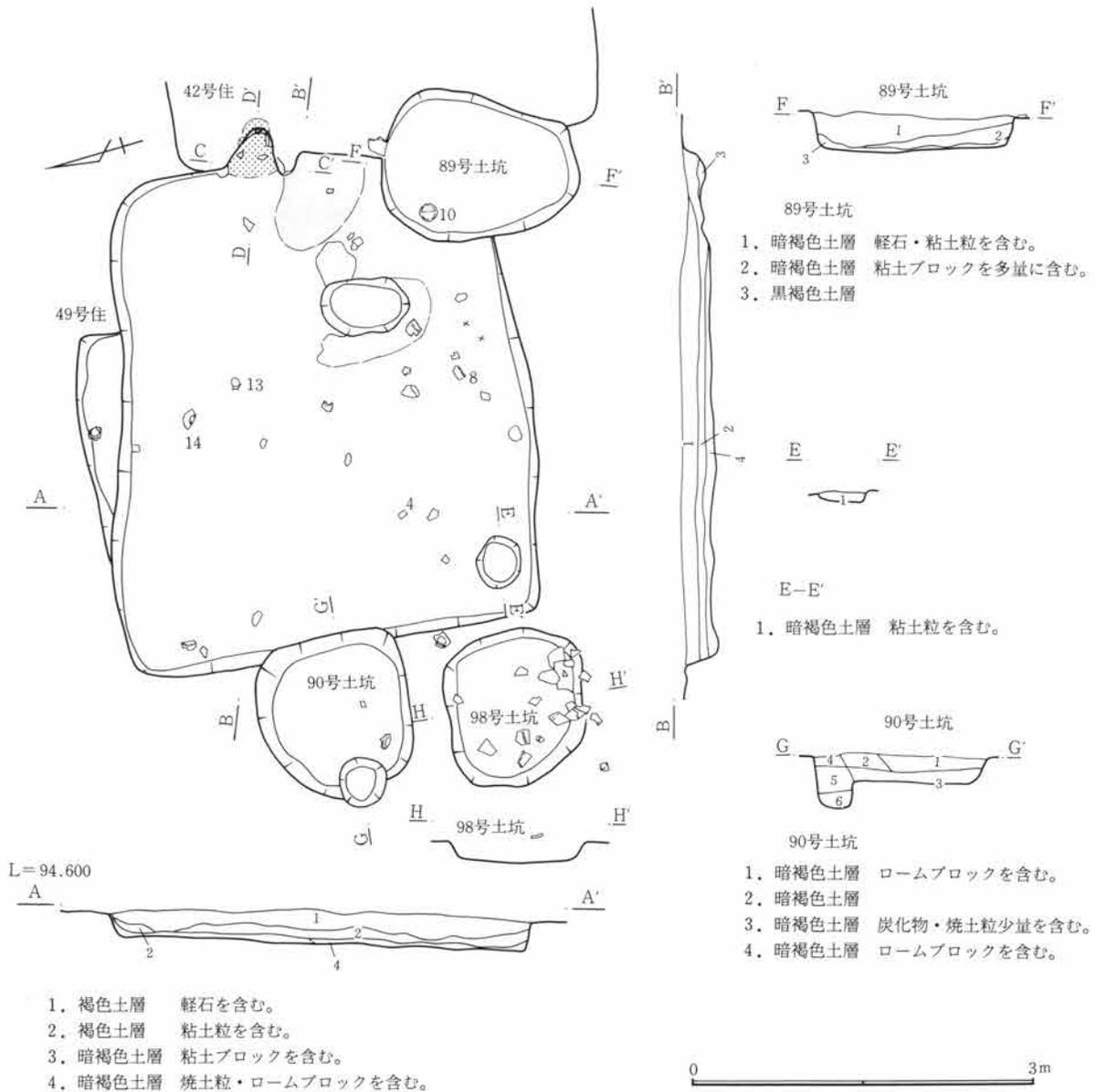
第30表 39号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
Na-1	坏土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共ココナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
Na-2	坏土師	(口)10.9	覆土	口縁部 内・外面共ココナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
Na-3	坏須恵	(底)6.0	覆土	底部 手持ちヘラ調整。	①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部のみ残存

(1) 竪穴住居跡

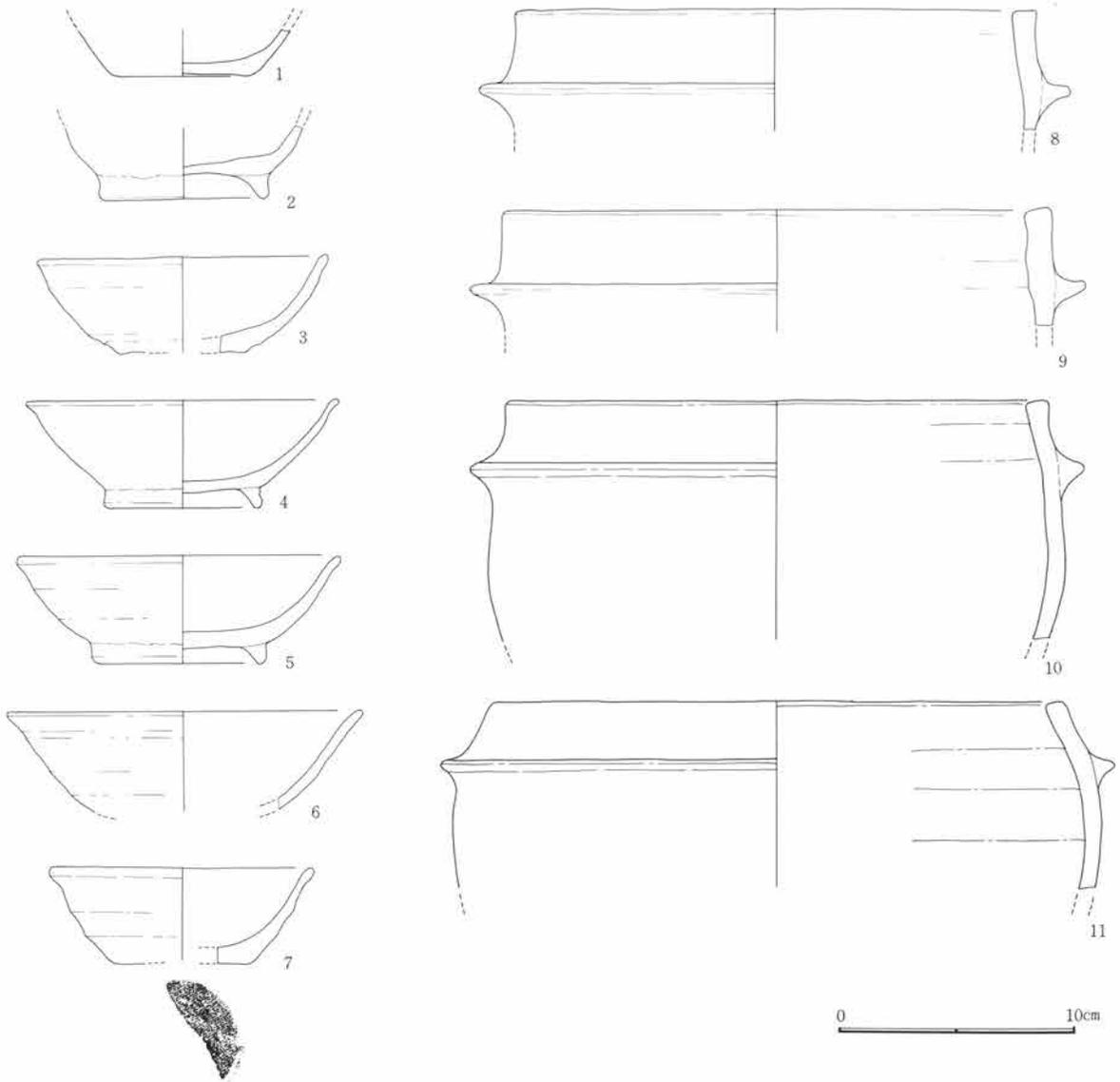
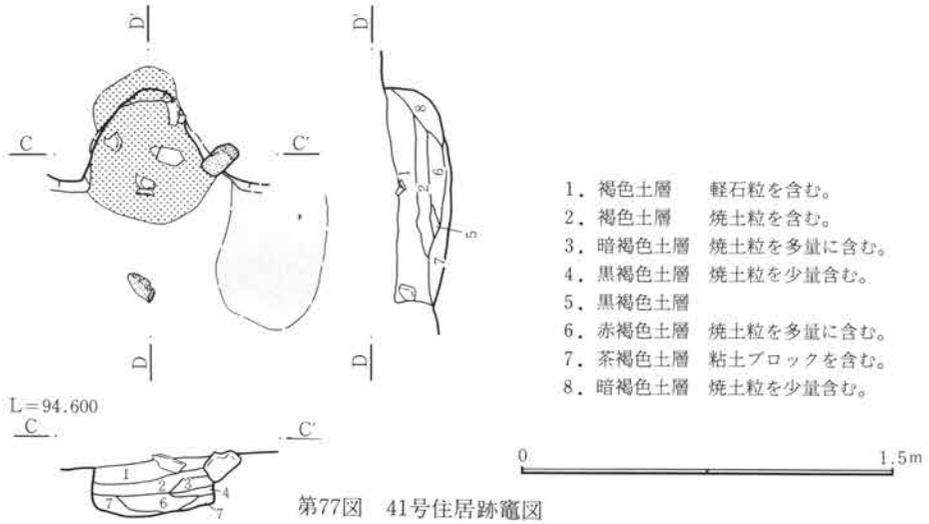
41号住居跡 (第76・77図、PL 7・35・60)

当住居跡はC区と染谷川河川改修区の境に位置し37号住居跡の東にある。他の遺構との関係は42・49号住居跡、89・90号土坑と重複している。住居跡との関係は42・49号住居跡より新しい。また土坑は住居跡より新しい。規模は長辺4.4m、短辺3.7mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-12°-Eである。壁高は約10cmを測り垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦をなし壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。竈前面には約80cm×50cm、深さ約数cmの落ち込みを確認した。この落ち込みは41号住居跡に伴うものではなく42号住居跡の施設と考えられる。竈の規模は燃烧部幅約50cm、同長約30cmを測る。竈右袖に当たるところから石を検出した。

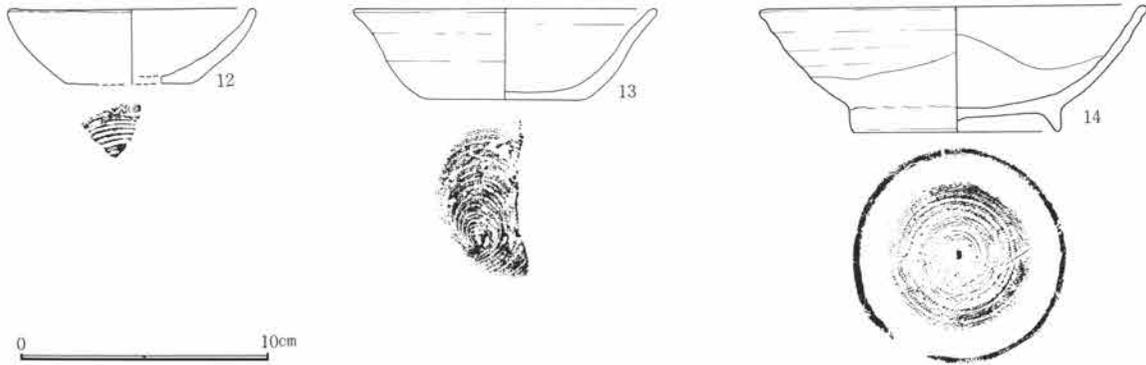


第76図 41号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



## (1) 竪穴住居跡



第79図 41号住居跡遺物図(2)

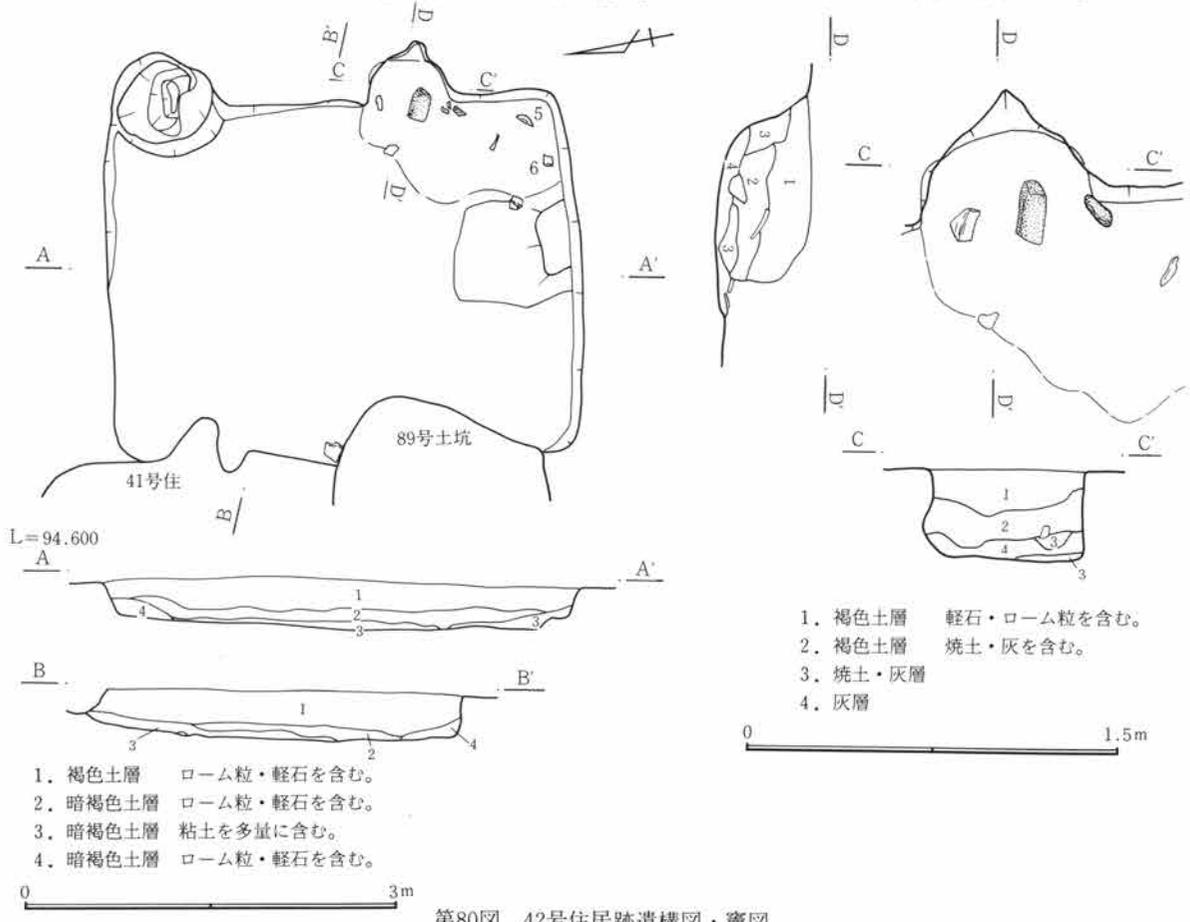
第31表 41号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(底)6.0	覆土		①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-2	埴土師	(底)7.0	覆土	付高台。底部 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-3	埴須恵	(口)12.3 (高)4.0 (底)5.3	竈内	付高台欠落痕あり。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
No-4	埴須恵	(口)13.1 (高)4.5 (底)6.7	覆土	付高台。底部 回転ヘラ調整。内面 釉。口縁部 外反する。	①還元 ②灰色 ③密 ④残存
No-5	埴須恵	(口)13.5 (高)4.5 (底)7.4	覆土	口縁部 内・外面に釉。付高台。	①還元 ②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
No-6	坏須恵	(口)15.0	覆土	口縁部 外反する。外面 一部釉。	①還元 ②灰白色 ③密 ④口縁部破片
No-7	坏須恵	(口)11.2 (高)4.0 (底)5.8	覆土	口縁部 外反する。底部 回転糸切痕あり。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-8	羽釜	(口)22.0	覆土	鏝 上を向く。内・外面 丁寧なナデ。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-9	羽釜	(口)23.0	覆土	鏝 上を向く。内・外面 丁寧なナデ。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-10	羽釜	(口)23.0	覆土	鏝 上を向き、断面は三角形。口縁部 やや内傾する。	①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-11	羽釜	(口)24.0	覆土	鏝 断面は三角形。内・外面 丁寧なナデ。口縁部 やや内傾する。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-12	坏須恵	(口)10.0 (高)3.0 (底)5.0	覆土	底部 回転糸切痕あり。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④破片
No-13	坏須恵	(口)12.3 高-3.6 (底)3.6	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。	①やや酸化 ②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
No-14	埴灰釉	口-15.4 高-4.9 底-4.9	覆土	口縁部 内・外面に釉。底部 回転ヘラ切り。付高台。	①やや酸化 ②灰色 ③細砂粒含む ④完形

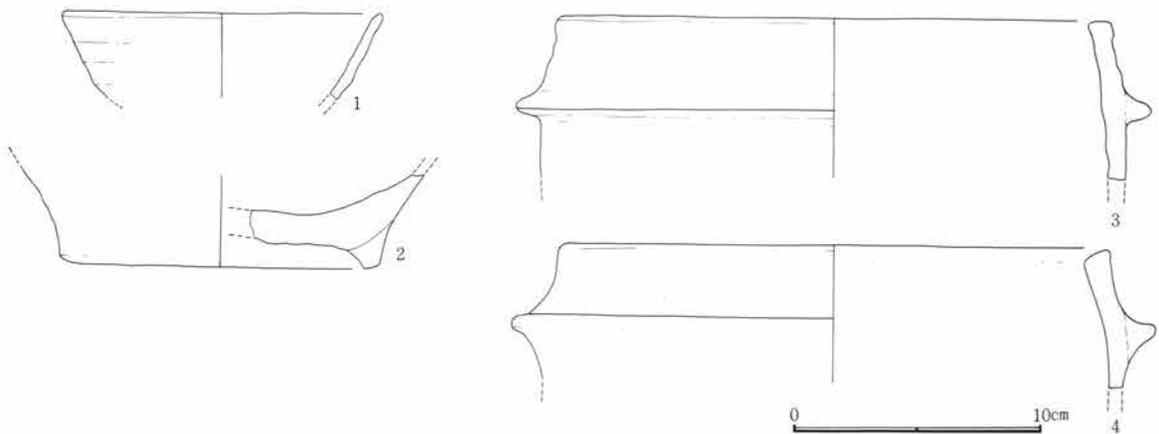
5. 検出された遺構と遺物

42号住居跡 (第80図、PL 7・35・61)

当住居跡はC区と染谷川河川改修区の境に位置し37号住居跡の東にある。他の遺構との関係は41号・43号住居跡・89号土坑と重複している。新旧関係は住居跡、土坑より古い。また北東コーナーの落ち込みは覆土が当住居跡の覆土とほぼ同じであり当住居跡に伴うと考えられる。規模は長辺3.9m、短辺2.9mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-9°-Eである。壁高は約30cmを測り、垂直に立ち上がる。床面は平坦をなす。また南壁際に壁に沿って約50cm壁から約20cmの広さを持ち約15cm~20cmの高さのテラス状の部分を持つ。北東壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は確認されていない。竈は東壁やや南に検出された。燃烧部幅約70cm、同長約35cm、煙道部約15cmの痕跡を遺す。燃烧部中央竈前面より砂岩を検出した。



第80図 42号住居跡遺構図・竈図



第81図 42号住居跡遺物図(1)

## (1) 竪穴住居跡



第82図 42号住居跡遺物図(2)

第32表 42号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	(口)13.0	貯蔵穴内		①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	埴土師	(底)12.5	竈付近	付高台。	①酸化 ②にぶい橙色 ③3~4mmの砂粒含む ④底部破片
No-3	羽釜	(口)22.0	覆土	口縁部 やや内傾し、丁寧なナデ。	①やや酸化 ②淡黄色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽釜	(口)22.0	覆土	鈔上を向く。整形は丁寧なナデ。	①やや酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-5	埴灰釉	口-13 高-4.2 底-7.2	覆土	口縁部 内面 透明釉。外面 横ナデ。付高台。底部 回転ヘラ調整。内面 底部に重ね焼痕。	①還元 ②灰色 ③密 ④残存
No-6	羽釜	(口)22.0	覆土	口縁部 やや内傾する。鈔下を向く。	①やや酸化 ②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片

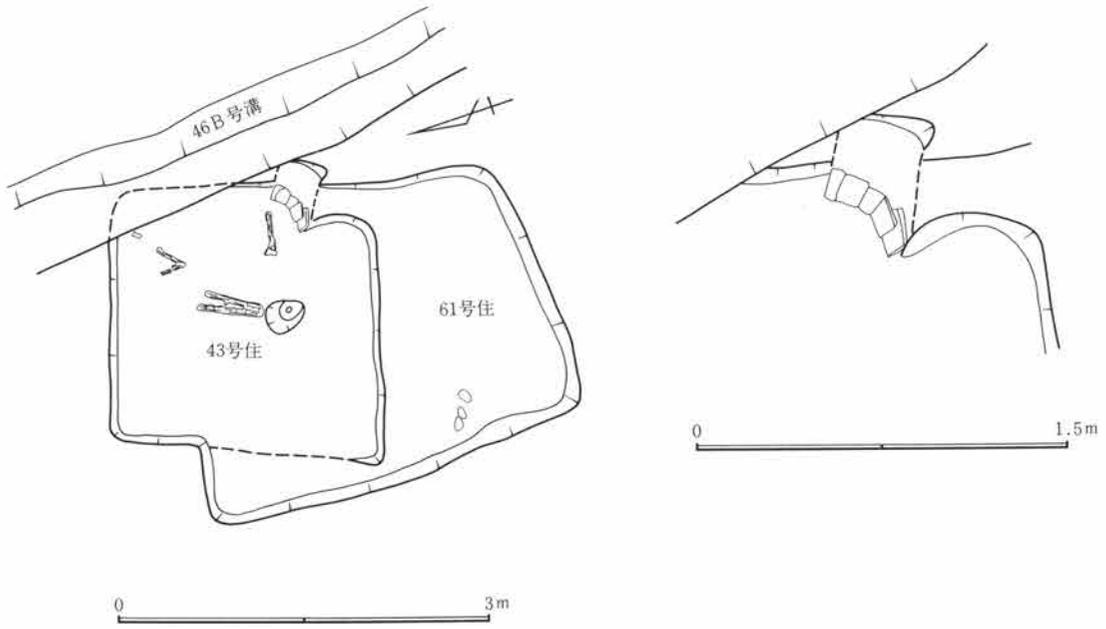
## 61号住居跡 (第83図、PL 7・70・86)

当住居跡はC区と染谷川河川改修区との境に位置し42号住居跡の東にある。他の遺構との関係は43号住居跡と重複している。新旧関係は43号住居跡が新しい。規模・平面形態・主軸方位は計測出来ないが西壁長は約3.1mを測る。壁高は約15cm~20cmを測り、垂直に立ち上がる。床面は平坦をなす。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は検出されていないが南東コーナーから約70cm北に約30cmの幅を持ち壁に焼土が検出された。

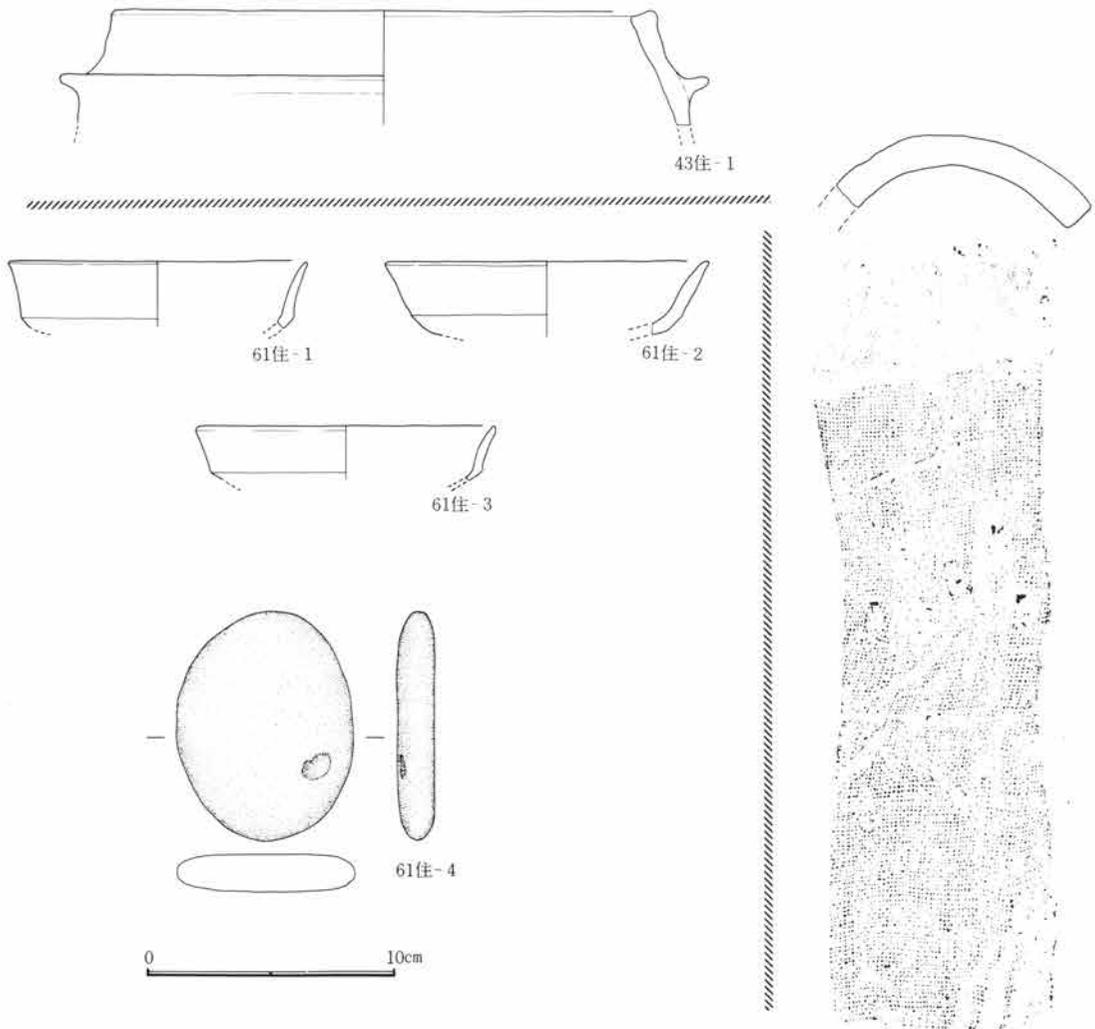
## 43号住居跡 (第83図、PL 7・61)

当住居跡の位置は61号住居跡と同様である。他の遺構との関係は61号住居跡・46B号溝と重複している。新旧関係は61号住居跡より新しくさらに46B号溝が新しい。規模は長辺2.3m、短辺2mである。平面形態は正方形に近くコーナーは直角状を呈する。主軸方位はN-153°-Eである。壁高は約10cm~20cmを測る。床面は平坦をなし、全面に加熱を受けており赤変している。床上には炭化材も多く見られ焼失家屋と考えられる。竈は東壁やや南寄りに検出された。袖幅約30cm、燃烧部長約40cmを測る。また瓦が燃烧部前面より検出され構築に当たっての袖材と考えられる。燃烧部内部は粘土などの使用は見られずローム面がよく焼けた状態であった。

5. 検出された遺構と遺物



第83図 43号・61号住居跡遺構図・竈図



第84図 43号・61号住居跡遺物図

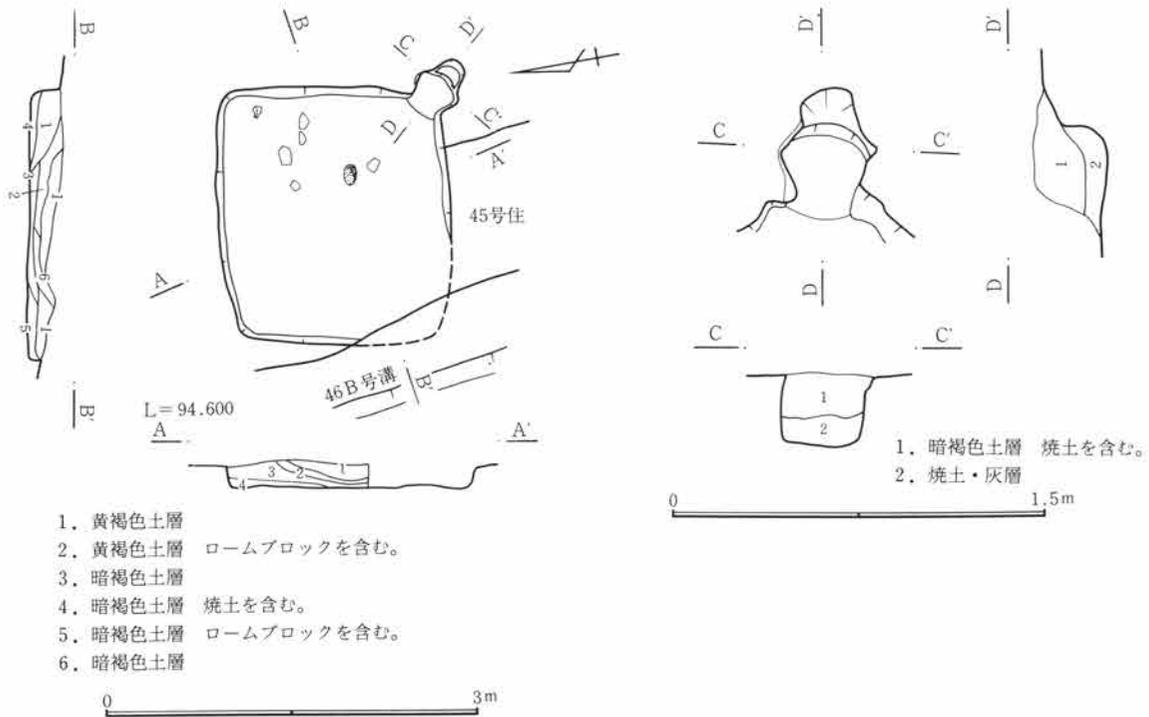
43住-2

第33表 43・61号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
43号住 No-1	羽釜	(口)22.0	覆土	口縁部 やや内傾する。罫上を向く。	①やや酸化 ②にぶい赤橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
43号住 No-2	丸瓦	瓦観察表、1類A一住4参照			
61号住 No-1	坏土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共ヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
61号住 No-2	坏土師	(口)13.0	覆土	口縁部 内・外面共ヨコナデ。稜ゆるやか。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
61号住 No-3	坏土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共ヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
61号住 No-4	石	(長) (厚) cm g 9.0×7.2×1.3 139	床直上	輝石安山岩。	粗粒

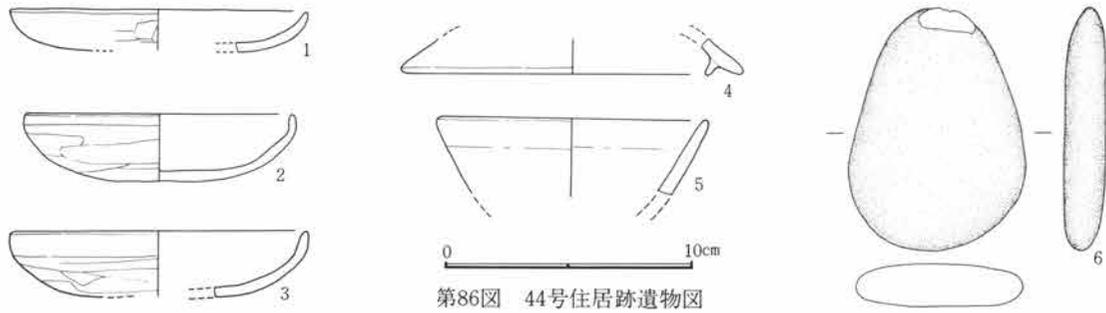
## 44号住居跡 (第85図、PL 7・35・61・86)

当住居跡はC区と染谷川河川改修区との境に位置し43号住居跡の東にある。他の遺構との関係は45号住居跡・46B号溝と重複している。新旧関係は当住居跡は45号住居跡より新しくさらにこの2軒を46B号溝が壊して造られており、南西コーナーを消失している。規模は長辺2.1m、短辺1.9mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-101°-Eである。壁高は約20cmを測り垂直に立ち上がる。床面は平坦をなすが中央部に僅かであるが2~3cmの高まりを持つ。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東南コーナーに検出された。燃烧部幅約30cm、同長約40cmを測る。燃烧部は大きく壁の外へ張り出している。



第85図 44号住居跡遺構図・竈図

5. 検出された遺構と遺物

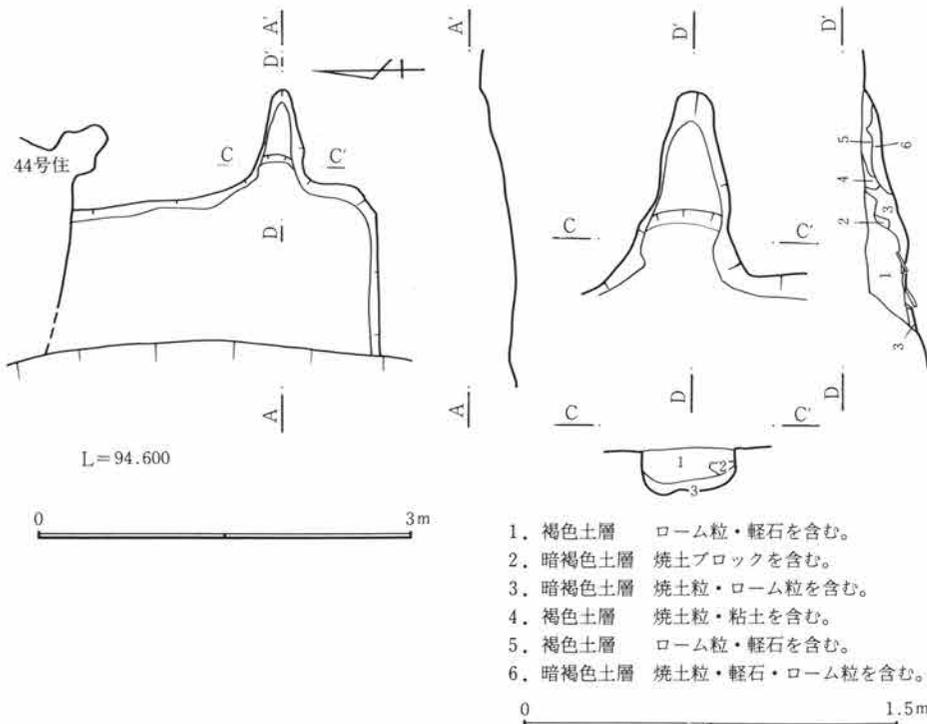


第86図 44号住居跡遺物図

第34表 44号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏土師	(口)10.8 高-3.7 (底)4.5	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④残存
No-3	坏土師	(口)12.0	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面ナデ。	①酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
No-4	蓋須恵		覆土		①還元 ②灰白色 ③密 ④破片
No-5	坏須恵	(口)11.0	覆土	内・外面共ヨコナデ。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-6	石	(長) (厚) cm g 9.8×7.0×1.5 191	覆土	輝石安山岩。	粗粒

45号住居跡 (第87図PL 7・69)

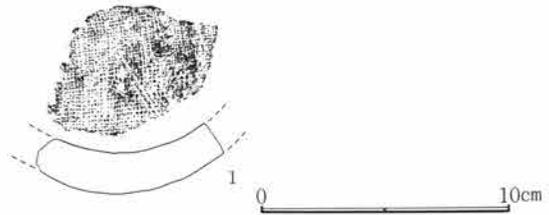


第87図 45号住居跡遺構図・竈図

当住居跡はC区と染谷川河川改修区の境に位置し61号住居跡の東にある。他の遺構との関係は44号住居跡・46B号溝と重複している。新旧関係は古い順に45号住居跡→44号住居跡→46B号溝である。規模・平面形態は不明であるが竈の主軸N-97°-Eである。壁高は約10cmを測り床面は平坦をなす。竈は東壁やや南寄り

(1) 竪穴住居跡

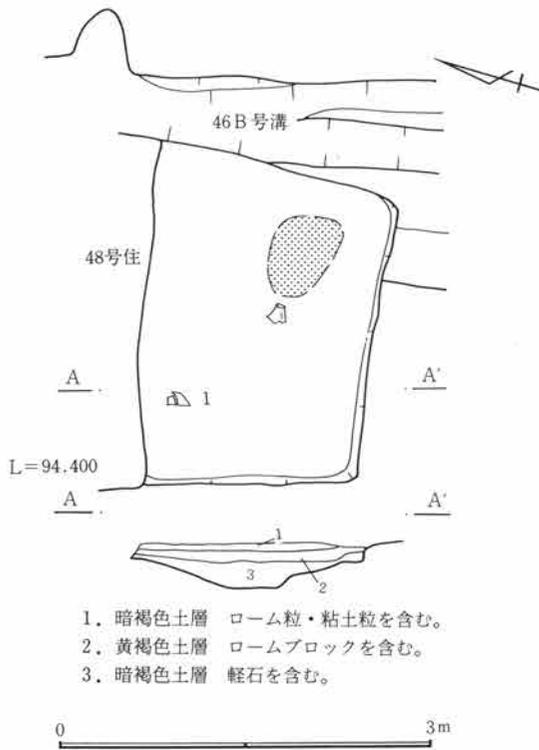
に検出された。燃焼部幅約40cm、同長約75cmを測る。



第88図 45号住居跡遺物図

第35表 45号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	丸瓦	瓦観察表、2類B-No.3参照			

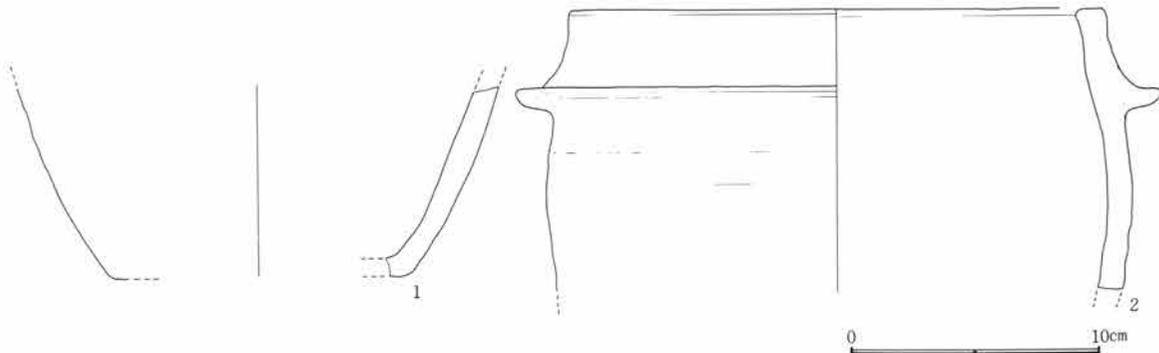


1. 暗褐色土層 ローム粒・粘土粒を含む。
2. 黄褐色土層 ロームブロックを含む。
3. 暗褐色土層 軽石を含む。

第89図 47号住居跡遺構図

47号住居跡 (第89図、PL61)

当住居跡はC区南西に位置し39号住居跡の東にある。他の遺構との関係は48号住居跡・46B号溝と重複している。規模・平面形態・主軸方位は不明である。壁高は約15cmを測り、床面は平坦である。竈は46B号溝により消失している。



第90図 47号住居跡遺物図

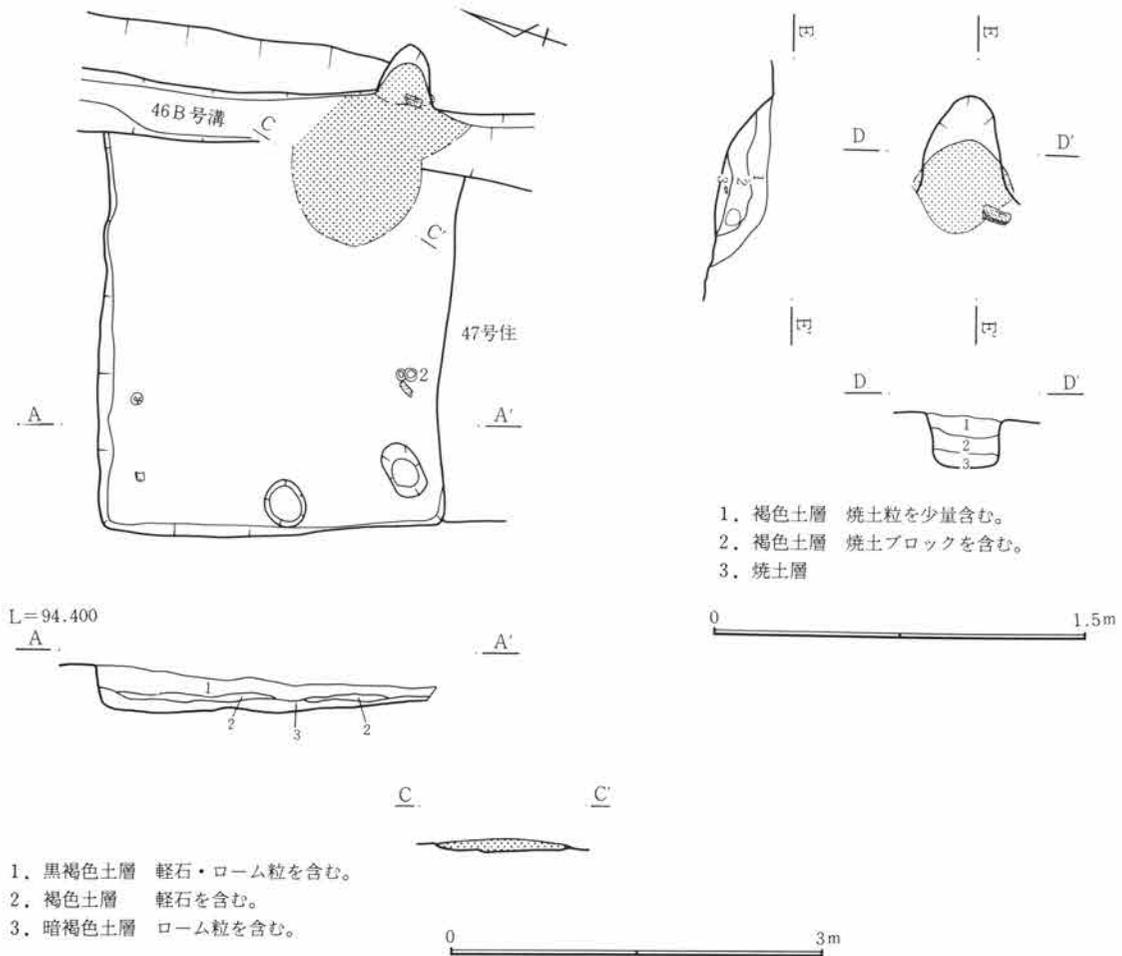
5. 検出された遺構と遺物

第36表 47号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	甕 須恵	(底)12.0	覆土	内面 ナデ。	①やや酸化 ②灰褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④底部破片
No-2	羽釜	(口)21.5	覆土	鏝上を向く。	①酸化 ②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片

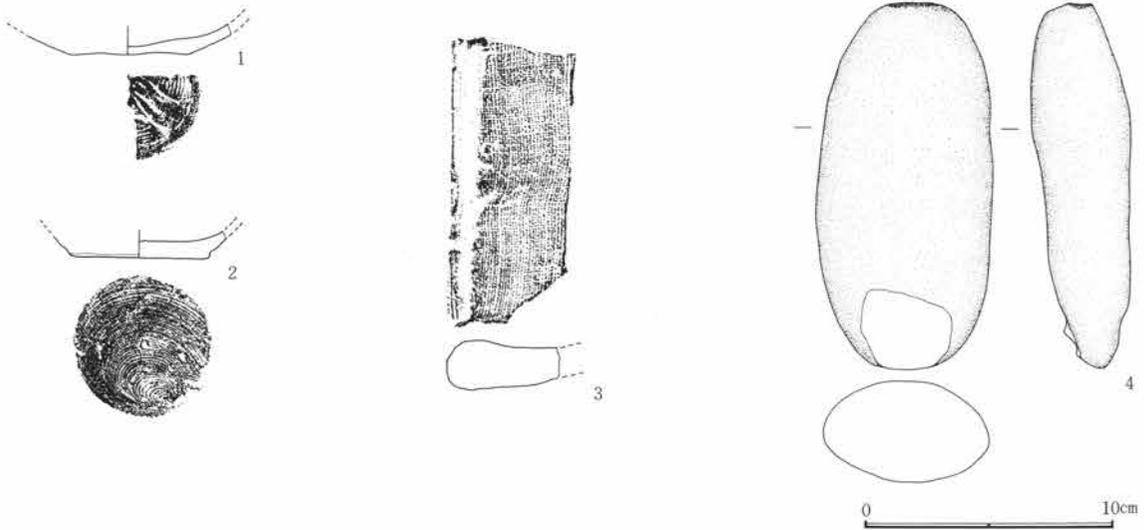
48号住居跡 (第91図、PL 8・61・69・86)

当住居跡はC区南西に位置し39号住居跡の東にある。他の遺構との関係は47号住居跡・46B号溝と重複している。新旧関係は47号住居跡より新しく46B号溝より古い。規模は長辺3.5m、短辺2.7mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-80°-Eである。壁高は約15cm~30cmを測り立ち上がる。床面は約10cmの比高をもち緩やかに西に向い傾斜している。西壁南側に沿って小穴が2基検出された。規模はそれぞれ約40cm×35cm、深さ約20cmで北側は約40cm×30cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。燃烧部幅約50cm、同長約40cmである。竈前面に広い範囲で焼土・灰が検出された。燃烧部内より瓦が検出された。瓦は表面が僅かに焼けている。



第91図 48号住居跡遺構図・竈図

(1) 竪穴住居跡

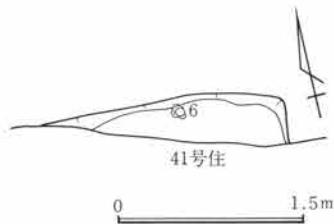


第92図 48号住居跡遺物図

第37表 48号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(底)4.8	覆土	底部 回転糸切り。	①酸化 ②淡橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-2	坏土師	底-5.4	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。	①酸化 ②浅黄色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-3	平瓦	瓦観察表、1類A-住3参照			
No-4	石	(長) (厚) cm g 14.0×7.0×3.5 604	覆土	輝石安山岩。	粗粒

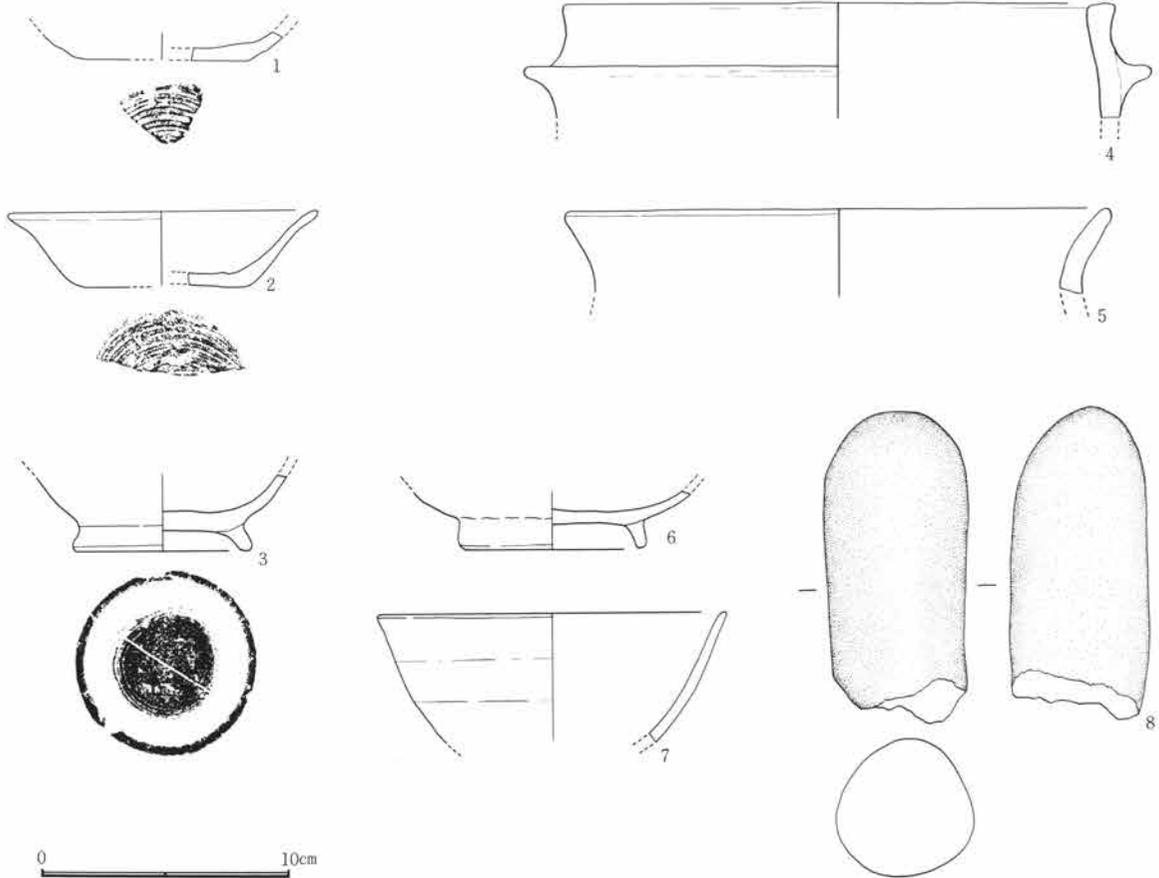
5. 検出された遺構と遺物



第93図 49号住居跡遺構図

49号住居跡 (第93図、PL35・59・86)

当住居跡はC区と染谷川河川改修区の境に位置し37号住居跡の東にある。他の遺構との関係は41号住居跡と重複している。41号住居跡により住居跡の大部分は消失している。壁高は約10cmを測る。竈は検出されていない。



第94図 49号住居跡遺物図

第38表 49号住居跡遺物観察表

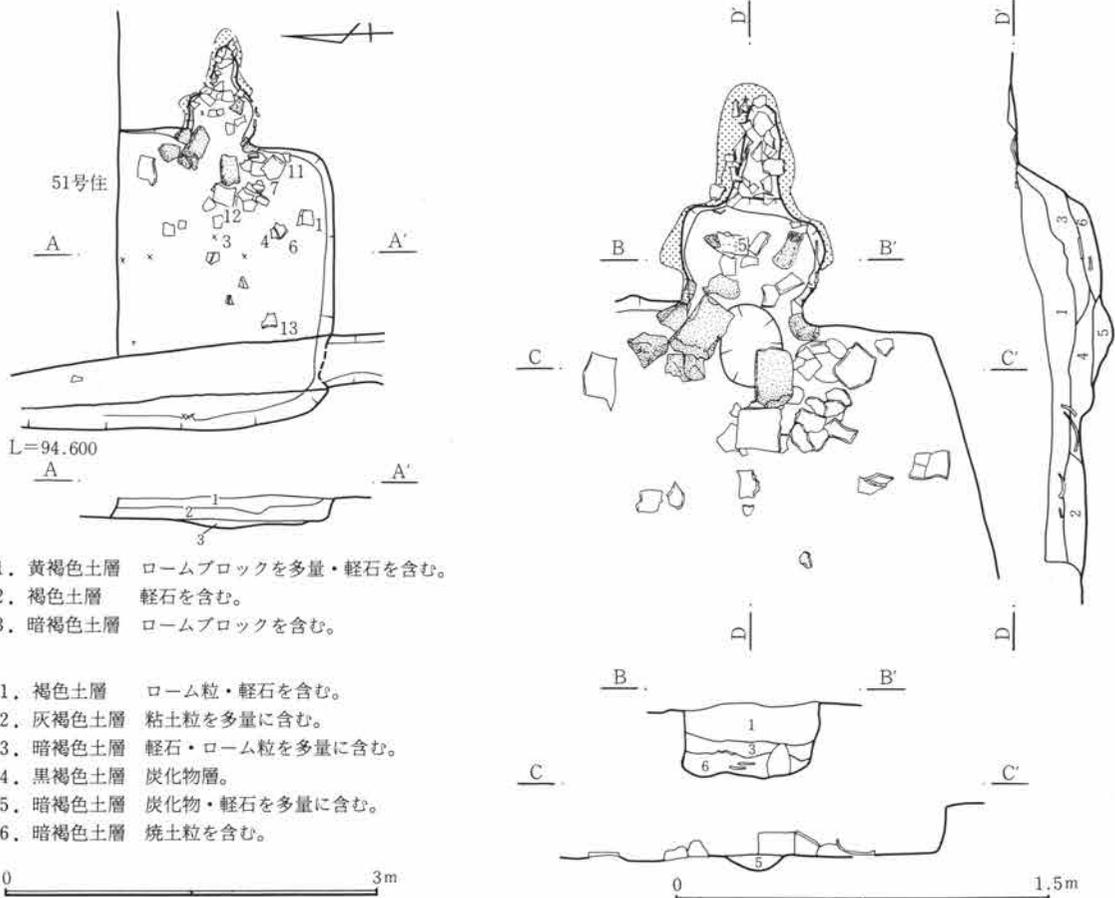
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	(底)6.7	覆土	底部 回転糸切り。	①還元 ②灰色 ③3~4mmの砂粒含む ④底部破片
No-2	坏須恵	口-12.5 高-3.0 底-6.5	覆土	口縁部 外反する。底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④1/2残存
No-3	埴須恵	底-7.2	覆土	底部 回転糸切り後、ナデ。中心に一本ヘラ痕あり。付高台。	①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む。④底部のみ残存
No-4	羽釜	(口)22.0	覆土	鏝 上を向く。口縁部 やや厚い。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

(1) 竪穴住居跡

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-5	甕 土師	(口)22.0	覆土	口縁部 内・外面共に雑なナデ。	①酸化 ②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-6	碗 灰釉	底-7.5	覆土	付高台。底部 回転ヘラ調整。一部に釉。	①還元 ②灰色 ③密 ④底部のみ残存
No-7	碗 須恵	(口)14.0	覆土	口縁部 内面に釉。	①還元 ②灰色 ③密 ④口縁部破片
No-8	石	(長) (厚) cm 12.2×5.7 g 568	覆土	輝石安山岩。	粗粒

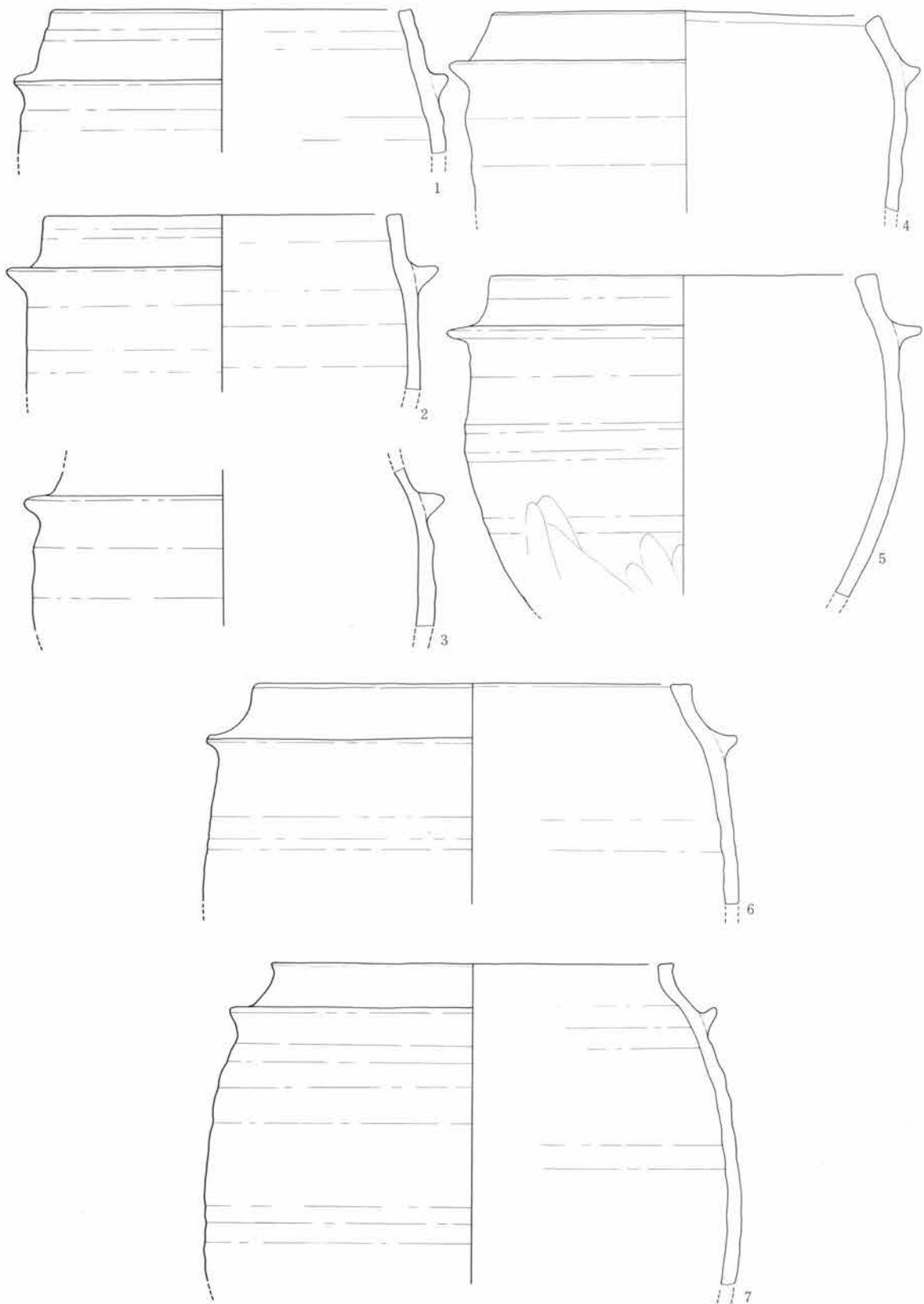
50号住居跡 (第95図、PL 8・36・59・61)

当住居跡はC区南東部に位置し44号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は51号住居跡・41号溝と重複している。新旧関係は51号住居跡が新しくさらに41号溝が新しい。規模・平面形態は不明であるが東西長約2.2mを測る。主軸方位はN-95°-Eである。壁高は約15cm~20cmを測る。床面はほぼ平坦をなすが西に向かい約5cmの比高を持ち傾斜している。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。床面はほぼ平坦をなし堅く締まっている。特に竈前が堅い。竈は東壁に検出された。竈の遺存状態は良好である。袖幅約50cm、燃烧部約40cm、煙道部約30cmを測る。構築に当たっては粘土の使用は見られず、袖石・支脚石が検出された。袖石は砂岩の角材である。竈内から土器片・石が多く検出されている。



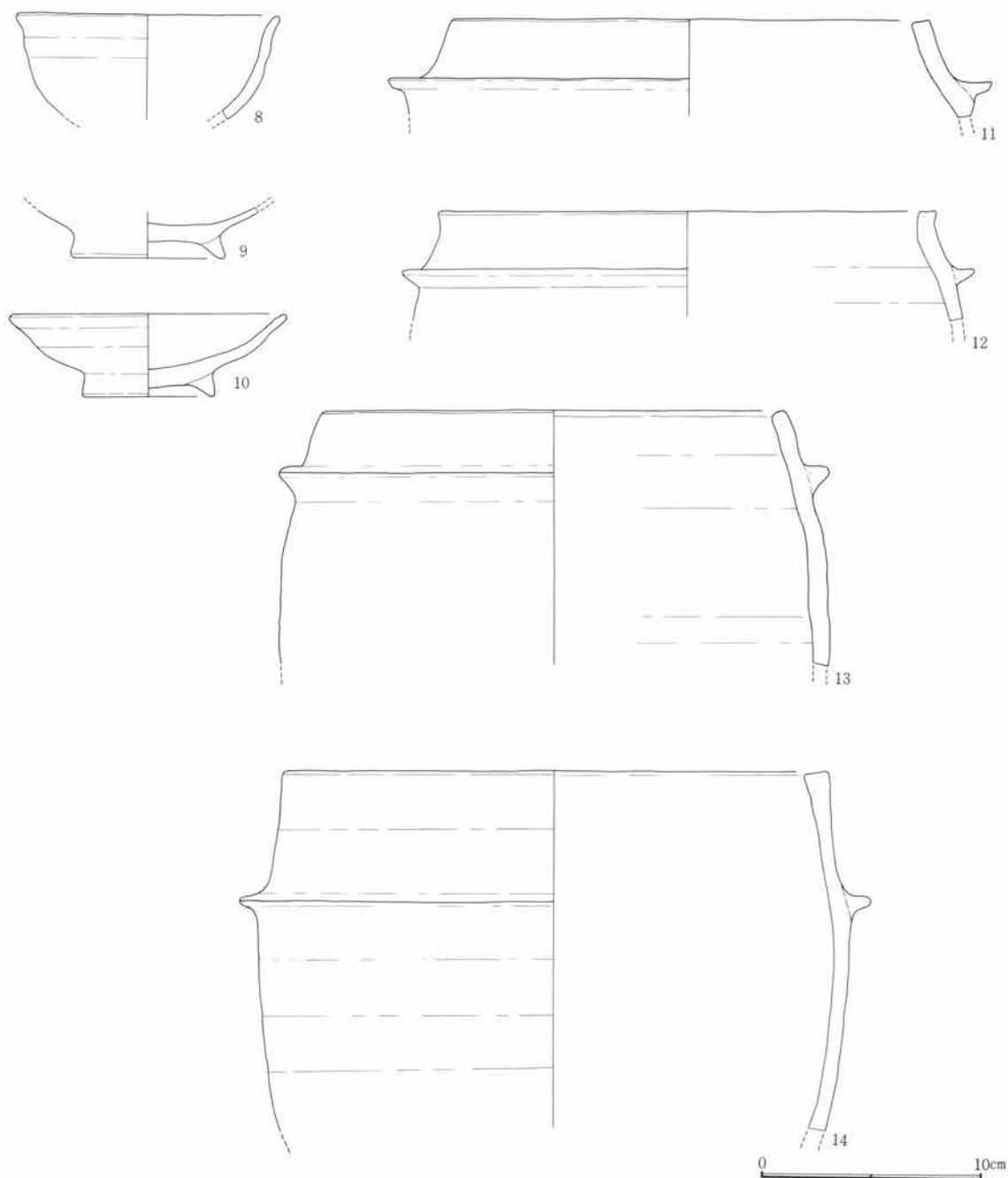
第95図 50号住居跡遺構図・竈図

5. 検出された遺構と遺物



第96図 50号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡



第97図 50号住居跡遺物図(2)

第39表 50号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽釜	(口)18.3	覆土	鈔 短い。口縁部 内傾する。	①やや酸化 ②灰色 ③細砂粒含む ④口縁のみ残存
No-2	羽釜	(口)18.0	覆土	鈔 上を向く。器面 雑なナデ。	①やや酸化 ②灰色 ③細砂粒含む ④口縁～胴部破片
No-3	羽釜		覆土	鈔 短い。器面 雑なナデ。	①酸化 ②橙色 ③2～3mmの砂粒含む ④胴部破片

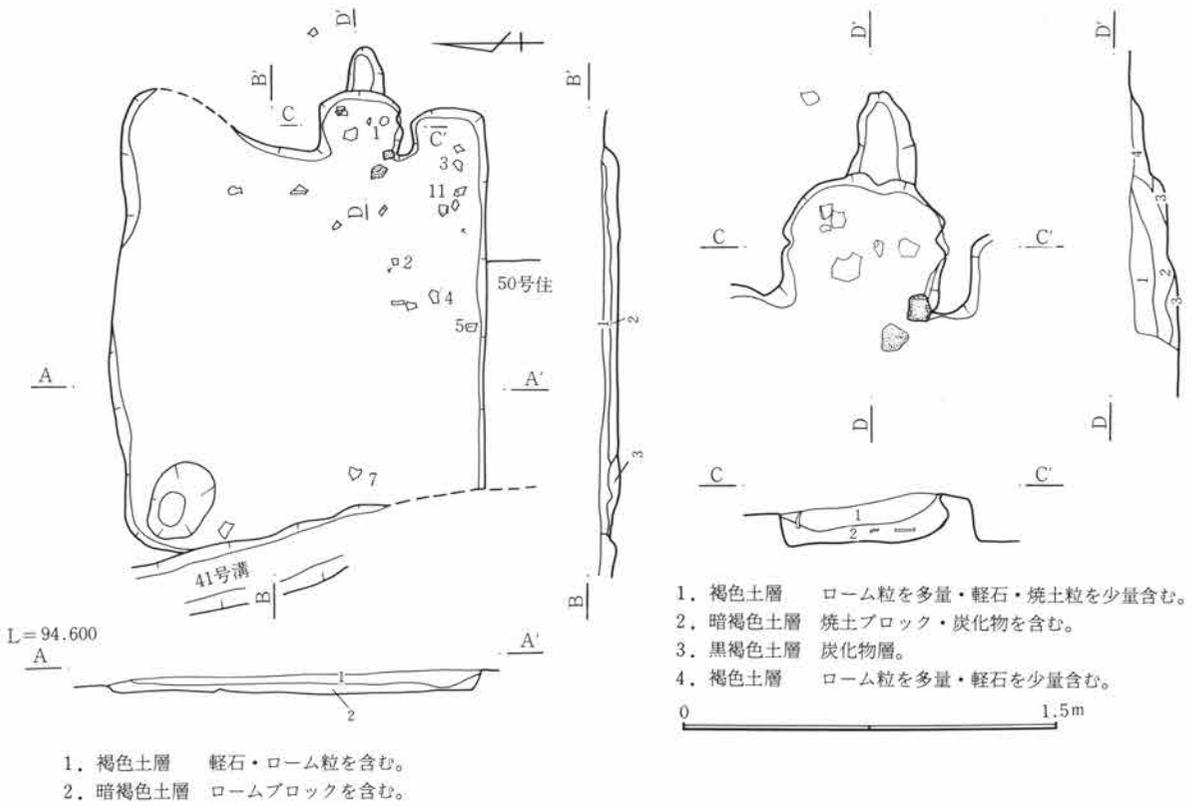
## 5. 検出された遺構と遺物

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-4	羽釜	(口)19.5	覆土	鈔 短く、上を向く。口縁部 内傾する。	①やや酸化 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存
No-5	羽釜	口-19.3	覆土	鈔 やや上を向く。口縁部は厚く、やや内傾する。胴部 下部ヘラケズリ。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③2～3mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{4}$ 残存
No-6	羽釜	(口)22.0	覆土	鈔 短く、丁寧な貼付。口縁部 やや厚く、内傾する。	①やや酸化 ②灰色 ③1～2mmの砂粒含む ④口縁～胴部破片
No-7	羽釜	(口)20.2	覆土	鈔 短く、狭く上を向く。口縁部 内傾する。	①還元 ②灰色 ③細砂粒含む ④口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存
No-8	坏須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 やや外反する。外面 内面、黒色を呈する。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③2～3mmの砂粒含む ④破片
No-9	埴須恵	(底)7.1	覆土	付高台。	①やや酸化 ②淡橙色 ③1～2mmの砂粒含む ④底部破片
No-10	皿須恵	口-12.4 高-3.7 底-6.0	覆土	付高台。	①やや酸化 ②浅黄橙色 ③1～2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{4}$ 残存
No-11	羽釜	(口)21.5	覆土	鈔 上を向く。口縁部 内傾する。	①還元 ②灰色 ③2～3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-12	羽釜	(口)22.5	覆土	鈔 短く、上を向く。	①やや酸化 ②浅赤橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-13	羽釜	(口)21.0	覆土	器面 雑なナデ。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③2～3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-14	羽釜	口-24.8	覆土	鈔 横に向く。器面 雑なナデ。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1～2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存

### 51号住居跡 (第98図、PL 8・61)

当住居跡はC区南西に位置し44号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は50号住居跡・41号溝と重複している。新旧関係は51号住居跡が新しくさらに41号溝が新しい。また10号掘立柱建物跡と重複しており当住居跡のなかにP-8・9がある。掘立柱建物跡はさらに古いものと思われる。規模は西壁が消失しているためにはっきりとしないが南北の長さは約3mを測る。平面形態は長方形を呈するものと思われる。竈の主軸方位はN-94°-Eである。壁高は約5～10cmを測る。床面は平坦をなし、壁周溝・柱穴は確認されていない。貯蔵穴は北西コーナーに検出された。規模は約70cm×45cm、深さ約15cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。竈燃焼部は壁から大きく床上に入り込んでいる。このため竈両袖も大きく床面に張り出している。竈北側の壁も大きく張り出している。袖幅約50cm、燃焼部長約50cm、煙道部長約35cmを測る。右袖部より砂岩質の石を2個検出している。

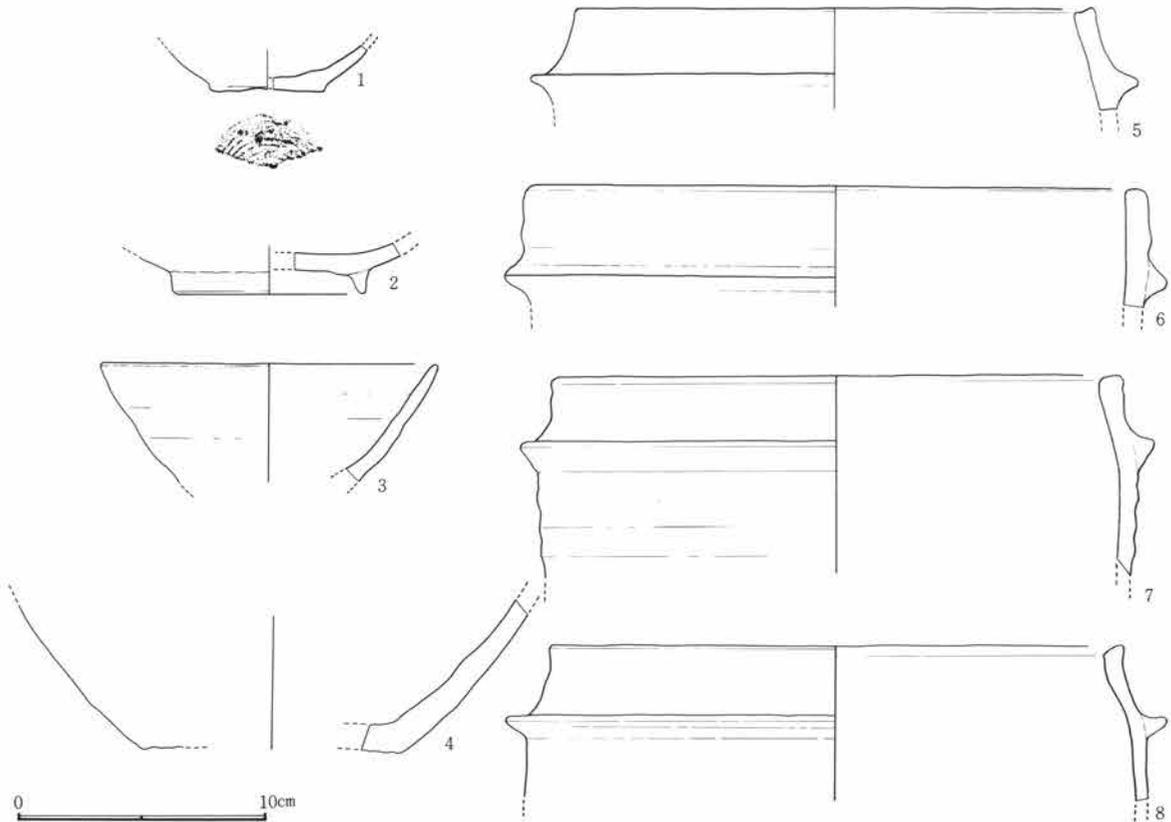
(1) 竪穴住居跡



1. 褐色土層 軽石・ローム粒を含む。  
 2. 暗褐色土層 ロームブロックを含む。

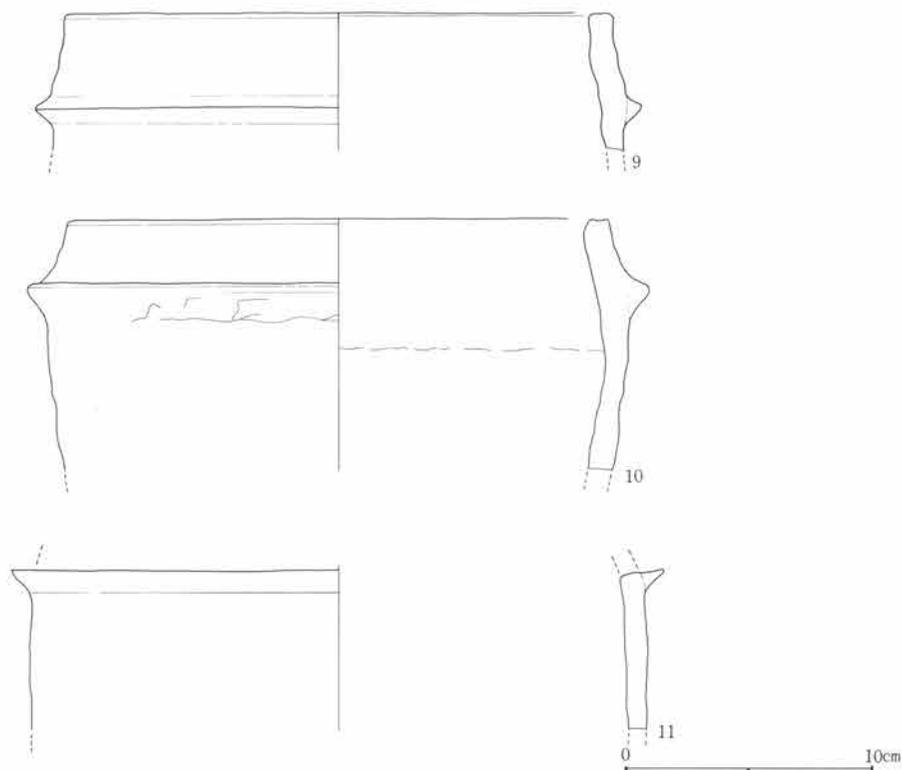
0 3m

第98図 51号住居跡遺構図・竈図



第99図 51号住居跡遺物図(1)

5. 検出された遺構と遺物



第100図 51号住居跡遺物図(2)

第40表 51号住居跡遺物観察表

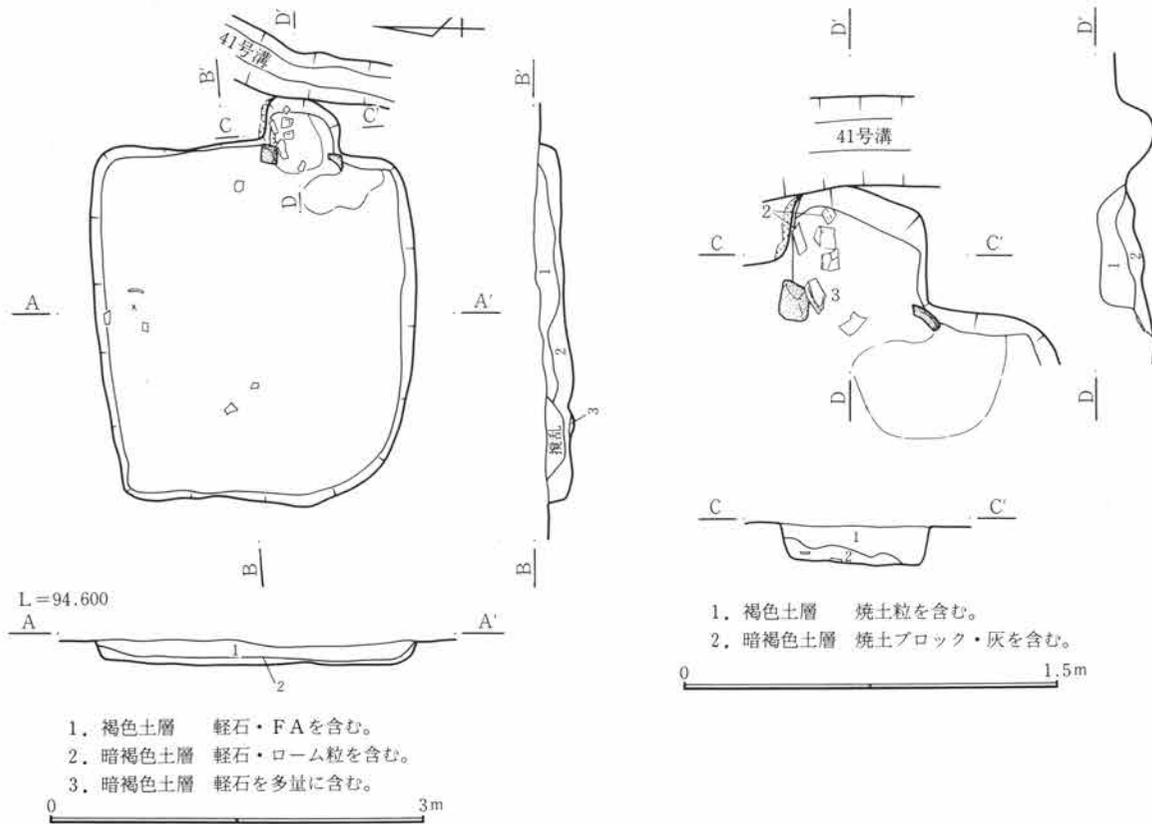
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	皿 土師	(底)4.2	覆土	底部 回転糸切り。	①酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-2	埴 須恵	(底)7.7	覆土	付高台。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む密 ④底部破片
No-3	埴 土師	(口)13.5	覆土	内面 黒色。	①酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	壺 土師	(底)10.4	覆土	外面 ヘラナデ。内面 ナデ。	①やや還元 ②灰黄色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-5	羽釜	(口)21.0	覆土	口縁部 内傾する。銚 短く、断面は三角形。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-6	羽釜	(口)24.5	覆土	口縁部 直立する。銚 小さく断面は三角形。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-7	羽釜	(口)2.3	覆土	銚 短く上を向く。器面 内・外面共にナデ。	①還元 ②灰黄色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-8	羽釜	(口)23.0	竈内	銚 上を向く。器面 丁寧なナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-9	羽釜	(口)22.0	覆土	銚 短く、断面は三角形。内・外面共ナデ。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

(1) 竪穴住居跡

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-10	羽釜	(口)22.0	覆土	鈔断面三角形。貼付けは雑なナデ。鈔下にヘラ痕残る。	①酸化 ②橙色 ③3~4mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-11	羽釜		覆土	鈔上半を欠損。器面内・外面共ナデ。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④破片

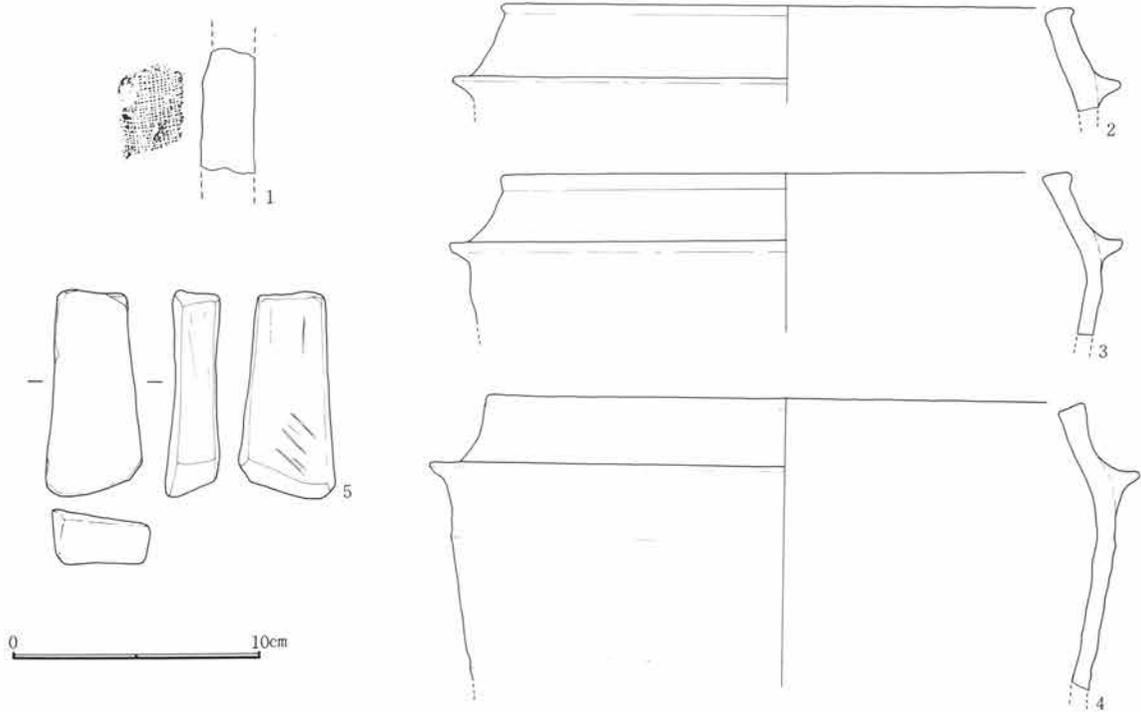
52号住居跡 (第101図、PL 8・36)

当住居跡はC区南西に位置し48号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は41号溝と重複している。新旧関係は41号溝が新しい。規模は長辺2.9m、短辺2.7mである。平面形態は正方形に近い形状を呈する。主軸方位はN-94°-Wである。壁高は約10cm~20cmを測り垂直に立ち上がる。床面は約7cmの比高をもち西側が低くなり凹凸が多い。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。煙道部先端は41号溝により消失している。燃烧部幅約60cm、同長約50cmを測る。内壁には薄く粘土が張っており焼土化している。また火床面の粘土の下から灰が検出され2面の火床が確認された。左袖部と燃烧部中央それぞれ袖石・支脚石が検出された。



第101図 52号住居跡遺構図・竈図

5. 検出された遺構と遺物



第102図 52号住居跡遺物図

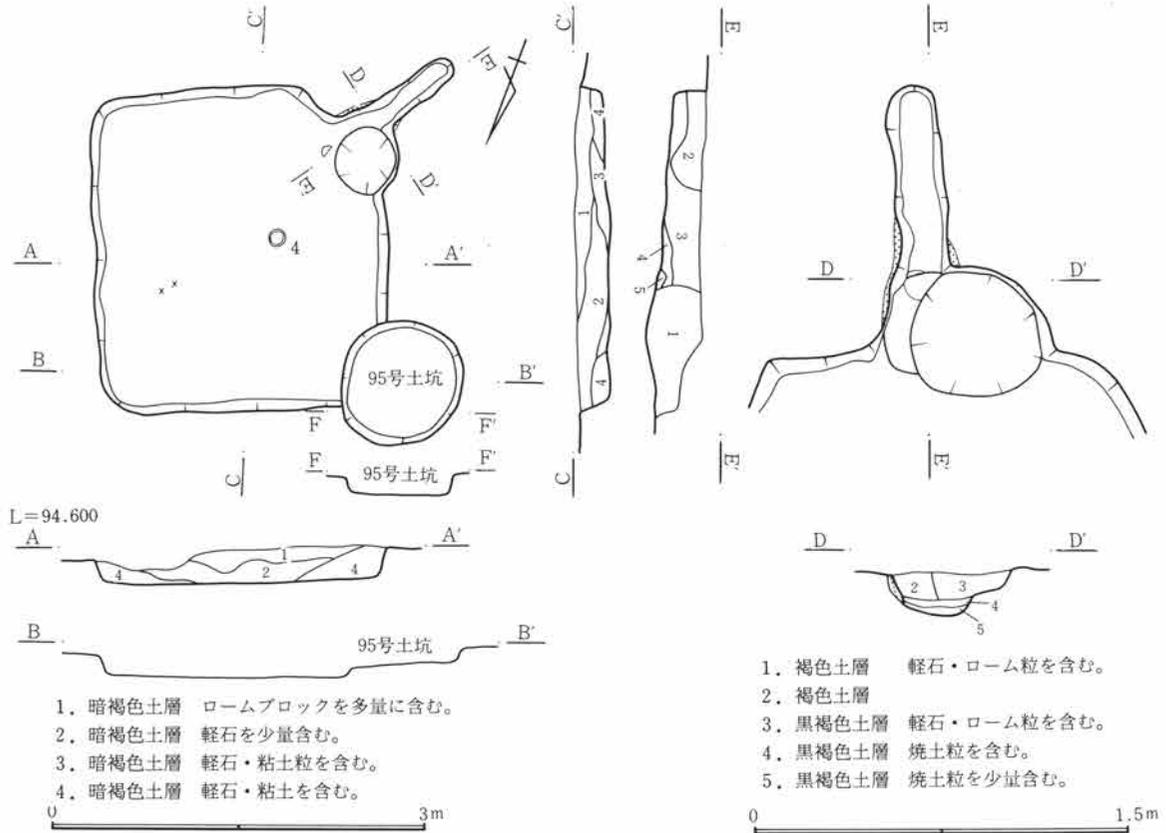
第41表 52号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	平瓦	瓦観察表、1類A-住1参照			
No-2	羽釜	(口)22.8	覆土	口縁部 厚くなり、内傾する。鏝 上を向く。	①やや酸化 ②におい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	羽釜	(口)22.7	覆土	口縁部 厚くなり、内傾する。鏝 上を向き、丁寧なナデ。	①還元 ②灰白色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽釜	(口)23.8	覆土	口縁部 厚くなり、内傾する。鏝 上を向く。	①還元 ②灰白色 ③4~5mmの砂粒含む ④口縁~胴部 $\frac{1}{2}$ 残存
No-5	砥石	(長) (幅) (厚)cm g 16.5×7.0×4.0 838	覆土	流紋岩(砥沢)。使用痕あり。	

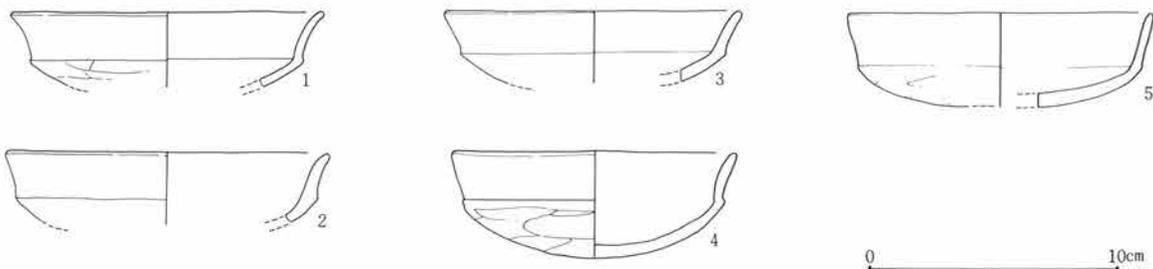
(1) 竪穴住居跡

53号住居跡 (第103図、PL 8・36)

当住居跡はC区南西に位置し52号住居跡の東にある。他の遺構との関係は95号土坑と重複している。規模は長辺2.6m、短辺2.5mである。平面形態は正方形に近い形状を呈する。主軸方位はN-112°-Eである。壁高は約15cm~20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、竈前面では堅く締まっており遺存状態は良好である。壁周溝・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。竈は南西コーナーに検出された。燃烧部・煙道部の遺存は良好であるが右袖部は後世の攪乱により壊されている。燃烧部幅は約30cm~40cmと考えられる。同長は約30cm、煙道部は約75cmを測る。煙道部の遺存は良好であり燃烧部からやや高くなりほぼ平らに長く延びる。



第103図 53号住居跡遺構図・竈図



第104図 53号住居跡遺物図

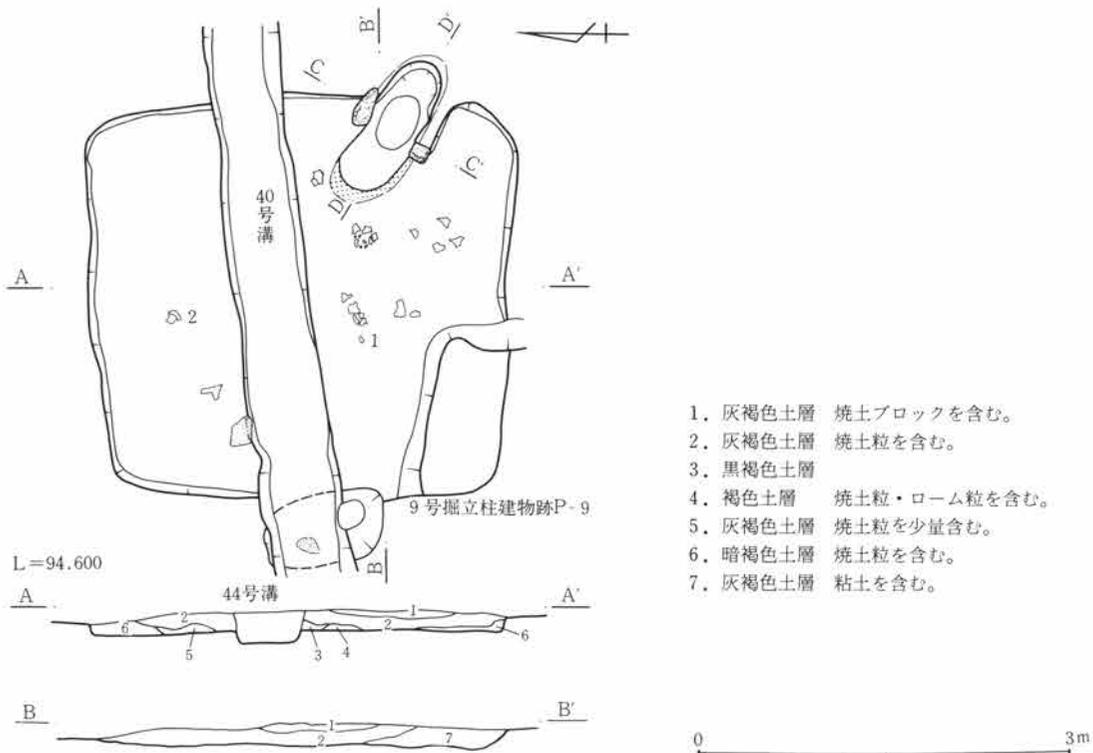
5. 検出された遺構と遺物

第42表 53号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)12.6	覆土	口縁部 やや外湾し、内・外面共ヨコナデ。体部外面 ヘラケズリ。体部外面に強い稜線。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏土師	(口)13.0	覆土	口縁部 内・外面共ヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	坏土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共ヨコナデ。体部外面に、稜線。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	坏土師	口-11.5 高-4.2	覆土	口縁部 体部間に稜を持つ。口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④完形
No-5	坏土師	(口)12.2 (高)3.7 (底)4.5	覆土	口縁部 内・外面共ヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④残存

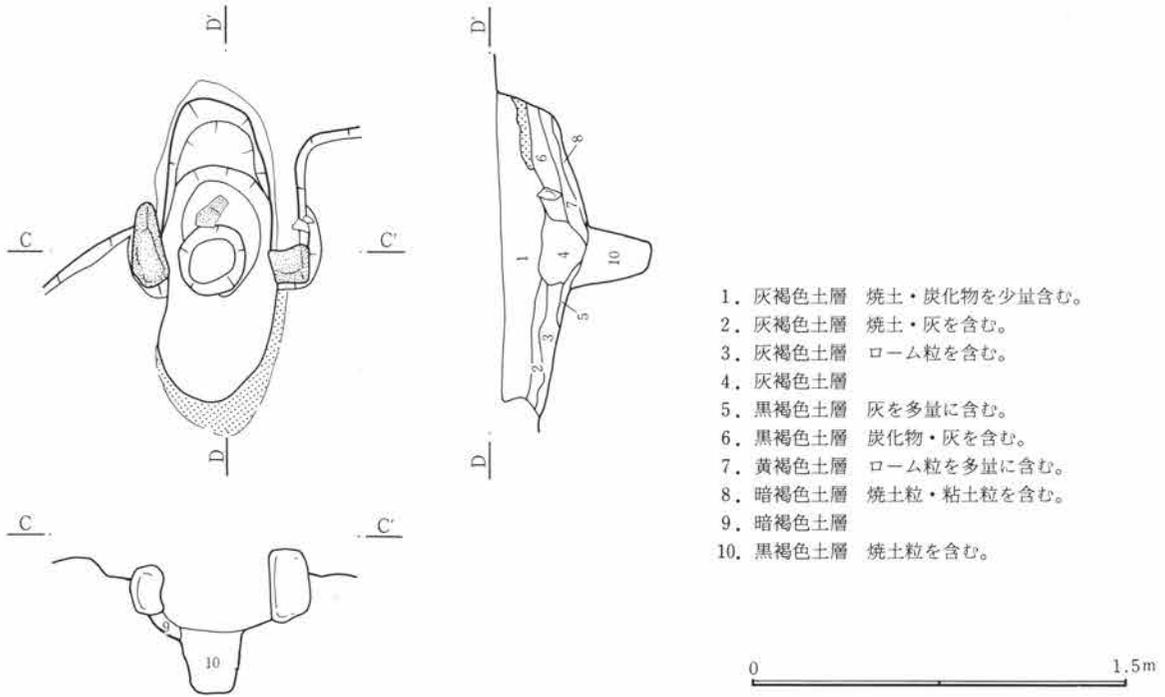
54号住居跡 (第105・106図、PL 9・13・36・62)

当住居跡はC区北西に位置し62号住居跡の北にある。他の遺構との関係は9号掘立柱建物跡・40号溝と重複している。新旧関係は掘立柱建物跡は住居跡より新しくさらに40号溝が新しい。規模は長辺3.5m、短辺3.2mである。平面形態は正方形に近い形状を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約5cm~10cmを測り、緩やかな傾斜をもって立ち上がる。床面は平坦をなすが北西コーナーは約5cm高くなる。床面の中央を東西に約50cm~60cmの幅で40号溝が切っている。竈は東壁に検出された。竈の長軸は大きく南へ傾いている。袖幅約60cm、燃燒部長約80cmを測る。両袖は住居内に大きく張り出しており、袖石が検出されている。燃燒部中央に小穴が検出され、覆土に焼土粒を含んでいる。

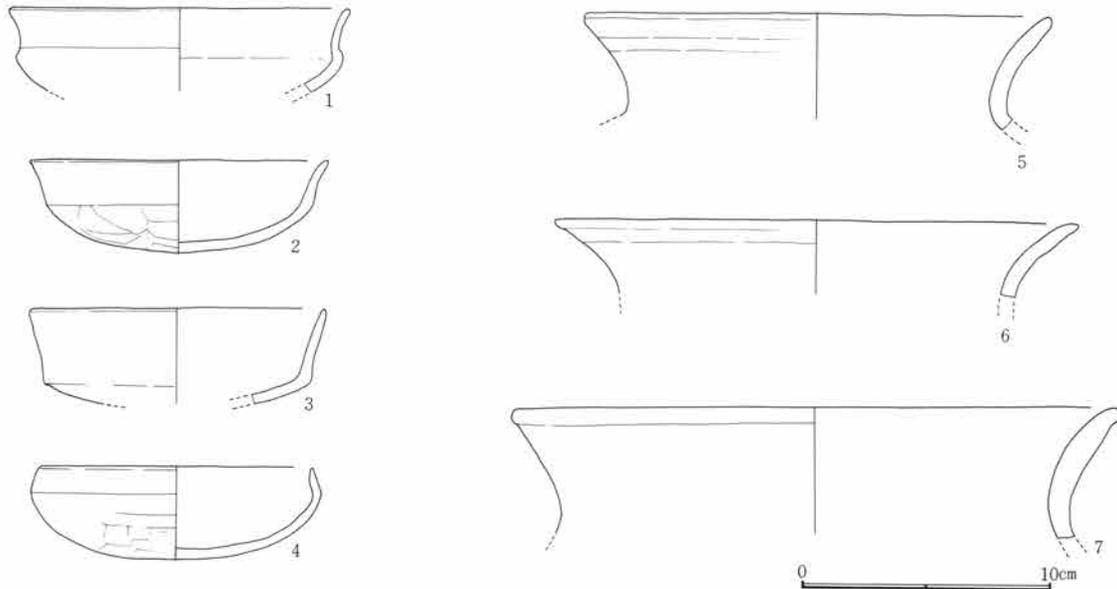


第105図 54号住居跡遺構図

(1) 竪穴住居跡



第106図 54号住居跡竈図



第107図 54号住居跡遺物図

第43表 54号住居跡遺物観察表

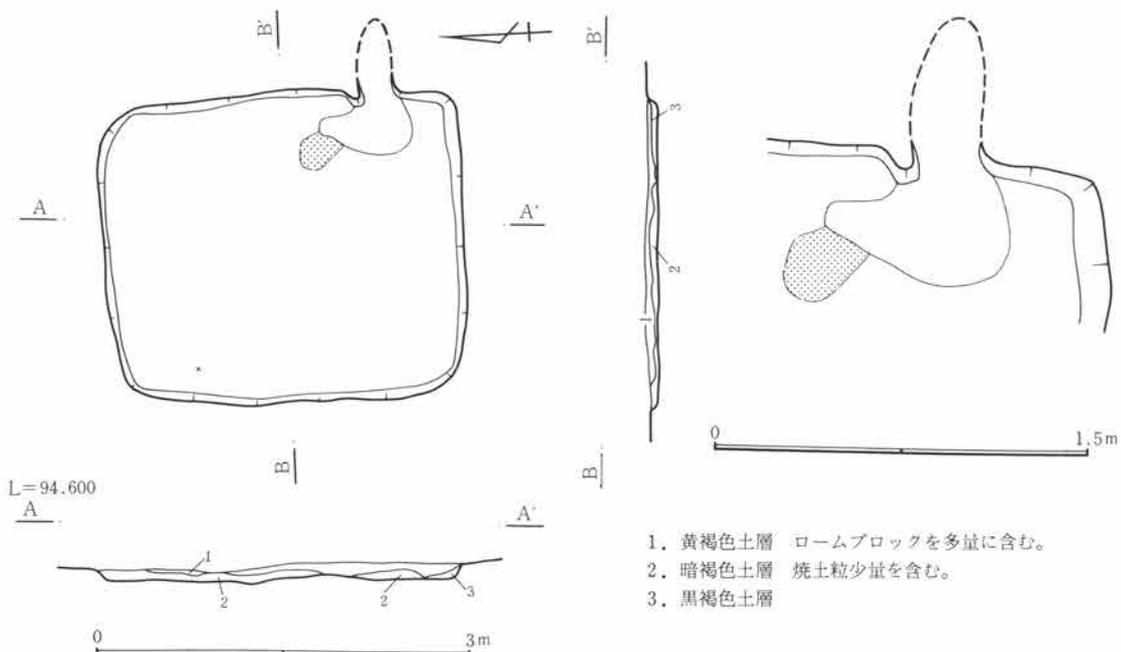
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)13.6	覆土	体部 外面に強い稜線。器面 内・外面共にナデ。	①酸化 ②にぶい黄橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏土師	(口)12.0 (高)3.7	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい黄橙色 ③細砂粒含む ④%残存

5. 検出された遺構と遺物

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-3	坏土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。稜は明瞭には表われない。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	坏土師	(口)7.0 高-3.7	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-5	甕土師	(口)18.6		内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-6	甕土師	(口)21.0	覆土	内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部残存
No-7	甕土師	(口)24.0	覆土	内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②にふい黄橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

56号住居跡（第108図、PL 9）

当住居跡は染谷川河川改修区中央に位置し21号住居跡の西にある。他の遺構との関係は20号住居跡と重複している。当住居跡は20号住居跡のなかに取り壁の共有などもなく床のレベルも異なることから拡張とは考えられない。新旧関係は当住居跡が新しい。規模は長辺3m、短辺2.5mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-93°-Eである。壁高は約10cmを測り、遺存状況は悪く崩れが激しい。床面は平坦をなし堅く締まっている。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈周辺には焼土・灰が多く散布している。竈は東壁やや南寄りに検出された。20号住居跡と同じ所に重なっている。燃烧部幅約40cm、同長約50cmを測る。竈前面に灰・焼土層が広がっている。

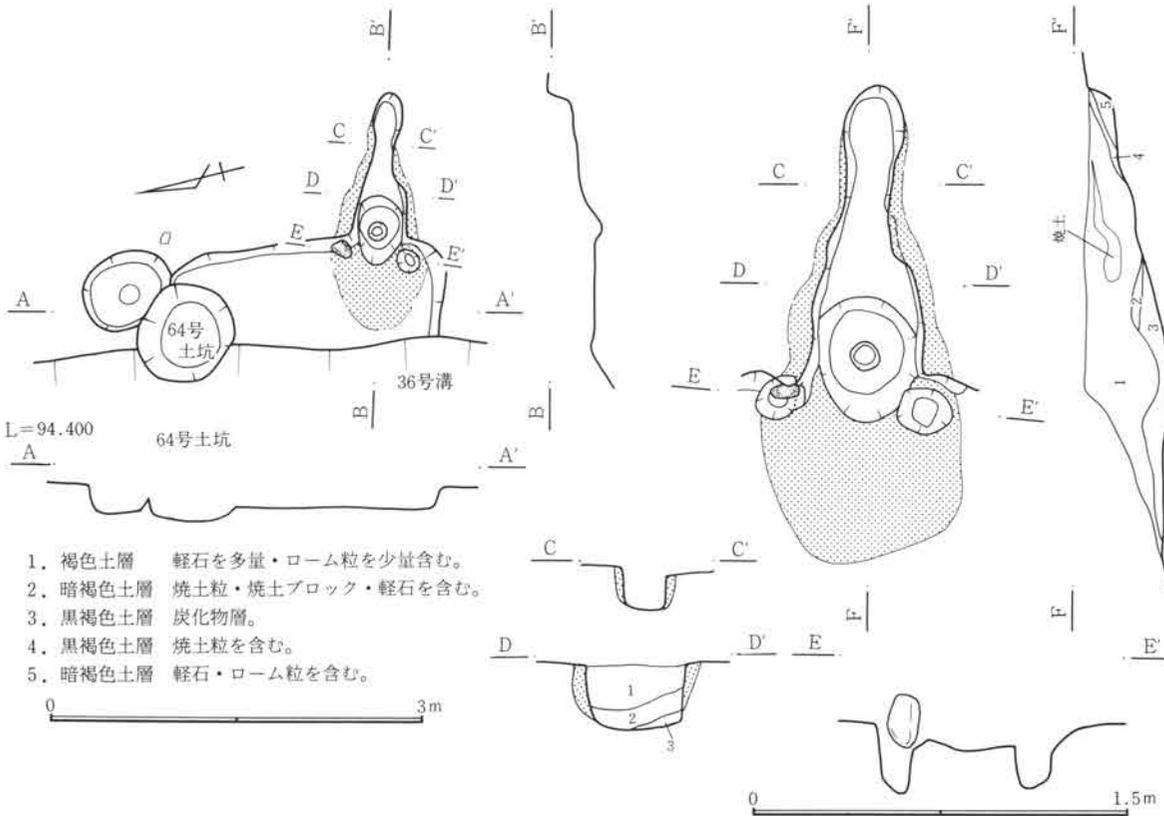


第108図 56号住居跡遺構図・竈図

(1) 竪穴住居跡

58号住居跡 (第109図、PL 9)

当住居跡は染谷川河川改修区西端に位置し28号住居跡の北西にある。他の遺構との関係は36号溝・64号土坑と重複している。新旧関係は溝が新しくさらに土坑が新しい。西半部は36号溝により削平されている。規模は南北の辺で約2.2mを測る。平面形態は不明である。主軸方位は竈の長軸でN-101°-Eである。壁高は約10cm~15cmを測り垂直に立ち上がる。床面は平坦をなし、壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。遺存状況は良好で燃烧部・煙道部の壁に焼土が厚く残っていた。袖幅は約60cm、燃烧部長約50cm、煙道部長約80cmを測る。燃烧部内壁には粘土を張ってある。両袖部には石が検出された。燃烧部から煙道部にかけては明確な段差は見られず煙道部に向い緩やかに傾斜している。



第109図 58号住居跡遺構図・竈図



第110図 58号住居跡遺物図

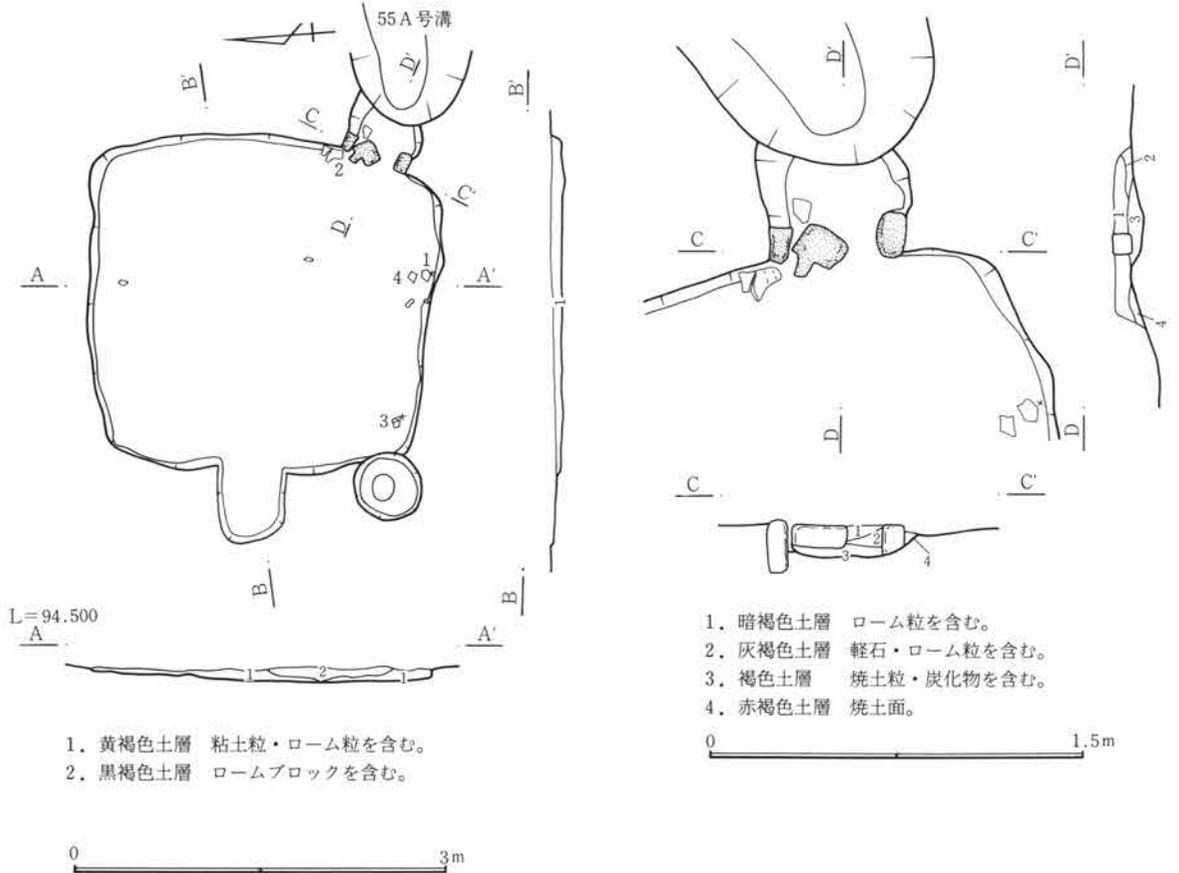
第44表 58号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	(口)12.0	竈内	口縁部 自然釉。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

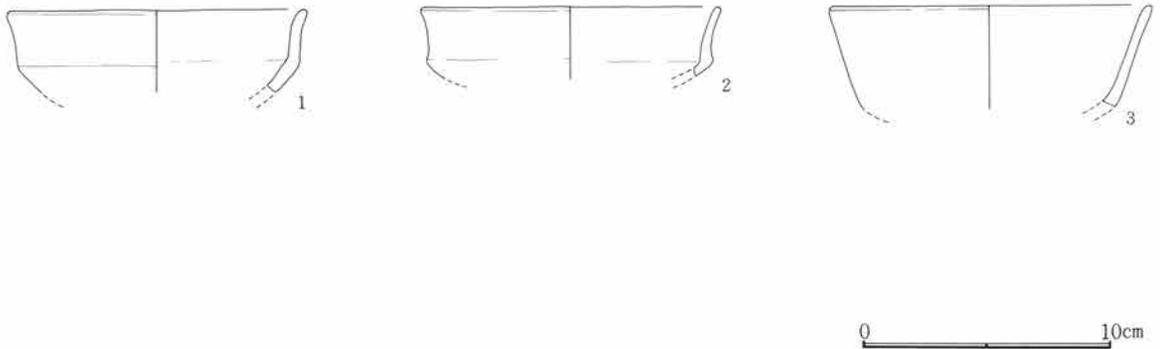
5. 検出された遺構と遺物

59号住居跡 (第111図、PL 9)

当住居跡はC区北西に位置し63号住居跡の南東にある。他の遺構との関係は55A号溝と重複している。新旧関係は55A号溝が新しい。規模は長辺3m、短辺2.8mである。平面形態は正方形に近い形状を呈する。主軸方位はN-106°-Eである。壁高は約10cmを測り緩やかに立ち上がる。床面は平坦をなし遺存状況は良好である。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。北壁に幅約50cmで約70cmの張り出しを持つ。張り出し部も床面と同じレベルを持つ。竈は東壁南寄りに検出された。燃烧部先端は55号溝により削平されている。袖幅約50cm、燃烧部長約35cm遺存している。両袖部及び焚口から砂岩が検出された。



第111図 59号住居跡遺構図・竈図



第112図 59号住居跡遺物図

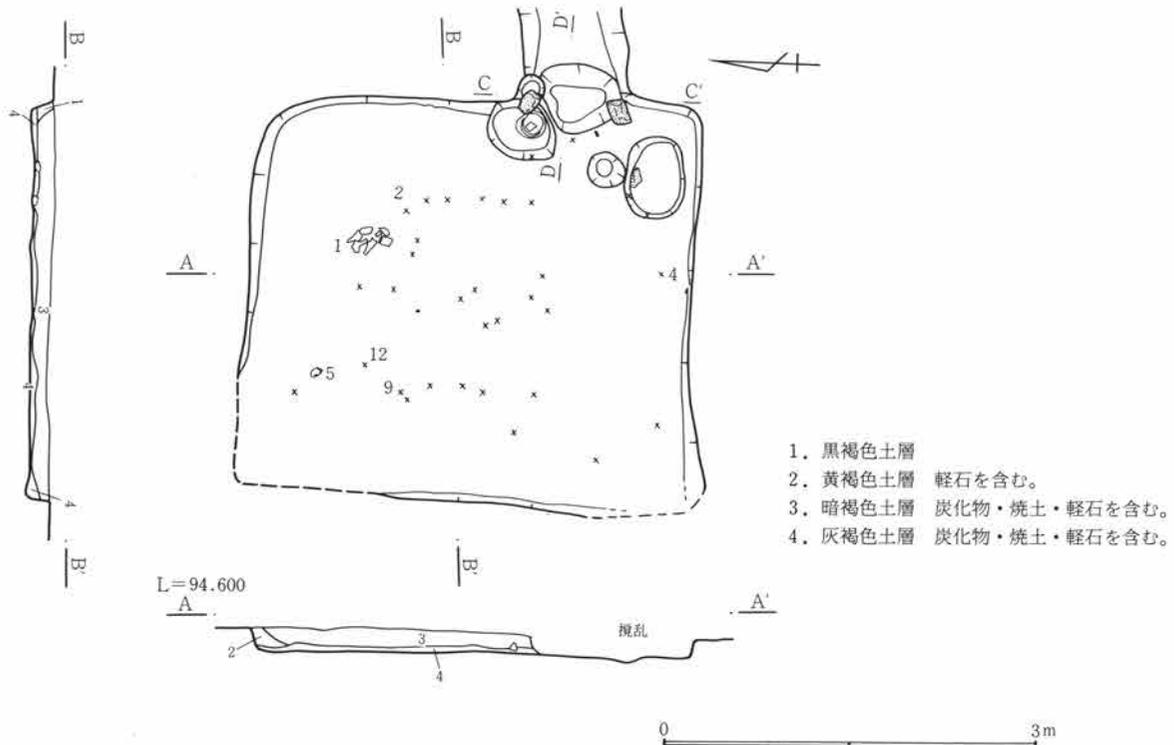
## (1) 竪穴住居跡

第45表 59号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)12.0	竈覆土	内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏土師	(口)12.0	竈覆土	内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	埴須恵	(口)13.0	覆土		①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

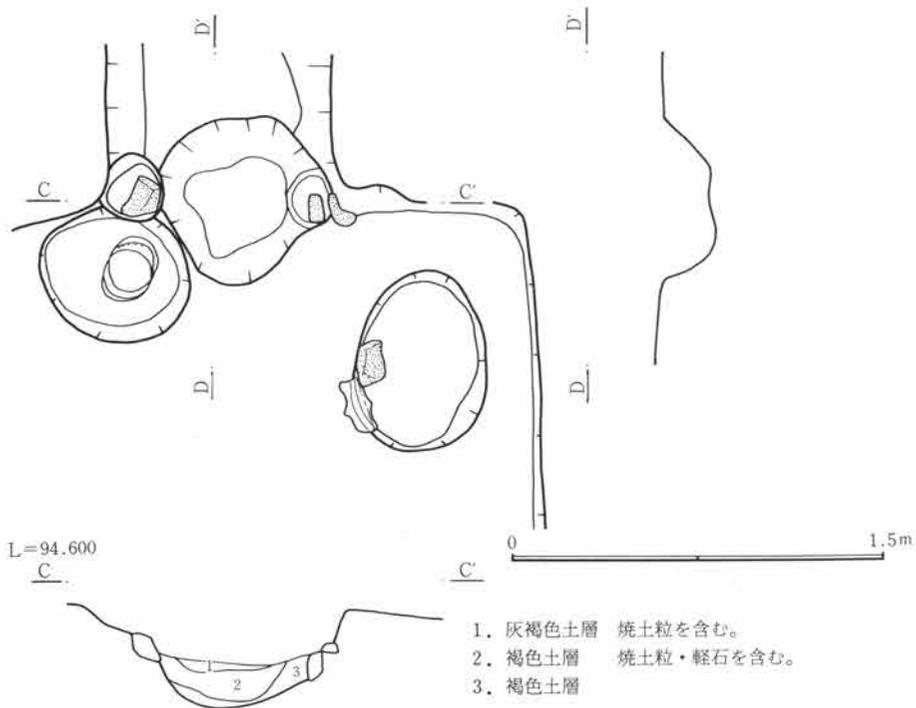
## 62号住居跡 (第113・114図、PL10・37・62・69・76)

当住居跡はC区北西部に位置し63号住居跡の西にある。他の遺構との関係は43A溝・9号掘立柱建物跡と重複している。新旧関係は溝・掘立柱建物跡が古い。規模は長辺3.8m、短辺3.2mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-92°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面は平坦をなし遺存状況は良好である。南部は溝の攪乱を受けている。壁周溝・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。しかし、竈両袖部前面と右袖部北に接するように3ヶ所に落ち込みを検出した。それぞれ南からNo.1、2、3とつけた。No.1は約65cm×45cm、深さ約10cmを測る。No.2は約35cm×25cm、深さ約10cmを測る。No.3は約55cm×45cm、深さ約20cmを測る。No.1、2からは石が検出されNo.3からは円筒埴輪が立った状態で検出された。また円筒埴輪の破片が多く検出された。竈は東壁南寄りに検出された。遺存状況は悪く大部分を43A号溝により壊され、両袖部が残存するのみである。左右袖部からは石が検出された。

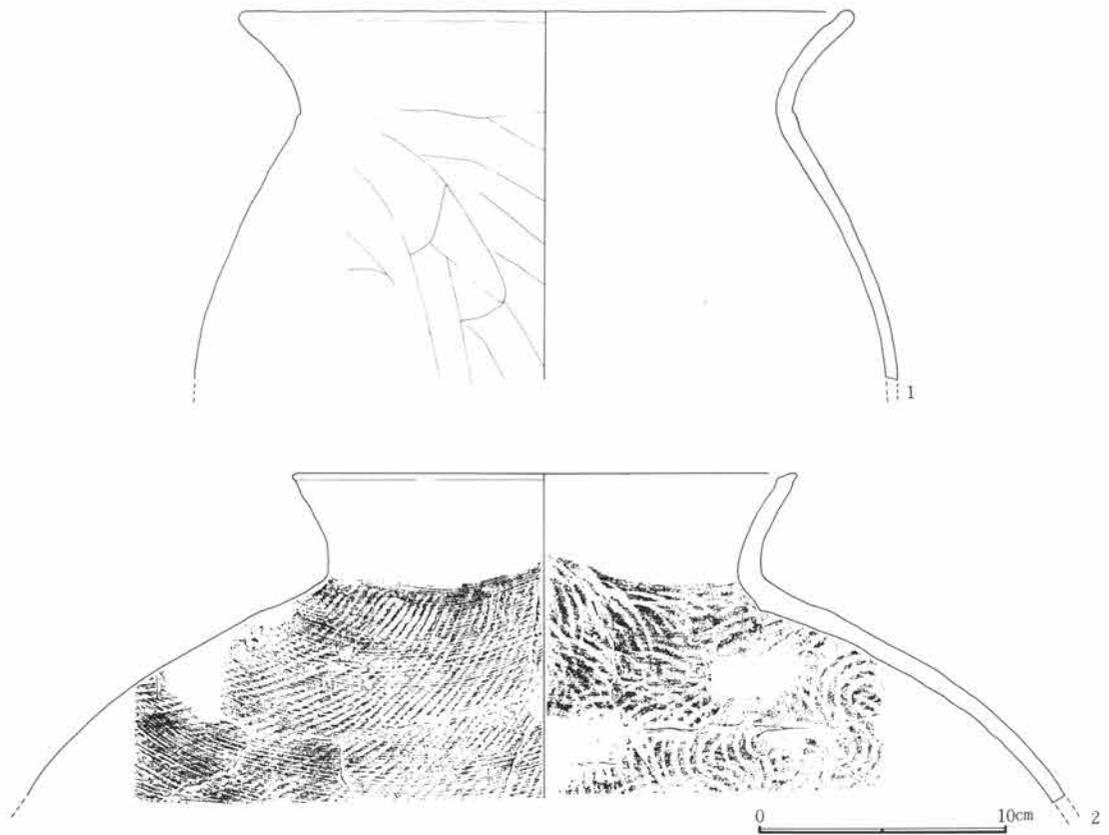


第113図 62号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物

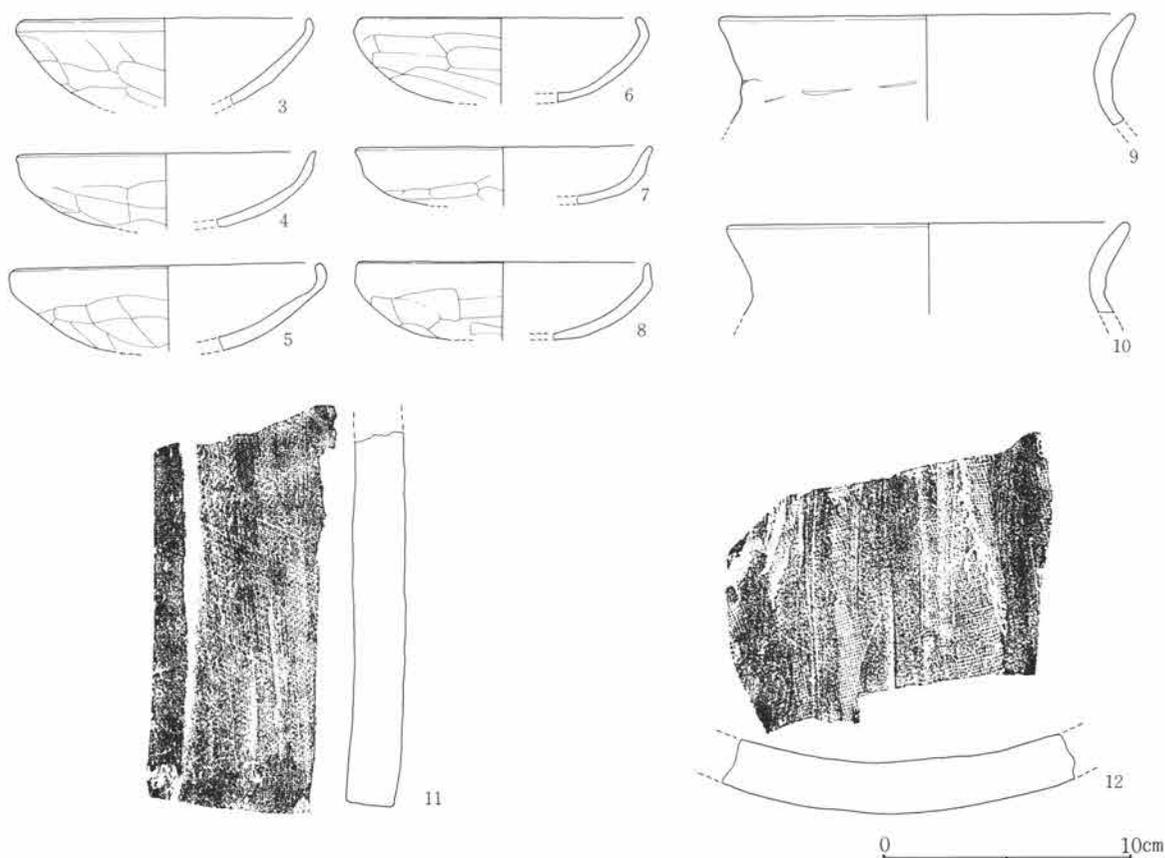


第114図 62号住居跡竈図



第115図 62号住居跡遺物図(1)

## (1) 竪穴住居跡



第116図 62号住居跡遺物図(2)

第46表 62号住居跡遺物観察表

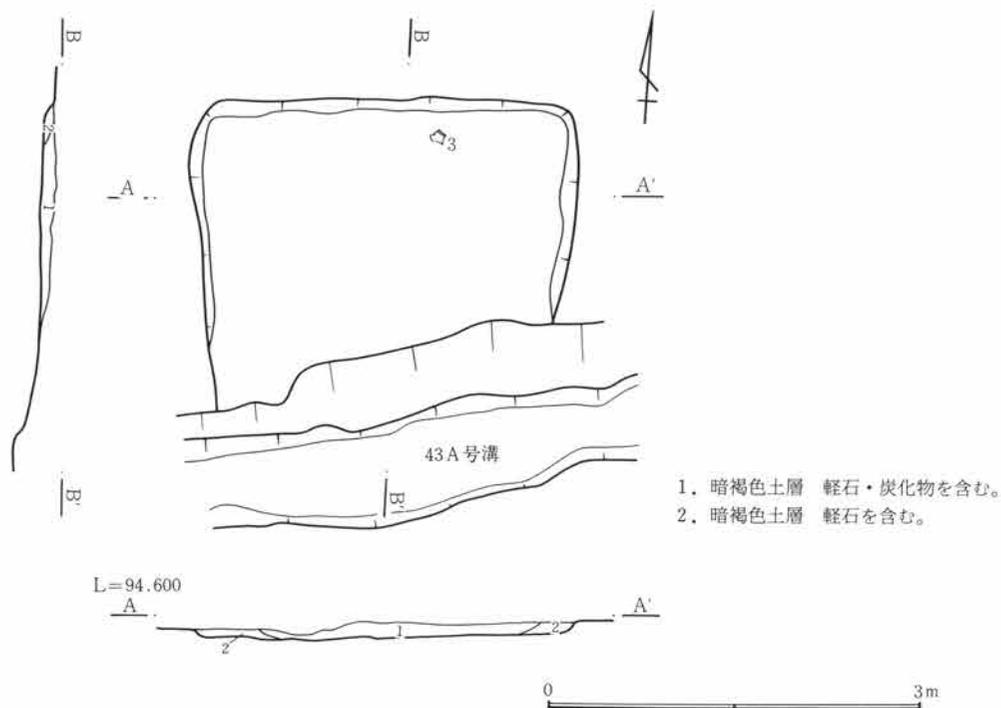
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	甕 土師	(口)24.4	覆土	胴部 ヘラナデ。頸部にヘラ痕残る。口縁部内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁~胴部 $\frac{1}{2}$ 残存
No-2	甕 須恵	(口)20.4	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。胴部 外面叩き目。内面 当て目。頸部 叩き目の後ナデ。	①還元 ②灰白色 ③密 ④口縁~胴部 $\frac{1}{2}$ 残存
No-3	坏 土師	(口)14.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-4	坏 土師	(口)11.2	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
No-5	坏 土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②明橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-6	坏 土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-7	坏 土師	(口)12.2	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②明橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-8	坏 土師	(口)11.7	床直上	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存

5. 検出された遺構と遺物

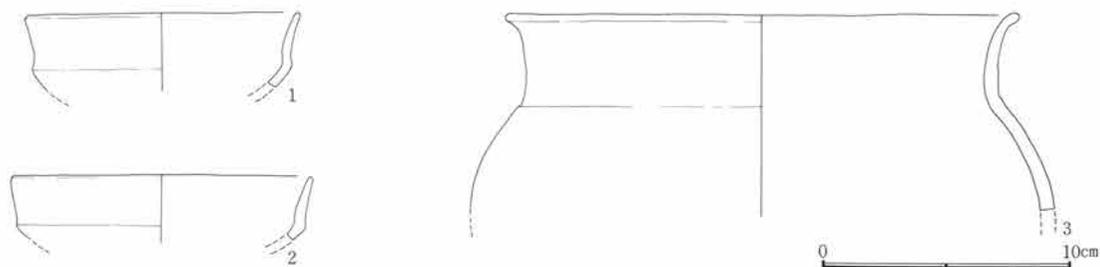
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-9	甕 土師	(口)16.4	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。頸部にヘラ痕明瞭に残る。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-10	甕 土師	(口)16.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。頸部にヘラ痕明瞭に残る。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-11	平瓦	瓦観察表、1類A-住11参照			
No-12	平瓦	瓦観察表、1類A-住12参照			

63号住居跡 (第117図、PL10・62)

当住居跡はC区北西に位置し62号住居跡の東にある。他の遺構との関係は43A号溝と重複している。新旧関係は43A号溝が新しい。規模・平面形態・主軸方位は不明であるが東西の壁は約3mを有する。住居跡南部は溝により削平されている。壁高は約10cmを測る。床面は平坦をなす。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈も溝により削平されている。



第117図 63号住居跡遺構図



第118図 63号住居跡遺物図

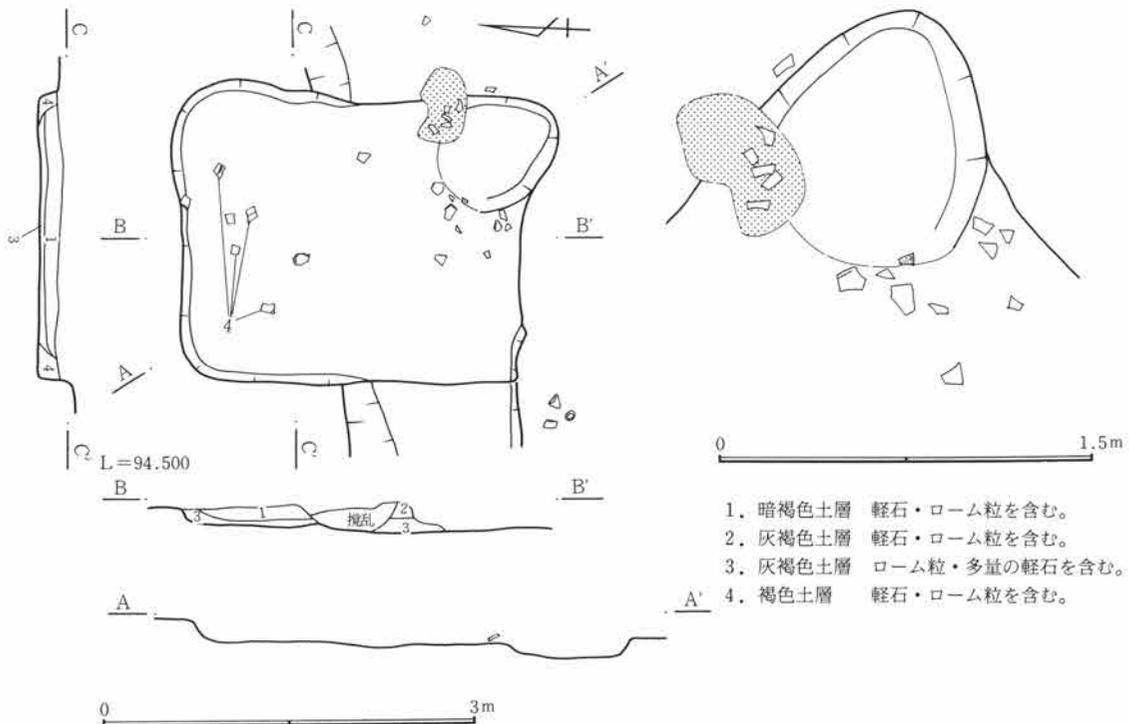
## (1) 竪穴住居跡

第47表 63号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)12.0	覆土	内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏土師	(口)12.0	覆土	内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	甕土師	(口)20.6	覆土	口縁部 外反し、内・外面共にヨコナデ。胴部 外面 ヘラ調整。内面 ナデ。頸部に稜あり。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁~胴部破片

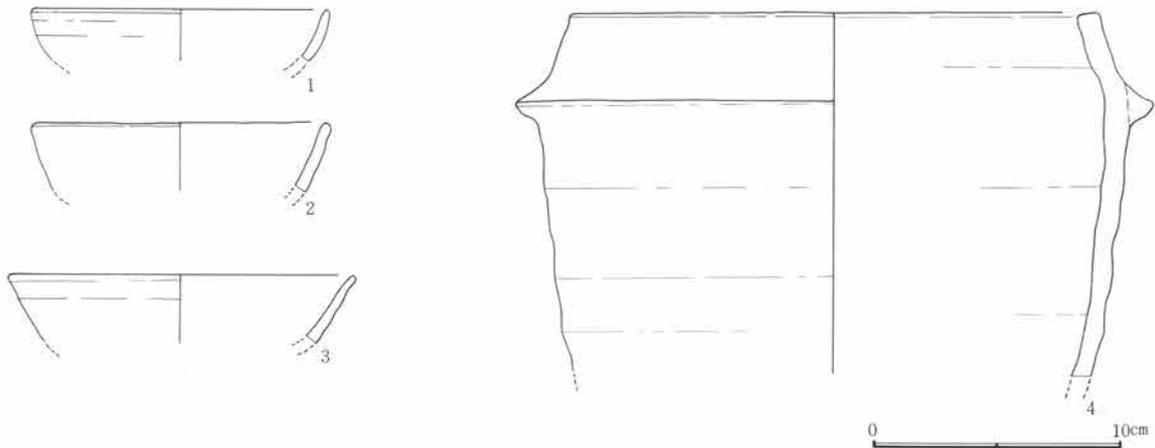
## 65号住居跡 (第119図、PL10・37・76)

当住居跡はC区北西部に位置し62号住居跡の西にある。他の遺構との関係は43A号溝・67号住居跡と重複している。新旧関係は溝が新しく67号住居跡との関係はコーナーで重複しており65号住居跡が新しいものと思われる。規模は長辺2.9m、短辺2.4mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位は電長軸でN-146°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面は凹凸が多く見られ北側が約5cm高くなる。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東南コーナーに検出された。長軸は壁に対して南にずれている。遺存の状況は後世の耕作により攪乱を受けており良好とは言えない。燃烧部火床の焼土が約2cmの厚さで残っていた。燃烧部幅約100cm、同長約100cmを測る。



第119図 65号住居跡遺構図・竈図

5. 検出された遺構と遺物



第120図 65号住居跡遺物図

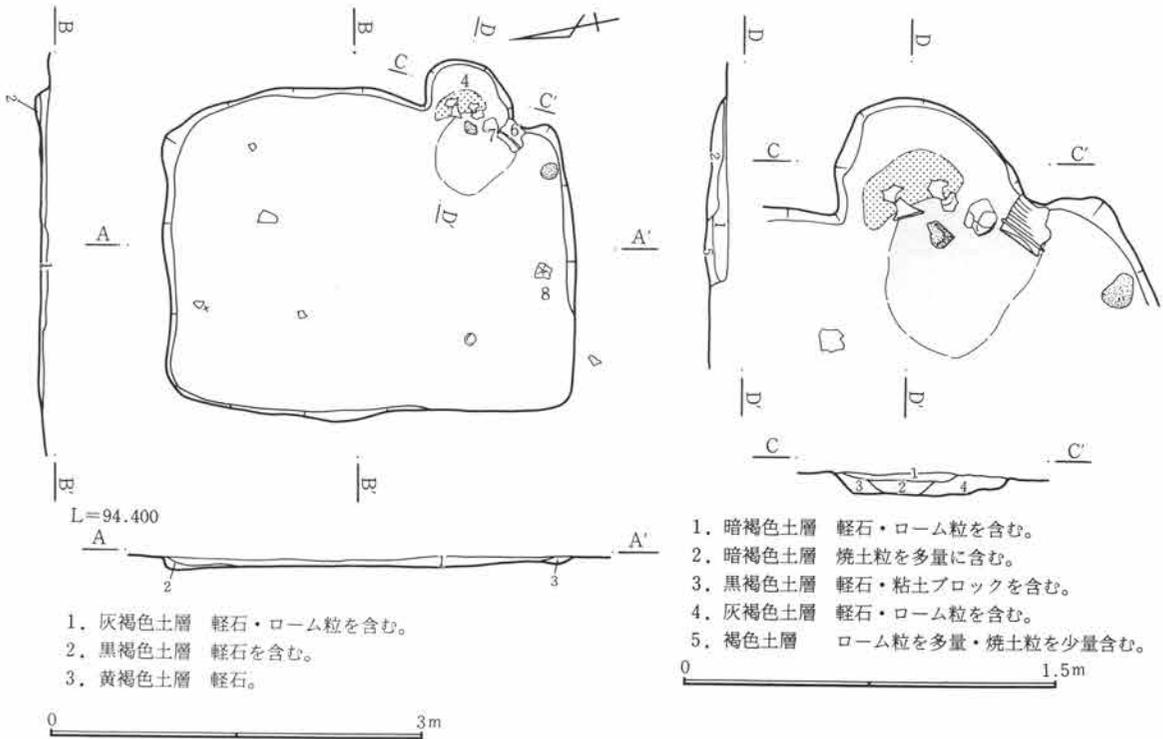
第48表 65号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	(口)12.0	覆土		①還元 ②灰色 ③密 ④口縁部破片
No-2	坏須恵	(口)12.0	覆土	内・外面 煤による黒色付着。	①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	坏須恵	(口)13.8	覆土	口縁部 外反する。	①還元 ②灰色 ③密 ④口縁部破片
No-4	羽釜	(口)21.4	覆土	銚 短く、断面は三角形。口縁部 内傾する。内・外面共にヨコナデ。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁~胴部1/4

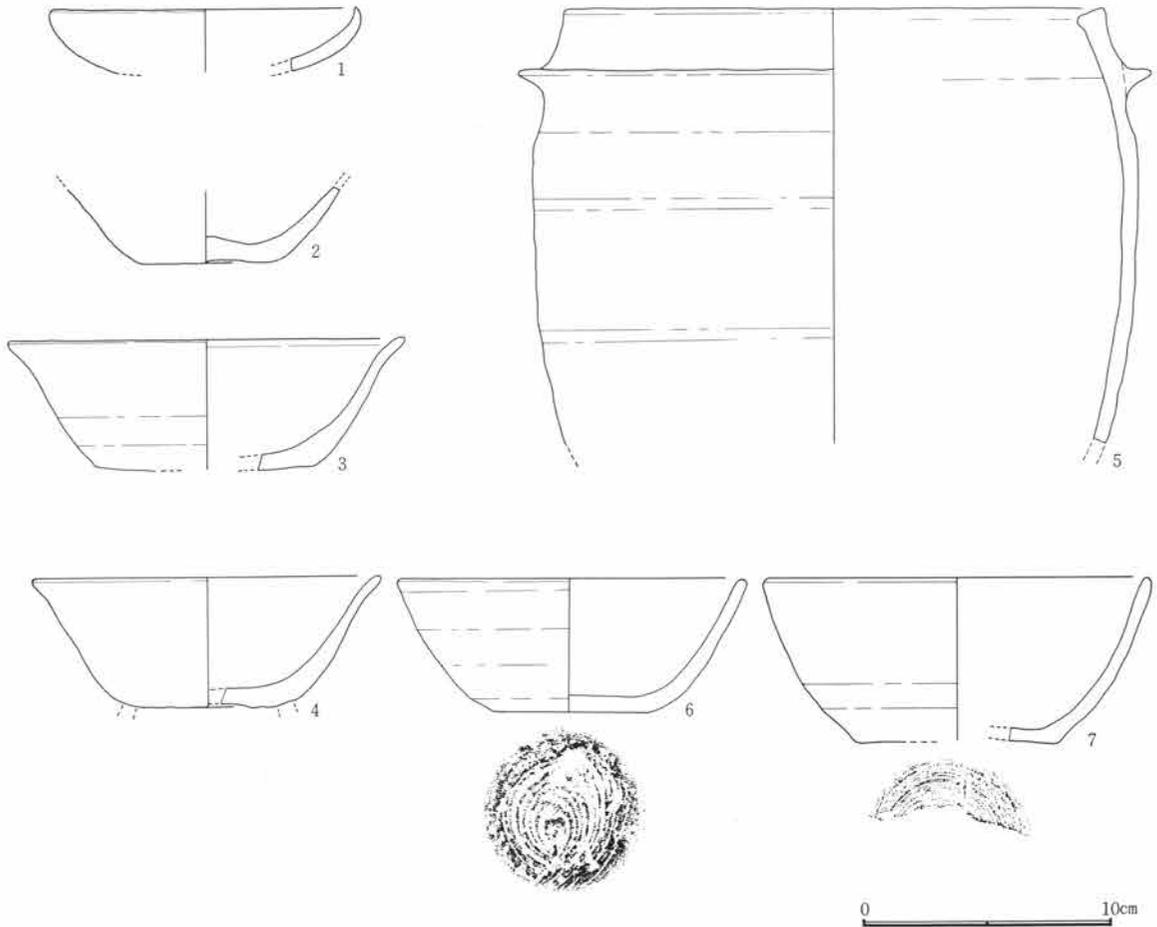
67号住居跡 (第121図、PL10・37・38)

当住居跡はC区北西部に位置し62号住居跡の西にある。他の遺構との関係は65号住居跡・9号掘立柱建物跡と重複している。新旧関係は65号住居跡より旧く9号掘立柱建物跡より新しい。規模は長辺3.6m、短辺2.7mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-114°-Eである。壁高は2~7cmを測る。床面はほぼ平坦をなし中央部9号掘立柱建物跡の上は他の部分より約2cm低くなる。この柱痕の中に約35cm×25cm、深さ約10cmの小穴を検出した。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出した。燃烧部幅約80cm、同長約50cmを測る。燃烧部内に1cmの厚さで炭化物の層が検出された。焼き口の部分より砂岩を検出した。

(1) 竪穴住居跡



第121図 67号住居跡遺構図・竈図



第122図 67号住居跡遺物図

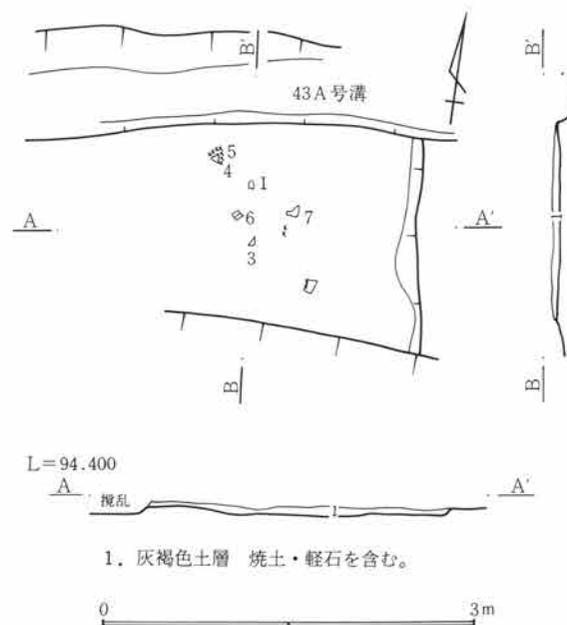
5. 検出された遺構と遺物

第49表 67号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
Na-1	坏土師	(口)12.6	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②にぶい黄褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
Na-2	坏須恵	底-5.4	覆土	底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部残存
Na-3	坏須恵	(口)16.0	覆土	口縁部 外反する。成形は粗雑。	①還元 ②灰白色 ③2~3mmの砂粒含む ④1/2残存
Na-4	坏須恵	(口)14.0	覆土	口縁部 外反する。付高台欠落。	①還元 ②灰白色 ③2~3mmの砂粒含む ④1/2残存
Na-5	羽釜	口-21.5	覆土	銜 やや上を向く。口縁部 厚くなり、内傾する。	①やや酸化 ②黒褐色 ③細砂粒含む ④1/2残存
Na-6	坏須恵	口-14.1 高-6.2 底-5.3	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④1/2残存
Na-7	坏須恵	(口)15.6	覆土	底部 回転糸切り。	①還元 ②灰色 ③2~3mmの砂粒含む ④1/2残存

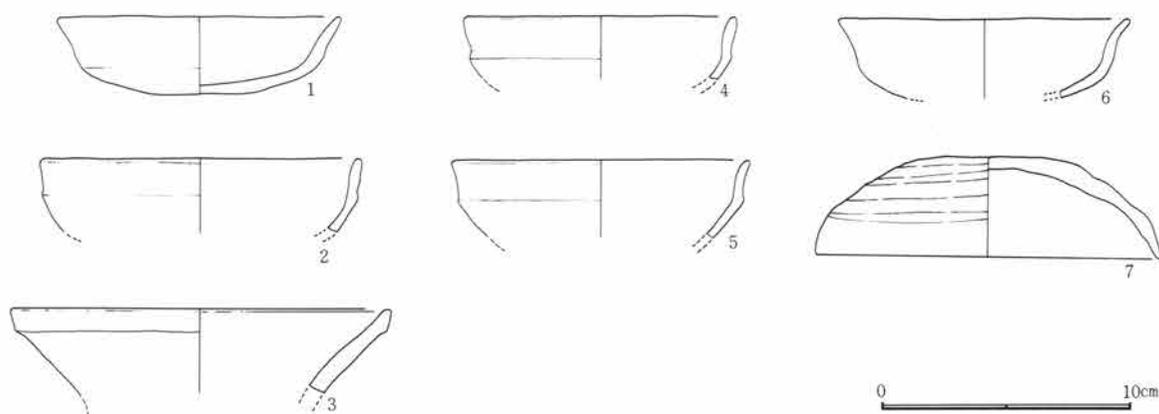
68号住居跡 (第123図、PL38・62)

当住居跡はC区北西部に位置し62号住居跡の南にある。他の遺構との関係は43A号溝と重複している。新旧関係は43A号溝が新しい。当住居跡は遺存状況が悪く貼床と東壁の一部を確認したのみである。壁高は約5~10cmを測り立ち上がる。規模・平面形態・主軸方位は不明である。竈は検出されていないが南東部から焼土を検出した。竈の痕跡と思われる。



第123図 68号住居跡遺構図

## (1) 竪穴住居跡



第124図 68号住居跡遺物図

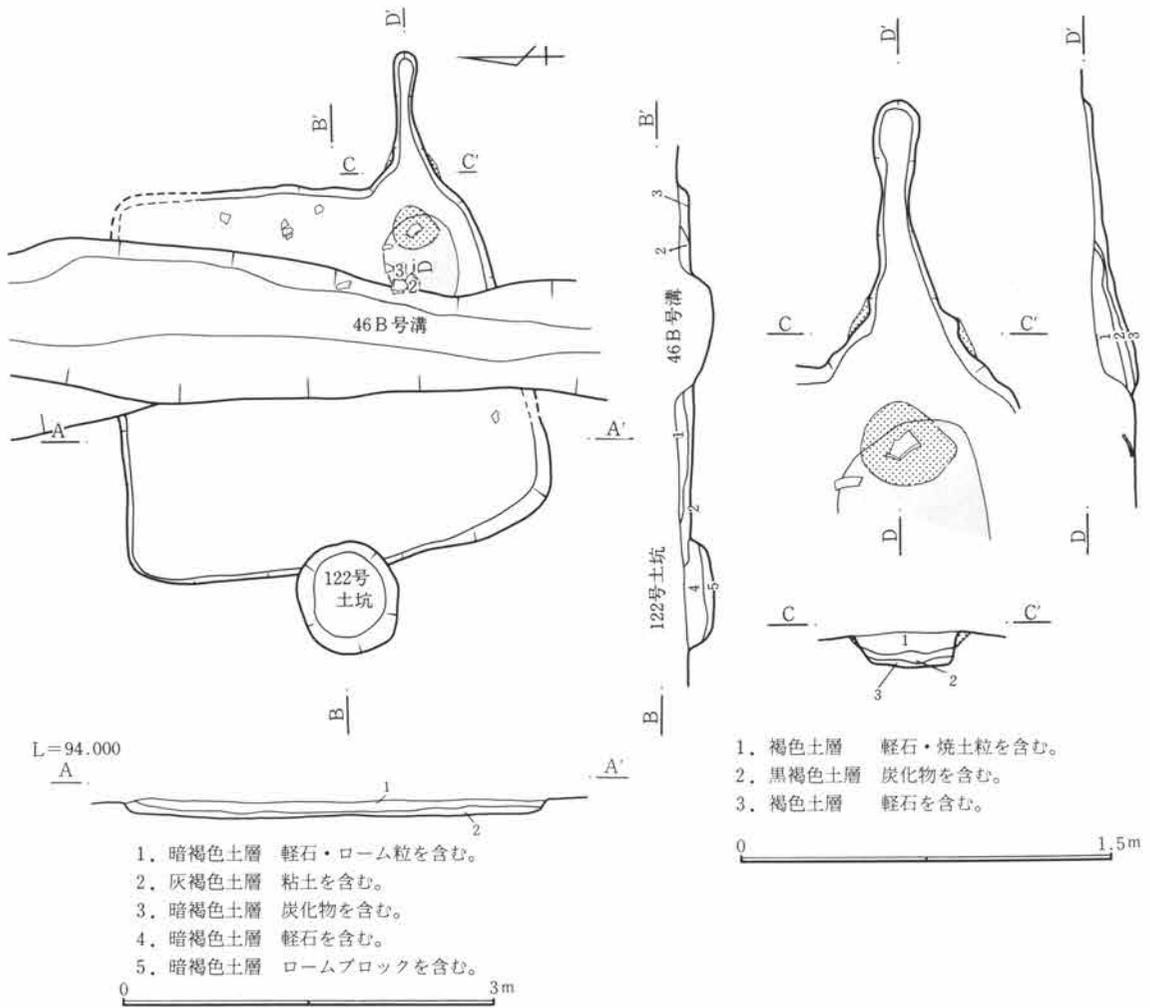
第50表 68号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)11.2 (高)3.1 (底)3.5	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁～底部破片
No-2	坏土師	(口)12.9	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	壺須恵	(口)15.3	覆土		①還元 ②灰白色 ③1～2mmの 砂粒含む ④口縁部破片
No-4	坏土師	(口)11.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-5	坏土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-6	坏土師	(口)11.6	覆土	口縁部 外反する。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒 含む ④口縁部破片
No-7	蓋須恵	(口)13.8 (高)4.0	覆土	外面 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④残存

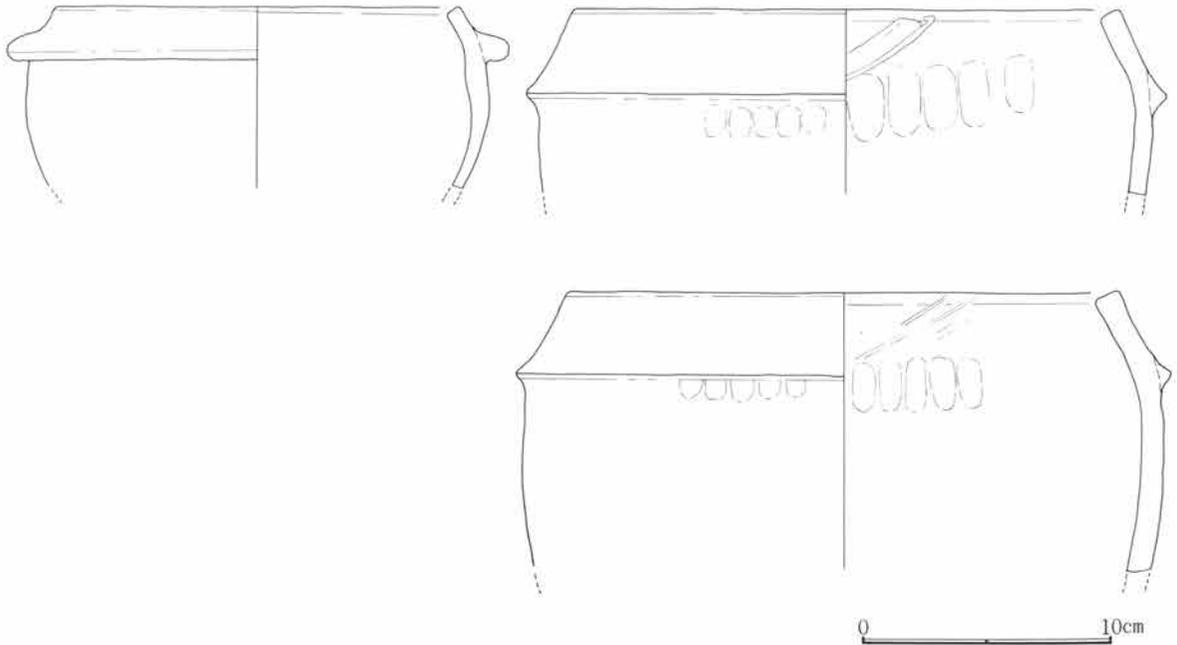
## 69号住居跡 (第125図、PL10・62)

当住居跡はC区北西部に位置し65号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は46B号溝・122号土坑と重複している。新旧関係は46B号溝・122号土坑が新しい。この溝は住居跡の中央を南北に延びており、幅約90cm～120cmをもつ。土坑は西壁中央にあり約80cmの径を持ち深さ約20cmを測る。規模は長辺3.5m、短辺3.2mである。平面形態は正方形に近い形状を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約10cm～15cmを測る。床面は平坦をなし堅く締まっている。壁周溝・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。竈は東壁南端に検出された。燃焼部幅約70cm、同長約40cm、煙道部長約65cmを測る。竈前面に約80cm×約65cmの範囲で焼土・灰の散布が確認された。

5. 検出された遺構と遺物



第125図 69号住居跡遺構図・竈図

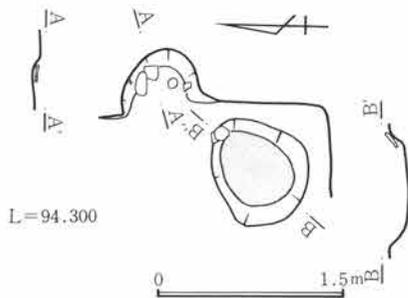


第126図 69号住居跡遺物図

## (1) 竪穴住居跡

第51表 69号住居跡遺物観察表

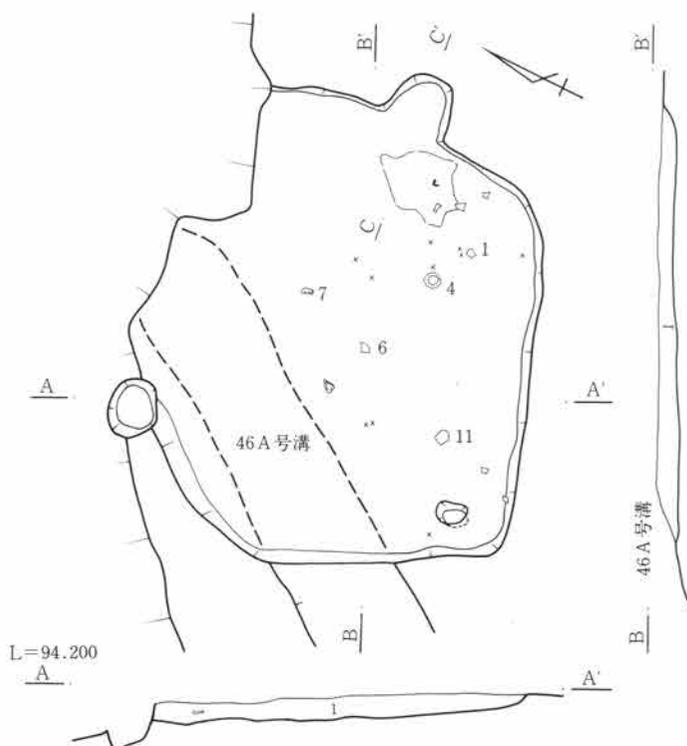
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽釜	(口)16.0	覆土	鈔丸味をもち下を向く。貼付は雑なナデ。	①酸化 ②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部残存
No-2	羽釜	(口)22.0	覆土	鈔短い。鈔下に指頭痕あり。内面ヘラ状工具による雑なナデ。指頭痕あり。	①酸化 ②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	羽釜	(口)22.0	覆土	鈔短い。体部外面は雑なナデ。内面ヘラ状工具による雑なナデ。鈔下・内面に指頭痕。	①酸化 ②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片



第127図 71号住居跡遺構図

## 71号住居跡 (第127図)

当住居跡はC区北西部に位置し69号住居跡の西にある。上面は削平され壁・床面は検出できなかったが竈のみを検出した。規模は燃烧部幅約55cm、同長約40cmを測る。燃烧部内から土器の破片を多く検出した。



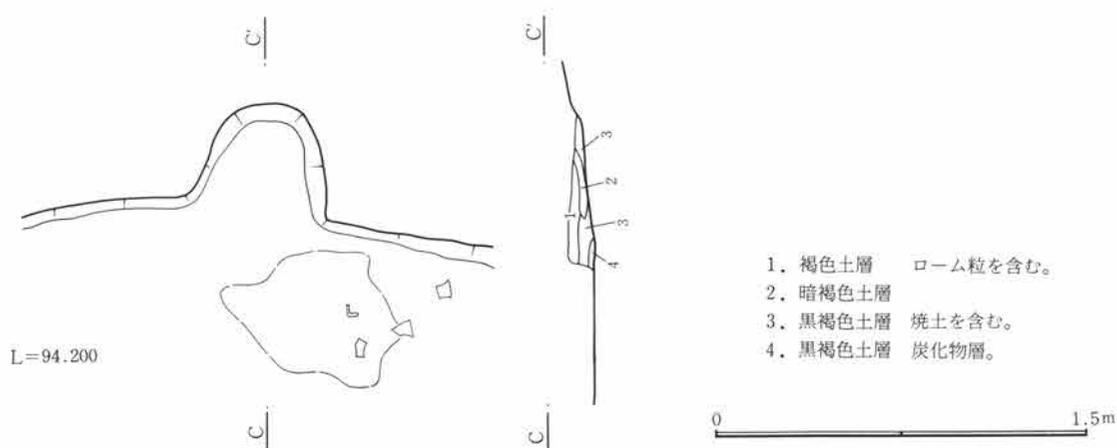
第128図 73号住居跡遺構図

## 73号住居跡 (第128・129図、PL10・38)

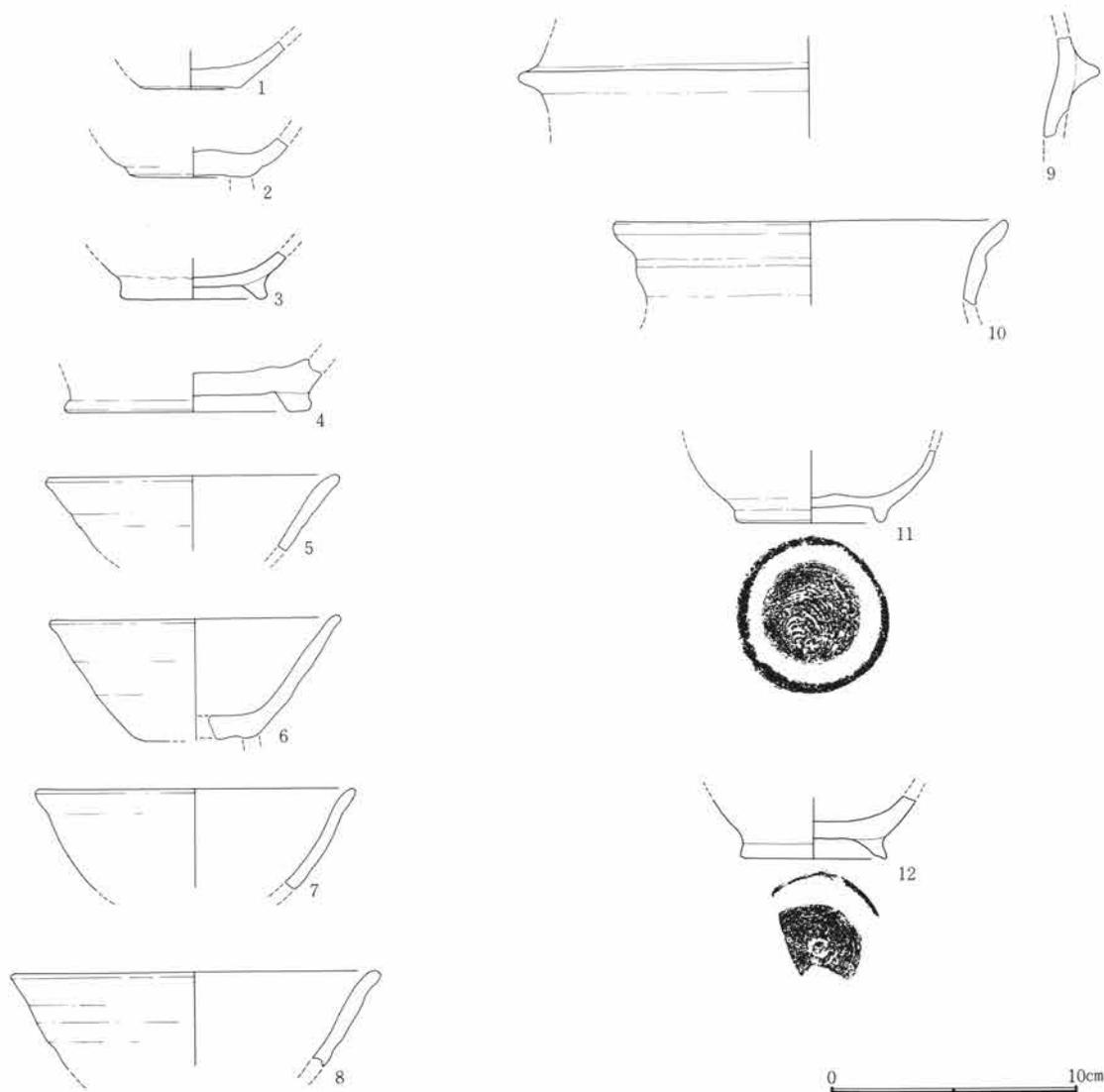
当住居跡はC区北西部端に位置し74号住居跡の西にある。他の遺構との関係は46A号溝と重複している。住居跡西側は染谷川により削平されている。新旧関係は46A号溝が古い。規模は明確には不明であるが東西の壁で3.2mを測る。平面形態は竈の長軸の方向でN-95°-Eである。壁高は約15cm~20cmを測る。床面は平坦をなし壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。燃烧部幅約50cm、同長約45cmを測る。右袖部前に約50cm×50cmの不定形で灰の散布が見られる。

1. 暗褐色土層 軽石多量・炭化物を少量含む。

5. 検出された遺構と遺物



第129図 73号住居跡竈図



第130図 73号住居跡遺物図

## (1) 竪穴住居跡

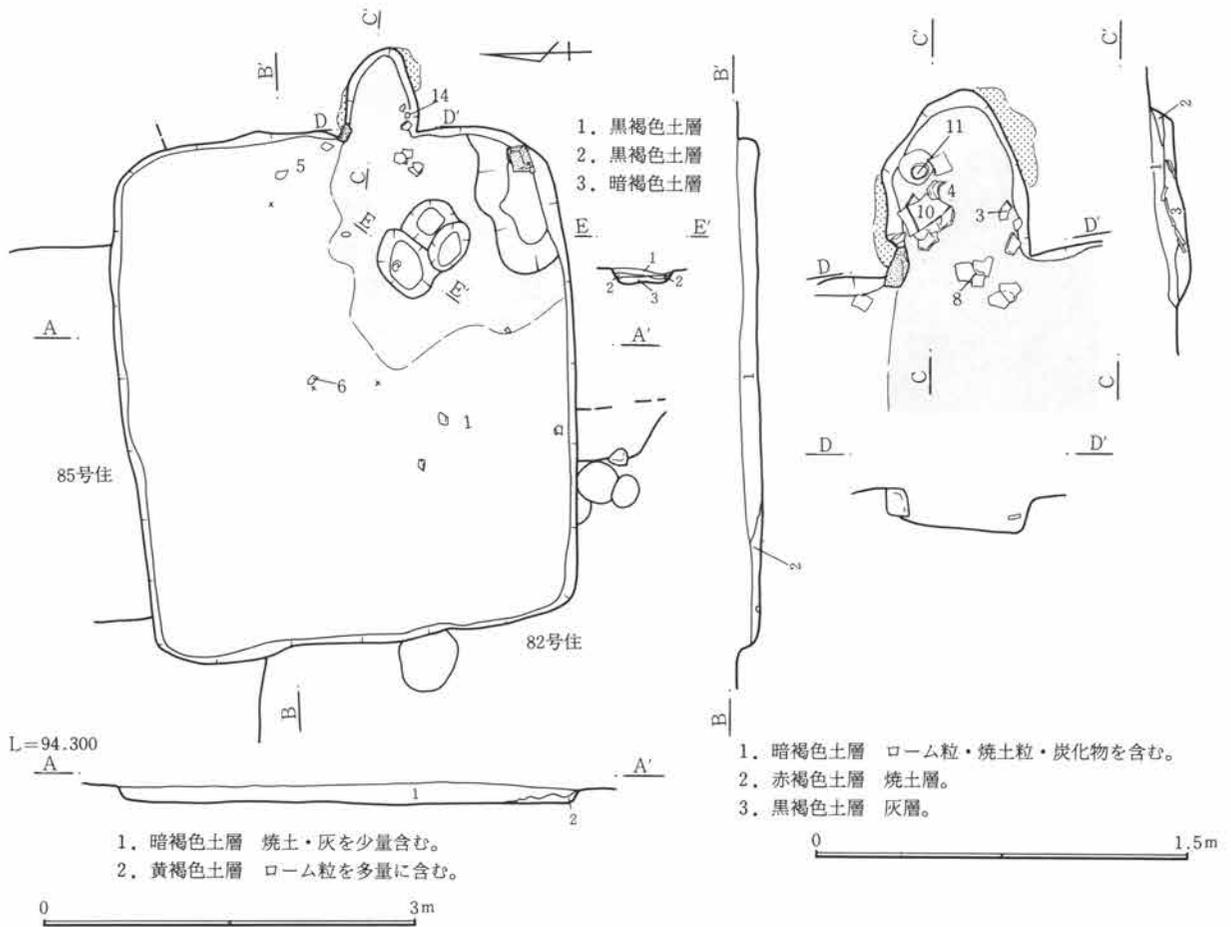
第52表 73号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	(底)4.0	覆土	底部 手持ちへラ調整。	①やや酸化 ②灰褐色 ③2～3mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-2	埴須恵	(底)4.7	覆土	付高台欠落。	①還元 ②灰白色 ③3～4mmの砂粒含む ④底部破片
No-3	埴須恵	(底)6.0	覆土	付高台。	①やや酸化 ②淡橙色 ③1～2mmの砂粒含む ④底部 $\frac{1}{2}$ 残存
No-4	埴須恵	(底)10.4	覆土	付高台。底部 回転へラ調整。	①還元 ②灰白色 ③3～4mmの砂粒含む ④底部破片
No-5	坏須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 外反する。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-6	埴須恵	(口)11.8 (高)5.0 (底)4.5	覆土	口縁部 外反する。	①還元 ②灰白色 ③1～2mmの砂粒含む ④破片
No-7	埴須恵	(口)13.0	覆土	口縁部 やや外反する。	①やや酸化 ②灰白色 ③2～3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-8	坏須恵	(口)15.0	覆土	口縁部 やや外反する。	①やや酸化 ②明灰褐色 ③1～2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-9	羽釜		覆土	鏝 貼付はナデ。	①還元 ②灰褐色 ③2～3mmの砂粒含む ④鏝破片
No-10	甕土師	(口)16.0	覆土	口縁部 外面に稜をもつ。	①酸化 ②橙色 ③1～2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-11	埴須恵	底-6.0	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	①酸化 ②橙色 ③2～3mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-12	埴須恵	(底)6.0	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	①還元 ②灰白色 ③1～2mmの砂粒含む ④底部 $\frac{1}{2}$ 残存

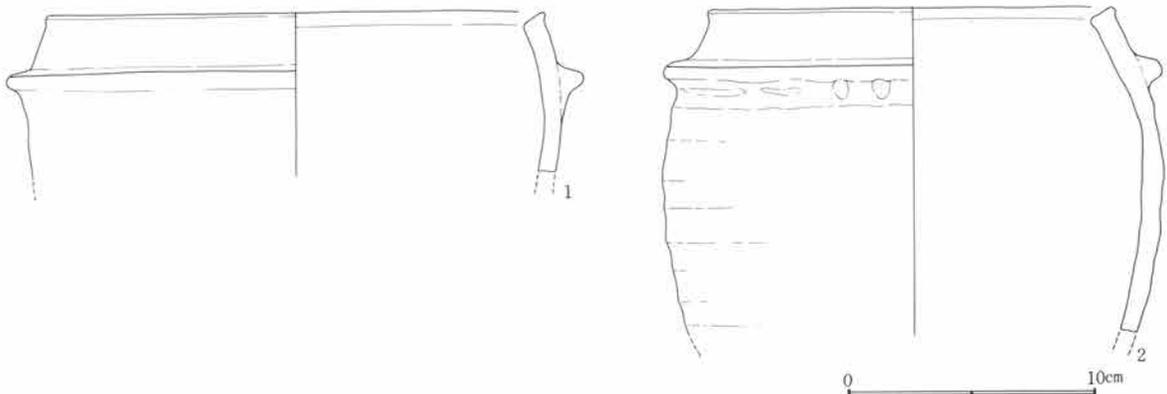
5. 検出された遺構と遺物

75号住居跡 (第131図、PL11・38・62)

当住居跡は染谷川河川改修部とC区北西部の境に位置し73号住居跡の南にある。他の遺構との関係は76・82・85号住居跡と重複関係にある。さらに弥生時代の84号住居跡と重複している。新旧関係は当住居跡が一番新しく82・85号住居跡を壊している。また85号住居跡は76号住居跡を壊している。規模は長辺4.2m、短辺3.8mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-89°-Eである。壁高の遺存は悪く2cmから残りの良いところでも約10cmを測る。床面は平坦をなすが全体的に大きな凹凸がある。南東コーナーにある落ち込みは約100cm×65cm深さ約10cmで竈前に有る小穴も覆土中に灰が充填していた。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。燃焼部幅約50cm、同長約60cmを測る。

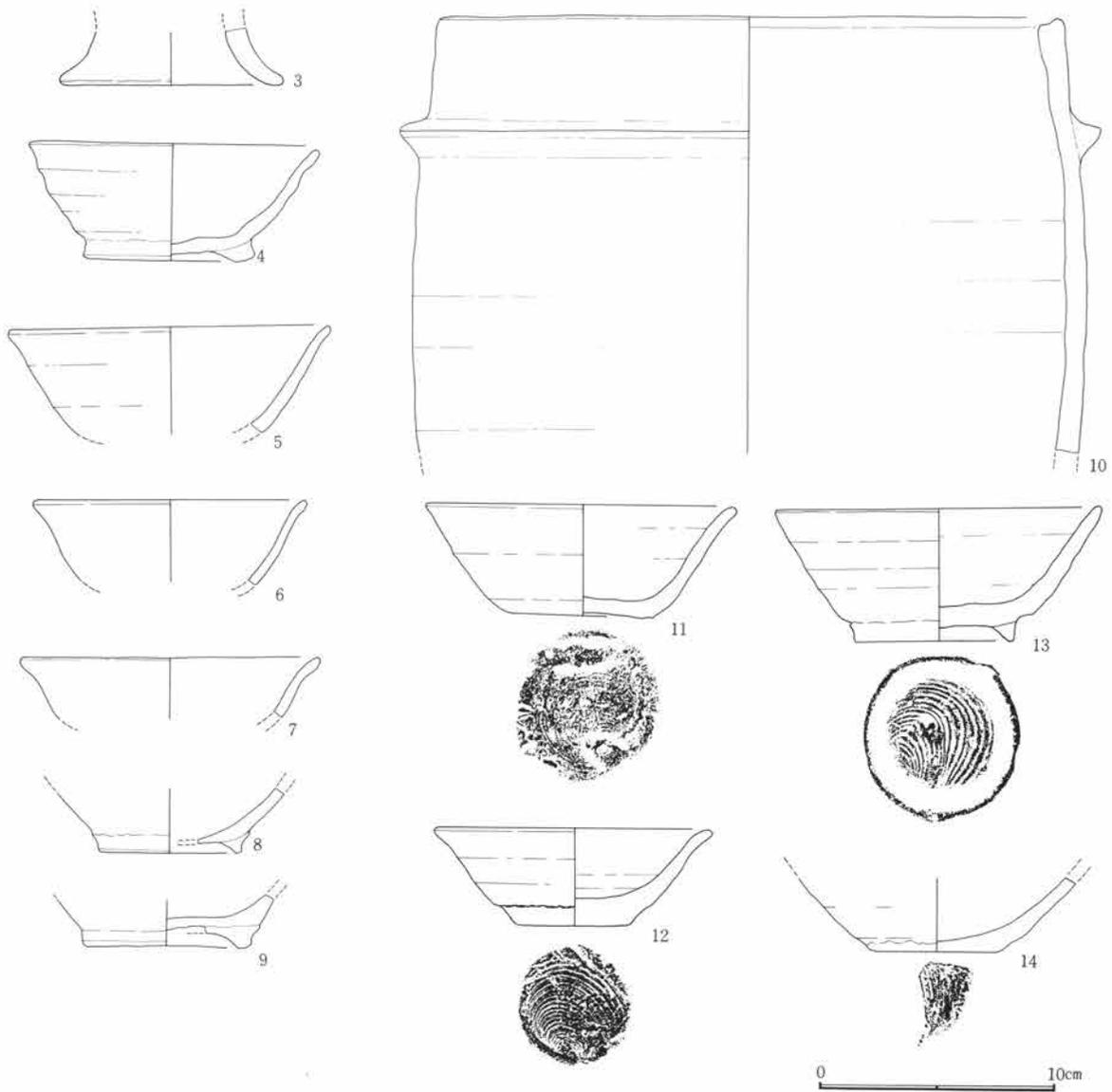


第131図 75号住居跡遺構図・竈図



第132図 75号住居跡遺物図(1)

## (1) 竪穴住居跡



第133図 75号住居跡遺物図(2)

第53表 75号住居跡遺物観察表

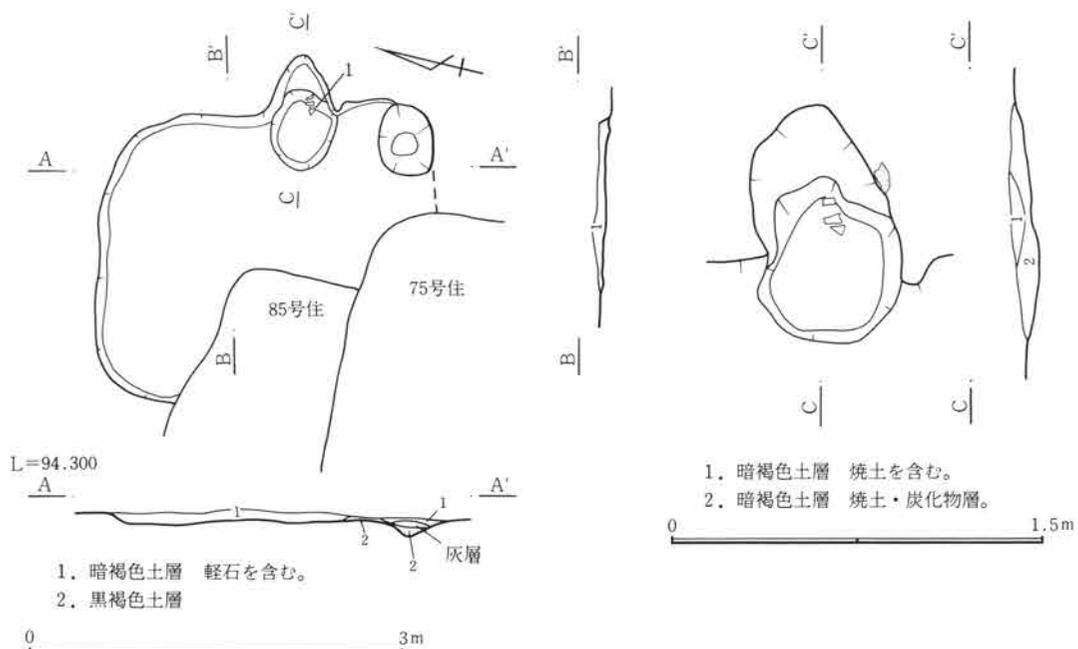
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽釜	(口)20.0	覆土	鏝 下部やや厚くなる。鏝の貼付面 明瞭に残る。	①やや還元 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	羽釜	(口)16.4	覆土	やや小型。鏝 短く、断面端部に丸味をもつ。鏝下に指頭痕あり。口縁部 小さい稜あり。	①やや酸化 ②灰褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④1/4残存
No-3	高台部須恵	(口)9.4	覆土	高台部 大きく外反する。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-4	埴須恵	(口)12.0 (高)5.0 (底)7.2	覆土	付高台。器面は成形痕明瞭で、雑なつくり。	①酸化 ②にぶい橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④破片
No-5	埴須恵	(口)13.6	覆土	口縁部 外反する。	①還元 ②灰白色 ③2~3mmの砂粒含む ④1/4残存

5. 検出された遺構と遺物

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-6	坏須恵	(口)11.6	覆土	口縁部 外反する。	①やや酸化 ②灰褐色 ③3~4mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-7	坏土師	(口)12.6	覆土	口縁部 外反する。	①酸化 ②にぶい橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-8	埴土師	(底)6.0	覆土	付高台の外面に高台部貼付痕明瞭に残る。	①酸化 ②明褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-9	埴土師	(底)7.0	覆土	付高台。高台部貼付痕明瞭に残る。	①酸化 ②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④底部残存
No-10	羽釜	(口)26.2	覆土	鏝 短く、貼付は雑。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③4~5mmの砂粒含む ④残存
No-11	坏須恵	口-13.2 高-4.6 底-6.2	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。口縁部 外反する。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④完形
No-12	坏須恵	口-12.0 高-4.0 底-5.0	覆土	底部 回転糸切り。口縁部 外反する。	①やや酸化 ②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④完形
No-13	埴須恵	口-13.7 高-5.5 底-6.7	覆土	付高台。底部 回転糸切り。右廻り。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-14	坏須恵	(底)5.4	覆土	底部 貼付状で、糸切痕あり。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④底部破片

76号住居跡 (第134図、PL11)

当住居跡は75号住居跡と重複しており南西部を75号住居跡に壊され、西側一部を85号住居跡に壊されている。規模は不明であるが東西長約2.4mを測る。竈長軸方位でN-79°-Eである。壁高は約10cmを測る。床面は平坦をなし壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁中央に検出された。燃焼部幅約50cm、同長約55cmを測る。



(1) 竪穴住居跡



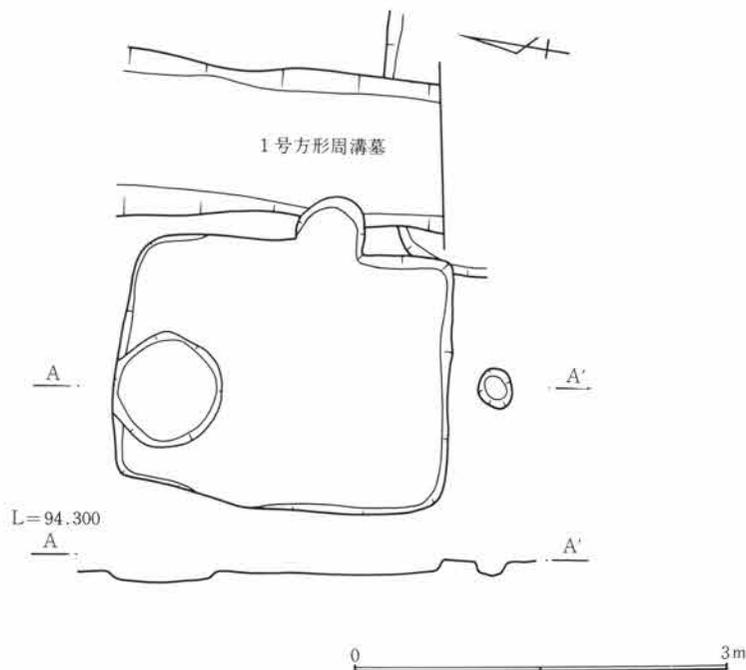
第135図 76号住居跡遺物図

第54表 76号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴須恵	(底)6.4	覆土	付高台。高台部は押し潰れている雑な成形。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片

78号住居跡 (第136図、PL11)

当住居跡はC区北西部に位置し74号住居跡の東にある。他の遺構との重複関係はない。竈の一部が1号方形周溝墓の上にある。規模は長辺2.8m、短辺2.2mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-88°-Eである。壁高は約5cmを測る。床面は約10cmの比高を持ち南側が高くなる。西壁に接して径約90cm、深さ約5cmの落ち込みを検出した。竈は東壁やや南寄りに検出された。燃烧部幅約50cm、同長約40cmを測る。

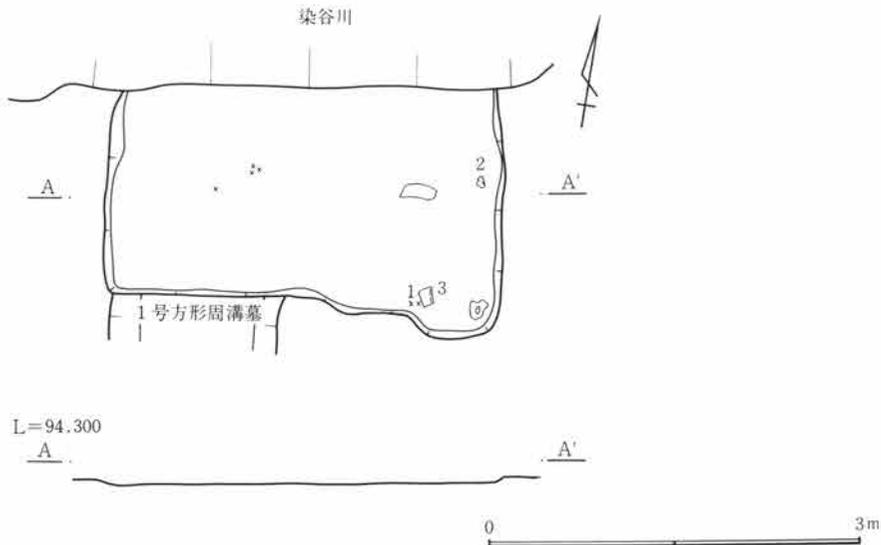


第136図 78号住居跡遺構図

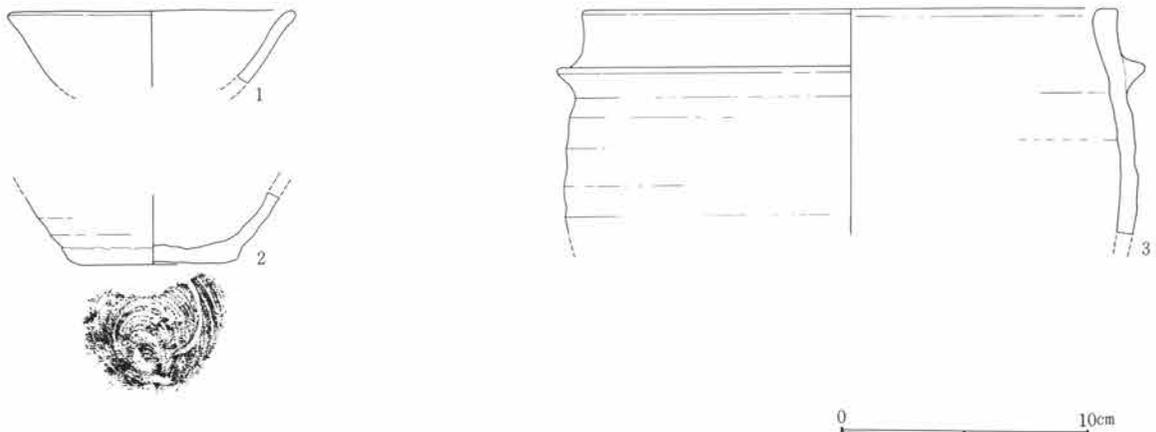
5. 検出された遺構と遺物

79号住居跡 (第137図、PL11・38・63)

当住居跡はC区北西部端に位置し78号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は1号方形周溝墓の上に構築している。北側は染谷川により削平されている。規模・主軸方位・平面形態などは不明であるが東西長で約3.2mを測る。壁高は4～5cmで床面は凹凸が多い。竈は検出されていない。



第137図 79号住居跡遺構図



第138図 79号住居跡遺物図

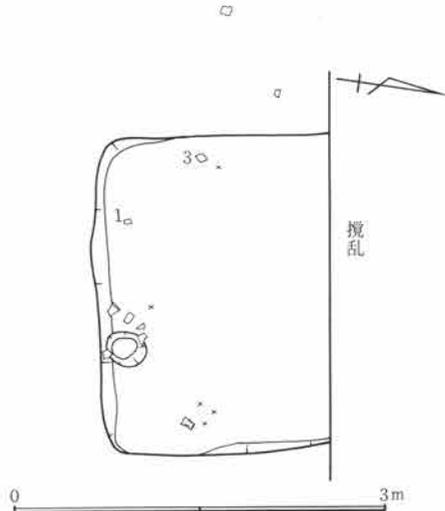
第55表 79号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
Na-1	坏土師	(口)11.6	覆土	口縁部 やや外反する。	①酸化 ②にぶい橙色 ③2～3mmの砂粒含む ④口縁部破片
Na-2	碗須恵	(底)6.0	覆土	底部 貼付状で糸切り。左廻り。	①やや酸化 ②灰褐色 ③2～3mmの砂粒含む ④底部のみ残存
Na-3	羽釜	(口)21.6	覆土	鈿 短くやや上を向く。口縁部 わずかに外反する。	①還元 ②灰色 ③5～6mmの砂粒含む ④口縁部残存

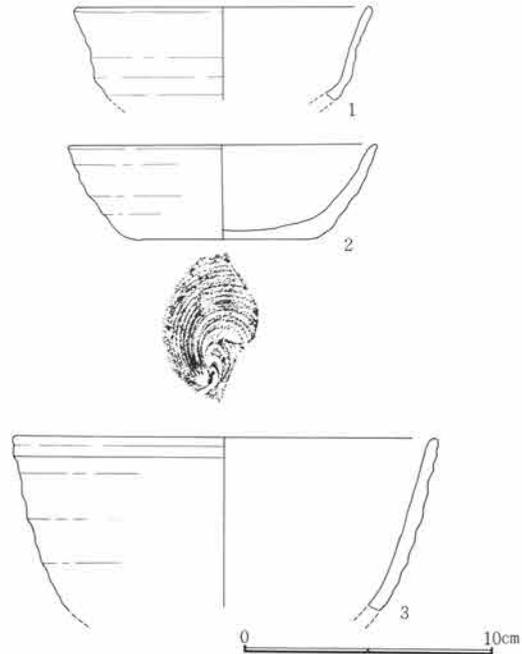
(1) 竪穴住居跡

80号住居跡 (第139図、PL11・38)

当住居跡はC区北西部に位置し79号住居跡の東にある。他の遺構との関係は9号掘立柱建物跡と重複している。新旧関係は80号住居跡が新しい。また北側は近代の耕作により攪乱を受けている。壁高は約10cmを測る。床面は約10cmの比高をもち南側が高い。竈は検出されていない。



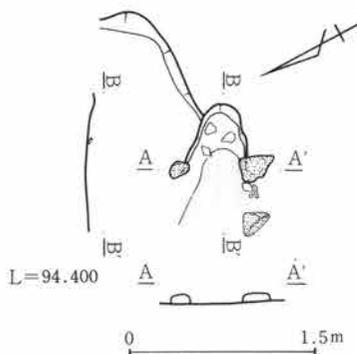
第139図 80号住居跡遺構図



第140図 80号住居跡遺物図

第56表 80号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴須恵	(口)12.0	覆土	轆轤成形痕、明瞭に残る。	①還元 ②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏須恵	(口)12.4 (高)3.8 (底)4.2	覆土	轆轤成形痕、外面に明瞭に残る。底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④1/3残存
No-3	鉢須恵	(口)17.0	覆土	轆轤成形痕、外面に明瞭に残る。口縁部に稜を持つ。	①やや酸化 ②灰黄色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

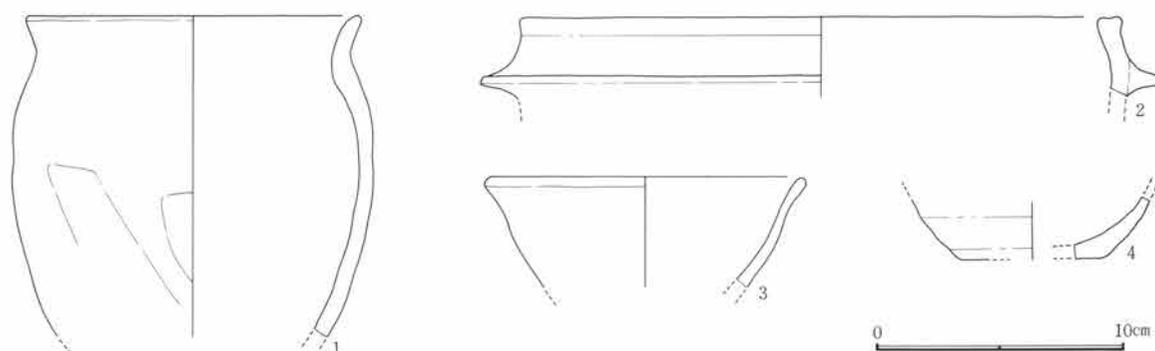


第141図 81号住居跡竈図

81号住居跡 (第141図、PL11・38・63)

当住居跡はC区北西部に位置し69号住居跡の北にある。住居跡のプランは不明であり弥生時代83号住居跡の南壁に竈のみを検出した。主軸方位は竈長軸でN-123°-Eである。袖幅約50cm、燃烧部長約60cmを測る。両袖には凝灰岩の石を検出した。

5. 検出された遺構と遺物



第142図 81号住居跡遺物図

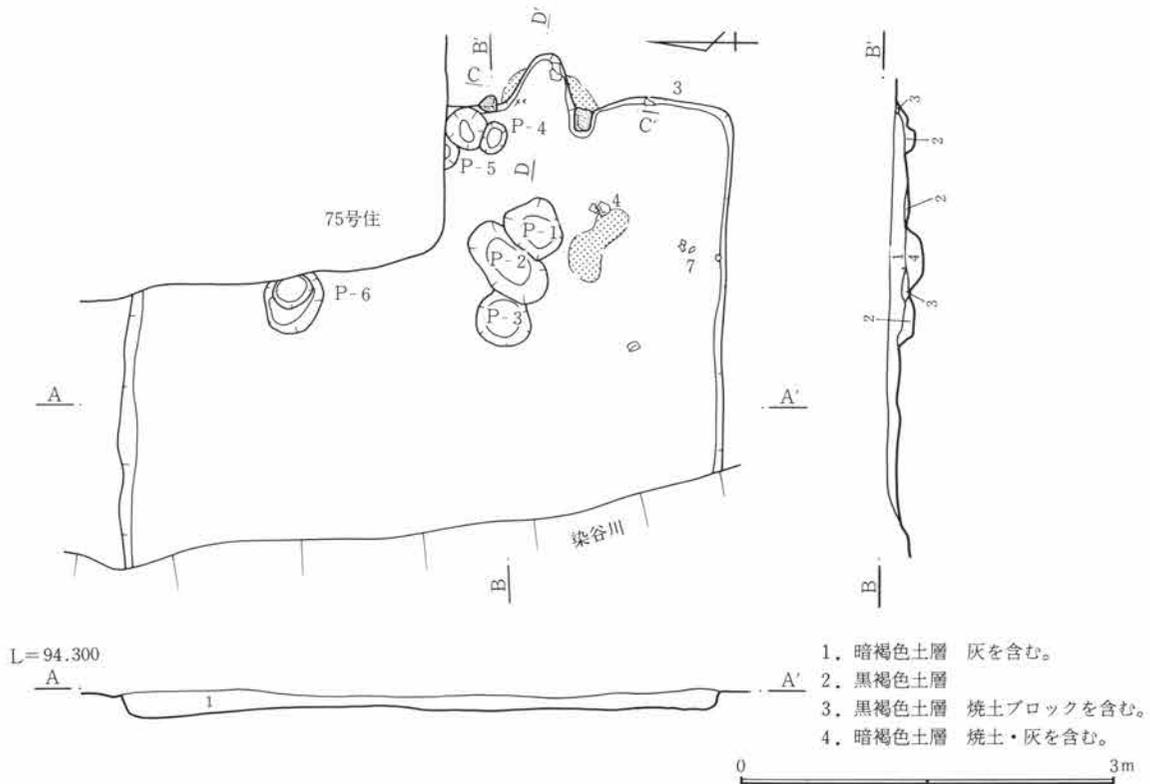
第57表 81号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	甕 土師	(口)13.4	覆土	口縁部 ヨコナデ。胴部 外面ヘラナデ。内面ナデ。	①やや還元 ②青灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁~胴部破片
No-2	羽釜	(口)24.0	覆土	口縁部 厚みをもちやや内湾する。罫は丁寧な貼付。	①やや酸化 ②灰黄褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	碗 須恵	(口)13.0	覆土	口縁部 やや外反する。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部残存
No-4	坏 土師	(底)5.8	覆土	内・外面 ナデ。	①酸化 ②明褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④底部破片

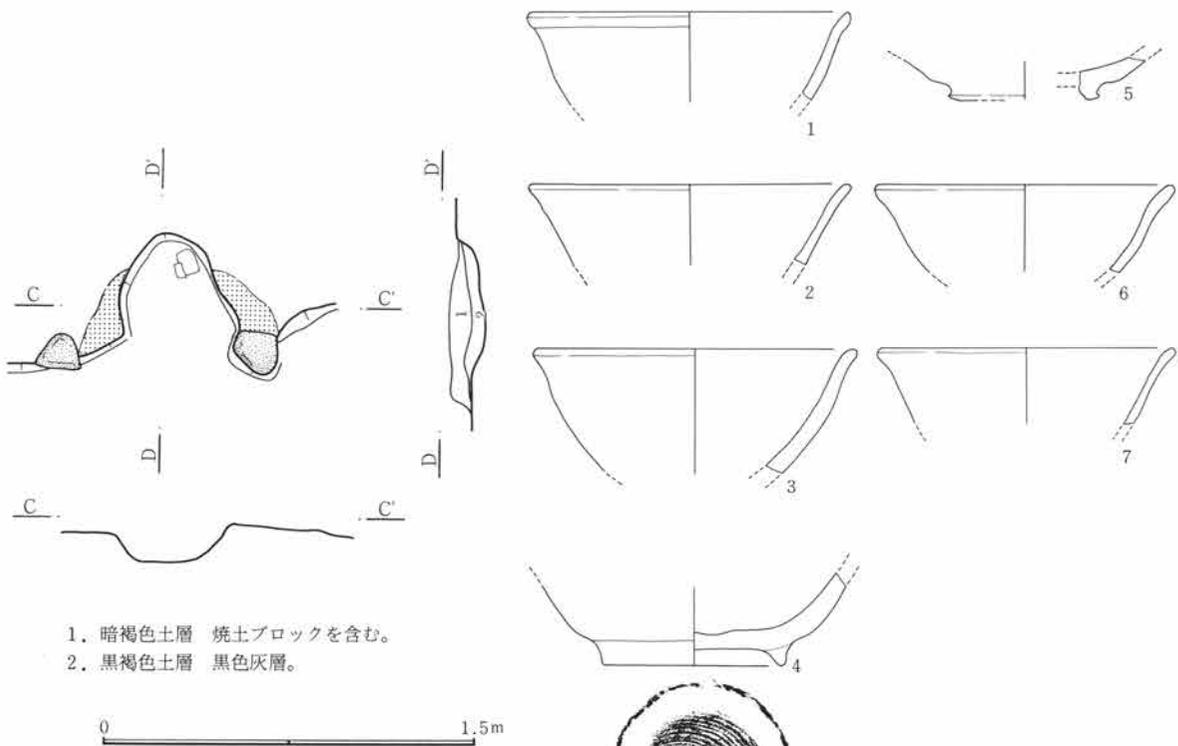
82号住居跡 (第143・144図、PL11・38)

当住居跡は染谷川河川改修区とC区の境に位置し73号住居跡の南にある。他の遺構との関係は75・85号住居跡と重複している。新旧関係は75号住居跡より旧く、85号住居跡より新しい。西半部は染谷川により削平されている。規模・平面形態は不明であるが南北長約47.3mを測る。主軸方位は竈の長軸でN-102°-Eである。壁高は約10cm~20cmを測り、垂直に立ち上がる。床面は平坦をなす。小穴は6基確認され、図のようにNo.1~6の番号を付けた。各々の規模はNo.1 約55cm×35cm、深さ約25cm、No.2 約75cm×45cm、深さ約15cm、No.3 約45cm×40cm、深さ約10cm、No.4 25cm×20cm、深さ約7cm、No.5 30cm×30cm、深さ約10cm、No.6 55cm×50cm、深さ約20cmを測る。各々の小穴は配置や深さなどから柱穴・あるいは貯蔵穴とは考えられない。竈は東壁に検出された。袖幅約80cm、燃烧部長約50cmを測る。右袖部からは砂岩が検出され、左袖からは円礫が半分に分かれた状態で検出された。この石は焼けた跡が全く見られない。

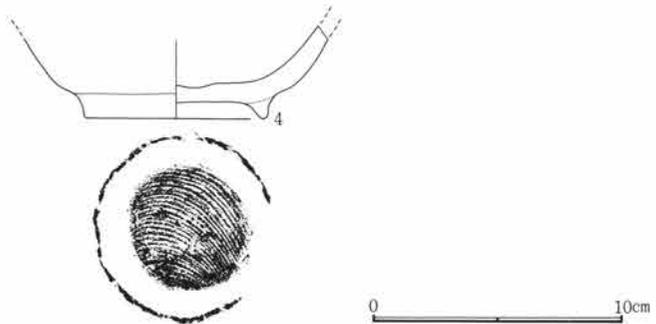
(1) 竪穴住居跡



第143図 82号住居跡遺構図



第144図 182号住居跡竈図



第145図 82号住居跡遺物図

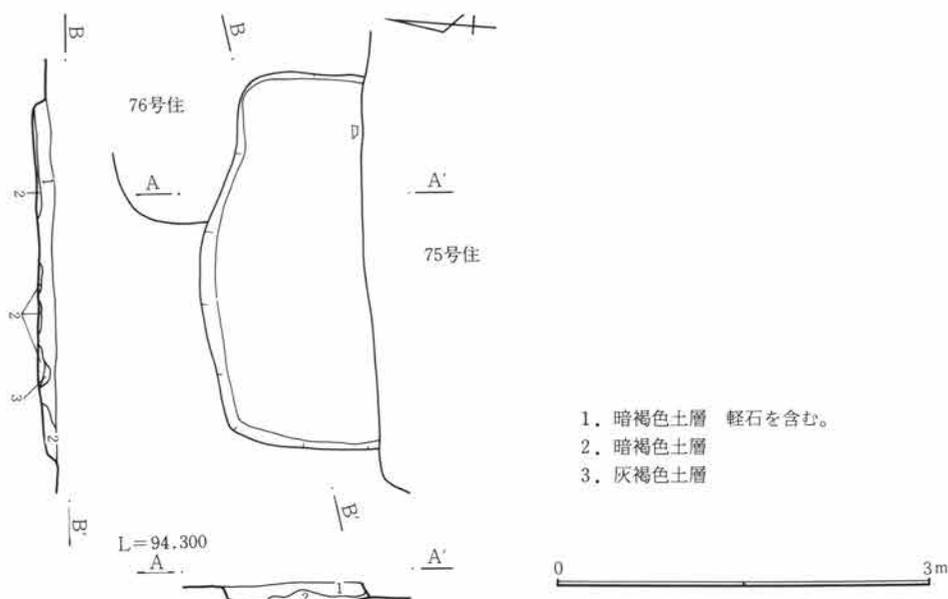
5. 検出された遺構と遺物

第58表 82号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
Na-1	坏須恵	(口)13.0	覆土	口縁部 やや外反する。粗雑な整形。	①やや酸化 ②浅黄色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
Na-2	坏須恵	(口)13.0	覆土	内・外面共にナデ。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
Na-3	坏須恵	(口)13.0	覆土	口縁部 やや外反する。	①還元 ②灰色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
Na-4	埴須恵	(底)7.3	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③3~4mmの砂粒含む ④底部破片
Na-5	埴須恵	(底)6.0	覆土	付高台。高台中央部に稜をもつ。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④底部破片
Na-6	坏須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 やや外反する。内・外面共黒色付着。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
Na-7	坏須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 やや外反する。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

85号住居跡 (第146図)

当住居跡は染谷川河川改修区とC区の境に位置し73号住居跡の南にある。他の遺構との関係は75・76号住居跡と重複している。新旧関係は76号住居跡より新しく、75号住居跡より古い。南半部は75号住居跡により削平されている。壁高は約10cmを測り、床面は平坦である。竈は検出されていない。

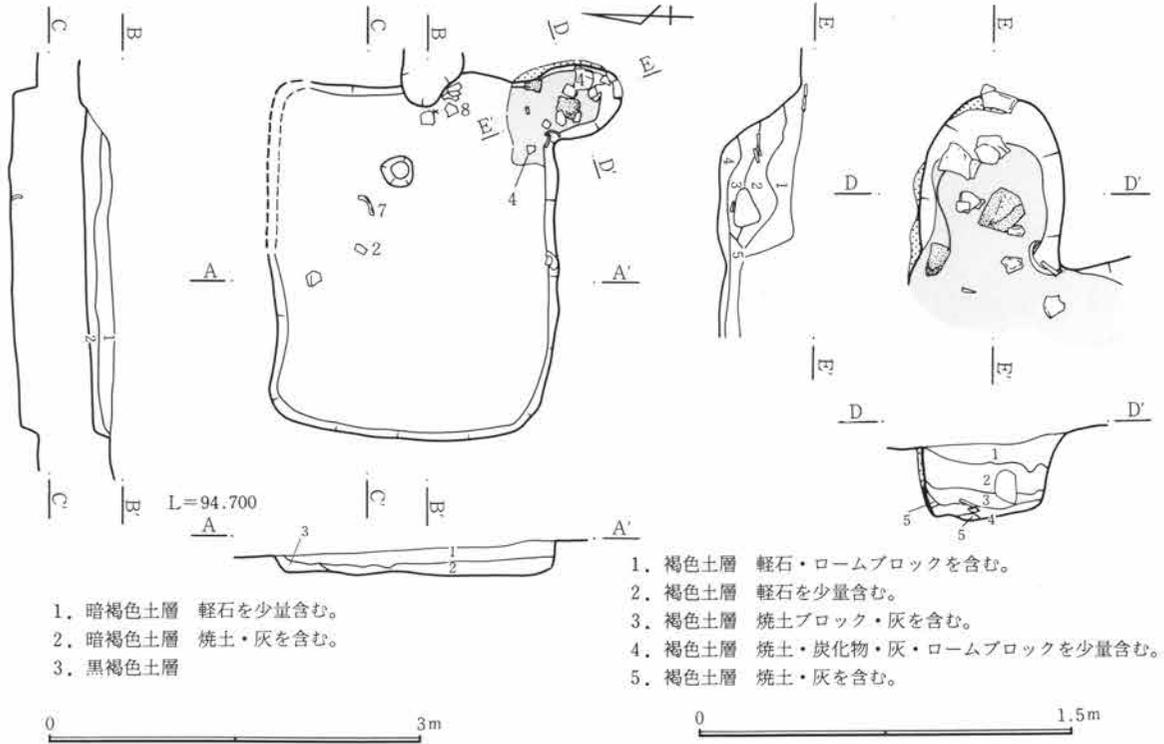


第146図 85号住居跡遺構図

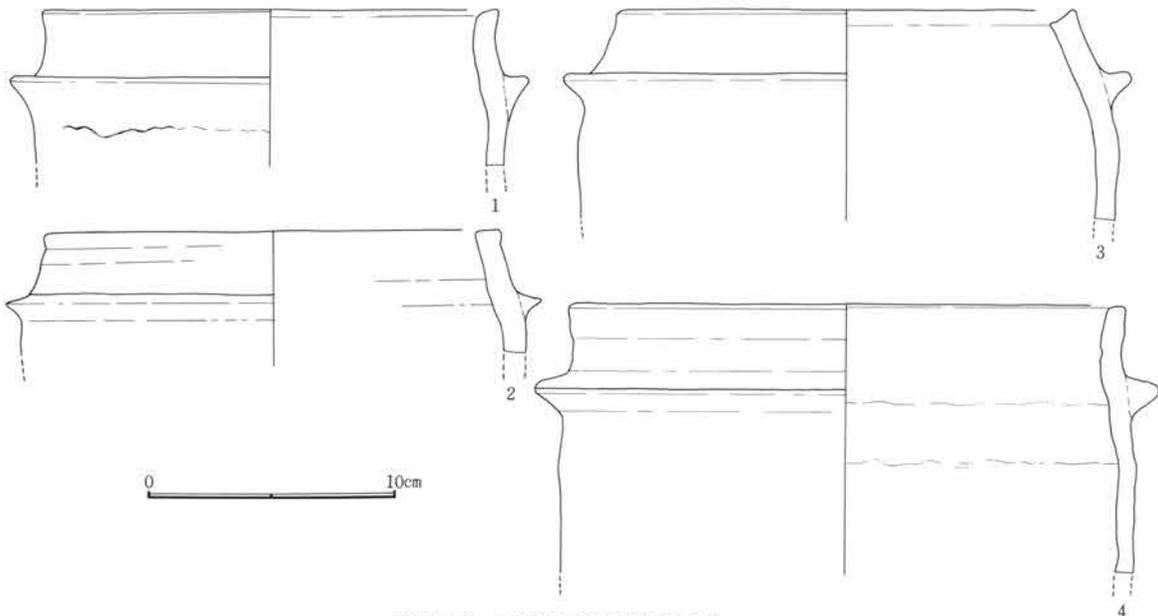
(1) 竪穴住居跡

87号住居跡 (第147図、PL12・38・63・70)

当住居跡はC区ほぼ中央に位置し10号掘立柱建物跡の東にある。この区域は他の遺構は少なく遺構の希薄な部分である。南西部は攪乱により壁・床が壊されている。規模は長辺2.9m、短辺2.2mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-3°-Eである。壁高は約7cm~14cmを測る。床面は平坦をなす。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。長軸は大きく南にずれている。袖幅約50cm、燃烧部幅約70cmを測り、左袖部・燃烧部内より石が検出された。



第147図 87号住居跡遺構図・竈図



第148図 87号住居跡遺物図(1)

5. 検出された遺構と遺物



第149図 87号住居跡遺物図(2)

## (1) 竪穴住居跡

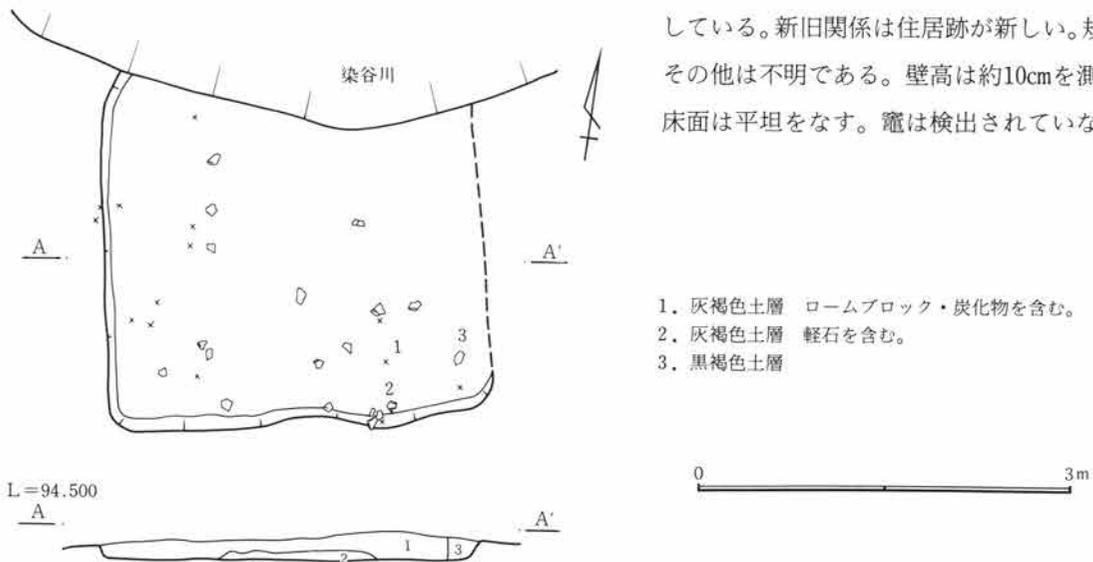
第59表 87号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽釜	(口)18.4	覆土	鏝上を向き、鏝下の貼付痕明瞭に残る。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	羽釜	(口)18.4	覆土	鏝断面三角形。口縁部はやや内傾する。	①還元 ②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	羽釜	(口)18.4	覆土	鏝やや上を向く。口縁部は内傾する。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽釜	(口)22.2	覆土	口縁部厚くなる。内・外面に、輪積痕明瞭に残り、雑な整形。	①やや酸化 ②灰褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-5	皿 須恵	口-12.1 高-4.5 底-5.9	覆土	内・外面共に横ナデ。やや高めの付高台。底面 糸切り後。	①やや酸化 ②明橙色 ③細砂粒・金雲母含む ④底部欠損
No-6	埴 須恵	(口)18.0	覆土	口縁端部 外反する。体部 内・外面共ナデ。外面下部 ヘラケズリ。	①還元 ②灰色 ③密 ④1/2残存
No-7	羽釜	(口)21.0	覆土	口縁部 やや厚く、外反する。鏝上を向く。	①やや酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部1/2残存
No-8	羽釜	(口)22.0	覆土	口縁部 やや内傾する。鏝短く、丁寧な貼付。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-9	羽釜	(口)22.0	覆土	口縁部 やや外反する。鏝短い。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-10	丸瓦	瓦観察表、2類-A No 1参照			

## 89号住居跡 (第150図、PL12・63)

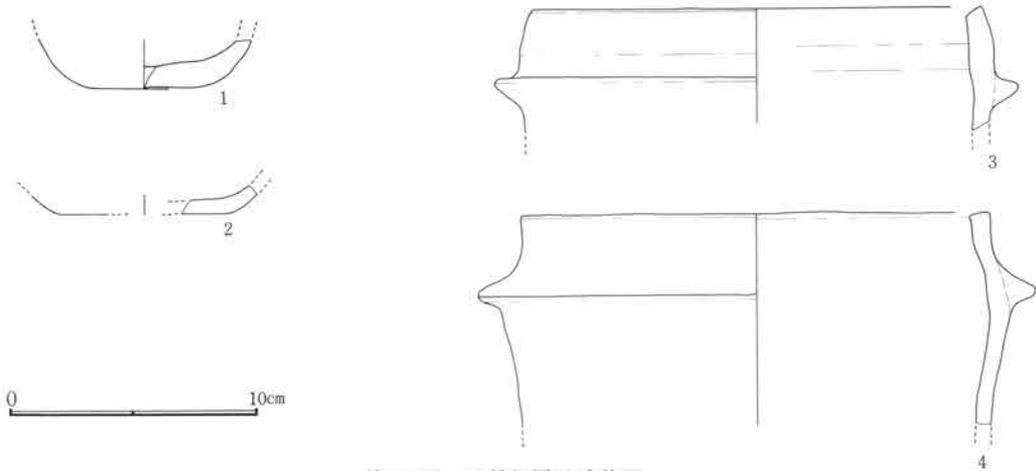
当住居跡はC区北西端部に位置し8号掘立柱建物跡の北東にある。北半部を染谷川により削平されている。

他の遺構との関係は11号掘立柱建物跡と重複している。新旧関係は住居跡が新しい。規模・その他は不明である。壁高は約10cmを測る。床面は平坦をなす。竈は検出されていない。



第150図 89号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



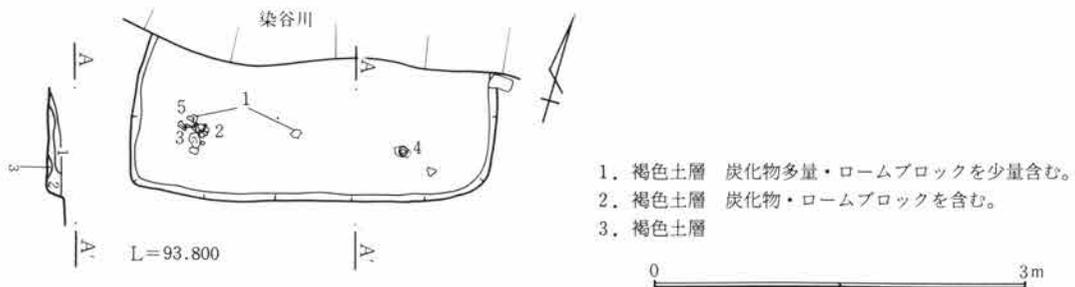
第151図 89号住居跡遺物図

第60表 89号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	(底)4.2	覆土	底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②にぶい黄褐色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-2	碗須恵	(底)6.8	覆土	底部 回転糸切り。付高台欠落。	①還元 ②灰色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-3	羽釜	(口)18.0	覆土	鈷 上を向き、丁寧なナデ。	①やや酸化 ②灰褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽釜	(口)18.8	覆土	鈷 下を向き、丁寧なナデ。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

90号住居跡 (第152図、PL38・63)

当住居跡はC区北部に位置し89号住居跡の東にある。北半部は染谷川により削平されている。他の遺構との重複関係はない。規模・平面形態は不明であるが東西の壁長は2.9mを測る。壁高は約5cmであり、床面は平坦をなす。

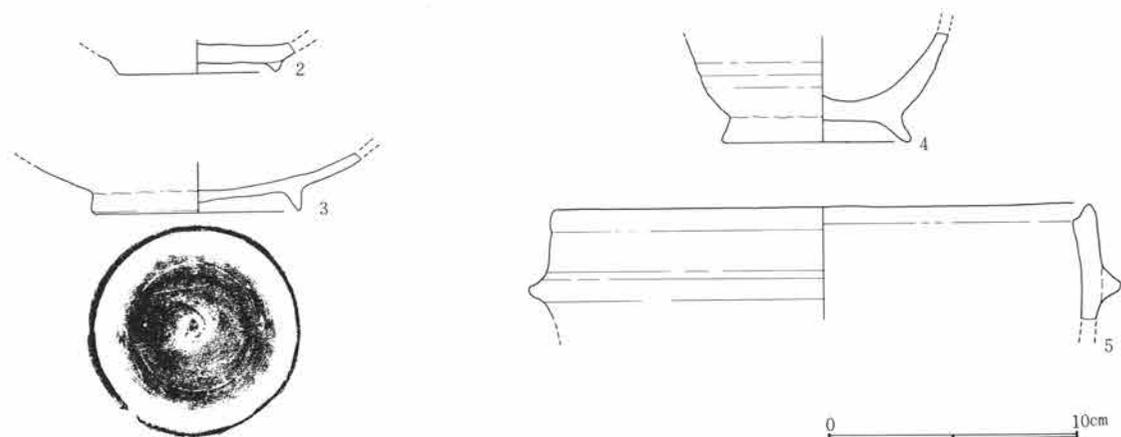


第152図 90号住居跡遺構図



第153図 90号住居跡遺物図(1)

## (1) 竪穴住居跡



第154図 90号住居跡遺物図(2)

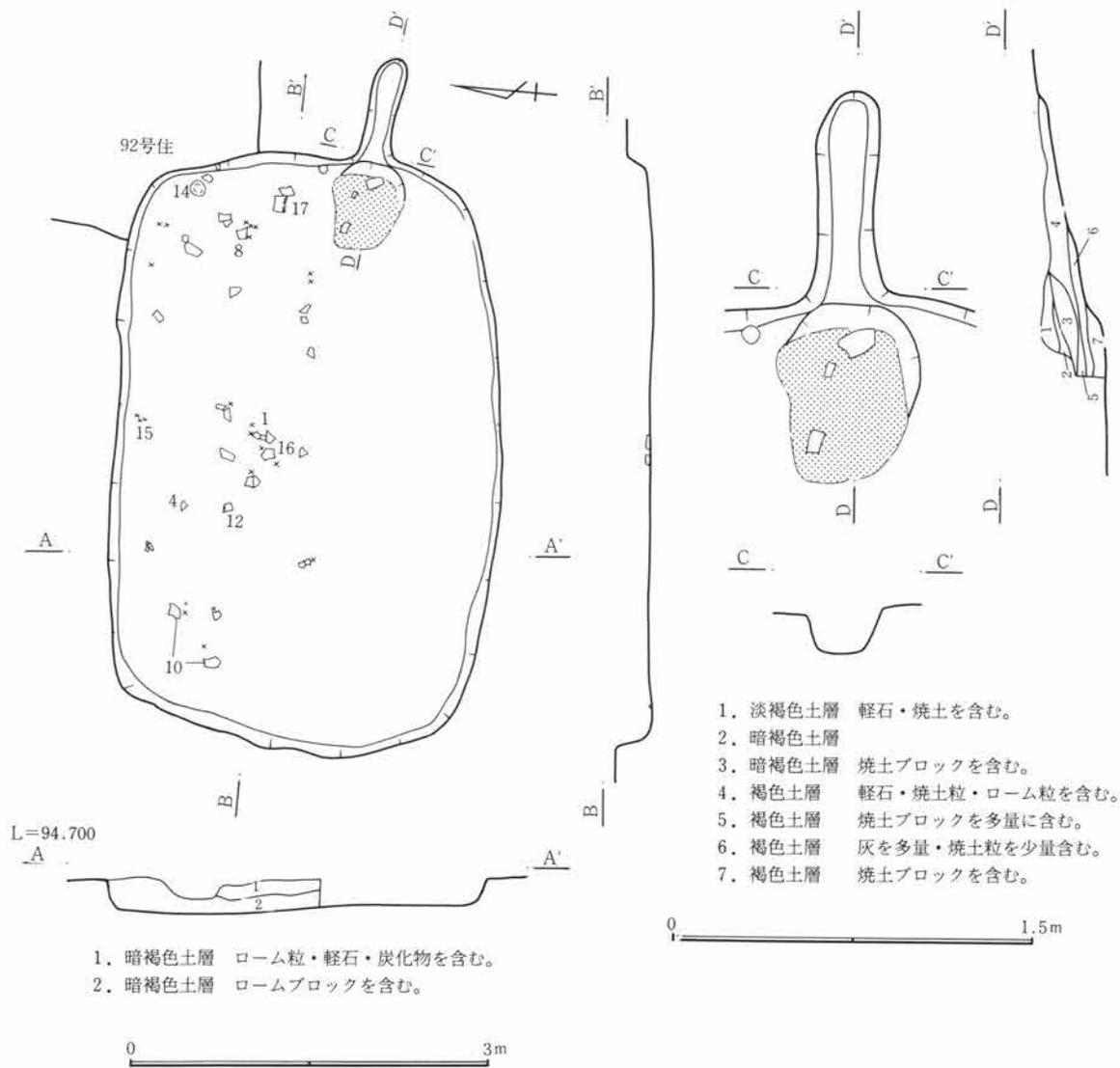
第61表 90号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽釜	(口)21.0	覆土	鏝 上を向く。	①やや酸化 ②淡赤橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	埴灰釉	(底)6.4	覆土	底部 内・外面共釉。付高台。	①還元 ②灰白色 ③密 ④底部破片
No-3	埴須恵	(底)8.5	覆土	底部 回転ヘラ切り後、ヘラ調整。付高台。	①還元 ②灰白色 ③密 ④底部破片
No-4	埴須恵	(底)7.5	覆土	内面 底部中心部に厚みをもつ。 底部 回転ヘラ調整。付高台。	①やや酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-5	羽釜	(口)21.4	覆土	鏝 雑な貼付。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

## 5. 検出された遺構と遺物

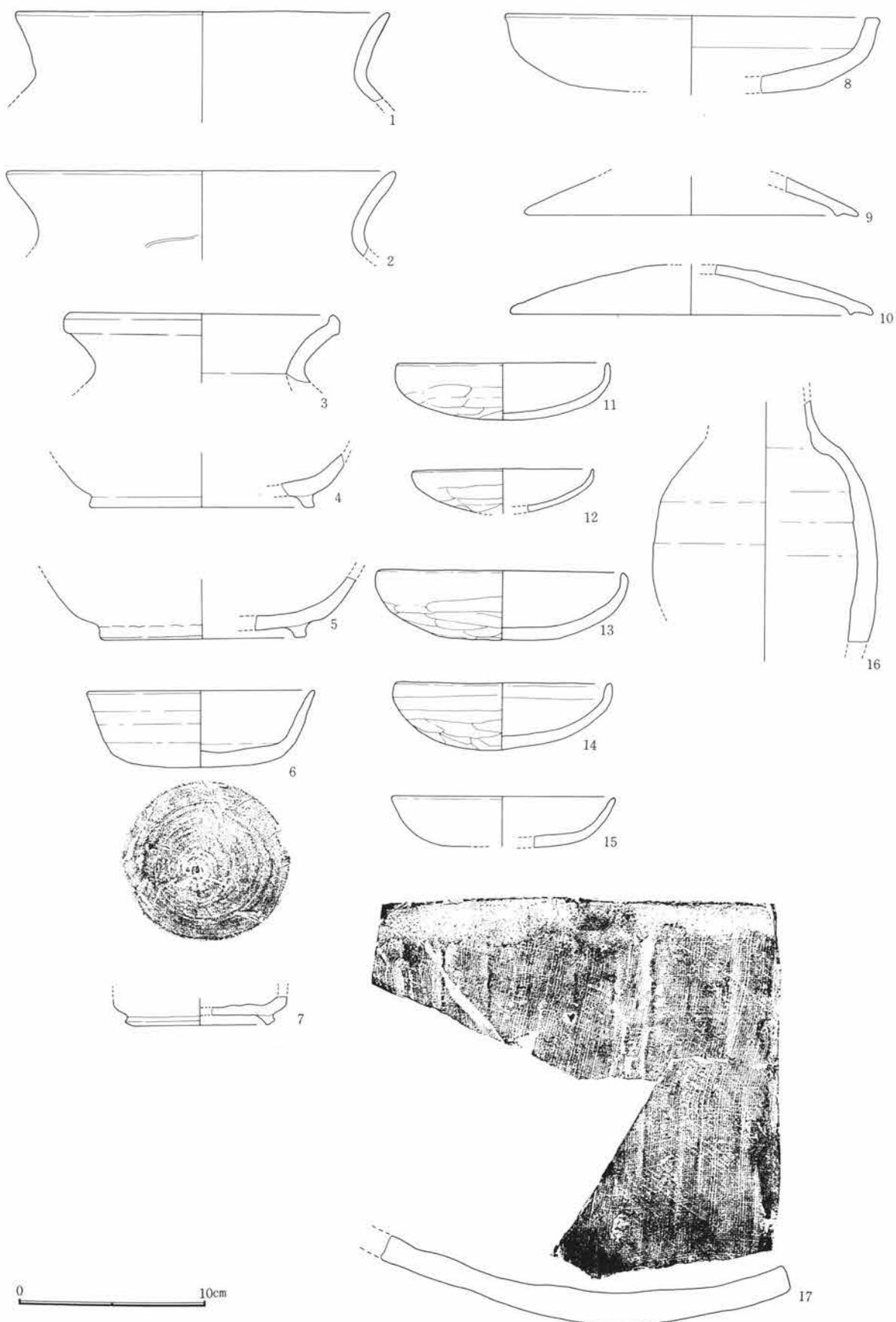
### 91号住居跡 (第155図、PL12・38・39・63・69)

当住居跡はC区南西部に位置し10号掘立柱建物跡の南にある。他の遺構との関係は92号住居跡・204号土坑と重複している。新旧関係は92号住居跡より新しく土坑より新しい。規模は長辺4.9m、短辺3.3mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-91°-Eである。壁高は10cm~20cmを測る。床面は平坦をなすが細かな凹凸が見られた。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。燃焼部幅約40cm、同長約20cm、煙道部長約60cmを測る。竈の燃焼部は床面上に張り出していたものと思われる。煙道部はほぼ平らに延びている。



第155図 91号住居跡遺構図・竈図

(1) 竖穴住居跡



第156图 91号住居跡遺物図

5. 検出された遺構と遺物

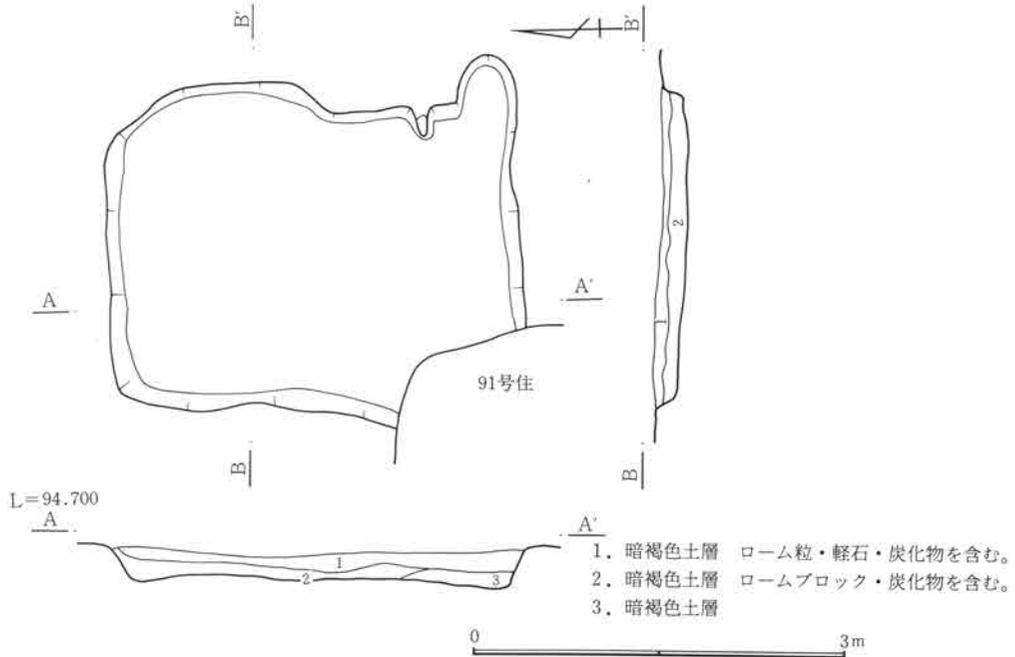
第62表 91号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	甕 土師	(口)20.0	覆土	内・外面共に雑なナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	甕 土師	(口)20.8	覆土	口縁部 内・外面共ナデ。頸部にヘラ痕あり。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	甕 須恵	(口)14.8	覆土	口縁部に稜をもつ。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-4	埴 須恵	(底)12.0	覆土	付高台。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-5	盤 須恵	(底)11.0	覆土	付高台。底部 ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-6	坏 須恵	(口)12.0 (高)4.0 (底)4.0	床面下	底部 ヘラ切り後、ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-7	埴 須恵	(底)8.0	覆土	付高台。底部 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③密 ④底部破片
No-8	皿 須恵	(口)20.0 (高)4.0	覆土	底部 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰色 ③密 ④破片
No-9	蓋 須恵	(口)18.0	覆土	外面 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④破片
No-10	蓋 須恵	(口)19.6	覆土	外面 回転ヘラ調整。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-11	坏 土師	(口)10.4 (高)3.0	覆土	口縁部 ナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい黄橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-12	坏 土師	(口)12.0 (高)2.4	覆土	口縁部 ナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-13	坏 土師	(口)13.2 (高)3.7	覆土	口縁部 ナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②明赤褐色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-14	坏 土師	口-11.5 高-3.5	覆土	口縁部 直上に立ち上り、外面 ヨコナデ。内面 ミガキ。体部 外面 ヘラケズリ。	①酸化 ②赤褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④完形
No-15	坏 須恵	(口)11.0 (高)2.6	覆土	底部 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④破片
No-16	壺 須恵		覆土	胴下部に向かい厚くなる。	①還元 ②灰白色 ③密 ④胴部 $\frac{1}{2}$ 残存
No-17	平瓦	瓦観察表、1類A-住17参照			

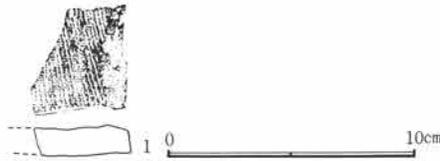
(1) 竪穴住居跡

92号住居跡 (第157図、PL69)

当住居跡はC区南西部に位置し10号掘立柱建物跡の南にある。他の遺構との関係は91号住居跡と重複している。新旧関係は91号住居跡が新しい。規模は長辺3.4m、短辺2.5mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-91°-Eである。壁高は約10cmを測る。床面は平坦をなす。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。燃烧部幅約50cm、同長約60cmを測る。



第157図 92号住居跡遺構図



第158図 92号住居跡遺物図

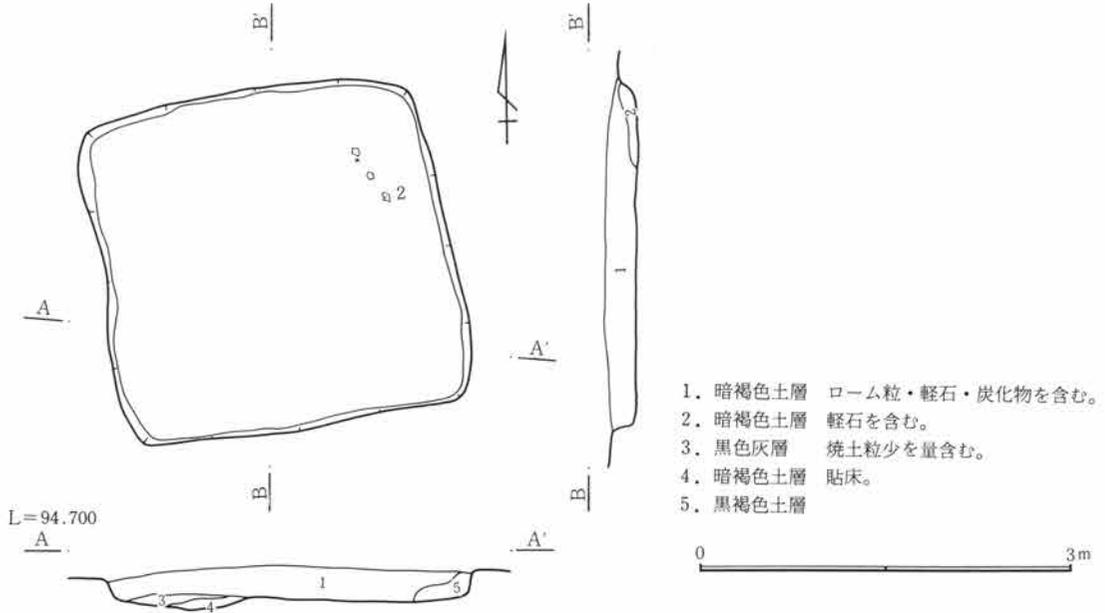
第63表 92号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	平瓦	瓦観察表、1類A-住1参照			

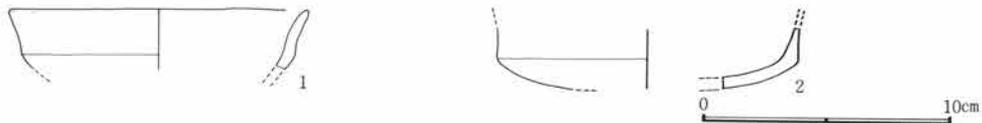
5. 検出された遺構と遺物

93号住居跡 (第159図、PL12・39)

当住居跡はC区南西部に位置し91号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.1m、短辺2.8mである。平面形態は正方形に近い形状を呈する。壁高は10cm～15cmを測る。床面は平坦をなす。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は検出されていないが西壁やや南寄りの部分から焼土・炭化物が集中して検出された。



第159図 93号住居跡遺構図



第160図 93号住居跡遺物図

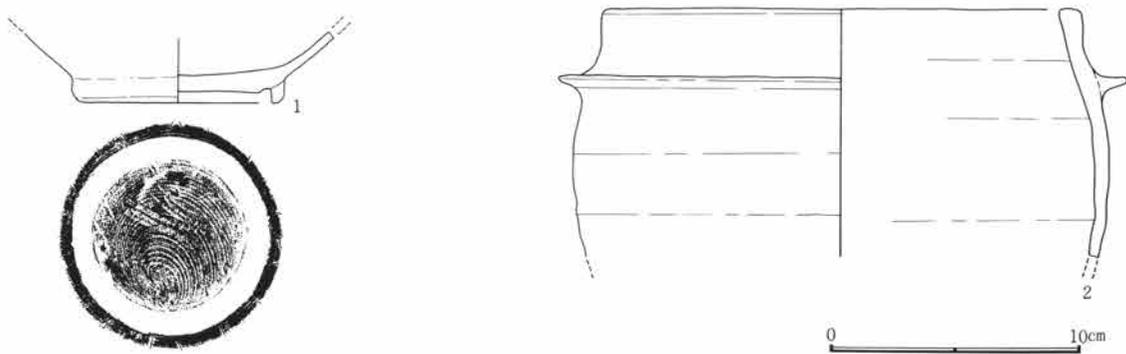
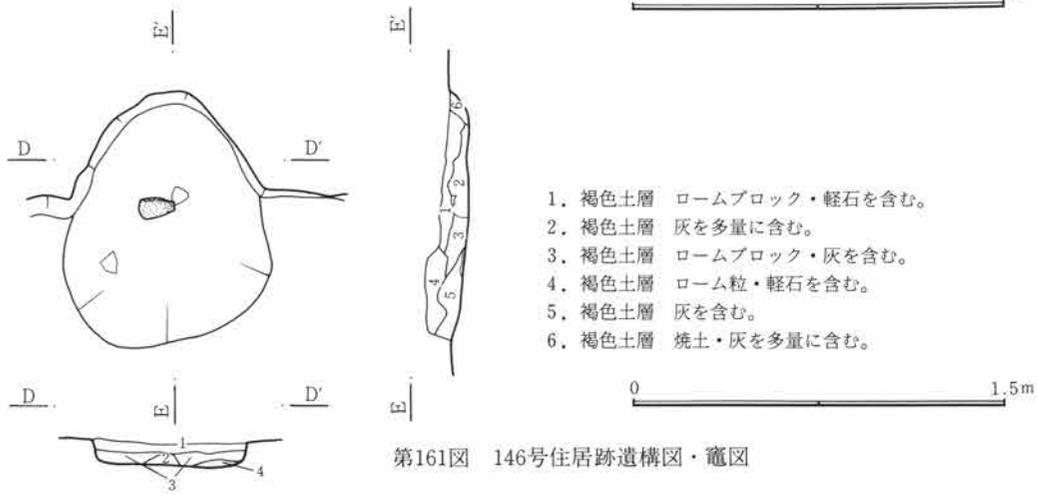
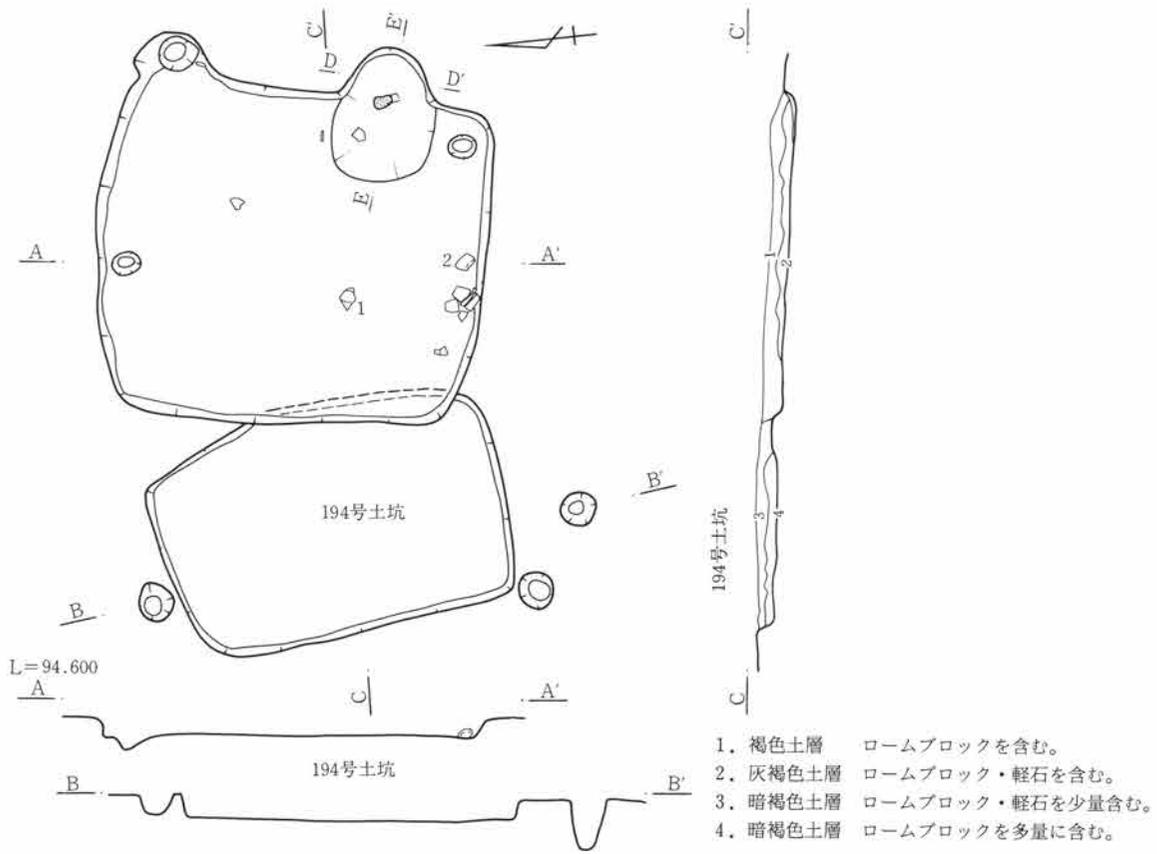
第64表 93号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)12.0	覆土	口縁部 ヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏須恵	(口)12.0	覆土	体部と底部間に稜をもつ。底部 ヘラ調整。	①やや酸化 ②灰色 ③1～2mm の砂粒含む ④1/2残存

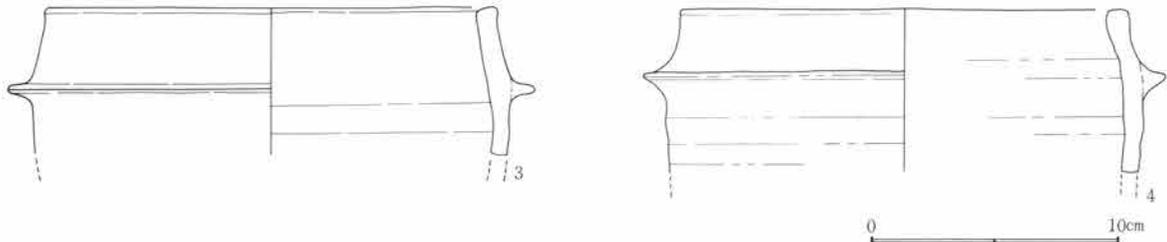
146号住居跡 (第161図、PL12・39・63)

当住居跡はC区南に位置し91号住居跡の南東にある。他の遺構との関係は194号土坑と重複している。新旧関係は194号土坑が古い。規模は長辺3.2m、短辺2.8mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-106°-Eである。壁高は10cm～15cmを測る。床面は平坦をなし竈周辺は堅く締まっている。床面に小穴が3基検出されたが当住居跡に伴うものではない。竈は東壁やや南寄りに検出された。燃烧部幅約70cm、同長約40cmを測る。燃烧部中央より熱を受けた砂岩が検出された。位置からこれは支脚として使用されたものと思われる。また当住居跡の西壁を壊す形で194号土坑が検出された。立ち上がり約10cmを測り約15cmの深さで平坦な底面をもつ。

(1) 竪穴住居跡



5. 検出された遺構と遺物



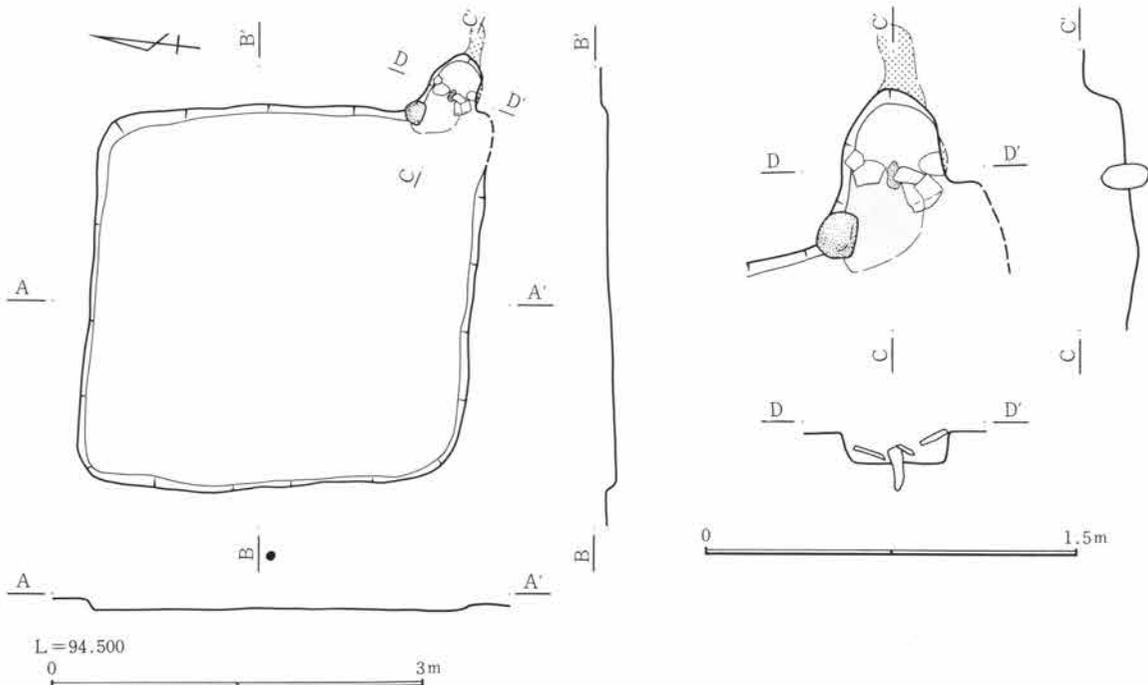
第163図 146号住居跡遺物図(2)

第165表 146号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埵 須恵	底-8.0	覆土	付高台。底面 回転糸切り。右廻り。	①還元 ②灰色 ③密 ④底部のみ残存
No-2	羽釜	(口)19.4	覆土	口縁部 厚くなる。銚 上を向く。	①還元 ②にぶい黄橙色 ③細砂粒含む ④1/4残存
No-3	羽釜	(口)18.4	覆土	銚 下を向く。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽釜	(口)18.0	覆土	銚 上を向く。断面は三角形。	①酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

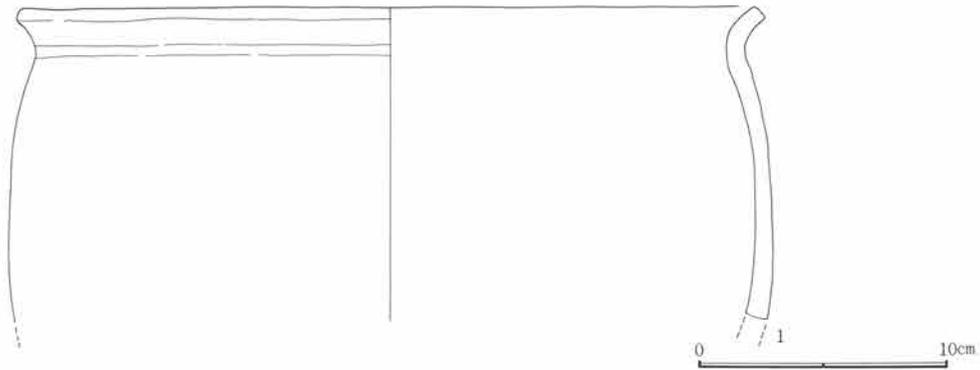
147号住居跡 (第164図、PL63)

当住居跡はC区東部に位置し13号掘立柱建物跡の北にある。他の遺構との関係は137・138号溝と重複している。新旧関係は住居跡が新しい。規模は一辺3.2mである。平面形態は正方形を呈する。主軸方位はN-85°-Eである。壁高は約10cm~20cmを測る。床面は中央部が約5cm高い。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁南東コーナーに近い所で検出された。袖幅約45cm、燃燒部長約50cmを測る。また煙道部には焼土が認められた。左袖部より石が検出された。



第164図 147号住居跡遺構図・竈図

(1) 竪穴住居跡



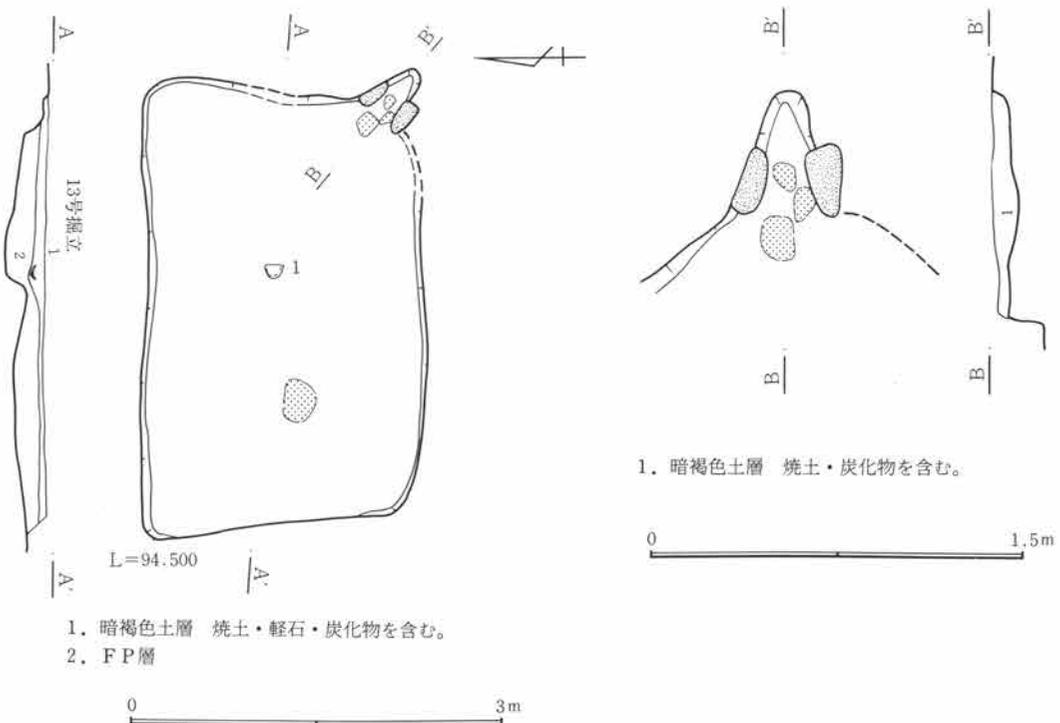
第165図 147号住居跡遺物図

第66表 147号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	甕師土	(口)30.0	覆土	口縁部は外反する。頸部 ヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存

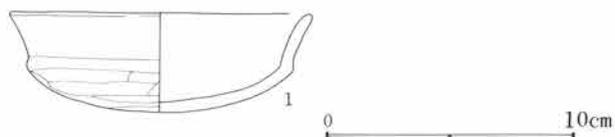
148号住居跡 (第166図、PL12・39)

当住居跡はC区東部に位置し147号住居跡の南にある。他の遺構との関係は57号溝・13号掘立柱建物跡と重複関係にある。新旧関係は溝より新しく、掘立柱建物跡より古い。規模は長辺3.6m、短辺2.4mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-88°-Eである。壁高は約5cmを測る。床面は平坦をなす。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。燃焼部幅約35cm、同長約40cmを測る。



第166図 148号住居跡遺構図・竈図

5. 検出された遺構と遺物



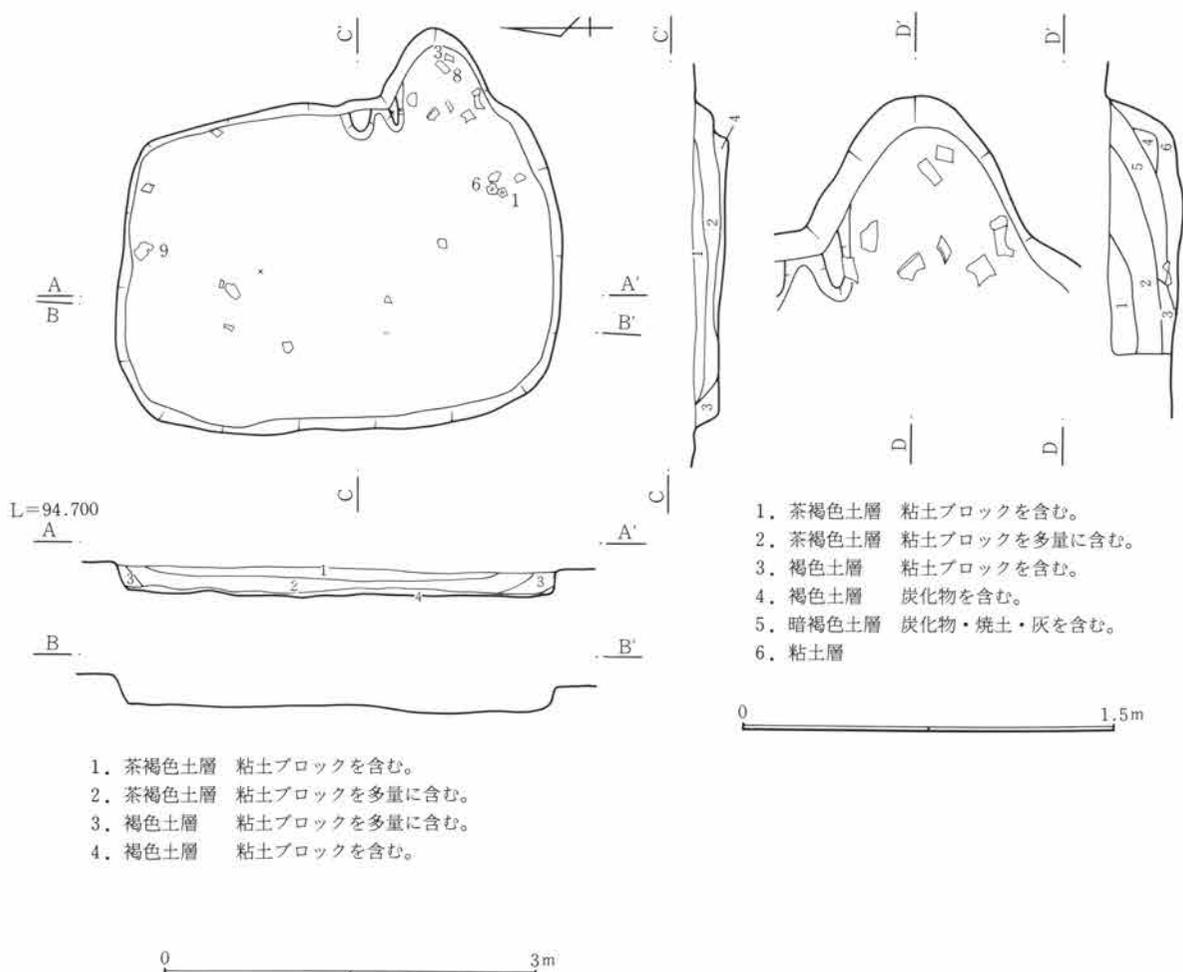
第167図 148号住居跡遺物図

第67表 148号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)12.1 (高)4.0	覆土	口縁部 体部間に稜をもつ。口縁部 ヨコナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④%残存

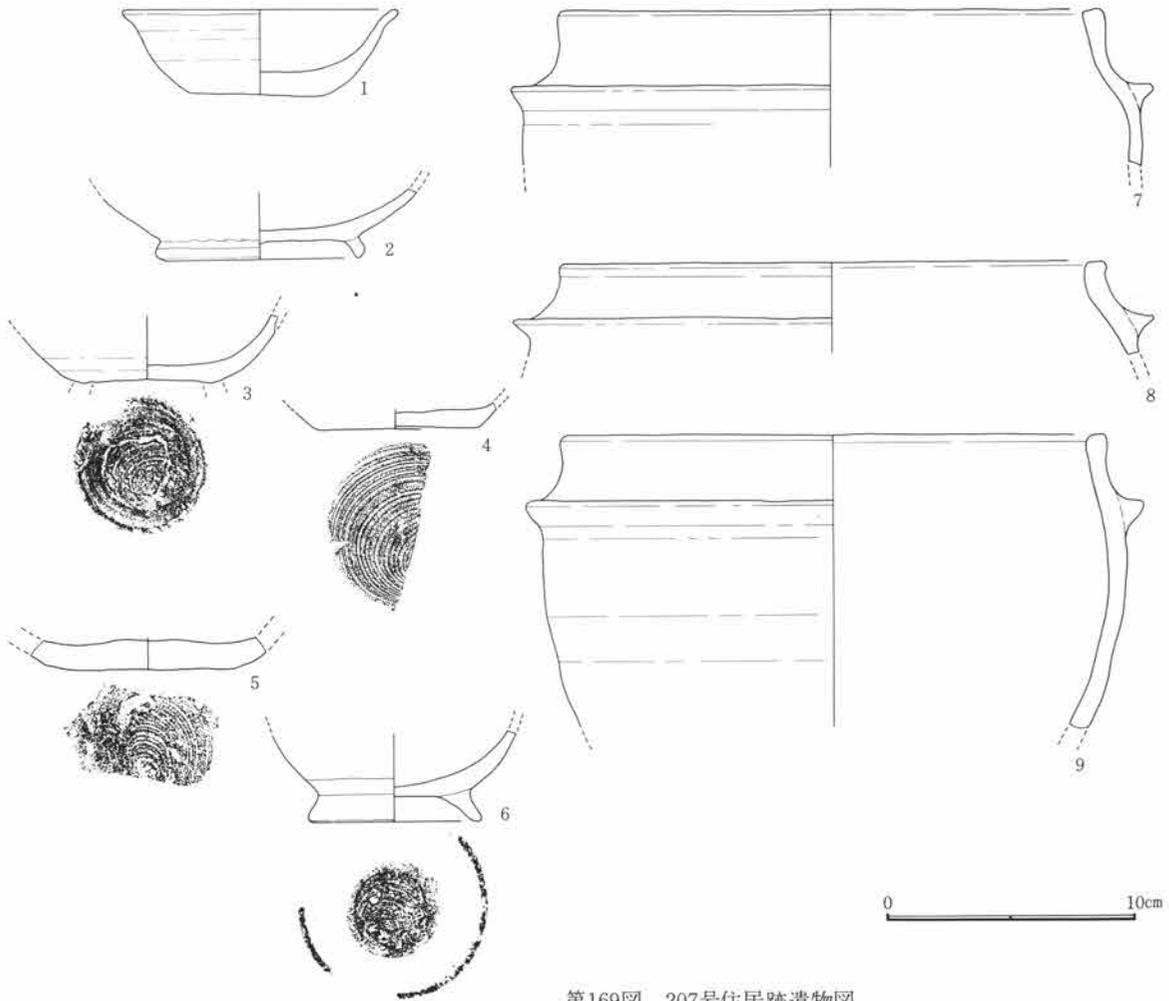
207号住居跡 (第168図、PL12・13・39・63)

当住居跡はB区に位置し他の住居跡群から離れたところに207号～210A号住居跡が集中している。規模は長辺3.7m、短辺2.7mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-88°-Eである。壁高は約10cm～15cmを測る。床面は堅く締まっており、中央部は約4cm～5cm低い。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。燃焼部幅約70cm、同長約50cmを測る。



第168図 207号住居跡遺構図・竈図

## (1) 竪穴住居跡



第169図 207号住居跡遺物図

第68表 207号住居跡遺物観察表

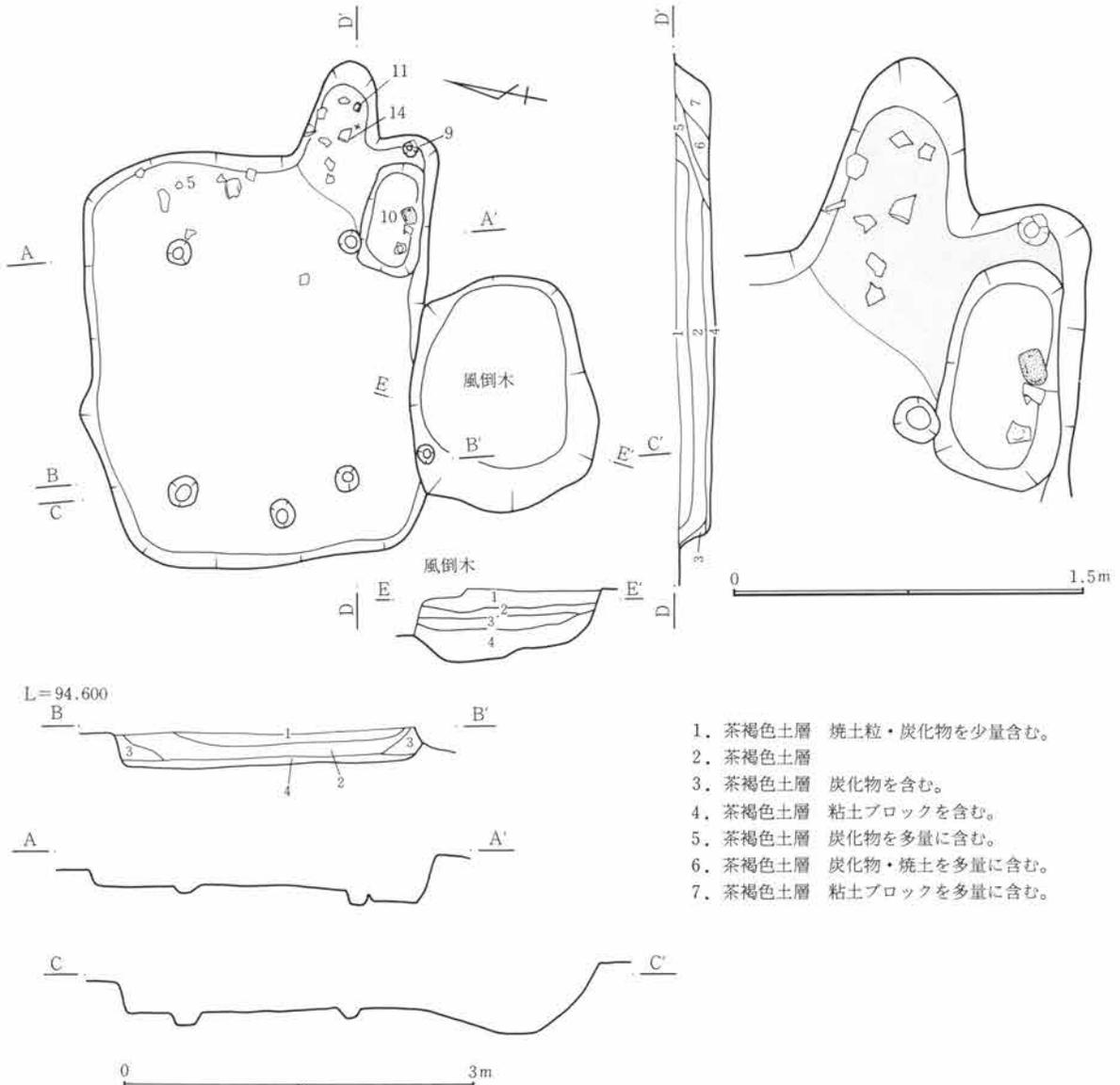
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	(口)11.3 高一3.5 底-5.5	覆土	口縁部 外反する。底部 手持ちへら調整。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④¼残存
No-2	埴須恵	底-8.5	覆土	付高台。底面 回転へら調整。底部 中心部に盛り上がりあり。	①還元 ②灰白色 ③密 ④底部½残存
No-3	埴須恵	底-5.5	覆土	高台欠落。底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②浅黄橙色 ③細砂粒含む ④底部¼残存
No-4	坏須恵	(底)6.7	覆土	底部 回転糸切り。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④底部½残存
No-5	坏須恵	(底)6.5	覆土	底部 回転糸切り。	①還元 ②灰色 ③5~6mmの砂粒含む ④底部破片
No-6	埴須恵	底-7.0	覆土	付高台。底部 回転糸切り。雑な調整。	①還元 ②灰白色 ③2~3mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-7	羽釜	(口)22.0	覆土	口縁部 厚くなる。鏝 上を向く。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

5. 検出された遺構と遺物

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-8	羽釜	(口)22.0	覆土	口縁は内傾する。鈔上を向き、丁寧な貼り付け。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-9	羽釜	(口)22.0	覆土	鈔上を向く。内・外面共黒色付着。	①やや酸化 ②暗赤灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存

208号住居跡 (第170図、PL13・39・63・64)

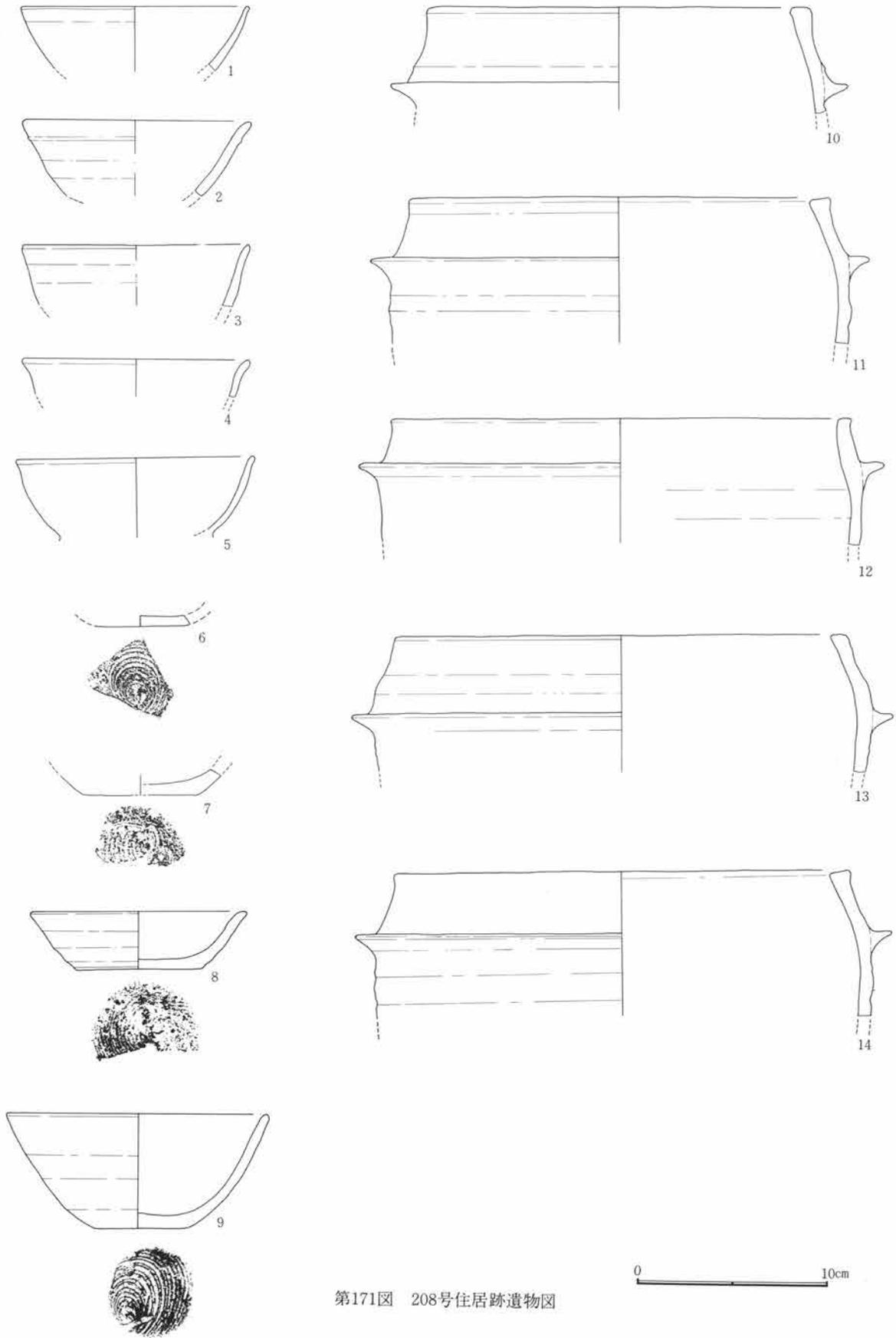
当住居跡はB区に位置し207号住居跡の西にある。他の遺構との関係は209号住居跡・南壁部で風倒木跡と重複している。新旧関係は208号住居跡・風倒木跡が新しい。規模は長辺3.6m、短辺3.2mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-107°-Eである。壁高は約10cm~25cmを測る。床面は遺存が良く中央部はやや低くなる。壁周溝・柱穴などの諸施設は検出されていない。貯蔵穴は南東コーナーに検出された。規模は約95cm×50cmで楕円形で呈する。深さは約8cm~9cmを測る。この穴の中から石が検出されている。覆土には主に灰・炭化物が多い。東壁南東コーナー近くに検出された。燃焼部幅約70cm、同長約100cmを測る。



1. 茶褐色土層 焼土粒・炭化物を少量含む。
2. 茶褐色土層
3. 茶褐色土層 炭化物を含む。
4. 茶褐色土層 粘土ブロックを含む。
5. 茶褐色土層 炭化物を多量に含む。
6. 茶褐色土層 炭化物・焼土を多量に含む。
7. 茶褐色土層 粘土ブロックを多量に含む。

第170図 208号住居跡遺構図・竈図

(1) 竖穴住居跡



第171图 208号住居跡遺物図

5. 検出された遺構と遺物

第69表 208号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	(口)12.0	覆土		①還元 ②灰白色 ③密 ④口縁部破片
No-2	埴須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 やや外反する。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	埴須恵	(口)11.8	覆土	口縁部 やや外反する。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-4	埴須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 やや外反する。	①還元 ②灰色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-5	埴須恵	(口)12.4	覆土	口縁部 部分的に釉。高台部と思われる断面あり。	①還元 ②灰白色 ③密 ④口縁部破片
No-6	坏須恵	(底)4.7	覆土	底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-7	坏須恵	(底)5.8	覆土	底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-8	坏須恵	口-11.3 高-3.0 底-6.6	覆土	底部 回転ヘラ調整。右廻り。	①やや酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④1/2残存
No-9	埴須恵	口-13.7 高-5.9 底-4.8		底部 回転糸切り。右廻り。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-10	羽釜	(口)20.2	覆土	口縁部 やや厚くなる。鈔上を向く。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-11	羽釜	(口)22.0	覆土	口縁部 やや厚くなる。鈔上を向く。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-12	羽釜	(口)24.0	覆土	鈔上を向く。	①やや酸化 ②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-13	羽釜	(口)24.0	覆土	口縁部 内傾する。鈔 やや上を向く。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-14	羽釜	(口)24.0	覆土	口縁部 やや厚くなり内傾する。鈔上を向き、丁寧な貼付。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

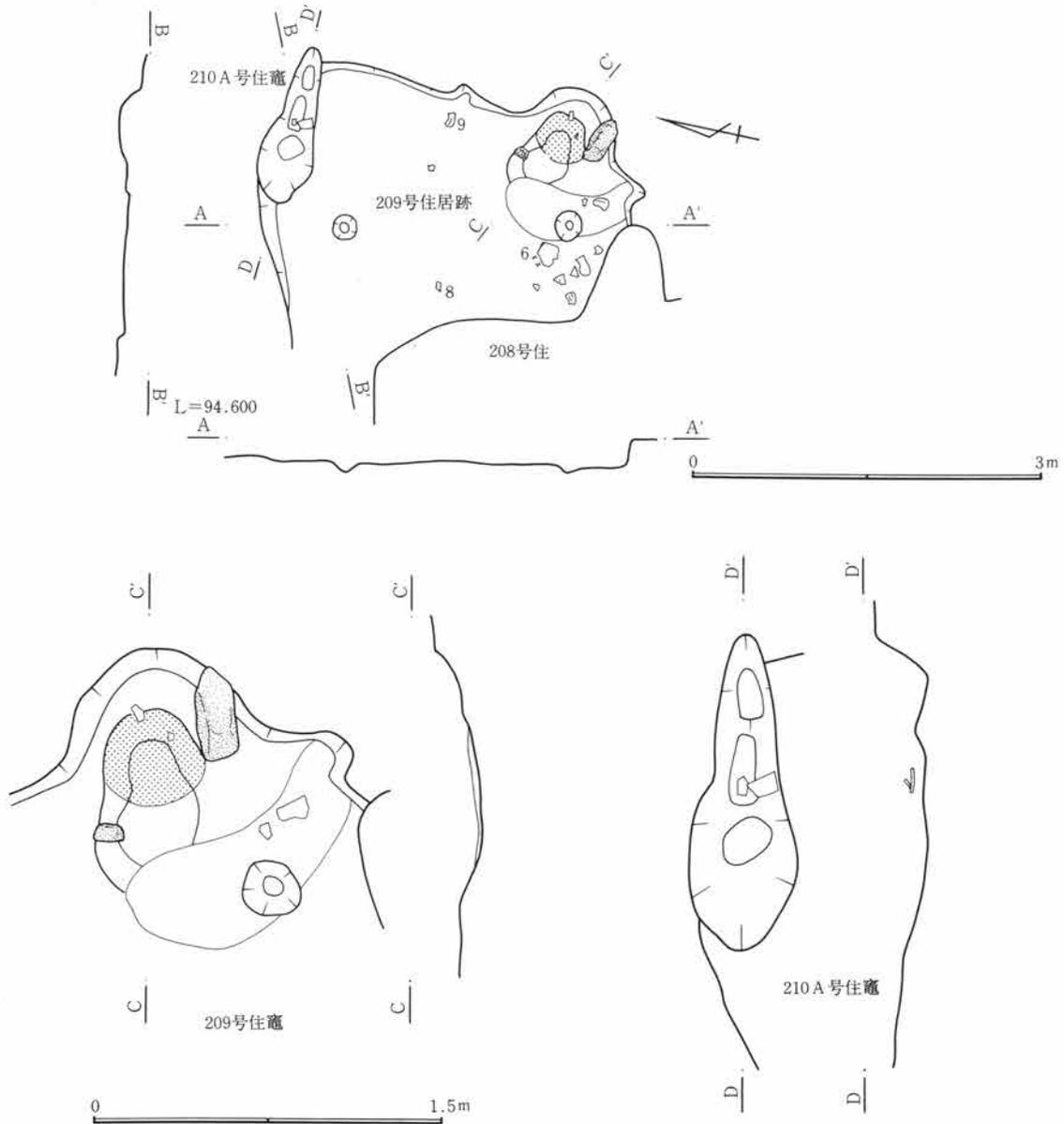
(1) 竪穴住居跡

209号住居跡 (第172図、PL13・39・64)

当住居跡はB区に位置し207号住居跡の北にある。他の遺構との関係は208号住居跡と重複している。新旧関係は208号住居跡が新しい。また209号住居跡の北壁の上に竈のみを検出した210A号住居跡がある。規模・平面形態は不明であるが南北長約3.2mを測る。主軸方位は竈長軸でN-92°-Eである。壁高は約10cmを測る。床面は平坦をなす。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。北側に径約20cmの小穴を検出した。竈は東壁南寄りに検出された。燃烧部幅約80cm、同長約40cmを測る。

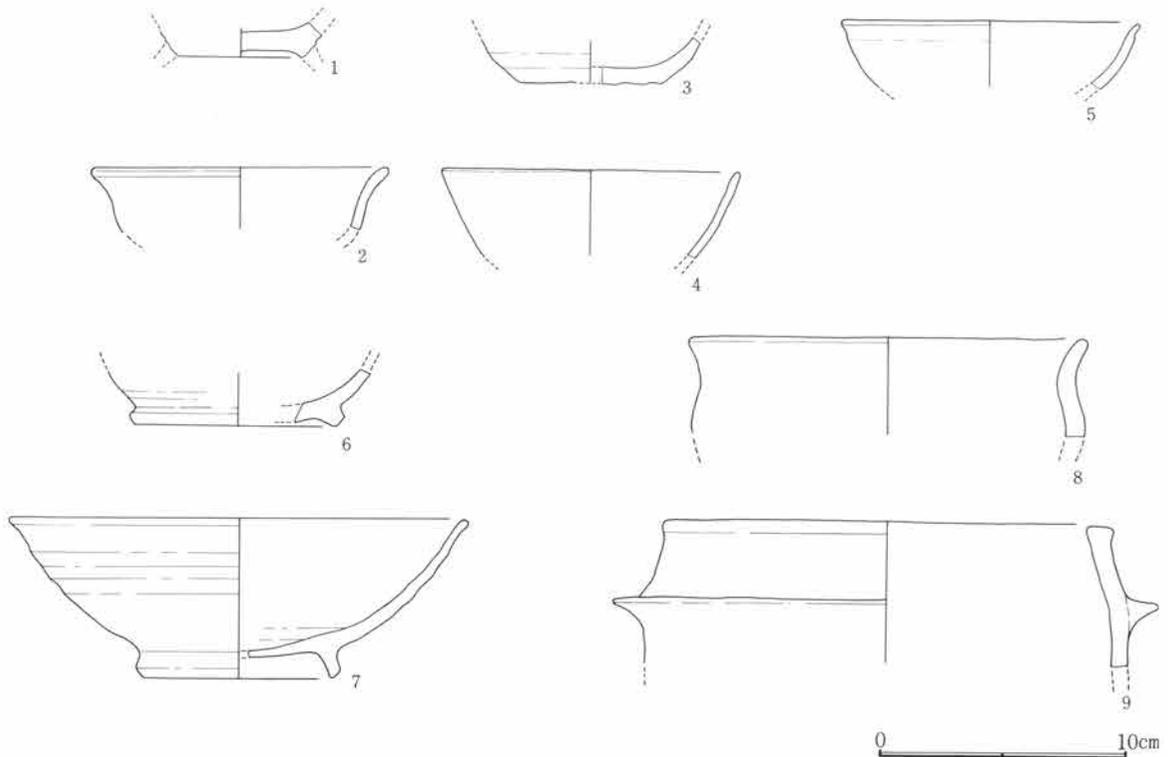
210A号住居跡 (第172図、PL13)

当住居跡はB区に位置し207号住居跡の北にある。C区に検出された210号住居跡と区別するため当住居跡をA、C区に検出された住居跡をBと命名した。209号住居跡の北壁上に竈のみを検出した。主軸方位は竈長軸でN-92°-Eである。長軸130cm、短軸45cmの規模で検出された。



第172図 209号・210A号住居跡遺構図・竈図

5. 検出された遺構と遺物



第173図 209号住居跡遺物図

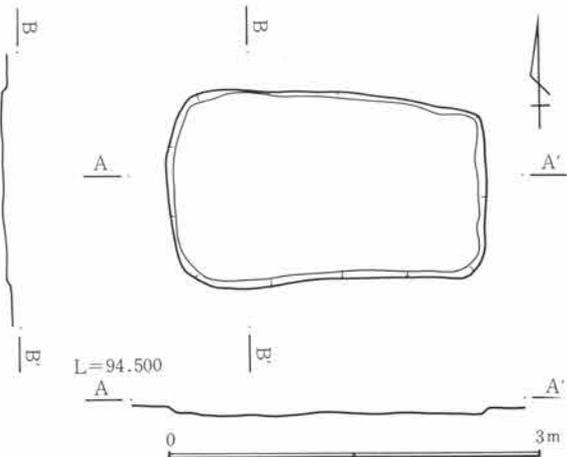
第70表 209号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴 須恵	底-5.0	覆土	高台欠落。底面 回転ナデ調整。底部 内面 黒色付着。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒 含む ④底部残存
No-2	坏 須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 外反する。	①還元 ②黄灰色 ③1~2mmの 砂粒含む ④口縁部破片
No-3	坏 須恵	(底)6.0	覆土	底部 ヘラ調整。	①やや酸化 ②にぶい黄橙色 ③ 細砂粒含む ④底部破片
No-4	坏 須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 一部釉。	①還元 ②灰色 ③密 ④口縁部 破片
No-5	坏 須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 やや外反する。	①還元 ②灰白色 ③密 ④口縁 部破片
No-6	埴 須恵	(底)8.0	覆土	付高台。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの 砂粒含む ④底部破片
No-7	埴 須恵	口-18.4 高-6.4 底-7.5	覆土	付高台。底部 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③密 ④残 存
No-8	甕 土師	(口)16.0	覆土	口縁部 内・外面共ヨコナデ。内・外面黒色 付着。	①酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの 砂粒含む ④口縁部破片
No-9	羽 釜	(口)18.0	覆土	口縁部 やや内傾する。鏝 上を向く。	①還元 ②灰色 ③1~2mmの砂 粒含む ④口縁部破片

(1) 竪穴住居跡

210B号住居跡 (第174図、PL13)

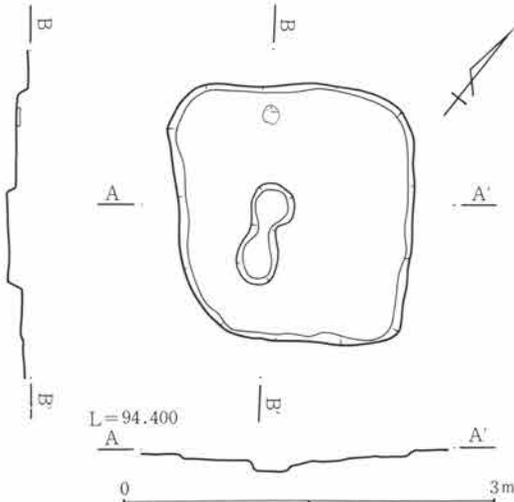
当住居跡はC区南西部に位置し91号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺2.6m、短辺1.6mである。平面形態は長方形を呈する。竈は検出されておらず、主軸方位は不明である。壁高は約5cmを測り、床面の凹凸が激しい。遺物は須恵器の破片を検出した。



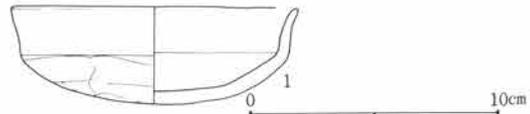
第174図 210B号住居跡遺構図

211号住居跡 (第175図、PL13・39)

当住居跡はC区南西部に位置し210B号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺2.1m、短辺2mである。平面形態は長方形を呈する。壁高は約2cm~15cmを測る。床面は平坦をなし強く締まっており遺存は良好であった。住居跡中央に8字状に小穴が2基検出された。この小穴は約8cm~10cmの深さをもつ。竈は検出されていない。



第175図 211号住居跡遺構図



第176図 211号住居跡遺物図

第71表 211号住居跡遺物観察表

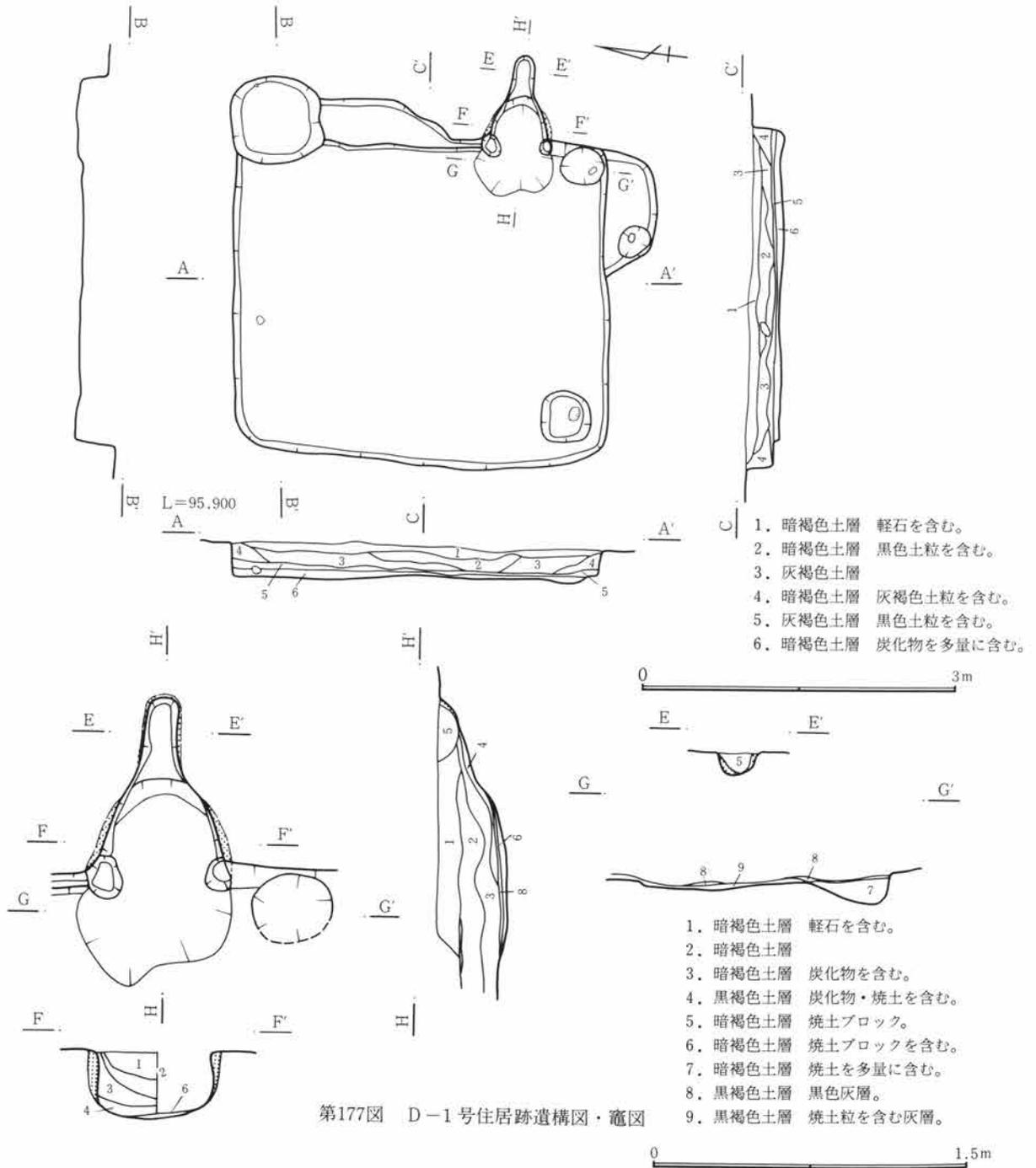
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	口-11.5 高-3.8	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④完形

D-1号住居跡 (第177図、PL14)

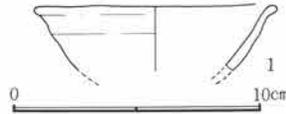
当住居跡はD区北西に位置し、南に集中する住居群とは離れて存在する。平面形態は長方形を呈し、規模は、長辺3.6m、短辺3.2mを測る。壁高は20cm~25cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。壁周溝は、確認されていない。主軸方位はN-88°-Eである。東壁北寄りに張り出して、落ち込みと南壁東寄りに張り出しを持つ。柱穴は確認されていないが、南西コーナー部に48cm×47cm深さ22cmを測る貯蔵穴と考えられる落ち込みが確認

5. 検出された遺構と遺物

された。床は2面確認されているが2軒の重複とは考えられず建て替えあるいは拡張と考えられる。上の床面は張り出し部を持ち、下の床面は落ち込みを持つ。この張り出し部と落ち込みは底面に炭化物が確認されている。上の床面は堅く締まっており全面に炭化物が散布する。下の床面は軟弱で、炭化物は竈周辺に集中する。竈は東壁南寄りに検出され、袖幅は約50cm、燃烧部長約70cmを測る。両袖部に小穴が確認されたが、石などの構築材は検出されていない。出土遺物は、床面から坏が1点検出されたのみである。



(1) 竪穴住居跡



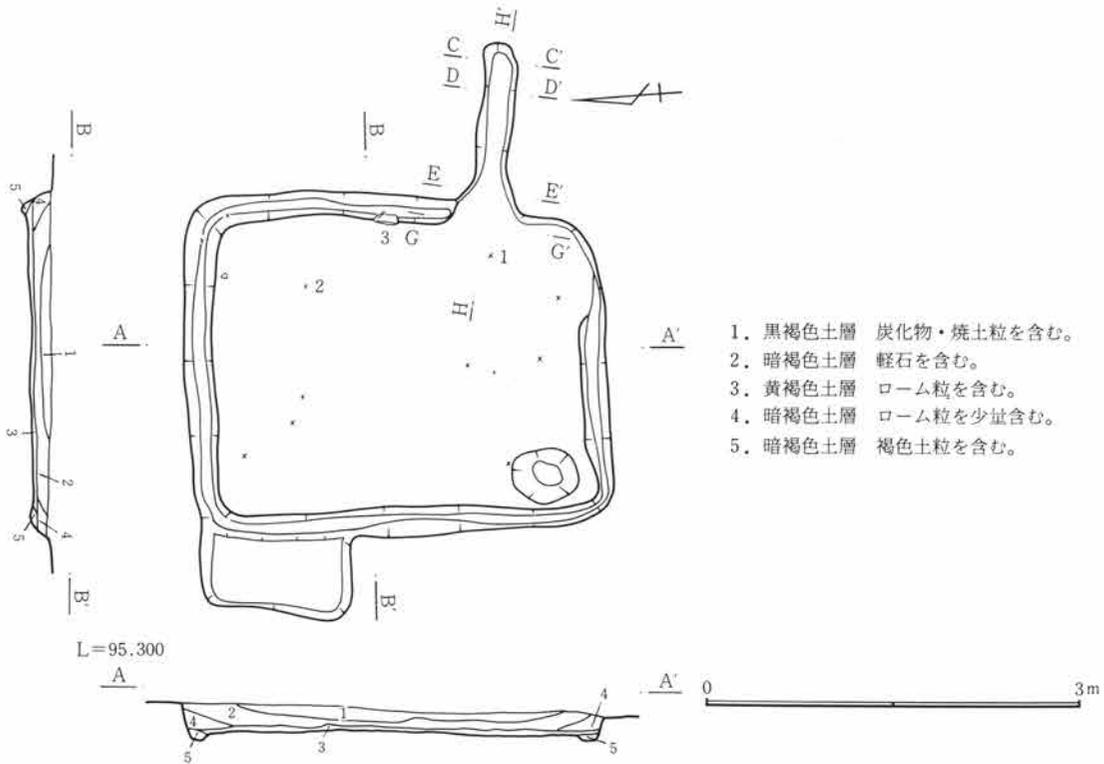
第178図 D-1号住居跡遺物図

第72表 D-1号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	(口)10.0	覆土	口縁端部 外面へ屈曲する。	②灰白色 ③密 ④口縁部破片

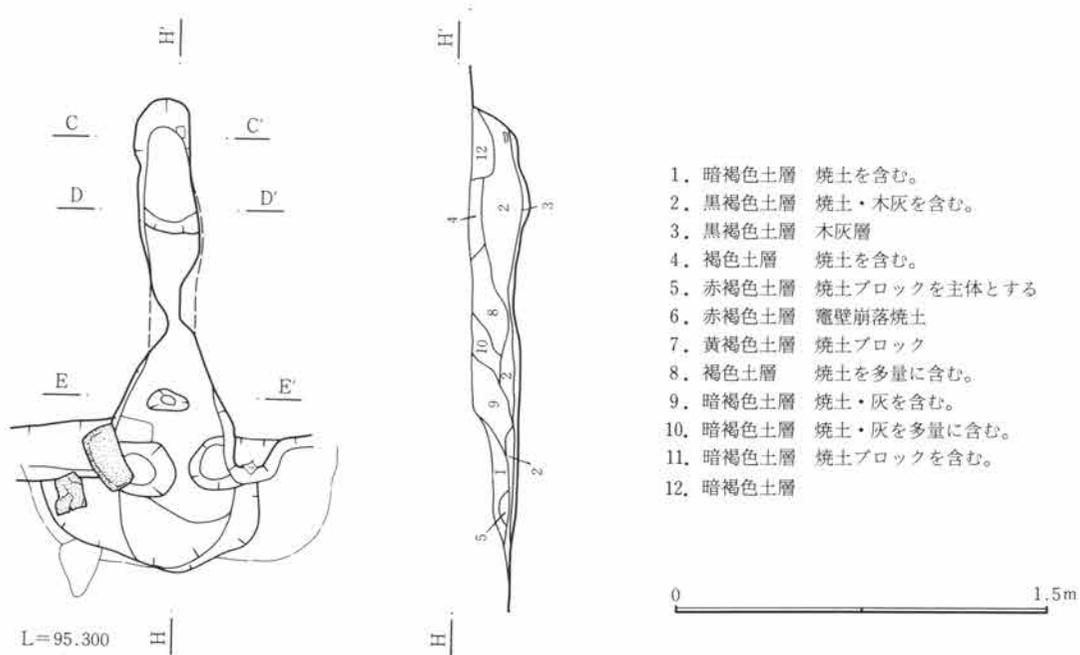
D-2号住居跡 (第179・180図、PL14・40・64・71)

当住居跡は、D区の南住居群の中に位置し、D区を北東から南西に延びるD-4号溝の埋没後に構築されている。平面形態は、長方形を呈し、北西部に張り出しを持つ。規模は長辺3.6m、短辺2.7mを測る。壁高は、10~20cmを測る。壁周溝は、約15~20cmの幅を持ち4~5cmの深さでほぼ住居内を全周する。主軸方位は、N-103°-Eである。張り出し部は、北壁を延長する形で西へ0.75m、南へ1.3mの方形を呈する。この張り出し部は床面より約5cm高くなっている。床面はほぼ平坦である。南西部隅に50×40cmの小穴が確認され貯蔵穴と考えられる。柱穴は確認されていない。竈は、東壁南寄りに検出され袖幅約50cm、燃烧部と煙道部は明瞭な境は無く、袖から約1.2mを測る。竈前面より炭化物が集中して検出された。遺存状態は良好で両袖部より花崗岩の構築材が検出された。出土遺物は北壁付近の床面より集中して同一固体の羽釜の破片が検出された。また、住居内より甑の破片が検出された。

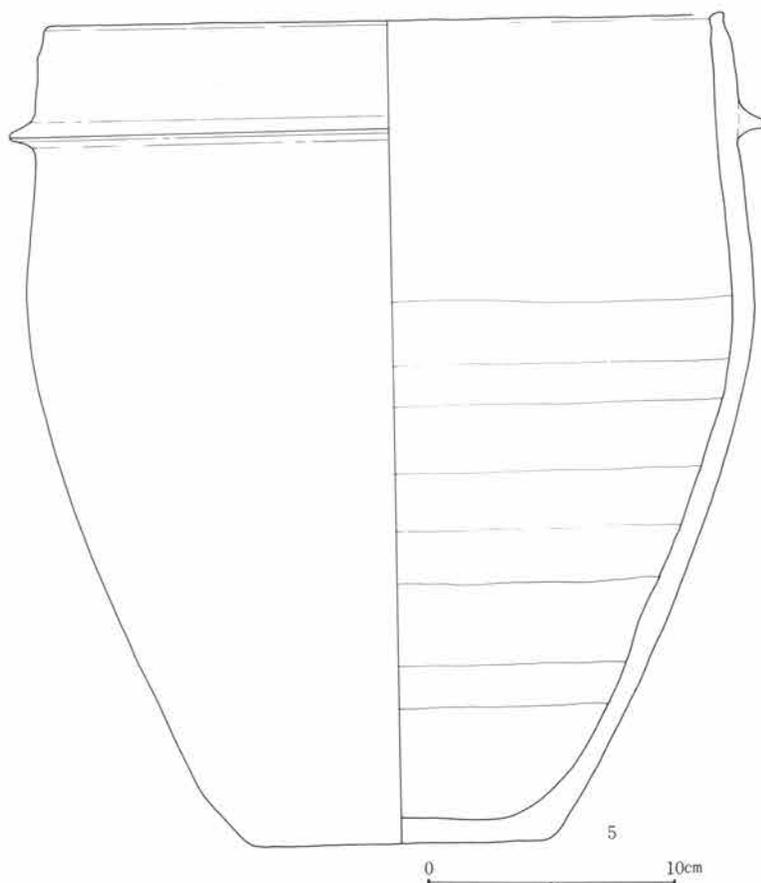
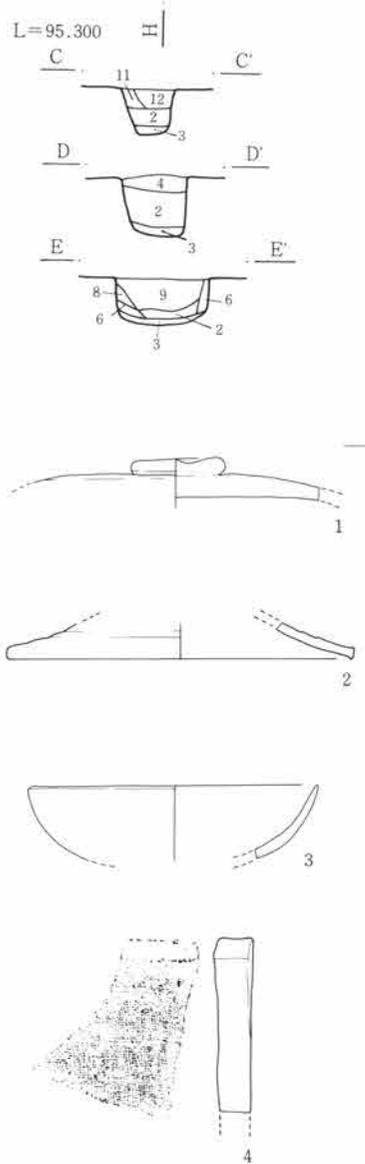


第179図 D-2号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物

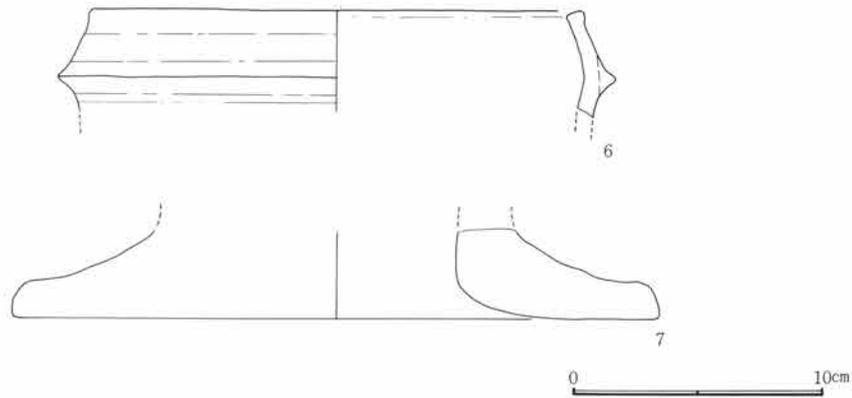


第180図 D-2号住居跡竈図



第181図 D-2号住居跡遺物図(1)

## (1) 竪穴住居跡



第182図 D-2号住居跡遺物図(2)

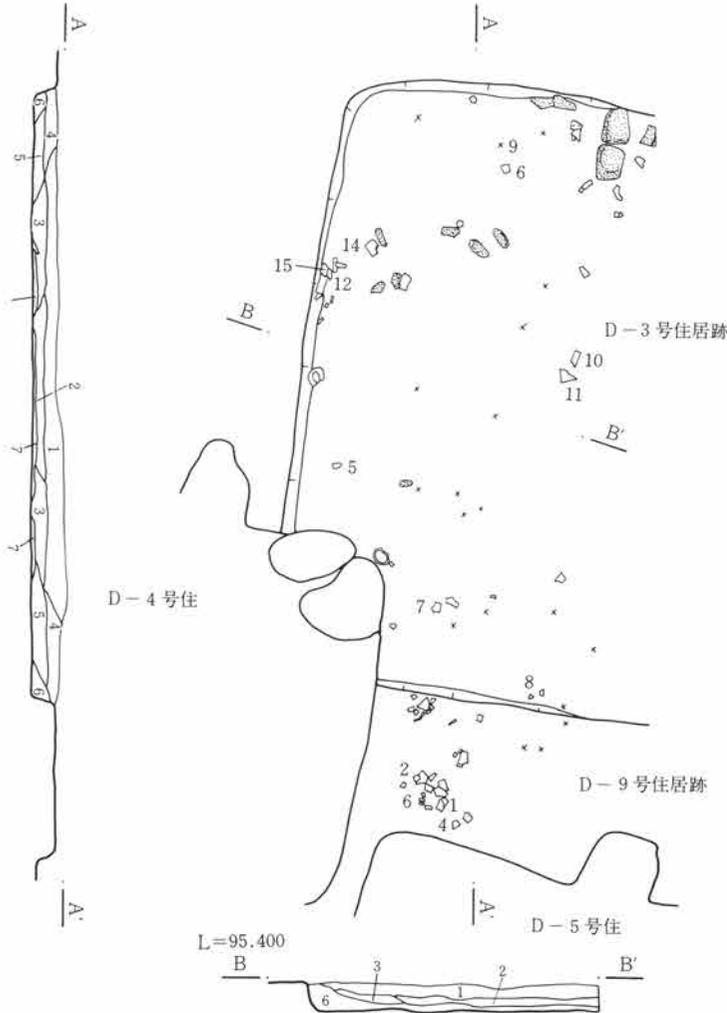
第73表 D-2号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	蓋 須恵		覆土	外面 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④破片
No-2	蓋 須恵	(口)7.0	覆土		②灰白色 ③細砂粒含む ④破片
No-3	坏 土師	(口)12.0	覆土		②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	平瓦	瓦観察表、1類A-D住4参照			
No-5	羽釜	口-27.3 高-32.8 底-12.0	覆土	鈔 短く、断面は三角形を呈す。内面 輪積痕残す。	②にふい赤褐色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-6	羽釜	(口)19.2	覆土	鈔 短く、断面は三角形を呈す。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-7	甗 土師	(底)26.0	覆土	器壁が厚く、雑な調整。	②にふい橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④1/4残存

5. 検出された遺構と遺物

D-3号住居跡 (第183図、PL14・40・64・71・86・87)

当住居跡はD区南住居跡群の中に位置し、住居跡の北西で4号住居跡と西でD-9号住居跡と重複関係にある。新旧は9号住居跡より新しく、4号住居跡より古い。また南半部は攪乱により削平を受けており南壁と東・西壁の一部は消失しており、竈の検出はされなかった。平面形態は、東西に長軸をもつ長方形が想定される。規模は長辺約3.8mを測る。壁高は約20cmを測り、竈・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。出土遺物は、瓦や石が多く検出されている。



D-9号住居跡 (第183図、PL14・40・64・65)

当住居跡はD区南住居跡群の中に位置し、北壁をD-4号住居跡東壁は不明瞭である、西壁はD-5号住居跡により消失している。南壁も明確には確認できず、床面と遺物を確認したのみである。

1. 暗褐色土層 炭化物を少量含む。
2. 暗褐色土層 灰を含む。
3. 灰褐色土層 灰色土粒を含む。
4. 暗褐色土層
5. 黄褐色土層
6. 暗褐色土層 黒色土粒を含む。
7. 暗褐色土層 灰色土粒を含む。

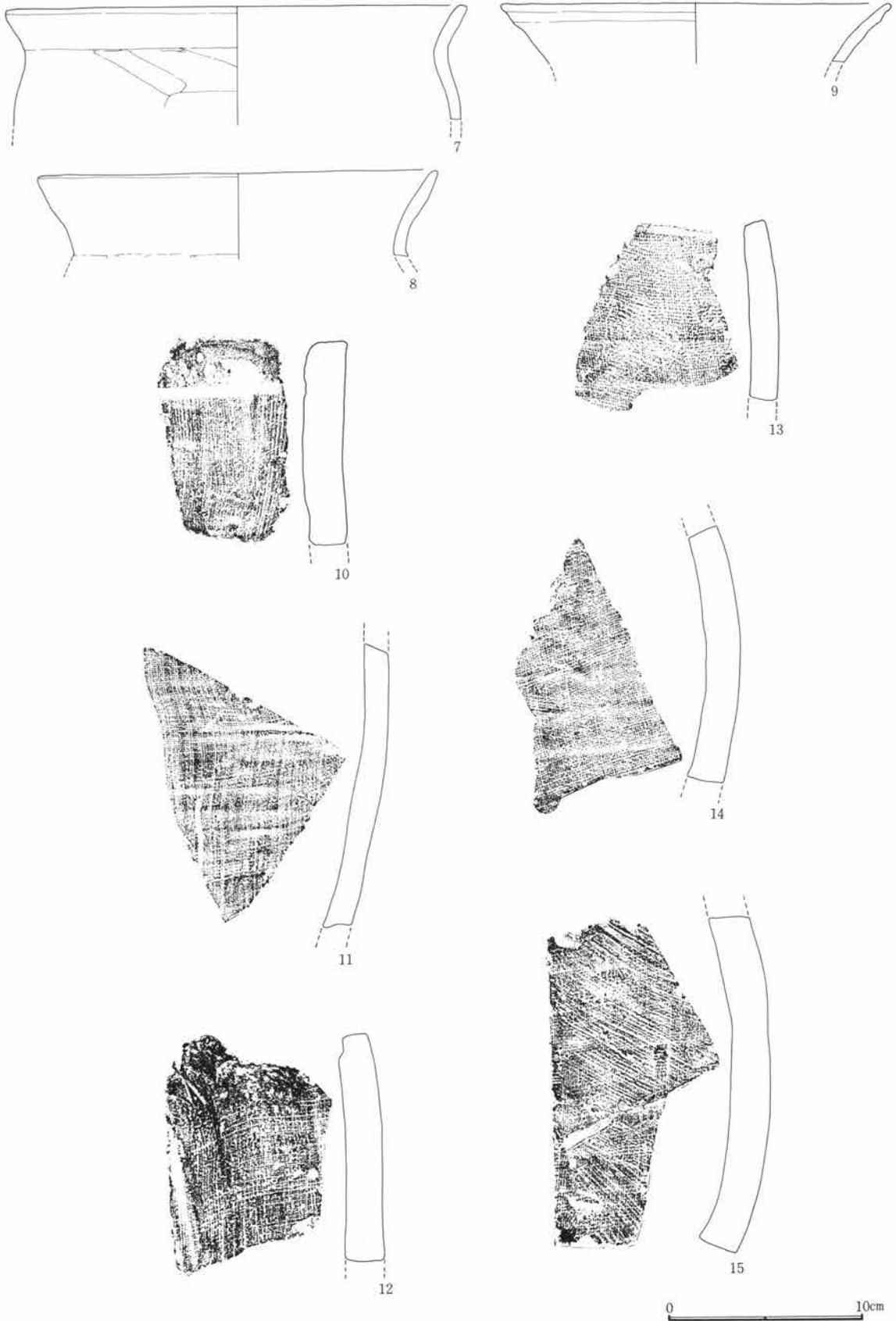
0 3m

第183図 D-3号・D-9号住居跡遺構図



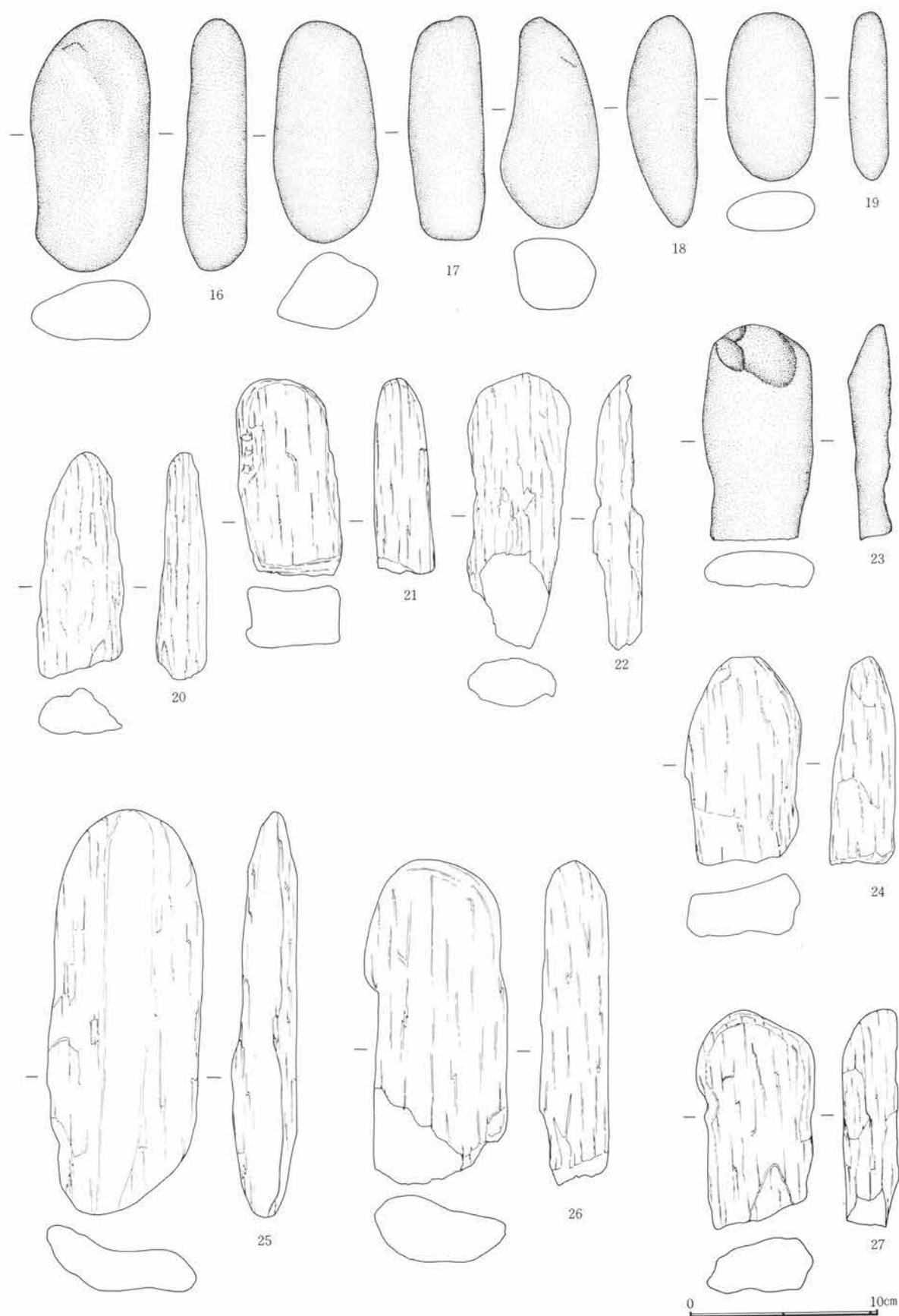
第184図 D-3号住居跡遺物図(1)

(1) 竖穴住居跡



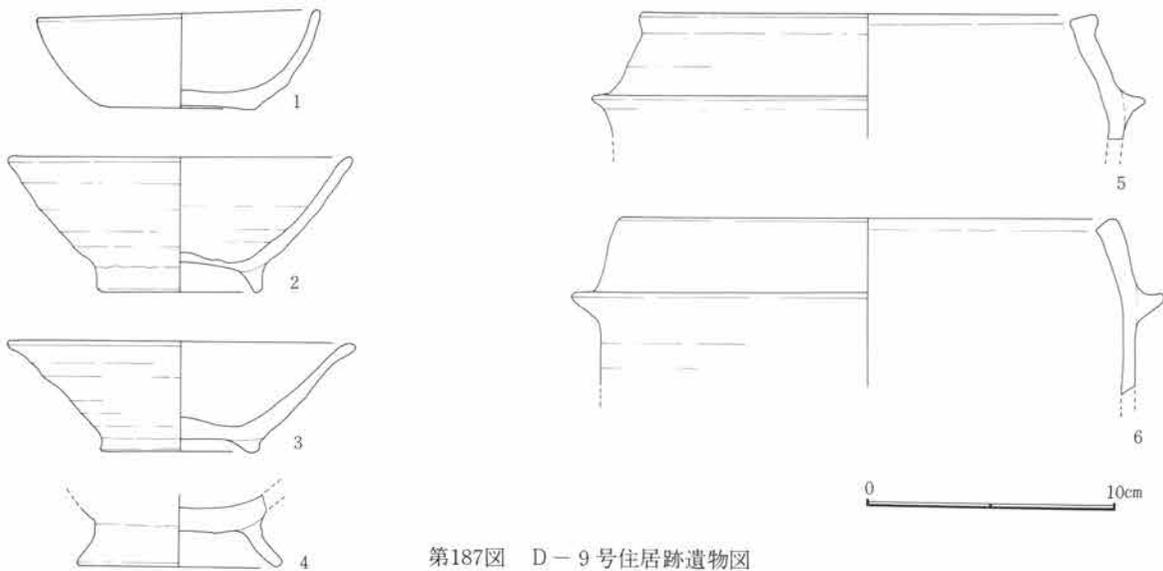
第185图 D-3号住居跡遺物图(2)

5. 検出された遺構と遺物



第186図 D-3号住居跡遺物図(3)

## (1) 竪穴住居跡



第187図 D-9号住居跡遺物図

第74表 D-3号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	口-12.1 高-3.7	覆土	口縁部と体部の中位に稜がある。外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 底面黒色 ③1~2mmの砂粒含む ④完形
No-2	坏土師	(口)12.6	覆土	外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	坏土師	口-14.0高-4.4	覆土	口縁部と体部の中位に稜がある。外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内部 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④%残存
No-4	坏須恵	(底)8.0	覆土	底部 回転糸切り。	②灰白色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-5	蓋須恵	(口)13.4	覆土	外面に釉。	②暗オリーブ色 ③密 ④破片
No-6	蓋須恵	(口)15.6	覆土		①やや酸化 ②明オリーブ灰色 ③軟質、細砂粒含む ④破片
No-7	甕土師	(口)23.8	覆土	外面 口縁部 ヨコナデ。頸部 ヘラ痕。頸部~下 ヘラケズリ。	②明赤褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-8	甕土師	(口)26.0	覆土	外面 口縁部 ヨコナデ。頸部 ヘラ痕。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-9	甕土師	(口)20.0	覆土	内・外面 口縁部 ヨコナデ。	②明赤褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-10	平瓦	瓦観察表、1類A-D住10参照			
No-11	平瓦	瓦観察表、1類A-D住11参照			
No-12	平瓦	瓦観察表、1類A-D住12参照			

5. 検出された遺構と遺物

No-13	平瓦	瓦観察表、1類A-D住13参照			
No-14	平瓦	瓦観察表、1類A-D住14参照			
No-15	平瓦	瓦観察表、1類C-No 3参照			
No-16	石	(長)(巾)(厚)cm 8.0×6.8×3.5	g 433	覆土	輝石安山岩。 粗粒
No-17	石	11.5×5.5×1.5	355	覆土	輝石安山岩。 粗粒
No-18	石	11.0×8.5×3.5	275	覆土	閃緑岩。
No-19	石	7.5×4.8×18.0	143	覆土	輝石安山岩。 粗粒
No-20	石	11.0×4.5×2.0	183	覆土	緑色片岩。
No-21	石	10.0×5.0×3.0	333	覆土	緑色片岩。
No-22	石	9.0×5.0×2.5	258	覆土	緑色片岩。
No-23	石	11.0×5.8×4.0	203	覆土	輝石安山岩。 粗粒
No-24	石	11.0×6.2×2.5	348	覆土	緑色片岩。
No-25	石	20.0×8.0×2.0	722	覆土	緑色片岩。
No-26	石	16.0×7.0×3.2	663	覆土	黒色片岩。
No-27	石	11.0×8.5×2.5	316	覆土	緑色片岩。

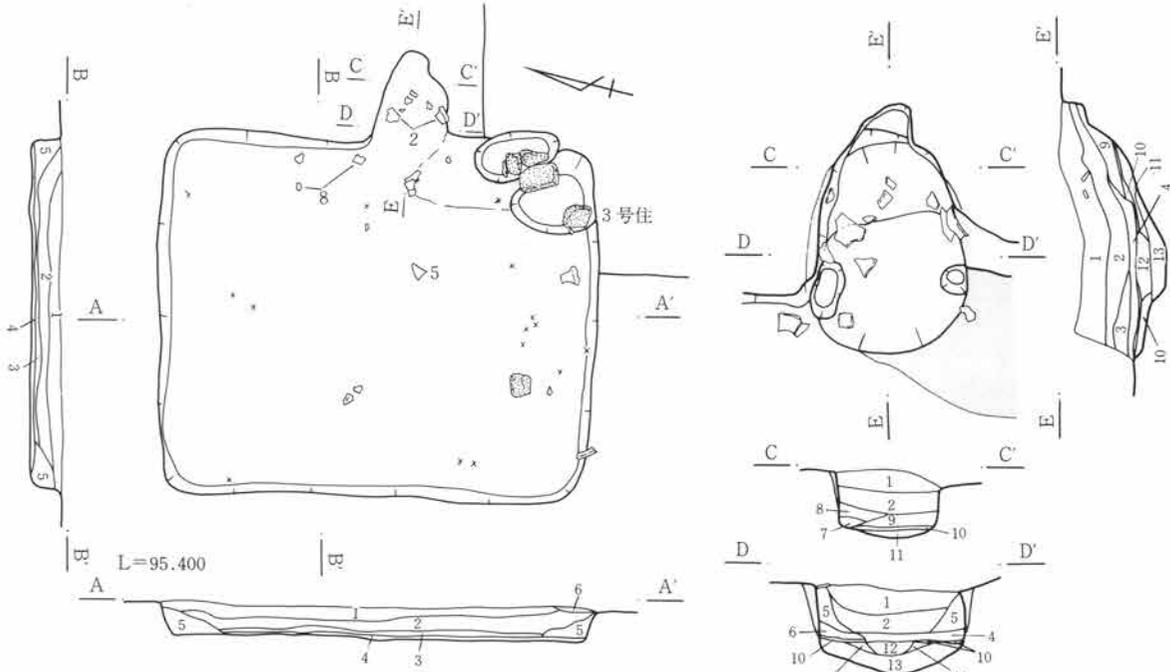
第75表 D-9号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	口-11.3 高-3.8 底-6.0	覆土	底部 回転糸切り。	①酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-2	埴須恵	口-13.8 高-5.4 底-6.6	覆土	付高台。	①酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-3	埴須恵	(底)6.4	覆土	雑な作りで、口縁部 やや外湾する。	②灰白色 ③2~3mmの砂粒含む ④½残存
No-4	埴須恵	底-8.0	覆土	底部 回転糸切り。高い高台が付く。	①酸化 ②にぶい黄橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-5	羽釜	(口)18.2	覆土	鏝 上を向き、口縁部 内傾する。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-6	羽釜	(口)20.0	覆土	鏝 上を向き、丁寧な貼付け。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存

(1) 竪穴住居跡

D-4号住居跡 (第188図、PL14・40・41・64・71)

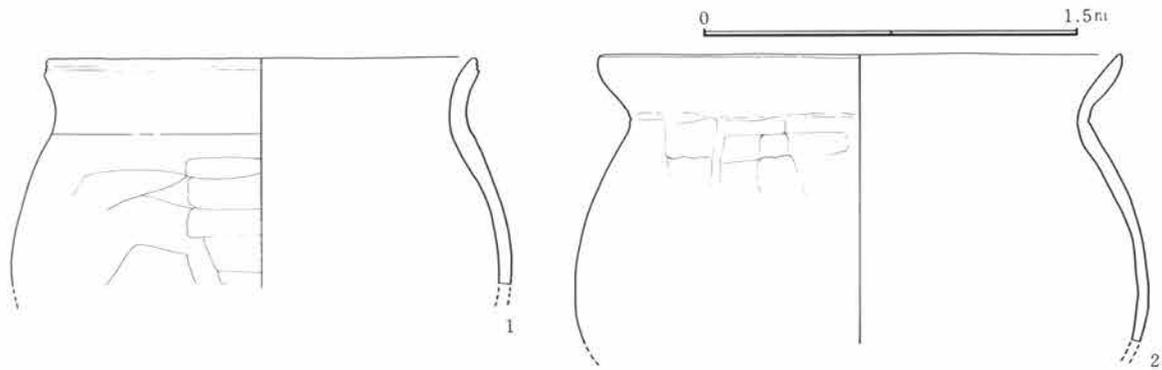
当住居跡は南住居群の中に位置し、D-3号住居跡・D-9号住居跡と重複関係にある。新旧は3号住居跡・9号住居跡より新しい。規模は長辺3.6m、短辺2.9mである。平面形態は長方形を呈する。壁高は約20cmを測り、主軸方位はN-79°-Eである。床面は平坦である。貯蔵穴は南東コーナー部に並び2つ確認された。北の貯蔵穴は径70cm×50cm、深さ10cm、南の貯蔵穴は径65cm×40cm、深さ15cmである。両貯蔵穴から砂岩が検出された。壁周溝・柱穴等の施設は確認されていない。竈は東壁ほぼ中央にあり、袖幅60cm、燃烧部長60cmである。



- 1. 暗褐色土層 焼土・炭化物を少量含む。
- 2. 暗褐色土層 灰白色粘土ブロック(3mm~1cm)を多量に含む。
- 3. 黒褐色土層 黒色土粒を含む。
- 4. 暗褐色土層
- 5. 暗褐色土層 灰色土粒を含む。
- 6. 黒褐色土層 炭化物を多量に含む。

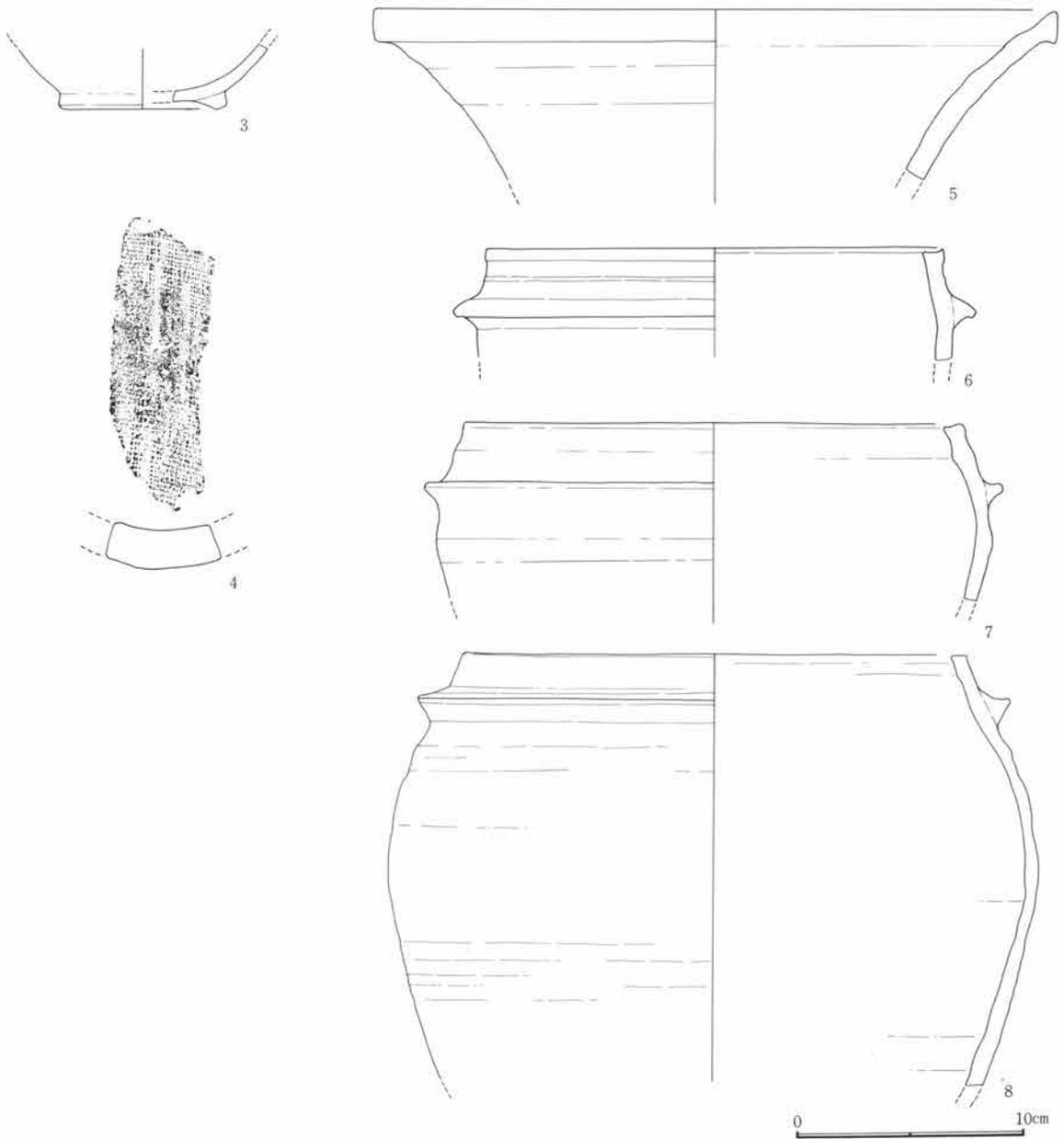
- 1. 暗褐色土層 焼土・炭化物を少量含む。
- 2. 暗褐色土層 灰白色粘土ブロックを多量に含む。
- 3. 暗褐色土層
- 4. 暗褐色土層 焼土ブロック・炭化物を多量に含む。
- 5. 暗褐色土層 焼土を少量含む。
- 6. 赤褐色土層 壁崩落焼土ブロック。
- 7. 褐色土層 焼土粒を多量に含む。
- 8. 黒褐色土層 焼土ブロック・炭化物を含む。
- 9. 褐色土層 焼土を多量に含む。
- 10. 黒褐色土層 木灰純層。
- 11. 暗褐色土層 焼土ブロック・灰を含む。
- 12. 赤褐色土層 焼土面。
- 13. 暗褐色土層 焼土・灰を含む。

第188図 D-4号住居跡遺構図・竈図



第189図 D-4号住居跡遺物図(1)

5. 検出された遺構と遺物



第190図 D-4号住居跡遺物図(2)

第76表 D-4号住居跡遺物観察表

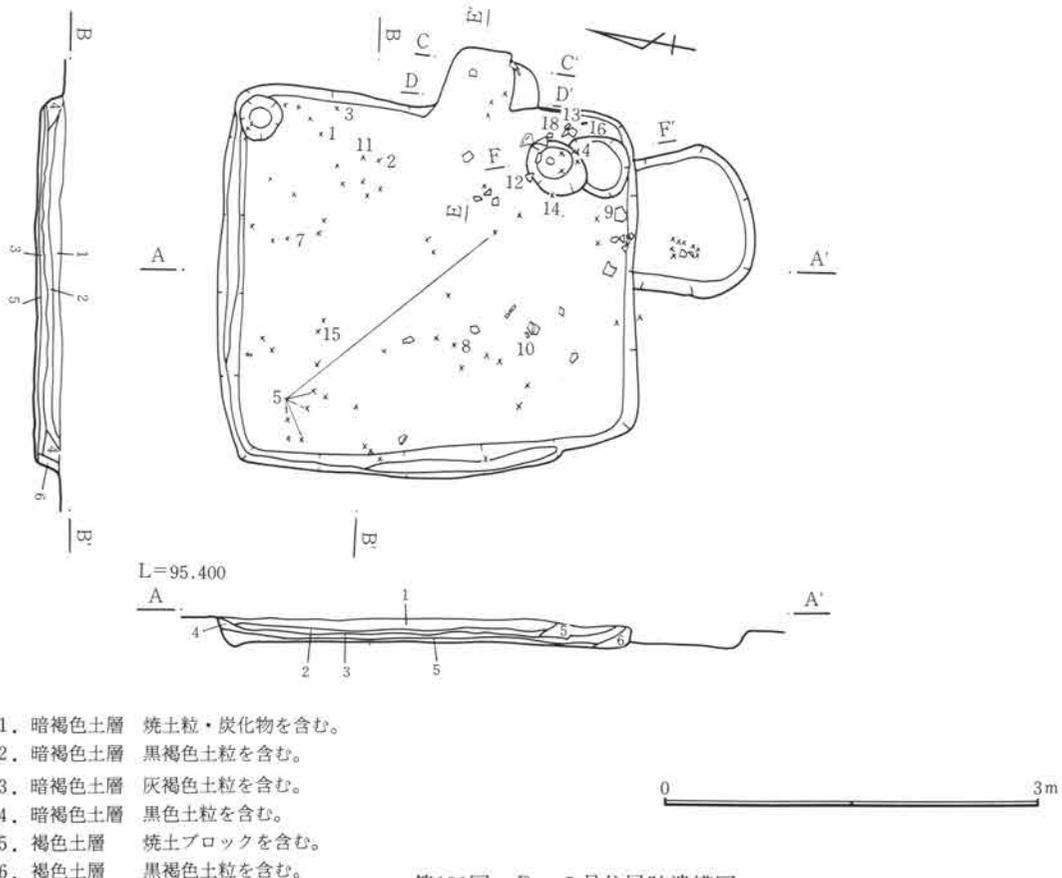
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	甕 土師	口-17.2	覆土	口縁部 沈線状の線が入る。	①酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部残存
No-2	甕 土師	口-20.8	覆土	外面 口縁部 ヨコナデ。頸部 ヘラケズリ。ヘラ痕。内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部残存
No-3	坏 須恵	(底)7.4	覆土	付高台。高台部 雑なナデ付け。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-4	丸瓦	瓦観察表、1類A-D住4参照			

## (1) 竪穴住居跡

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-5	甕 須恵	(口)30.0	覆土	口縁部 稜を持つ。	②褐灰色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-6	羽釜	(口)20.0	覆土	銕 下を向く。丁寧な貼付け。	①やや酸化 ②オリーブ黒色 ③ 1~2mmの砂粒含む ④口縁部破 片
No-7	羽釜	口-22.0	竈内	銕 上を向く。丁寧な貼付け。口縁部 やや 内傾する。	①やや還元 ②にぶい赤褐色 ③ 細砂粒含む ④口縁部破片
No-8	羽釜	(口)22.0	覆土	口縁部 内傾する。銕 短く、断面は三角形 を呈す。	①還元 ②灰白色 ③2~3mmの 砂粒含む ④口縁部破片

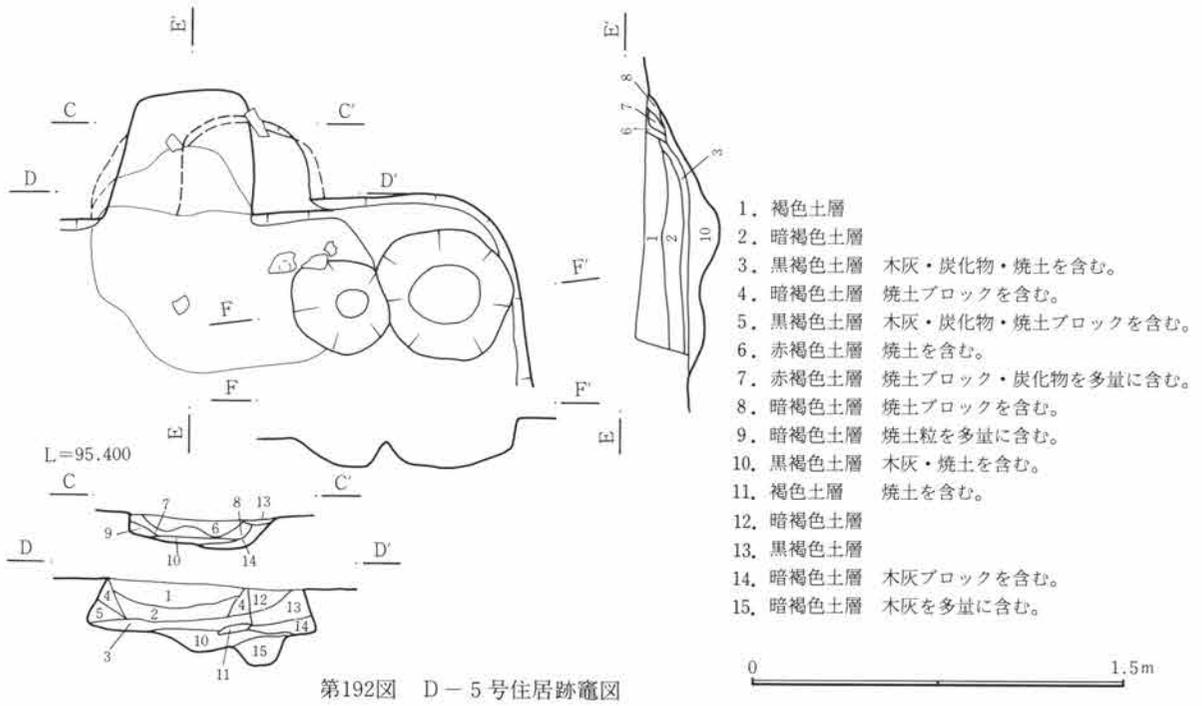
## D-5号住居跡 (第191・192図、PL14・41・64・65)

当住居跡はD区南住居群の中に位置し、D-9号住居跡と重複関係にある。新旧関係は、D-9号住居跡より新しい。規模は、長辺3.5m、短辺3mである。平面形態は、長方形を呈する。主軸方位は、N-84°-Eである。壁高は、約15~20cmを測り、壁周溝は、浅く幅約10cm~30cmで北・西壁で浅い溝が確認された。床面は、平坦をなし貯蔵穴は、南東コーナーに南・北に並び2箇所落ち込みが確認された。新旧関係は北が新しい。南の貯蔵穴は約50cm×45cm、深さ20cm、北の貯蔵穴は約50cm×35cm、深さ約20cmを測る。また北東コーナーにも約40cm×35cm、深さ約6cmの落ち込みが確認されている。竈は東壁中央に2箇所重複して検出され、作り替えと思われる。新旧関係は北が新しく燃焼部幅約55cm、同長約50cm、南は燃焼部幅約50cm、同長約40cmを測る。

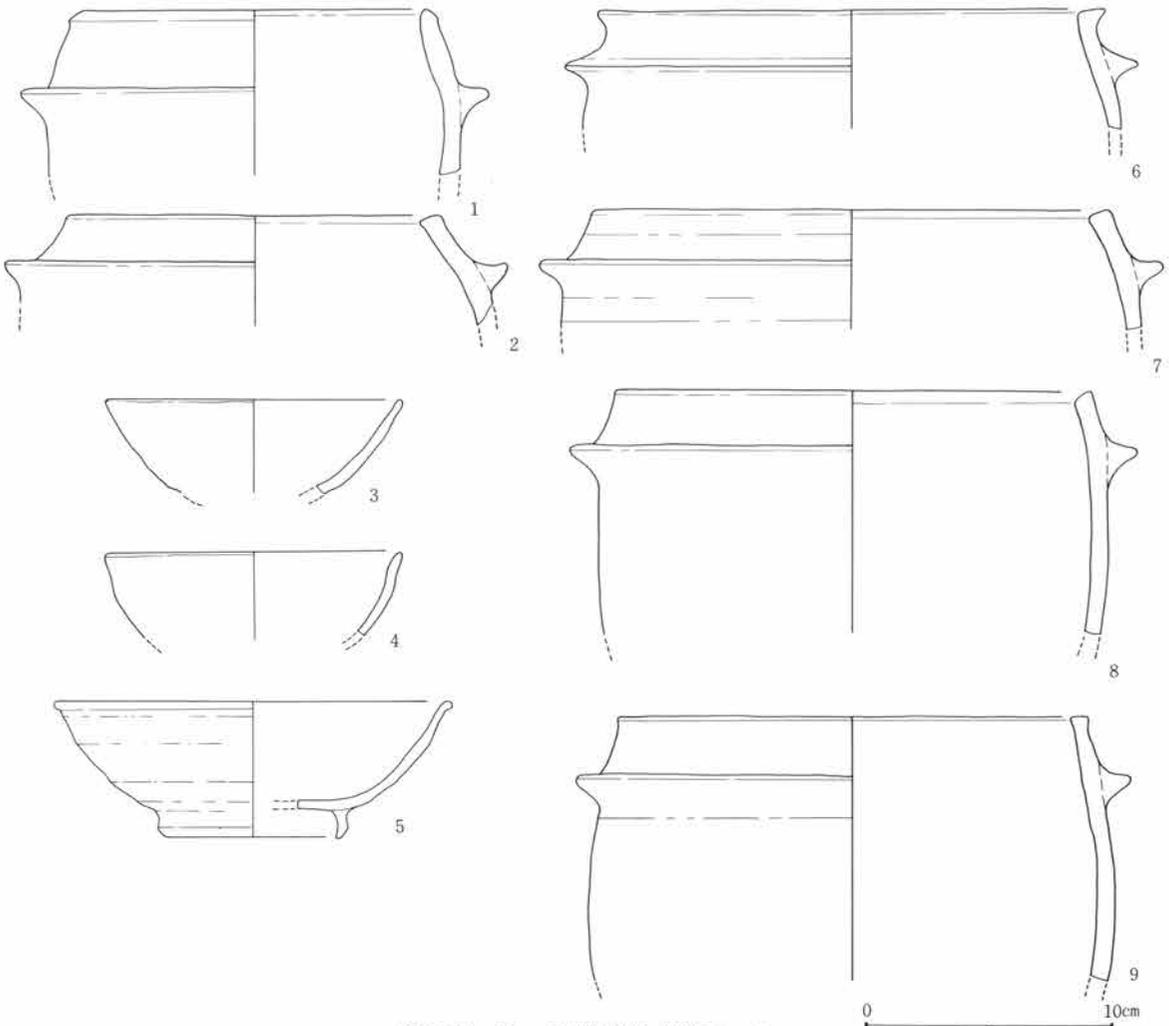


第191図 D-5号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物

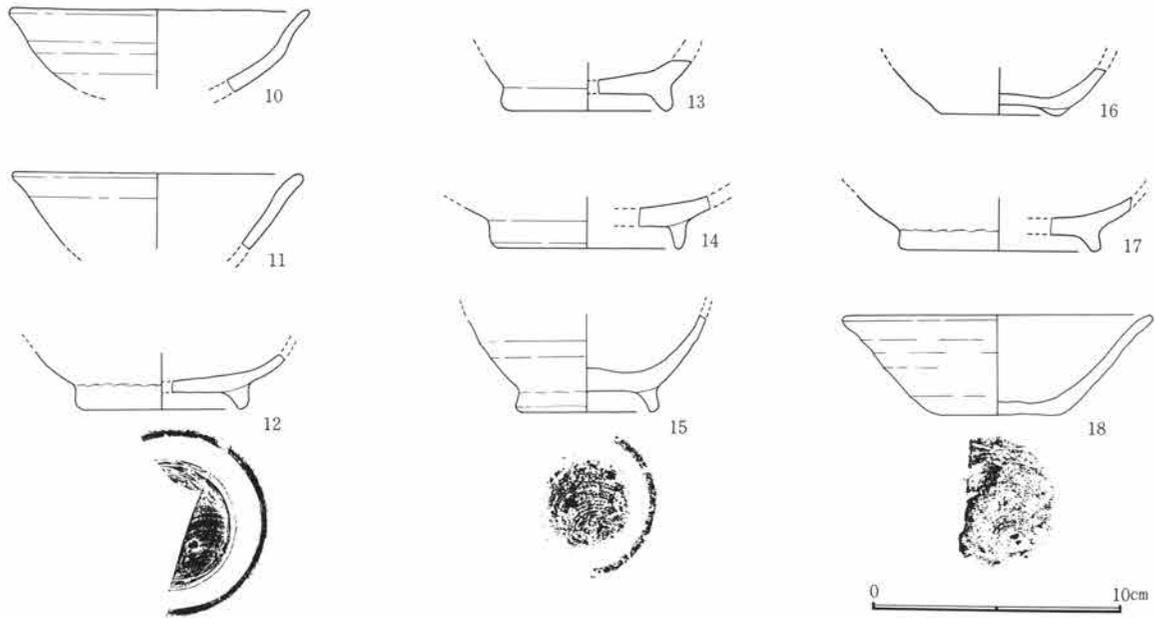


第192図 D-5号住居跡竈図



第193図 D-5号住居跡遺物図(1)

## (1) 竪穴住居跡



第194図 D-5号住居跡遺物図(2)

第77表 D-5号住居跡遺物観察表

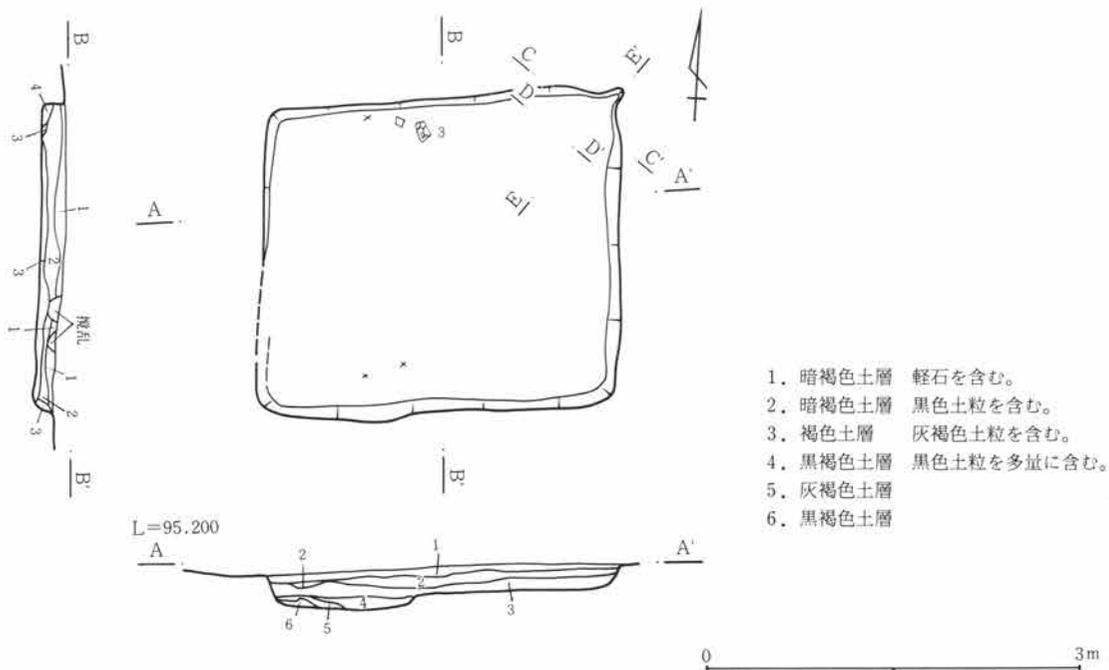
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽釜	(口)15.0	覆土	鈔上を向く。	①還元 ②褐灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	羽釜	(口)15.0	覆土	鈔上を向く。口縁部内傾する。	①酸化 ②明赤褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	坏須恵	(口)12.0	覆土		②灰白色 ③密 ④口縁部破片
No-4	坏須恵	(口)12.0	覆土	口縁部一部釉。	②灰白色 ③密 ④口縁部破片
No-5	坏須恵	(口)6.0 高-5.4 (底)7.0	覆土	口唇部外湾する。丁寧な作り。付高台。	①やや酸化 ②灰白色 ③密 ④1/2残存
No-6	羽釜	(口)20.4	覆土	口縁部外側に屈曲する。鈔上を向く。	①酸化 ②にぶい橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部のみ残存
No-7	羽釜	(口)21.0	覆土	鈔上を向く。	①酸化 ②明黄褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-8	羽釜	(口)19.0	覆土	鈔上を向く。断面は三角形を呈す。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-9	羽釜	(口)19.0	覆土	鈔上を向く。丁寧な貼付け。	①酸化 ②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-10	坏須恵	(口)12.0	覆土	口縁部やや外湾する。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④1/2残存
No-11	坏須恵	(口)11.8	覆土	雑な作り。口縁部外傾する。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部1/2残存

5. 検出された遺構と遺物

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-12	埴須恵	(底)7.0	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰色 ③密 ④底部破片
No-13	埴須恵	(底)7.0	覆土	付高台。底部 回転ヘラ調整。	①やや酸化 ②明黄褐色 ③2～3mmの砂粒含む ④底部 $\frac{1}{2}$ 残存
No-14	埴須恵	(底)7.4	覆土	付高台。	②灰白色 ③密 ④底部破片
No-15	埴須恵	(底)5.8	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰白色 ③1～2mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-16	埴須恵	(底)3.0	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰白色 ③1～2mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-17	埴須恵	(底)8.0	覆土	付高台。	②灰白色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-18	坏須恵	口-12.4 高-3.9 底-5.0	覆土	口縁部 わずかに外湾する。底部 回転糸切り。右廻り。	②灰白色 ③3～4mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存

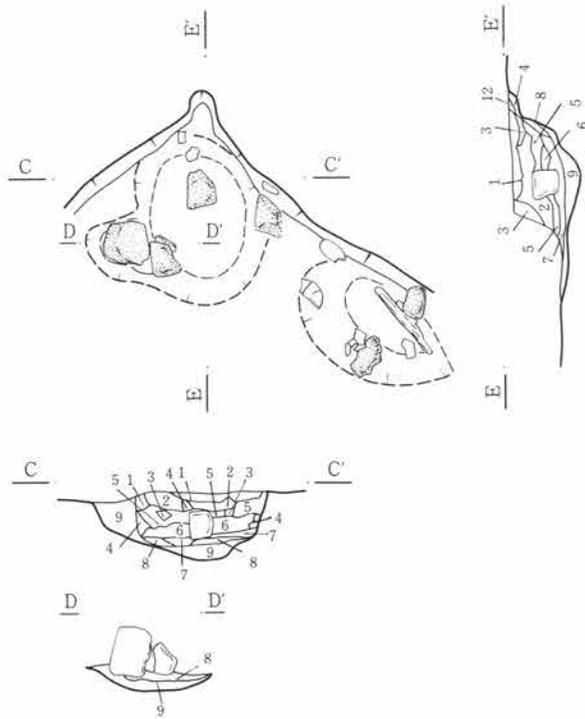
D-6号住居跡 (第195・196図、PL15・41)

当住居跡はD区南に位置しD-2号住居跡の南、D-8号住居跡の西にある。D-2・D-8号住居跡と同様D-4号溝埋没後に作られている。平面形態はほぼ正方形を呈する。規模は長辺3m、短辺2.7mを測る。壁高は約10cmを測る。主軸方位は竈の長軸がN-46°-Eである。床面は東から西へ向い緩やかな傾斜を持ち、その比高は約10cmである。貯蔵穴・柱穴・壁周溝などの諸施設は確認されていない。竈は北東コーナーに検出された。袖幅約50cm、燃烧部長約45cmを測る。右袖部から砂岩質の袖材が、左袖部から同質の石が検出された。さらに燃烧部中央より石が検出され支脚と思われる。



第195図 D-6号住居跡遺構図

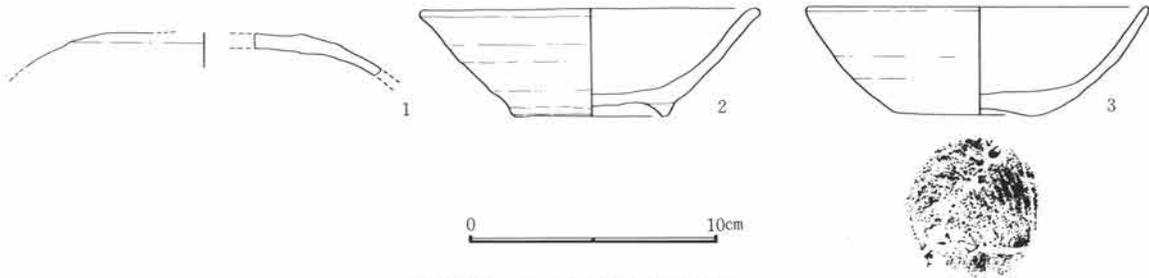
(1) 竪穴住居跡



1. 黄褐色土層 焼土ブロックを含む。
2. 黄褐色土層 焼土ブロック・炭化物を含む。
3. 黄褐色土層
4. 褐色土層 焼土を含む。
5. 黒褐色土層 焼土・炭化物を含む。
6. 灰褐色土層
7. 灰褐色土層 焼土を少量含む。
8. 灰褐色土層 焼土・炭化物を含む。
9. 黒褐色土層 焼土を含む。

0 1.5m

第196図 D-6号住居跡竈図



第197図 D-6号住居跡遺物図

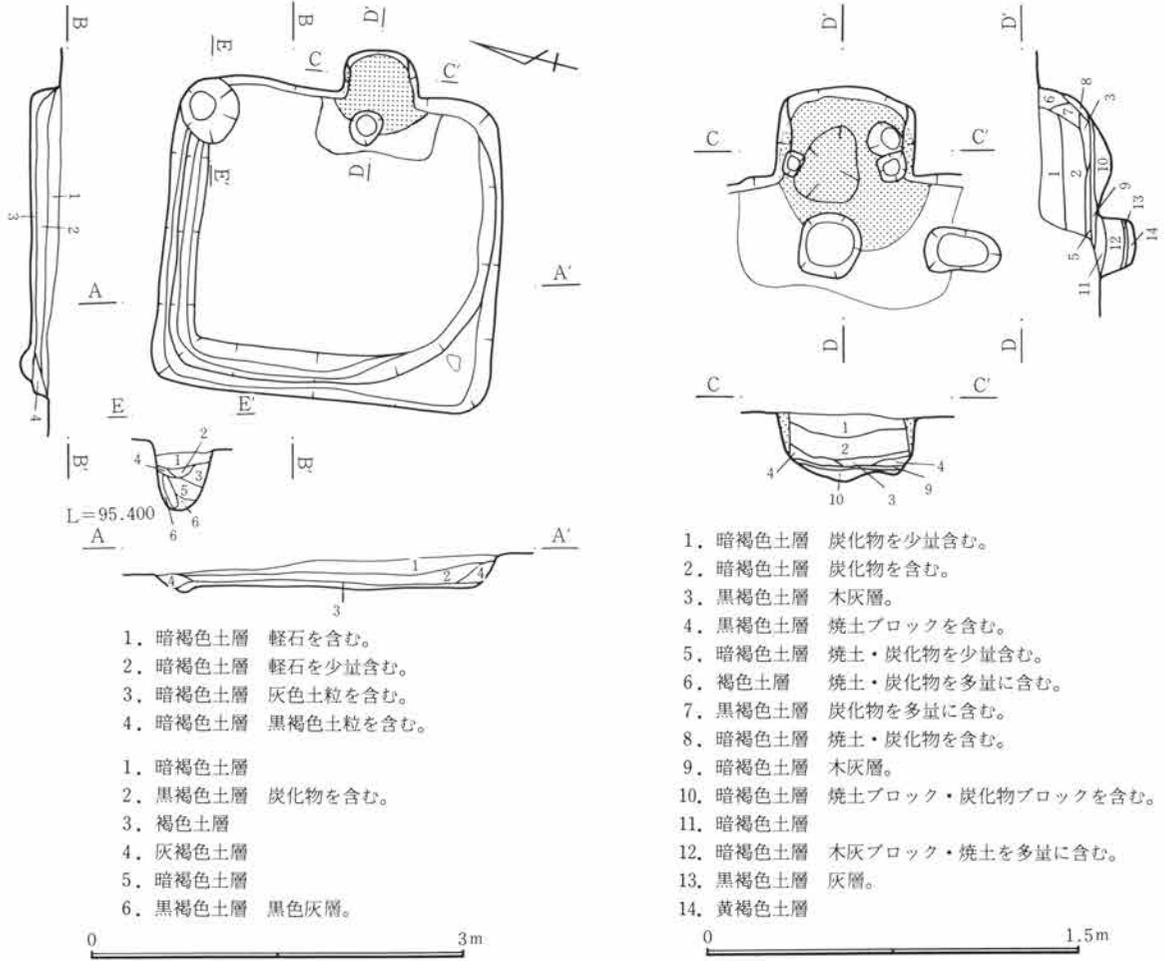
第78表 D-6号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	蓋 須恵		覆土	外面 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④破片
No-2	碗 須恵	口-13.6 高-4.3 底-6.0	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	②黒褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④½残存
No-3	坏 須恵	口-13.7 高-4.3 底-5.6	覆土	底部 回転糸切り。雑な作り。	①やや酸化 ②浅黄橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存

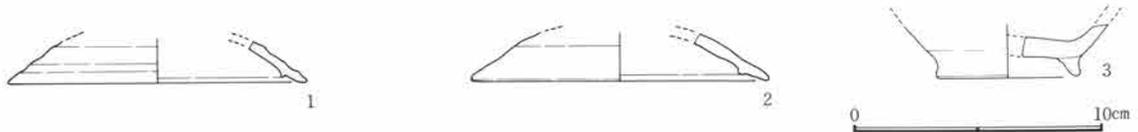
5. 検出された遺構と遺物

D-7号住居跡 (第198図、PL15)

当住居跡はD区南に位置しD-8号住居跡の北にある。平面形態はほぼ正方形を呈する。規模は長辺2.8m、短辺2.6mである。壁高は約10~20cmを測る。東壁を除く3壁に幅約15~30cm、深さ約10cmの壁周溝が巡る。この周溝は南壁で浅くなり北西コーナーの位置から拡張あるいは建て替えなどが想定される。主軸方位はN-83°-Eである。貯蔵穴は北東コーナーに確認され規模は約50×45cm、深さ約40cmである。柱穴は確認されていない。竈は東壁南寄りに検出された。袖幅約40cm、燃烧部長約35cmである。両袖部には構築材の跡と思われる小穴が2穴検出された。竈前面から焼土・炭化物が厚く堆積した状態で検出された。



第198図 D-7号住居跡遺構図・竈図



第199図 D-7号住居跡遺物図

第79表 D-7号住居跡遺物観察表

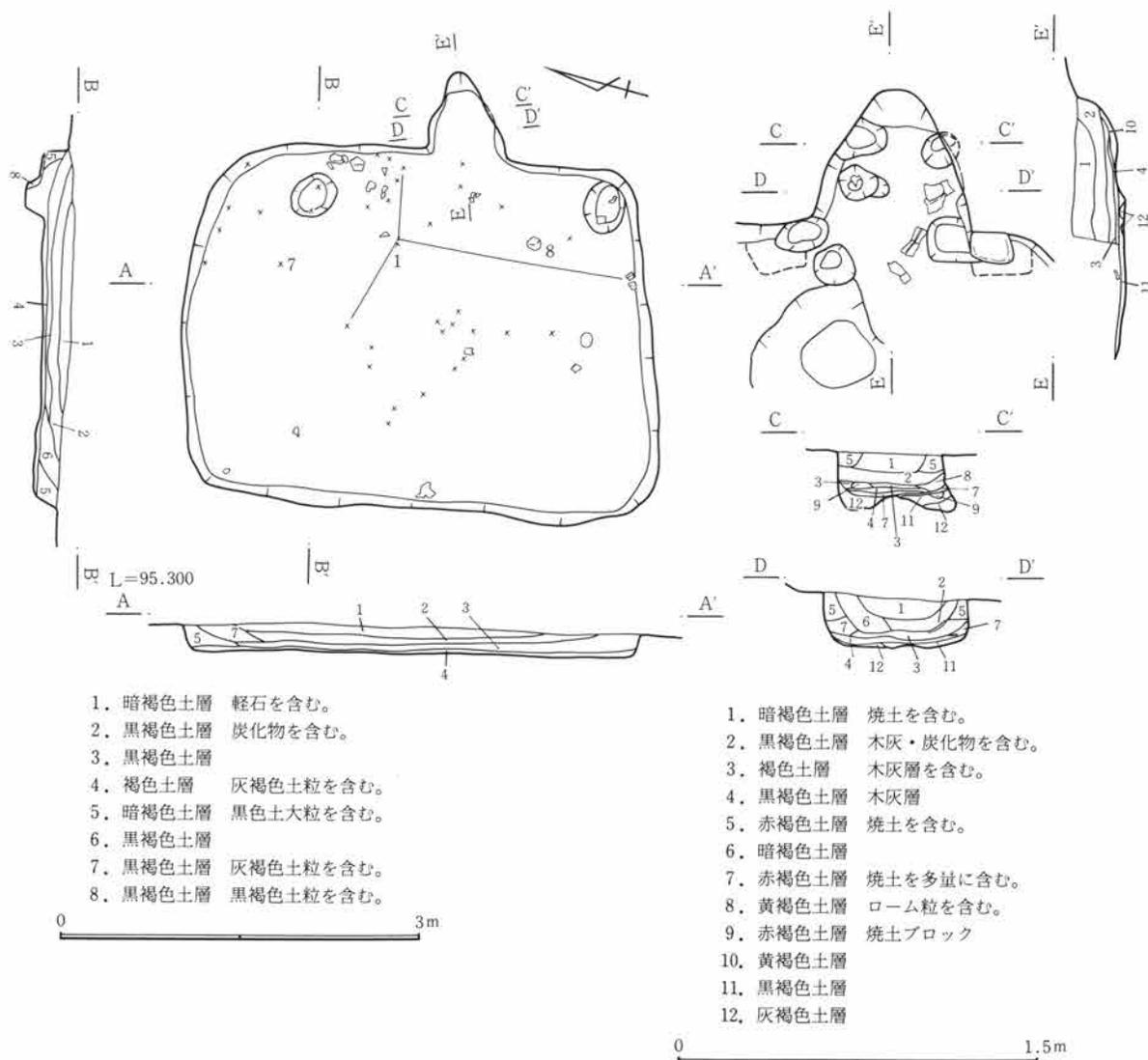
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	蓋須恵	(口)12.0	覆土	内面に返りを持つ。	②灰白色 ③細砂粒含む ④端部破片

(1) 竪穴住居跡

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-2	蓋 須恵	(口)12.0	覆土	内面に返りを持つ。	②灰白色 ③細砂粒含む ④端部破片
No-3	碗 須恵	(底)8.0	覆土	付高台。	②灰色 ③細砂粒含む ④底部破片

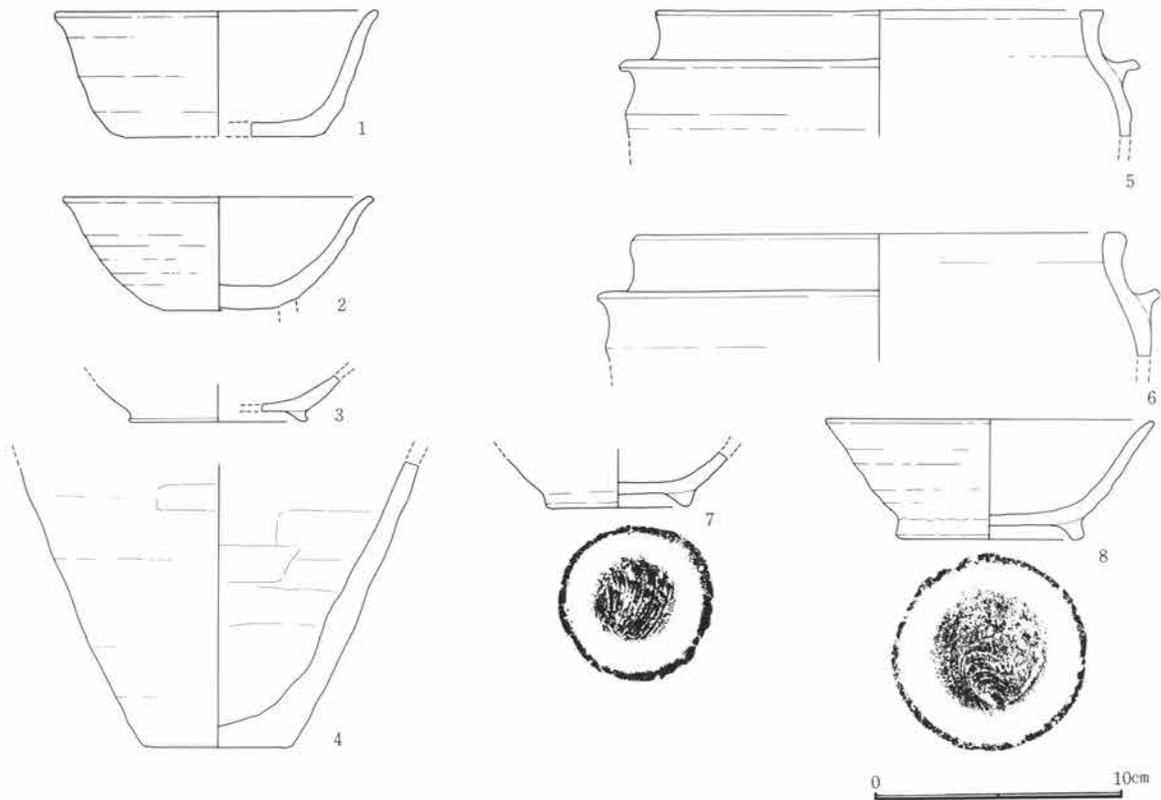
D-8号住居跡 (第200図、PL15・41)

当住居跡はD区南住居跡群の中に位置しD-5号住居跡の東にある。他の遺構との重複はない。平面形態は長方形を呈する。規模は長辺4m、短辺3mである。主軸方位はN-82°-Eであり、壁高は約20cmを測る。床面は平坦である。貯蔵穴は南東コーナーと東壁寄りやや北に2箇所検出された。規模はコーナーにあるものが約40cm×約35cmで深さ約10cm、もう一つは約35cm×30cm、深さは約10cmを測る。壁周溝・柱穴は確認されていない。竈は東壁中央に検出され袖幅約70cm、燃烧部長約70cmを測る。右袖部より石が検出され左袖からは袖材跡と思われる小穴が確認された。



第200図 D-8号住居跡遺構図・竈図

5. 検出された遺構と遺物



第201図 D-8号住居跡遺物図

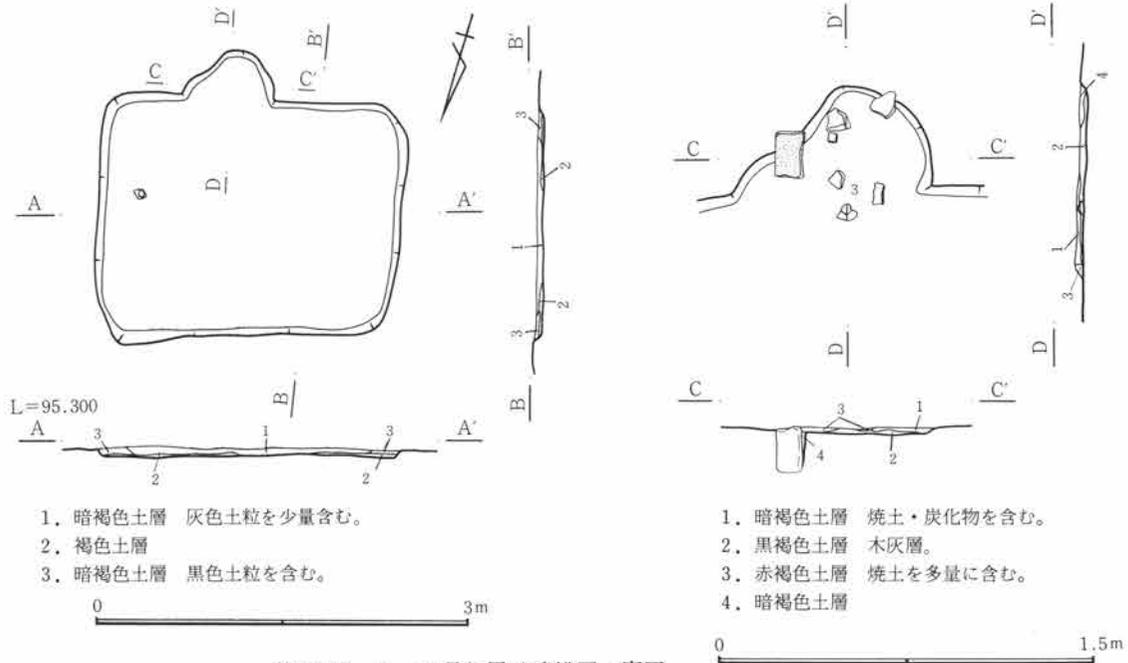
第80表 D-8号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	口-13.0 高-5.0 底-8.0	覆土	底部 やや広い高台。欠落したと思われる。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④1/4残存
No-2	坏須恵	口-12.4	覆土	高台欠落。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④1/4残存
No-3	碗須恵	(底)7.0	覆土	付高台。雑な作り。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-4	羽釜	(底)6.0	覆土	内・外面 ナデ。	②明褐色 ③1~2mmの砂粒含む
No-5	羽釜	(口)18.0	覆土	口縁部 厚くなり内傾する。銚 上を向く。	②にふい橙色 ③細砂粒含む ④口縁部1/4残存
No-6	羽釜	(口)20.0	覆土	銚 上を向く。銚から上は薄くなり、口唇部は厚くなる。	②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-7	碗須恵	(底)6.0	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②2~3mm砂粒含む ④底部のみ残存
No-8	碗須恵	口-13.2	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④1/4残存

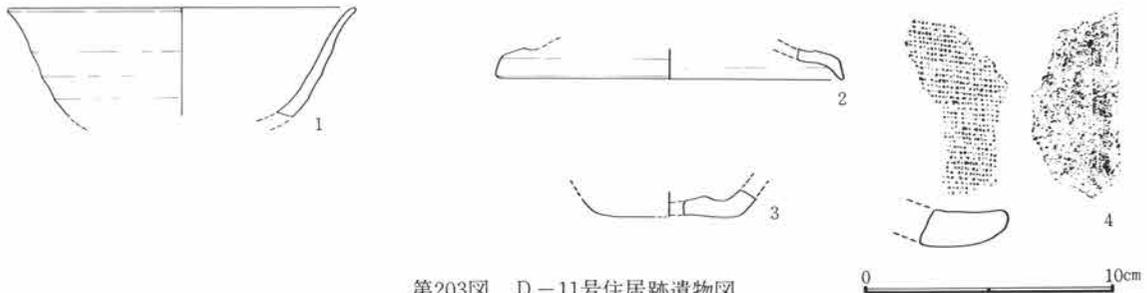
(1) 竪穴住居跡

D-11号住居跡 (第202図、PL15・65・71)

当住居跡はD区南住居群の中に位置し、D-7号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。平面形態は長方形を呈する。規模は、長辺2.5m、短辺2mである。主軸方位はN-177°-Eである。壁は南東部は北西部に比べ低くなる。高さは約3~10cmである。床面は平坦をなし柱穴・貯蔵穴は検出されていない。竈は南壁やや東寄りに検出され、袖幅約50cm、燃烧部長約30cmを測る。左袖部より砂岩質の袖材が検出された。



第202図 D-11号住居跡遺構図・竈図



第203図 D-11号住居跡遺物図

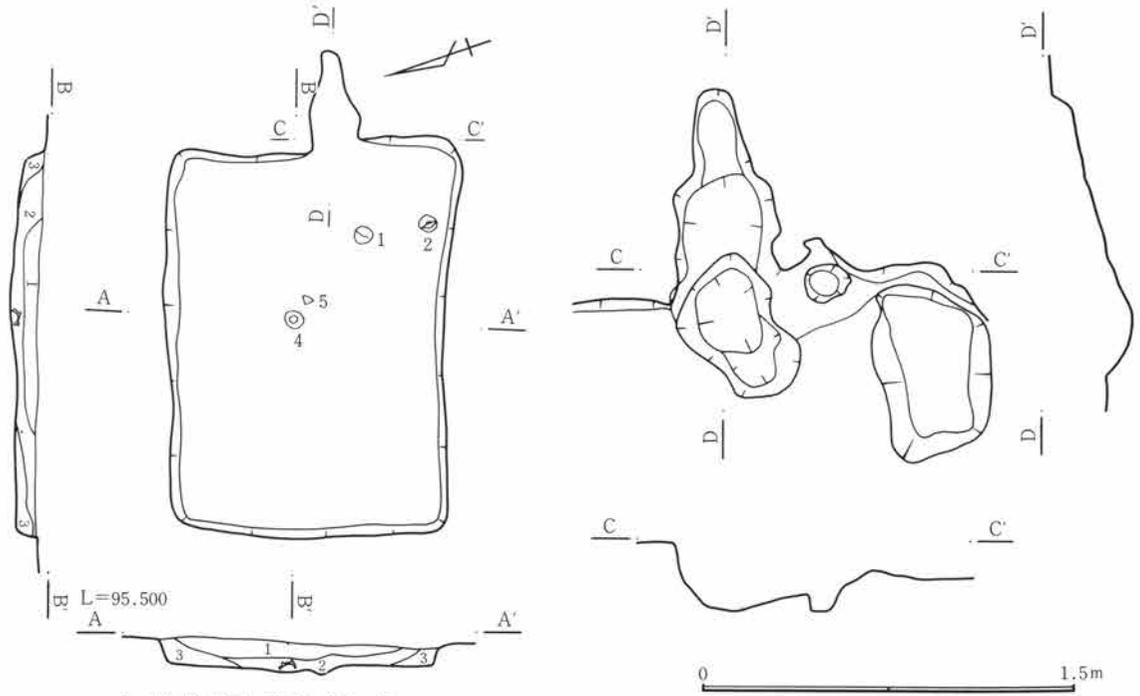
第81表 D-11号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	(口)12.3	覆土	口縁部 やや外湾する。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	蓋須恵	(口)13.8	覆土		②灰白色 ③細砂粒含む ④破片
No-3	坏須恵	(底)5.7	覆土		②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-4	丸瓦	瓦観察表、2類B-No.2参照			

5. 検出された遺構と遺物

D-12号住居跡 (第204図、PL16・41・65・71)

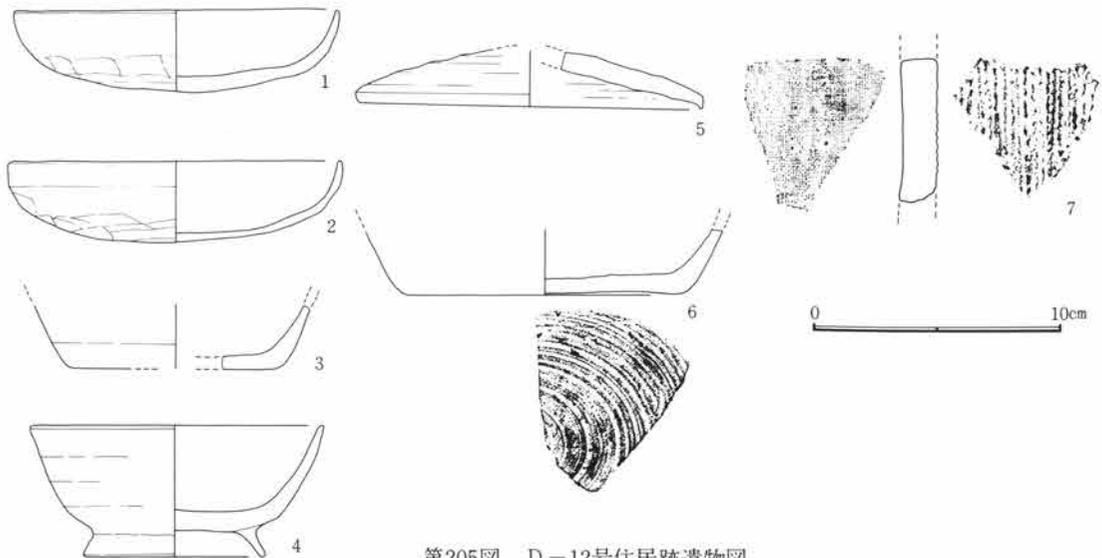
当住居跡はD区南住居群の中に位置し、D-14号住居跡の東、D-16号住居跡の南にある。他の遺構との重複は弥生時代の溝上にある。平面形態は東西に長い長方形を呈する。規模は長辺3.2m、短辺2.5mである。主軸方位はN-103°-Eである。壁高は約5~10cmを測る。床面は平坦をなし貯蔵穴・柱穴・壁周溝などの諸施設は確認されていない。竈は東壁中央に検出された。袖幅は約50cm、燃烧部長約70cm、煙道部長約35cmを測る。右袖部より袖石が検出された。



- 1. 暗褐色土層 軽石を多量に含む。
- 2. 暗褐色土層
- 3. 暗褐色土層 軽石を少量含む。



第204図 D-12号住居跡遺構図・竈図



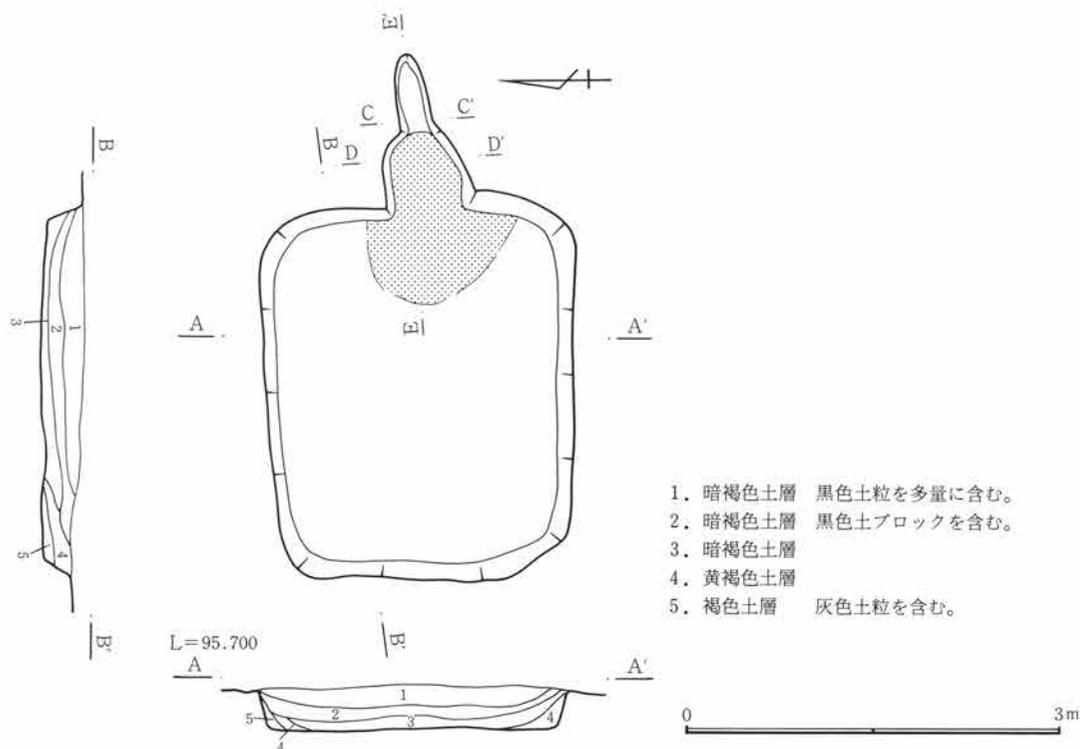
第205図 D-12号住居跡遺物図

第82表 D-12号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	口-13.1 高-3.2	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④完形
No-2	坏土師	口-13.4 高-3.2	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②にふい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-3	坏須恵	(底)8.4	覆土	底部 ヘラ調整。	②明赤灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-4	碗須恵	口-12.0高-5.2 底-7.2	覆土	付高台。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-5	蓋須恵	(口)15.0	覆土	外面 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③密 ④破片
No-6	坏須恵	(底)11.0	覆土	底部 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-7	平瓦	瓦観察表、1類B-2 No 5 参照			

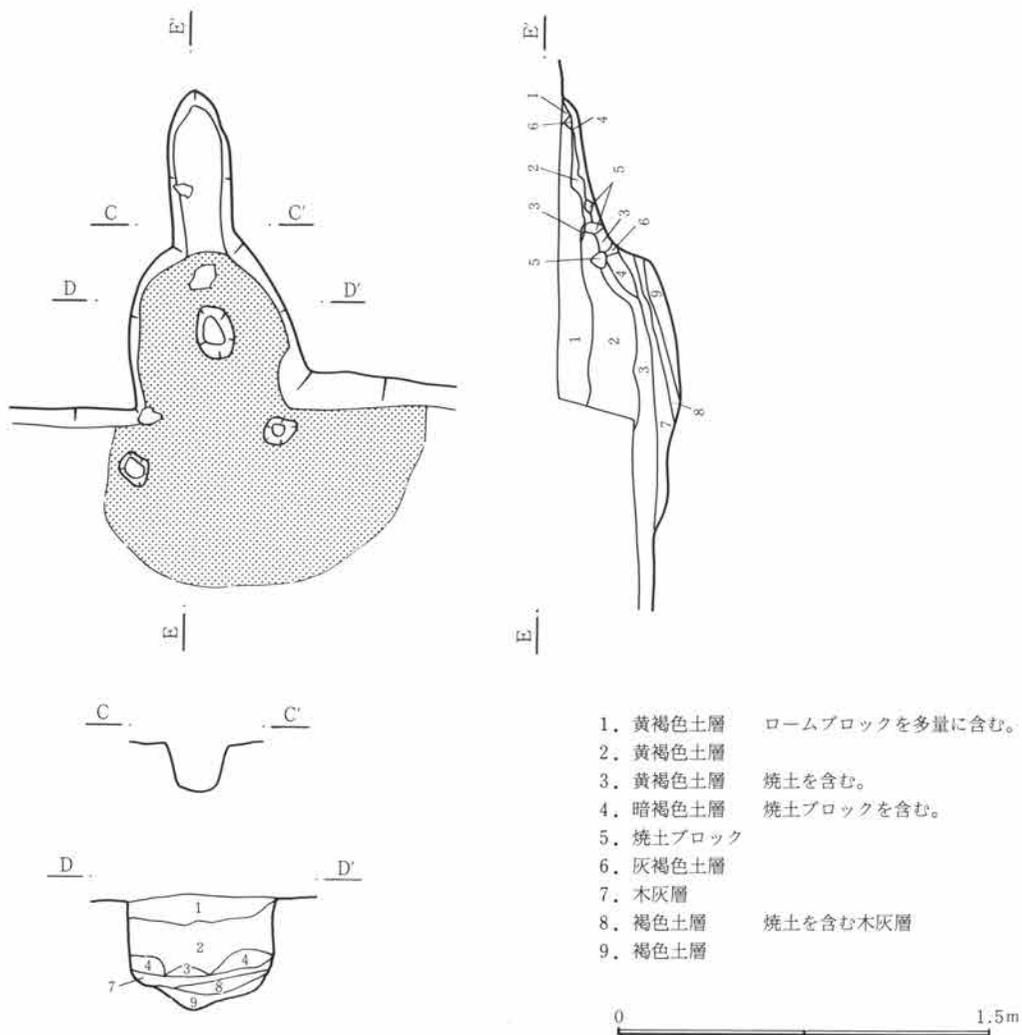
## D-13号住居跡 (第206・207図、PL16・42)

当住居跡はD区南住居跡群の中の北端に位置しD-15号住居跡の南西にある。また北にD-2号掘立柱建物跡がある。平面形態は東西に長軸をもつ長方形を呈し、規模は長辺3.1m、短辺2.6mである。主軸方位はN-84°-Eである。壁高は約30cm~35cmを測る。床面は平坦をなし貯蔵穴・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁中央に検出され、燃烧部幅約70cm、同長約60cm、煙道部長約65cmを測る。燃烧部中央から支脚の跡と思われる小穴が検出されている。



第206図 D-13号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



第207図 D-13号住居跡竈図



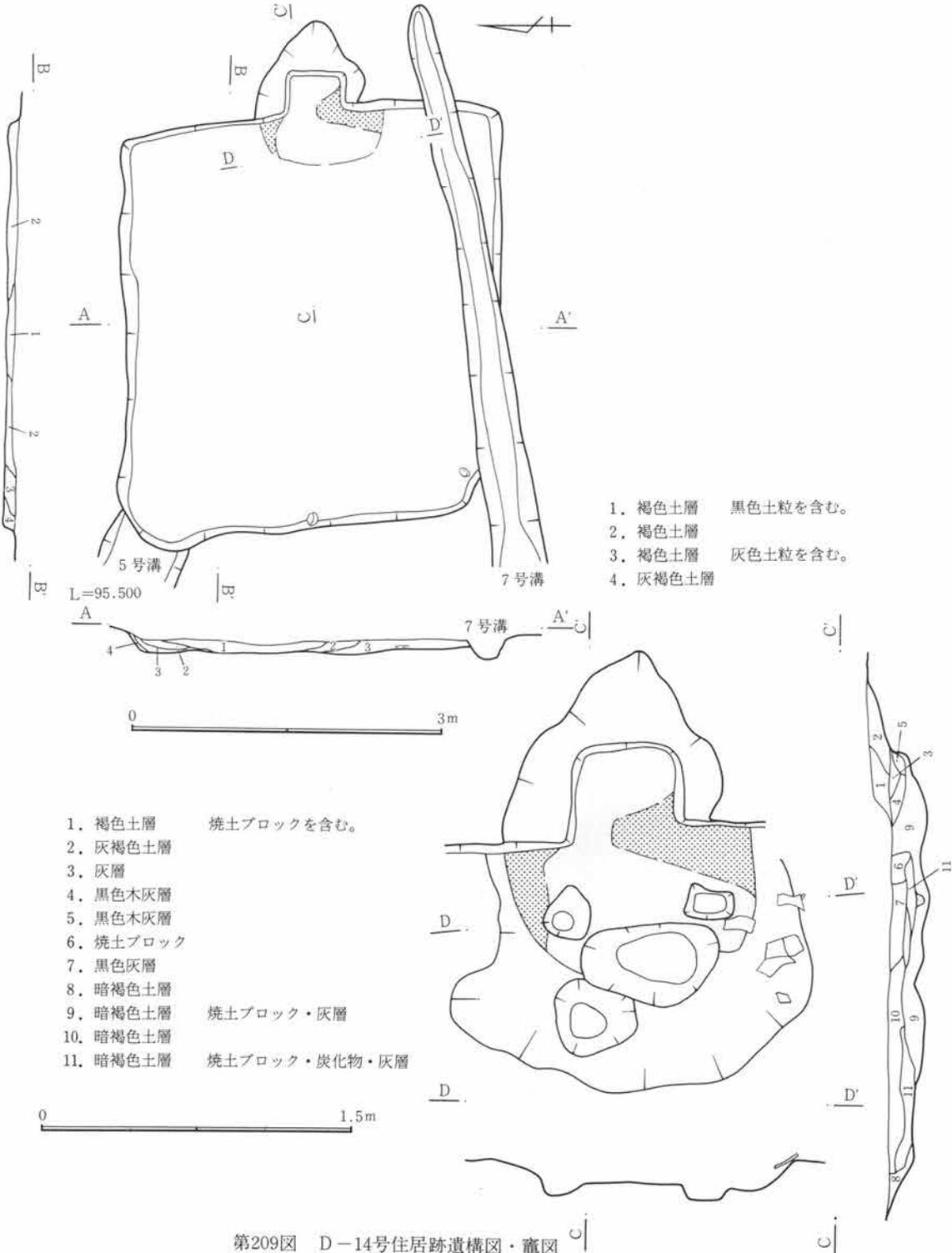
第208図 D-13号住居跡遺物図

第83表 D-13号住居跡遺物観察表

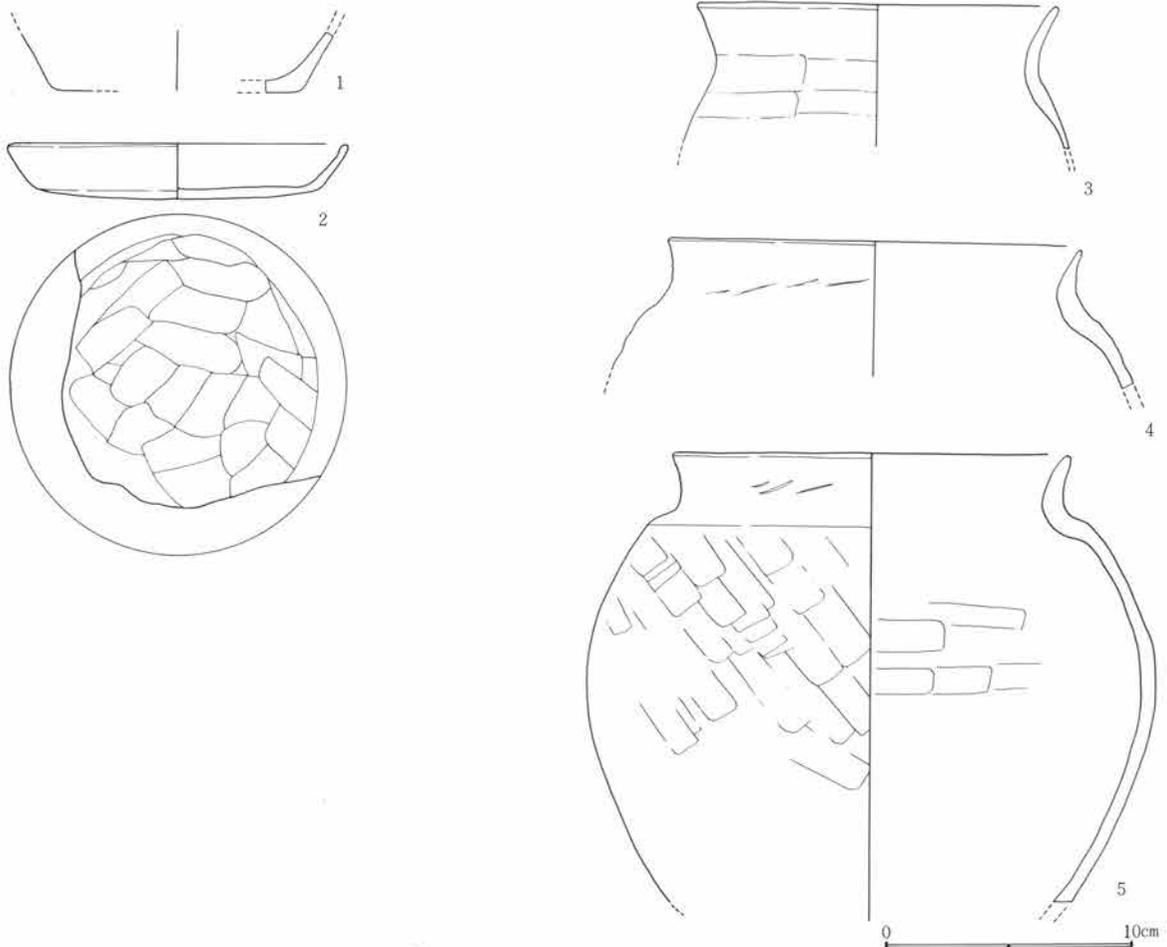
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	台付甑 土師		覆土	内・外面 ヘラ調整。	②橙色 ③細砂粒含む ④破片

D-14号住居跡 (第209図、PL16・42)

当住居跡はD区南に位置し南壁・東壁の一部をD-7号溝により切られている。平面形態はほぼ正方形を呈する。規模は長辺4.2m、短辺4mを測る。主軸方位はN-78°-Eである。壁高は約5~15cmを測る。床面は平坦をなし貯蔵穴・柱穴・壁周溝などの諸施設は確認されていない。竈は東壁中央に検出された。袖幅は約70cm、燃烧部長約60cmを測る。両袖部から小穴が各々検出された。



5. 検出された遺構と遺物



第210図 D-14号住居跡遺物図

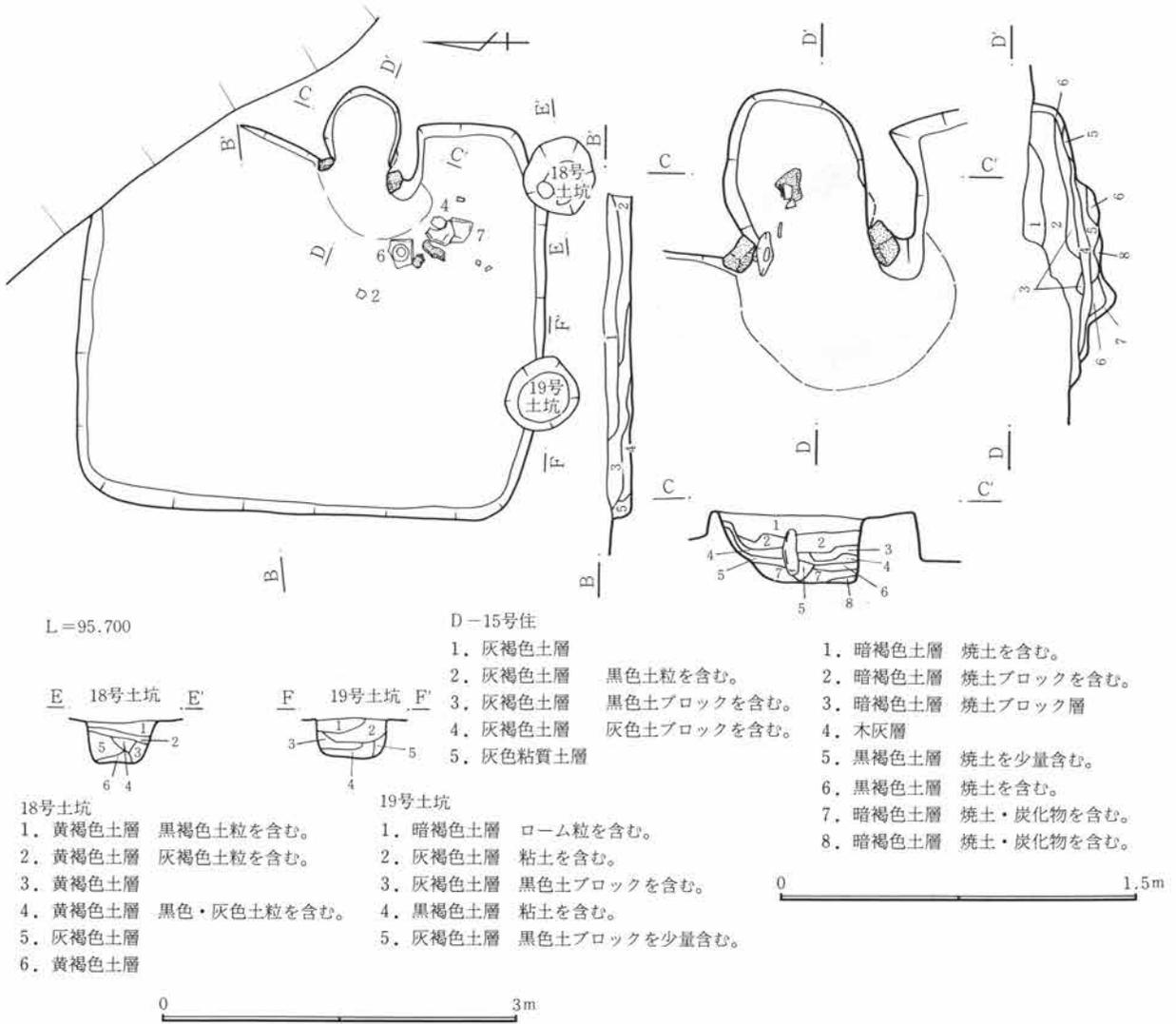
第84表 D-14号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	(底)10.0	覆土	底部 回転糸切り。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-2	坏土師	口-13.5 高-2.2 底-11.4	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④1/4残存
No-3	甕土師	(口)14.5	覆土	頸部 ヘラケズリ。	②赤褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	甕土師	(口)16.5	床面	頸部 ヘラ痕残る。	②橙色 ③3~4mmの砂粒含む ④口縁部1/2残存
No-5	甕土師	口-15.9	竈付近	外・口辺部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内・口辺部 ヨコナデ。体部 ナデ。	②橙色 ③3~4mmの砂粒含む ④口縁部1/2残存

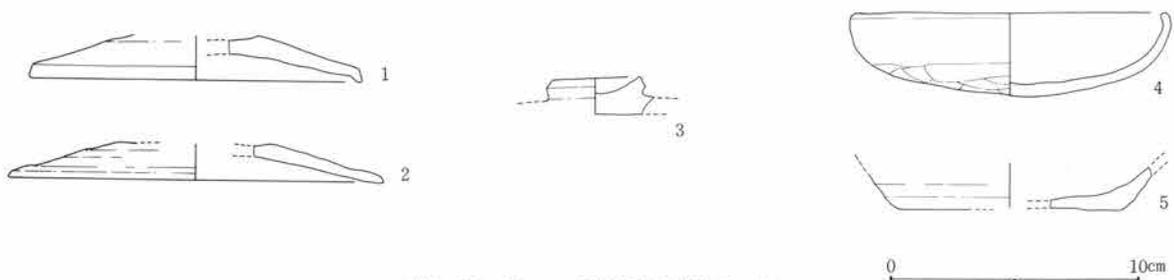
(1) 竪穴住居跡

D-15号住居跡 (第211図、PL16・42・65)

当住居跡はD区南に位置しD-13号住居跡の北東D-2号掘立柱建物跡の東にある。他の遺構との重複は南壁を2箇所土坑により切られている。また東北部を攪乱により削平されている。平面形態は長方形を呈する。規模は長辺4m、短辺3.3mであり、主軸方位はN-92°-Eである。壁高は約10~20cmを測る。床面は平坦をなし貯蔵穴・柱穴・壁周溝などの諸施設は確認されていない。竈は東壁南寄りに検出された。袖幅約60cm、燃烧部長約70cmを測り、両袖と支脚の位置から構築材の石が検出された。

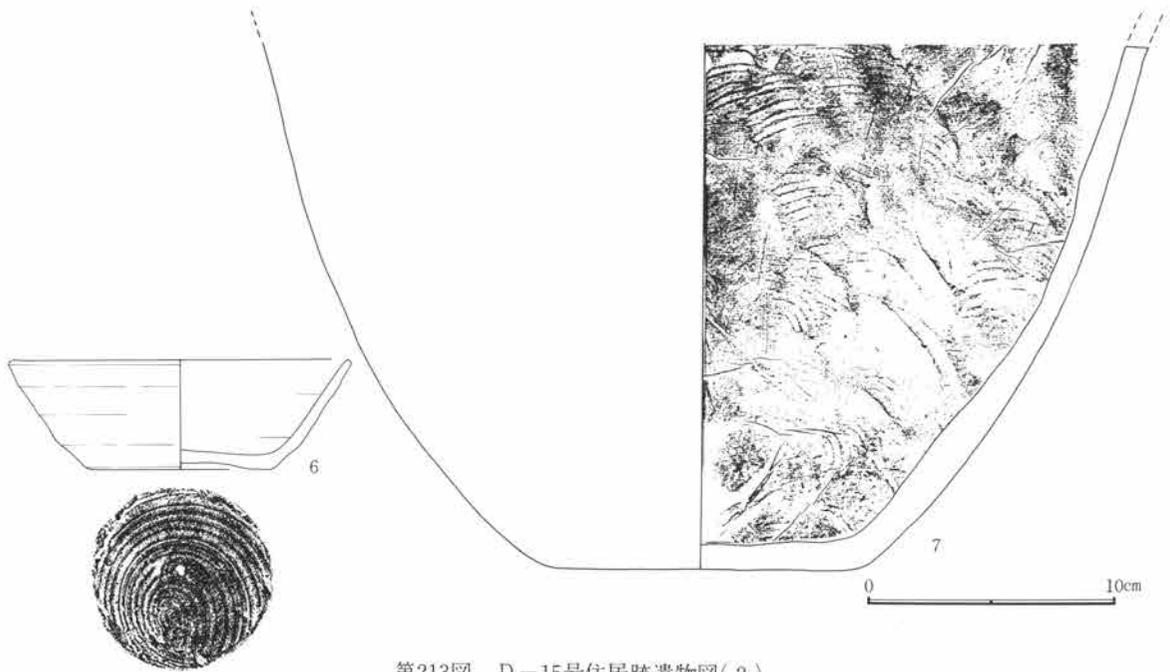


第211図 D-15号住居跡遺構図・竈図



第212図 D-15号住居跡遺物図(1)

5. 検出された遺構と遺物



第213図 D-15号住居跡遺物図(2)

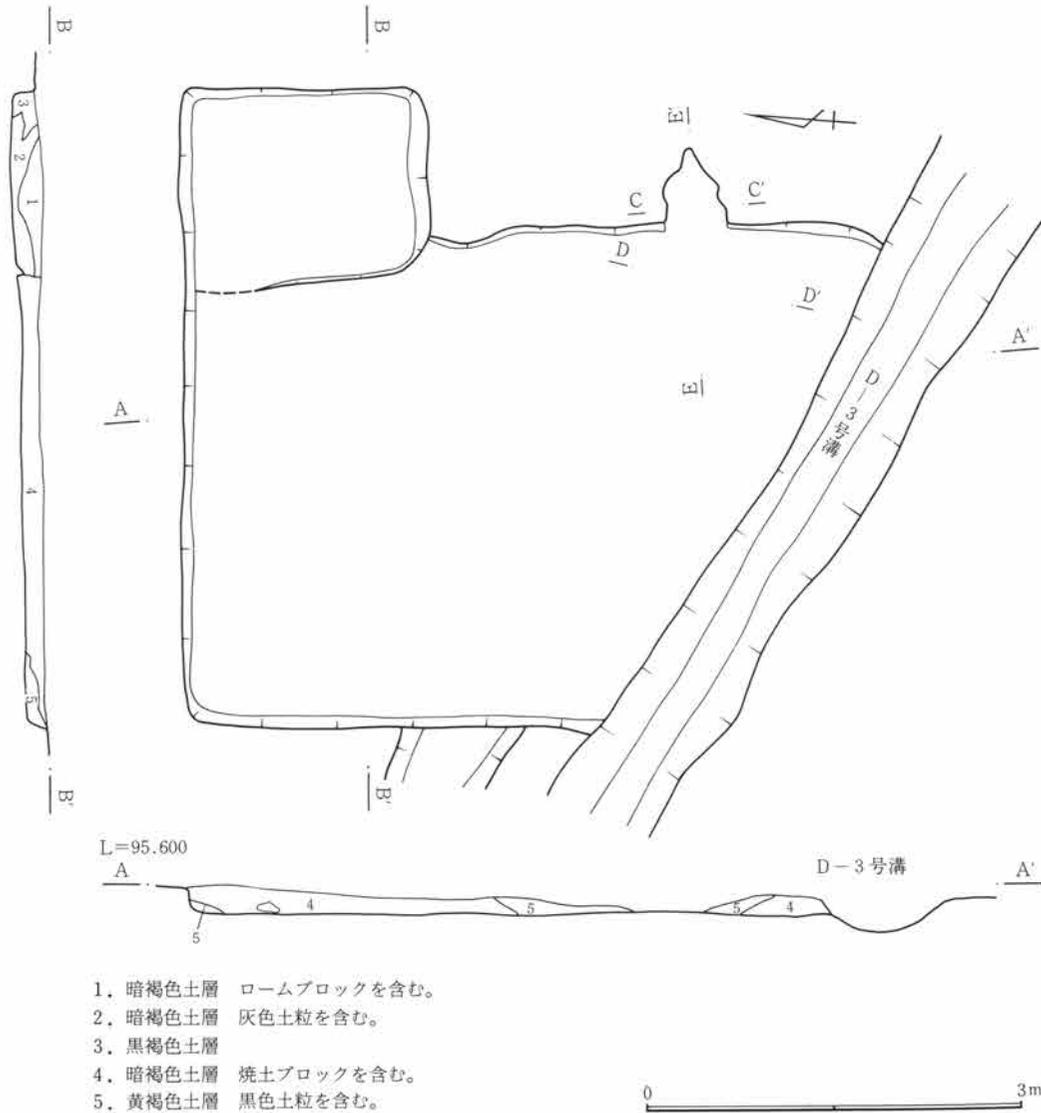
第85表 D-15号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
Na-1	蓋 須恵	(口)15.0	覆土	外面 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④破片
Na-2	蓋 須恵	(口)13.5	覆土	外面 回転ヘラ調整。	②灰色 ③密 ④破片
Na-3	蓋 須恵		覆土		②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④つまみのみ残存
Na-4	坏 土師	口-12.4	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②にふい赤褐色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-5	坏 須恵	(底)9.0	覆土	底部 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
Na-6	坏 須恵	口-13.8 高-4.3 底-7.4	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。	②灰白色 ③細砂粒含む ④完形
Na-7	壺 須恵	(底)12.6	覆土	外面 ナデ。内面 あて目後、ナデ。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部胴下半部残存

(1) 竪穴住居跡

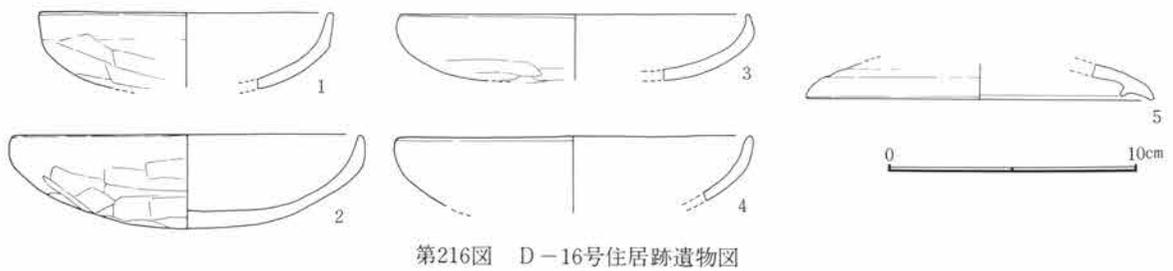
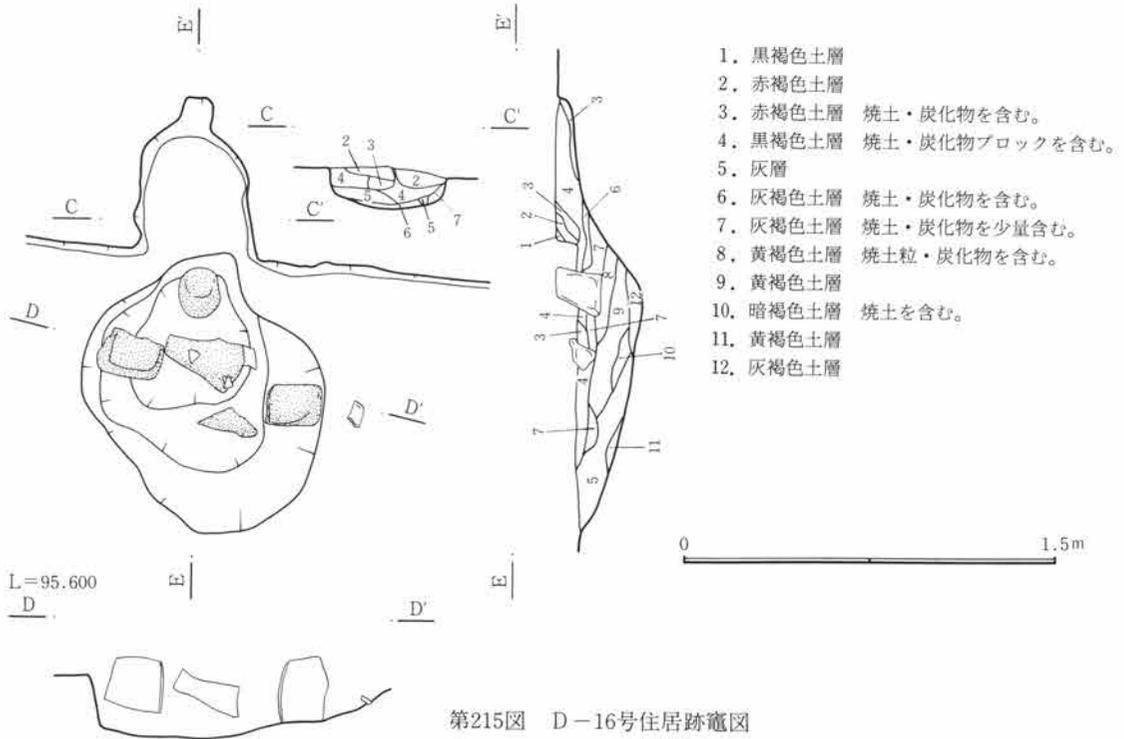
D-16号住居跡 (第214・215図、PL42)

当住居跡はD区南に位置し、北東部を径2.5m、1.5mの方形の土坑によって切られている。また南壁はD-3号溝により削平され確認できなかった。平面形態は南北に長軸を持つ長方形である。規模は長辺は確認できず短辺は4mであり、主軸方位はN-84°-Eである。壁高は約10~20cmを測る。床面は平坦をなし、北東部土坑との比高は約10cm土坑の床面が高くなる。貯蔵穴・柱穴・壁周溝などの諸施設は確認されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。燃烧部幅約50cm、同長50cm、さらに煙道部が約15cmを測る。



第214図 D-16号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



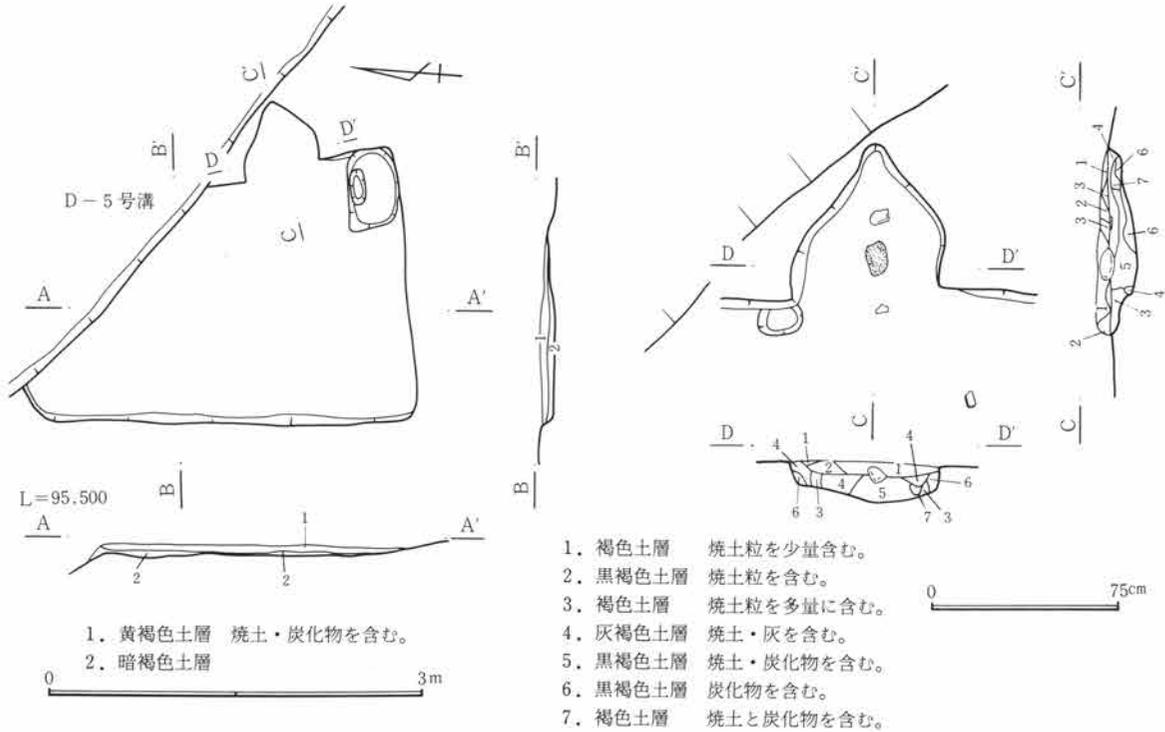
第86表 D-16号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
Na-1	坏土師	(口)6.8	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
Na-2	坏土師	口-14.0 高-3.7	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④片残存
Na-3	坏土師	(口)14.0	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②赤褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
Na-4	坏土師	(口)14.0	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
Na-5	蓋須恵	(口)14.0	覆土	内面に返りを持つ。	②灰白色 ③細砂粒含む ④破片

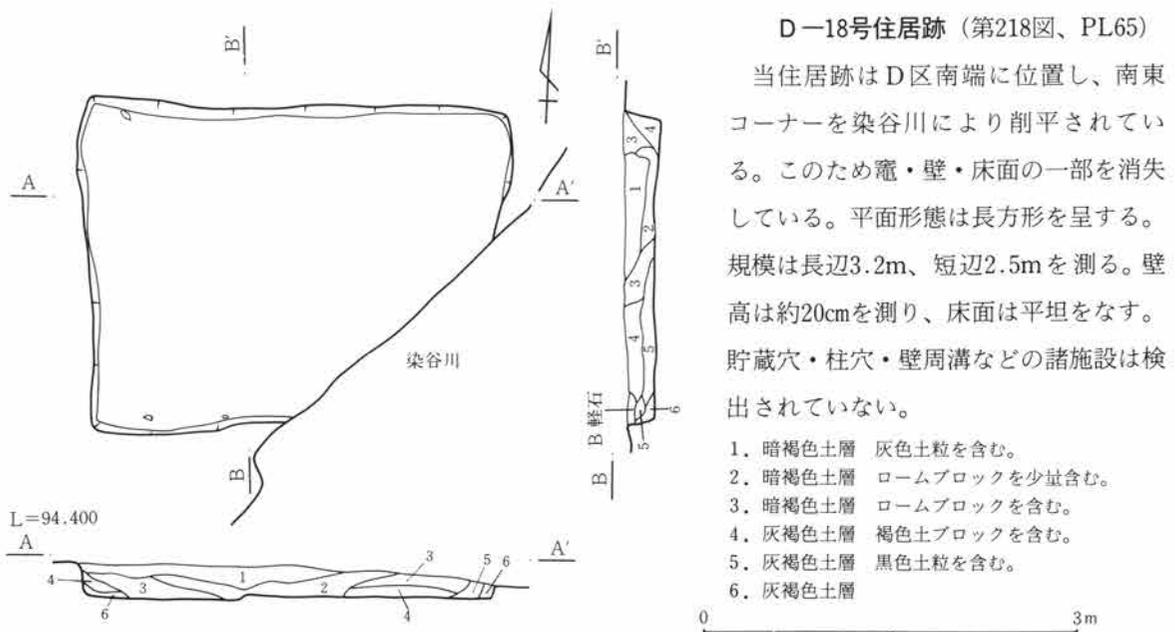
(1) 竪穴住居跡

D-17号住居跡 (第217図、PL16)

当住居跡はD区南西に位置し北東部をD-5号溝により切られている。平面形態は南北に長軸をもつ長方形である。規模は長辺3.1m、短辺2.2mである。主軸方位はN-74°-Eである。壁高は約5~10cmを測る。床面は平坦をなし貯蔵穴を南東コーナーに検出した。径は約120×約80cm、深さ約10cmを測る。柱穴・壁周溝は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。袖幅約1.2m、同長約1.2mを測る。さらに燃烧部より約5cmの長さの煙道の一部を確認した。左袖部に袖材の跡と思われる小穴が検出された。燃烧部中央の支脚と思われる石の下からも小穴を確認した。

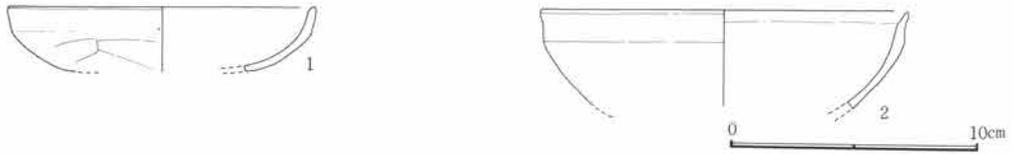


第217図 D-17号住居跡遺構図・竈図



第218図 D-18号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



第219図 D-18号住居跡遺物図

第87表 D-18号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)6.2	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏土師	(口)15.0	覆土	口縁部 内傾する。	②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片

## (2) 掘立柱建物跡

当遺跡では奈良時代から中近世に至るまでの掘立柱建物跡が21棟検出された。このうち奈良時代と考えられる建物は13号掘立柱建物跡の南東に検出される6号掘立柱建物跡、8号掘立柱建物跡の北東に検出された11号掘立柱建物跡とを合わせると10棟が認められる。奈良時代の掘立柱建物跡はC区内に南北に主軸をもち東西に分かれてブロックで検出された。掘立柱建物跡は土器や瓦から奈良時代に考えられ後の平安時代の集落跡まで継続したものではない。中近世掘立柱建物跡はC・D区で検出されC区内では溝により区画された屋敷内に6棟が検出された。屋敷内には他にも小穴が多数検出されている。掘立柱建物跡は1・6号掘立柱建物跡が東西に主軸をもつほかはすべて南北に主軸をもち区画溝と走行が合う。D区では6棟が検出され柱間が1.8mをとるものもある。D区に検出された掘立柱建物跡群は重複するものもあり中近世の間に時間的な開きが考えられる。

### 奈良時代掘立柱建物跡

#### 1号掘立柱建物跡 (第220図、PL17・77)

2間×2間の総柱建物跡である。中心柱を除き他の柱穴は2穴を単位として溝によってつながれている。溝の規模は長さ約3～3.5m、幅約1m、柱穴の深さは約0.9～1.1mを測る。総ての柱穴の底面には石が配されている。桁間・梁間は総て2.4mである。桁方向はN-10°-Wである。

#### 2号掘立柱建物跡 (第221・222図、PL17・43・72・77)

3間×3間の総柱建物跡である。内側の4穴を除き1号掘立柱建物跡と同じく2穴を単位として溝によってつながれている。溝の規模は長さ約2～3m、幅約0.8～1mである。内側の4本は方形・長円形を呈し径約0.8～1m、深さ約0.8～1mである。総ての柱穴の底面には石が配されている。桁間は2.1m、梁間は1.9mである。桁方向はN-13°-Eである。

#### 3号掘立柱建物跡 (第222・223図、PL17・43)

3間×5間の建物跡である。柱穴の形状はほぼ円形に近く規模は径約60～80cm、深さ約50～80cmを測る。桁間は北から1.8m、2.7m、2.7m、2.7m、1.8m、梁間は1.2mである。桁方向はN-16.5°-Wである。

#### 6号掘立柱建物跡 (第224図)

当掘立柱建物跡は調査区域外との境界線上にあり柱穴群を検出したのみで形態・規模は不明である。柱穴の形状はほぼ円形で規模は径約0.7～0.9m、深さ約0.6～0.7mを測るものもあり、柱穴の底面には石が配してある。

#### 7号掘立柱建物跡 (第225図、PL17)

1間×3間の建物跡であるが北東部は染谷川により削平され、正確な規模は確認されていない。柱穴の形状はほぼ円形で径約0.7～0.8m、深さ約20cmを測る。底面に石を配してある柱穴も認められる。柱間は東西1.5m、南北2.4mである。

#### 8号掘立柱建物跡 (第225図、PL18)

2間×2間の建物跡であるが北側は梁間に柱穴が検出されていない。柱穴の形状は方形で規模は約0.5～0.9m×0.5～0.6m、深さ約0.2～0.8mである。桁間は2.4m、梁間は1.8mを測る。桁方向はN-6°-Wである。

5. 検出された遺構と遺物

9号掘立柱建物跡（第226図、PL18・43・77）

2間×5間の建物跡である。柱穴の形状はほぼ方形で径約0.9～1.2m、深さ約0.3～0.9mを測る。底面に石を配してある柱穴も認められる。桁間は不揃いで北から2.1m、2.7m、2.1m、2.1m、2.1m、梁間は2.7mである。桁方向はN-6°-Wである。

10号掘立柱建物跡（第227図、PL18・43・72・77）

2間×5間の建物跡である。柱穴はP5、8以外は2本を単位として溝によってつながれている。小穴の状況から2時期に渡って改築されたことが伺える。溝は幅約0.9～1m、長さ約3m、深さ約0.5～0.7mを測る。柱穴の底面に石が配してある。桁間は2.1m、梁間は2.7mである。桁方向はN-4°-Wである。

13号掘立柱建物跡（第228図、PL18・43）

3間×6間の建物跡である。P1、10を除き柱穴は溝によりつながれている。柱穴の形状は円・楕円形で規模は径約0.8～1.3m、深さ約0.4～0.6mを測る。溝幅は約0.4～0.8mである。柱穴の底面に石を配してある。桁間は2.1m、梁間は1.4mである。桁方向はN-8°-Wである。

第88表 掘立柱建物跡遺構一覧表（奈良）

遺構名	規模(間)	桁方位	桁総長(m)	桁間(m)	梁総長(m)	梁間(m)	備考
1号掘立	2×2	N-10°-W	4.8	2.4	4.8	2.4	根石。(第220図)
2号掘立	3×3	N-13°-E	6.3	2.1	5.7	1.9	根石。(第221、222図)
3号掘立	5×3	N-16.5°-W	11.7	2.7	3.6	1.2	(第221、223図)
7号掘立	(3×1)	N-12°-E	2.7	2.7	3.3	1.65	根石。(第225図)
8号掘立	2×2	N-6°-W	4.8	2.4	3.6	1.8	(第225図)
9号掘立	5×2	N-6°-W	11.1	2.1 2.7	5.4	2.7	(第226図)
10号掘立	5×2	N-4°-W N-6°-W	10.5	2.1	5.4	2.7	根石。(第227図)
13号掘立	6×3	N-8°-W	12.6	2.1	4.2	1.4	根石。(第228図)

第89表 掘立柱建物跡遺構一覧表（奈良）

番号	掘立	柱穴	形状	柱穴規模(cm) 長径×短径×深さ	溝規模(cm) 長径×短径×深さ	出土遺物	備考
1号掘立 (第220図)	P-1	P-2	円	75×73×108	長不明×110×60	土師器片、須恵器片、瓦片、埴輪片。	根石あり。2号溝と重複する。根石あり。
			長円	88×62×90			
	P-3	P-4	方	75×68×105	340×110×25	埴輪片。	根石あり。根石あり。
			長方	100×88×98			
	P-5	P-6	円	58×58×95	308×95×32	須恵器破片。	根石あり。根石あり。
			方	58×50×98			
	P-7	P-8	長方	105×72×115	不明	埴輪破片、須恵器坏片、土師器甕片。	根石あり。2号溝と重複する。根石あり。2号溝と重複する。
			楕円	120×70×92			

## (2) 掘立柱建物跡

2号掘立 (第221、 222図)	P-1	円	55×50×95	305×85×40	土師器片、須恵器片、瓦片。	根石あり。
	P-2	円	50×50×93			根石あり。
	P-3	円	60×55×73	320×110×35	土師器坏片、甕片、埴輪片。	根石あり。
	P-4	円	53×50×70			根石あり。
	P-5	円	70×55×65	295×95×60	須恵器坏片。 須恵器片、埴輪片。	根石あり。
	P-6	楕円	70×55×95			根石あり。
	P-7	円	70×60×55	360×100×15	土師器坏片、瓦片。 埴輪片、須恵器壺片。	根石あり。
	P-8	長円	60×35×45			根石あり。3号住と重複する。
	P-9	長円	50×40×50	305×88×25	埴輪片、瓦片。 埴輪片。	根石あり。3号住と重複する。
	P-10	長円	60×55×30			根石あり。3号住と重複する。
	P-11	方	50×42×65	265×85×40	須恵器片、埴輪片。	根石あり。
	P-12	円	40×38×80			根石あり。
	P-13	長方	95×80×80		土師器片、埴輪片。	根石あり。
	P-14	長方	120×85×75		土師器片、埴輪片。	根石あり。7号住と重複する。
	P-15	方	95×90×60		瓦片、埴輪片。	根石あり。7号住と重複する。
	P-16	方	85×80×55		須恵器坏片。	根石あり。7号住と重複する。
3号掘立 (第222 223図)	P-1	円	70×65×55		土師器坏片、埴輪片。	3号溝と重複する。
	P-2	円	75×62×68			
	P-3	円	70×68×55		土師器坏片、埴輪片。	
	P-4	円	70×65×60			
	P-5	円	70×68×60			
	P-6	円	70×65×48			
	P-7	方	75×65×85			
	P-8	円	75×68×40			
	P-9	円	62×60×60			
	P-10	円	62×60×65			
	P-11	円	80×65×62			
	P-12	円	62×60×83			
	P-13	円	70×65×58			
	P-14	円	79×70×65			3号溝と重複する。
	P-15	円	80×72×65			3号溝と重複する。
6号掘立 (第224図)	P-1	円	50×45×45		土師器甕片、坏片。	
	P-2	円	70×68×65		土師器坏片、埴輪片。	
	P-3	長円	90×73×50		土師器坏片、埴輪片。	

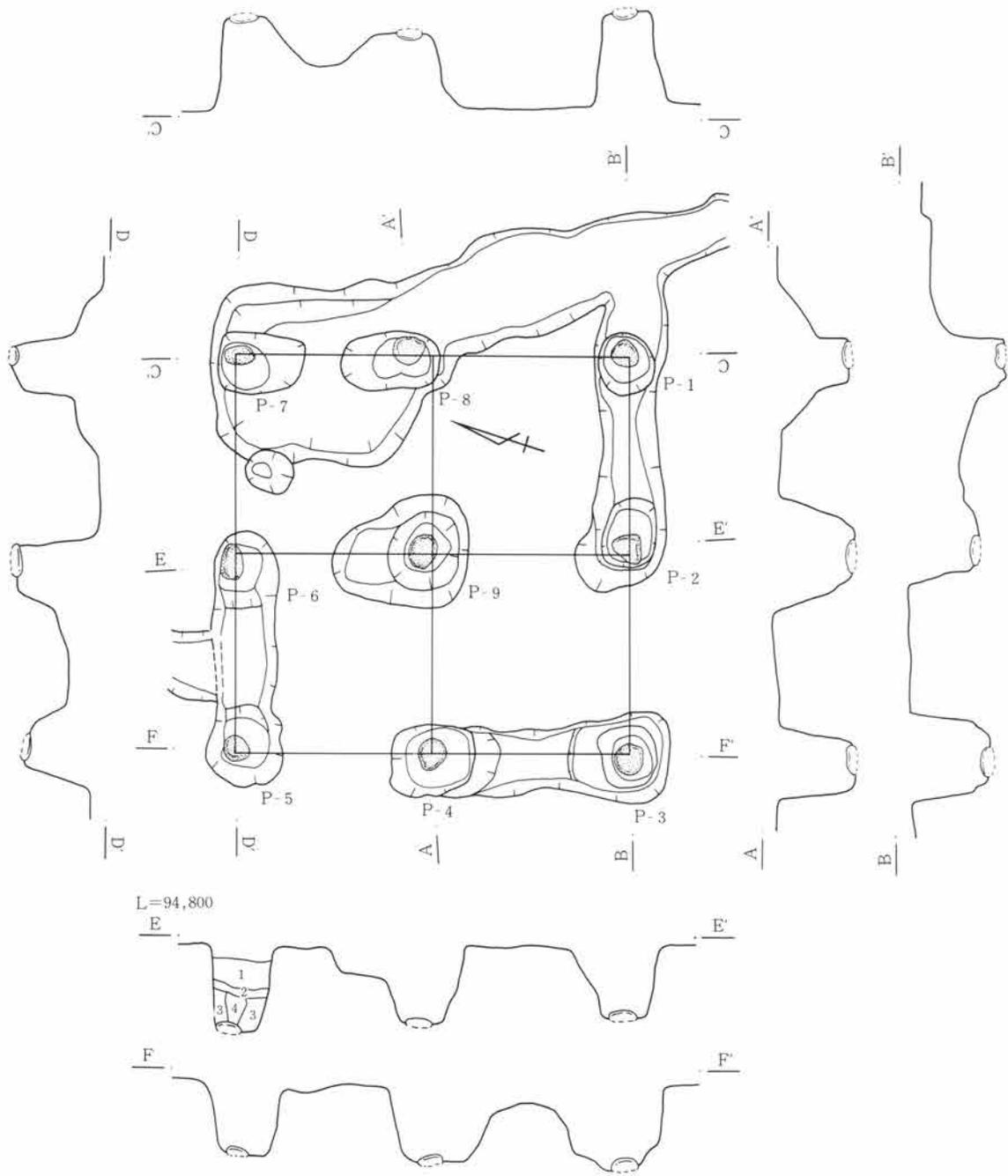
5. 検出された遺構と遺物

	P-4	円	70×55×35		土師器坏片、甕片。	
	P-5	方	68×68×48		土師器坏片。	8号住居跡と重複する。
	P-6	不整方	70×60×70		土師器坏片、埴輪片。	
	P-7	不整長方	118×70×68		土師器坏片、埴輪片。	
	P-8	円	53×48×45		土師器坏片、須恵器甕片。	
	P-9	不整長方	105×95×30		土師器坏片、埴輪片。	
	P-10	長円	65×52×25			
7号掘立 (第225図)	P-1	円	50×45×45		土師器甕片、坏片。	根石あり。
	P-2	円	70×70×22			根石あり。
	P-3	円	88×73×25		土師器坏片、甕片。	根石あり。
	P-4	円	70×70×15			
	P-5	円	55×43×20			根石あり。
8号掘立 (第225図)	P-1	方	68×62×80		須恵器甕片、土師器坏片。	
	P-2	長方	92×52×35		瓦片。	
	P-3	方	62×57×32		土師器甕片、坏片。	
	P-4	円	50×48×15			
	P-5	方	68×63×40			
	P-6	方	63×50×23			
	P-7	方	75×65×45			
9号掘立 (第226図)	P-1	方	73×70×50			
	P-2	不整長方	152×80×38		須恵器坏片、土師器坏片。	
	P-3	長方	88×75×85		土師器坏片。	
	P-4	長方	103×70×53			44号溝と重複する。
	P-5	長方	100×80×58			根石あり。
	P-6	円	90×80×53		土師器甕片。	
	P-7	不整方	75×70×28		埴輪片。	63号住と重複する。根石あり。
	P-8	長方	120×83×40		埴輪片。	67号住と重複する。
	P-9	長方	75×60×25			
	P-10	長方	98×50×32		土師器坏片。	44号溝と重複する。根石あり。
	P-11	方	95×95×48		土師器坏片。	根石あり。
	P-12	方 ?	105×?×10		埴輪片。	80号住と重複する。根石あり。

## (2) 掘立柱建物跡

	P-13	方	75×73×50		埴輪片。	
	P-14	不整方	85×?×23			
10号掘立 (第227図)	P-1	不整方	75×65×65	300×95×22	土師器片。 埴輪片。	根石2個あり。
	P-2	方	90×70×62			
	P-3	方	82×80×70	275×88×55		根石2個あり。 根石2個あり。
	P-4	不整方	95×88×75			
	P-5	不整三角	208×170×65		瓦片。	根石あり。
	P-6	長方	140×55×60	425×73×25	土師器坏片、甕片。 土師器坏片、甕片。	根石あり。他に多量の石あり。 根石2個あり。50住、51住と重複する。
	P-7	不整長方	125×65×50			
	P-8	長方	208×73×60			根石2個あり。
	P-9	不整方	130×115×65	328×130×30		根石2個あり。 根石あり。
	P-10	不整方	90×75×68			
P-11	方	105×75×60	290×80×55	土師器坏片、甕片。	根石あり。169号土坑と重複する。	
P-12	方	100×80×55				
P-13	長方	110×70×60	375×90×30	土師器坏片。 瓦片。	根石あり。41号溝と重複する。 根石、瓦片重なり出土。	
P-14	方	70×60×48				
13号掘立 (第228図)	P-1	長方	135×79×83		土師器坏片、埴輪片。	
	P-2	不整円	90×75×65			P-2～7まで一連ピット。
	P-3	不整円	68×65×70			
	P-4	長円	120×85×68		須恵器壺片、坏片。	根石あり。
	P-5	不整円	120×105×58			根石あり。
	P-6	不整方	115×75×88		土師器甕片。	根石あり。
	P-7	不整円	85×80×100			根石2個あり。
	P-8	長円	105×70×88	265×130×40		根石あり。
	P-9	長円	95×75×95			
	P-10	長円	98×68×38		須恵器壺片。	
	P-11	不整円	115×87×62			根石あり。P-11～16まで一連ピット。
	P-12	不整円	112×105×75			根石あり。
	P-13	不整円	100×92×70		須恵器壺片。	根石あり。
	P-14	不整円	98×95×48			根石あり。
	P-15	不整円	82×78×68			
	P-16	不整円	90×70×100			根石あり。
	P-17	不整円	60×58×80			
	P-18	不整円	118×75×72			

5. 検出された遺構と遺物

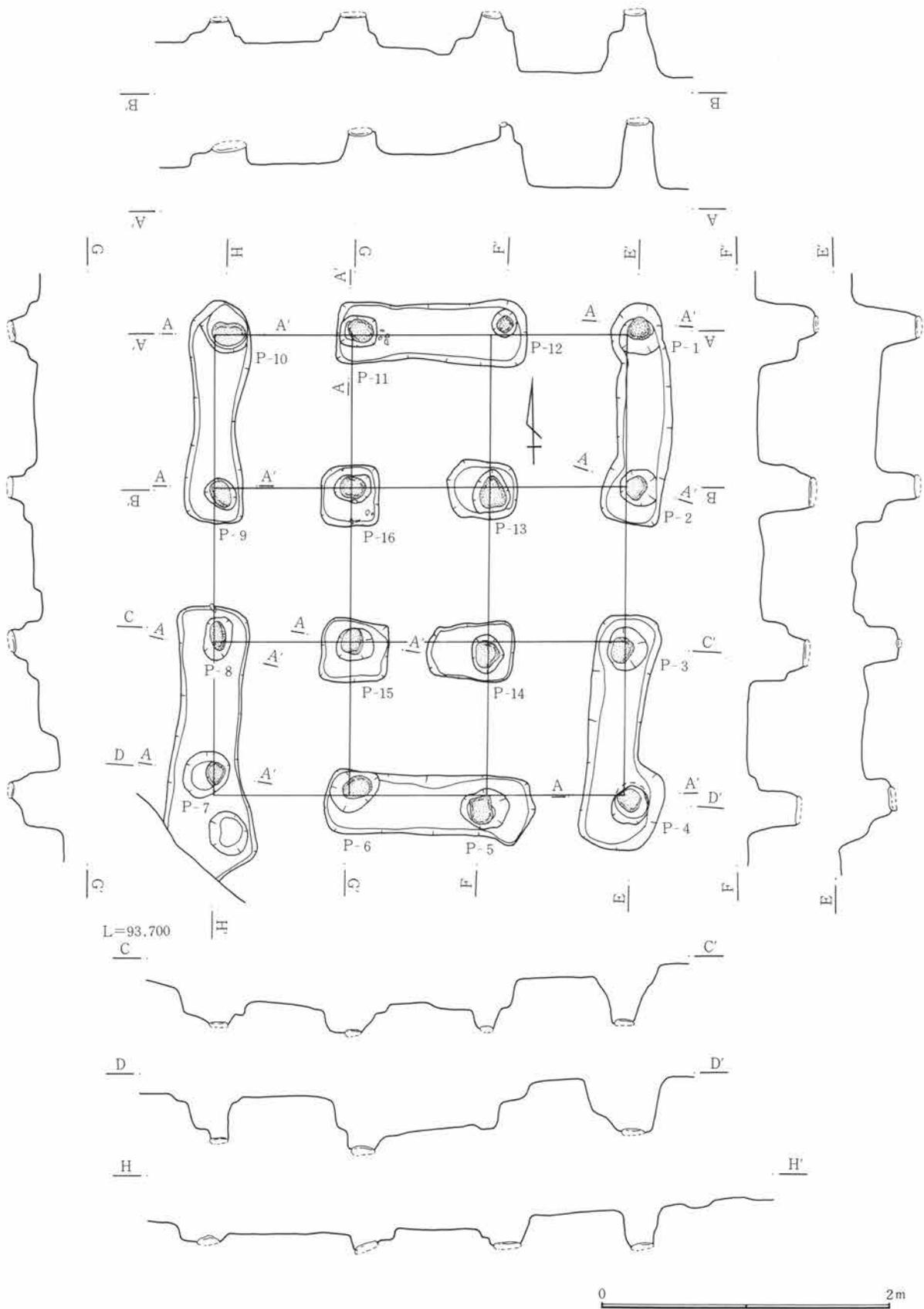


1. 黒褐色土層 粘土塊含む。
2. 黒褐色土層 炭化物含む。
3. 黒褐色土層 粘土塊多量に含む。
4. 黒褐色土層 粘土塊少量含む。

0 2m

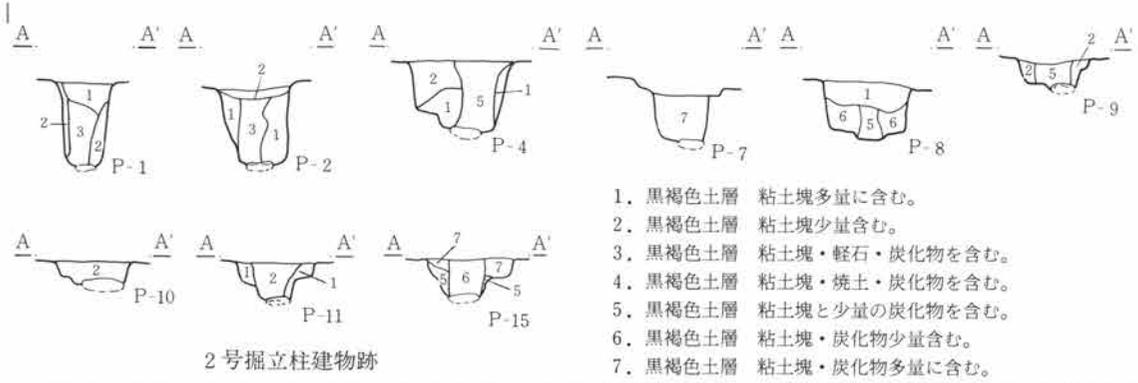
第220図 1号掘立柱建物跡遺構図

(2) 掘立柱建物跡

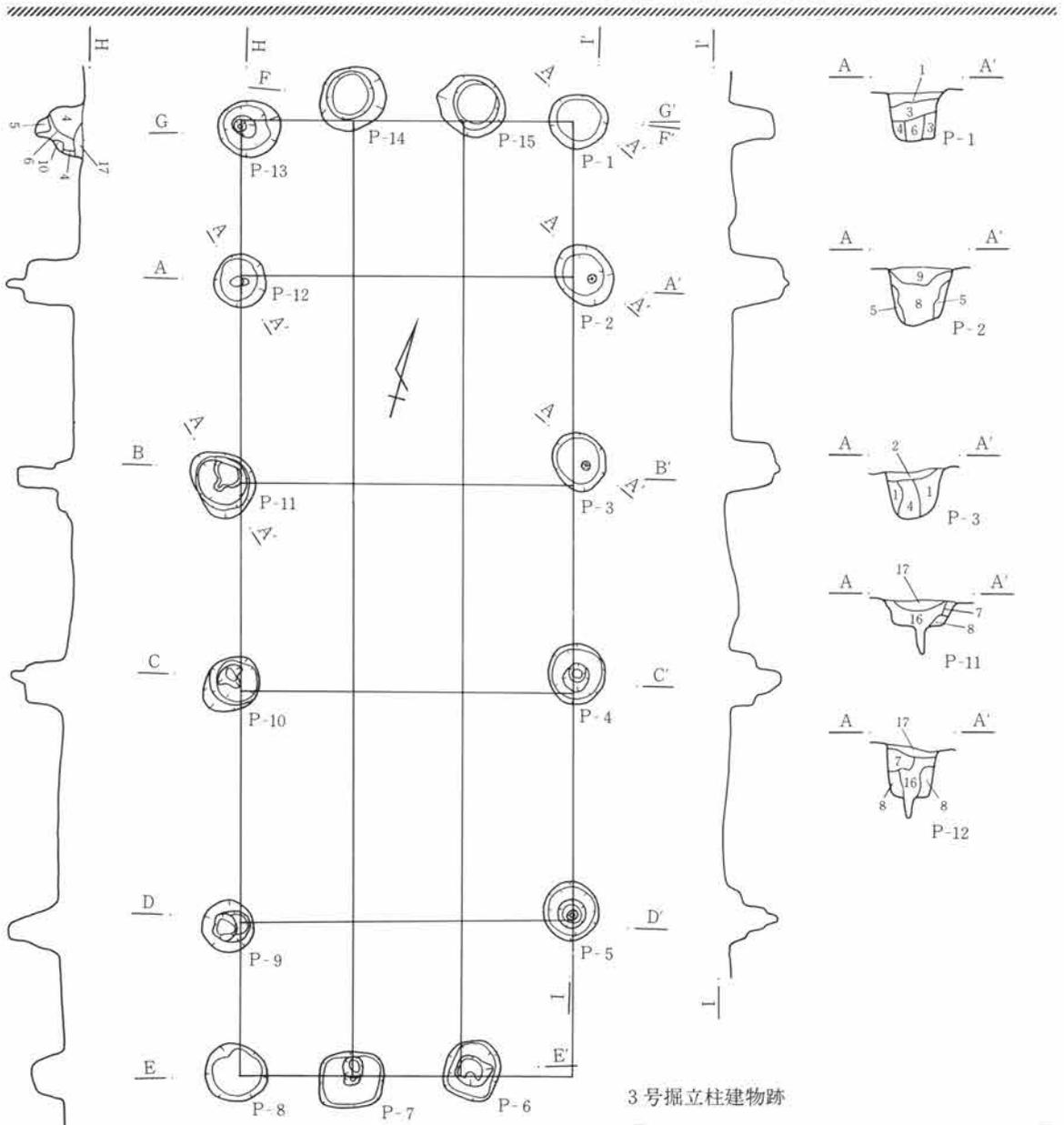


第221图 2号掘立柱建物跡遺構図

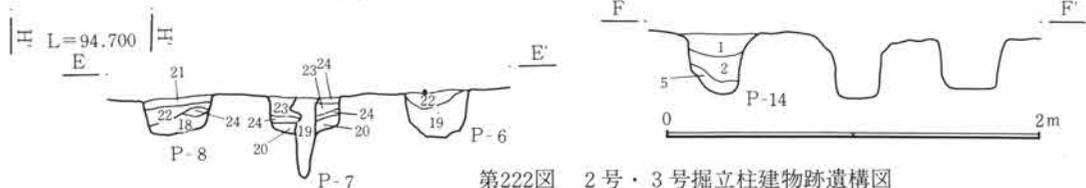
5. 検出された遺構と遺物



2号掘立柱建物跡

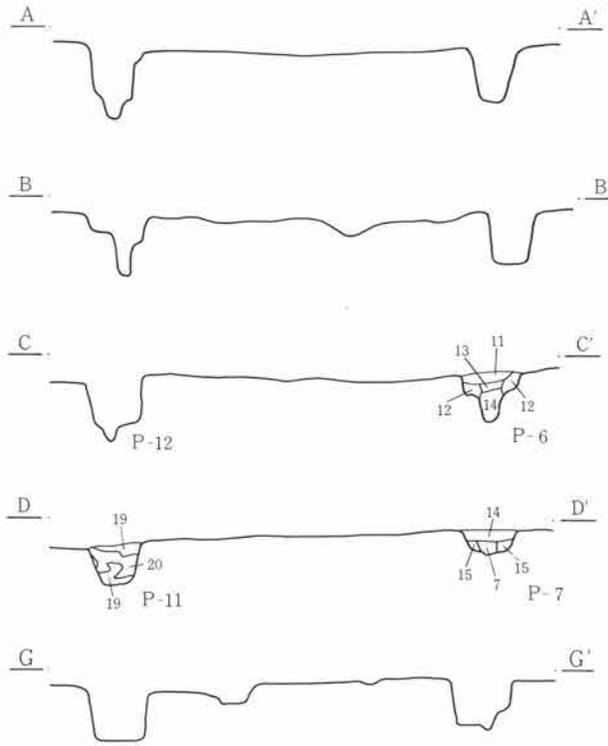


3号掘立柱建物跡



第222図 2号・3号掘立柱建物跡遺構図

(2) 掘立柱建物跡

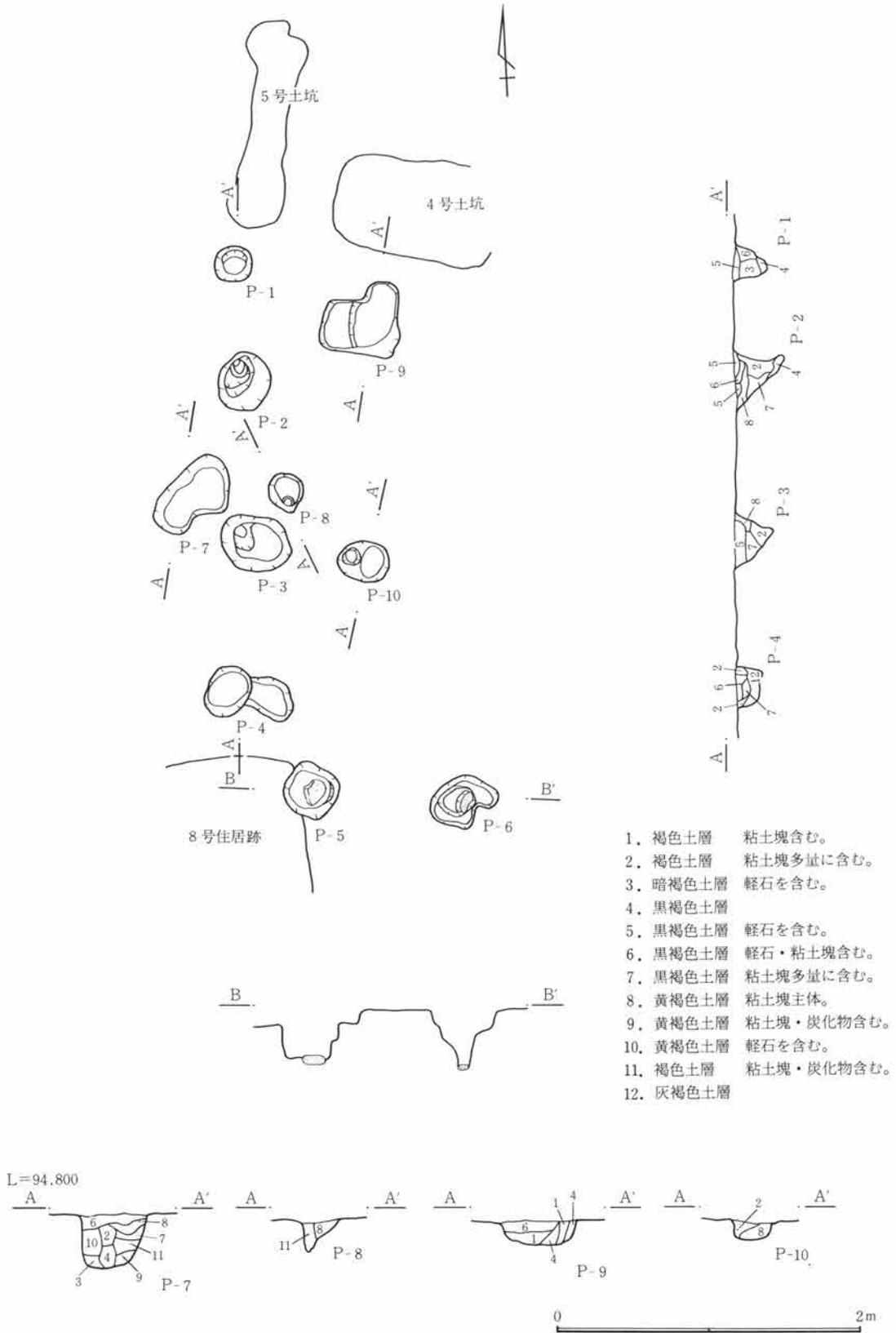


1. 灰褐色土層 鉄分斑を多量に含む。
2. 灰褐色土層 多量の鉄分斑と炭化物少量含む。
3. 灰褐色土層 粘土塊多量に含む。
4. 灰褐色土層 粘土塊・炭化物少量含む。
5. 黒褐色土層
6. 黒褐色土層 炭化物を含む。
7. 黒褐色土層 炭化物・粘土塊含む。
8. 黒褐色土層 炭化物・粘土塊多量に含む。
9. 黒褐色土層 鉄分斑・炭水物・焼土を含む。
10. 黒褐色土層 粘土塊含む。
11. 黒褐色土層 軽石を多量に含む。
12. 黒褐色土層 炭化物・粘土塊を含む砂質土。
13. 黒褐色土層 炭化物を少量含む砂質土。
14. 黒褐色土層 炭化物・粘土塊・軽石を含む。
15. 黒褐色土層 炭化物・軽石と多量の粘土塊含む。
16. 黒褐色土層 炭化物・粘土塊少量含む。
17. 黒褐色土層 鉄分斑・軽石を含む。
18. 黄褐色土層 軽石を含む。
19. 黄褐色土層 軽石を多量に含む。
20. 暗褐色土層 軽石を含む。
21. 褐色土層 軽石を含む。
22. 褐色土層 軽石・炭化物を含む。
23. 褐色土層 砂質土。
24. 軽石層

0 2m

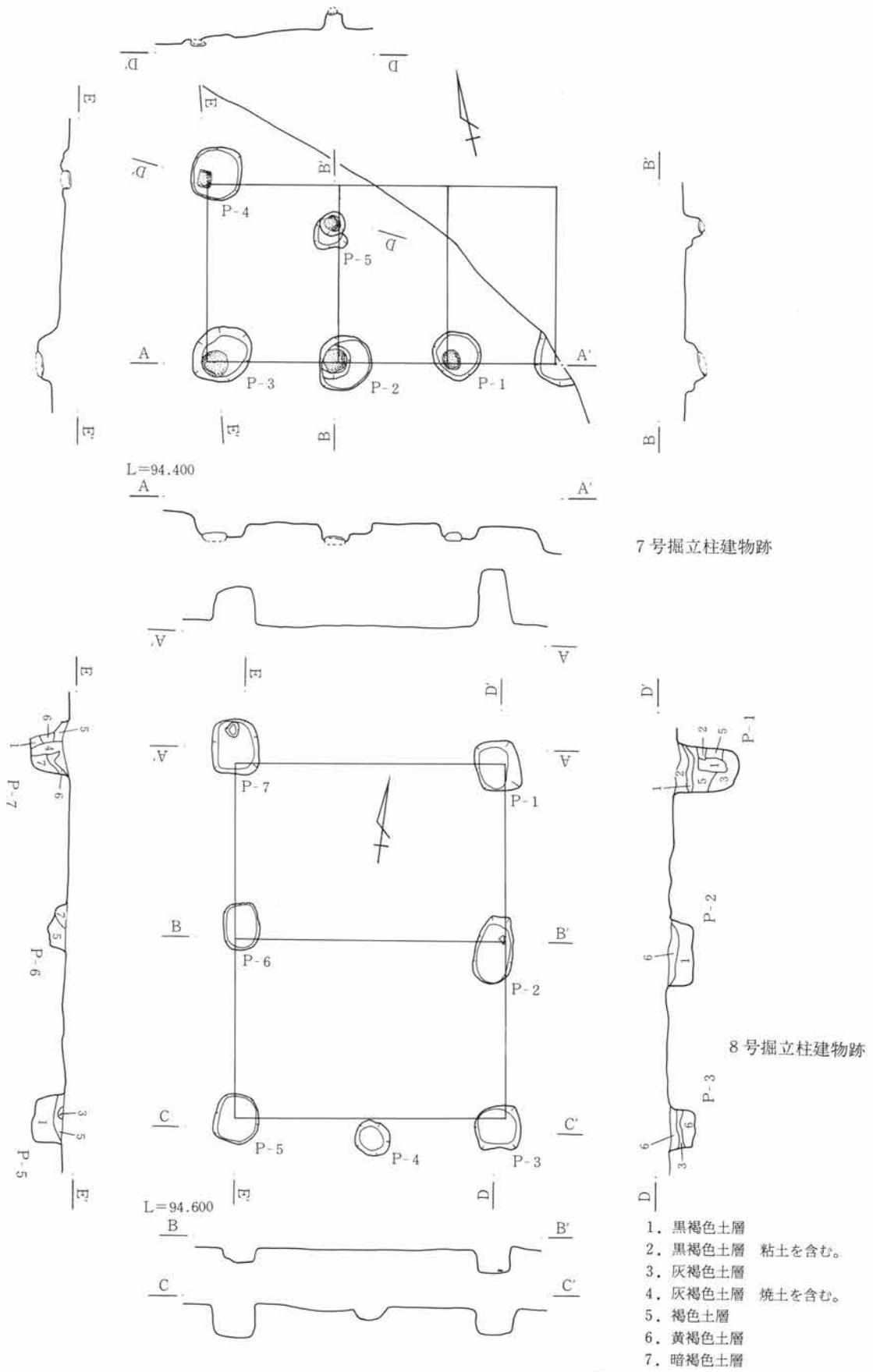
第223図 3号掘立柱建物跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



第224図 6号掘立柱建物跡遺構図

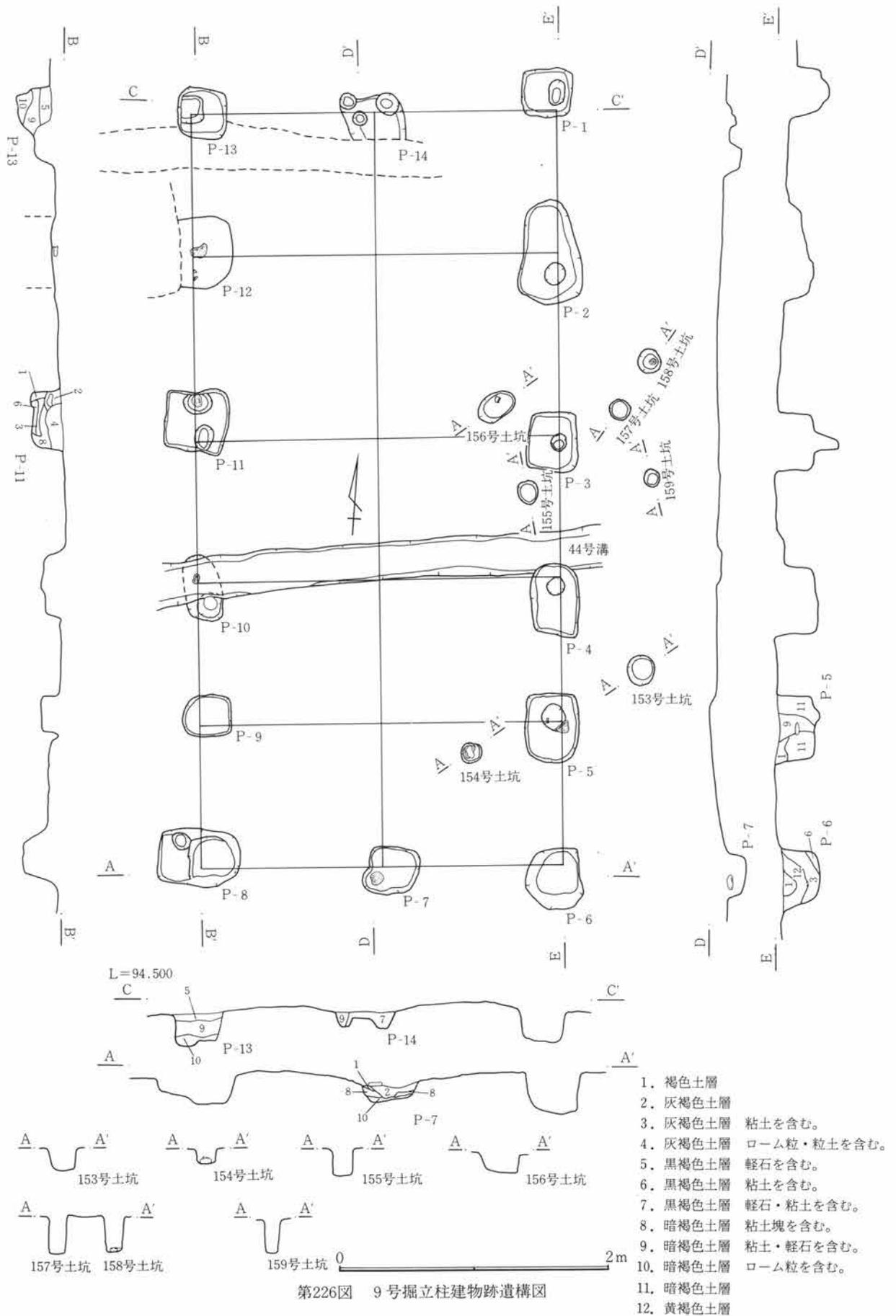
(2) 掘立柱建物跡



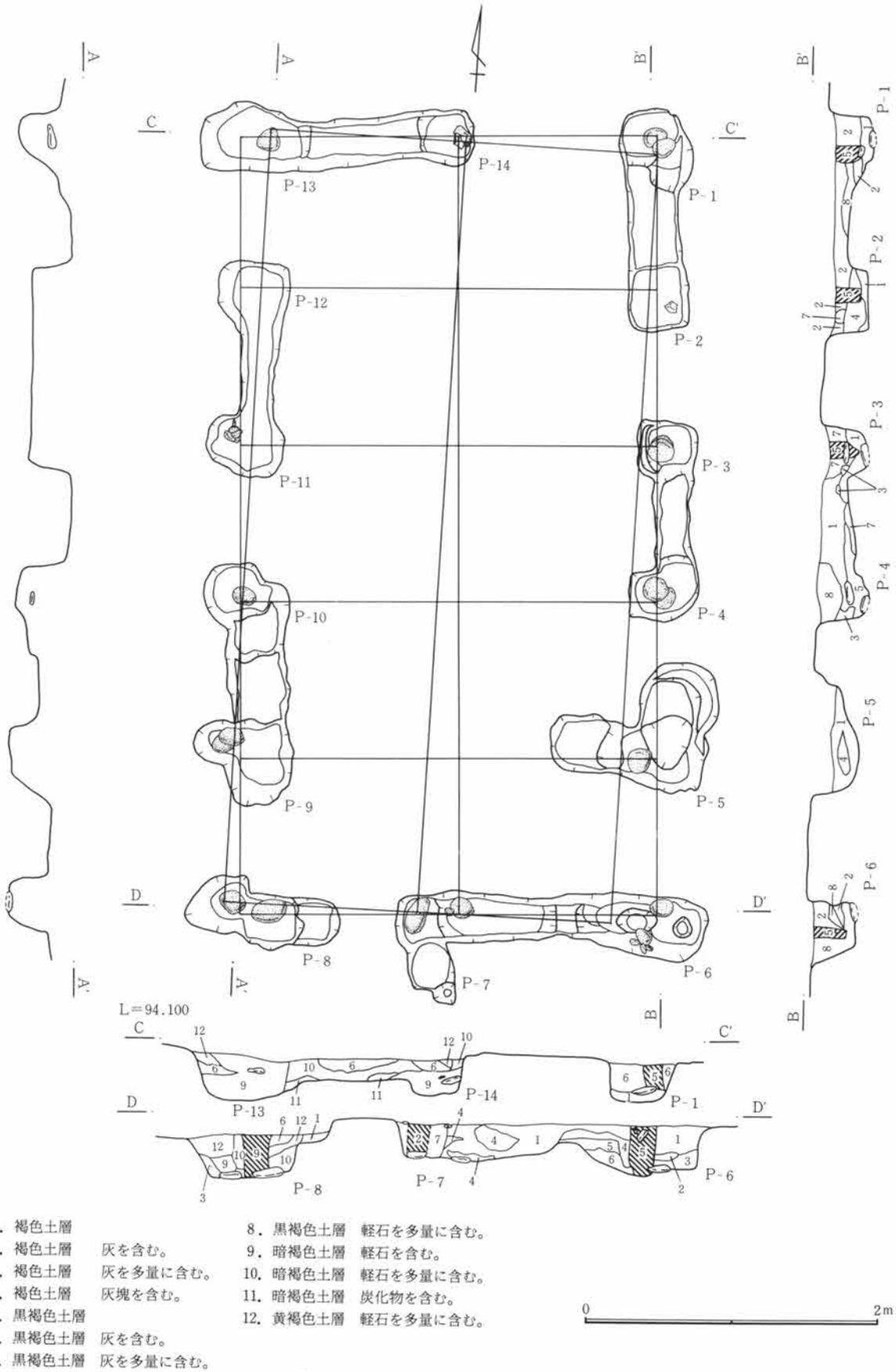
第225図 7号・8号掘立柱建物跡遺構図

0 2m

5. 検出された遺構と遺物

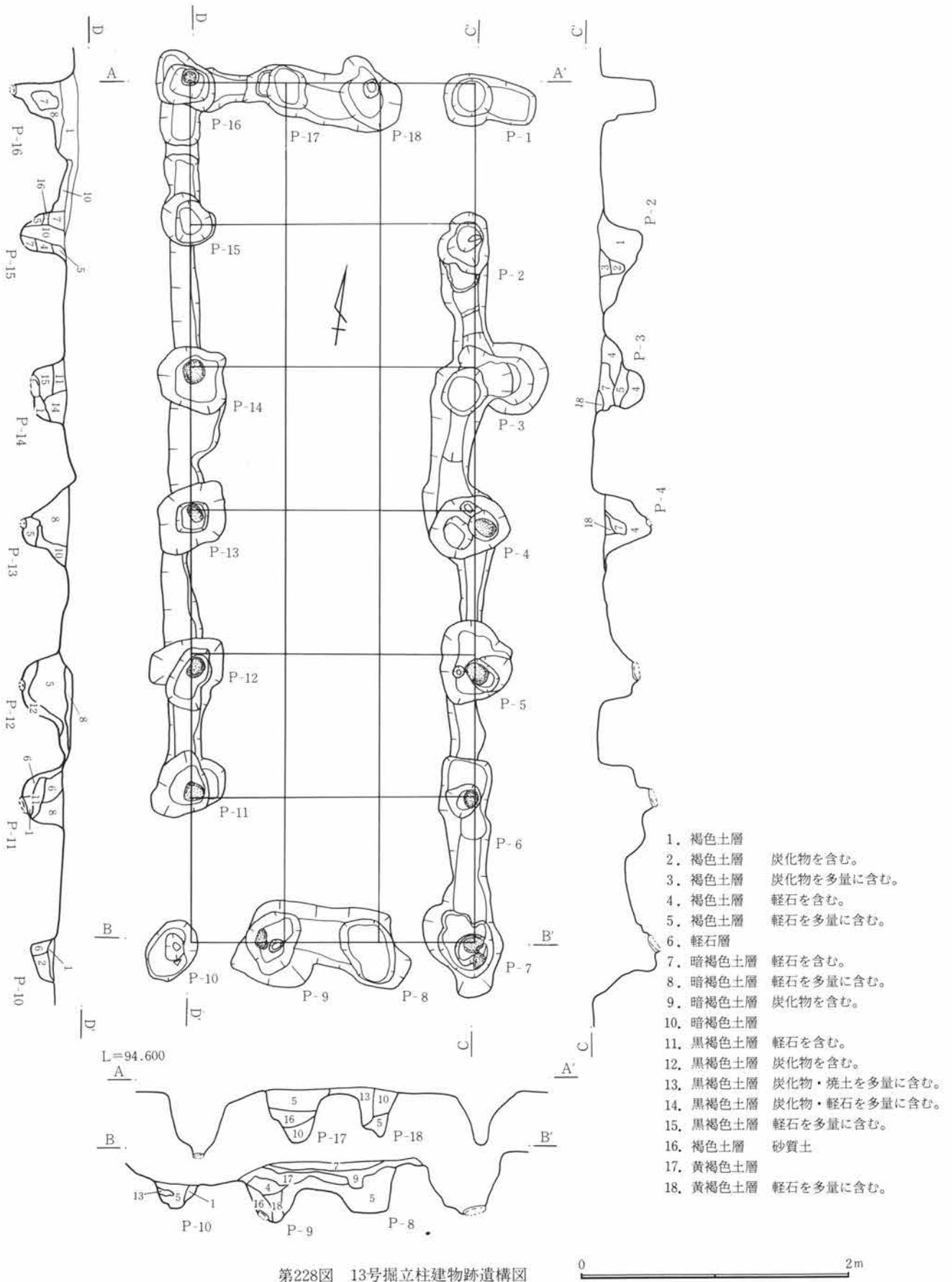


5. 検出された遺構と遺物



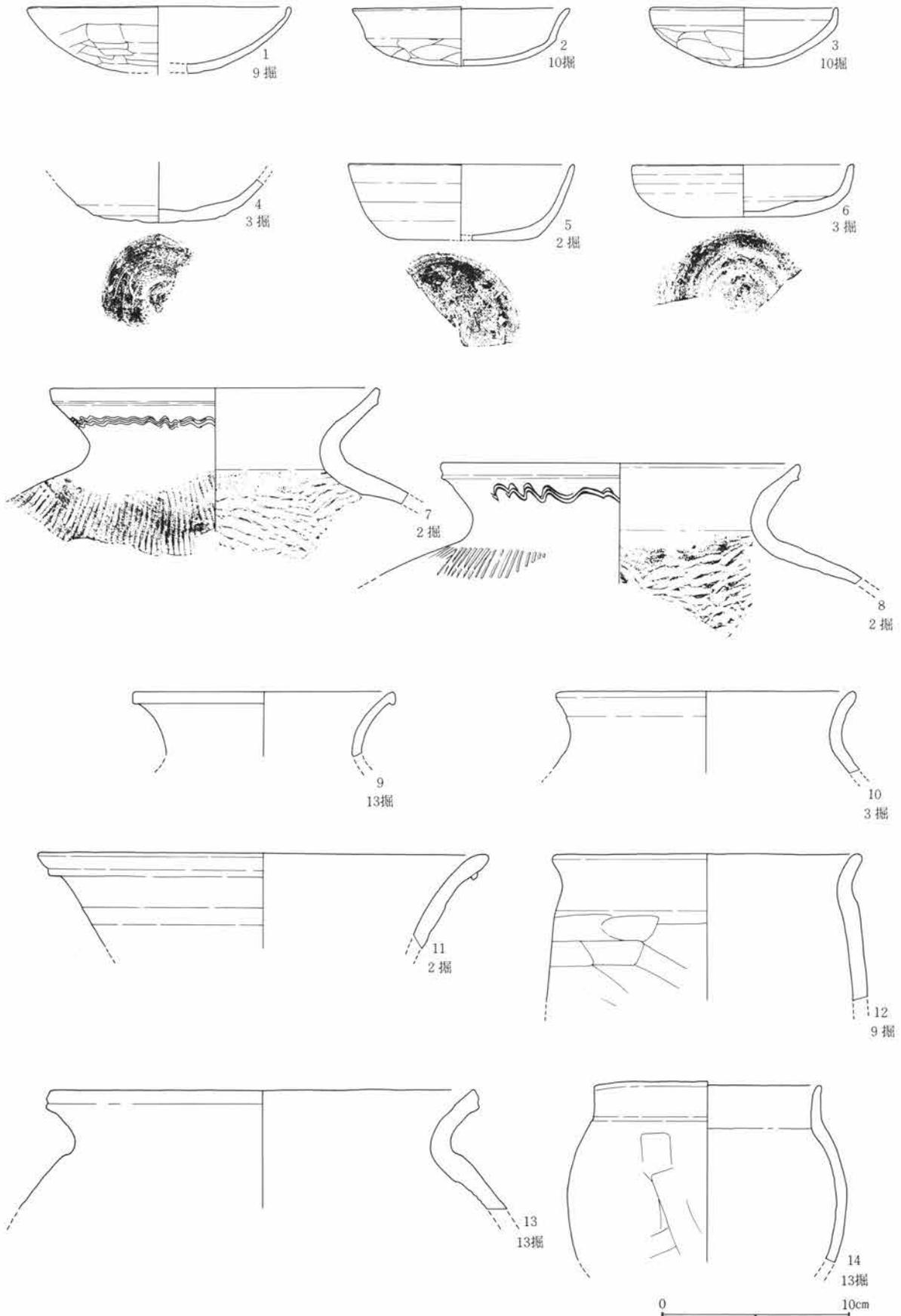
第227図 10号掘立柱建物跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



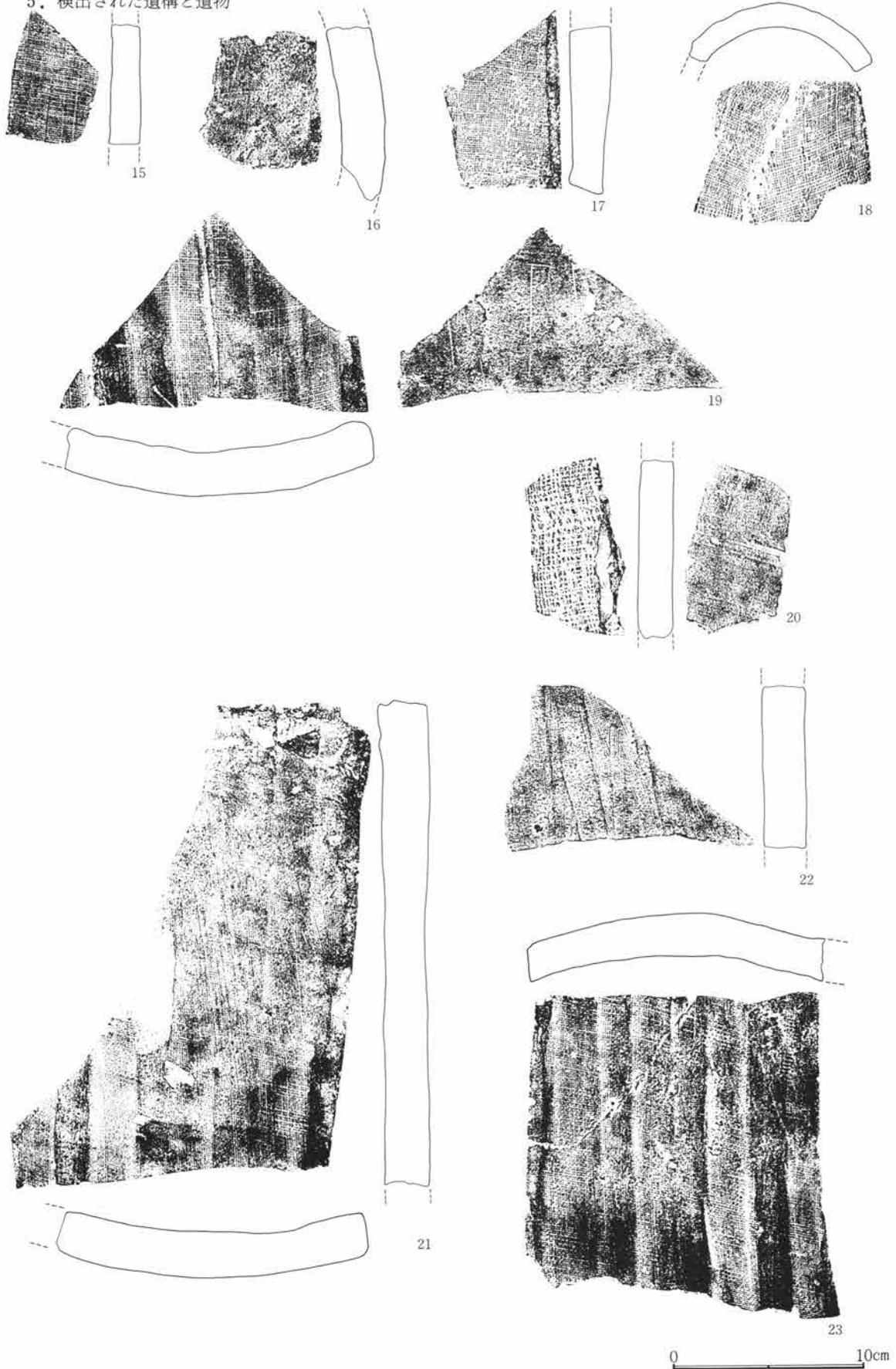
第228図 13号掘立柱建物跡遺構図

(2) 掘立柱建物跡



第229图 掘立柱建物跡遺物图(1)

5. 検出された遺構と遺物



第230図 掘立柱建物跡遺物図(2)

## (2) 掘立柱建物跡

第90表 掘立柱建物跡遺物観察表

No	遺構名	器種 種別	計 測 値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
1	9 掘立	坏 土師	(口)14.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
2	10掘立	坏 土師	(口)11.6	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
3	10掘立	坏 土師	(口)10.0 高-3.2	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
4	3 掘立	坏 須恵	(底)6.0	覆 土	底部 回転ヘラ切り。	②暗灰色 ③細砂粒含む ④底 部 $\frac{1}{2}$ 残存
5	2 掘立	坏 須恵	(口)12.0	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
6	3 掘立	坏 須恵	(口)14.8	覆 土		②灰色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
7	2 掘立	甕 須恵	口-17.5	覆 土	口辺部 波状文。胴上部 叩き目。内面 あて目痕。	②灰色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
8	2 掘立	甕 須恵	(口)19.1	覆 土	口縁部 稜をもち、口辺部に波状文。 胴部 叩き目。内面 あて目。	②明青灰色 ③密 ④口縁 $\frac{1}{2}$ 残存
9	13掘立	壺 須恵	(口)14.0	覆 土	口縁部 稜をもつ。	②灰色 ③密 ④口縁 $\frac{1}{2}$ 残存
10	3 掘立	甕 土師	(口)16.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁破片
11	2 掘立	甕 須恵	(口)24.0	覆 土	口縁部 折り返し。内面 ナデ。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③1 ~2mmの砂粒含む ④口縁破片
12	9 掘立	壺 土師	(口)16.5	覆 土	口縁部 やや外湾する。胴部 張り出し弱い。 整形 雑。	②にぶい橙色 ③2~3mmの砂粒 含む ④口縁破片
13	13掘立	甕 須恵	(口)23.0	覆 土	口縁部 稜をもつ。叩き目。内面 あて目。	②灰色 ③密 ④口縁破片
14	13掘立	甕 土師	(口)12.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。頸部 沈線。 胴部 ヘラナデ。内面 ナデ。	②明黄褐色 ③細砂粒含む ④口縁~胴部 $\frac{1}{2}$ 残存
15	1 掘立	平瓦	瓦観察表 1類A-掘1参照			
16	2 掘立	平瓦	瓦観察表 1類A-掘4参照			
17	2 掘立	平瓦	瓦観察表 1類A-掘8参照			
18	11掘立	丸瓦	瓦観察表 1類A-掘22参照			
19	8 掘立	平瓦	瓦観察表 1類A-掘24参照			
20	2 掘立	平瓦	瓦観察表 1類A-掘7参照			

## 5. 検出された遺構と遺物

21	2掘立	平瓦	瓦観察表 1類A一掘13参照	
22	10掘立	平瓦	瓦観察表 1類A一掘20参照	
23	10掘立	平瓦	瓦観察表 1類A一掘19参照	

### 中近世掘立柱建物跡

#### 1号掘立柱建物跡（第231図、PL18）

当建物跡は他の掘立柱建物跡のように四辺を直角に結べず、三辺が直線に結べるのみである。柱穴の形状はほぼ長円形で径約0.5～0.9m、深さ約0.4～0.6mである。柱間は北側が東より3.4m、1.75m、南側で東より1.8m、1.5m、1.7m、東側で北より2m、1.8m、1.65mである。

#### 2号掘立柱建物跡（第231図）

1号掘立柱建物跡の東側にあり、主軸方位はN-4°-Wである。柱間は桁東側北から2m、1.8m、1.8m、西側は北から1.8m、1.4m、1.8m、0.6m、梁北側は西から1.7m、1.6m、0.8m南側1.3m、1.8m、0.9mである。柱穴の深さは0.2m～0.4mを測る。

#### 3号掘立柱建物跡（第232図）

2号掘立柱建物跡と東桁側を重複する。主軸方位はN-1°-Wである。柱間は桁東側で北から1.8m、1.95m、1.8mで西側は北から3.7m、1.85m、梁北側で西から2m、2m、南側は西から1.75m、2.25m、柱穴の深さは0.2m～0.6mを測る。

#### 4号掘立柱建物跡（第232図）

3号掘立柱建物跡の南にあり東側の一部を3号掘立柱建物跡と重複している。主軸方位はN-7°-Wである。柱間は桁東側北から1.95m、1.2m、2.3m西側では北から2.3m、1.1m、2.05m梁北側は西から2.4m、1.7m、南側では西から1.1m、1.7m、1.4mを測る。柱穴の深さは0.2m～0.6mを測る。

#### 5号掘立柱建物跡（第233図）

4号掘立柱建物跡の西側にある。主軸方位はN-8°-Wである。柱間は桁東側は北から2.2m、2.4m、2.4m西側は北から1.2m、1.7m、1.5m、2.4m、0.8m梁北側は西から1.4m、0.9m、1.7m南側は西から1.5m、1.4m、1.1mである。

#### 6号掘立柱建物跡（第233図）

5号掘立柱建物跡の南にあり主軸方位はN-81°-Eと他の掘立柱建物跡群と方位を異にする。柱間は桁南側東より1.4m、2.7m、0.9m北側は東より1.4m、1.9m、0.8m、1.1m、梁側は東西共に3.6m、柱穴の深さは0.2m～0.6mを測る。

### D区中近世掘立柱建物跡

#### D-1号掘立柱建物跡（第234図、PL19）

2間×2間の建物跡である。柱穴の形状は長円形で径約0.6～1.1m、深さ約0.4～0.5mを測る。桁間・梁間は1.95mを測る。桁方向はN-12°-Wである。

## (2) 掘立柱建物跡

## D-2号掘立柱建物跡 (第234図、PL19)

1間×2間の建物跡である。柱穴の形状は楕円形で規模は径約0.6~0.8m、深さ約0.3~0.4mである。桁間は1.35m、梁間は1.8mを測る。桁方向はN-83°-Eである。

## D-3号掘立柱建物跡 (第235図、PL19)

1間×2間の建物跡である。柱穴の形状はほぼ円形で規模は径0.5~0.6m、深さ約0.3~0.4mである。桁間は1.5m、梁間は2.4mである。桁方向はN-86°-Wである。

## D-4号掘立柱建物跡 (第235図、PL19)

2間×2間の建物跡である。柱穴の形状はほぼ円形で径約0.6~0.7m、深さ約0.2~0.4mである。桁間は2.1m、梁間は1.65mである。桁方向はN-6°-Wである。

## D-5号掘立柱建物跡 (第236図、PL19)

2間×2間東側に廂をもつ建物跡である。柱穴の形状はほぼ円形で規模は径約0.4~0.6m、深さ約0.3~0.4mを測る。廂穴は約12~40cm、深さ約15~20cmを測る。桁間は西から1.8m、1.8m、1.2m、梁間は2.4mである。桁方向はN-82°-Eである。

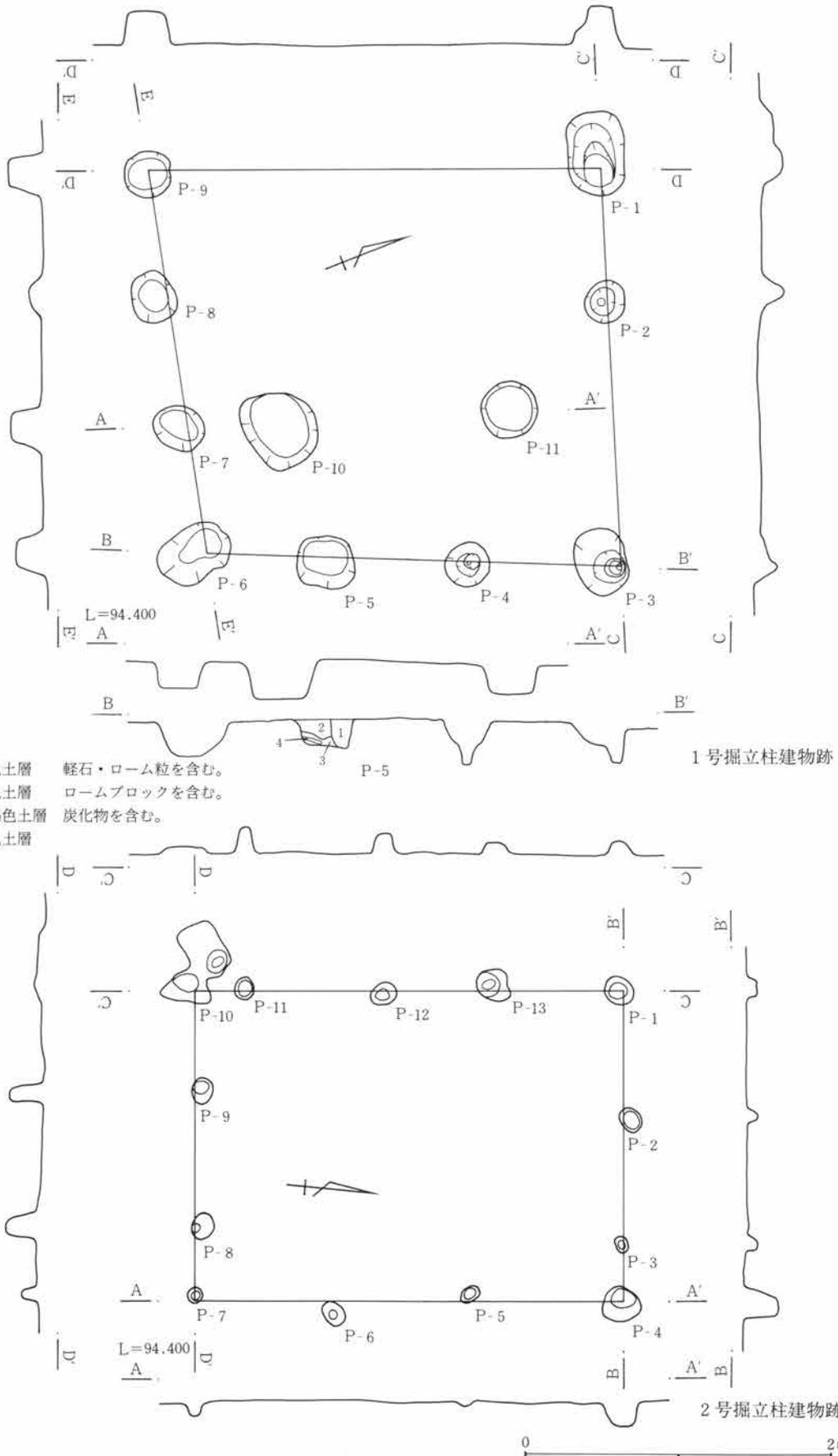
## D-6号掘立柱建物跡 (第237図、PL19)

2間×3間の建物跡である。柱穴の形状はほぼ円形で径約0.5~0.9m、深さ約0.4~0.9mである。桁間は1.8m、梁間は2.1mである。桁方向はN-90°-Eである。

第91表 掘立柱建物跡遺構一覧表 (中世)

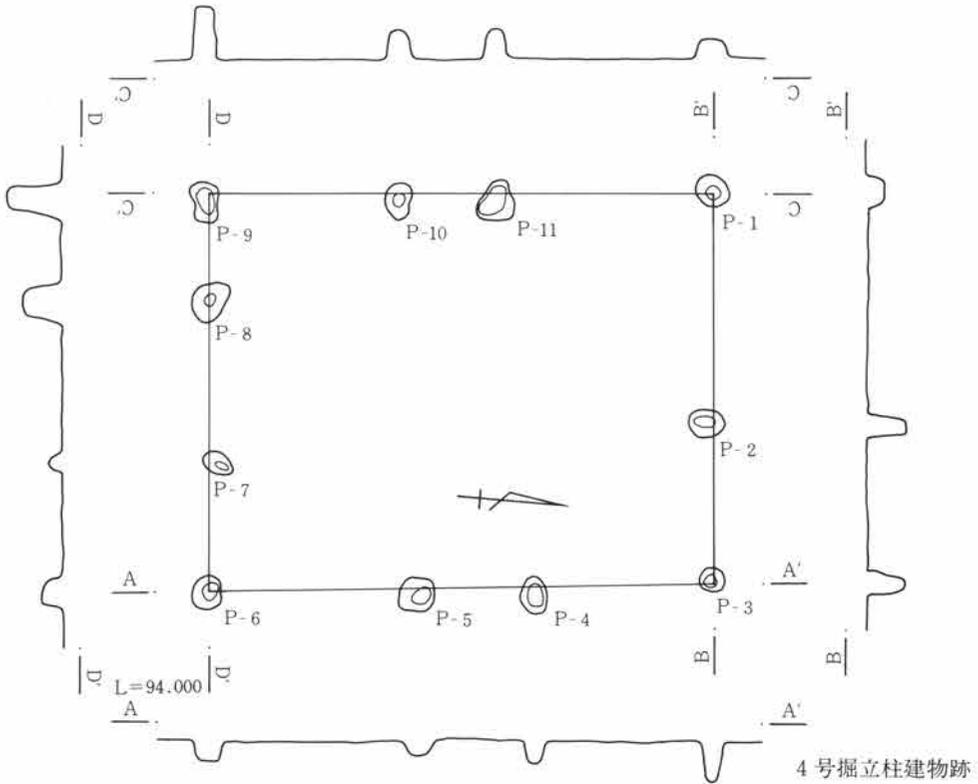
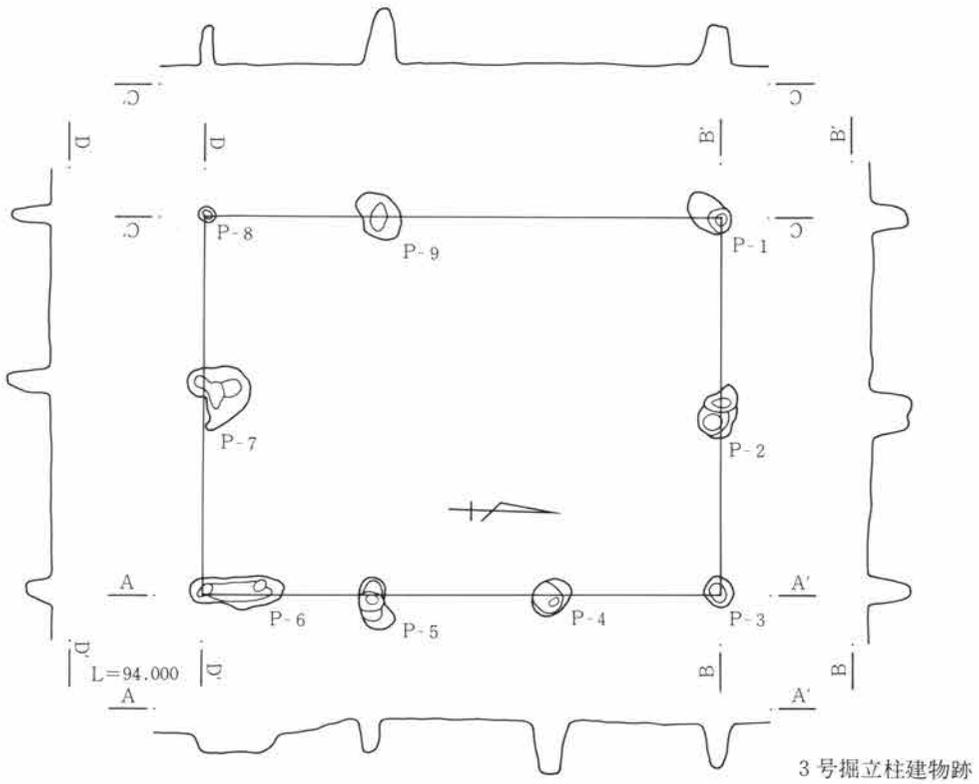
遺構名	規模(間)	桁方位	桁総長(m)	桁間(m)	梁総長(m)	梁間(m)	備考
1号掘立	3×4(5)	N-13°-E	5.5		5.3		屋敷内。第231図
2号掘立	3×3	N-4°-W	5.2		3.6		屋敷内。第231図
3号掘立	3×2	N-1°-W	5.7		3.8		屋敷内。第232図
4号掘立	3(?)×2	N-7°-W	7.7		4.3		屋敷内。第232図
5号掘立	4×3	N-8°-W	6.8		4.1		屋敷内。第233図
6号掘立	3×1	N-81°-E	5.2		3.7		屋敷内。第233図
D-1号掘立	2×2	N-12°-W	3.9	1.95	3.9	1.95	第234図
D-2号掘立	2×1	N-83°-E	2.7	1.35	1.8	1.8	第234図
D-3号掘立	2×1	N-86°-W	3.0	1.5	2.4	2.4	第235図
D-4号掘立	2×2	N-6°-W	4.2	2.1	3.3	1.65	第235図
D-5号掘立	3×2	N-82°-E	4.8	1.2 1.8	5.1	2.4	第236図
D-6号掘立	3×2	N-90°-E	5.4	1.8	4.2	2.1	第237図

5. 検出された遺構と遺物



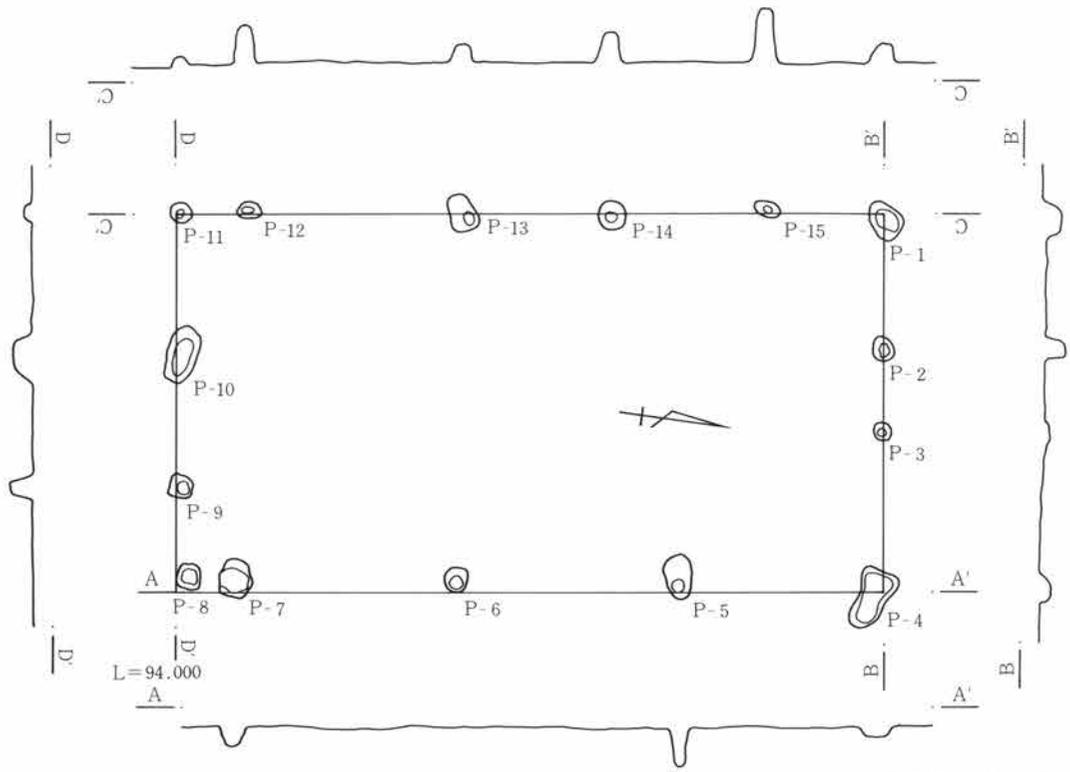
第231図 1号・2号掘立柱建物跡遺構図

(2) 掘立柱建物跡

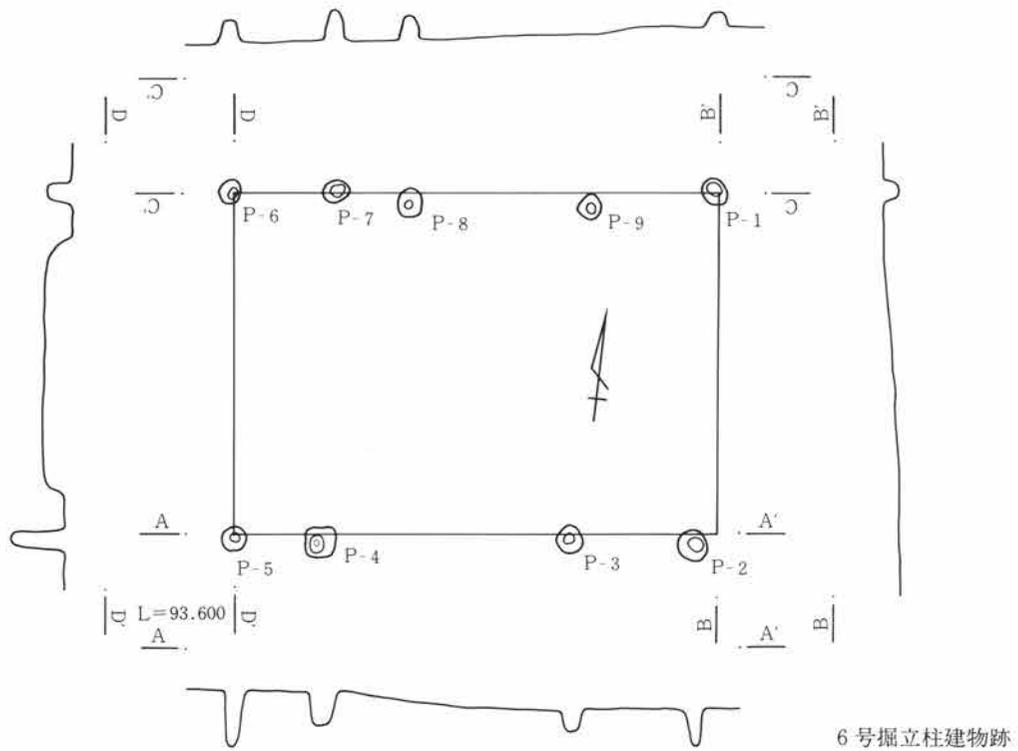


第232号 3号・4号掘立柱建物跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



5号掘立柱建物跡

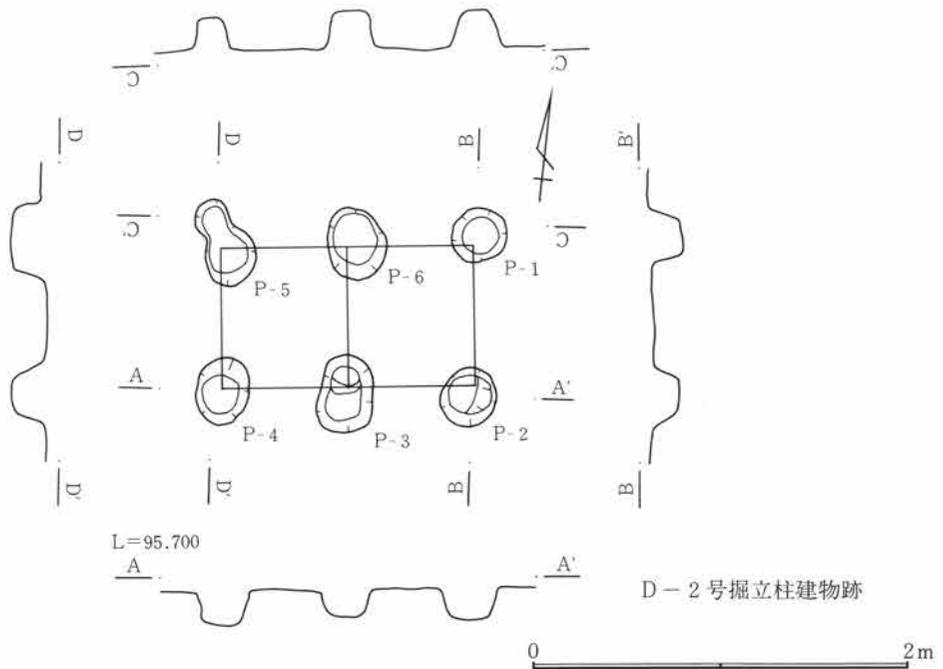
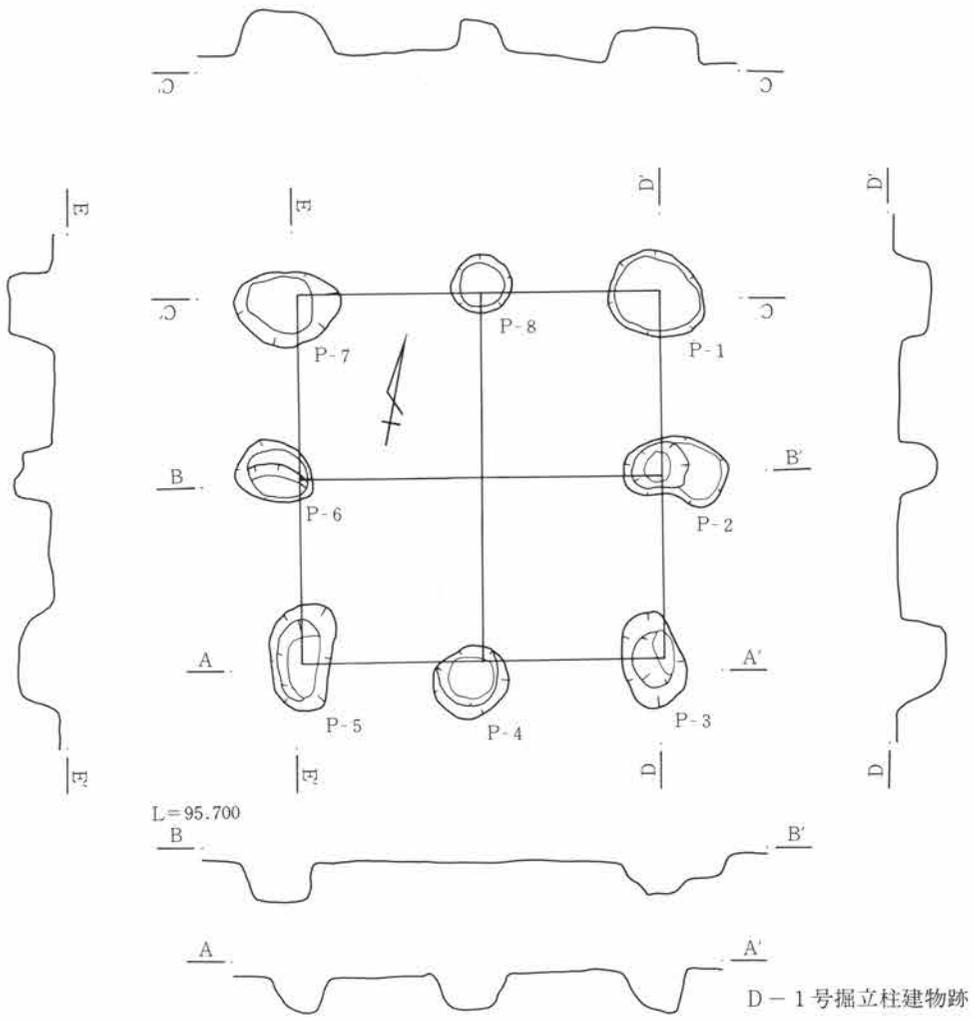


6号掘立柱建物跡

0 2m

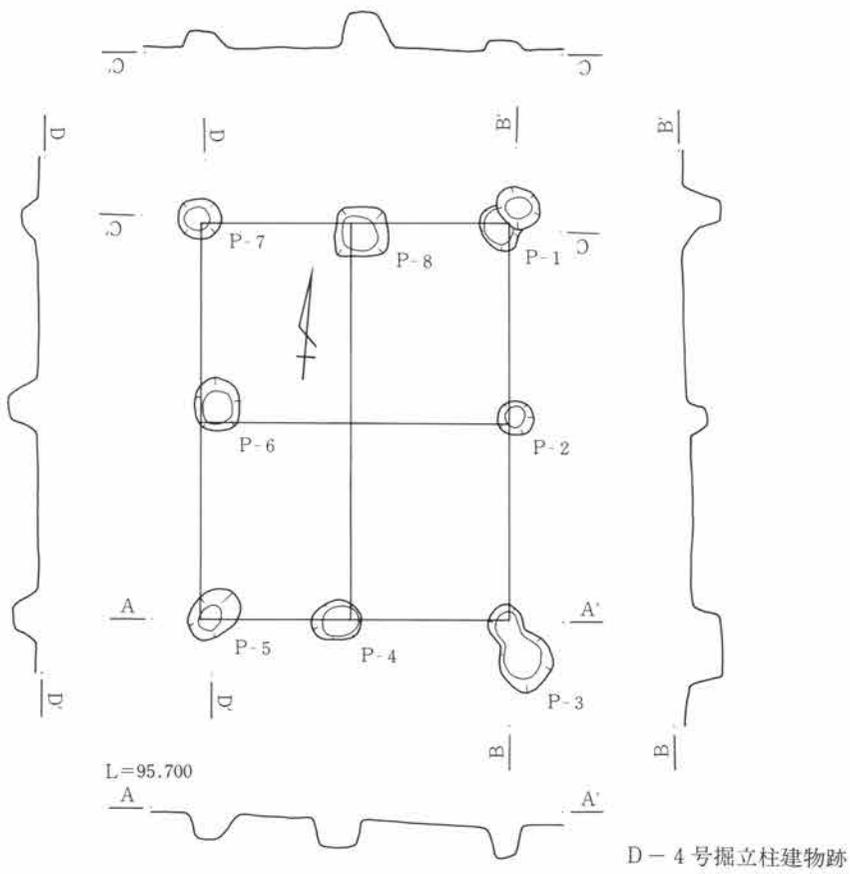
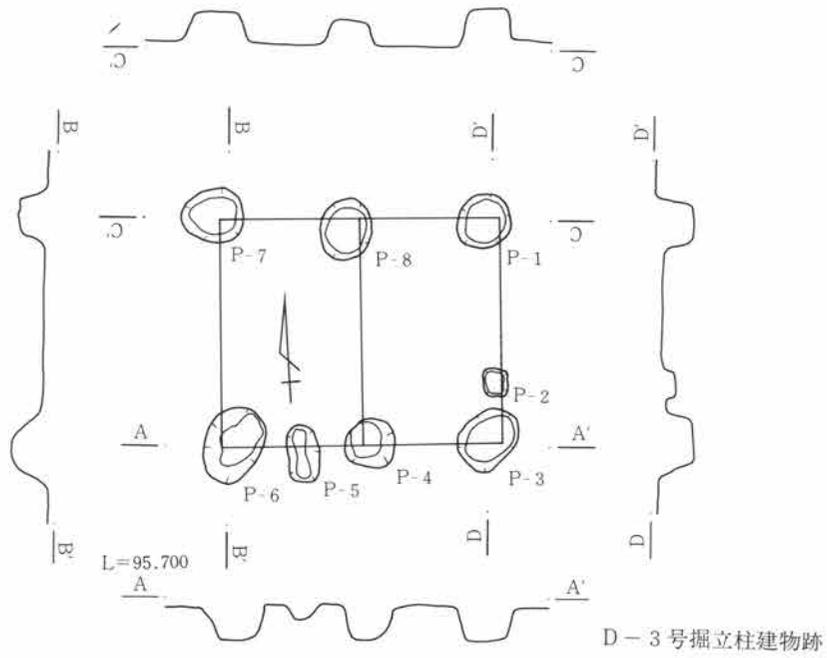
第233図 5号・6号掘立柱建物跡遺構図

(2) 掘立柱建物跡



第234图 D-1号·D-2号掘立柱建物跡遺構図

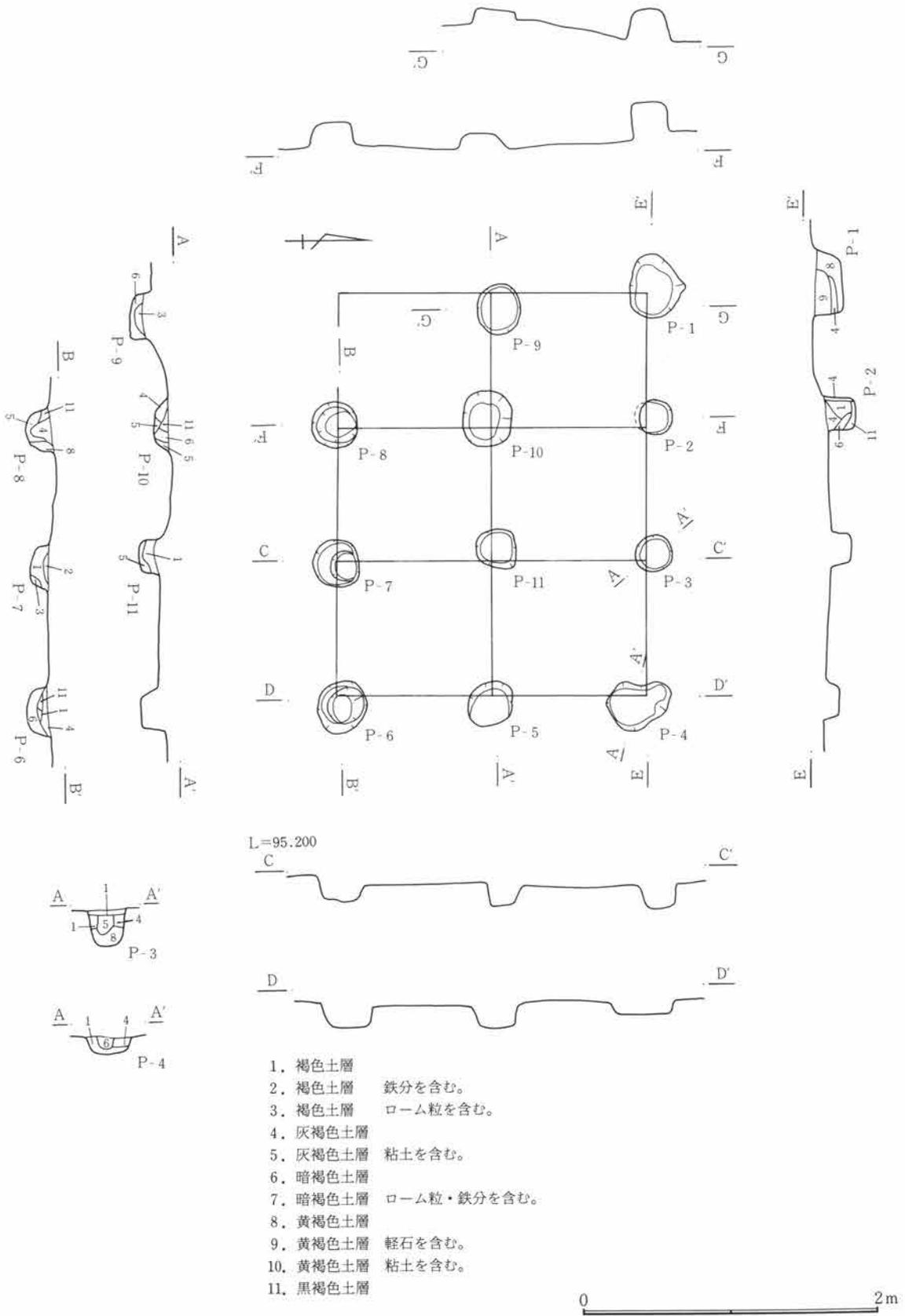
5. 検出された遺構と遺物



0 2m

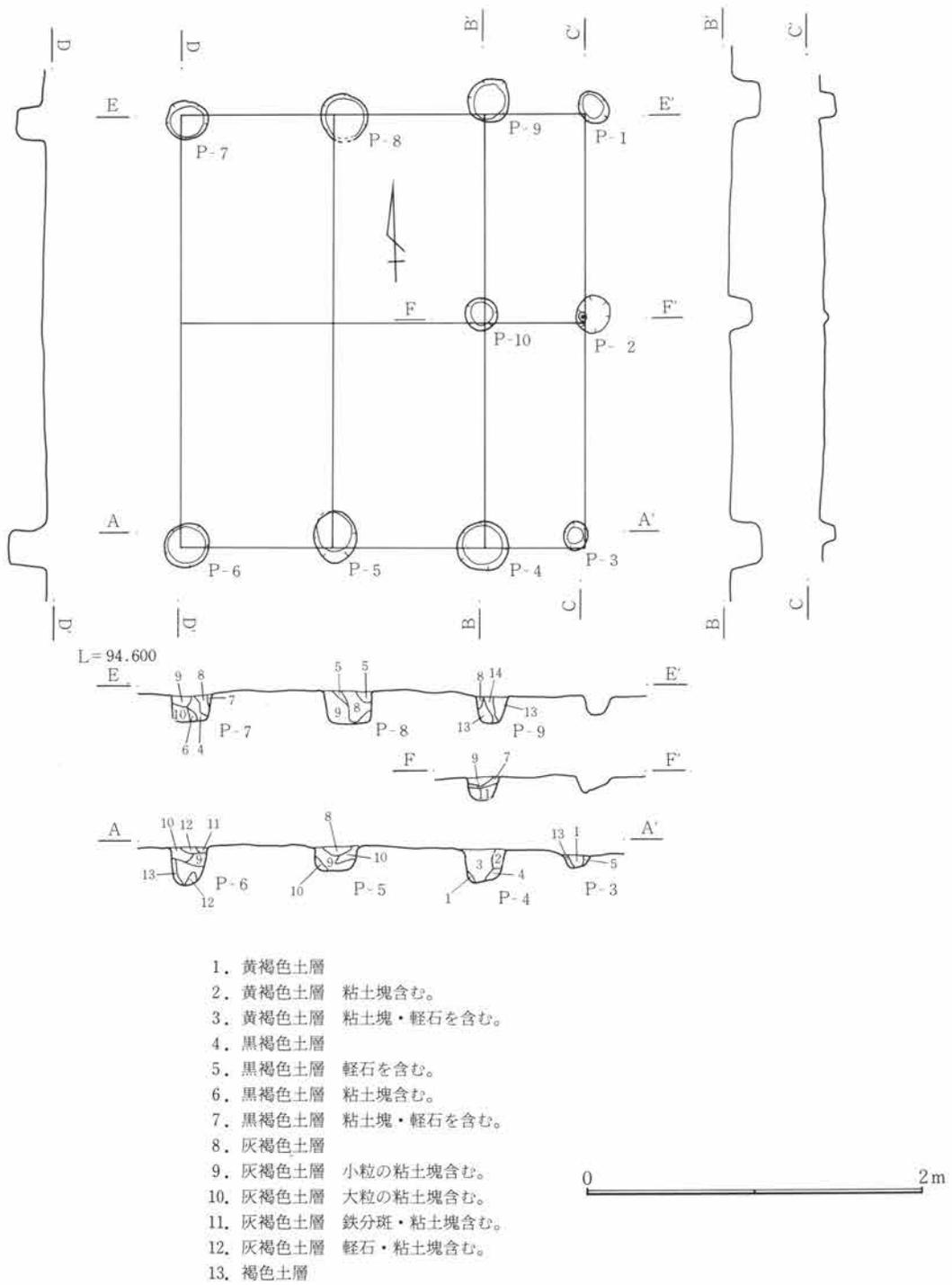
第235図 D-3号・D-4号掘立柱建物跡

(2) 掘立柱建物跡

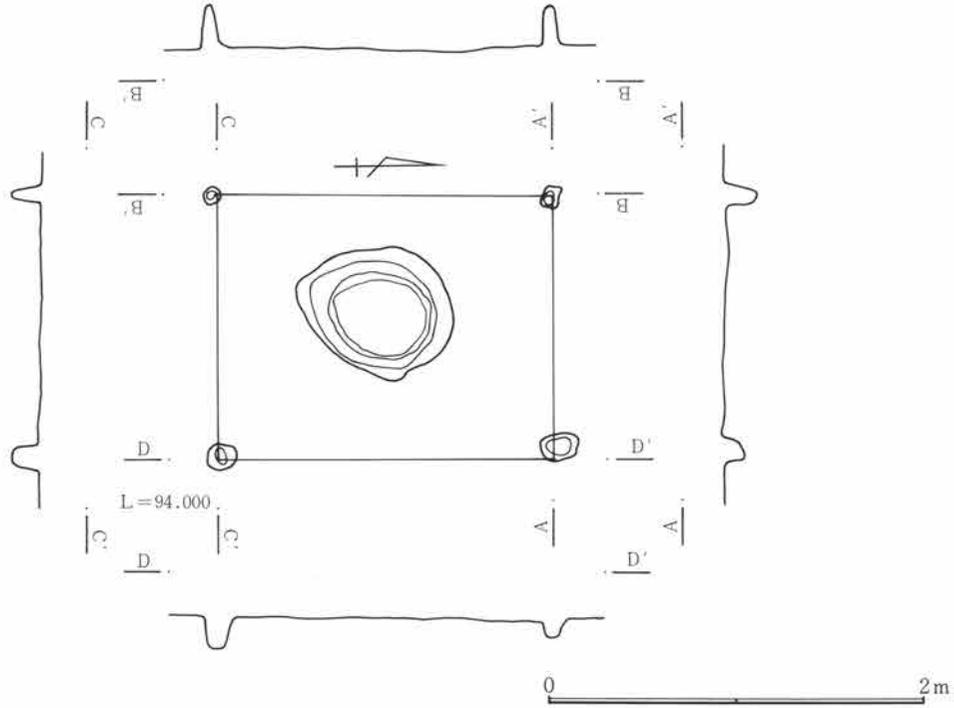


第236図 D-5号掘立柱建物跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



第237図 D-6号掘立柱建物跡遺構図



第238図 9号井戸遺構図

### (3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

住居跡・掘立柱建物跡以外に検出された遺構は井戸、土坑、溝、奈良時代生活面の遺物群である。この内遺物の検出されないものもあるが以下に一括してまとめて報告した。この内井戸は出土遺物等や土層などの点から中近世と考えられるものがほとんどである。土坑群は羽釜等の遺物が検出され、平安期と考えられるものもあるが時期不明のものが多い。溝は出土遺物が少ないが近世の陶磁器を多量に検出するものもある。また明確な形での遺構の検出は見られなかったがC区内において奈良時代の遺物を集中して検出された部分があり、奈良時代生活面として扱った。

#### 井 戸

井戸は総数で、39基が検出されている。検出されたのはB、C、D区内である。断面は円筒状、ロート状を呈し深さは約1m～2mを測り、11・15・17・26号井戸は3mを越え、17号井戸では2.1mより下位には掘り増しをしたクワ痕が認められる。検出された遺物は石臼等のほか中近世の陶磁器類さらに木器が多数ある。木器は井戸枠を始めとし曲物や板材が検出されており加工の痕が残されている。陶磁器類は近世のものも多く出土している。井戸の覆土中からは種子類も検出された。またC区中央部46B・55号溝により区画された中世屋敷内からは井戸が4基検出された。9号井戸には上屋があったことが考えられる小穴が4基検出され、屋敷に伴う井戸であることが考えられる。C区22号井戸覆土中からは応永9年の銘が読める板碑が検出された。

## 5. 検出された遺構と遺物

### 土 坑

土坑は総数で、171基が検出された。このうち3基は墓塚である。C区中央部46B・55号溝区画内には長方形土坑が検出されるなど屋敷内の墓とも考えられるが遺物が検出されないために不明である。D区内25号土坑は形状、規模ともに不明であるが土師器坏が完形で検出されている。

### 溝

溝は総数で、57条が検出された。検出遺物は奈良・平安時代土器、近世陶磁器類のほか木器が検出され木製碗が検出された。15号溝覆土中からは須恵器口縁部外面に2文字の墨書が縦に確認でき下の文字は「田」と読める。また128号溝からは須恵器の底面にヘラ書きで「寺」と刻んだものがある。中近世の溝からは陶磁器が多数検出されている。D区1号溝には墨書土器が2点検出され1点は須恵器の内面に、もう1点は同じく須恵器の底面に確認したが判読できない。底面に書かれた墨書は記号と考えられる。

### 奈良時代生活面

検出されたものは遺物のみであり明確な形での遺構は検出されていない。13号掘立柱建物跡の南に接し57号溝埋没後のくぼみの上に集中して検出された遺物群である。土器、瓦、埴輪が多数検出され掘立柱建物跡から検出された瓦と同時期の物である。埴輪の器種は形象埴輪の破片が数点検出されたほかは円筒埴輪、朝顔型埴輪がほとんどである。埴輪の調整の特徴は縦方向のハケ調整であり、時期は6世紀前半代と後半代の、2時期に分けられる。周辺には当該する時期の古墳は検出、確認されておらず破壊されたものである。集中して検出された遺物は掘立柱建物跡の時期と並行するものもあり、瓦や埴輪が一括して検出されることから前後関係はあまりなくおそらくは捨てられたものと考えられる。13号掘立柱建物跡の南部分は、掘立柱建物跡群の南限に当たり一部13号掘立柱建物跡と重複する部分も見られるが、その他の遺構とは重複することもない。掘立柱建物跡群を意識していることは十分に考えられ、瓦とも考え合わせ掘立柱建物跡群が造られる時期の所産と考えられる。

### そ の 他

以上検出された遺構、遺物のほかに遺構外出土遺物として須恵器甕、天目茶碗、青白磁製皿、古銭等が検出されている。

第92表 井戸遺構一覧表

番号	形状	断面形状	規模(m) (長径×短径×深さ)	出土遺物	備考	
1	楕円形	ロート状	3.02×2.68×2.67	土師器甕、坏破片、瓦、須恵器坏。	55号溝中に位置する。	第239図
3	楕円形	袋状	1.43×1.28×2.08	種子(瓜)。	南北朝。	第239図
4	円形	円筒状	0.93×0.89×1.62	種子(桃)。		第240図
5	円形	円筒状	1.06×1.05×1.20	竹材、種子(クロモジ)。		第240図
6	楕円形	ロート状	1.92×1.80×1.80	曲物、丸板(桶の底)木製品。 種子(稲、杉、ケヤキ)、昆虫片。	江戸。	第240図
7	楕円形	ロート状	1.42×1.37×1.42			第240図
8	円形	円筒状	1.45×1.43×1.42		55号溝区画内に位置する。	第240図
9	楕円形	円筒状	1.70×1.35×2.02		55号溝区画内に位置する。	第240図
11	不整円形	円筒状	1.43×1.43×3.20	木製品(井桁?)。		第241図
12	楕円形	ロート状	2.00×1.75×2.30	土師器甕、坏破片。	55号溝中に位置する。	第241図
13	不整楕円形	円筒状	0.75×0.63×2.43	曲物、木製坏、木製椀。		第241図
15	円形	袋状	0.90×0.82×4.45	土師器甕、種子(トチノキ、杉) 内耳平鍋片。	底部にて26号井戸と通じる。 明治~大正。壁面に工具痕。	第241図
16	楕円形	ロート状	2.30×1.85×1.98	板碑、木材、木器(桶側木)。	中世的な砂質土。	第242図
17	楕円形	袋状	1.45×1.16×3.52	板材、竹材。	幕末~明治。2.10mより後で 掘り増した様子がある(クワの掘り跡あり)。	第242図
18	円形	ロート状	1.03×0.90×1.75	摺鉢破片、板材、木材、竹材。	江戸中期。未完掘井戸か?	第242図
19	楕円形	方形状	1.08×1.00×1.65	土師器坏破片、羽釜片、芦の茎、 石臼片。	近世。掘り方及び、底部は四 角形。	第242図
20	円形	ロート状	0.95×0.89×1.60		未完掘井戸か?	第242図
21	不整円形	ロート状	1.17×1.15×1.70	陶器碗、土師器坏破片。	中世的な砂質土。未完掘か?	第243図
22	円形	ロート状	1.14×1.05×1.18	板碑「応永□年十月」(室町様式)、 板材、竹材。	中世。	第243図
23	楕円形	ロート状	0.90×0.72×0.88	板碑片、丸板、土師器坏破片。	中世的な砂質土。	第243図
24	円形	円筒状	0.84×0.80×0.88		中世。上面土層にFAを多量 に含み、意識的に埋めたか?	第243図
25	円形	円筒状	1.45×1.37×0.60	丸板(桶の底か?)。	中世。掘削途中で中止した か?	第243図
26	方形	袋状	0.92×0.90×3.25	種子(杉)。	底部にて15号井戸に通じる。 江戸中期~江戸後期。	第243図
27	円形	円筒状	0.80×0.75×1.19		下層の火山泥流に当り掘削調 査中止。	第243図

5. 検出された遺構と遺物

28	不整楕円形	円筒状	1.50×1.10×1.58		下層の火山泥流に当り掘削調査中止。	第243図
29	楕円形	ロート状	1.26×1.10×1.20		下層の火山泥流に当り掘削調査中止。	第244図
30	楕円形	ロート状	1.55×1.33×1.58	板碑片、板材（柄?）。	下層の火山泥流に当り掘削調査中止。	第244図
31	楕円形	円筒状	0.92×0.82×0.67		掘り始めて中止した井戸か？底部に1～2mmの粗砂層あり。	第244図
32	不整円形	円筒状	1.02×0.90×1.98	板材。	底部は中央が高い掘削。	第244図
33	方形	円筒状	0.65×0.58×2.20	内耳平鍋片、摺鉢片（施釉、口縁部外面3段の桃山風）、曲物側木。	33号井戸と34号井戸とは重複する。地表下50cmに細枝でからんだ杭が、両端円礫にて積み上げてある。 33号井戸、江戸前期。34号井戸、江戸初期～江戸前期。	第244図
34	円形	円筒状	0.78×0.78×1.38	染付碗（染付は見込蛇目釉落し）土師器坏破片、木片多量。		
35	楕円形	袋状	0.53×0.43×2.60	板材、木の葉、陶器、須恵器破片。	未広がりの典型的な近世井戸	第244図
36	円形	円筒状	0.95×0.93×1.17		36号井戸と37号井戸とは重複している。	第244図
37	円形	円筒状	0.73× — ×1.15			
38	不整方形	円筒状	1.10×0.97×0.92			第244図
39	円形	円筒状	1.32×1.30×2.02	摺鉢片、板碑片、砥石（流紋岩）陶器碗破片。	地表下1.70mより下は後に掘り増した跡あり。江戸後期～明治。	第245図
41	円形	円筒状	1.40×1.45×1.85			第245図
D-1	円形	ロート状	1.98×1.87×1.24			第245図
D-2	不整円形	ロート状	1.50×1.48×0.75		未完掘井戸か？	第245図

第93表 土坑遺構一覧表

番号	形状	方位	規模 (cm) (長径×短径×深さ)	出土遺物	備考
1	円形		104 × 95 × 10		
2	不整長方形	N-68'-E	254 × 198 × 45	埴輪破片。	焼土検出。
3	長方形?		280 × 40 × —	埴輪破片、瓦破片、須恵器坏破片。	炭化物検出。約1/2調査区外。
4	長方形	N-61'-W	225 × 125 × 18		炭化物検出。一部調査区外。
5	長方形	N-11'-E	270 × 45 × 52		両端部が深い。
6	不整長方形	N-77'-W	215 × 115 × 12		炭化物検出。
7	不整長方形	N-85'-E	185 × 90 × 11		炭化物検出。
9	不整長方形	N-7'-W	238 × 205 × 38	土師器坏。	炭化物検出。

## (3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

10	長方形	N-9°-W	235 × 180 × 30	土師器坏、埴輪破片、須恵器盤。	炭化物、焼土検出。
11	長方形?		150 × 15 × -		8号住居跡と重複する。
12	長方形?		180 × 35 × -	土師器坏、埴輪破片。	8号住居跡と重複する。
14	方形		75 × 60 × 15	須恵器坏。	8号住居跡と重複する。
15	長円形		57 × 41 × 31		
20	円形		112 × 110 × 9		18号住居跡と重複する。
21	円形		84 × 82 × 18		炭化物検出。18号住居跡と重複する。
22	楕円形		146 × 98 × 17		
23	円形		94 × 78 × 10		炭化物検出。
25	円形		72 × 68 × 20	高台付埴(須恵器)。	
26	円形		67 × 59 × 10		31号住居跡と重複する。
27	円形		65 × 54 × 12		
28	楕円形		117 × 91 × 22	羽釜、石多量。	34号溝と重複する。
29	円形		90 × 85 × 16		炭化物、焼土検出。24号住居跡と重複する。
30	円形		92 × 89 × 25	瓦破片。	炭化物、焼土検出。
31	長円形		136 × 59 × 17		炭化物、焼土検出。
32	円形		79 × 70 × 17	羽釜破片、須恵器坏。	
33	楕円形		161 × 112 × 23		炭化物、焼土検出。
34	円形		81 × 78 × 13		33号住居跡と重複し焼土検出。
35	不整長方形	N-89°-W	136 × 103 × 18		炭化物、焼土検出。
36	楕円形		172 × 102 × 12		
38	長円形		88 × 72 × 35		39号土坑と重複する。
39	不整長方形	N-54°-W	118 × 102 × 15		炭化物、焼土検出。38号土坑に切られる。
40	円形		148 × 132 × 23		炭化物検出。37号溝と重複。
41	長方形	N-18°-E	118 × 90 × 22	石(根石?)。	42号土坑と重複する。
42	不整長円形		118 × 85 × 19	石(根石?)。	41号土坑と重複する。
43	長方形	N-10°-E	213 × 98 × 15	土師器坏。	焼土検出。
44	不整長方形	N-0°	128 × 110 × 6	土師器坏破片。	
45	隅丸長方形	N-7°-W	110 × 83 × 17		炭化物検出。

5. 検出された遺構と遺物

46	円形		60 × 58 × 13		炭化物検出。29号住居跡と重複する。
47	円形		118 × 114 × 36		
48	円形		125 × 113 × 9		
49	長円形		67 × 54 × 9		
50	不整長円形		132 × 10 × —		51号土坑に切られる。
51	円形		134 × 132 × 35		50号土坑と重複する。
53	円形?		45 × 16 × —		54号土坑に切られる。
54	隅丸長方形	N-5°-E	152 × 107 × 21	須恵器坏。	53号土坑と重複する。
55	円形		102 × 92 × 13		29号住居跡と重複する。炭化物検出。
56	円形		117 × 107 × 12		炭化物検出。
57	長円形	N-89°-W	140 × 102 × 12		28号住居跡と重複する。
58	長円形	N-0°	78 × 43 × 15		
59	円形		92 × 90 × 13		
60	円形		48 × 47 × 42		
61	長円形	N-0°	75 × 59 × 14		炭化物、焼土検出。
62	円形		52 × 48 × 12		炭化物、焼土検出。
63	円形?		98 × 32 × —		約半分未調査区。
64	円形		80 × 72 × 27		58号住居跡と重複する。炭化物、焼土検出。
65	円形		74 × 68 × 5		
66	長円形	N-67°-E	140 × 98 × 30		
67	円形		73 × 72 × 14		
68	円形		60 × 54 × 21		
69	円形		68 × 58 × 33		33号溝と重複する。
70	楕円形	N-0°	90 × 51 × 20		33号溝と重複する。
71	長方形	N-7°-E	98 × 80 × 12		33号溝と重複する。
72	不整長円形		245 × 122 × 22		
73	円形		120 × 110 × 50		14号住居跡と重複する。
74	長円形	N-74°-W	135 × 94 × 13		
75	楕円形	N-0°	132 × 80 × 14		
76	円形		48 × 47 × 13		炭化物、焼土検出。

## (3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

77	円形		47 × 43 × 52		
78	円形		47 × 44 × 18		焼土検出。113号土坑と重複する。
81	円形		74 × 66 × 18		炭化物、焼土検出。
83	楕円形	N-77'-E	110 × 72 × 28		
84	円形		92 × 88 × 12		炭化物検出。30号住居跡と重複する。
85	円形?		72 × 17 × -		炭化物検出。39号住居跡と重複する。
86	長円形		68 × 55 × 25		39号住居跡と重複する。
88	円形		112 × 105 × 42		39号住居跡と重複する。
89	長円形		173 × 132 × 33	須恵器坏、瓦破片、羽釜破片。	41、42号住居跡と重複する。
90	円形		138 × 134 × 23		炭化物、焼土検出。41号住居跡と重複する。
92	不整長方形	N-17'-W	265 × 182 × 20	土師器甕破片。	
93	不整長方形	N-14'-W	143 × 115 × 25	瓦破片。	
95	円形		102 × 95 × 18		53号住居跡、10号掘立、と重複し、55号溝区画内に位置する。
96	円形		50 × 48 × 48		
97	円形		94 × 85 × 25		55号溝区画内に位置する。
98	円形		132 × 123 × 18	羽釜、須恵器碗。	41号住居跡と重複する。
99	長円形	N-0'	105 × 82 × 37		炭化物、焼土多量に検出。
100	円形		150 × 148 × 13		55号溝区画内に位置する。
102	円形		43 × 40 × 27		炭化物、焼土検出。18号住居跡電部、33号溝と重複する。
103	不整円形		60 × 40 × 75		炭化物、焼土検出。33号溝と重複する。
104	円形		53 × 50 × 20		33号溝と重複する。
105	不整長円形		68 × 38 × 32		32号住居跡と重複する。
106	楕円形		60 × 45 × 12	羽釜。	55号溝区画内に位置する。
108	長円形		104 × 86 × 18		炭化物、焼土検出。
109	方形		37 × 37 × 42		柱穴か?
110	円形		60 × 60 × 15		
113	円形		75 × 75 × 5		焼土検出。
114	円形		43 × 40 × 48		柱穴か?

5. 検出された遺構と遺物

115	円形		46 × 45 × 56		柱穴か？
116	円形		30 × 30 × 40		柱穴か？
120	円形		48 × 42 × 55	石（根石？）。	柱穴か？
122	円形		90 × 85 × 10		69号住居跡と重複する。
124	円形		40 × 40 × 45		柱穴か？
126	円形		48 × 38 × 48	土師器坏。	柱穴か？
128	円形		78 × 72 × 23		78号住居跡と重複する。
149	円形		38 × 35 × 13		
150	楕円形	N-13°-E	156 × 64 × 8		
153	円形		48 × 44 × 33		8号掘立、9号掘立遺構の中間に位置する。
154	円形		32 × 32 × 25	瓦破片、石（根石？）。	9号掘立遺構内に位置する。
155	円形		37 × 32 × 42		9号掘立遺構内に位置する。
156	楕円形		60 × 40 × 30		9号掘立遺構内に位置する。
157	円形		30 × 28 × 57		8号掘立、9号掘立遺構の中間に位置する。
158	円形		38 × 35 × 55	石（根石？）。	8号掘立、9号掘立遺構の中間に位置する。
159	円形		28 × 25 × 52		8号掘立、9号掘立遺構の中間に位置する。
162	不整三角形		452 × 305 × 5	埴輪破片。	
163	不整長方形	N-84°-E	278 × 122 × 16		
172	円形		138 × 130 × 15		
174	不整形		152 × 145 × 53		
175	長方形	N-68°-E	118 × 83 × 20		55号溝区画内に位置する。
177	円形		73 × 72 × 58		55号溝区画内に位置する。
178	長方形	N-0°	208 × 91 × 35		55号溝区画内に位置する。
179	長方形	N-62°-W	290 × 125 × 18		55号溝区画内に位置する。
180	長方形	N-79°-W	170 × 76 × 7		55号溝区画内に位置する。
181	方形		75 × 67 × 28		55号溝区画内に位置する。
183	長方形	N-80°-E	267 × 118 × 10		55号溝区画内に位置する。
184	長方形	N-82°-E	285 × 90 × 35		55号溝区画内に位置する。
185	長方形	N-84°-E	342 × 160 × 50		55号溝区画内に位置する。

## (3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

191	長方形	N-15°-W	110 × 88 × 10		55号溝区画内に位置する。
192	長方形	N-8°-W	165 × 85 × 20		55号溝区画内に位置する。
193	不整形		103 × 75 × 40		
194	長方形	N-2°-W	285 × 185 × 21		146号住居跡と重複し、55号溝区画内に位置する。
195	不整形長方形	N-83°-E	248 × 152 × 13		55号溝区画内に位置する。
196	長方形	N-0°	185 × 130 × 18		55号溝区画内に位置する。
197	不整形三角形		245 × 160 × 13	埴輪破片。	55号溝区画内に位置する。
198	長方形	N-0°	223 × 125 × 17	瓦破片。	55号溝区画内に位置し、199号土坑と重複する。
199	長方形?		185 × - × 18		55号溝区画内に位置し、198号土坑に切られる。
201	方形	N-9°-W	240 × 235 × 27		住居か?
202	方形	N-0°	222 × 190 × 18		
204	不整形長方形		140 × 90 × 10		91号住居跡と重複する。
211	円形		75 × 72 × 24	施釉皿 (完形品 2点)。	
D-3	楕円形		110 × 63 × 46	甕破片。	
D-5	楕円形		46 × 32 × 18		
D-8	円形		48 × 42 × 43		
D-11	ヒョウタン形		112 × 85 × 45		
D-12	円形		62 × 52 × 48	甕破片。	
D-13	円形		52 × 43 × 42	甕破片。	
D-14	円形		55 × 45 × 42		
D-17	円形		80 × 75 × 46		
D-18	円形		62 × 56 × 32		D-15号住居跡と重複する。
D-19	円形		62 × 55 × 33		D-15号住居跡と重複する。
D-20	円形		55 × 52 × 60		柱穴か?
D-21	楕円形		43 × 30 × 9	甕破片。	
D-23	ヒョウタン形		85 × 60 × 40		D-3号溝と重複する。
D-25	外形不明瞭			須恵器坏。	
D-27	円形		35 × 33 × 22		
D-29	長方形	N-90°-W	215 × 50 × 36		底部両端に窪みあり。
D-30	円形		55 × 50 × 40		

5. 検出された遺構と遺物

D-31	円形		78 × 62 × 49		
D-32	円形?		35 × — × 9	須恵器坏、埴、羽釜。	D-15号溝に切られる。
D-33	円形		23 × 22 × 18		D-16号溝と重複する。
D-34	円形		34 × 30 × 29		
D-35	円形		23 × 22 × 18		
D-36	円形		25 × 25 × 8		
D-37	円形		45 × 45 × 40		D-3号溝と重複する。
D-38	円形		40 × 36 × 35		D-3号溝と重複する。
D-39	円形		35 × 35 × 28		D-3号溝と重複する。
D-40	円形		46 × 45 × 50		柱穴か?
D-41	円形		33 × 26 × 23		D-3号溝と重複する。
D-42	円形		24 × 24 × 17		
D-43	円形		40 × 35 × 19		
D-44	円形		35 × 34 × 19		
D-45	円形		} 90 × 45 × 21		D-46、47号土坑と連なる。
D-46	円形				D-45、47号土坑と連なる。
D-47	円形				D-45、46号土坑と連なる。

第94表 墓壇遺構一覧表

番号	形状	方位	規模 (cm) (長径×短径×深さ)	出土遺物	備考
1	長方形	N-0°	105 × 60 × 28		炭化物、灰を多量に検出。55号溝区画内に位置する。
2	長方形	N-14°-E	218 × 100 × 15		1号墓壇と重複し、55号溝区画内に位置する。
3	円形		67 × 65 × 34		底石あり。
4			80 × × 30		集石遺構。炭化物多量に検出。

第95表 溝・遺構一覧表

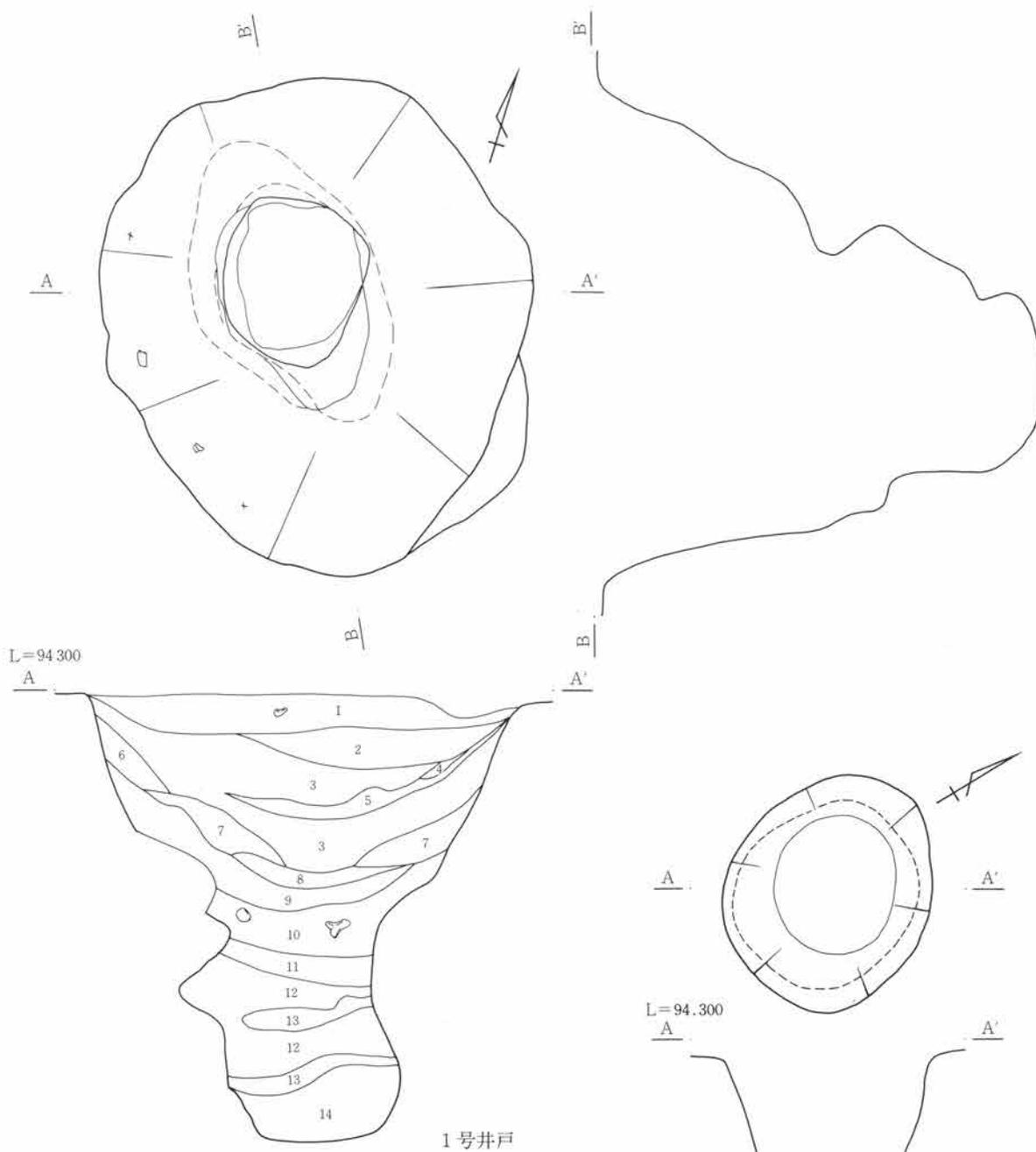
番号	規模 (cm)				出土遺物	備考
	長さ	深さ	幅(大)	幅(小)		
1	350	5	60	30	土師器坏、須恵器壺、坏破片。	
2	1200	27	220	30	土師器坏破片。	1号掘立、2号掘立遺構と重複する。
3	520	9	100	80	須恵器大甕破片、瓦破片、土師器坏、須恵器坏・埴。	3号掘立遺構と重複する。

## (3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

15	1600	105	595	355	杭 5 本、土師器坏、須恵器坏(墨書)、埴、種子(桃)。	水路の堰か？ 杭あり。16号溝と並ぶ。
16	3550	65	465	155	杭 7 本、須恵器坏、土師器坏破片。	水路の堰か？ 杭あり。15号溝と並ぶ。
33	2350	25	160	80		18号、32号住居跡、69号、70号、71号、102号、103号、104号土坑と重複する。
34	850	30	50	48		11号住居跡、28号土坑と重複する。
35	2550	22	170	100	土師器坏破片。	31号住居跡と重複する。
36	4800	114	270	190		染谷川に沿う。19号住居跡、29号、31号、58号、64号土坑と重複する。
37	950	29	70	30		33号住居跡、47号、49号、50号、51号土坑と重複する。
38	1580	18	170	40	土師器坏、甕破片。	28号住居跡と重複する。
40	1700	22	80	50	埴輪破片、須恵器埴。	43号、61号住居跡と重複する。
41	1680	17	70	40		50号、51号、52号住居跡と重複する。
42	800	15	30	25		21号、22号住居跡と重複する。
43(A)	1750	16	150	50	土師器坏、埴(底面に十印)。	62号、63号、65号住居跡と重複する。
43(B)	500	13	70	30		55号溝区画内に位置する。
43(C)	860	16	70	20		
44	1350	24	60	30		54号住居跡、9号掘立遺構と重複する。
46(A)	600	37	90	50	羽釜破片。	73号住居跡と重複する。
46(B)	3600	20	170	70		43号、44号、45号、47号、48号、61号、69号住居跡、162号土坑と重複する。
48	1500	9	50	30		
52	700		70	30		
53	950		100	50		
55(A)	6600	57	380	100		59号住居跡、1号、12号井戸と重複する。大きく区画性を持つ溝。
55(B)	1450	42	250	100		未調査区にかかる。55(A)溝と共に大きく区画性を持つ。
56	1200	23	100	20		55号溝区画内に位置する。
57	3650	95	330	50		148号住居跡、13号掘立遺構と重複する。55号溝の外側に並行する。
58	1100	20	100	30	須恵器埴。	
59	1750	58	180	50	埴輪破片。	
83	5150	80	680	480	丸板(桶の底?)。	

5. 検出された遺構と遺物

123	1200	20	80	70		
124	980	13	50	30		
127	3350	79	50	30	土師器内耳鍋。	16号、17号、20号井戸と重複する。
128	1400		150	100	木製塗椀、須恵器坏、椀（寺）、摺石。	
131	3100	84	350	120		
132	1600	35	120	100		
133	1300	33	30	20		
134	8150	151	700	350	丸板(桶?)、木製塗椀、摺鉢、陶器染付碗、皿、坏、鉢、火鉢他多量。	
137	550	20	105	85		147号住居跡と重複し、55号溝の外側に並行する。
138	1050	15	30	25		147号住居跡、13号掘立遺構と重複し、55号溝の外側に並行する。
139	550	8	45	20		
142	1450	20	100	60		
143	2000	55	200	150		
144	770	24	70	50		
145	3100	30	150	100		
D-1	8850	267	900	300	須恵器椀（内面墨書）、坏、椀破片多量、瓦破片多量。	
D-2	1750	55	230	150	土師器坏、須恵器坏、瓦破片。	
D-3	3100	29	200	70	須恵器坏、椀、瓦破片。	D-16号住居跡、D-37号、D-38号、D-39号、D-41号土坑と重複する。
D-4	3600	103	480	150	須恵器坏、椀、皿、鉢、蓋、壺多量、土師器坏（暗文）、甕、坏破片多量。瓦破片多量。	D-2号、D-6号、D-8号住居跡と重複する。
D-5	2800	13	350	50	土師器坏。	
D-7	1100	30	50	30		
D-8	450	15	70	30		
D-9	700	15	30	20		
D-10	330	20	20	15		
D-11	600	18	30	25		
D-15	600	20	30	20		
D-16	350	18	10	30		

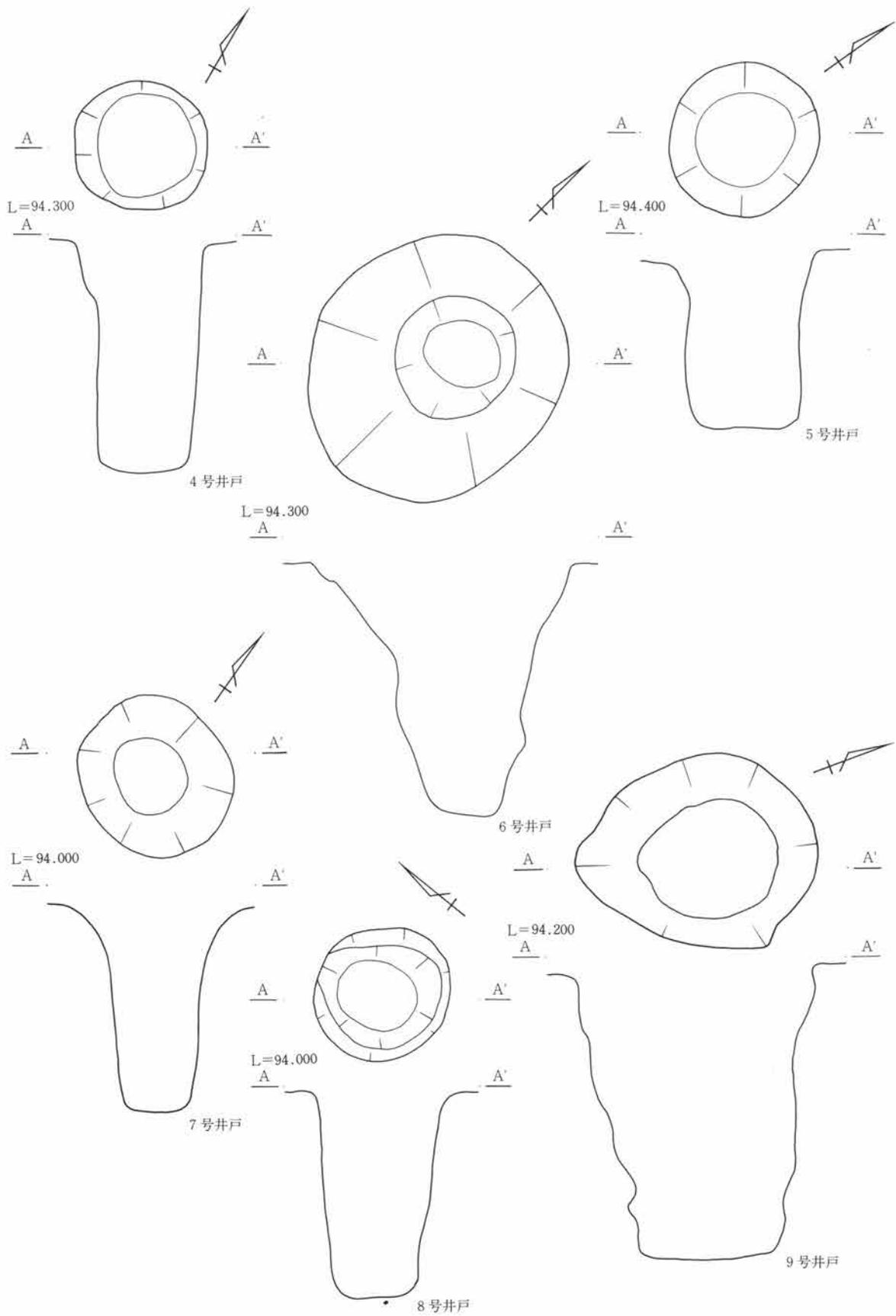


- 1. 暗褐色土層 A軽石を含む。
- 2. 褐色土層 A軽石とFPF1との混土層。
- 3. 暗褐色土層 B軽石を含む。
- 4. 黒褐色土層
- 5. 褐色土層 FPF1を含む。
- 6. 暗褐色土層 B軽石を多量に含む。
- 7. 黄褐色土層 FPF1を多量に含む。
- 8. 黄褐色土層 FPF1と鉄分を含む。
- 9. 茶褐色土層 ローム粒を含む。
- 10. 灰褐色土層 ローム粒・礫を含む。
- 11. 灰褐色土層 ローム粒・礫を多量に含む。
- 12. 黄褐色土層 灰白色ロームを含む。
- 13. 黄褐色土層
- 14. 灰褐色土層 灰白色ロームと砂分がシルト化した層。

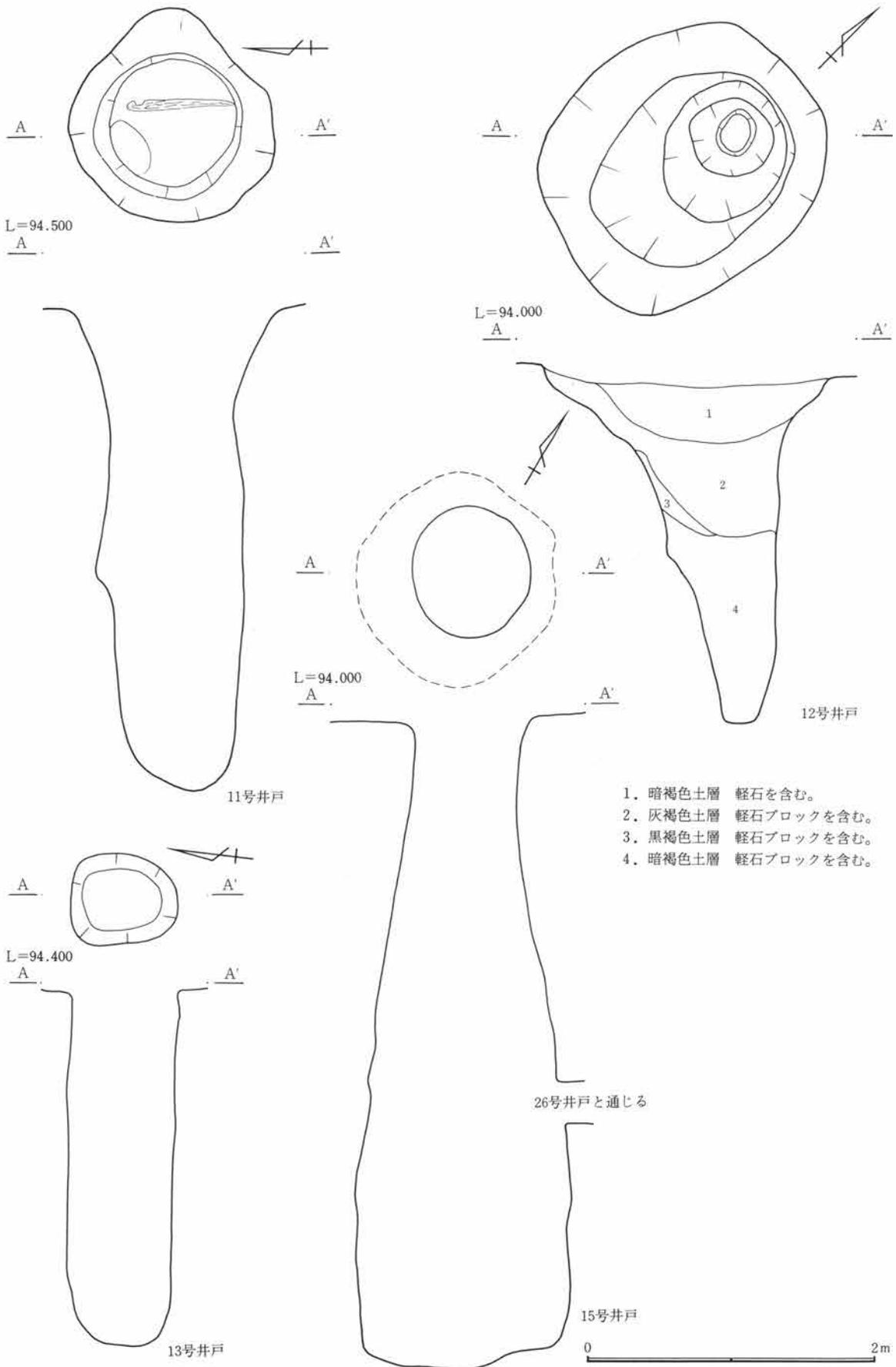
第239図 1号・3号井戸遺構図

0 2m

5. 検出された遺構と遺物

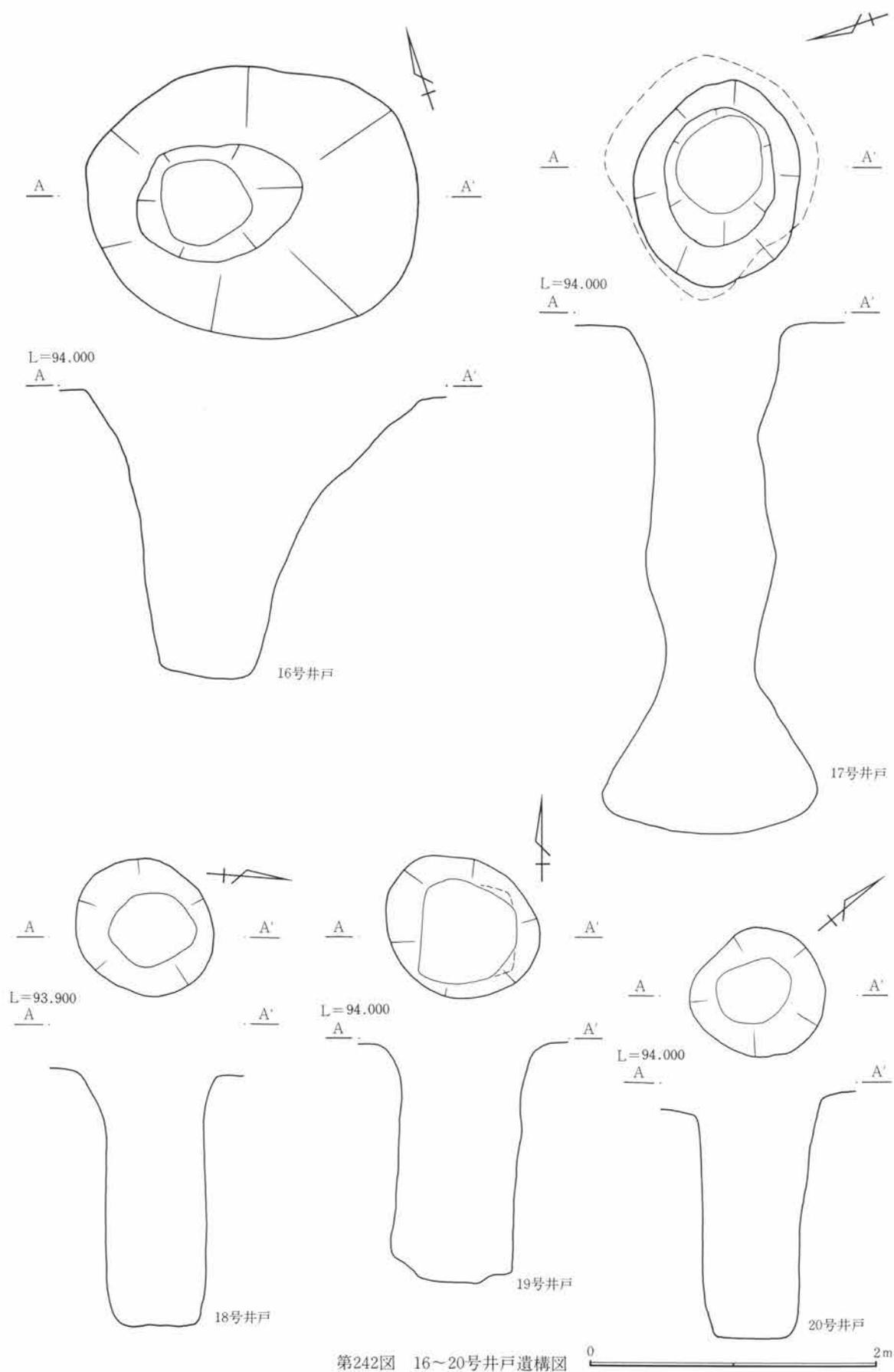


第240図 4号～9号井戸遺構図

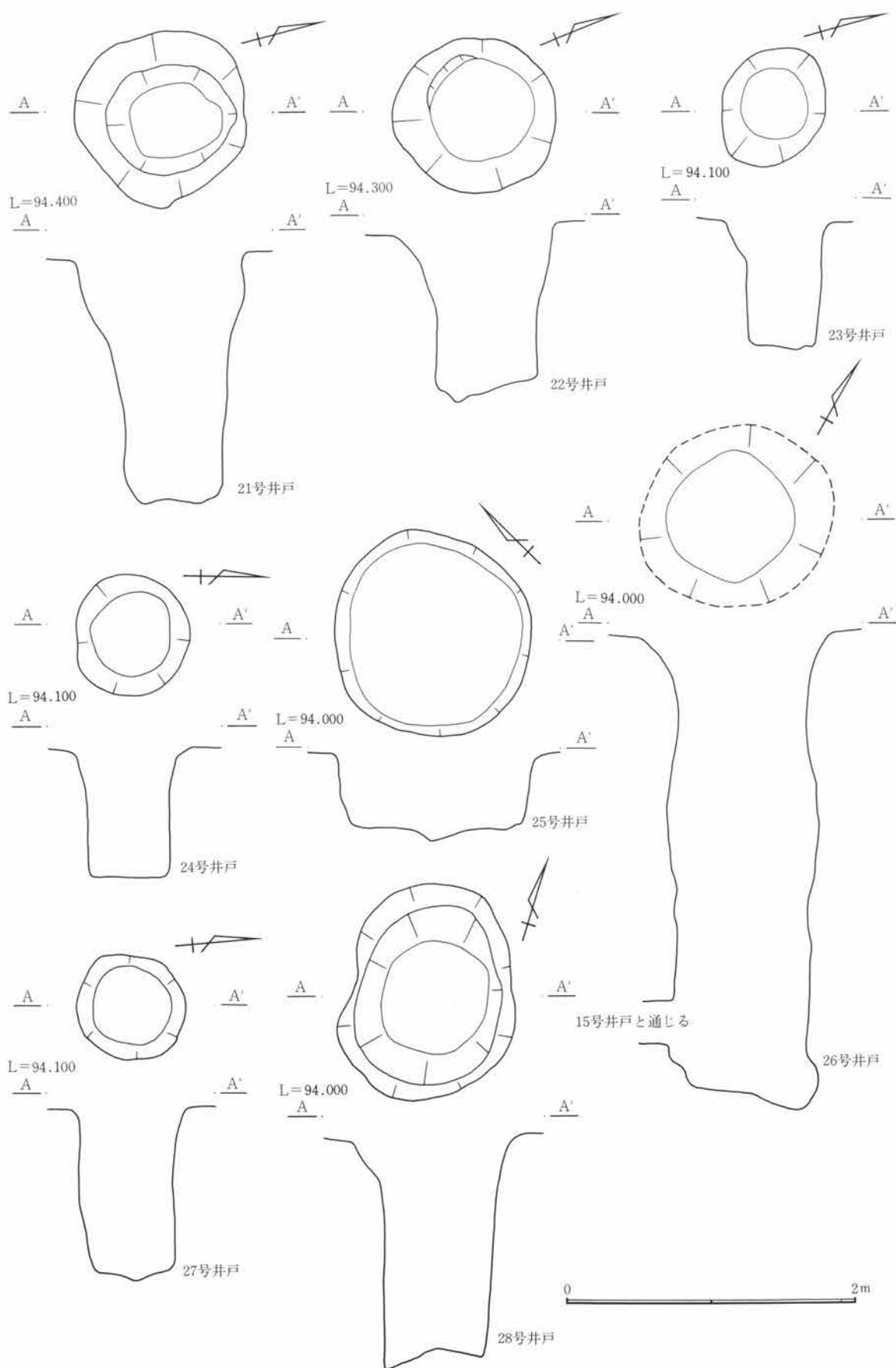


第241図 11号～15号井戸遺構図

5. 検出された遺構と遺物

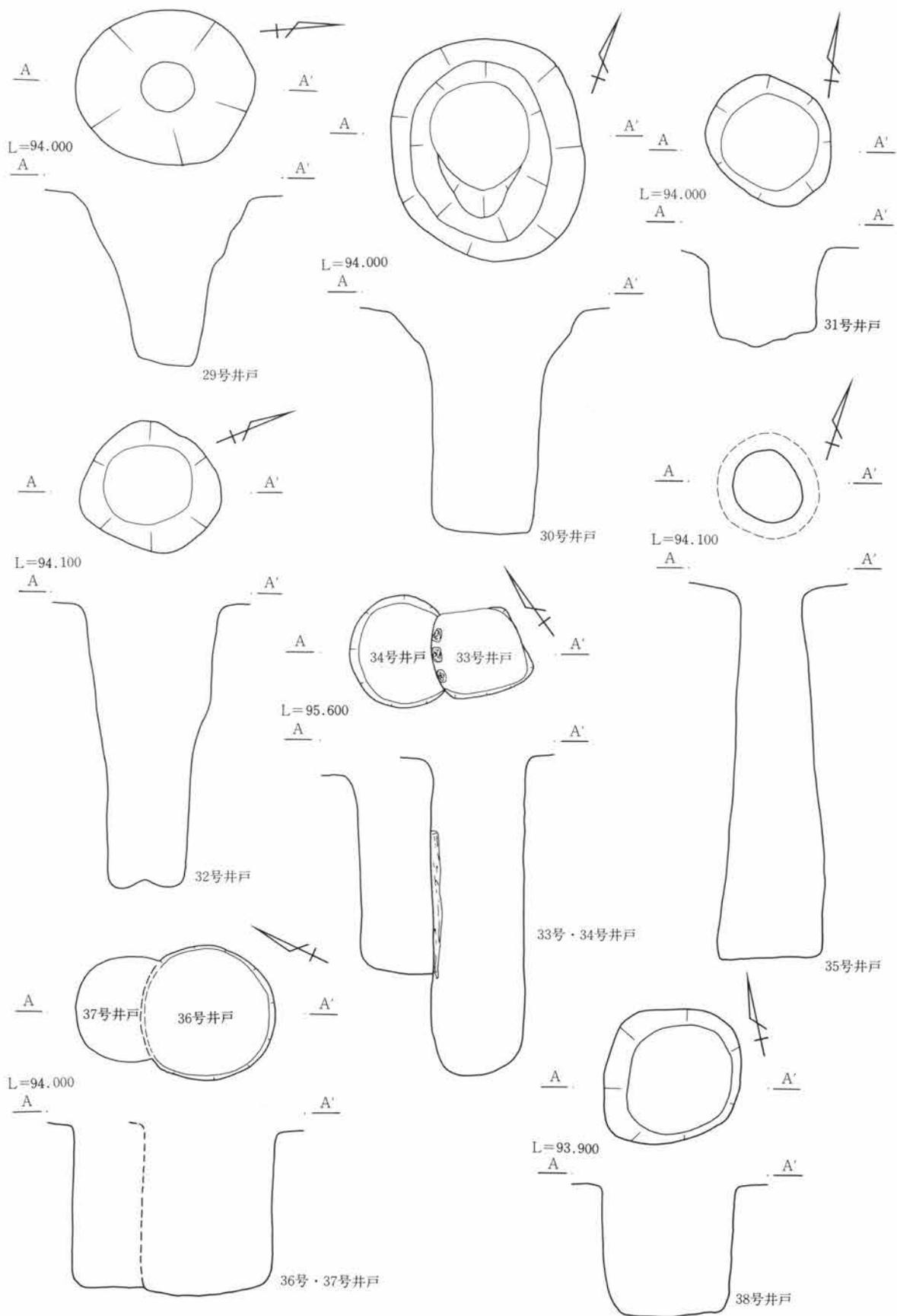


第242図 16~20号井戸遺構図



第243図 21号~28号井戸遺構図

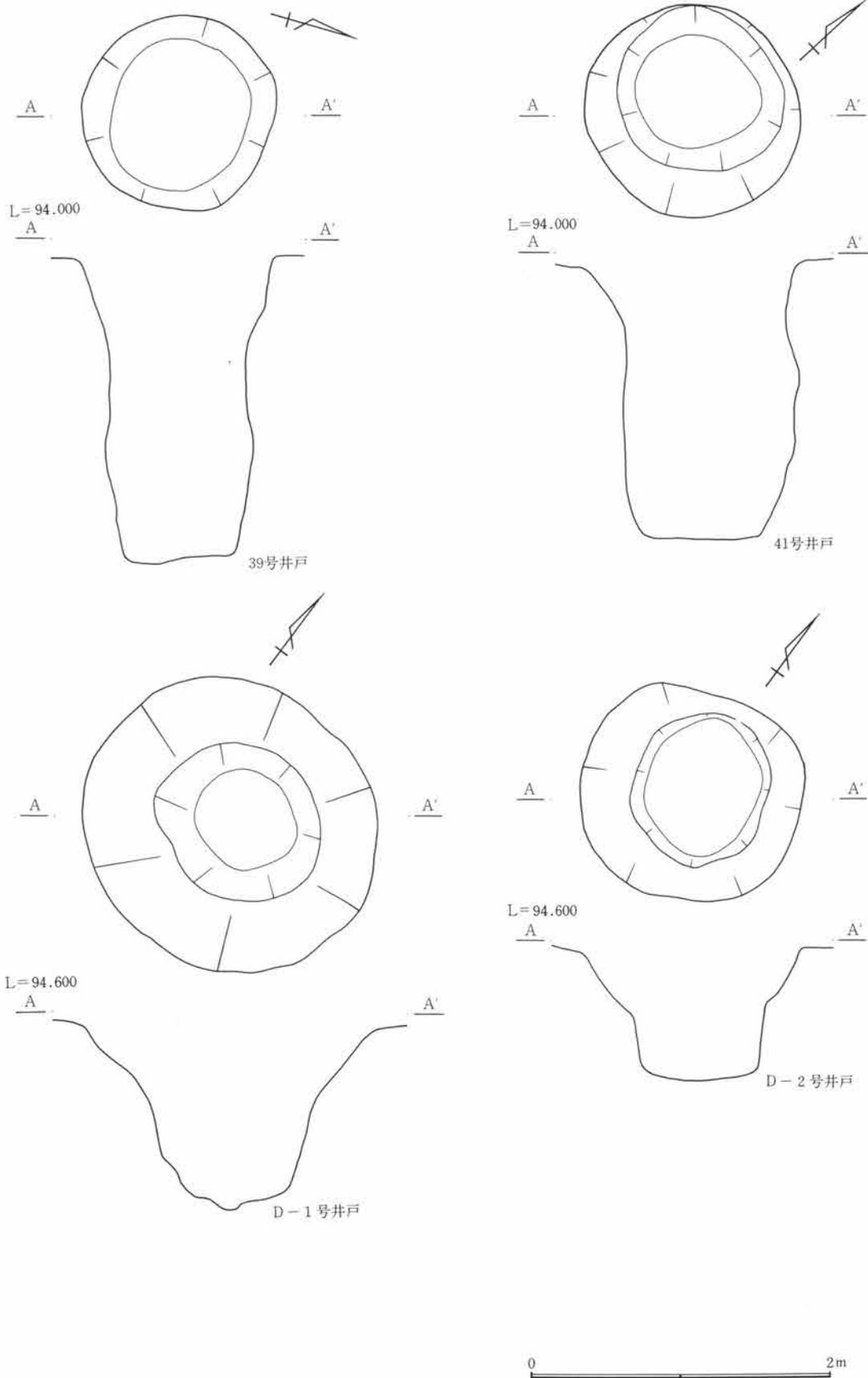
5. 検出された遺構と遺物



第244図 29号～38号井戸遺構図

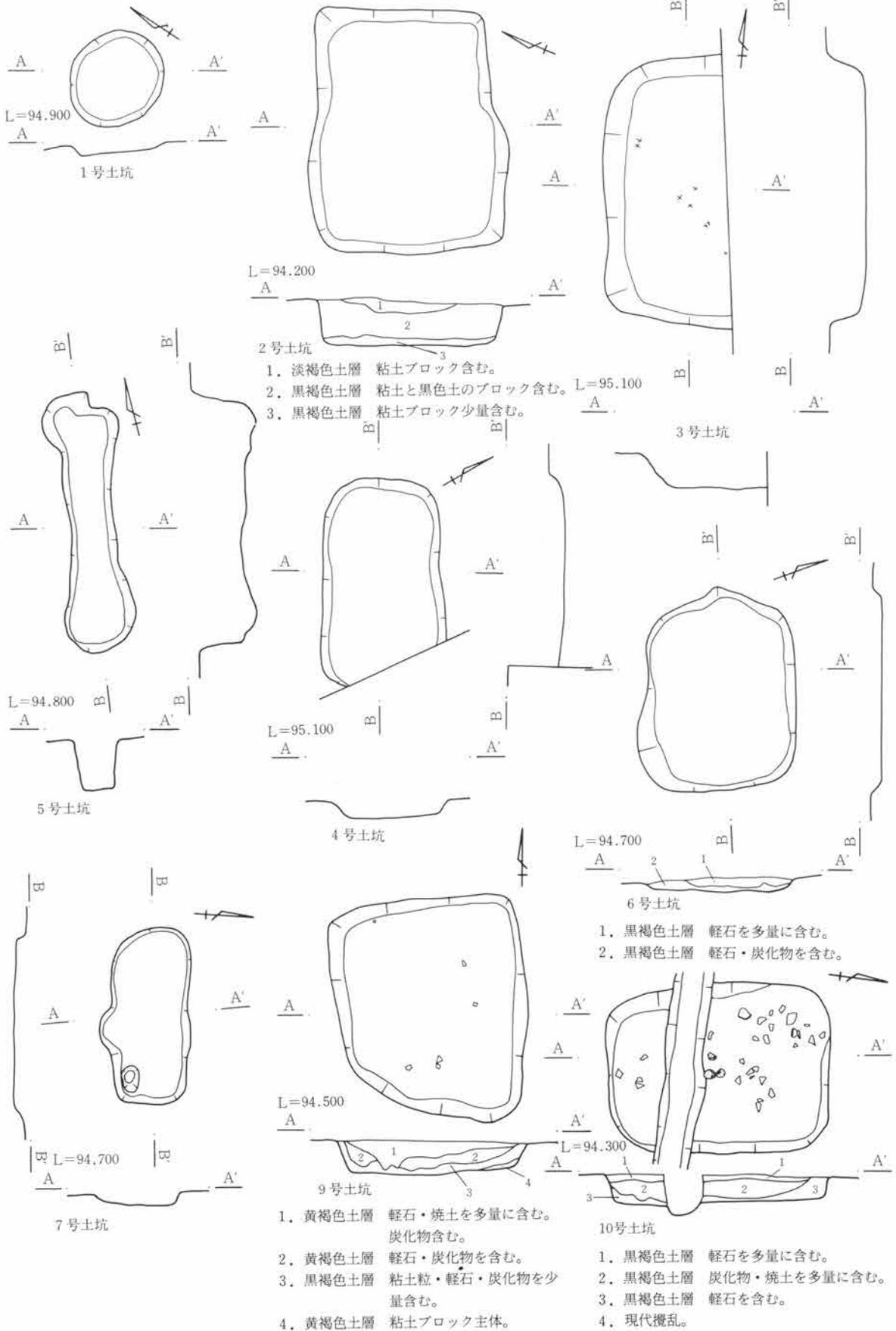
0 2m

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面



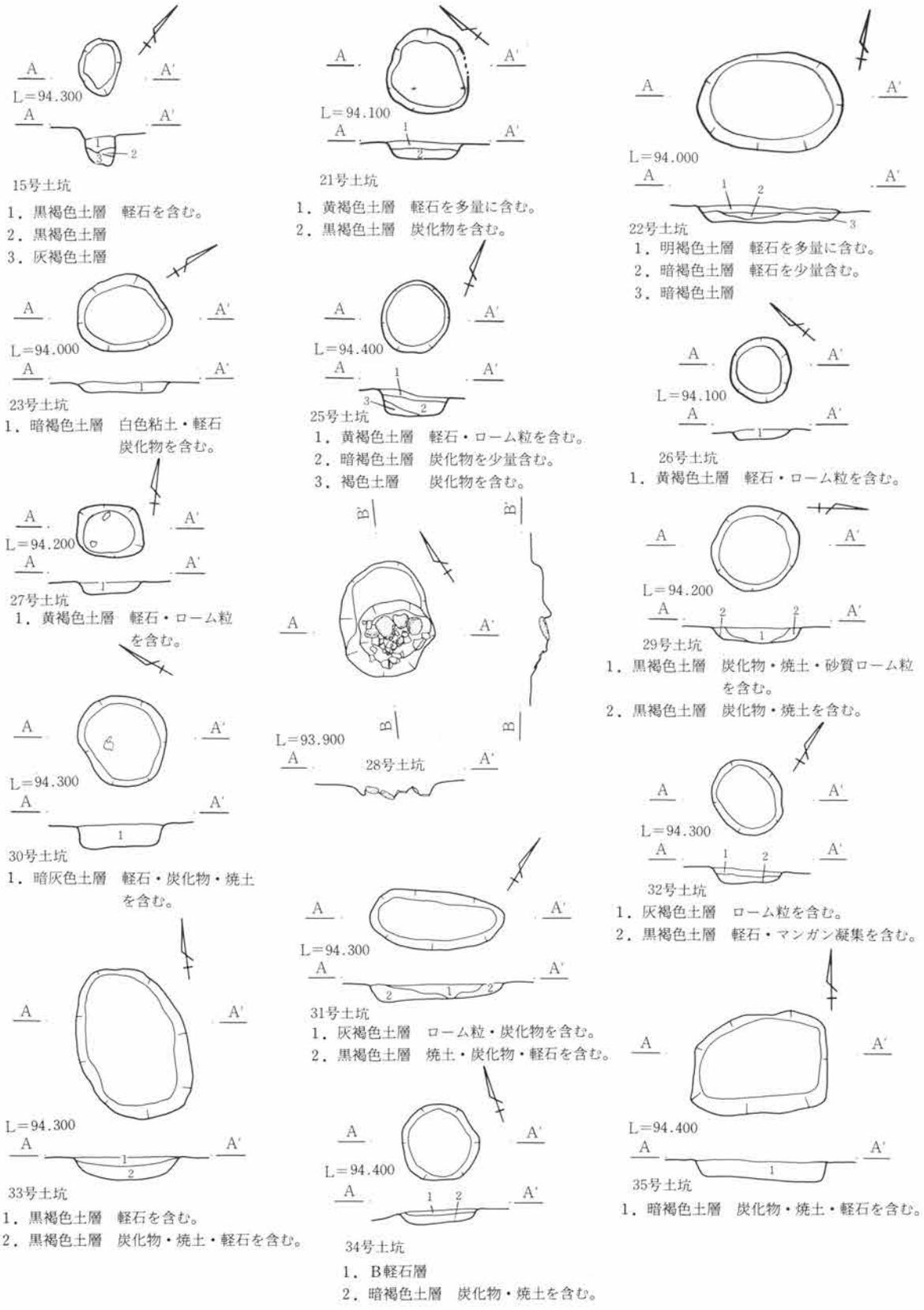
第245図 39号・41号・D-1号・D-2号井戸遺構図

5. 検出された遺構と遺物



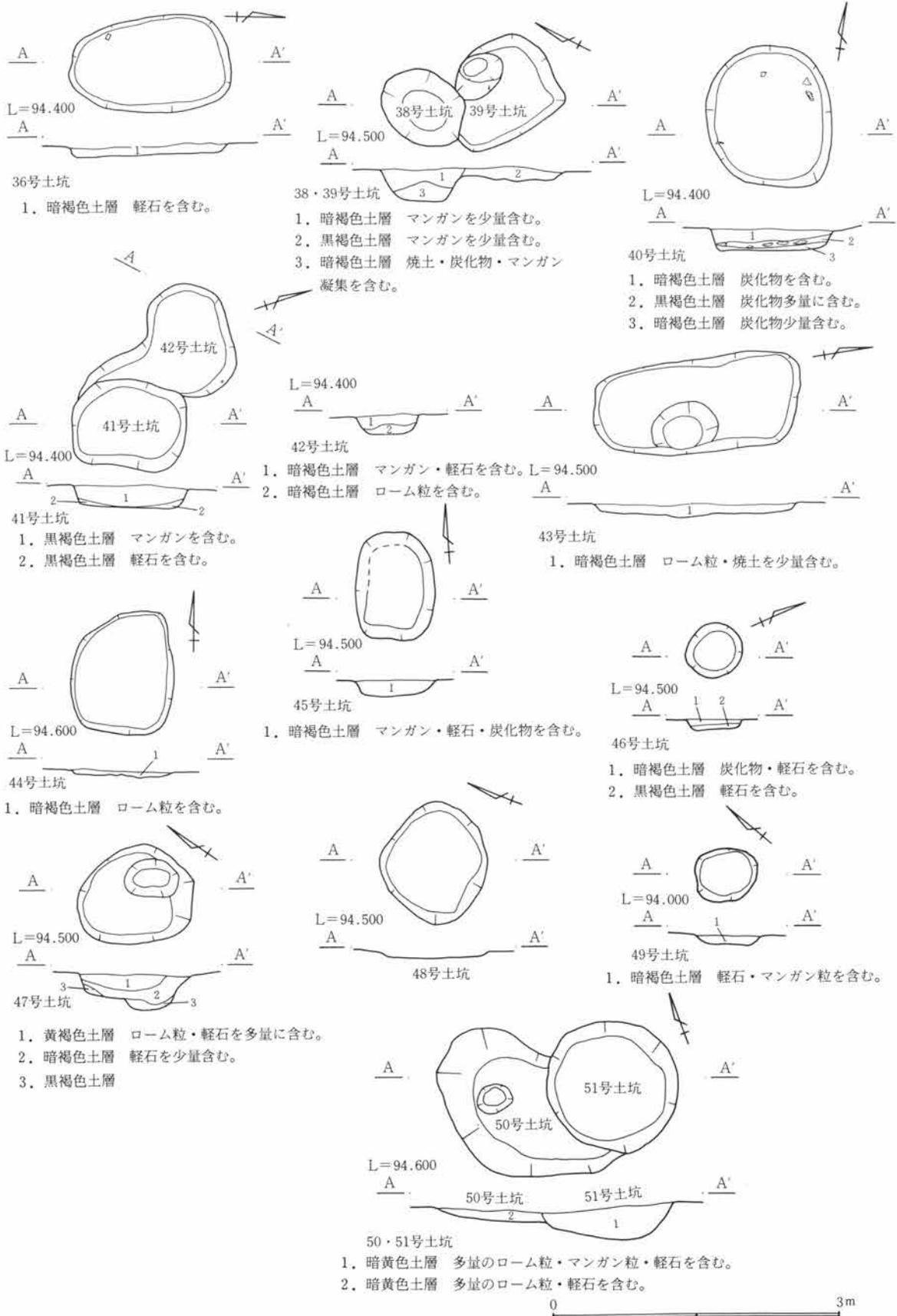
第246図 土坑遺構図(1)

0 3m



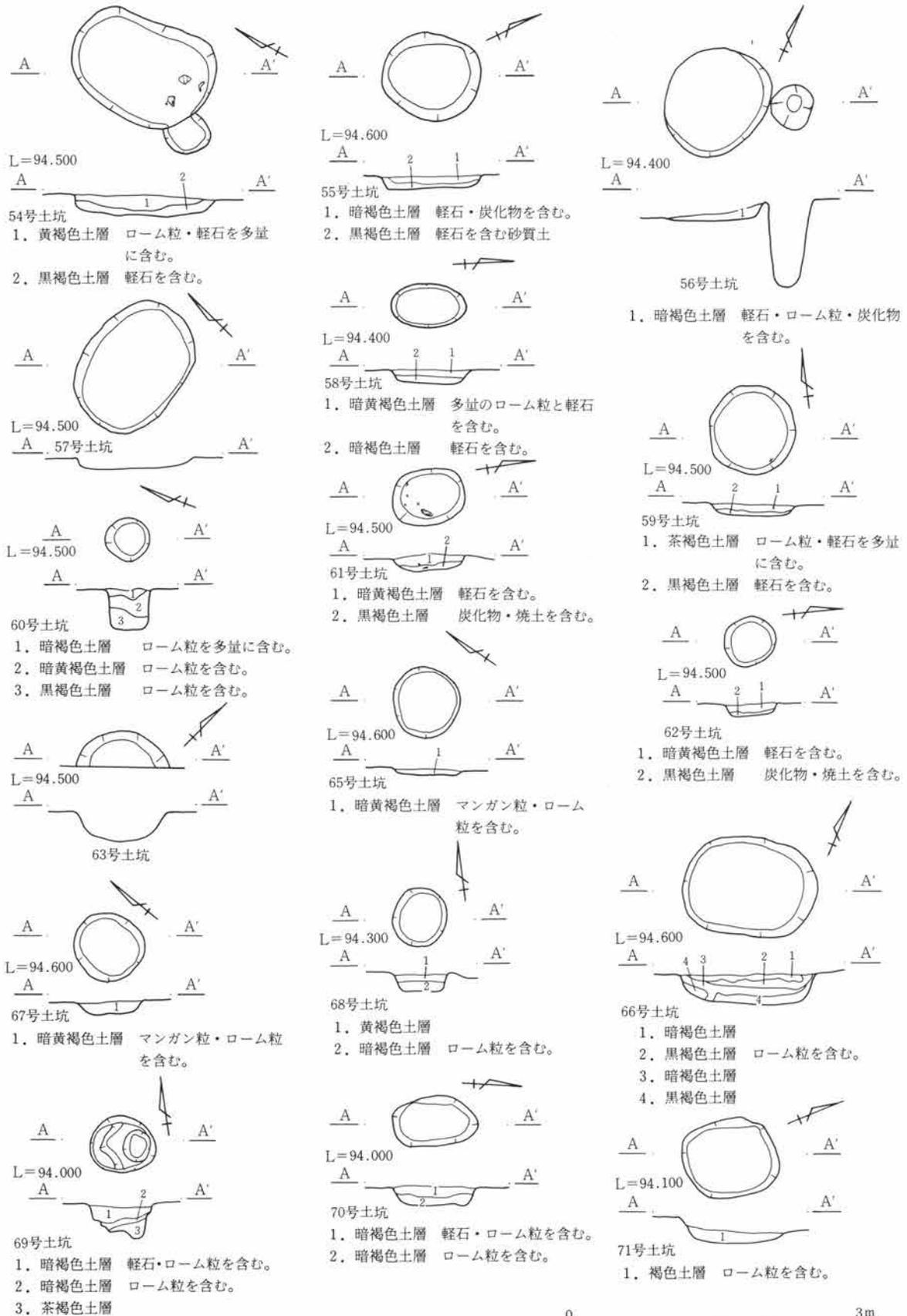
第247図 土坑遺構図(2)

5. 検出された遺構と遺物



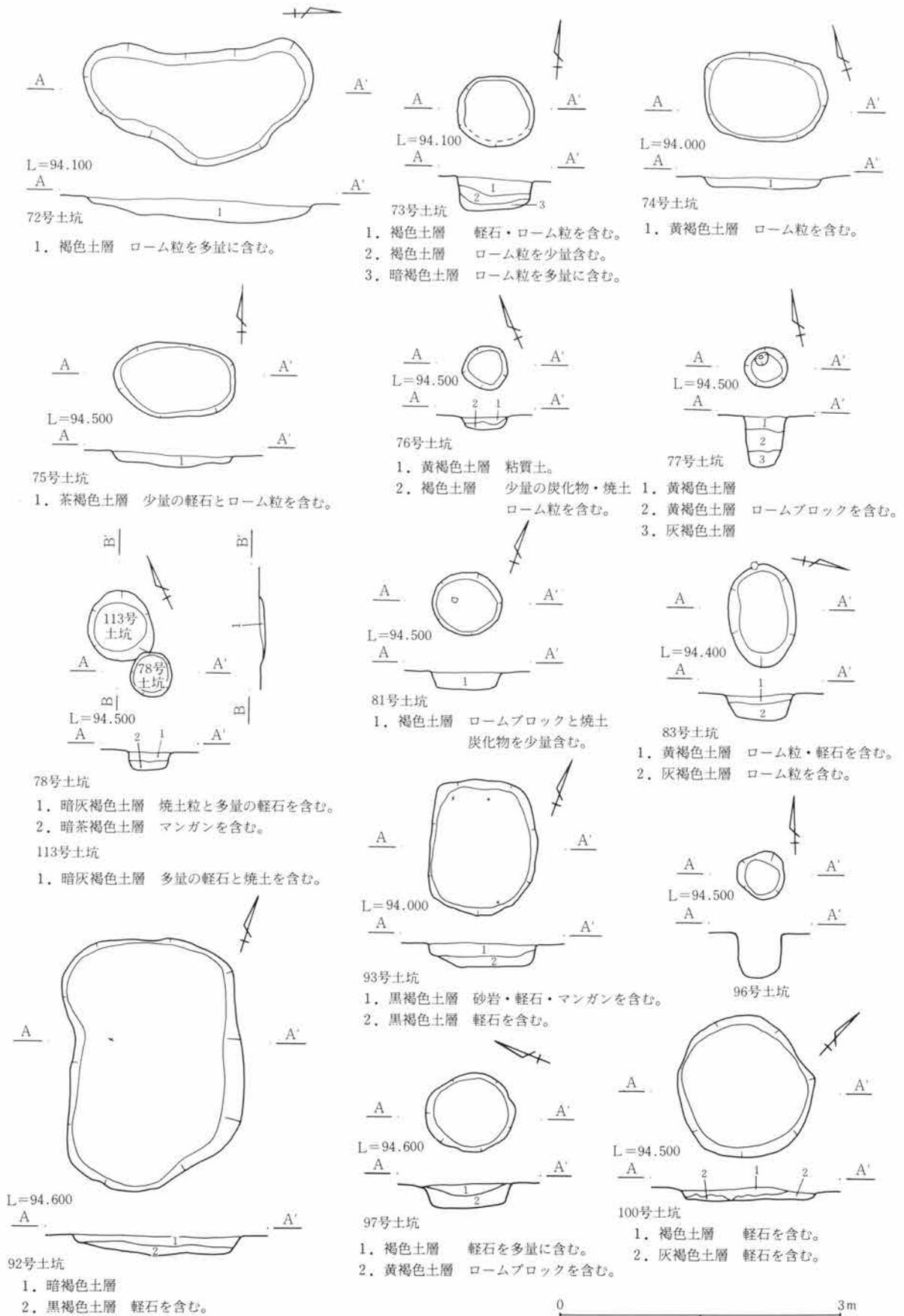
第248図 土坑遺構図(3)

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

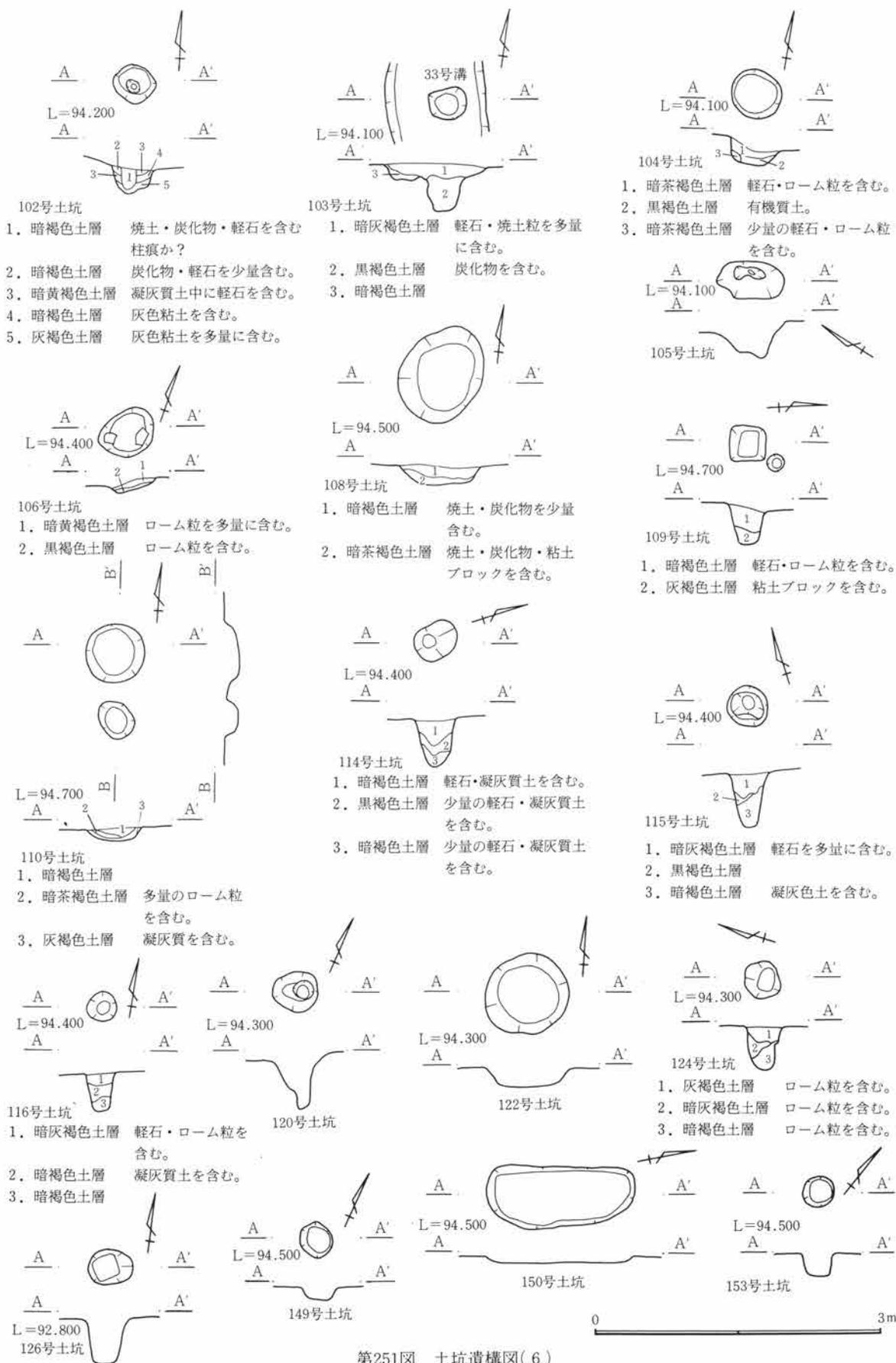


第249図 土坑遺構図(4)

5. 検出された遺構と遺物

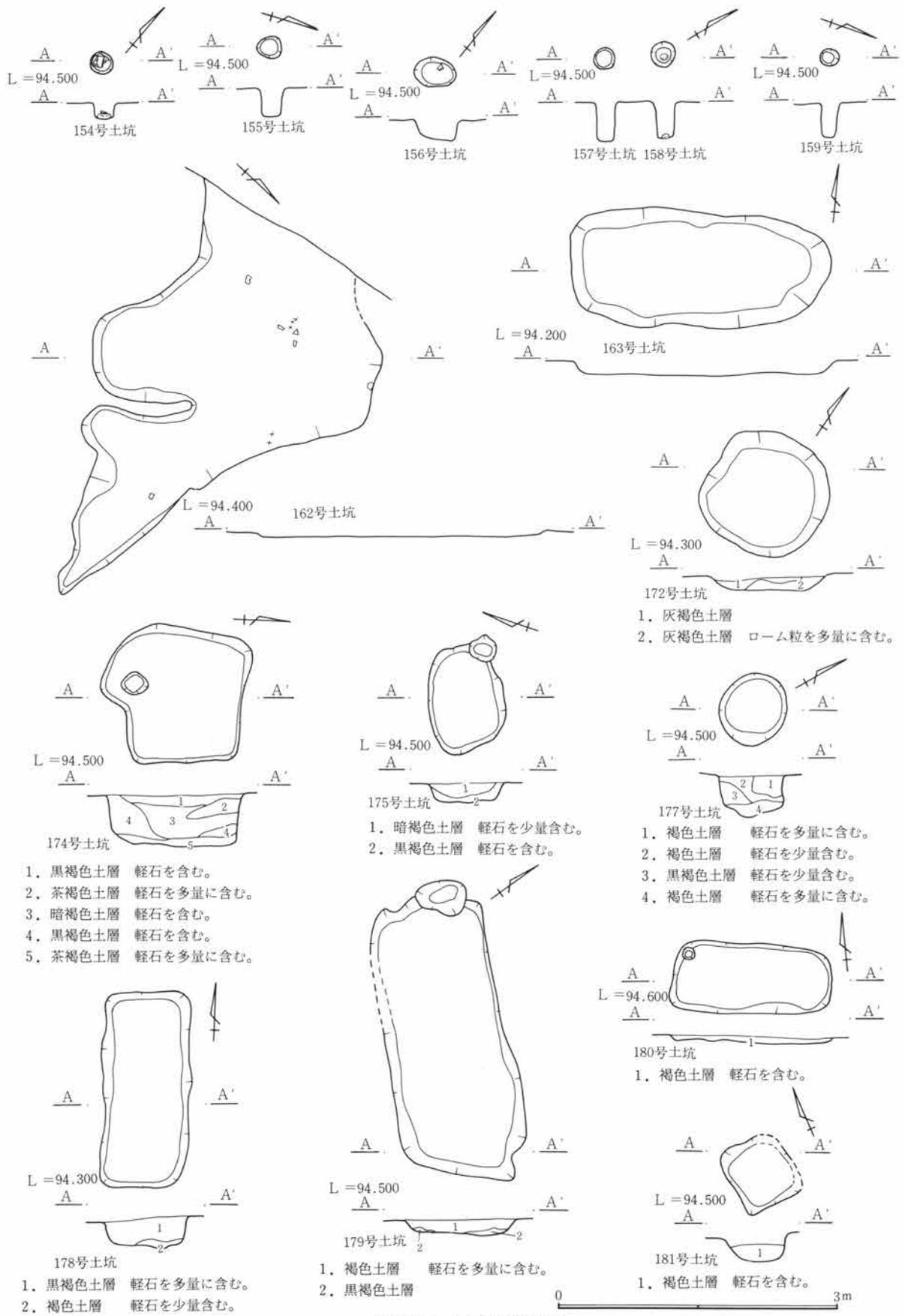


第250図 土坑遺構図(5)



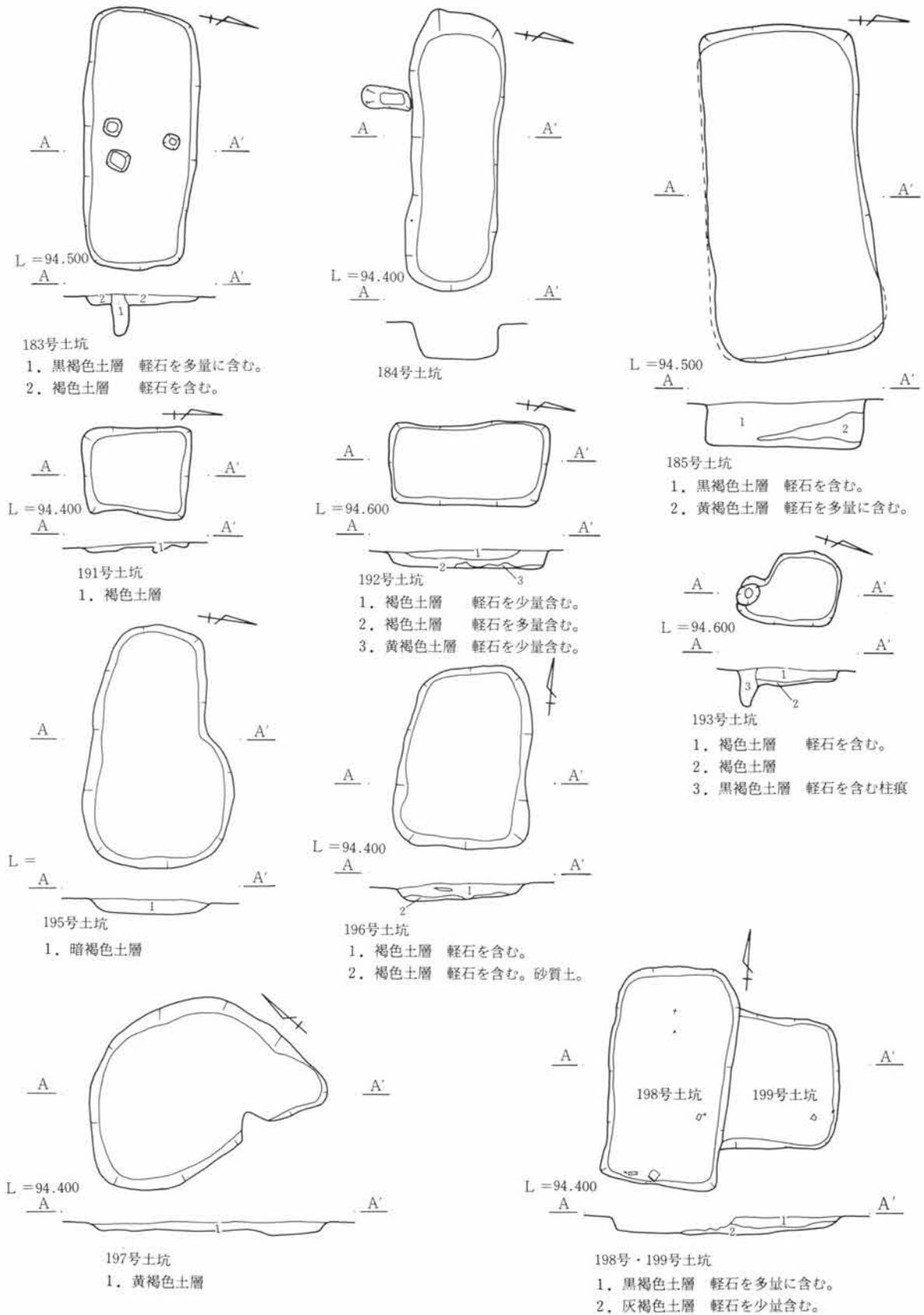
第251図 土坑遺構図(6)

5. 検出された遺構と遺物



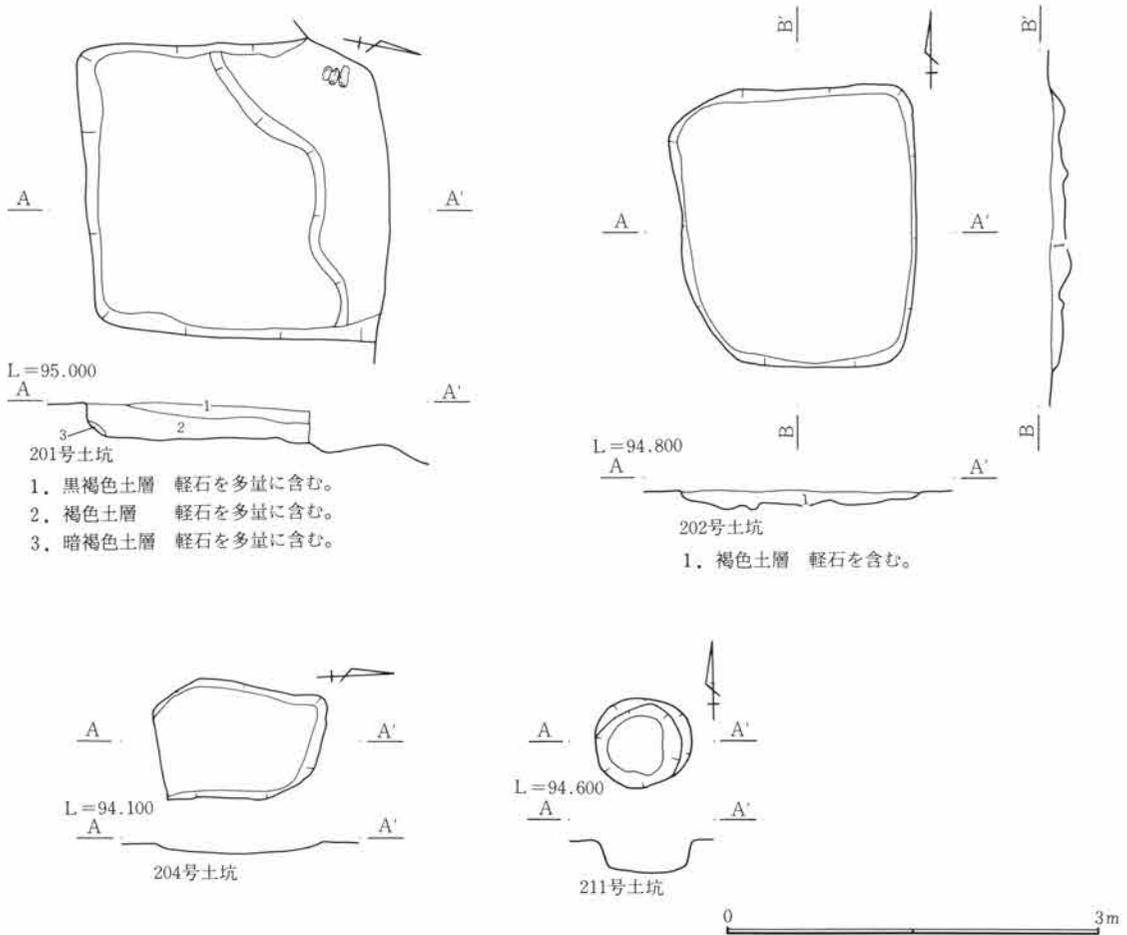
第252図 土坑遺構図(7)

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

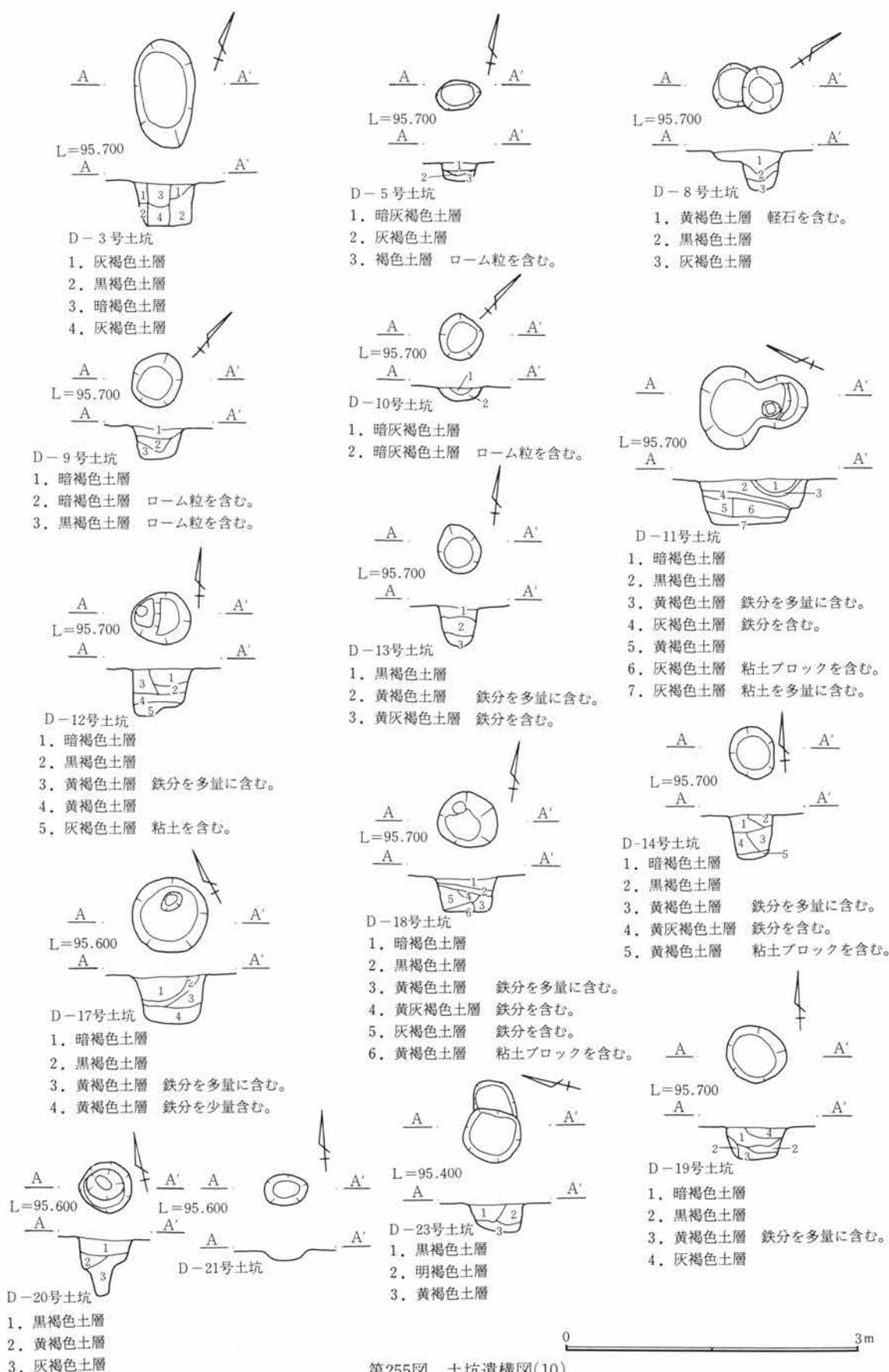


第253図 土坑遺構図(8)

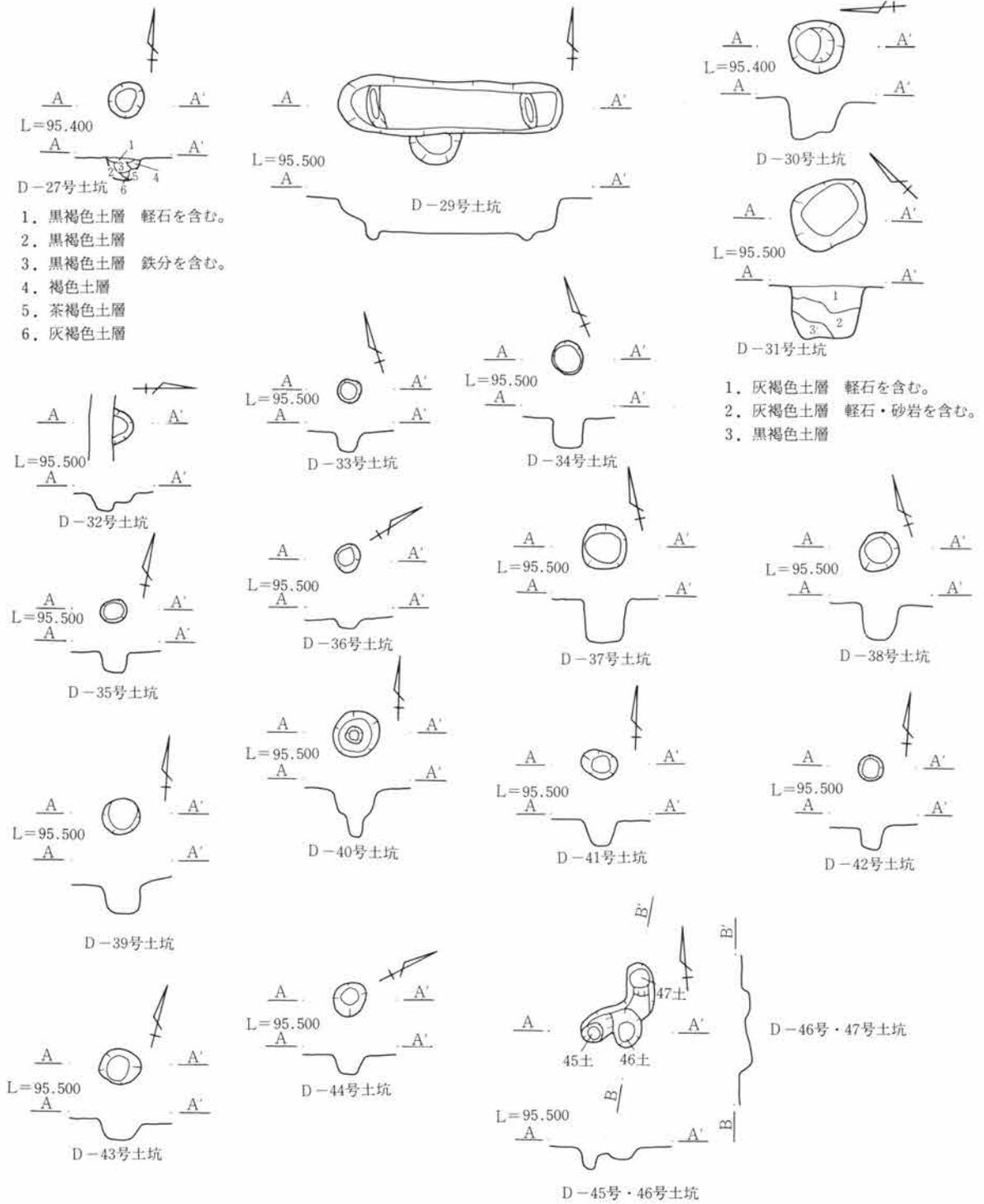
5. 検出された遺構と遺物



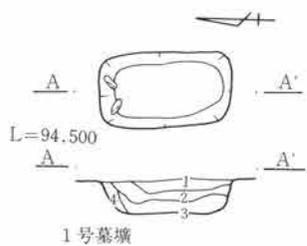
第254図 土坑遺構図(9)



5. 検出された遺構と遺物



第256図 土坑遺構図(11)

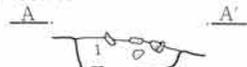


1号墓墳

1. 褐色土層 灰を含む。
2. 褐色土層 軽石・炭化物を含む。
3. 褐色土層 多量の炭化物を含む。
4. 褐色土層

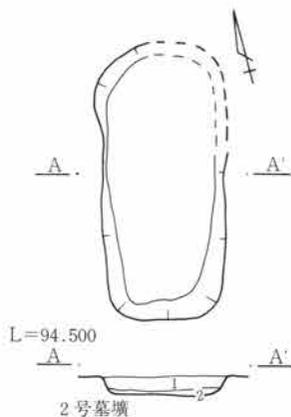


L=94.700



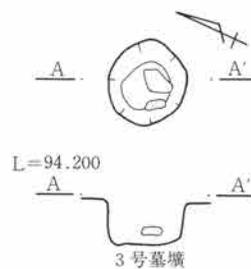
4号墓墳

1. 黒褐色土層 炭化物を含む。



2号墓墳

1. 褐色土層 軽石を少量含む。
2. 暗褐色土層

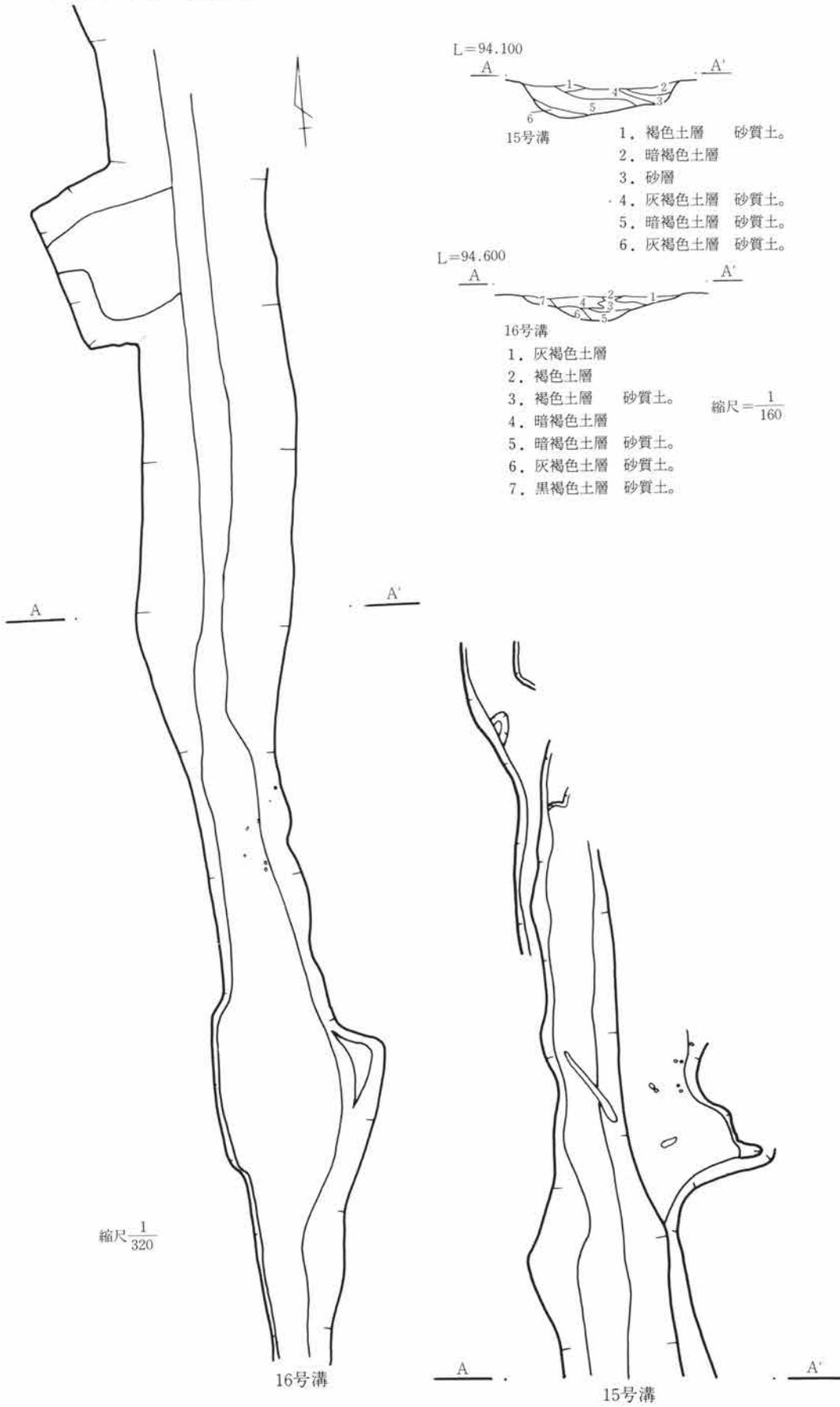


3号墓墳



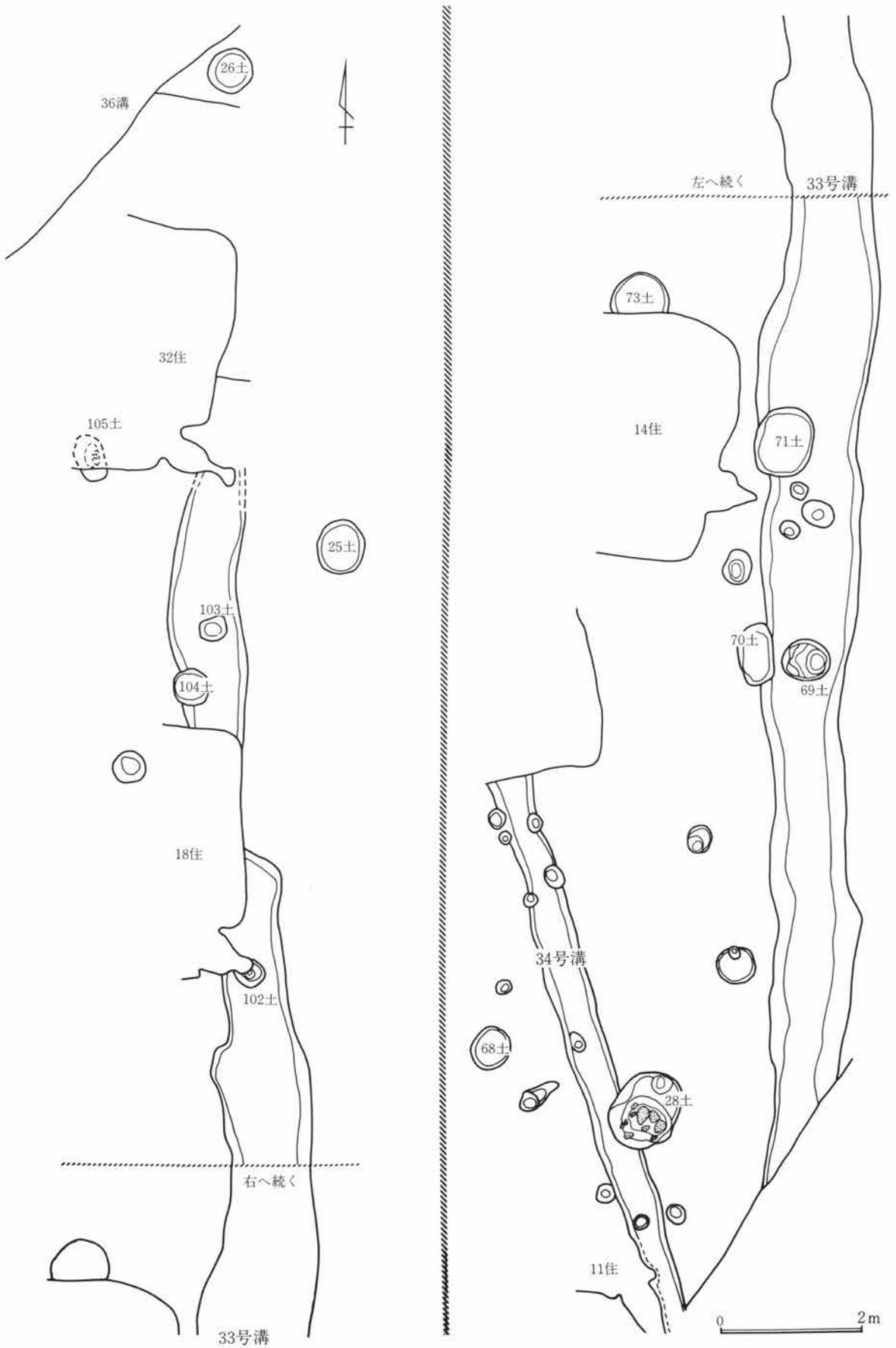
第257図 墓墳遺構図

5. 検出された遺構と遺物



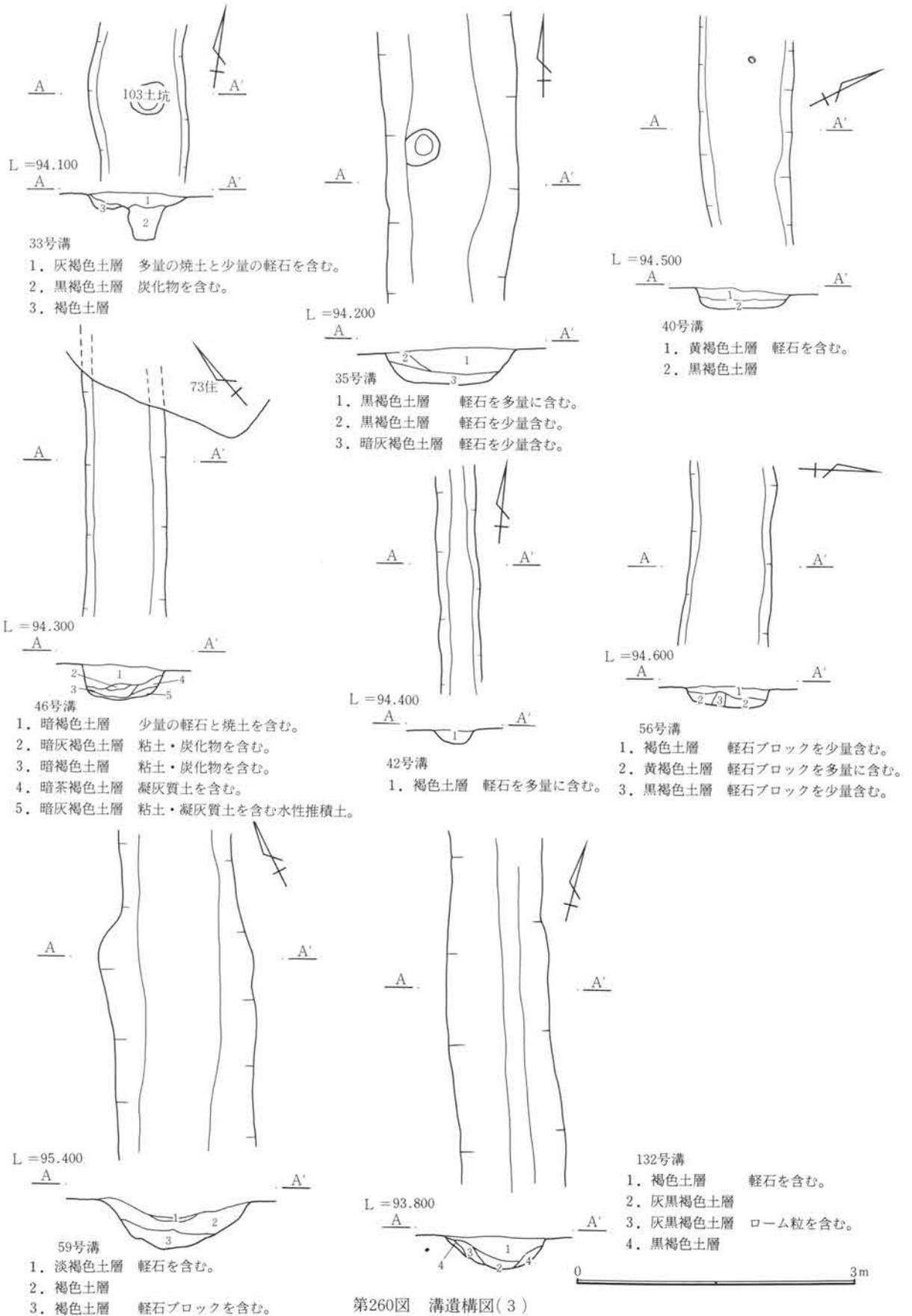
第258図 溝遺構図(1)

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

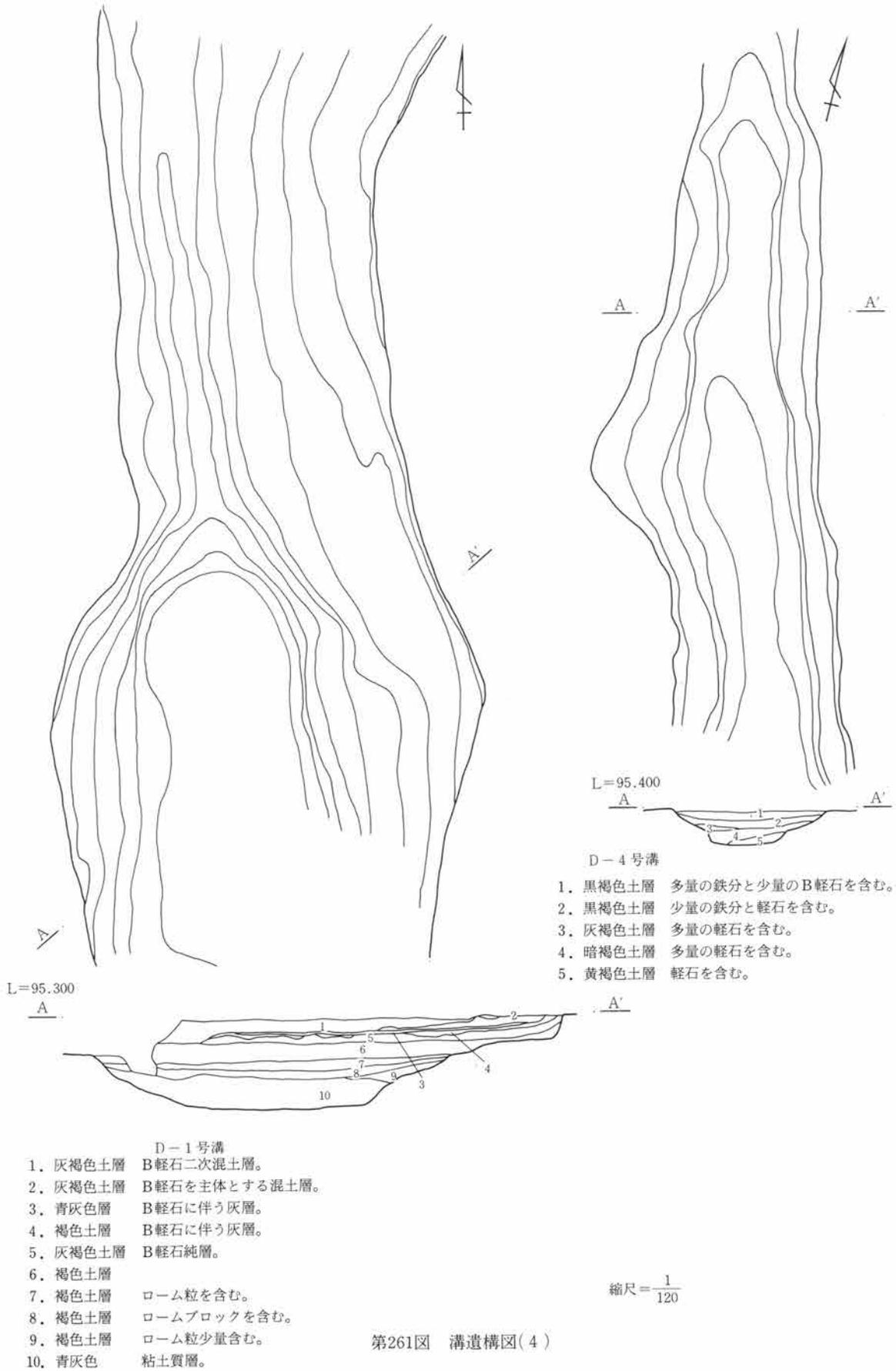


第259図 33号・34号溝遺構図(2)

5. 検出された遺構と遺物

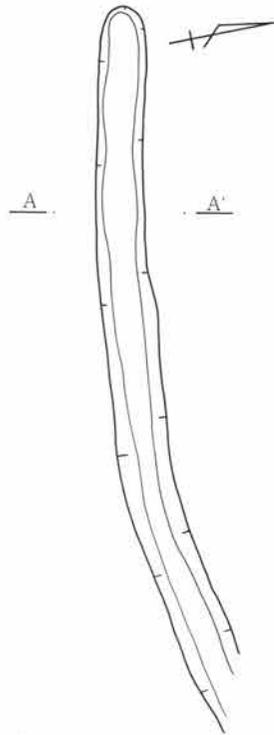
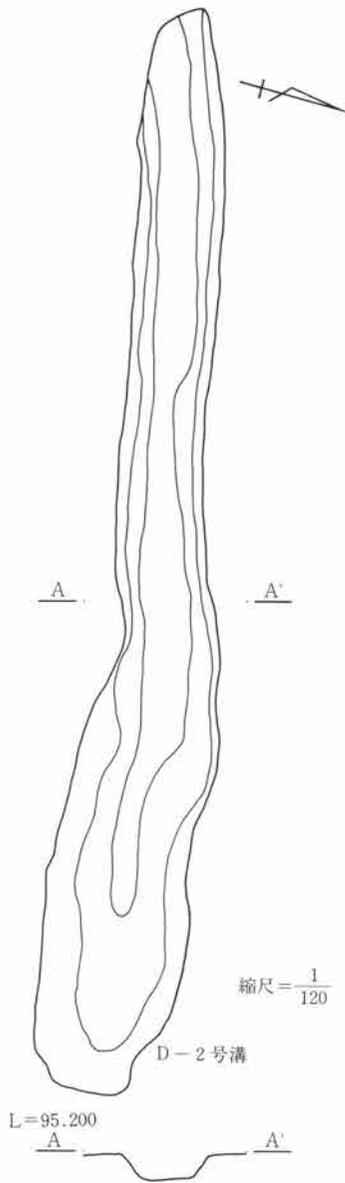


第260図 溝遺構図(3)

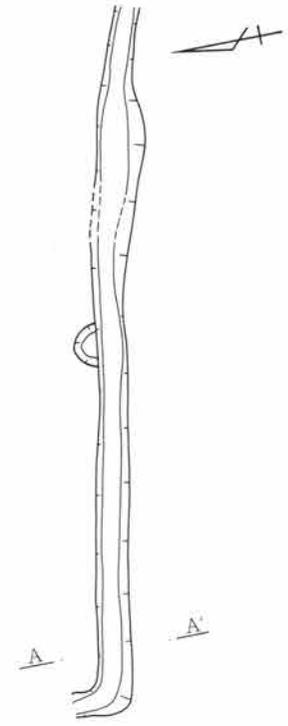


第261図 溝遺構図(4)

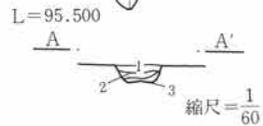
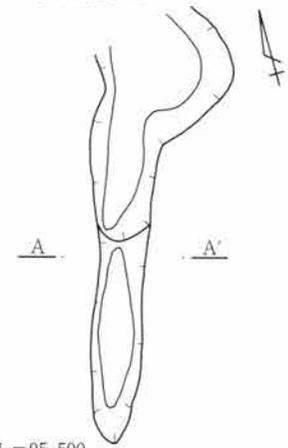
5. 検出された遺構と遺物



1. 暗褐色土層
2. 灰褐色土層
3. 黄褐色土層 軽石を含む。
4. 黒褐色土層

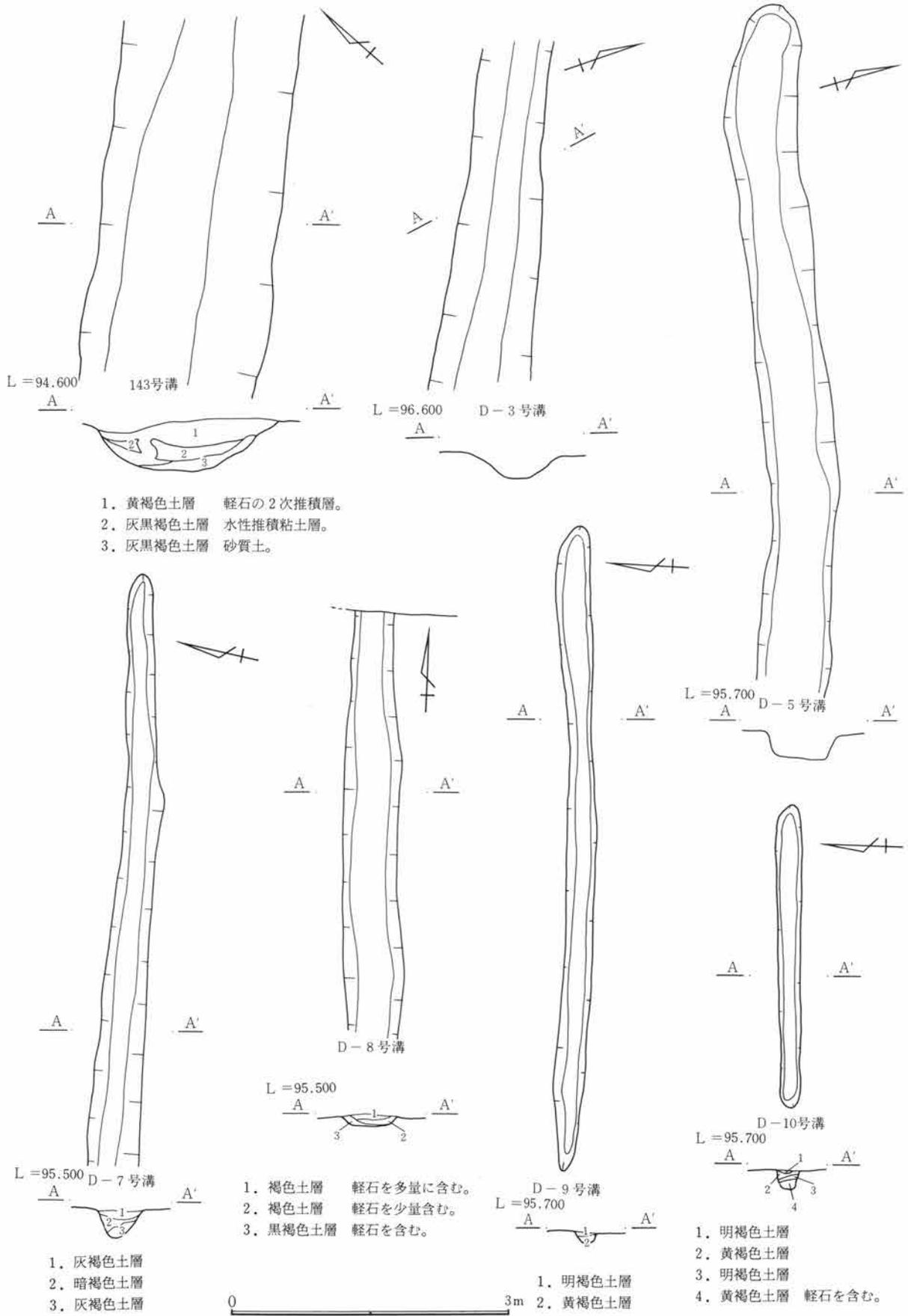


1. 明褐色土層 ローム粒を含む。
  2. 明褐色土層
  3. 暗褐色土層 粘土を含む。
  4. 灰褐色土層
- 縮尺=1/60



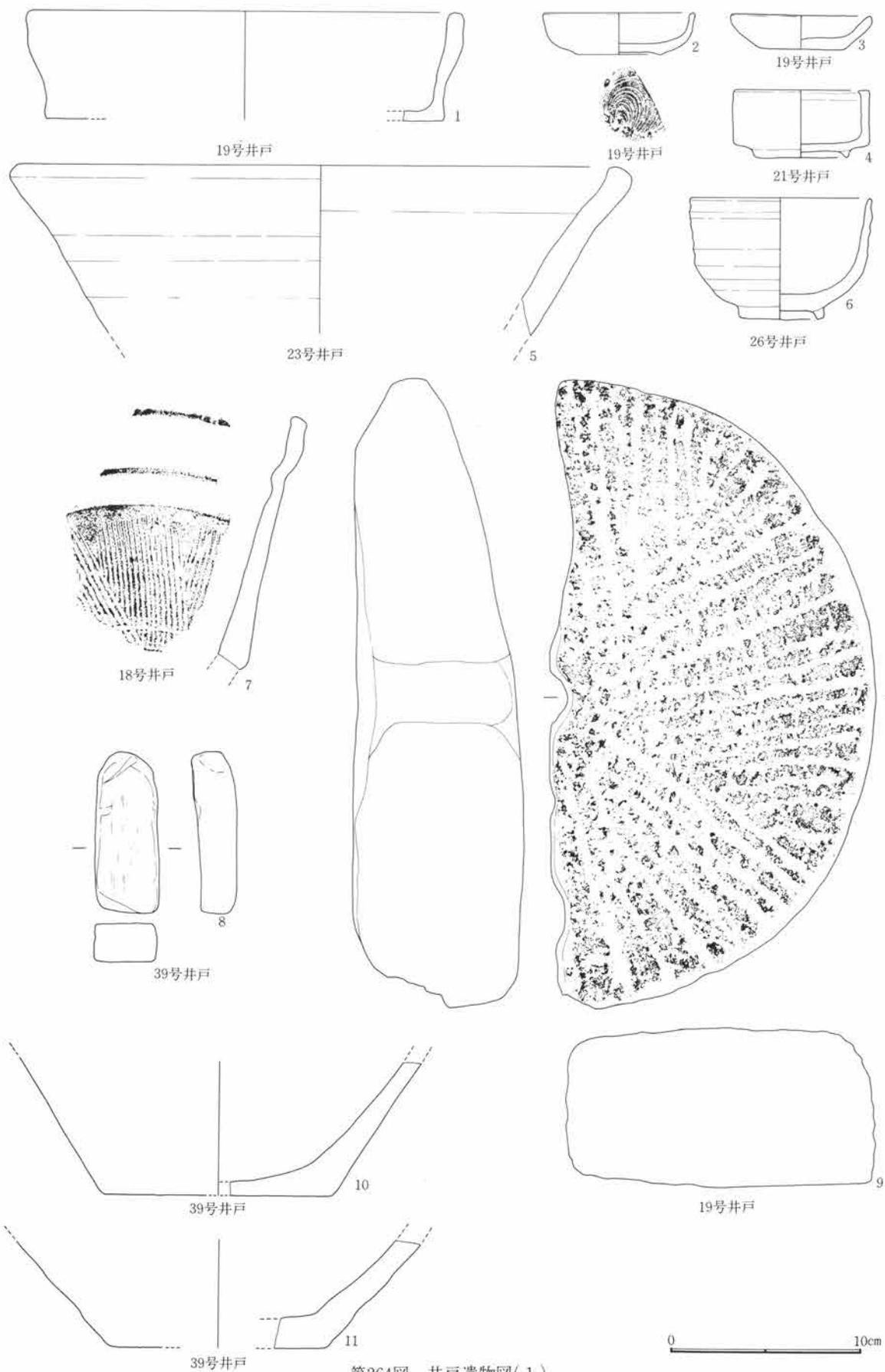
1. 茶褐色土層 軽石を含む。
  2. 暗褐色土層 軽石を少量含む。
  3. 黒灰褐色土層 軽石を少量含む。
- 縮尺=1/60

第262図 溝遺構図(5)



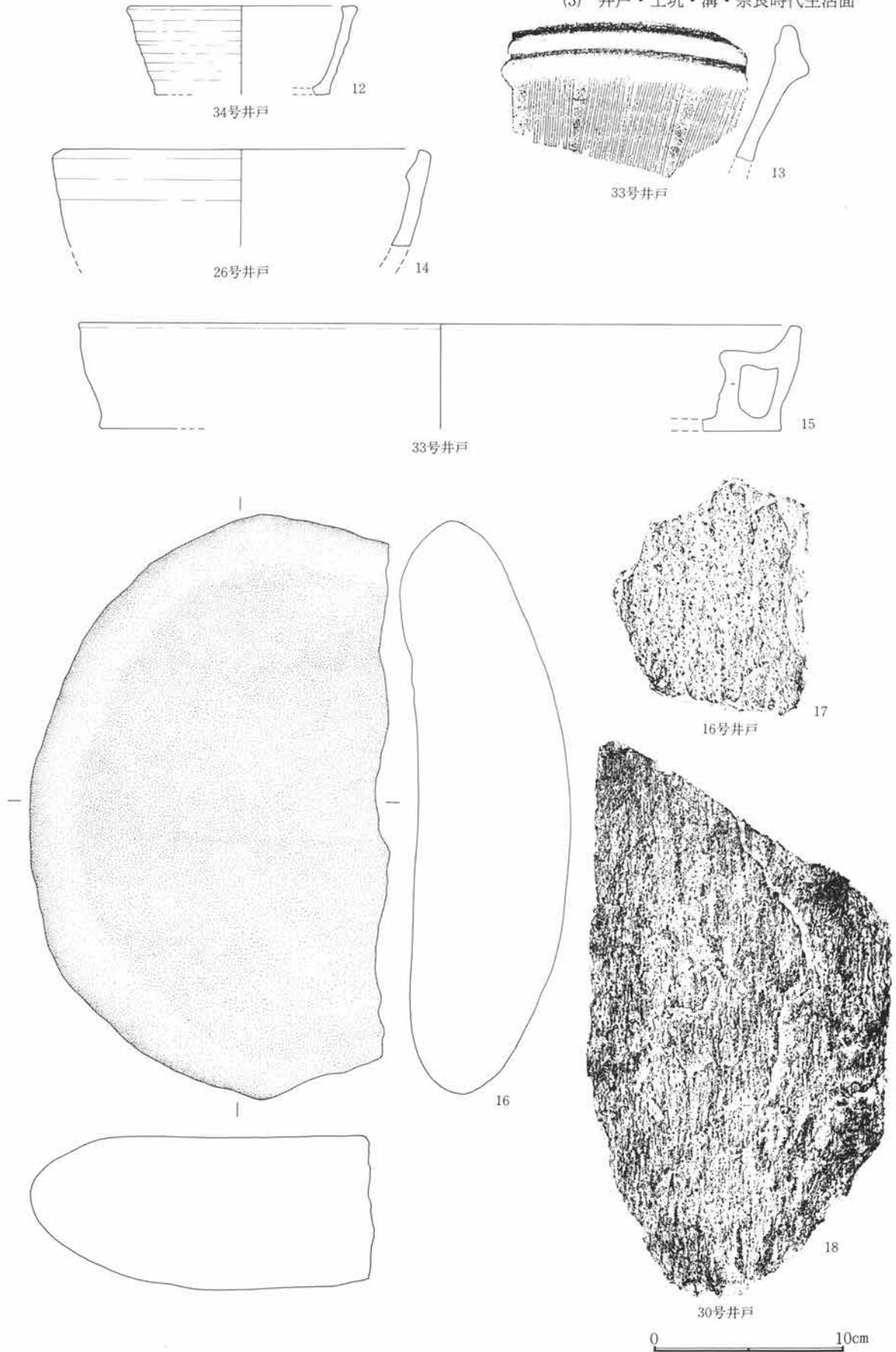
第263図 溝遺構図(6)

5. 検出された遺構と遺物



第264図 井戸遺物図(1)

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面



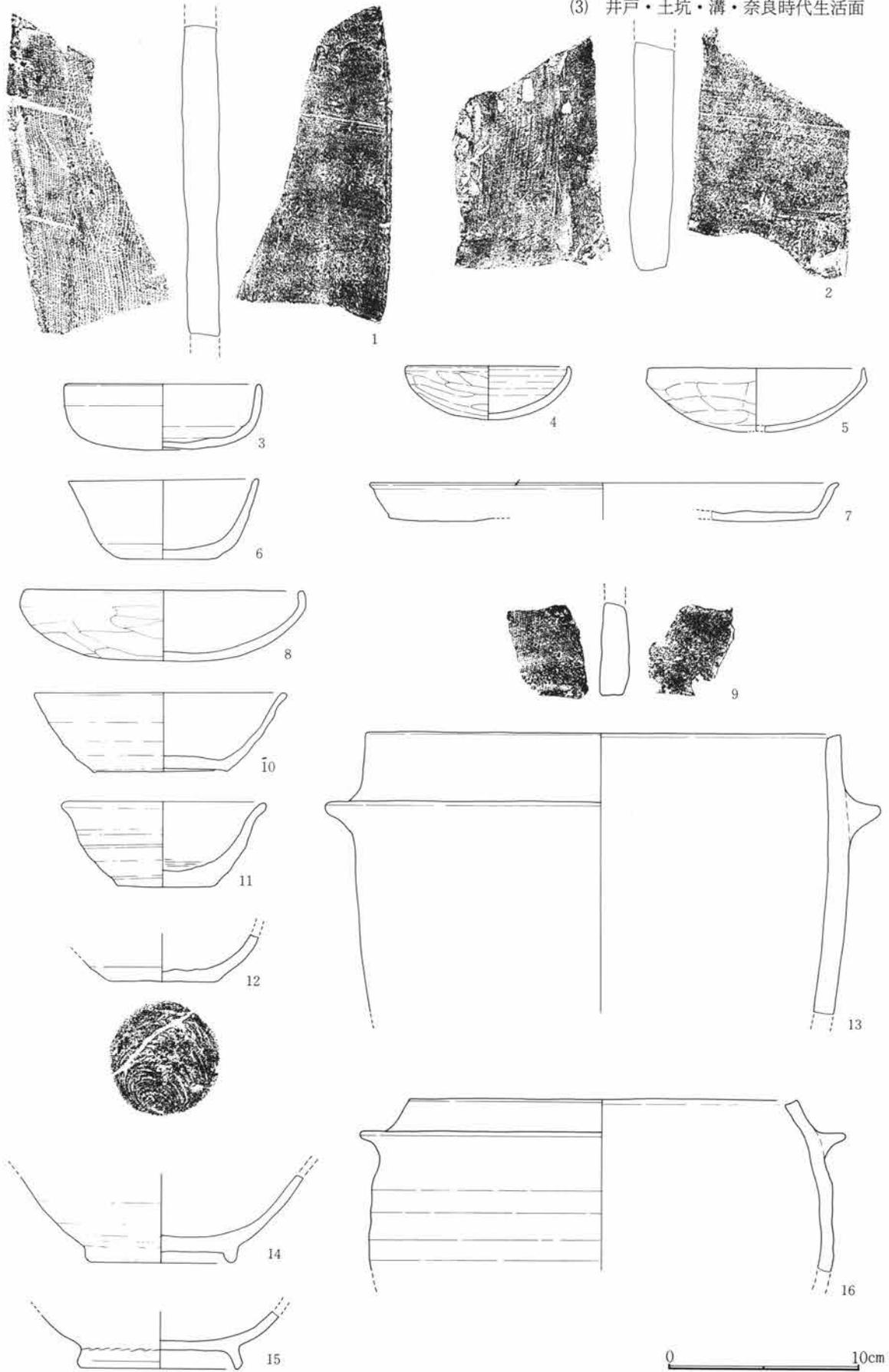
第265図 井戸遺物図

5. 検出された遺構と遺物



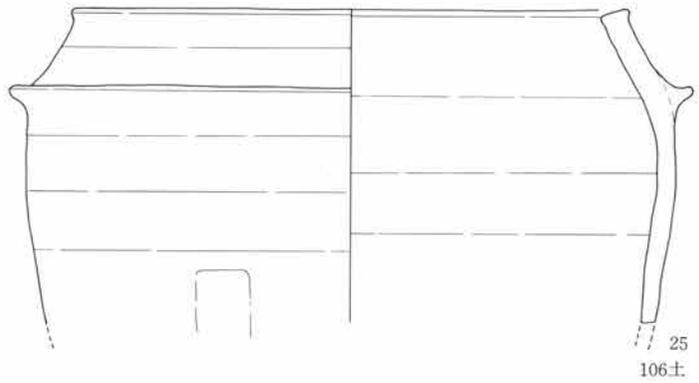
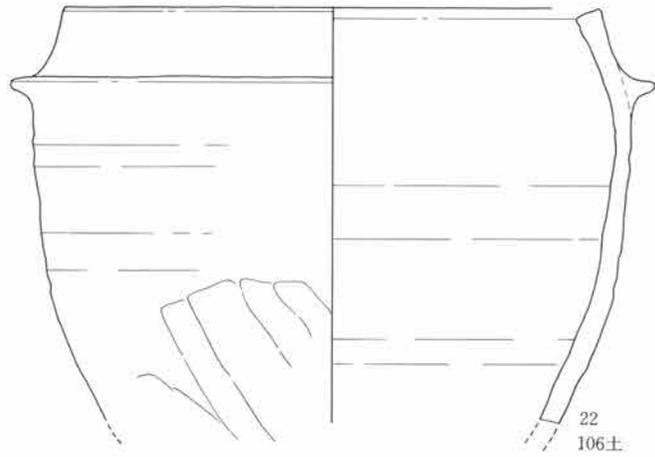
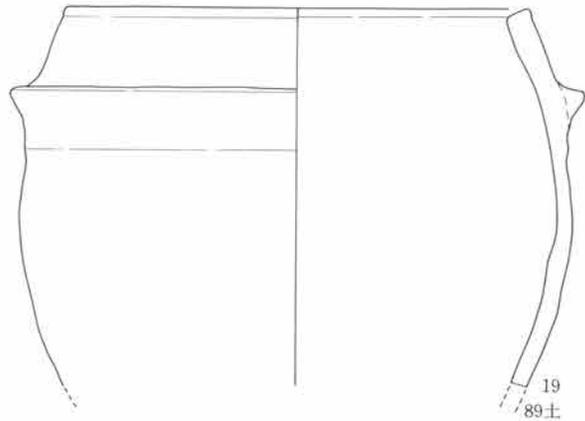
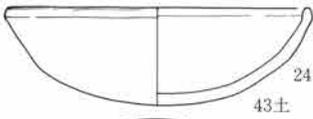
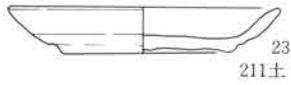
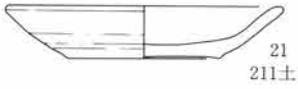
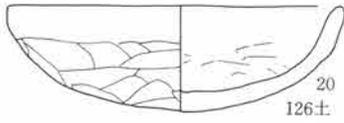
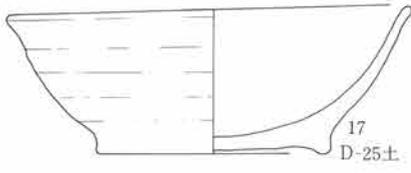
第266図 井戸遺物図(3)

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

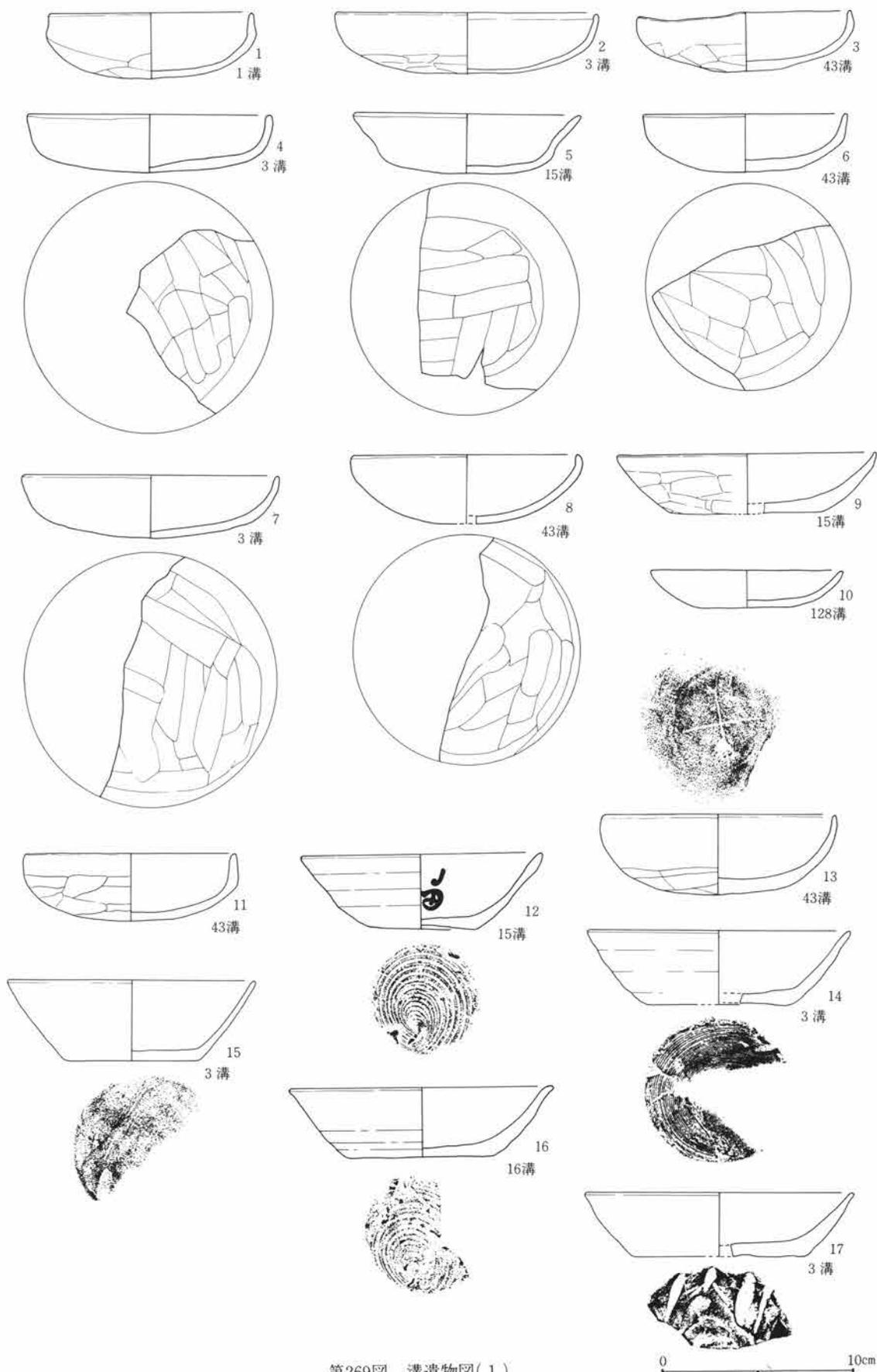


第267図 土坑遺物図(1)

5. 検出された遺構と遺物

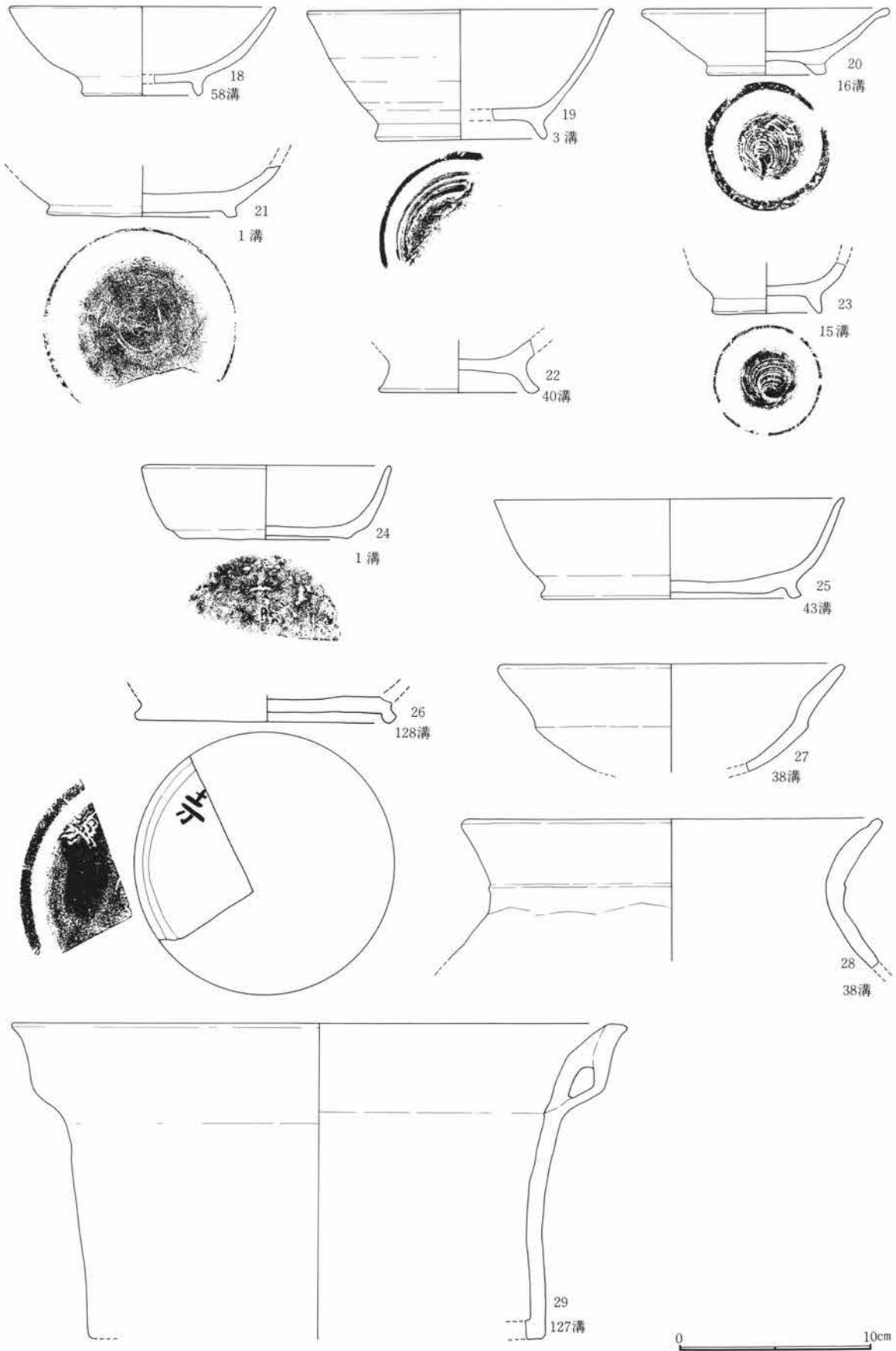


第268図 土坑遺物図(2)

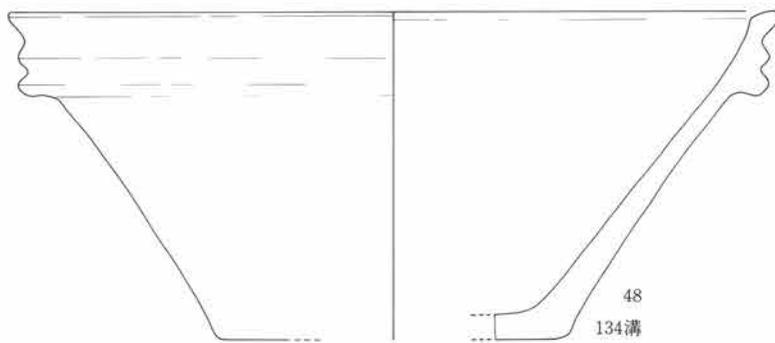
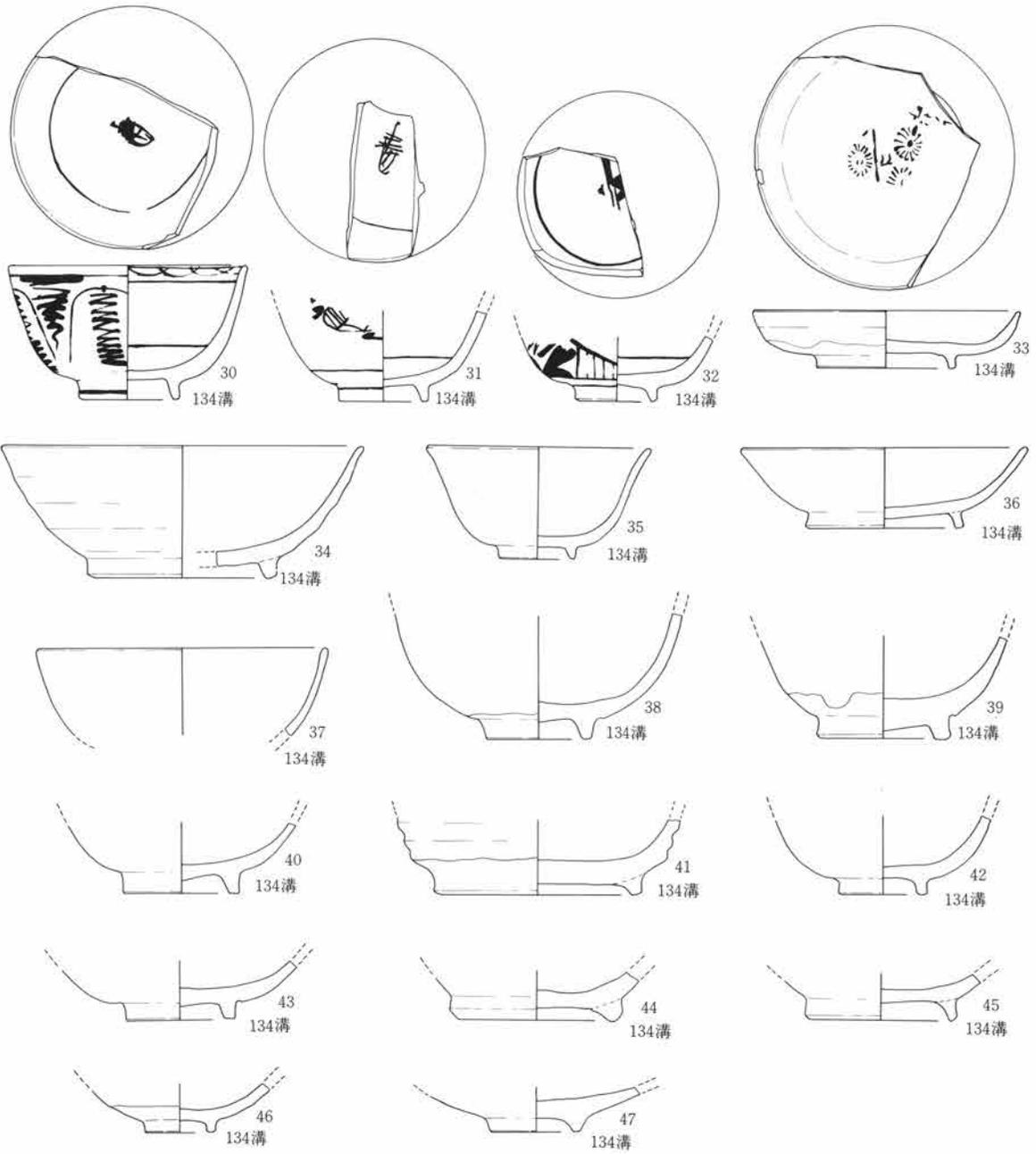


第269図 溝遺物図(1)

5. 検出された遺構と遺物



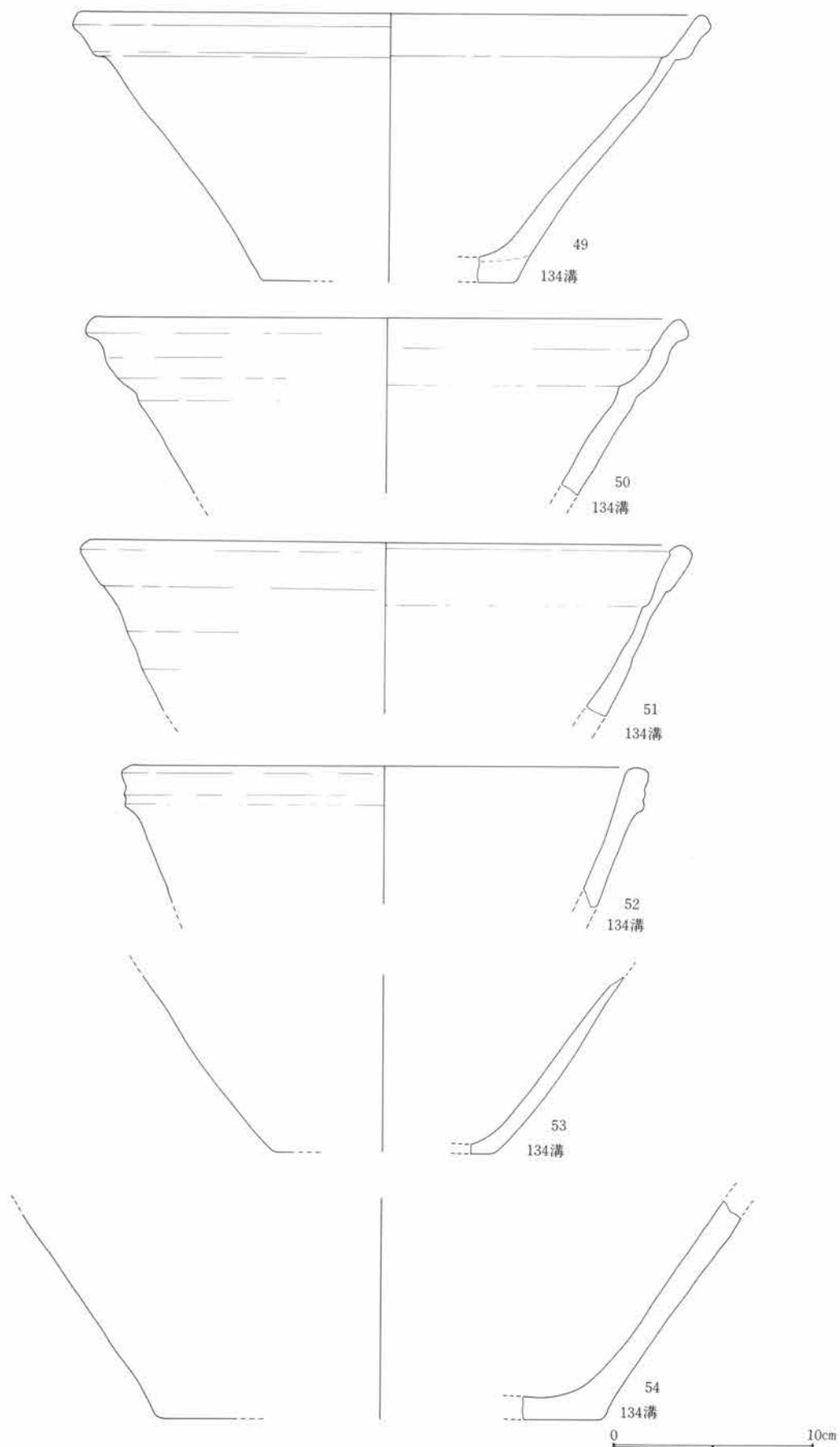
第270図 溝遺物図(2)



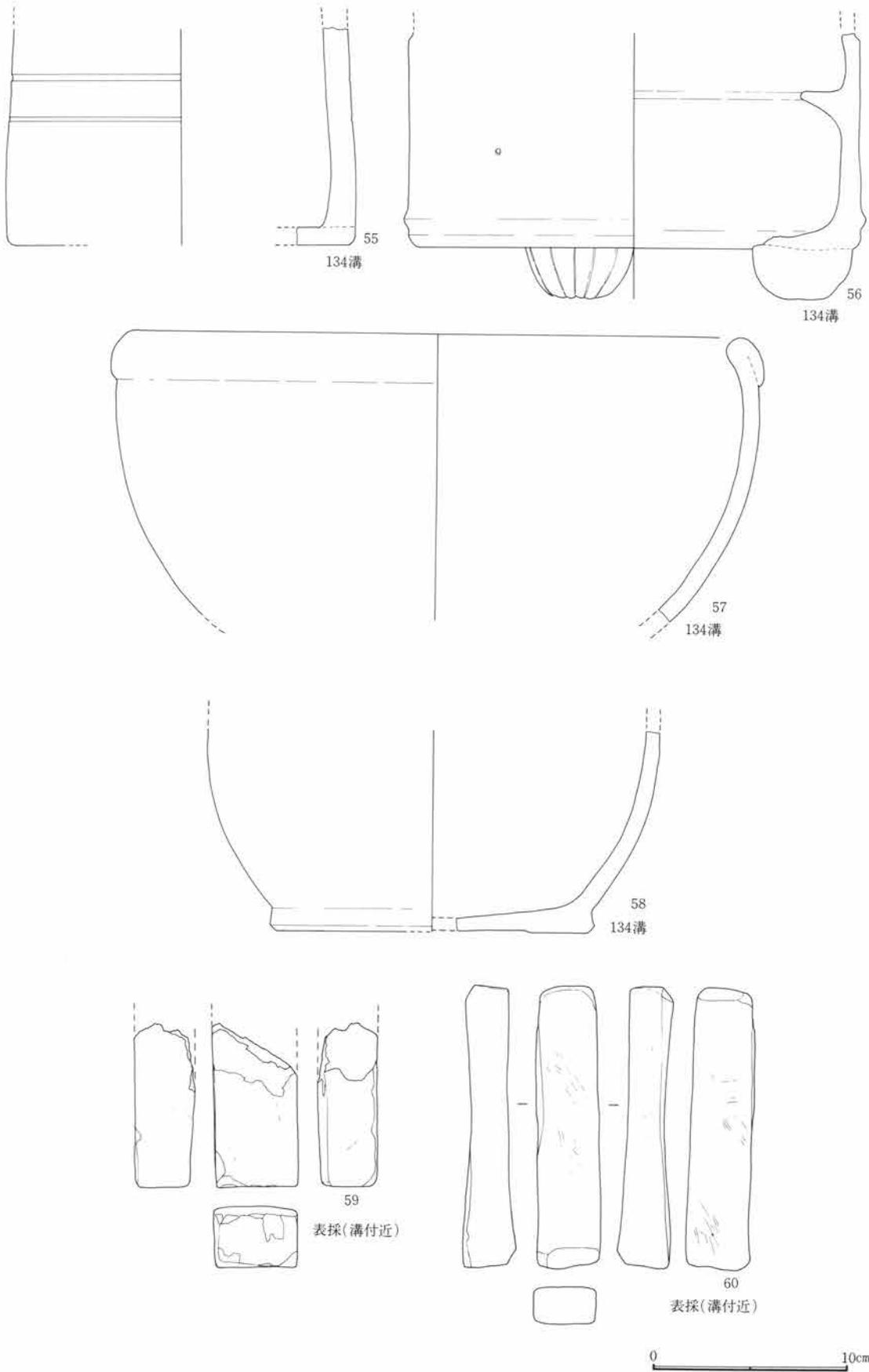
0 10cm

第271図 溝遺物図(3)(陶磁器)

5. 検出された遺構と遺物

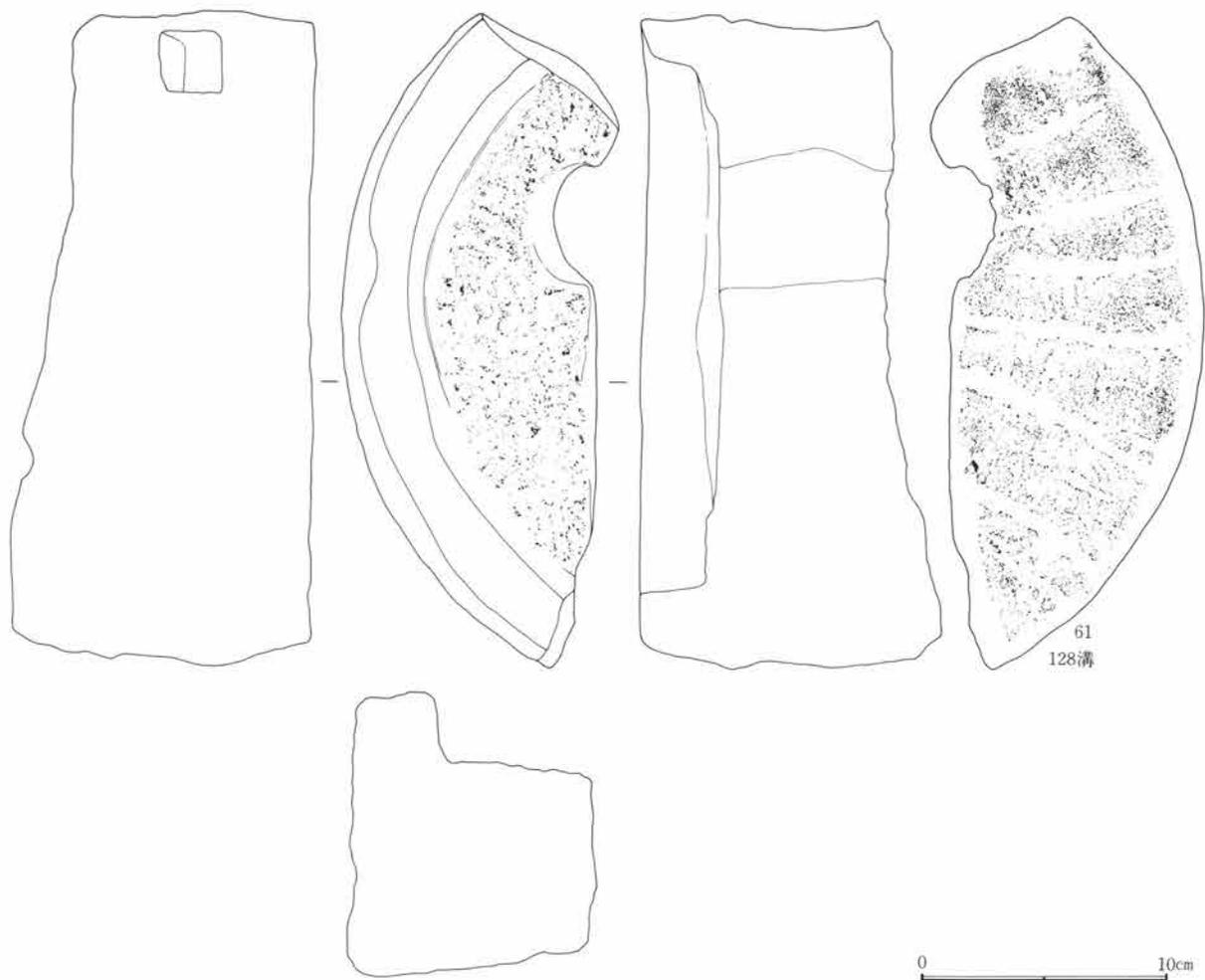


(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

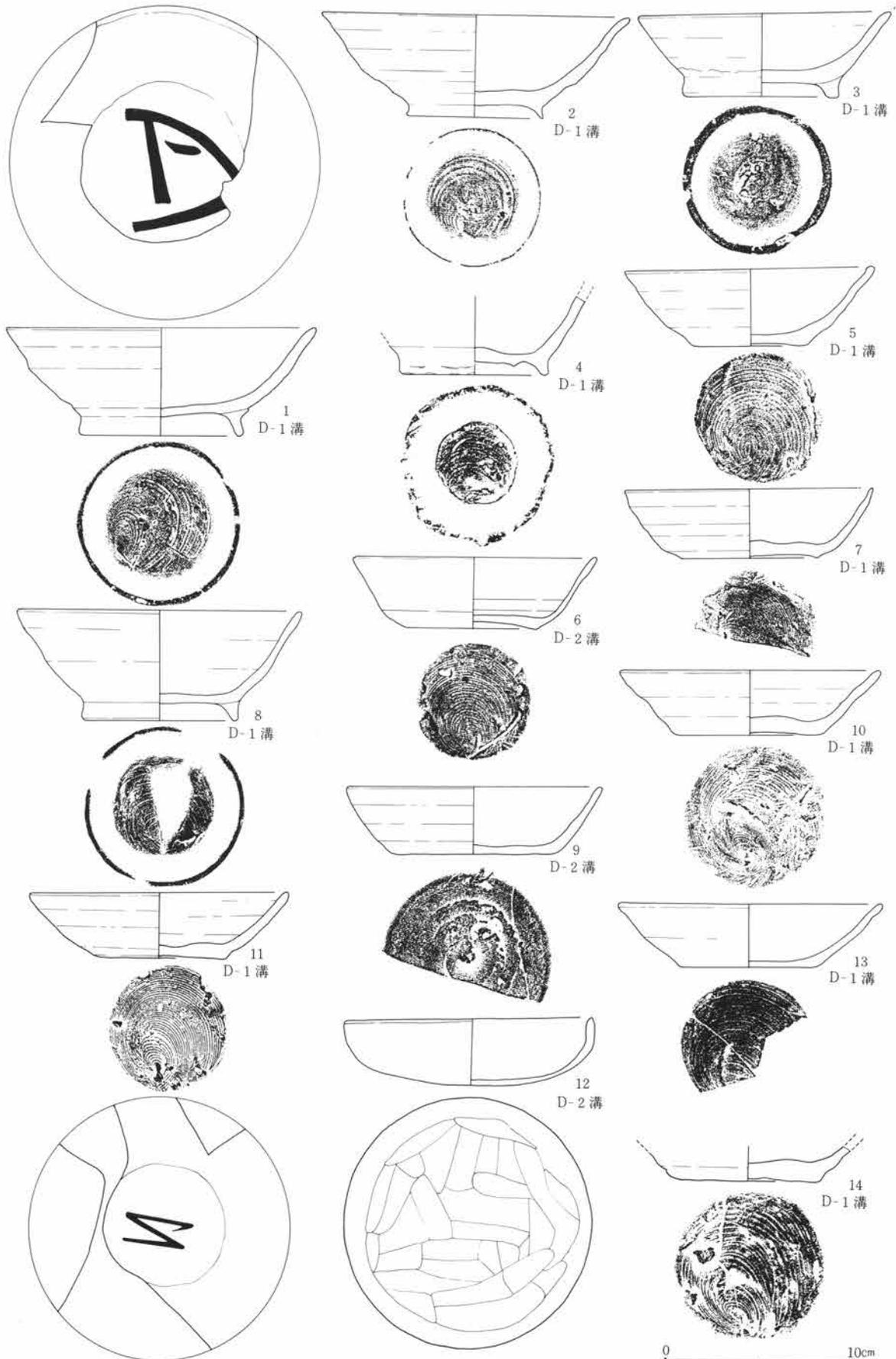


第273図 溝遺物区(5)

5. 検出された遺構と遺物

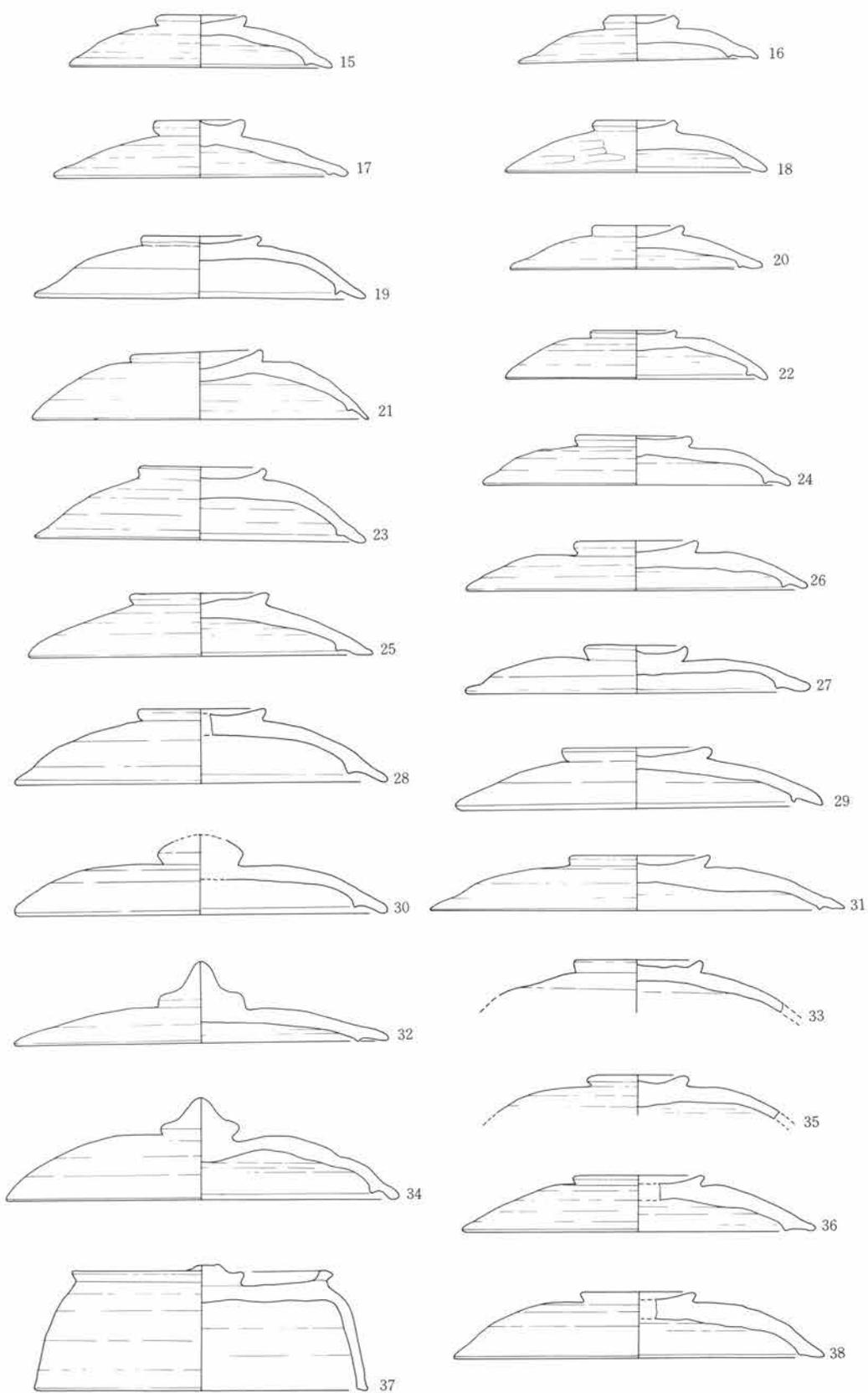


第274図 溝遺物図(6)



第275図 D-1号・D-2号溝遺物図

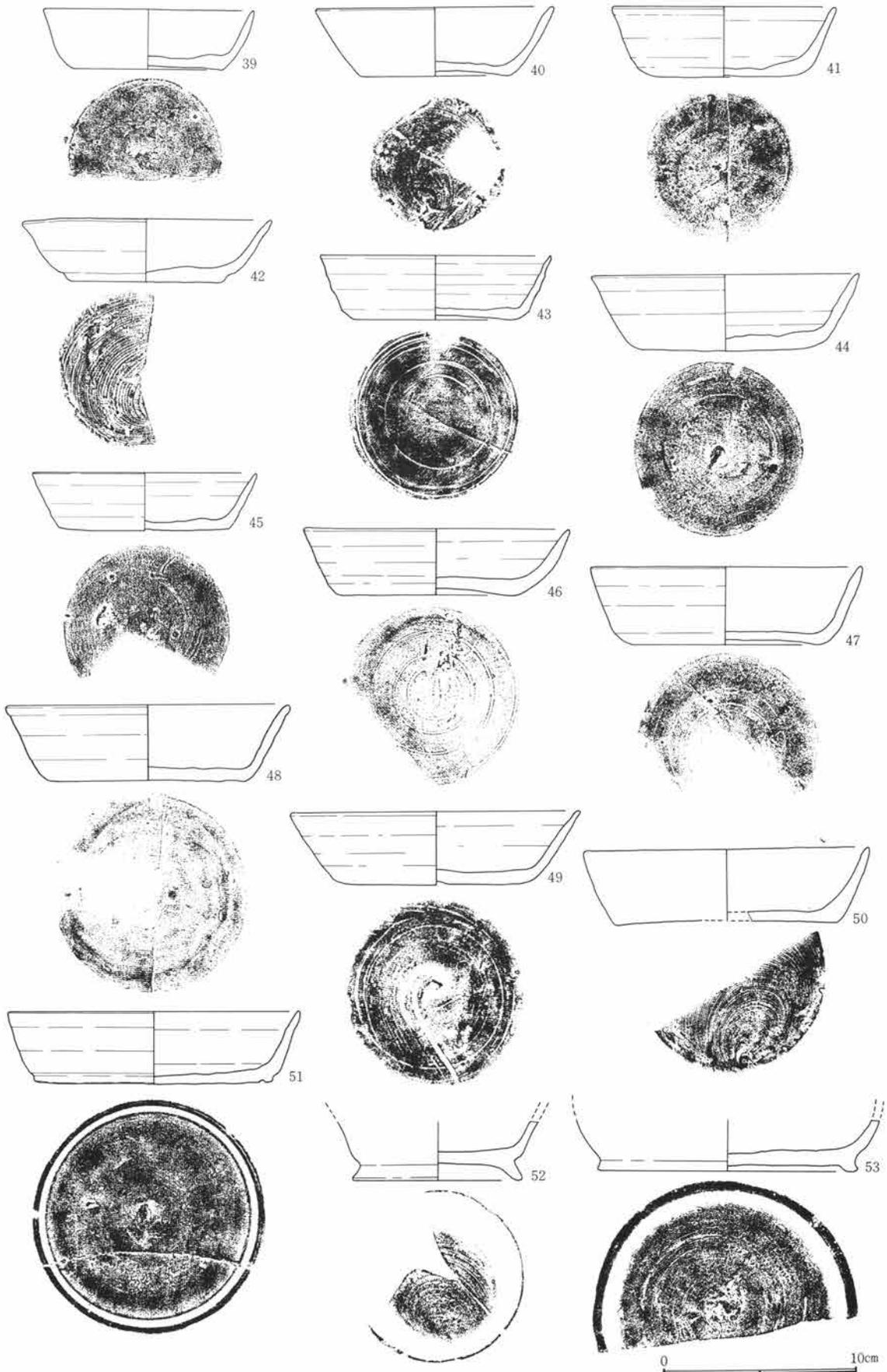
5. 検出された遺構と遺物



第276図 D-4号溝遺物図(1)

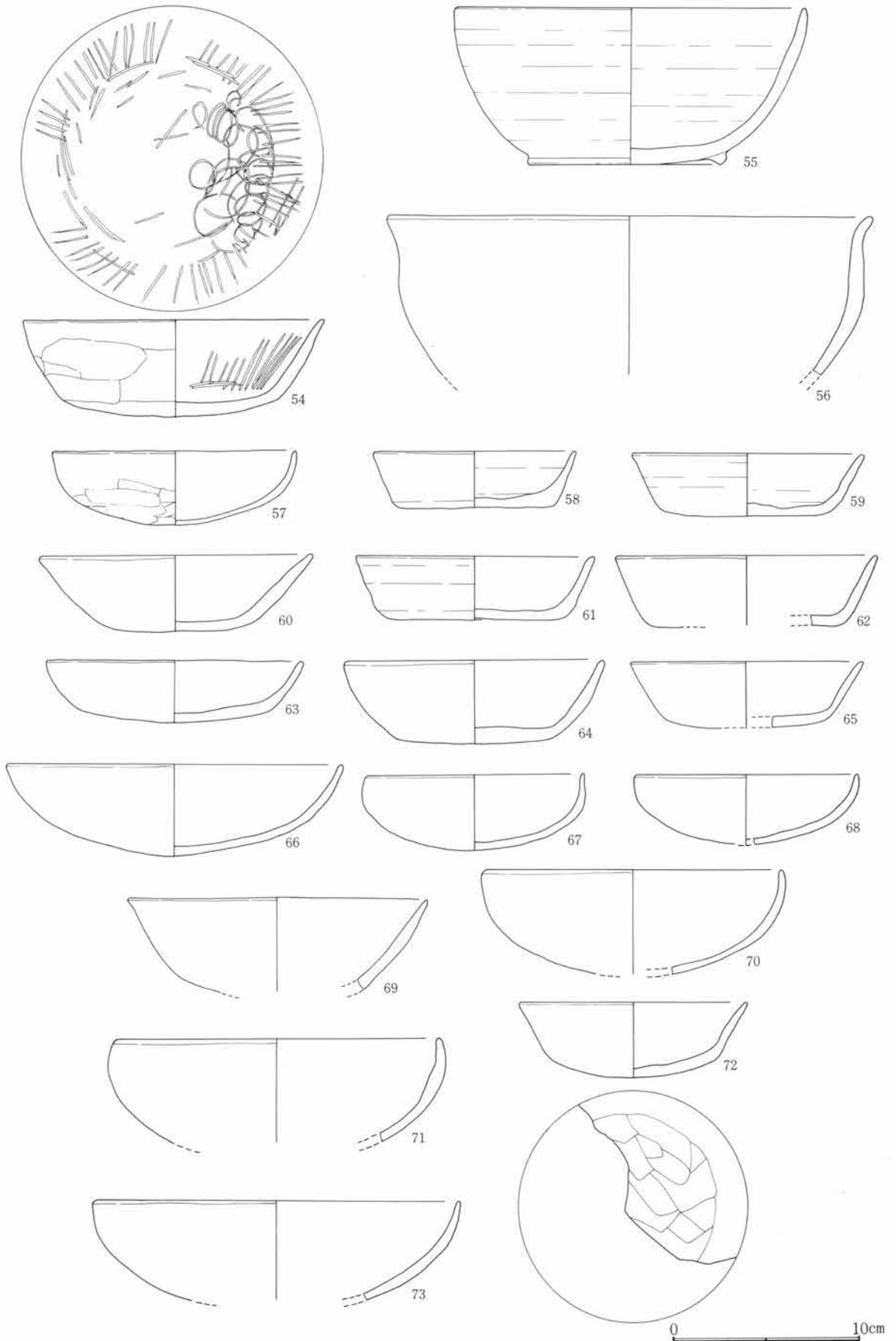
0 10cm

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

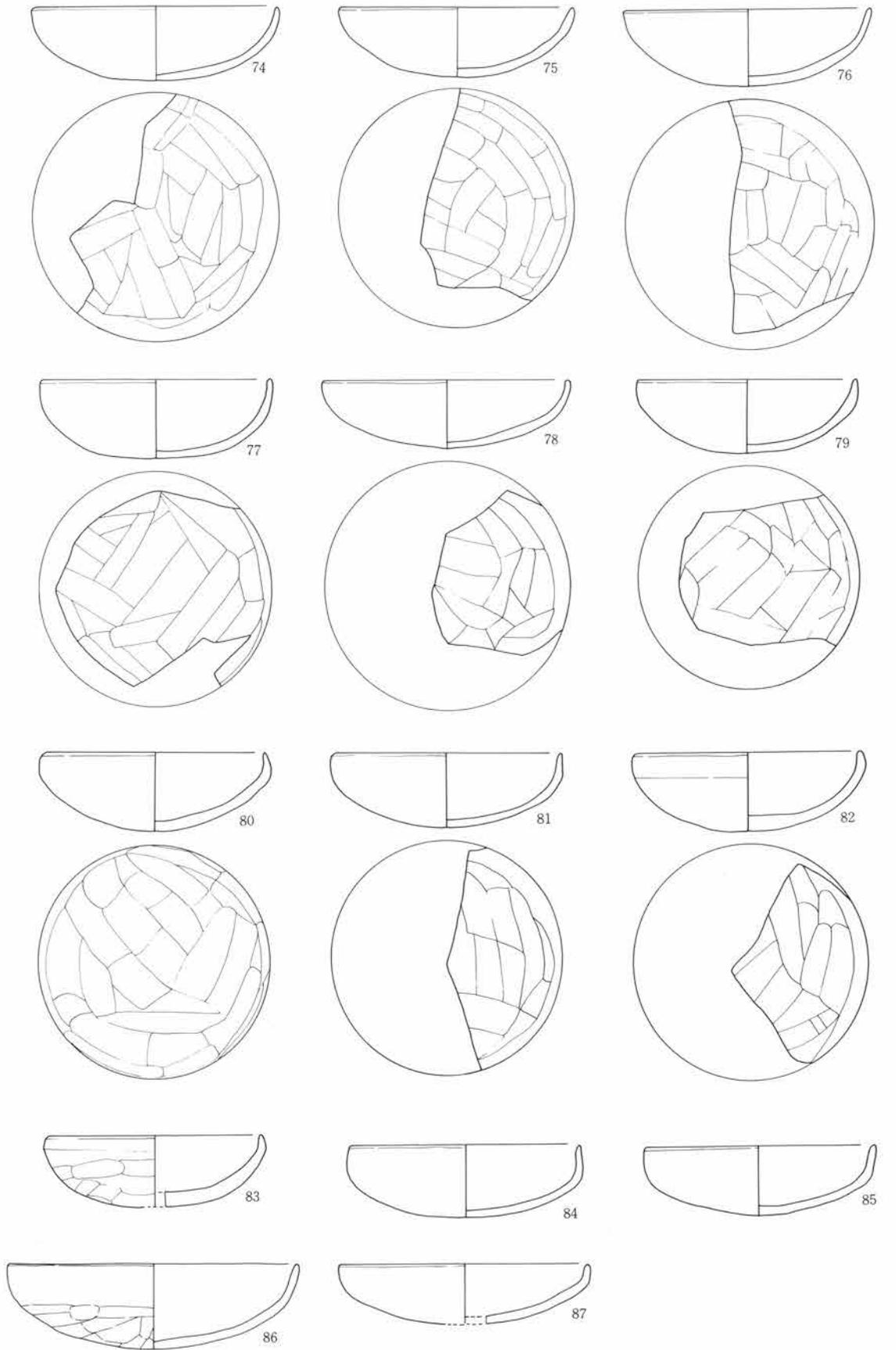


第277図 D-4号溝遺物図(2)

5. 検出された遺構と遺物



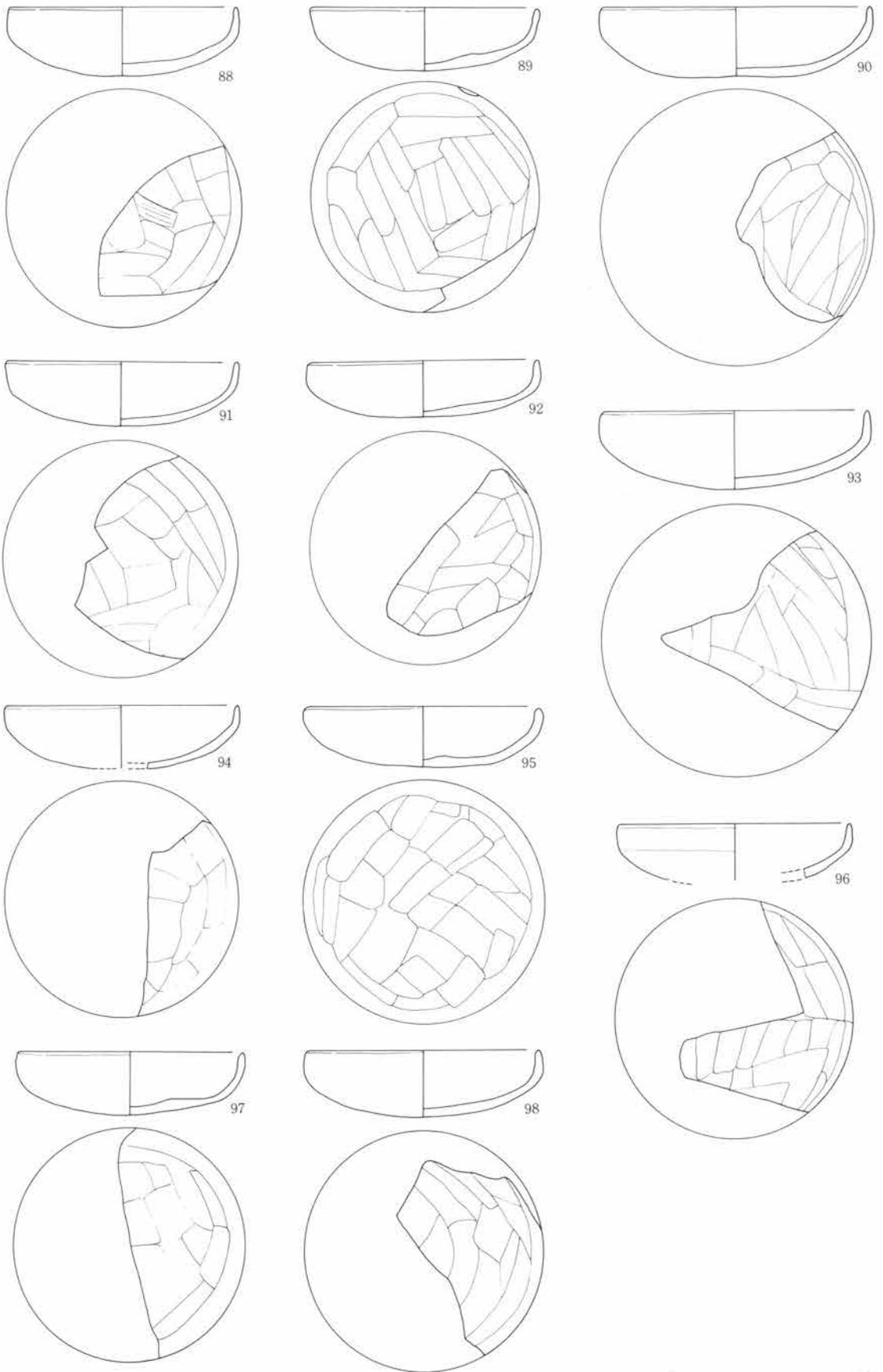
(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面



第279図 D-4号溝遺物図(4)

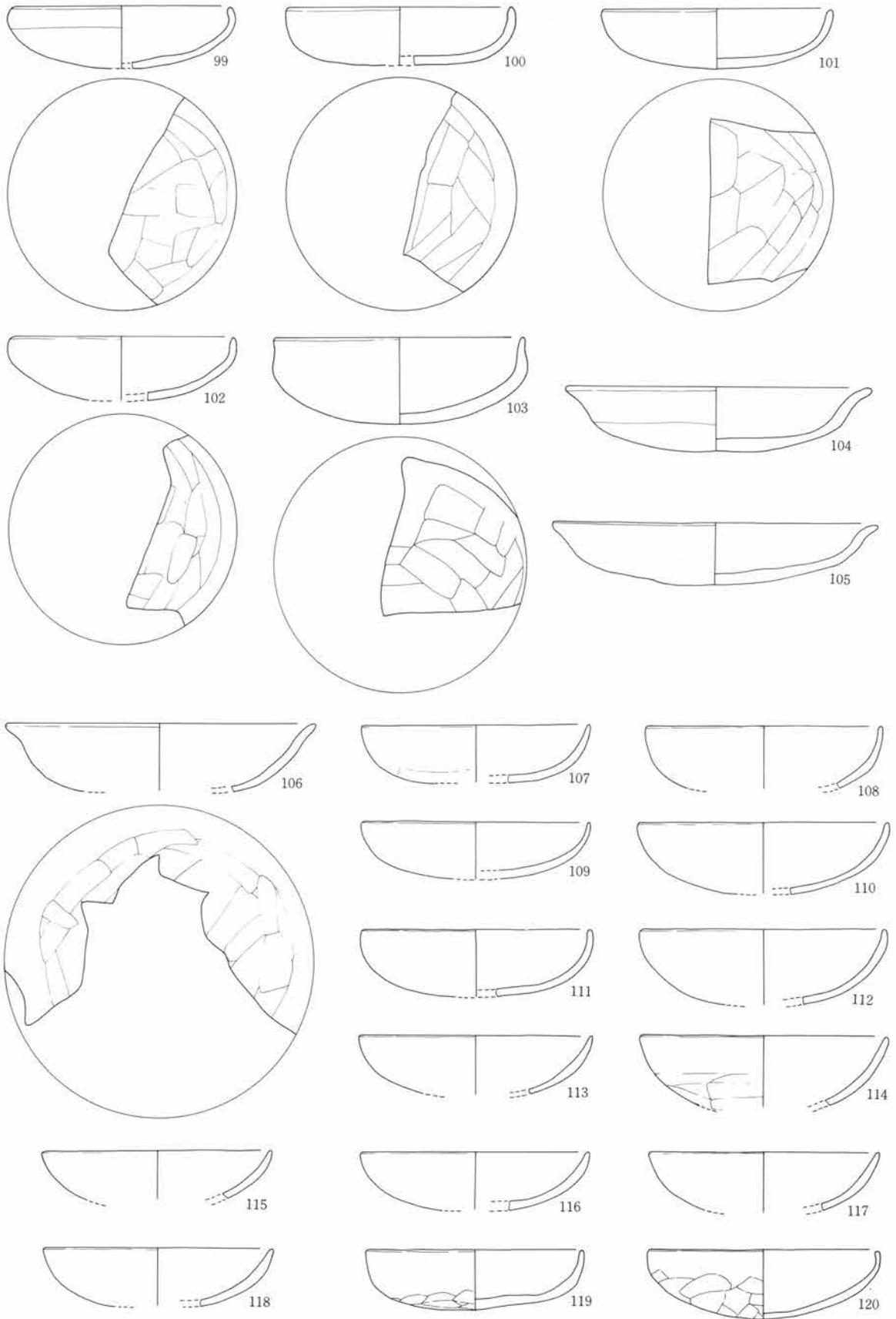
0 10cm

5. 検出された遺構と遺物



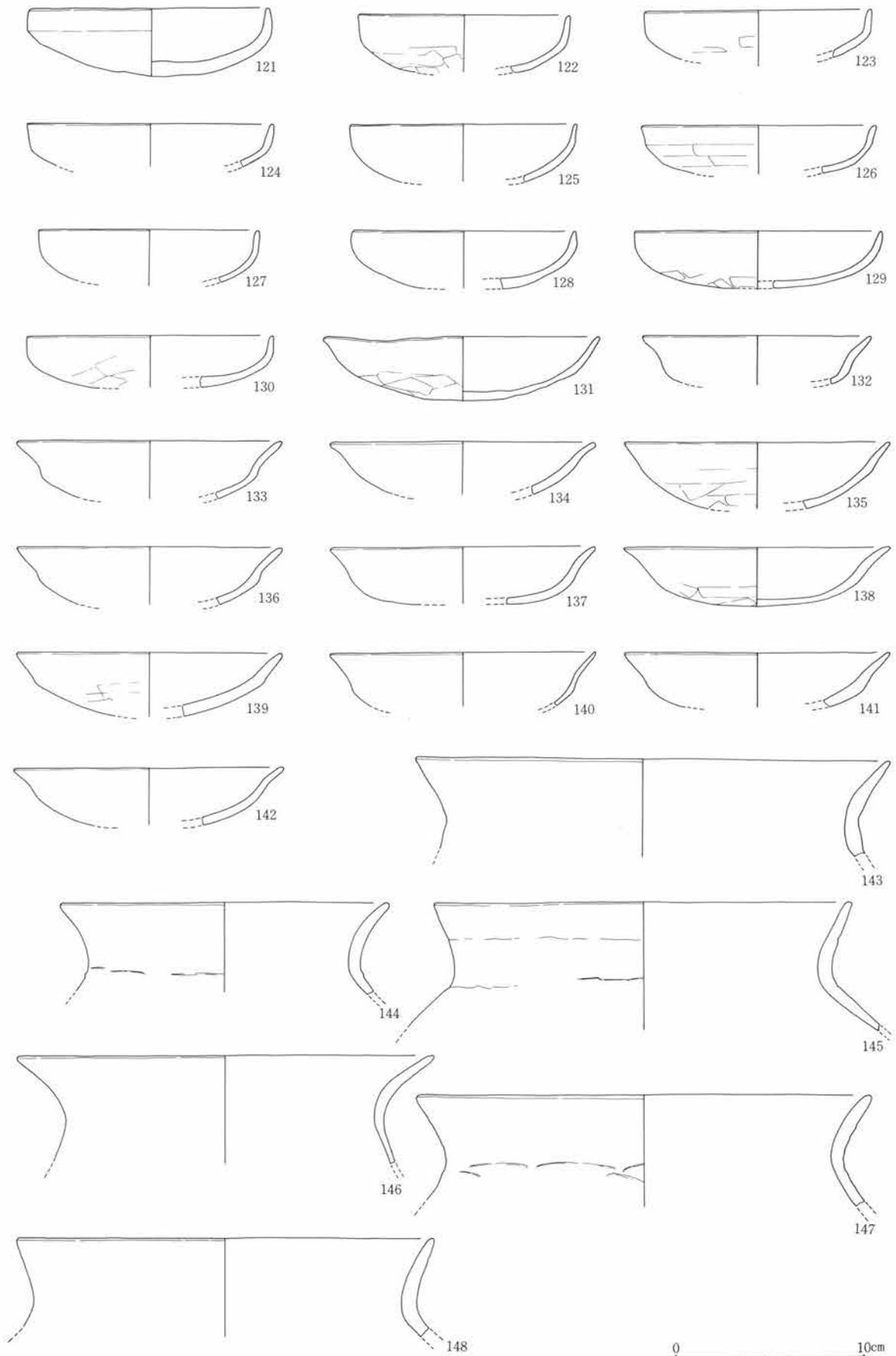
第280図 D-4号溝遺物図(5)

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

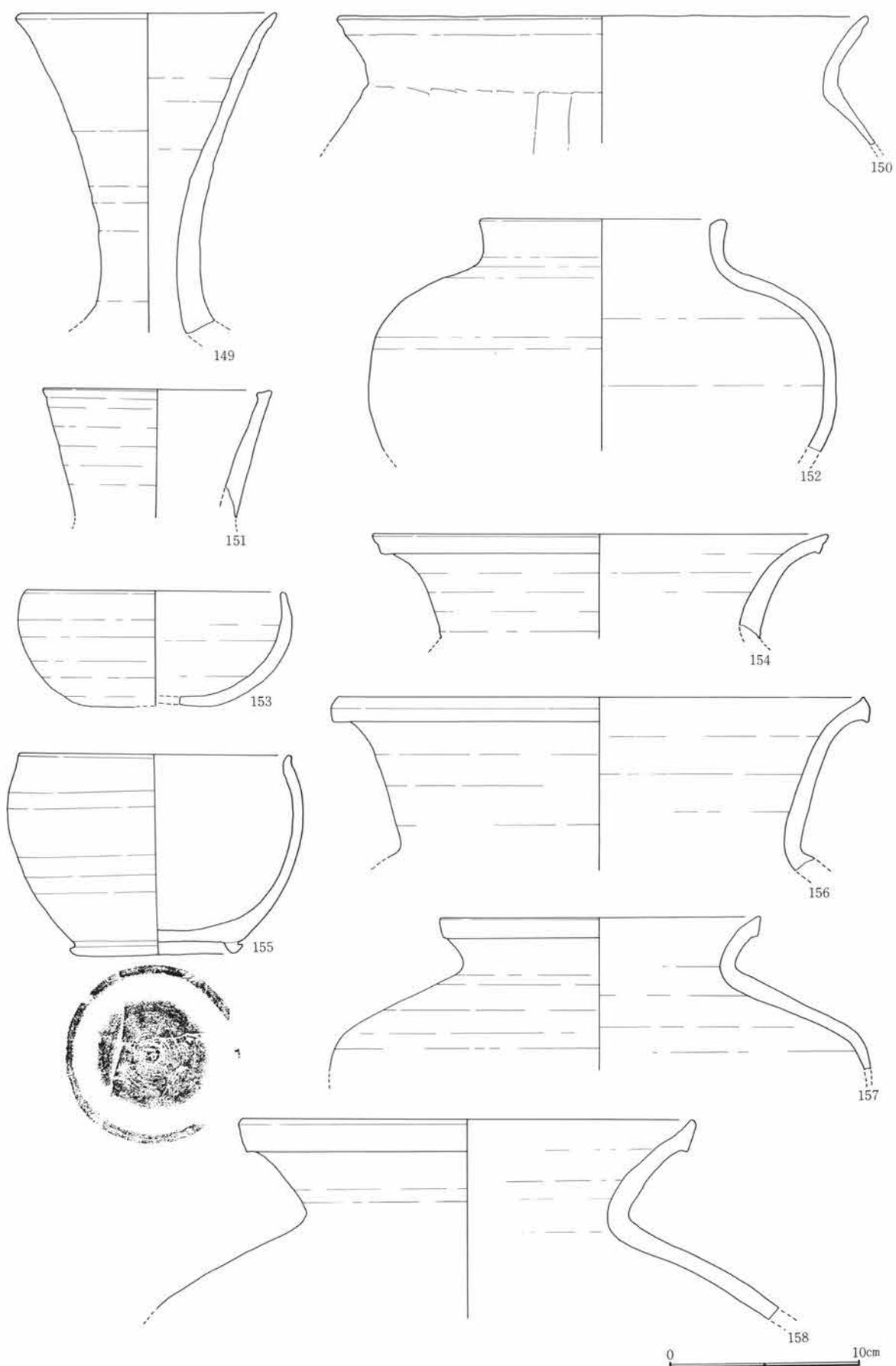


第281図 D-4号溝遺物図(6)

5. 検出された遺構と遺物

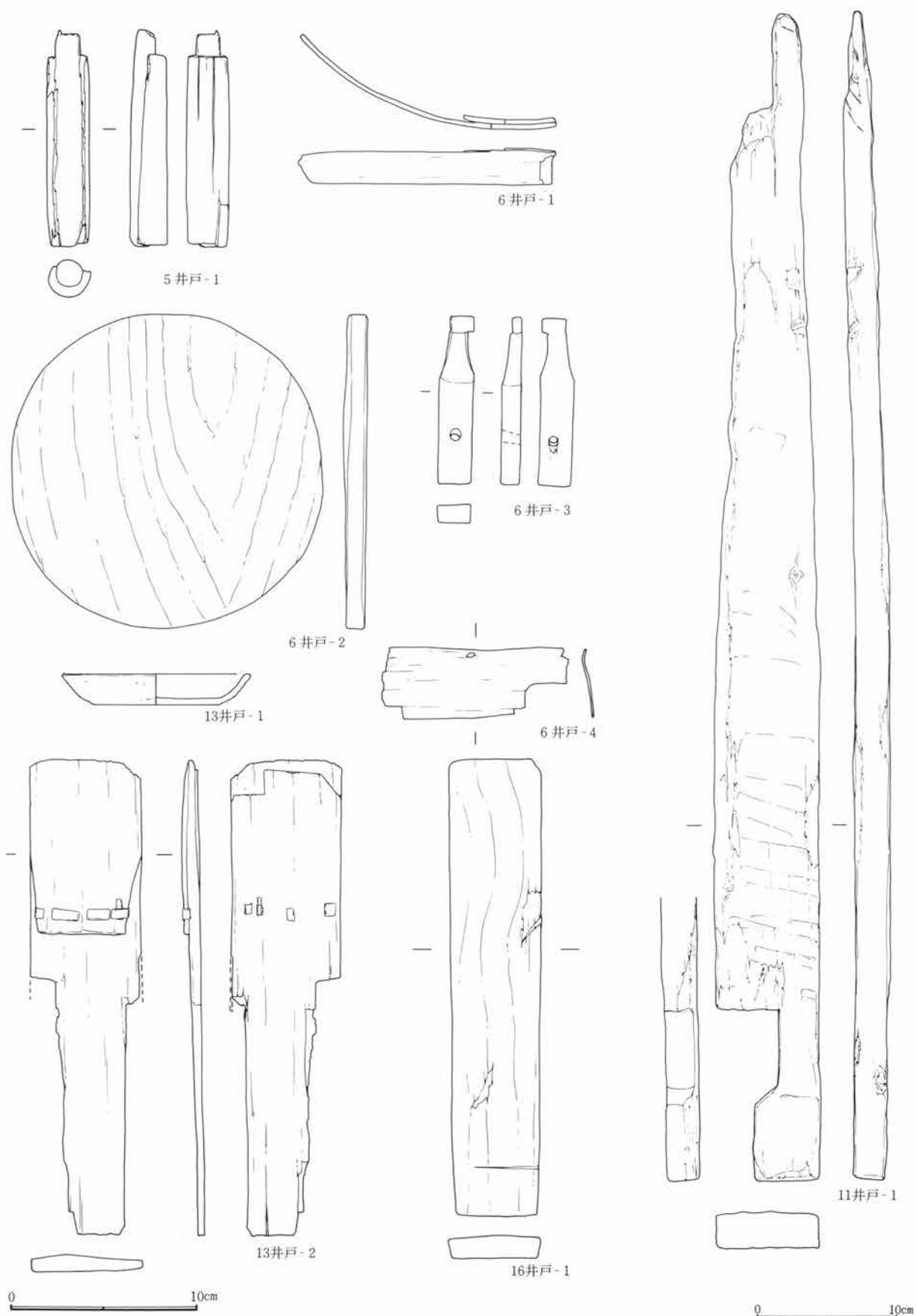


(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

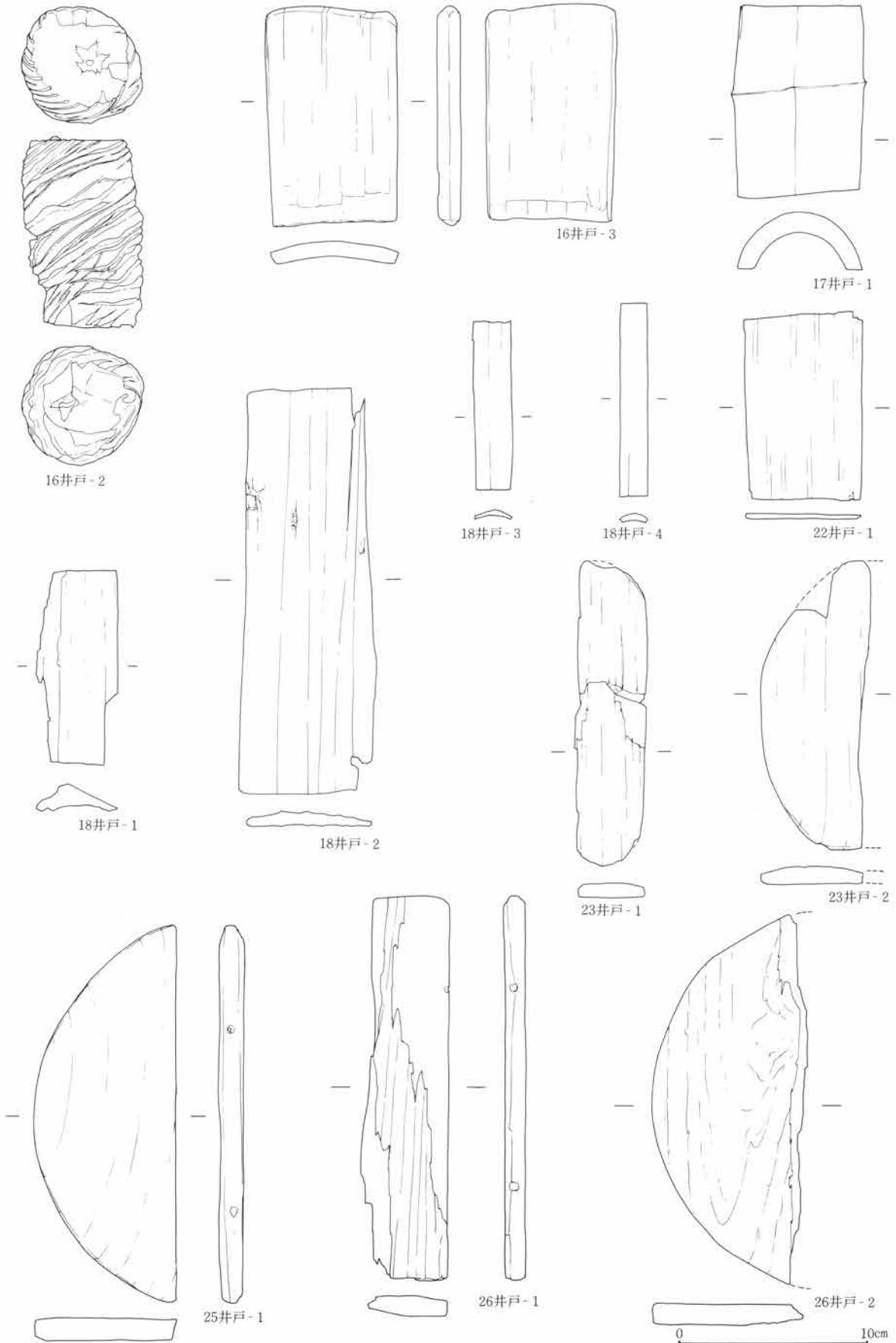


第283図 D-4号溝遺物図(8)

5. 検出された遺構と遺物

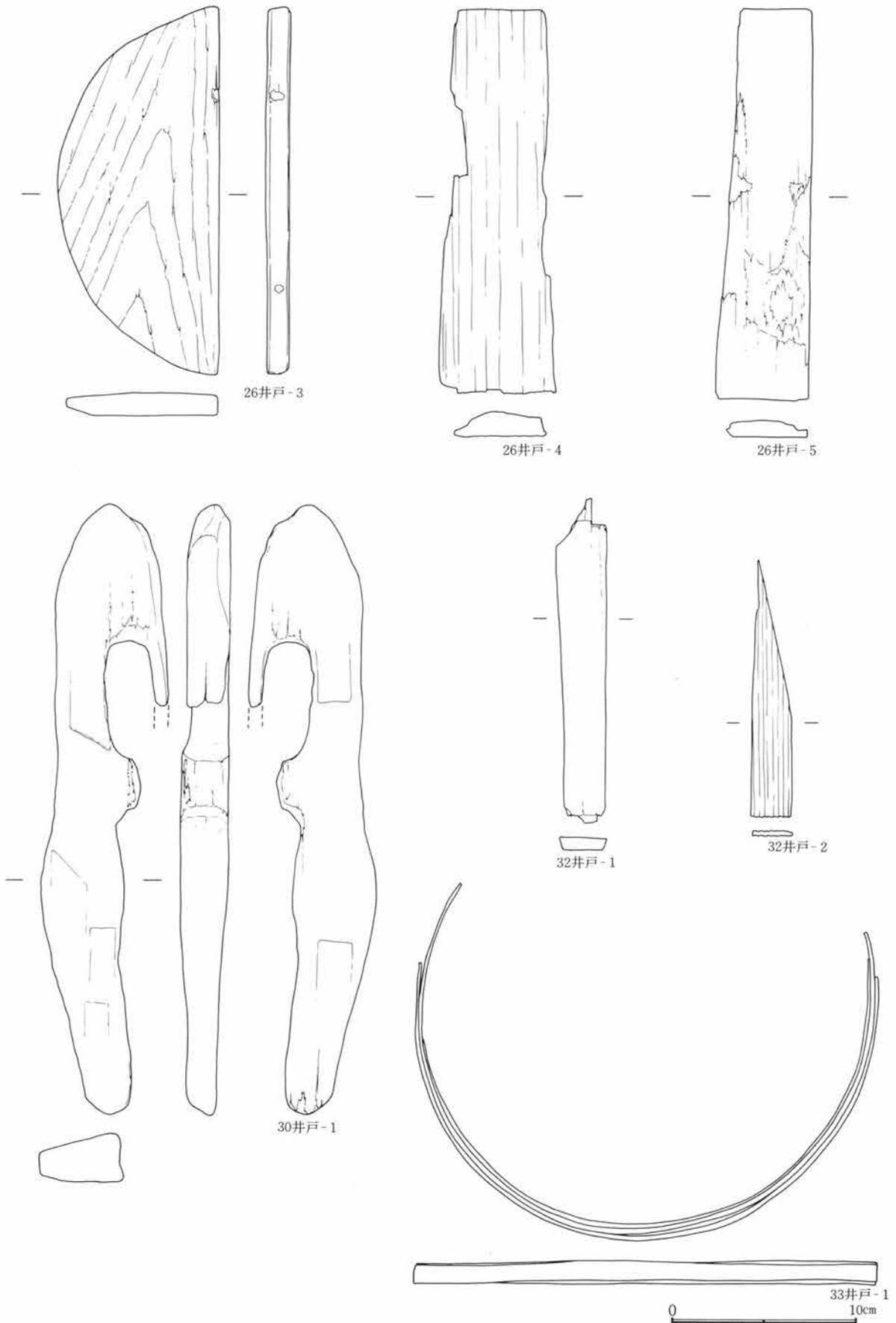


第284図 木器図(1)

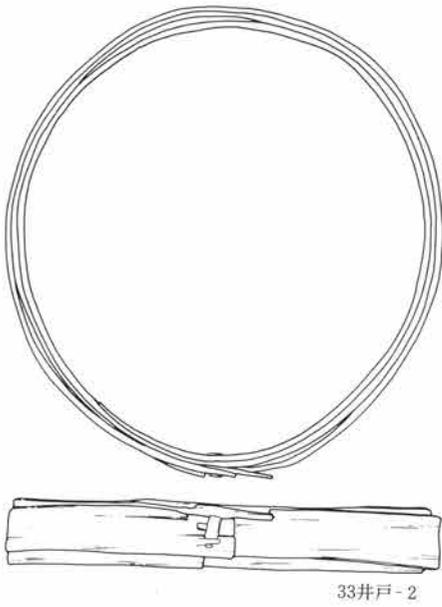


第285図 木器図(2)

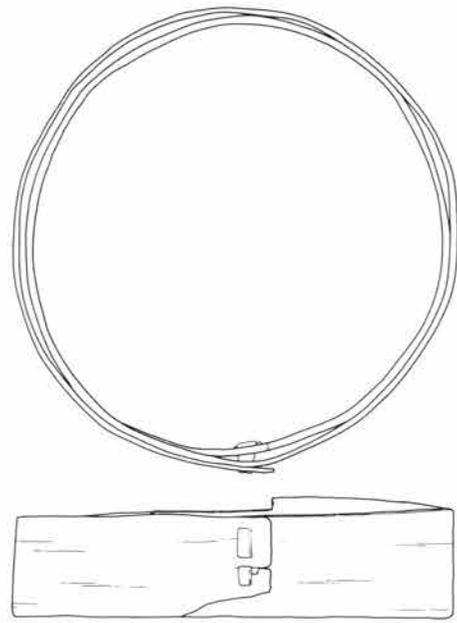
5. 検出された遺構と遺物



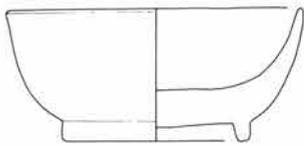
(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面



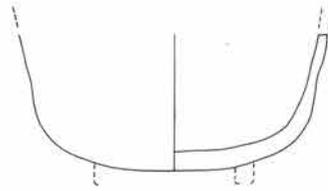
33井戸-2



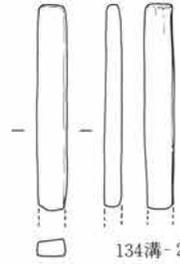
33井戸-3



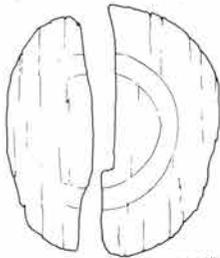
128溝-1



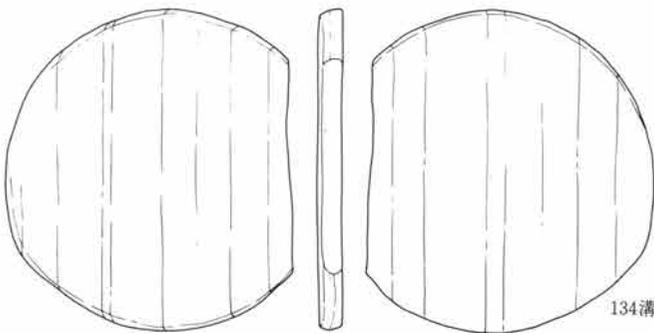
134溝-1



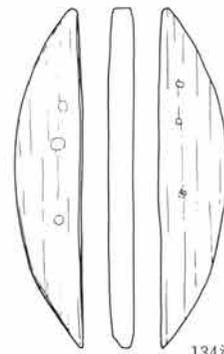
134溝-2



128溝-2



134溝-3

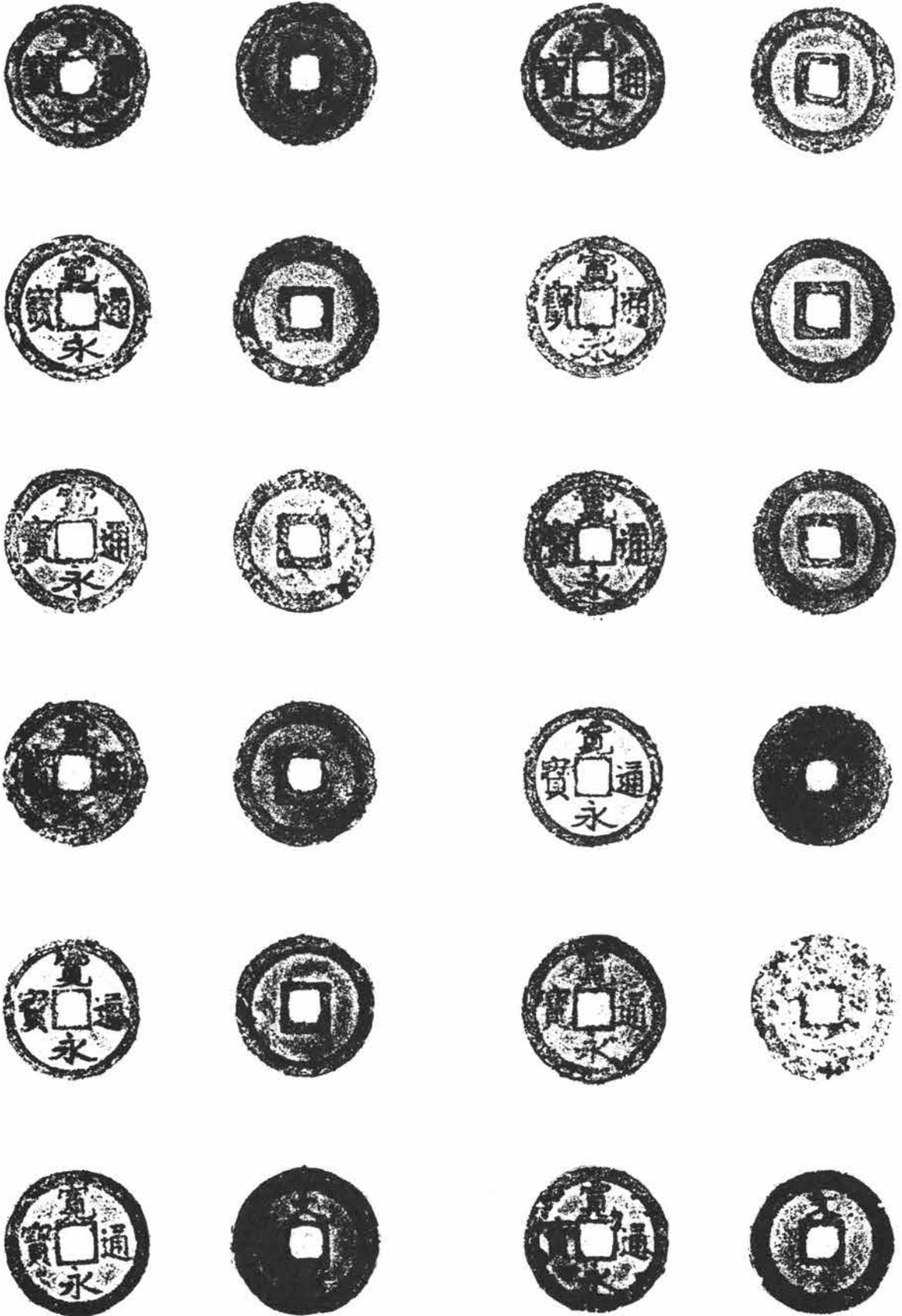


134溝-4



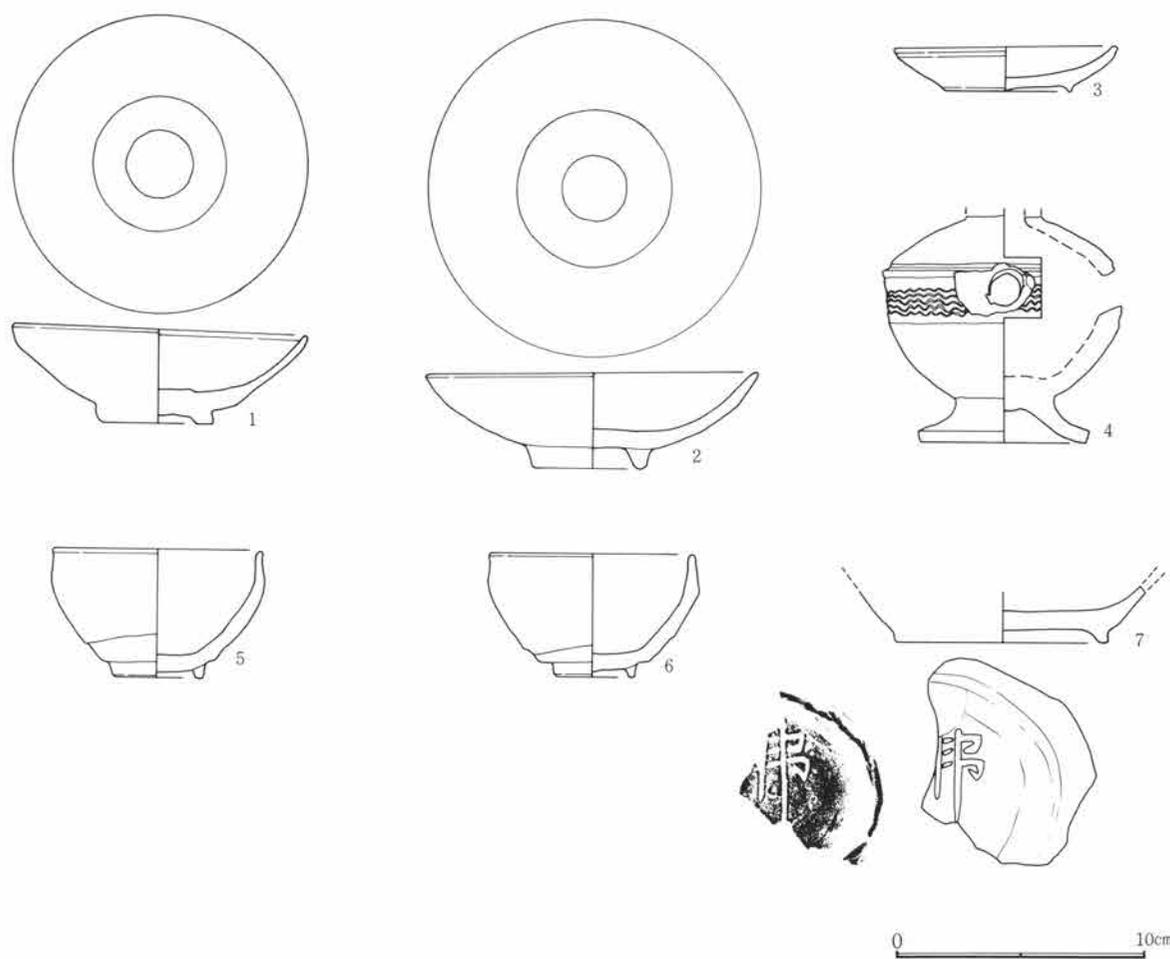
第287図 木器図(4)

5. 検出された遺構と遺物



第288図 古銭

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面



第289図 遺構外遺物図

5. 検出された遺構と遺物

第96表 陶磁器観察表

番号	器種・種別 釉	出土位置	量 目	胎土・焼成・釉色	摘 要	備 考
井-1	軟質陶器 内耳盤 燻焼	19号井戸 埋土中	口縁部～底 部破片	赤色鉍物粒含む 並 黒褐色	体部外面に、押圧成形による圧迫痕あり。口縁部 の内・外面横撫で。	在地製品 17～19C
井-2	陶器 皿 鉄釉	19号井戸 埋土中	1/2残存	茶褐色 硬 鉄錆色	底部に轆轤右回転の糸切り痕あり。釉は底面を除 いて施釉。	製作地不詳 17～19C
井-3	土師質土器 小皿	19号井戸 埋土中	1/2残存	赤褐色鉍物粒含む 並 浅橙色	底部に糸切り痕あり。	在地製品 17C
井-4	陶器 香炉 胎釉	21号井戸 埋土中	1/2残存	灰色 硬 淡茶色	内面は口縁部、外面は体部のみ施釉。他は露胎と なる。	製作地不詳 18C
井-5	軟質陶器 鉢 無釉	23号井戸	口縁部片	黒色鉍物粒含む 並 灰色	口縁部周辺に横撫であり。体部外面に、指頭圧痕 あり。	在地製品 14C
井-6	陶器 碗 鉄釉・灰釉	26号井戸	口縁部少量 欠損	灰色 硬 黒褐色・淡黄緑色	外面の体部下半に鉄釉。体部上方及び内面に灰釉 が施釉される掛分け。外面中位に4条の轆轤痕あり。	瀬戸焼 18C
井-7	陶器 播鉢 鉄釉	18号井戸	口縁～体部 片	淡黄灰色 並 茶褐色	内面に、17条+ $\alpha$ 本を単位とする卸し目条線あり、 見込中央に施された円圏の一部が残る。	美濃焼 17～18C
井-10	陶器 播鉢 鉄釉	39号井戸	体部～底部 片	淡黄灰色 並 茶褐色	内・外面に施釉。底部は糸切り。内面に18条の卸 し目条線あり。見込中央に円圏の卸し目が施され る。	美濃焼 17～18C
井-11	軟質陶器 鉢 燻焼	39号井戸	体部～底部 片	黒色鉍物粒含む 並 灰黒色	内面に5条の卸し目条線あり。内面のみ燻焼。 底部調整は磨耗のため不詳。内面に削痕あり。	在地製品 15C
井-12	陶器 香炉 胎釉	34号井戸	口縁～体部 片	淡黄灰色 硬 淡黄褐色	内面外部下半が露胎となり他は施釉される。外面 に7条の轆轤目あり。	美濃焼 18C
井-13	陶器 播鉢 鉄釉	33号井戸	口縁部片	鉍物粒含む 硬 赤褐色	内・外面に施釉される。内面に9条の卸し目条線 あり。	製作地不詳 18～19C
井-14	軟質陶器 内耳盤形 燻焼	26号井戸	口縁～体部 片	鉍物粒微 硬 黒褐色	内面に内耳の痕跡あり。	在地製品 17～19C
井-15	軟質陶器 内耳盤形 燻焼	33号井戸	口縁～体部 片	鉍物粒微 硬 黒褐色	内面に内耳あり。体部外面下半に指圧痕あり。内・ 外面撫で。	在地製品 17～18C
溝-10	陶器 皿 鉄釉	128号溝	1/2残存	黒褐色 並 灰褐色	体部下半を除き施釉される。内・外面、夥しい油 煙が付着する。灯火皿。	製作地不詳 18～19C

## (3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

溝一29	軟質陶器 内耳鍋 素焼	127号溝	口縁～底部	鉍物粒含む 並 淡褐色	内面に内耳ニカ所あり。体部外面下半に指圧痕あり。復元率約半分。破片数5点。	在地製品 15C後半
溝一30	磁器 碗 染付	134号溝	口縁～底部	白色 硬 白磁釉	内・外面に染付施文あり。外面は蓮弁文、見込に帆掛船の文様あり。呉須は淡い青色を呈す。	伊万里系 19C前半
溝一31	磁器 碗 染付	134号溝	体部～底部 片	白色 硬 白磁釉	内・外面に染付施文あり。見込に帆掛船の文様あり。呉須は淡い青色を呈す。	伊万里系 19C前半
溝一32	磁器 碗 染付	134号溝	体部～底部 片	白色 硬 白磁釉	内・外面に染付施文あり。見込に帆掛船の文様あり。呉須は濃い青色を呈す。	伊万里系 19C後半
溝一33	陶器 皿 灰釉	134号溝	%残存	灰色 硬 淡黄緑色	内面に、菊花の鉄絵印花が施される。釉は、体部外面下半を除き施釉。口縁部に油煙付着。燈火皿。	瀬戸焼 17C
溝一35	陶器 小碗 長石釉	134号溝	½残存	淡黄灰色 並 淡黄灰色	高台端部を除き施釉。外面に梅花文あり。梅花は白土、枝は鉄絵（鉛釉）	美濃焼 18C
溝一38	陶器 碗 鉛釉	134号溝	体部～底部 片	淡黄灰色 並 淡褐色	高台及び高台ぎわを除き施釉。内・外面に轆轤目あり。	美濃焼 18C
溝一39	陶器 碗 鉛釉	134号溝	底部片	淡黄灰色 並 淡褐色	高台及び高台ぎわを除き施釉。内・外面に轆轤目あり。	瀬戸焼 18C
溝一40	陶器 碗 鉛釉	134号溝	底部片	淡黄灰色 並 淡褐色	高台及び高台ぎわを除き施釉。内・外面に轆轤目あり。	美濃焼 18C
溝一41	陶器 鉢 鉄釉	134号溝中	底部片	淡黄灰色 並 茶色	高台周辺と高台部を除き、内・外面に施釉。	美濃焼 17～18C
溝一42	陶器 小碗 鉛釉・長石釉	134号溝中	底部片	淡灰色 並 暗褐色・透明	内面に長石釉。高台端部を除く外面に鉛釉が掛けられている。	美濃・瀬戸 焼 18C
溝一43	陶器 碗 鉛釉	134号溝中	体部～底部 片	淡黄灰色 並 暗褐色	内面と、外面上半に鉛釉が施される。体部外面下半と高台に、淡い鉄釉が施される。	美濃焼 18C
溝一46	陶器 小碗 天目釉	134号溝中	体部～底部 片	淡灰色 並 黒色	外面体部下半を除き施釉される。器肉薄作り。	京焼系 18～19C
溝一47	磁器 皿 白磁	134号溝中	底部片	白色 硬 白色	高台を除き内・外面に施釉。内面に蛇の目の釉剥あり。鉄絵が施される。	唐津系 17C後半
溝一48	陶器 播鉢 鉄釉	134号溝中	口縁～底部 片	淡黄灰色 硬 茶色	外面上方から内面口縁部際に鉄絵が施される。卸し目は、19条+αを条単位とする。	生産地不詳 18～19C

5. 検出された遺構と遺物

溝-49	陶器 擂鉢 鉄釉	134号溝中	口縁～底部 片	淡黄灰色 硬 茶褐色	内・外面に鉄釉が施される。内面に13条+ $\alpha$ の卸し目あり。	美濃焼 18C
溝-50	陶器 擂鉢 鉄釉	134号溝中	口縁部片	淡黄灰色 硬 茶褐色	内・外面に鉄釉が施される。内面に13条+ $\alpha$ の卸し目あり。	美濃焼 18C
溝-51	陶器 擂鉢 鉄釉	134号溝中	口縁部片	淡黄灰色 硬 茶褐色	内・外面に鉄釉が施される。内面に13条+ $\alpha$ の卸し目あり。	美濃焼 18C
溝-52	陶器 擂鉢 灰釉	134号溝中	口縁部片	淡黄灰色 並 淡灰緑色	外面・内面・口縁部下に灰釉の施釉あり。内面に、微細な条痕が無数に施されて卸し目とされている。	美濃焼 18～19C
溝-53	軟質陶器 浅鍋 燻焼	134号溝中	体部下半片	鉍物粒微 硬 黒灰色	体部内・外面に轆轤目あり。器肉調整は、極めて薄作り。	在地製品 18～19C
溝-54	陶器 甕 鉄釉	134号溝中	体部～底部 片	赤褐色 硬 褐色	内・外面に鉄釉施釉。釉は刷毛塗。底面に砂床の痕跡あり。	製作地不詳 18～19C
溝-55	軟質陶器 火入 燻	134号溝中	体部～底部 片	鉍物粒微 軟 黒褐色	内面に轆轤目あり。外面、2条の沈線と石目状の凸凹あり。	在地製品 18～19C
溝-56	軟質陶器 火起 素焼	134号溝中	体部～底部 片	淡褐色 並 素焼き	体部外面は白土掛け。型物として合せ目あり。内面に受けの造り出しあり。体部最下部に通気孔の削込あり。体部下方に1穴、脚部に2穴刺突孔あり。脚部は菊座型を呈す。	在地製品 18～19C
溝-57	陶器 鉢 長石釉	134号溝中	口縁～体部 片	淡黄灰色 硬 淡黄灰色	内・外面に施釉される。口縁は玉縁となる。	京焼系 18～19C
溝-58	陶器 鉢 石英釉	134号溝中	体部～底部 片	淡褐色 並 淡灰色	高台部を除き、内・外面に施釉される。内面にトチン痕あり。	製作地不詳 18～19C

第97表 土坑遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1 3土坑	平瓦	瓦観察表、1類A-土1参照			
No-2 3土坑	平瓦	瓦観察表、1類A-土2参照			
No-3 9土坑	坏須恵	口-10.3	覆土	底部 手持ちヘラ調整。	②灰色 ③密 ④½残存
No-4 10土坑	坏土師	口-8.7 高-3.8	覆土	口縁部 やや内湾する。口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-5 10土坑	坏土師	(口)11.2	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。	②褐色 ③細砂粒含む ④½残存

## (3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

No-6 12土坑	坏 須 惠	口-10.0 高-4.1 底-5.0	覆 土	底部は切り取り後、ヘラで調整	②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存
No-7 10土坑	盤 須 惠	(底)22.5	覆 土	底部 手持ちヘラ調整。	②黄灰色 ③密 ④口縁破片
No-8 10土坑	坏 土 師	口-14.6 高-3.7	覆 土	口縁部 やや内湾する。口縁 ヨコナデ。 体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④完形
No-9 30土坑	平 瓦	瓦観察表、1類A-土15参照			
No-10 14土坑	坏 須 惠	口-13.3 底-3.9	覆 土	底部 回転糸切り右廻り。	②灰褐色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-11 43土坑	坏 土 師	口-10.7 高-4.4 底-5.1	覆 土	底部 回転糸切り。	②淡橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-12 54土坑	坏 須 惠	底-5.6	覆 土	底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②にぶい黄褐色 ④底部のみ残存
No-13 28土坑	羽 釜	(口)24.8	覆 土	器面が荒れている。	①酸化 ②明褐色 ③3~4mmの砂粒含む ④口縁~胴部½残存
No-14 98土坑	碗 灰 釉	底-7.3	覆 土	付高台。底部 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③密 ④底部破片
No-15 98土坑	碗 須 惠	底-8.2	覆 土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰白色 ④底部½残存
No-16 32土坑	羽 釜	(口)20.4	覆 土	鏝 上を向く。口縁部 内傾する。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口~胴破片
No-17 D-25 土坑	坏 須 惠	口-16.2 高-5.7 底-9.4	覆 土	ナデ痕残る。	①酸化 ②橙色 ③3~4mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-18 D-32 土坑	碗 須 惠	口-13.0 高-4.8 底-5.2	覆 土	付高台。底部 回転糸切り。成形調整雑。	②灰黄色 ③2~3mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-19 89土坑	羽 釜	(口)19.0	覆 土	鏝 短く、上を向く。口縁部 内傾する。	②褐灰色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁~胴部破片
No-20 126土坑	坏 土 師	口-14.0 高-4.0	覆 土	全体にゆがみがひどく、ナデ調整も雑。	②にぶい黄褐色 ③細砂粒含む ④完形
No-21 211土坑	皿 陶 器	口-11.5 高-2.2 底-6.5	覆 土	内・外面に施釉される。内面に三目トチン痕あり。底部は削り出し。美濃焼。	②淡黄灰色 ④完形
No-22 106土坑	羽 釜	(口)20.5	覆 土	鏝 上を向く。下胴部 ナデ。	①還元 ②灰色 ③3~4mmの砂粒含む ④口縁~胴部破片
No-23 211土坑	皿 陶 器	口-11.2 高-1.8 底-6.8	覆 土	内・外面に施釉される。底部は削り出し。美濃焼。	②淡黄灰色 ④完形

5. 検出された遺構と遺物

No-24 43土坑	坏 土 師	口-12.4 高-3.9	覆 土	口縁部 内側に屈曲する。口縁部 ヨコナデ。 体部 ヘラケズリ。	②にふい橙色 ③細砂粒含む ④完形
No-25 106土坑	羽 釜	(口)22.5	覆 土	銜 短く、上を向く。胴下部にナデ痕残る。	①還元 ②灰色 ③2～3mmの砂粒含む ④口縁～胴部破片
No-26 98土坑	羽 釜	(口)20.5	覆 土	銜 短く、上を向く。口縁部 内傾する。	②にふい黄橙色 ③3～4mmの砂粒含む

第98表 溝遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1 1溝	坏 土 師	(口)10.6 (高)3.4	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。	②橙色 ③1～2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2 3溝	坏 土 師	(口)13.8 高-3.1	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②にふい橙色 ③細砂粒含む ④1/2残存。
No-3 43溝	坏 土 師	(口)11.0 高-3.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③1～2mmの砂粒含む ④1/2残存
No-4 3溝	坏 土 師	(口)12.7 高-3.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④1/2残存
No-5 15溝	坏 土 師	(口)12.0 高-3.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③1～2mmの砂粒含む ④1/2残存
No-6 43溝	坏 土 師	(口)10.5 高-3.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②にふい橙色 ③細砂粒含む ④1/2残存
No-7 3溝	坏 土 師	(口)13.4 高-3.2	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②にふい橙色 ③細砂粒含む ④1/2残存
No-8 43溝	坏 土 師	(口)12.0 高-4.5	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④1/2残存
No-9 15溝	坏 土 師	(口)13.5	覆 土	外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②にふい黄橙色 ③1～2mmの砂粒含む ④口縁部1/2残存
No-10 128溝	皿 陶 器	第96表 陶磁器観察表、溝-10参照			
No-11 43溝	坏 土 師	(口)11.0 高-3.4	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④完形
No-12 15溝	坏 須 恵	口-12.4 高-3.8	覆 土	口縁部 厚くなる。底部 回転糸切り右廻り。 外面 体部に墨書。	②灰褐色 ③1～2mmの砂粒含む。 ④完形
No-13 43溝	坏 土 師	口-12.3 高-4.1	覆 土	外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。内側 底部に×のヘラ記号。	②橙色 ③細砂粒含む ④1/2残存
No-14 3溝	坏 須 恵	(口)13.6 高-3.8 底-7.5	覆 土	底部 回転糸切り。	②灰白色 ③密 ④1/2残存
No-15 3溝	坏 須 恵	(口)13.0 高-4.2 底-4.2	覆 土	底部 手持ちヘラケズリ。	②灰白色 ③密 ④1/2残存

## (3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

No-16 16溝	坏 須 惠	口-13.8 高-3.6 底-5.5	覆 土	底部 回転糸切り。右回転。内面に墨書。	②灰白色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-17 3溝	坏 須 惠	(口)14.0 高-3.3 底-9.0	覆 土	口縁端部 薄くなり、やや外湾する。	②灰白色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-18 58溝	埴 須 惠	口-14.0 高-4.6 底-6.4	覆 土	灰釉。口縁部 部分的に釉がかかる。付高台。 底部 回転糸切り。	②灰白色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-19 3溝	埴 須 惠	(口)16.0 高-6.7 底-9.0	覆 土	付高台。底部 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-20 16溝	皿 須 惠	高-3.4 底-6.4	覆 土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-21 1溝	埴 須 惠	(底)10.0	覆 土	付高台。底部 回転ヘラ調整。	②灰色 ③密 ④底面 $\frac{1}{2}$ 残存
No-22 40溝	埴 須 惠	(底)8.3	覆 土	付高台。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-23 15溝	埴 須 惠	底-5.2	覆 土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰色 ③密 ④底部のみ残存
No-24 1溝	坏 須 惠	口-14.2 高-3.5 底-9.0	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③密 ④破片
No-25 43溝	埴 須 惠	口-18.3 高-5.1 底-13.6	覆 土	付高台。内面 体部 非回転ナデ。底部 回 転ヘラ切り。	②灰色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-26 128溝	坏 須 惠	(底)13.5	覆 土	底面 付高台。「寺」のヘラ描きあり。	②灰色 ③密 ④底部破片
No-27 38溝	坏 土 師	(口)18.0	覆 土	内・外面 ナデ調整。	②淡橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-28 38溝	甃 土 師	(口)22.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。胴 ヘラ痕残る。内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁 $\frac{1}{2}$ 残存
No-34 134溝	埴 須 惠	(口)16.5 (高)6.0 (底)8.5	覆 土	付高台。内面 自然釉。	②灰白色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-36 134溝	埴 須 惠	(口)13.0 (高)3.5 (底)7.0	覆 土	付高台。底部 回転ヘラ調整。	②灰色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-37 134溝	埴 須 惠	(口)13.0	覆 土		②灰色 ③密 ④口縁部破片
No-44 134溝	埴 須 惠	(底)8.0	覆 土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-45 134溝	埴 須 惠	(底)7.0	覆 土	付高台。底部 回転ヘラ調整。	②灰色 ③密 ④底部破片

5. 検出された遺構と遺物

第99表 D区溝遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
D-1号溝 No-1	埴 須恵	(口)16.4 (高)5.6 (底)8.6	覆土	付高台。底部 回転糸切り。内面に墨書あり。	②灰色 ③細砂粒含む ④½残存
No-2	埴 須恵	口-16.0 高-5.5 底-7.2	覆土	付高台。底部 回転糸切り後ナデ。	②灰色 ③密 ④¾残存
No-3	埴 須恵	口-13.1 高-4.3 底-8.2	覆土	付高台。整形やや粗雑。	②灰色 ③2~3mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-4	埴 須恵	底-8.0	覆土	付高台。底部 周辺ナデ痕残る。雑な整形。	①酸化ざみ ②にぶい橙色 ③1~2mm砂粒含む ④底部のみ残存
No-5	坏 須恵	口-13.1 高-5.0 底-6.0	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④ほぼ完形
D-2号溝 No-6	坏 須恵	口-12.8 高-3.7 底-6.7	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④完形
D-1号溝 No-7	坏 須恵	(高)3.4 (底)7.5	覆土	底部 糸切り痕。	②灰白色 ③細砂粒含む ④½残存
No-8	埴 須恵	口-15.0 高-5.7 底-8.2	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰色 ③密 ④口縁部½欠損
D-2号溝 No-9	坏 須恵	口-13.6 高-8.6 底-8.6	覆土	底部 回転ヘラ切り。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存
D-1号溝 No-10	坏 須恵	(口)13.0 (底)7.3	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。雑な整形。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存
No-11	坏 須恵	口-13.6 高-3.4 底-6.6	覆土	底部 回転糸切り、上に墨書。	②灰白色 ③密 ④ほぼ完形
D-2号溝 No-12	坏 土師	口-13.0 高-2.4	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②黄橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④ほぼ完形
D-1号溝 No-13	坏 須恵	(口)13.8 (高)2.3 (底)7.2	覆土	底部 回転糸切り。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存
No-14	坏 須恵	底-7.4	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。雑な作り。	②灰白色 ③細砂粒含む ④底部のみ残存
D-4号溝 No-15	蓋 須恵	口-12.6 高-2.5	覆土	外面 回転ヘラ調整。	②灰色 ③細砂粒含む ④½残存
No-16	蓋 須恵	口-11.5 高-2.2	覆土	外面 回転ヘラ調整。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-17	蓋 須恵	口-14.2 高-2.7	覆土	外面 回転ヘラ調整。	②灰色 ③細砂粒含む ④¾残存
No-18	蓋 須恵	口-12.6 高-2.5	覆土	外面 手持ちヘラケズリ。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④完形
No-19	蓋 須恵	(口)16.0	覆土	外面 回転ヘラ調整。内面 返りを持つ。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含むが 密 ④½残存

## (3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

D-4号溝 Na-20	蓋 須 恵	□-12.2 高-2.1	覆 土	回転ヘラ調整。	②灰色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-21	蓋 須 恵	□-16.2 高-3.3	覆 土	一部に釉。	②灰色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-22	蓋 須 恵	□-12.6 高-2.3 つまみ-4.1	覆 土		②明青灰色 ③細砂粒含む ④完 形
Na-23	蓋 須 恵	□-16.0 高-3.5	覆 土		②灰白色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残 存
Na-24	蓋 須 恵	□-14.8 高-2.2 つまみ-5.6	覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②青灰色 ③細砂粒含む ④ほぼ 完形
Na-25	蓋 須 恵	□-16.6 高-2.4	覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰黄色 ③細砂粒含む ④ほぼ 完形
Na-26	蓋 須 恵	□-16.4 高-2.4 底-6.0	覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰色 ③細砂粒含む ④ほぼ完 形
Na-27	蓋 須 恵	□-16.5 高-2.2	覆 土	外面 回転ヘラ調整。端部やや窪む。 内面 返りを残す。	②灰色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-28	蓋 須 恵	(□)18.0	覆 土	外面 回転ヘラ調整。内面 返りを持つ。	②灰白色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-29	蓋 須 恵	□-17.6	覆 土	外面 回転ヘラ調整。内面 返りを持つ。	②灰色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-30	蓋 須 恵	(□)18.0	覆 土	外面 回転ヘラ調整。内面 返りを持つ。宝 珠。	②灰白色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-31	蓋 須 恵	□-19.9 高-2.6	覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④ほぼ完形
Na-32	蓋 須 恵	□-18.0 高-3.9	覆 土	宝珠。	②灰白色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残 存
Na-33	蓋 須 恵		覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含む
Na-34	蓋 須 恵	□-18.8 高-4.9	覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-35	蓋 須 恵		覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残 存
Na-36	蓋 須 恵	□-17.0 高-2.7	覆 土		②灰白色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残 存
Na-37	蓋 須 恵	□-16.0 高-6.0	覆 土	先端が欠損。宝珠。	②灰色 ③細砂粒含む ④ほぼ完 形
Na-38	蓋 須 恵	(□)17.8 (高)3.1	覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰色 ③細砂粒含む ④破片
Na-39	坏 須 恵	(□)11.0 (高)3.1 (底)7.7	覆 土	内面 底面轆轤痕残る。底部 回転ヘラ調整。 回転ヘラ切り可能性有り。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-40	坏 須 恵	□-12.4 高-3.5 底-7.8	覆 土	底部 回転糸切り。右廻り。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存

5. 検出された遺構と遺物

D-4号溝 No-41	坏 須 恵	口-11.2 高-3.6 底-8.0	覆 土	内面 底部轆轤痕残る。	②灰色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-42	坏 須 恵	口-13.0 高-3.2 底-8.1	覆 土	口縁部 やや歪む。底部 回転糸切り。	②灰白色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-43	坏 須 恵	口-12.0 高-3.3 底-8.5	覆 土	底部 回転ヘラケズリ。	②灰白色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-44	坏 須 恵	口-13.8 高-3.9 底-8.5	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④完形
No-45	坏 須 恵	口-11.6 高-3.0 底-8.8	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-46	坏 須 恵	口-13.8	覆 土	底部 回転ヘラ調整。同心円中心にヘラ痕。	②灰白色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-47	坏 須 恵	(口)14.0 (高)4.0 (底)9.8	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-48	坏 須 恵	口-14.7 高-3.9 底-10.1	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-49	坏 須 恵	(口)15.0 (高)3.7 (底)10.3	覆 土	底部 回転ヘラ切り。ヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-50	坏 須 恵	(口)14.7 (底)11.4	覆 土	底部 回転糸切り。右廻り。	②灰白色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-51	坏 須 恵	口-15.2 高-3.8 底-12.3	覆 土	底部 回転ヘラ調整。 内面 底部に轆轤痕残る。	②にふい黄橙色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-52	埴 須 恵	底-8.8	覆 土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰色 ③密 ④底部のみ残存
No-53	皿 須 恵	(底)13.4	覆 土	つまみ高台。底部 回転糸切り。	②灰白色 ③細砂粒含む ④底部 $\frac{1}{2}$ 残存
No-54	坏 土 師	口-15.8 高-5.1	覆 土	内面 放射状研磨。底部ヘラ調整。	②にふい橙色 ③1~2mmの砂粒 含む ④完形
No-55	埴 須 恵	口-18.7 高-8.2 底-10.2	覆 土	付高台。	②灰白色 ③細砂粒含む ④ほぼ 完形
No-56	大形埴 土 師	口-26.0	覆 土	内・外面共にナデ。	②橙色 ③中砂粒含む ④口縁 $\frac{1}{2}$ 残存
No-57	坏 土 師	口-13.0 高-3.9	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。	②橙色 ③細砂粒含む ④完形
No-58	坏 須 恵	口-10.8 高-3.0 底-8.3	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②青灰色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-59	坏 須 恵	口-12.4 高-3.3 底-8.5	覆 土	底部 手持ちヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④ほぼ 完形
No-60	坏 須 恵	(口)14.8 (高)4.0	覆 土	口縁部 直状に外傾する。内・外面共にナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-61	坏 須 恵	(口)12.7 (高)3.3 (底)9.4	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存

## (3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

D-4号溝 Na-62	坏 須 恵	(口)14.0 (高)3.7	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-63	坏 土 師	(口)13.8 (高)3.3	覆 土	体部から底面に稜を持つ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④破片
Na-64	坏 土 師	(口)14.0 (高)4.4	覆 土	口縁部 直状に外傾する。内・外面共にナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-65	坏 土 師	(口)12.4	覆 土	体部から底部に稜を持つ。	②橙色 ③細砂粒含む ④破片
Na-66	坏 土 師	(口)18.0 (高)4.8	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラ調整。内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-67	坏 土 師	(口)12.0 (高)4.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。内面 ナデ。底部 ヘラ 調整。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-68	坏 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 直上に立ち上がり、ナデ。体部 ヘ ラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-69	坏 土 師	口-16.0	覆 土	手持ちヘラ調整。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部欠落
Na-70	坏 土 師	(口)16.0 (高)5.6	覆 土	内・外面共にナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-71	坏 土 師	(口)17.3	覆 土	内・外面共にナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-72	坏 土 師	(口)12.0 (高)4.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ、直状に外傾する。底部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-73	坏 土 師	(口)19.5	覆 土	内・外面共にナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-74	坏 土 師	(口)12.8 (高)3.8	覆 土	口縁部 ヨコナデ。内面 ナデ。底部 ヘラ ケズリ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-75	坏 土 師	(口)12.2 高-3.5	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-76	坏 土 師	(口)13.0 高-4.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 強残 存
Na-77	坏 土 師	(口)12.0 高-4.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-78	坏 土 師	(口)12.8 (高)3.5	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-79	坏 土 師	(口)11.2 (高)3.8	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-80	坏 土 師	口-12.0 高-4.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。内側にやや屈曲する。体 部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④完形
Na-81	坏 土 師	口-12.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
Na-82	坏 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。内側にやや内湾する。体 部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存

5. 検出された遺構と遺物

D-4号溝 No-83	坏 土 師	口-11.2 高-3.6	覆 土	口縁部 ヨコナデ。内側にやや屈曲する。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-84	坏 土 師	口-12.0 高-3.7	覆 土	口縁部 ヨコナデ。直上に立ち上がる。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-85	坏 土 師	口-12.0 高-3.6	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存
No-86	坏 土 師	(口)15.0	覆 土	口縁部 内・外面ヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	②にぶい橙色 ③中砂粒含む ④ ¾残存
No-87	坏 土 師	(口)13.0 (高)3.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-88	坏 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存
No-89	坏 土 師	口-11.8 高-3.2	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-90	坏 土 師	(口)14.0 (高)3.5	覆 土	口縁部 やや立ち上がり、ナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-91	坏 土 師	口-12.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-92	坏 土 師	(口)12.0 (高)2.8	覆 土	口縁部 直上に立ち上がり、ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-93	坏 土 師	(口)14.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-94	坏 土 師	(口)12.0 (高)3.2	覆 土	口縁部 直立し、ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-95	坏 土 師	口-12.0 高-3.0	覆 土	口縁部 やや直上に立ち上がる。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④完形
No-96	坏 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 直上に立ち上がる。	②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒 含む ④½残存
No-97	坏 土 師	口-11.5 高-3.2	覆 土	口縁部 直上に立ち上がり、ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-98	坏 土 師	(口)12.0 (高)3.4	覆 土	口縁部 直上に立ち上がり、ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-99	坏 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 やや内湾し、ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-100	坏 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 やや直上に立ち上がり、ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-101	坏 土 師	口-12.0 (高)3.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½弱残 存
No-102	坏 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-103	坏 土 師	(口)13.2 (高)4.5	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存

## (3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

D-4号溝 No-104	坏 土 師	口-16.0 高-3.4	覆 土	口縁部 ヨコナデ。底面 ヘラ調整。内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存
No-105	坏 土 師	(口)17.0 (高)3.2	覆 土	口縁部 内・外面ヨコナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-106	坏 土 師	(口)16.2	覆 土	口縁部 外湾し、ヨコナデ。体部 ヘラケズ リ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-107	坏 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存
No-108	坏 土 師	(口)12.2	覆 土		②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④½弱残存
No-109	坏 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 直立ぎみ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½弱残 存
No-110	坏 土 師	(口)13.0	覆 土		②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④½強残存
No-111	坏 土 師	(口)12.0 (高)3.5	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラ調整。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½弱残 存
No-112	坏 土 師	(口)12.6	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②にふい橙色 ③細砂粒含む ④ ½残存
No-113	坏 土 師	(口)12.1	覆 土		②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存
No-114	坏 土 師	(口)13.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-115	坏 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 内・外面共ヨコナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-116	坏 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 内・外面共ヨコナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-117	坏 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 内・外面共ヨコナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-118	坏 土 師	(口)11.8	覆 土	口縁部 内・外面共ヨコナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-119	坏 土 師	口-11.3 高-3.1	覆 土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。外体部 ヘ ラケズリ。内面 ナデ。	②明赤褐色 ③細砂粒含む ④ほ ぼ完形
No-120	坏 土 師	口-12.0 高-3.6	覆 土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。外体部 ヘ ラケズリ。内面 ナデ。	②明赤褐色 ③細砂粒含む ④ほ ぼ完形
No-121	坏 土 師	口-12.7 高-3.5	覆 土	体部 外面ヘラケズリ痕明瞭でない。内面 ナデ。	②にふい橙色 ③1~2mmの砂粒 含む ④完形
No-122	坏 土 師	(口)11.2	覆 土	口縁部 直立ぎみ、ヨコナデ。体部 ヘラケ ズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-123	坏 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 直立する。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存
No-124	坏 土 師	(口)13.0	覆 土	口縁部 直立ぎみ。	②橙色 ③細砂粒含む ④½残存

5. 検出された遺構と遺物

D-4号溝 No-125	坏 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 直立ぎみ。	②橙色 ③1～2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-126	坏 土 師	(口)12.5	覆 土	口縁部 直立ぎみ、ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-127	坏 土 師	(口)11.6	覆 土		②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 弱残存
No-128	坏 土 師	(口)11.8	覆 土	口縁部 直立ぎみ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-129	坏 土 師	(口)13.0	覆 土	口縁部 直立ぎみ、ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-130	坏 土 師	(口)13.0	覆 土	口縁部 直立ぎみ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-131	坏 土 師	口-14.8 高-3.3	覆 土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。外面 体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④完形
No-132	坏 土 師	(口)12.0	覆 土		②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-133	坏 土 師	(口)14.0	覆 土	口縁部 外湾し、ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-134	坏 土 師	(口)14.0	覆 土	口縁部 外湾する。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-135	坏 土 師	(口)14.0	覆 土		②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-136	坏 土 師	(口)14.0	覆 土	口縁部 稜をもつ。	②橙色 ③1～2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-137	坏 土 師	(口)14.0	覆 土	口縁部 外湾する。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-138	坏 土 師	(口)14.0	覆 土	口縁部 外湾し、ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-139	坏 土 師	(口)14.0	覆 土		②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-140	坏 土 師	(口)14.0	覆 土	口縁部 外湾する。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-141	坏 土 師	(口)14.0	覆 土	口縁部 外湾する。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-142	坏 土 師	(口)14.0	覆 土	口縁部 外湾する。	②橙色 ③1～2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 弱残存
No-143	甕 土 師	(口)25.0	覆 土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。	②明赤褐色 ③細砂粒含む ④口縁部一部残存
No-144	甕 土 師	(口)17.3	覆 土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。頸部 ヘラ痕あり。	②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
No-145	甕 土 師	(口)21.9	覆 土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。	②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存

## (3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

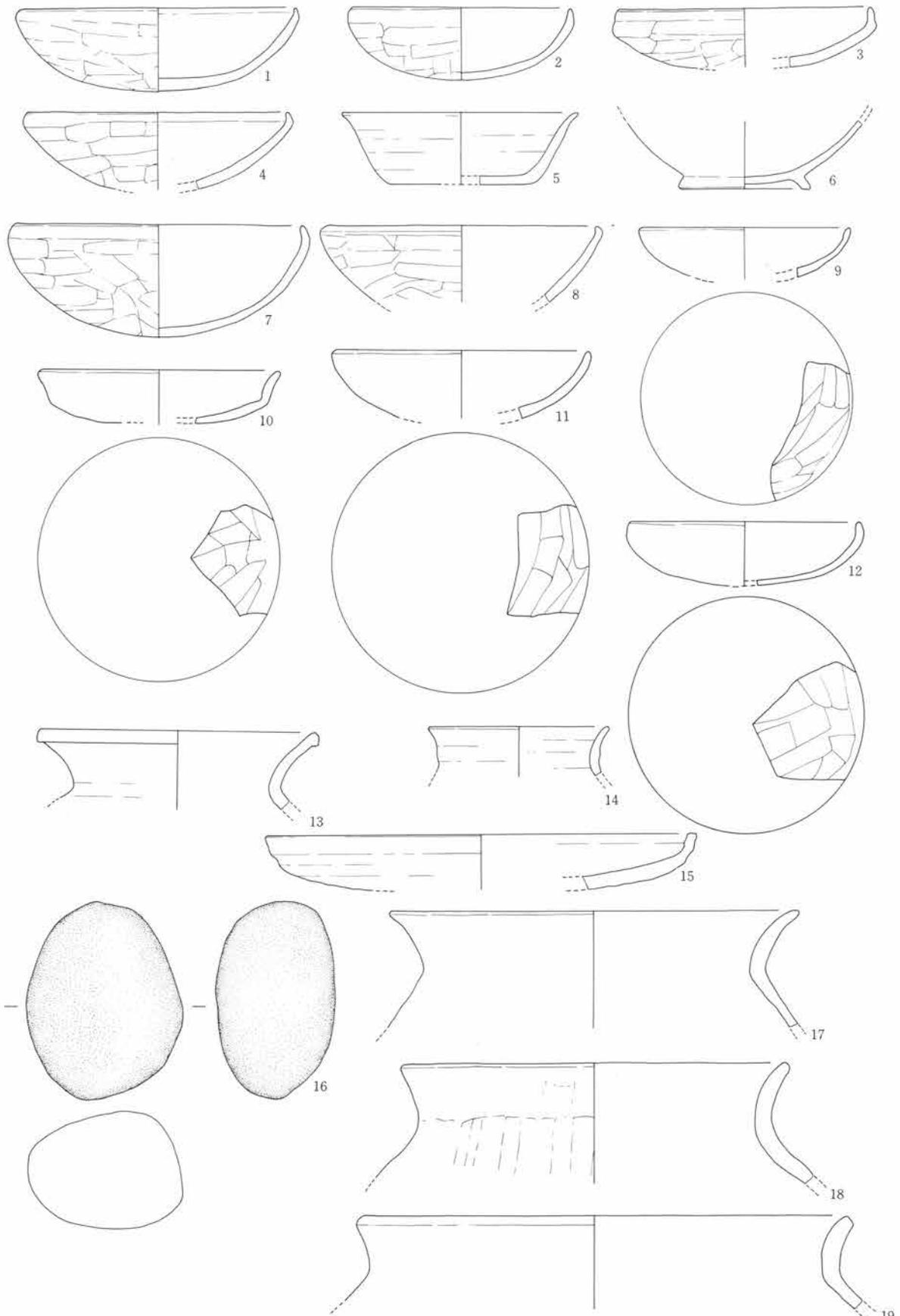
D-4号溝 No-146	甕 土師	口-22.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-147	甕 土師	(口)24.0	覆土	内・外面共にヨコナデ。頸部 ヘラ痕。	②明赤褐色 ③細砂粒含む ④口 縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
No-148	甕 土師	口-22.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
No-149	長頸壺 須恵	口-13.4	覆土		②灰色 ④頸部のみ残存
No-150	甕 土師	(口)27.8	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。胴上部 ヘ ラケズリ。	②にぶい橙色 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-151	壺 須恵	(口)12.0	覆土		②灰色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-152	壺 須恵	(口)13.0	覆土	口縁部 直上に立ち上がる。	②灰色 ③密 ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-153	碗 須恵	口-13.4 高-6.0 底-6.0	覆土	轆轤成形痕明瞭。	②灰白色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残 存
No-154	壺 須恵	(口)24.0	覆土	轆轤成形痕明瞭。	②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁 部一部残存
No-155	鉢 須恵	口-14.3 高-10.6 底-9.1	覆土	付高台。底部 回転ヘラ調整。	②灰色 ③細砂粒含む ④ほぼ完 形
No-156	壺 須恵	(口)27.8	覆土		②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁 部破片
No-157	壺 須恵	(口)16.8	覆土		②灰白色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残 存
No-158	壺 須恵	(口)24.0	覆土	頸部下より内・外面たたき目、あて目痕残る。	②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁 部 $\frac{1}{2}$ 残存

5. 検出された遺構と遺物

第100表 陶磁器観察表

図 番 号	器種・種別 釉	出土位置	量 目	胎土・焼成・釉色	摘 要	備 考
第268図 No-21	陶器 皿 長石釉	211号土坑 覆土	完器	淡黄灰色 並 淡黄灰色	内・外面に施釉される。内面に三目トチン痕あり。 底部は削り出し。	美濃焼 17C前半
第268図 No-23	陶器 皿 長石釉	211号土坑 覆土	完器	淡黄灰色 並 淡黄灰色	内・外面に施釉される。底部は削り出し。	美濃焼 17C前半
第289図 No-4	須恵器 台付甕 灰釉	遺構外	頸部欠損	黒色鉱物粒含む 焼締 灰緑色	台付甕で頸部より上方を欠損する。胴中央に穿孔 があり、右・右に波状文、上下に沈線区画がある。	秋間 7C前半
第289図 No-3	陶器 皿 灰釉	遺構外	完器	淡灰色 硬 淡灰色	体部外面下方を除き施釉される。内面に「一」か 又は筧傷あり。高台は削り出し。高台端部に重ね 焼痕あり。口縁部に油煙付着。	美濃焼 17C後半～ 18C初頭
第289図 No-2	磁器 皿 白磁釉	遺構外	完器	白色 硬 青白磁釉	体部外面下方を除き施釉。内面に釉剥ぎの蛇の目 あり。釉は浸し掛け。生掛け。	伊万里系 17C後半
第289図 No-1	陶器 皿 淡緑色釉	遺構外	完器	淡黄灰色 並 淡緑色	体部外面下方を除き施釉。内面に釉剥ぎの蛇の目 あり。生掛け。釉は銅を含む?	唐津系 17C後半
第289図 No-5・6	陶器 小碗 鉄釉	遺構外	完器	淡灰色 硬 黒褐色	体部外面下方を除き、天目釉が施釉される。高台 は、貼り付後の削り出し。	美濃焼 17C

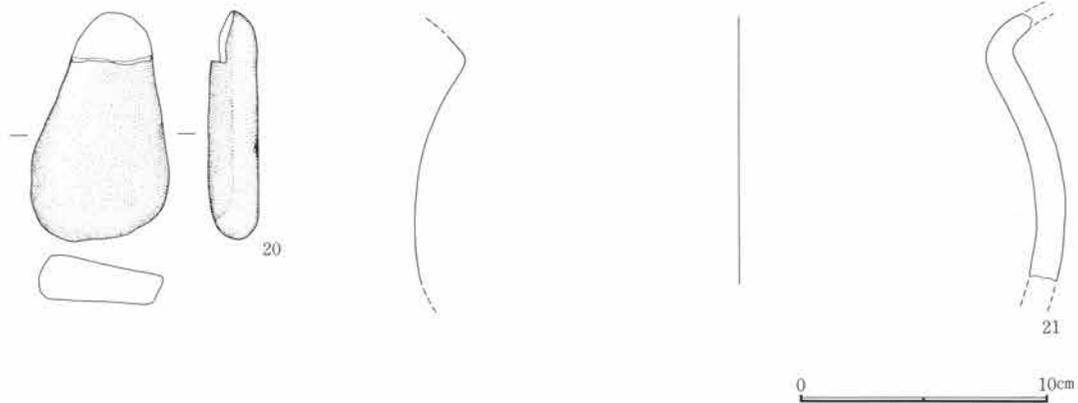
(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面



第290図 奈良時代生活面遺物図(1)

0 10cm

5. 検出された遺構と遺物



第291図 奈良時代生活面遺物図(2)

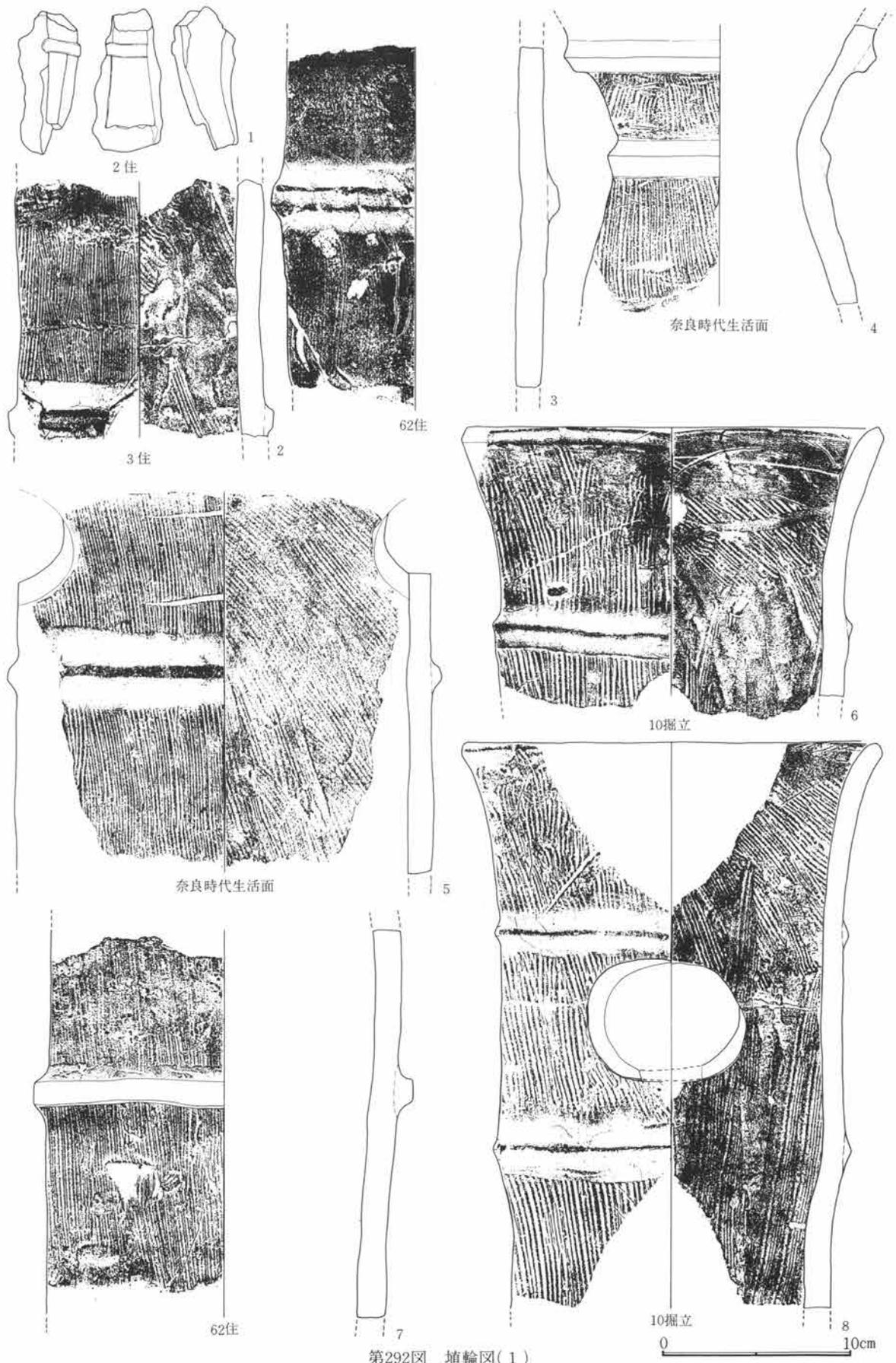
第101表 奈良時代生活面遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	口-15.0 高-4.3	44C18	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-2	坏土師	(口)12.0 高-3.7	53C11	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-3	坏土師	(口)13.7	54C10	口縁部 ヨコナデ。稜をもつ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-4	坏土師	(口)14.4	44C18	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-5	坏須恵	(口)12.5 高-3.8 底-7.5	55C9	口縁端部 やや外湾する。底部 雑な回転ヘラ調整。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-6	坏須恵	底-7.0	62C25	付高台 底部糸切り。	②灰白色 ③密 ④底部 $\frac{1}{2}$ 残存
No-7	坏土師	口-16.0 高-5.9	53C11	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
No-8	坏土師	(口)15.0	44C17	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②にふい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁破片
No-9	坏土師	(口)10.2	43C13	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁破片
No-10	坏土師	(口)12.8	47C13 No-17	口縁部 ヨコナデ。中段に稜をもつ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④口縁破片
No-11	坏土師	(口)13.8	No-22	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②にふい橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-12	坏土師	(口)12.6	48C13	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④口縁破片
No-13	壺須恵	(口)15.0	43C22	口縁部 稜をもつ。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁 $\frac{1}{2}$ 残存

## (3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

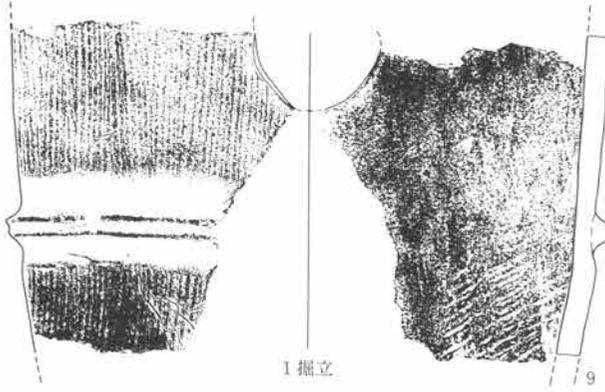
No-14	壺 須 恵	(口)9.6	43C22 No-1		②灰色 ③密 ④口縁 $\frac{1}{2}$ 残存
No-15	蓋 須 恵	(口)23.0	46C26	端部に沈線が巡る。外面 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③密 ④破片
No-16	石	(長) (幅) (厚)cm 12.0×7.3×6.0 706 g	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-17	甕 土 師	(口)21.6	54C11	口縁部 ヨコナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④口縁破片
No-18	甕 土 師	口-20.6	覆 土	口縁部 ヘラ痕。頸部 ヘラ調整痕。全体的に雑な調整。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁 $\frac{1}{2}$ 残存
No-19	甕 土 師	(口)25.2	53C	口縁部 ヨコナデ。	②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁破片
No-20	石	(長) (幅) (厚)cm 9.0×5.5×2.0 141 g	覆 土	流文岩。	
No-21	土 釜		覆 土	内・外面 刷毛状のナデ。	②灰白色 ③細砂粒含む ④破片

5. 検出された遺構と遺物

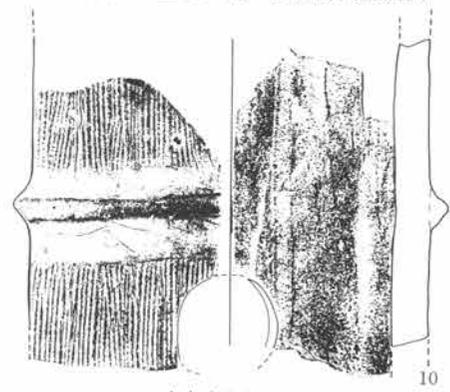


第292図 埴輪図(1)

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

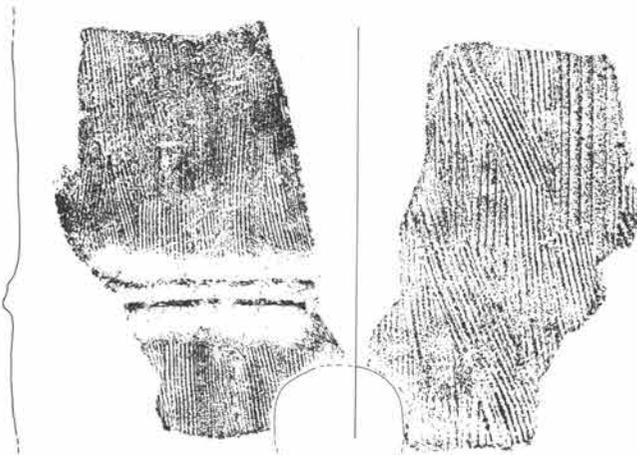


1 掘立

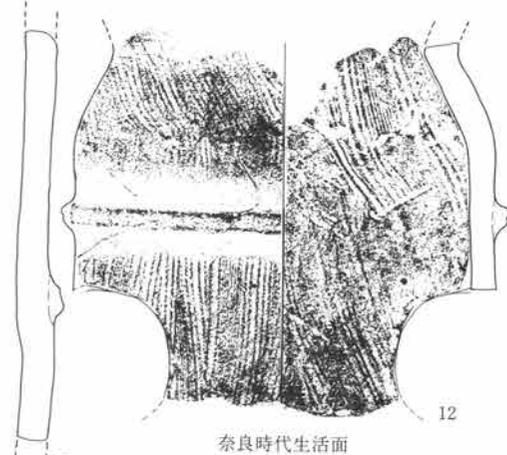


奈良時代生活面

10



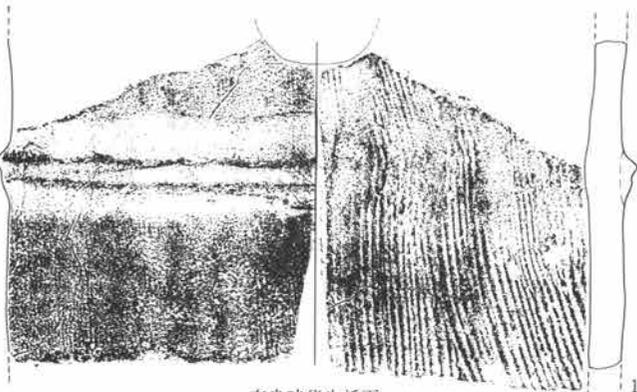
奈良時代生活面



奈良時代生活面

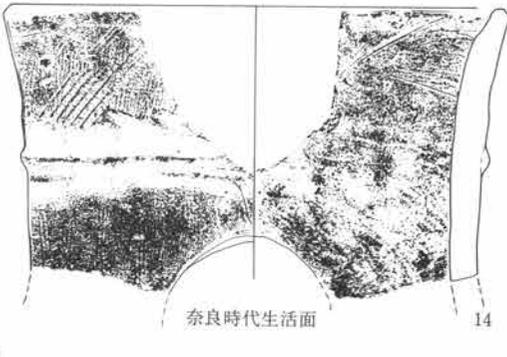
11

12



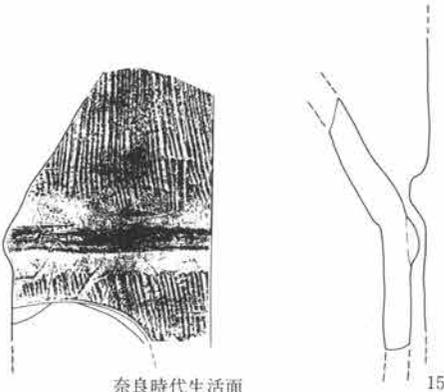
奈良時代生活面

13



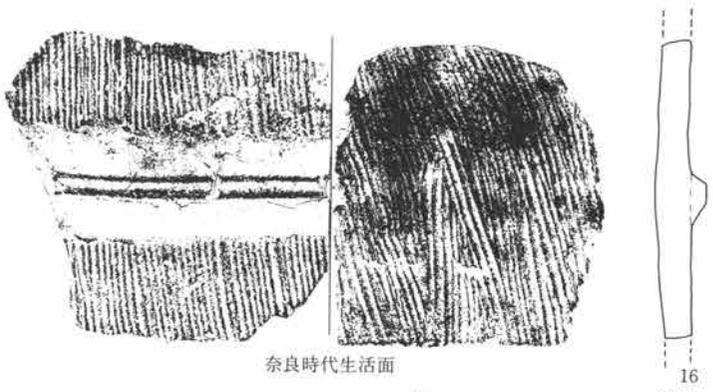
奈良時代生活面

14



奈良時代生活面

15



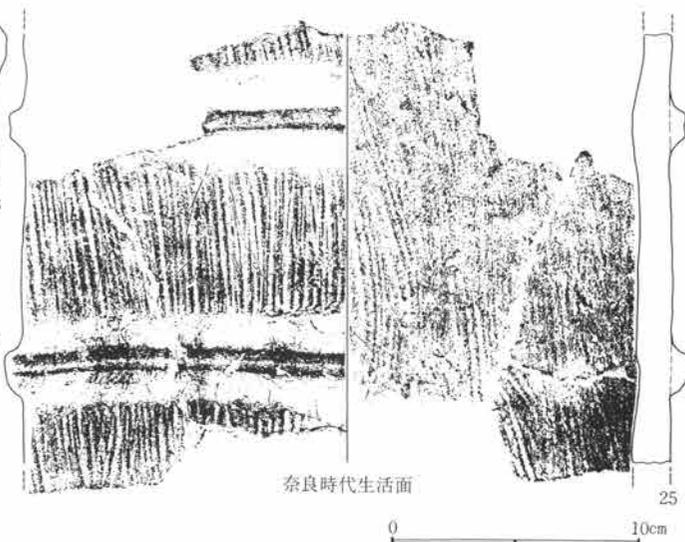
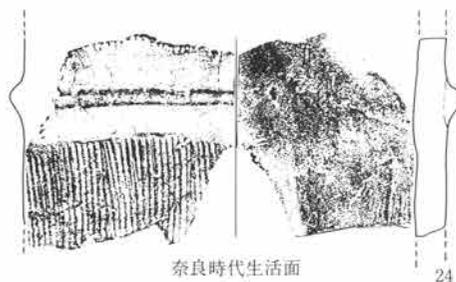
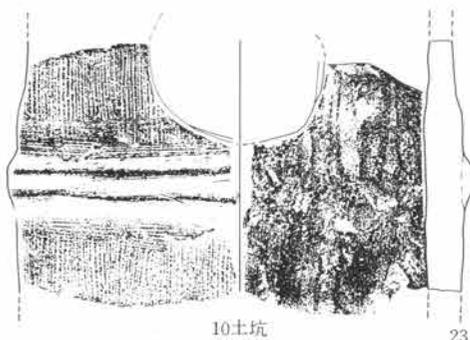
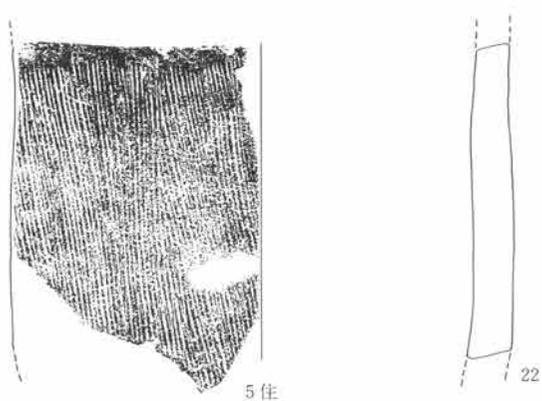
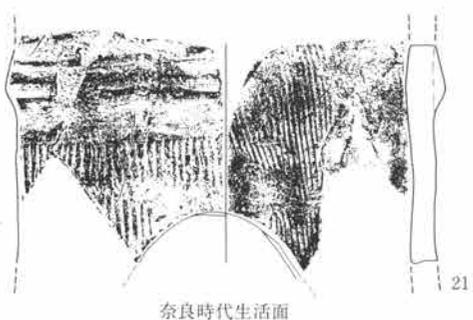
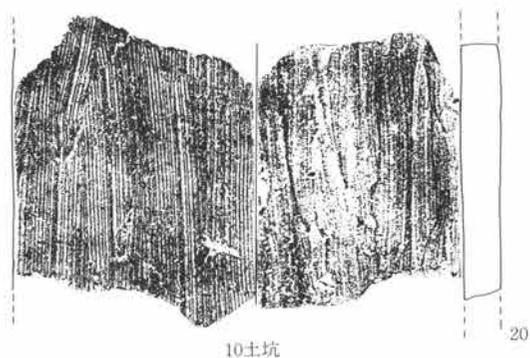
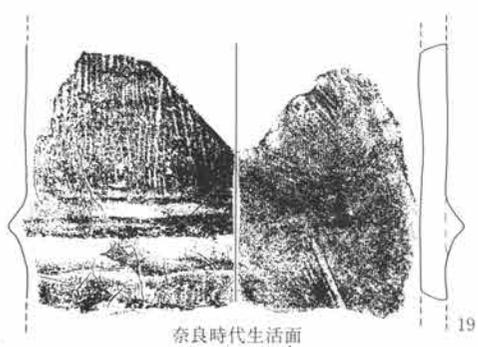
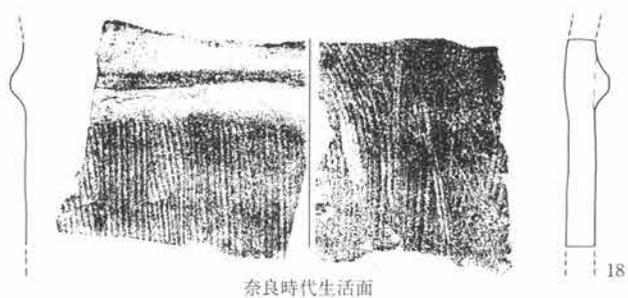
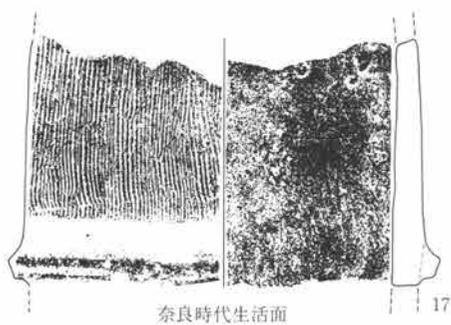
奈良時代生活面

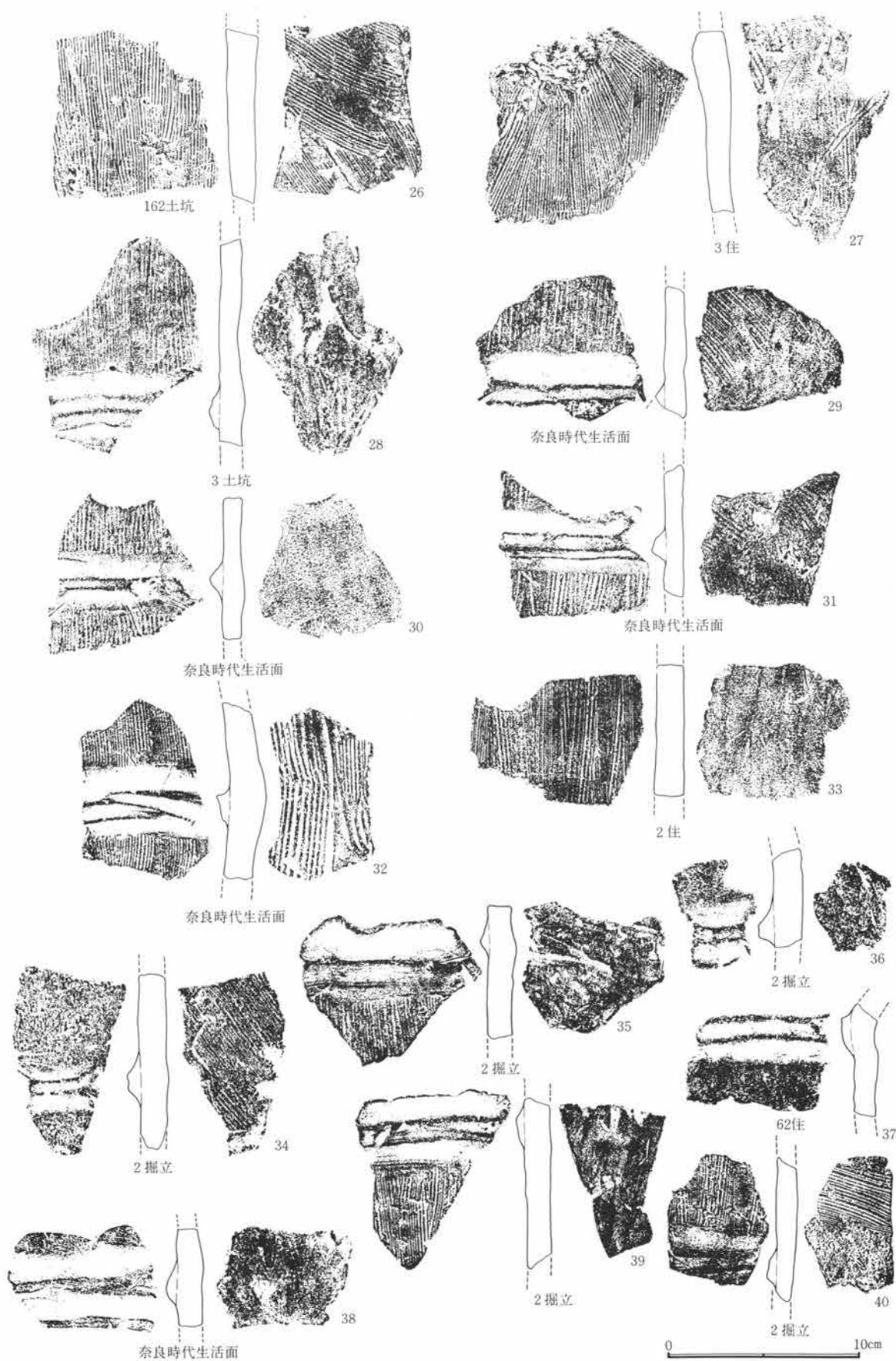
16

0 10cm

第293図 埴輪図(2)

5. 検出された遺構と遺物





第295図 埴輪図(4)

5. 検出された遺構と遺物



第296図 埴輪図(5)

## 6. 考 察

### (1) 瓦 類

#### 1. 瓦類の観察

本遺跡から277片の瓦片が出土し、整理担当から、瓦類をもって本遺跡の性格づけに寄与せよとの申し入れがあったのと、および発掘調査担当の一員であったのでその責を果たす意味で本稿を作成した。本書では細片を除き、遺構との共伴、接合関係の高い個体などを重視して総数53点の実測図、拓影図を掲げた。

観察については各固体を平等に扱う必要から共通の観察視点を設け全個一覧化した。その観察は第104～112表のとおり、遺物番号、出土地、瓦種類、胎土、色調、焼成、製作技法などについて項目を設けた。

まず種別は男・女瓦、鏡、宇瓦、面戸瓦と細片のため種別の判定が困難な個体もあり、それを不明とし、さらに補足は摘要欄に記入した。

量目は厚さのみを記入した。厚さは同一個体であっても均一ではないので各個体の平均と見える箇所を測定し、単位はセンチメートルである。

胎土は主体を占める素地（粘土粒子）と含まれる夾雑物とに分けしっかりと観察しなければならないが、本稿では製作地別の分類操作を行っているので、胎土の項目を除外した。

焼成はその堅さを締・硬・並・軟に4区分し、締は焼締のある個体、硬は爪を立てた場合に傷が付かないであろうと思える固体、軟は水洗いた時に摩耗してしまうように見える個体に用い、並は軟質と硬質との中間の場合に用いた。焼成に係わる色調は還元・酸化気味と明言できればよいのであるが、割れ口の芯と外面では差があったり、部分的に班文が生じていたり、一様でないので表面の色調をとらえた。おおむね、灰色気味は焼成の最終工程で還元気味に、橙色・褐色気味は焼成の最終工程で酸化気味になったものとしてきつつかえないであろう。

成形技法については一般的にいわれる作瓦技法<sup>(1)</sup>にのっとり、作瓦の工程が量産されたシステム製品であるとみなし粘土板剥取の有・無、一枚作りの可能性の有・無、粘土板の合目の有・無、生地<sup>(1)</sup>の叩締の方法などをとらえて6項目を設けた。

粘土板の剥取は布圧痕下に残る静止糸切状の条痕を粘土板剥取痕と見なした。桶巻作は桶の寄木状の単位が認められる場合に○を記入し、一枚作の根拠が得られる場合も○を付した。また群馬県内の女瓦例にも桶巻作が存在するため、桶巻作り観察の意識は男・女瓦とも共通である。桶巻作の寄木状の圧痕が不明瞭な時に？を付したが二者の根本的な作瓦技法を証左するためさらに粘土板合目、布合目の確認を次項で行い、該当する場合に○を付した。叩締については主として撫でによる素文、格子叩、平行叩とがあり、格子叩、平行叩ともに擦消があり、それらとは別に篋削が存在する。それぞれ技法名称を記入した。

整形技法については轆轤痕、篋削、布擦消、側部面取の4項目を設定した。

轆轤痕は桶骨桶上に粘土板が張り付けられている時、回転台の回転に伴う砂の移動や、回転篋削によって生じた削状痕が認められた時には○を記入し、曖昧な時は？を付した。布の擦消は男瓦で裏面、女瓦では表面上に残る布の圧痕を意識的に擦消しているように見える場合に有りとして○を記入した。側部面取は側面に見られる篋仕立の単位を数えたが、瓦の狭端部側には補足の面取がなされる例も多く、その際の面取も含む。

摘要には製作地である窯跡群の推定を肉眼観察し、その胎土の差異をもって大分類し、その名称を記入した。製作地域は各窯跡群で採集した資料の胎土を基としている。その分類は、量産製品としての作瓦技法の

6 考 察

共通性、さらに<sup>(2)</sup>1979年来、継続実施<sup>(2)</sup>している胎土分析成果を踏まえている。また瓦番号と本文実測図との対照用にも摘要欄を用い、補足事項も記入した。

2. 瓦類の観察結果

同一の観察は上野国分寺築地跡<sup>(3)</sup>、金井廃寺遺跡<sup>(4)</sup>、天代瓦窯遺跡<sup>(5)</sup>、日高遺跡<sup>(6)</sup>、下東西遺跡<sup>(7)</sup>で試みられ、その集合が第298図である。

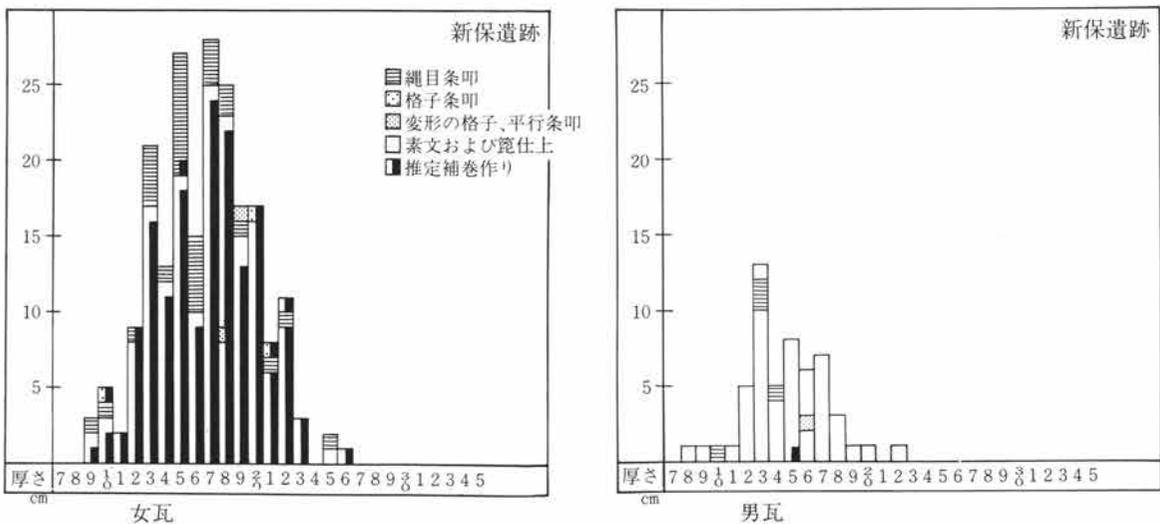
国分寺例(廃寺)は南縁築地跡に設けたA・Bトレンチから出土した瓦片の内173点の大形破片を任意抽出して作成し、その主体年代は8世紀中頃から9世紀初等頃である。金井例<sup>(4)</sup>は金堂址と考えられる中枢地域に散布していた122点の資料が供され、主体年代は7世紀後半から8世紀である。天代例<sup>(5)</sup>(瓦窯)は発掘調査で得られた51点を扱い、主体年代は8世紀中頃である。日高例<sup>(6)</sup>(集落関連、近接地に瓦葺建物を推定)は9世紀後半に埋没した154号溝から主に出土した瓦で隣接地に瓦葺建築址が想定でき、廃棄か故意による投棄瓦46点で主体年代は9世紀に置かれる。下東西例<sup>(7)</sup>(集落)はカマド材、住居内転用瓦などで、機能からすれば二次的な在り方であった。以上の比較例は遺跡の性格が瓦葺建築址ばかりではなく多様であるので注意されたい。

女瓦と男瓦の割合は女瓦209に対し男瓦55で、その割合は3.80 : 1となる。おおむね、本瓦建築物の女 : 男瓦の割合は2 : 1前後である。このことを検証した上野国分寺中間地域検出の中世寺院(仮称 小見廃寺<sup>(8)</sup>)例では瓦葺方試算で女瓦 : 男瓦 = 8 : 3 (2.66 : 1)、重量試算から出した出土総量比較で女瓦 : 男瓦 = 938枚 : 415枚 (2.26 : 1)であった。この結果からすれば上野国分寺例、金井廃寺例などは瓦葺建築址に近いと言えるものの、新保遺跡例の3.80 : 1の割合は、いささか遠いと言わざるを得ない。

第102表 女・男瓦の破片数量比較

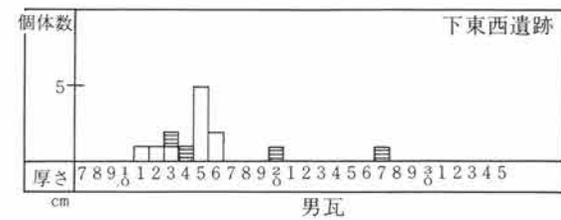
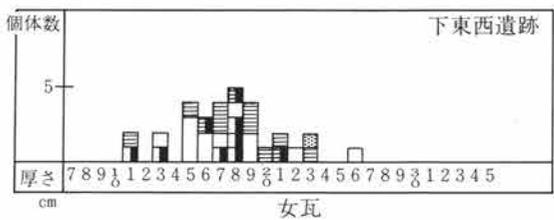
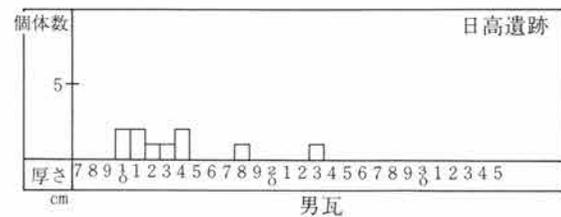
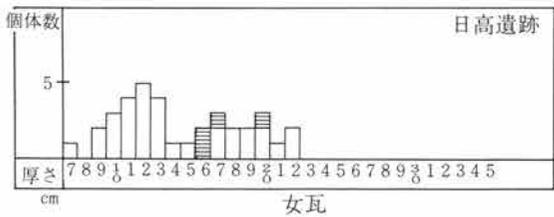
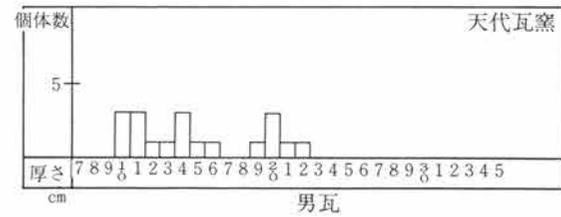
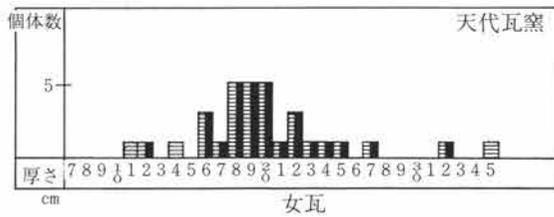
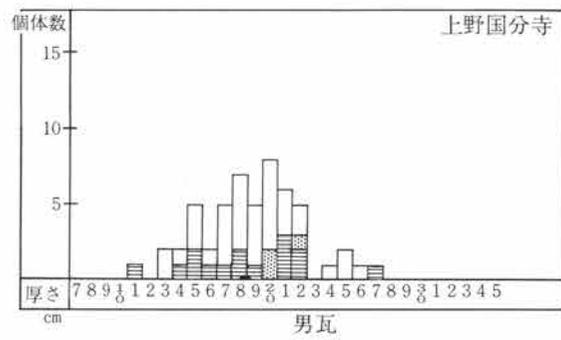
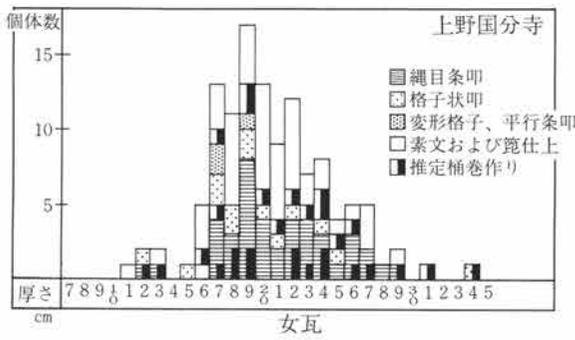
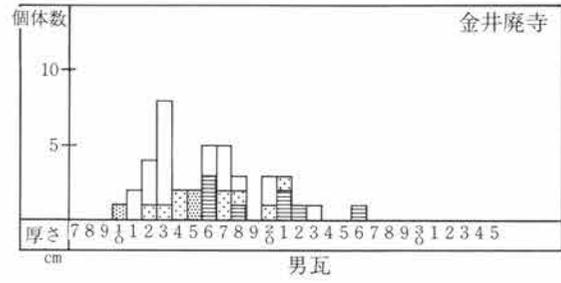
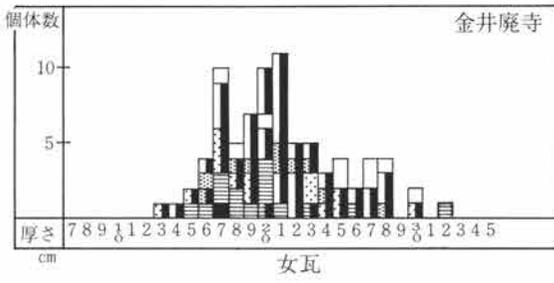
遺 跡 名 称	女瓦数	男瓦数	女瓦 : 男瓦
上野国分寺築地址	120	53	2.26 : 1
金井廃寺遺跡	81	41	1.97 : 1
天代瓦窯遺跡	32	19	1.68 : 1

遺 跡 名 称	女瓦数	男瓦数	女瓦 : 男瓦
日 高 遺 跡	10	36	0.28 : 1
下 東 西 遺 跡	32	14	2.28 : 1
新 保 遺 跡	209	55	3.80 : 1



第297図1 新保遺跡出土女・男瓦統計図

(1) 瓦 類



第298図 女・男瓦統計図

6 考 察

瓦の厚さは集計の結果第114表のとおりである。傾向としては製作年代が遡るにつれ厚くなり、同一遺跡であっても男・女瓦とでは各遺跡例ともに共通して女瓦の方がやや厚く、新保遺跡においても同様である。日高遺跡例が極めて薄いのは<sup>(6)</sup> 時期的な傾向である。<sup>(7)</sup> 下東西遺跡と新保遺跡例の値が近似しているのは、供給した製作地および製作の年代とが近似するためと考えられる。

粘土板剥取痕については桶巻作と推定される女瓦166点中に53例、一枚作で製作されたと考えられる11点のうち1例に認められ、全体として粘土剥取痕を残す例は多くはないが、他方で紐作りによる製作例が1例しか認められないので大半は粘土塊（たたら）からの粘土板剥取の方法により瓦材を得ていたと考えられる。粘土板剥取痕の桶巻作例と一枚作例との存在の割合は桶巻作例が32%で、一枚作例が9%である。その差はおそらく製作過程において一枚作の剥取条痕が残りづらい製作技法であったため、桶巻作に多く残るのは、製作の丁寧さもさることながら製作原材料の性質をある程度反映しての結果と考えられる。

女瓦の製作技法は統計化した206点のうち、桶巻作と考えられる桶木圧痕の見られる例が166点（81%）でそのうち擦・素文の172点中161例（94%）、縄叩の30点中2例（6%）、平行叩2点中1例（50%）、格子叩3点中3点（100%）が認められる。男瓦例にも寄木条痕の認められる例が瓦No74に1点だけ存在し、男瓦54点からすれば2%に満たない。一枚作は擦・素文の一群には認められず、縄叩の一群に11点存在する。したがって女瓦206点のうち、桶巻作によるもの166点（81%）、一枚作によるもの11点（5%）、不詳のもの29点（14%）であった。

第103表 女・男瓦の厚さの比較

遺跡名称と集計瓦年代		男 瓦		女 瓦	
		平均値	頂点	平均値	頂点
上野国分寺築地	8世紀中～9世紀	1.88	2.0	1.96	1.9
金井庵寺遺跡	7世紀後半～8世紀	1.59	1.3	2.04	2.1
天代瓦窯遺跡	8世紀中頃	1.48	1.0～2.0	2.00	1.8～2.0
日高遺跡	9世紀	1.4	1.0～1.4	1.45	1.1
下東西遺跡	7世紀末～9世紀	1.55	1.5	1.74	1.8
新保遺跡	7世紀末～9世紀	1.46	1.3	1.68	1.7

女瓦桶巻作の証左として布の合目、粘土板の合目について、擦・素文の161点中に布の合目、10例（6%）、粘土板合目18例（11%）で、縄叩の30点中に布の合目3例（10%）、平行叩2点中に粘土板合目1例（50%）が認められるが、女瓦桶巻作が4枚割で行われたとすれば、桶巻作と推定される166点の4分の1、41枚前後に粘土板の接合面、布の合目が認められてよいことと大差が生じる。<sup>(9)</sup> しかし、その点はかつて触れたとおり、模骨桶の合目、裁断予定位置に、粘土板接合面や、布の合目をそろえたためと解釈される。

叩については女瓦では擦痕・素文が172（83%）、縄叩（15%）、平行叩（1%）、格子叩（1.5%）であり、男瓦では擦痕、素文が49（90%）、縄叩4（7%）、平行叩1（2%）であり、女・男瓦はおおよそ相対する割合にある。

轆轤痕ないし、回転台痕は、僅な砂粒の移動であってもそれが回転に伴うと判断される例について、ありと考えた。女瓦の擦痕、素文の例では162（94%）点認められ、大半に模骨桶を回転台上に載せて製作する工程があったと見なされた。縄叩が施された例では11点の一枚作には認められず、桶巻作の証左がここでも得られる。男瓦の擦痕、素文では49例中40点（80%）に認められ、縄叩では1点のみであったが、擦痕・素文

の一群は大半が回転台に載せて製作されたとしてよいであろう。回転方向は108女瓦が左回り、109男瓦が左回りであった。

### 3. 瓦類の分類

製作地別と諸技法の特徴と差異をもって次のように分類した。

- |        |    |  |
|--------|----|--|
| 1 A類   | 男瓦 | 擦を密にした整形で、瓦No74に桶の寄木痕が残る。男瓦43点。  |
|        | 女瓦 | 擦を密にした整形で、大半に桶の寄木痕が残る。女瓦174・宇瓦1・面戸瓦5点。   |
| 1 B-1類 | 男瓦 | 未詳であるが男瓦も一枚作とは考え難いので1 B-4類が対応する可能性大。   |
|        | 女瓦 | 一枚作瓦で側部に布目あり。表面は縄叩で、縄叩目は叩具に横巻。11点。   |
| 1 B-2類 | 男瓦 | 未詳であるが縄叩を部分的に消す1 B-4類が対応する可能性大。  |
|        | 女瓦 | 全面に長大な縄叩を長軸に則して施し、小口の上下にも横向きにして長大な縄叩を施す。縄目は細かい例と、やや太目の例とがある。女瓦16点中に3点が一枚作、1点が桶巻作である。この種類は一枚作と桶巻作の転換期にある。                           |
| 1 B-3類 | 男瓦 | 未詳。県内で存在未確認。   |
|        | 女瓦 | 裏面に叩板に対して横巻にした太い縄叩を施す。1点。  |
| 1 B-4類 | 男瓦 | 表面に叩板に対して横巻にした縄叩を施し、さらにそれを消す。4点。   |
|        | 女瓦 | 表面に叩板に対して横巻にした縄叩を施し、さらにそれを消す。1点。   |
| 1 C類   | 男瓦 | 未詳。1 A類の中に存在するか不詳。   |
|        | 女瓦 | 格子の叩を施し、さらにその後を入念に擦消。1類の下地成しは、この方法によるとも考えられるが実例がNo1・2の正格子、No3の斜格子の2例しか見られない。   |
| 2 A類   | 男瓦 | 浅い平行叩を施し、全体に薄作りである。3点。   |
|        | 女瓦 | 未詳。県内で存在確認。  |
| 2 B類   | 男瓦 | 素文であり、全体に薄作りである。   |
|        | 女瓦 | 未詳。県内で存在確認。  |
| 3類     | —  | 製作地不詳の一群。 No1、素文で土軽い。女瓦1点。<br>No2、紐作りで土軽い。男瓦1点。<br>No3、平行叩で、布目痕なく擦痕。土軽い。女瓦1点。<br>No4、縄叩で土軽い。女瓦1点。<br>No5、土軽く、土の軽さはNo2、3に似て軽い。宇瓦1点。 |

以上、大きく1～3に類別したが、基本的には胎土別の区分である。1類は黒色の粘土物質粒を含み、白色鉍物粒の少ない安中市秋間窯跡群で製作され基本的には秋間層群の陶土地帯の土味。2類は白灰・黒色鉍物粒を多く含み、割れ口の素地走行が層状をなす一群で、多野郡吉井町多比良近辺の富岡層群中に営まれた吉井窯跡群の製作と見られる製品である。3類は製作地不詳の一群の製品である。

さらに1類の中で窯跡の限定される例がある。1 A類は秋間窯跡群の八重巻支群<sup>(11)</sup>を中心として同級が採集される。1 B1～3類は秋間窯跡群中の刈根・八重巻支群<sup>(12)</sup>で多く採集され、1 B-1類は高崎市乗附窯跡群<sup>(13)</sup>においても採集されている。また3類No2・3・5は国を越えた鎧瓦として知られる鎧瓦中背面に布紋目の見られる瓦に共通する胎土である。それは窯跡の実態不明であるものの分布傾向は東毛地域(第299図)<sup>(14)</sup>である。

6 考 察

4 考 察

次に類別した一群について年代観と瓦観察から得た所見に触れたい。

(1) 類別種の時期

1類 1A類の胎土は厳密に言えば灰色を呈し、並〜軟質で比較的夾雑物量が少なく、1類の大半を占める一群と煨焼が及び黒灰色を呈し、硬質で比較的夾雑物量の多い一群がある。前者の大半は秋間窯跡群八重巻支群の焼造で、前橋市山王廃寺創建期に主体供給され、主体をなす組瓦の鏡・字瓦は複弁七葉蓮華文と曲線頸三重弧文である。しかし、この一群の中に少量であるが、同一手法をとる後出の上野国分二寺創建段階までの例も含まれているので、わずかではあるが対応の軒瓦を別に考えておく必要がある。たとえば309図の六弁鏡瓦などがそれである。後者は窯跡確認がされていないが胎土に特徴的に含まれる黑色粘土物質粒の存在から前者と同様に秋間窯跡群の焼造と目され、主体供地は山王廃寺で、組瓦の鏡・字瓦は素弁八葉蓮華文瓦と幅の広い有段頸三弧文瓦が類推できるほか不確定要素の少ない一群である。両者ともに県内古瓦の変遷観からすれば第III期に位置づけられる。第III期の幅は7世紀第四半世紀から8世紀初頭までの間である。

1B-1〜4類のうち1B-2類は女瓦桶巻作から一枚作へと技法の移行が類推され、それは長期に亘る転換ではなく、例えば8〜9世紀初頭の秋間窯跡群葺根I〜III号窯灰原から両技法を用いた瓦が出土し、既出須恵器の年代幅からして短期の移行が示唆される。住居跡からの検出例では高崎市熊野堂遺跡第1地区11号土壌から8世紀後半以前の須恵器を共伴して一枚作の本類が出土し、既に一枚作に移行していることが判る。女瓦の桶巻作は上野国分寺で25%の確認率であった。1B-1・3・4類の女瓦には桶巻作が確認されず一枚作の製作と推定され、いずれも高崎市熊野堂遺跡Iで9世紀以前に存在が確認されている。上野における本格的な縄叩技法を用いた量産は上野国分寺統一意匠に伴う字瓦からであり、古代におけるその下限は東毛・西毛地域について生産の終末まで存続すると考えられるが、量産の終末は高崎市日高遺跡、平安154号溝出土瓦からある程度知ることができる。日高遺跡出土瓦はそう多くはないが一部に縄叩技法が用いられた

	第I期類	第II期類	第III期類	第IV期類	国分寺建立以降
上橋本廃寺					
全井廃寺					
寺井廃寺					
山王廃寺					
上野国分寺					
同	1-8 石田茂作 『飛鳥時代寺院址の研究』 1936				
	15-18 尾崎善左雄 『寺井廃寺』 『日本考古学年報-1』 1948				
	23 住谷輝ほか 『上野国分寺瓦紋複製』 1954				
尼寺	9-14 『全井廃寺遺跡』 1979				
雷電山瓦窯					
秋間古窯址群					

第299図 上野国における鏡瓦の変遷（『天台瓦遺跡』1982による）

(1) 瓦 類

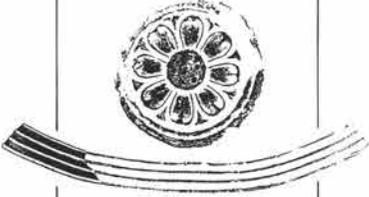
一枚作女瓦があり、主体は2A・B類であった。このことから縄叩技法は日高遺跡出土瓦の製作段階の中で終息に向かっていると類推され、後出の手法を用いた2A・B類は9世紀後半に埋没した154号溝中に含まれていた。

2A・B類は吉井窯跡群製と考えられること、浅い平行叩ないし素文を特色とし、組瓦には古代上野鏡瓦約200種、宇瓦約100種の中で最も後出した鏡・宇瓦とが対応することが日高遺跡<sup>(22)</sup>で確認されている。日高遺跡では出土の過半以上が本類で、それらの多くは9世紀後半に埋没した154号溝から出土し、本類の主体時期は9世紀代と考えられる。

(2) 1A類の出現時期

1A類の主体に対応する鏡瓦について2種、宇瓦について本遺跡出土の三重弧文を加え2類を想定した。それらは前橋市山王廃寺創建期鏡・宇瓦の組合せで、そのうち秋間窯跡群八重巻支群で焼造された複弁七葉蓮華文鏡瓦は、山王廃寺のほか、太田市寺井廃寺、吾妻郡金井廃寺遺跡、新田郡入谷遺跡に同范関係（入谷例は酷似例）をもって供給され、上野国分寺造立前の段階では最も広域に広がりを見せ最大距離約40kmにおよんでいる。第301図はその広がり関係図で、第299図はその同范関係を基とする序列である。その中に位置する寺井廃寺の創建段階の鏡瓦は絶対量および数範種の複弁八葉面違鋸歯文瓦からなる鏡瓦で、現状で2点のみ秋間窯跡群で焼造された複弁七葉鏡瓦が確認され、それを補填瓦と考え、瓦の組合せ観からすれば面違鋸葉文瓦に後出して存在が類推される。寺井廃寺出土の複弁八葉面違鋸歯文鏡瓦の様式は奈良県川原寺に源をたどることができ、県内では寺井廃寺に供給した太田市萩原窯跡、伊勢崎市上植木廃寺を含め、計3箇所から出土している。関東地方では千葉県大寺廃寺、下野薬師寺に類例がある。この中で大寺廃寺例は大小蓮子のあり方や蓮子の高さが1cm以上の長円錐形をなす点において天智朝にあたる古式な川原寺出土例に近く、最も古い様相であり寺井廃寺例はそれよりも後出的である。

その年代観は川原寺式系の伝播の要因に壬申の乱(672)を契機とし、各地域に拡散したとの説がある。<sup>(30)</sup>下

	新 保	秋間八重巻支群	山王廃寺	他遺跡例
有段顎重弧字 素弁八葉鏡				
曲線顎重弧字 複弁八葉鏡				
素文中房鏡 有軸弁六葉				

第300図 新保遺跡予測される対応の鏡・宇瓦

野薬師寺にも『類聚三代格』および『続日本紀』に太政官符による記事があり、天武朝政権<sup>(31)</sup>とのかかわりを持っていたことは確かである。寺井例は様式上下野薬師寺例とほぼ共通する点が多く、寺井例をおおむね天武朝<sup>(32)</sup>期に置いてよいと考えられる。

一方、山王廃寺は近年の発掘調査により「放光寺」<sup>(33)</sup>銘瓦が複数例をもって出土し、またその立地は尾崎喜左雄氏<sup>(31)</sup>説とは異なるが旧説に土屋文明氏<sup>(32)</sup>などの解釈があり、両氏の解釈を再構成すると「さぬ」の地の一角に山王廃寺を置くことが可能で、天武天皇十年（681）の建立とされる「山ノ上碑」銘文中にあらわれた「放光寺」にあたかも一致を見、少なくとも天武年間に山王廃寺=放光寺は存在したとしてさしつかえない。山王廃寺の創建瓦である特異な複弁七葉蓮華文鏡瓦はこの後、高崎市でえせえじ散布地<sup>(33)</sup>、群馬郡奥原古瓦散布地<sup>(34)</sup>、多野郡吉井町雑木見遺跡<sup>(35)</sup>、同馬庭東遺跡<sup>(35)</sup>などに後出の派生種を生み、山王・秋間系の瓦系譜を構成している。雑木見・馬庭東例は和銅4（711）年に建郡された多胡碑に接し、郡衙および郡名寺院の関連施設が推定される。既出瓦の中で最も古い鏡瓦に複弁七葉蓮華文鏡瓦があり、多胡郡建郡年との関連が濃厚で瓦製作年代を示唆する例と地域にとって極めて重要である。山王廃寺出土の複弁七葉蓮華文鏡瓦を畿内例から見れば、弁数が八弁であるが奈良県栗原寺<sup>(37)</sup>、京都府檜原廃寺例<sup>(38)</sup>に類似をみる。栗原寺は現存の金銅製の伏鉢銘によって持統天皇8年（694）に起工し、和銅8年（715）に竣工したことが刻銘されている。山王廃寺例は意匠構成が端正で施文も熟鋭の感があるためその二例より先行することはほぼ誤りない。また寺井廃寺の創建<sup>(39)</sup>について、かつて分類・検討を加えた結果からすれば、約2500点の古瓦片中、女瓦の大半は格子叩の成形で、いずれも創建種に近い胎土・焼成の質感を持って存在していた。格子叩種数は同範照合の結果、創建に係わる種は15種前後で極めて少ない数であった。このため早急な造瓦が窺え、おそらく寺井廃寺の建立は諸伽藍が整っていたとみなされる上植木・金井・上野国分寺<sup>(40)</sup>などの中で最も早く竣工したものと考えられ、同時に早急に竣工しなければならなかった背後事情があったと類推される。それに続く補填瓦と考えられる山王廃寺創建の複弁七葉蓮華文鏡瓦については前述までの検討によって寺井廃寺創建段階に直後続したとみなせば天武朝期（672～686年）末年から、その政策を受継いだ持統朝期（687～696年）の初頭に使用された可能性が高いものと類推されるのである。

### (3) 有軸弁六葉鏡瓦の年代

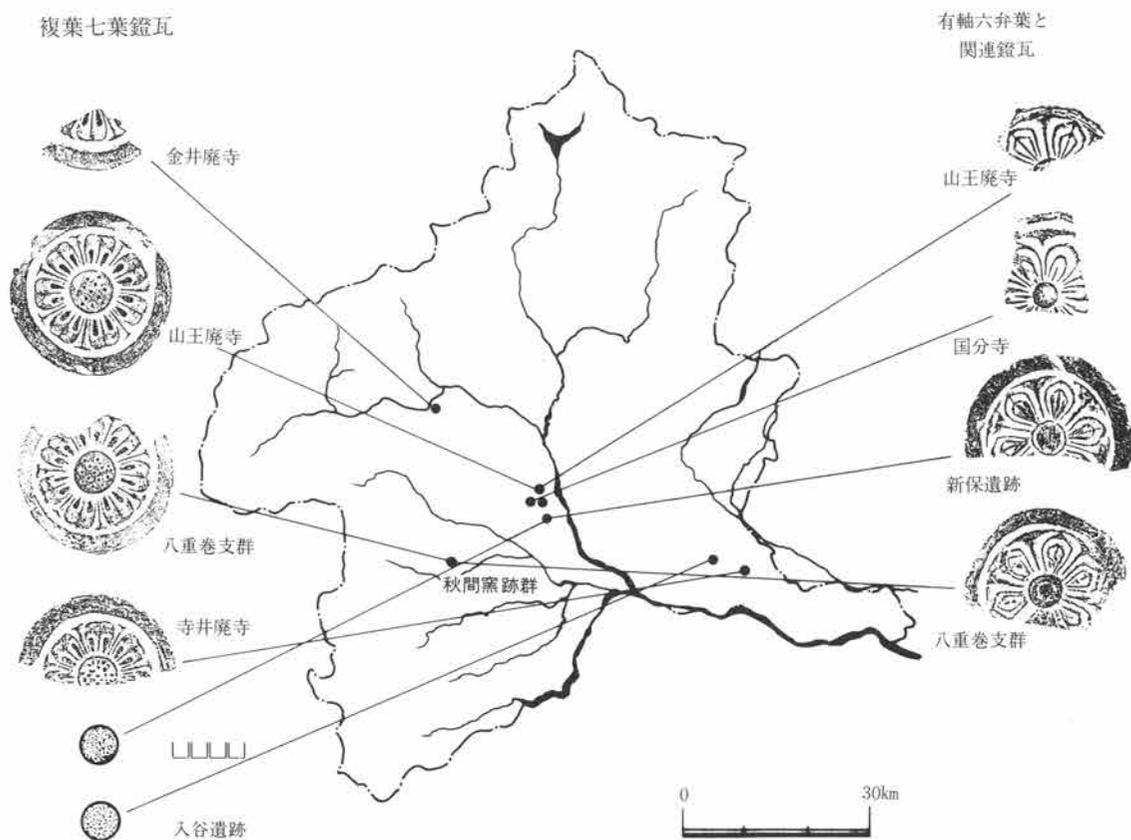
当遺跡から有軸弁六葉鏡瓦片が出土している。同範対照したもの<sup>(17)</sup>の確証が得られなかったが本例と酷似の鏡瓦は秋間窠跡群<sup>(50)</sup>八重巻支群<sup>(35)</sup>、山王廃寺、上野国分寺から既出している。この意匠はかつて検討したことのある上野国古代瓦の系統観から本例を位置づければ、八重巻例鏡瓦の弁形態は、有軸を単弁と見なせば二重郭弁+単弁で構成され、上野国分寺式鏡瓦の弁形態も二重郭弁+単弁の構成であり、両者に共通性がある。上野国分寺意匠が上野鏡瓦中から生まれたとすれば、最も近似しているのが八重巻・新保例の有軸弁六葉鏡瓦である。このため新保遺跡例の六弁は上野国分寺統一意匠（上野国分寺式鏡瓦）の量産段階の直前に置かれると推測される。

上野国分寺の造立は諸国分寺の創建段階では比較的早く着手されたと考えられる。ひとつには鏡瓦の内・外区の列点珠文帯の盛行が県内古変遷観に言う第IV期類の新羅系の小数と第III期の山王廃寺創建期の複弁七葉鏡瓦の一部の外区にわずかに盛行するが国分寺では前代とのつながりにおいて背面に布紋目を有した問題を残す鏡瓦群を除けば珠文数を大巾に減じるか、まったく取り除くかした意匠の鏡瓦しか見られない。このことからすれば国分寺式の様式が絶対的な背後力をもって生まれたため、その直前まで盛行のきざしのあった連珠文の盛行までも斜陽に傾けたと解釈できるのである。仮に上野国分寺が各地におくれ在り地様式が展開しなければ東大寺式等に酷似した信濃国分寺、下総国分寺、常陸国分寺のように珠文帯の盛行があったと考

えられる。このため天平勝宝元年(749)おりしも東大寺大仏開眼の年にあたるが、碓氷郡の石上君諸弟、勢多郡の上毛野朝臣足人らが国分寺に知識物を献じた頃はすでに着工されていたと考えられる。

上野国分寺式鏡瓦は、第IV期類に在地展開した高句麗・新羅様式が母胎となっている。第IV期(8世紀前半)の特質は西毛地域の造瓦の中心的系譜である山王・秋間系で素文中房、有軸弁、強調された弁間など高句麗系様式鏡瓦が反映し、それに対して東毛地域では上植木・雷電山系が中心的な造瓦の系譜を占め、細弁文と蓮子および強調された中房などの新羅系様式が反映し、前代の第III期類までに展開していた百済・初期唐様式をおさえ、大きく様式変貌している。そのことは第IV期に渡来人の殖産部門における強い台頭があったと類推され、上野国分寺の建立にあたりおそらくは周到な計画からなるプロジェクトチーム、いうならば造国分寺司のような施工組織<sup>(43)</sup>が設けられ、その中で上野国分寺統一意匠を決定する際、弁形態を高句麗系様式にとり、中房には新羅系様式をとるよう渡来人側の強い働きかけがあったと考えられる。その証左として対応の字瓦に畿内色の強い列点を配する偏行唐草文が採用されており、鏡瓦に渡来系抽象文の採用は時流にそうがごとき必然性ばかりでなく可成り難行の末に決定されたと察せられる。

上野国分寺式鏡瓦<sup>(44)</sup>は、総体として五弁と中房に1+4以上の蓮子数を取ることがきちんと守られ、他に垂式は認められても類似種は存在していない。その分布は上野国分二寺、上植木廃寺、寺井廃寺、佐波郡十三宝塚遺跡<sup>(44)</sup>、前橋市清里・陣場遺跡<sup>(45)</sup>が製作瓦窯として新田郡笠懸窯跡群<sup>(51)</sup>、藤岡市藤岡窯跡群<sup>(52)</sup>があり、<sup>(44)</sup> 範種類は現状で16以上を数えることができる。そのうち最も古い例は、上野国分寺、寺井廃寺、笠懸窯跡山際支群に例があり、山際窯跡の窯体中から第302図が採集されている。発掘調査をへていないので問題点も多いが既出瓦を見る限り、そのうち最も新しい意匠として十三宝塚遺跡例がある。十三宝塚遺跡では、古墳時代から



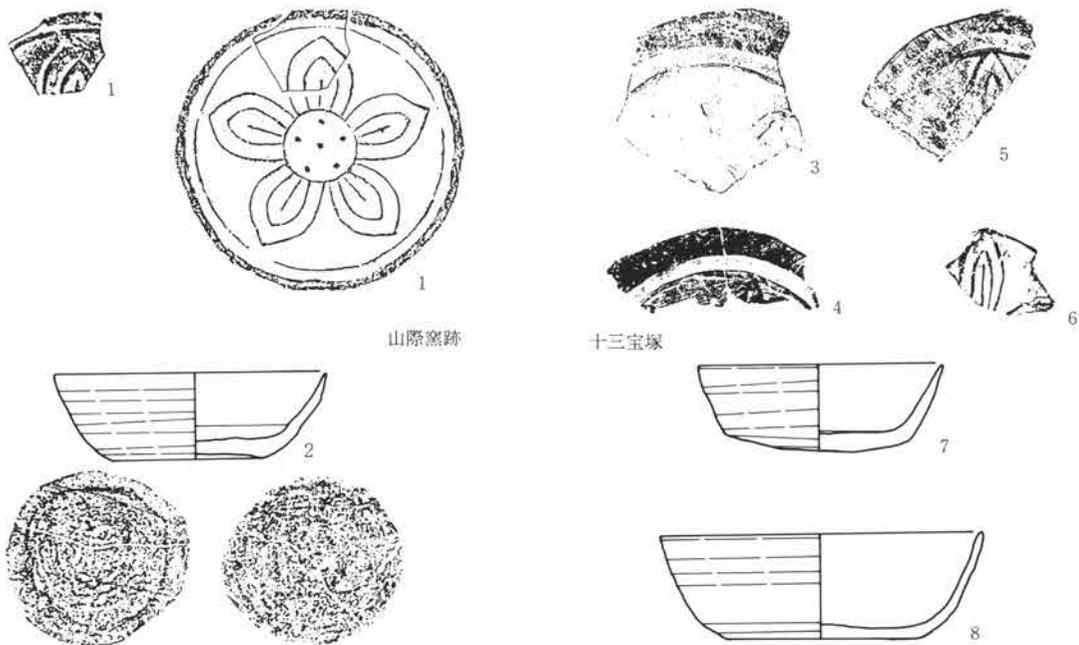
第301図 鏡瓦分布図

平安時代に至る間の住居跡が数十址調査され、一方で郡名寺院施設から瓦類が出土している。出土瓦は、多次元にわたるものではなく大半が組瓦関係を成し、鏡瓦は上野国分寺式であるが肉置きが浅く、弁形態も福よかでなく、さらに木範型の意匠が粗雑で、同型の中で最も後出した所産と判断される。住居址からは瓦が転用され出土しているが、その中で最も古い例は概報<sup>(45)</sup>によると32・36・37号住居跡などから瓦が出土し、32・36号住居はカマドに瓦組を用い37号住居跡からは三彩火舎の脚片が出土している。第302図に37号住居跡出土須恵器を掲げた。8は2と同様に底面全面回転篋調整、7は糸切後底面の周辺に回転篋調整を加えたものである。この山際例、十三宝塚例の両者に伴う須恵器坏が現状で上野国分寺鏡瓦の上限と下限を示す最も直接的な例となるが、その両例の器形状・技法を比較した場合、顕著な差はなく器形変化が早く進行する奈良時代にあつて、最大見ても四半世紀中に納まりうる幅の中にあると推考される。上野国分寺の建立が天平十三年の詔に則して実施に移されていれば上野国分寺式鏡瓦の製作は740年代から760年代頃に限定してよいと考えられる。したがって本遺跡出土の有軸弁六葉鏡瓦は上野国分寺式鏡瓦の使用段階に対比させれば初頭までに使用されたと考えられるから、740年代頃の製作としうるのである。

(4) 出土瓦の性格と出土傾向

各遺構出土瓦（第303図）を類形別にまとめると次のとおりである。

- 1 A類（7世紀第四半期が主体で8世紀中頃までを若干含む。）D-1号溝、D-4号溝、D-14号溝、1・2・10・11号掘立柱建物、真間生活面（奈良時代生活面）、1・4・8・33・45・48・51・52・61・62・91・92号住居、D-2～4号住居、3・8・30・198土壇、1号井戸
- 1 B1類（8～9世紀前半まで） D-1号溝、真間（奈良）生活面、27号住居
- 1 B2類（8世紀中頃） D-1号溝、27号住居、D-12号住居、32号土壇
- 1 B3類（8～9世紀前半まで） 10号住居

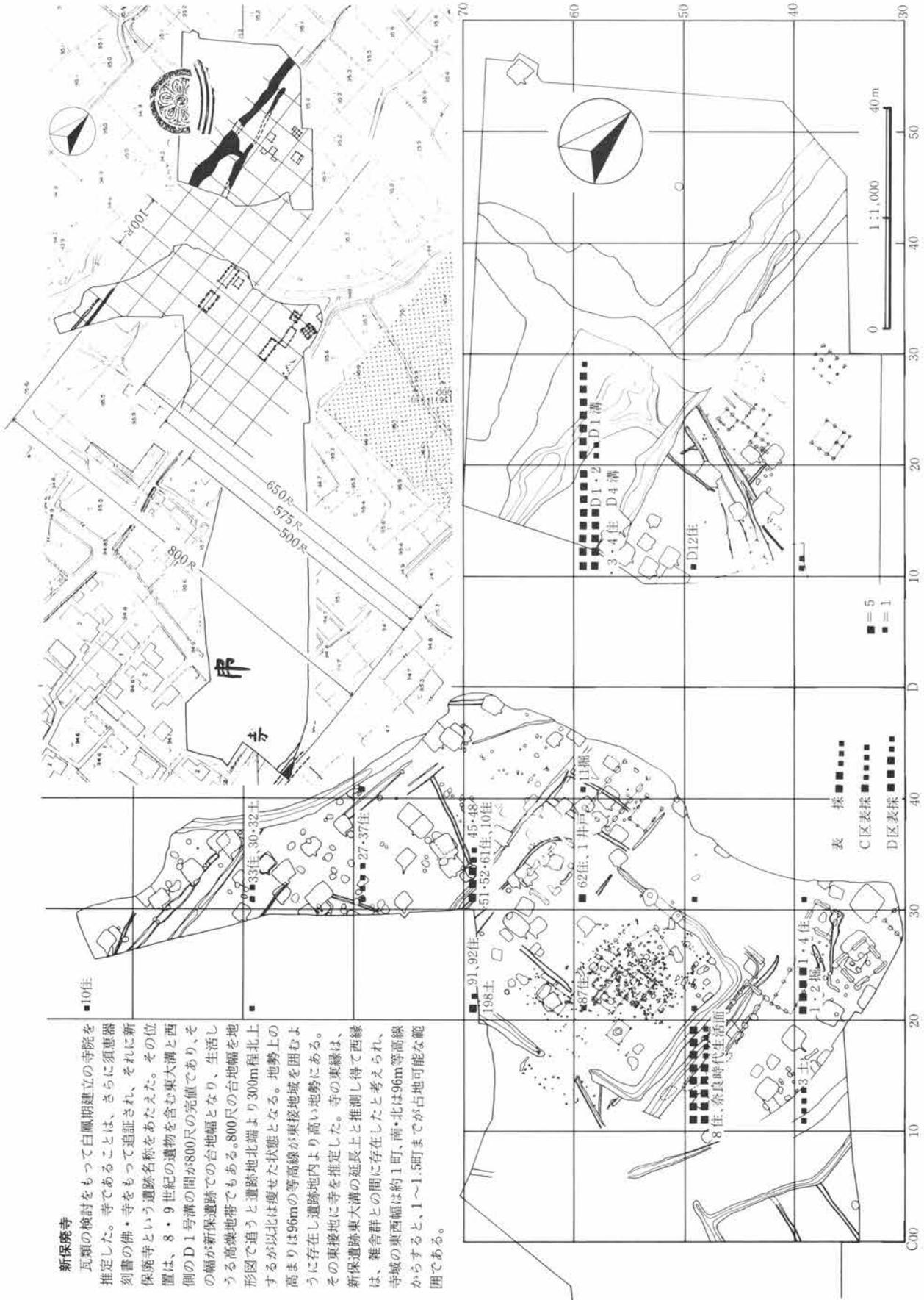


第302図 上野国分寺式鏡瓦に対応する須恵器の上限・下限形態 1：4

- 1 B 4 類 (8～9世紀前半まで) D-1号溝  
 1 C 類 (7世紀第四4半期) D-3号溝、D-4号溝  
 2 A 類 (9世紀) 87号住居  
 2 B 類 (9世紀) 37号住居、D-11号住居、45号住居

出土瓦のうち1 A類の大半を占める古拙な一群は、7世紀第四4半期の当初の頃と推測されたが、その時点で官衙の頂点に立つ宮跡に瓦葺は、藤原宮をもつて本格的に始まることから、新保遺跡出土の1 A類の性格は寺院所用瓦と解釈される。しかも全体を通観すると1 A類が出土瓦の大半を占め、それを創建と捉え得て、本遺跡の瓦序列の中では創建期と呼びうる画期の観を呈し、さらには少量であるが8世紀中頃前後の1 B-2類、8～9世紀前半頃までの1 B 1・3・4類、9世紀代の2 A・B類と続いてゆき、瓦葺建物の保膳、改修が長期に亘り、管理・維持にき目の細かさが感じられ、その性格づけを寺院としても、不自然さは生じない。その白鳳期建立の寺院跡(以降、新保廃寺とする)は瓦の出土が調査地内で東偏するので、調査地内地勢よりも東方にある東側隣接地域に存在が予測される。東側隣接地は長大ではあるが東側地帯とに狭まれた台地幅が狭いので七堂を備えた四至二町の想定はし難く、そう多くない瓦の出土量から仏堂を中心とした小規模な寺院であったと類推される。造寺の創意者は、公と民の立場とがあるが、小寺院に対し瓦葺の保膳管理が約2世紀に亘って行うほどき目の細かい処理は、公の立場では困難と考えられるため、そこに民的色彩を認めたい。上野の古代寺院にはいくつかの形がある。民の背景で造立された山王廃寺、地方豪族の援助で公が創建の創意者となって造立し、後に官の色彩が顕著となる上植木・金井・寺井廃寺があり、郡名寺院あるいは郡規模の公が背景となった十三宝塚遺跡<sup>(48)</sup>、前橋市上西原遺跡<sup>(49)</sup>などがあげられる。瓦から云える点はそれぞれ置かれた条件によって異なるが、公・民の区別意識は大半の場合について窺えるのである。たとえば民とした山王廃寺であれば、上野国分寺瓦を出土してよい立地、時代・背景にありながら出土しておらず、今後出土したとしても微量であろう。しかしながら上野国内において瓦意匠から区分できるのは、東毛地域の西半および上野国府以北の地域を中心とする上野国分寺式鎧瓦の分布圏で、困難な地域に西毛地域の旧郡にいう多野・多胡・碓氷郡・上野国府を含まない南半の群馬郡でいづれも物部氏系氏族の影響地域に属する地帯である。<sup>(53)</sup>新保遺跡の位置は後者に含まれるが、出土瓦の総体解釈から得た民の様相は不明な後者の中に一脈を得たことになり、その意義は深いとしなければならない。そこに新保遺跡出土瓦の存在意義がある。

さらに遺跡の性格上に寄与する点とすれば、奈良時代を中心とする掘立柱遺物群は、立地上新保廃寺に西接すると推考しうるため、当然、寺院運営のための雑舎群をまず考える必要がある。総柱三間建物跡は、倉庫の一端であろうし、広間的空間を置く官衙様建物配置は、機能運営の院としてのまとまりを呈している。これを上毛野地方における白鳳期の小規模寺院の中で、単位把握しうる雑舎の一形態として捉えておきたい。



第303図 出土分布図

**新保隆寺**  
瓦類の検討をもつて白鳳期建立の寺院を推定した。寺であることは、さらに須惠器刻書の佛・寺をもつて追証され、それに新保隆寺という遺跡名称をあてた。その位置は、8・9世紀の遺物を含む東大溝と西側のD1号溝の間に800尺の完値であり、その幅が新保遺跡での台地幅となり、生活する高燥地帯でもある。800尺の台地幅を地形図で追うと遺跡地北端より300m程北上するが以北は緩せた状態となる。地勢上の高まりは96mの等高線が東接地域を囲むように存在し遺跡地内より高い地勢にある。その東接地に寺を推定した。寺の東縁は、新保遺跡東大溝の延長上と推測し得て西縁は、雑舎群との間に存在したと考えられ、寺域の東西幅は約1町、南・北は96m等高線からすると、1〜1.5町までが占地可能な範囲である。

## 註

- (1) 佐原 真 「平瓦桶巻作り」『考古学雑誌 第58巻2号』 1972
- (2) 花岡統一 「土器の胎土分析」『塚廻古墳群』(群馬県教育委員会) 1980から数え、現在までに約500点の試料を分析し、秋間・乗附・吉井・笠懸・月夜野・太田金山窯跡群の領域が設定されている。分析結果と肉眼観察とを対照し、前橋・高崎を中心とする地帯に供給された在地製須恵器・瓦のうち、秋間・乗附・笠懸・吉井窯跡群の製品は大半が肉眼推定できるようになった。
- (3) (群馬県教育委員会)『上野国分僧寺縁辺の調査』 1975
- (4) (吾妻町教育委員会)『金井庵寺遺跡』 1979
- (5) (中之条町教育委員会)『天代瓦窯遺跡』 1982
- (6) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 『日高遺跡』 1982
- (7) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 『下東西遺跡』 1987
- (8) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(1)』1986 木津博明氏は同遺跡出土の中世瓦(整理用ケース155箱、全体重量2989kgの瓦)を扱い男・女瓦対応関係比率を求めた。氏の検討法は中世瓦製作の観察にはじまり組瓦関係の抽出に至るまで詳細に検討されており、今後中世瓦検討の基礎となりうるものである。
- (9) (3)の中で大江は、上野国分寺出土女瓦中に桶巻作が存在することを認めたが、女瓦を四枚割とした場合に、1:4の割合で粘土板合目、布合目が認められないので、裁断(分割)予定位置にそれらの目を合わせたものと推定した。上野国分寺出土の桶巻作瓦に伴う布合目は擦消されている例も多く、その点が示唆された。
- (10) (5)の中で今関久雄氏は粘土板接合の合目を天代瓦窯遺跡出土の女瓦28点について検討し、佐原真氏の指摘(註1に同じ)されたZ形(左廻)が3例、S形(右廻)が1例存在することを確認した。天代瓦例ばかりでなく古代上野瓦のうち、回転台ないし轆轤を用いての製作の多くは左回転である。このことは月夜野・笠懸窯跡群を除き、各窯跡群で製作された須恵器製作の回転方向が主として轆轤右廻であることと対照的である。上野国における8世紀代の窯跡の多くから須恵器・瓦との両方を採集することができ、全体趨勢として須恵器・瓦とを同一窯で焼造した、一般にいう瓦陶の兼業窯の可能性が高い。しかし、工人集団が同一であったか否か、この回転方向の差が示すとおり疑問は残るのである。あるいは轆轤が一般的に座操の左廻であるので考えられなくもないが作瓦の作業性からして良いとも思えず、作瓦の製作台位置は叩位置からすると足元より50cm以上の高さはあるので、蹴轆轤で立操などの場合も検討してみる必要がある。
- (11) 「安中市秋間古窯跡群Ⅰ・Ⅱ」(群馬県教育委員会)1972ゴルフ場建設に伴う分布調査資料集で、その後群馬県歴史考古同人会により『土器部会研究資料No1』1982で資料補填され、「群馬県の部」シンポジウム『関東地方における9世紀代の須恵器と瓦』(立正大学)大江正行・中沢悟、1982で秋間窯跡群資料に用いた。
- (12) (群馬県歴史考古同人会)『土器部会研究資料 No1』 1982
- (13) 関東古瓦研究会の埼玉・群馬同人により実態把握され、昼間孝志氏により「国を越える同范瓦に関する一考察」『研究紀要 82』((財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団)1982にまとめられた。さらに有吉重蔵氏により武蔵国分寺出土例の成果が加わり、高橋一夫・大江正行・有吉重蔵・坂野和信・酒井清治「シンポジウム 北武蔵の古代寺院と瓦」『埼玉考古 第22号』(埼玉考古学会)1984で補完された。本遺跡の場合は、十六葉細弁菊花文鏡瓦が想定される。
- (14) 上野国内での分布傾向は東毛地域に集中し、胎土は笠懸窯跡群群に見えるが夾雑鉱物粒が多く、いま一つ判然としない。窯跡は同窯跡群に南接する間の谷遺跡で本級と多量の焼土が散布し窯跡とも考えられるが、立地からすると平窯でしかも上野国分寺に先行するため窯跡の存在は疑問視される。
- (15) 大江正行「金井庵寺の存在意義をめぐって」『金井庵寺遺跡』(吾妻町教育委員会)1979 それに触れている。
- (16) 現状の分布調査では窯跡の確認がされていない。秋間窯跡群の八重巻・相水谷津・吉ヶ谷津支群から桃山支群に至る窯跡群の東半に7世紀代窯跡が集中分布するが大半は雑木林のため遺物の採集ができない。その一角に本級の焼造窯があるものと考えられるし、6世紀末から7世紀初頭頃の秋間窯跡群開窯期の須恵器窯が存在するものと想定している。
- (17) 大江正行・川原嘉久治「天代瓦窯存在の意義をめぐって」『天代瓦窯遺跡』(中之条町教育委員会)1982 上毛野における瓦出現段階から上野国分寺建立まで古瓦変遷観について触れた。
- (18) 灰原から採集した資料は(12)に掲載した。そのほか同支群周辺から須恵器平底平瓶、同削出高台杯、杯、蓋、大まかな波状文を施す大壺片などが既出している。それらは(12)および森田秀策「古代」『安中市誌』1977に採録されている。
- (19) 大江正行「出土瓦について」『熊野堂遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団)1984径約2.2mの不整形気味の土壇中に数十個の礫に混って須恵器杯、短頸壺、大形女瓦、鏡瓦片などが出土している。小土壇中の遺物群であると須恵器類の復元率の高さから一括性の信頼度は高いと考えられる。
- (20) 縄叩の技法は上野国分寺の創建段階国分寺式字瓦に認めることができ、本格的な量産に縄叩を使用しはじめたのはこの頃であろう。しかし、(新田町教育委員会)『入谷遺跡』1982によれば同遺跡から、明らかに上野国分寺創建より遡りうる曲線頸三弧文字瓦に伴っており、上野国分寺の建立に先だつ縄叩の存在は確定的となった。
- (21) 154号溝は糸里制水田の施行に伴い8世紀に設けられた灌漑水路と考えられ、9世紀終末に埋没している。埋没は、上層遺物と下層遺物ともに9世紀終末の土器をまじえ早急であった。したがって埋没土層から出土した遺物群は9世紀末以前と見なされた。大江正行「土地利用の変遷」『日高遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団)1982
- (22) 宇瓦には変形斜格子文が、鏡瓦は細片であったが隆起線文が施されていた。大江正行「瓦類」『日高遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
- (23) 尾崎喜佐雄 「寺井庵寺」『日本考古学年報』(日本考古学協会) 1948
- (24) (新田町教育委員会)『入谷遺跡』 1982
- (25) 実見確認している。
- (26) 須田 茂 「群馬県における古代軒瓦の変遷」『入谷遺跡』(新田町教育委員会) 1982
- (27) 石田茂作 「上植木庵寺の研究」『飛鳥時代寺院址の研究』 1936
- (28) 須田 勉・安藤鴻基 「上総大寺庵寺」『金鈴 20号』 1968
- (29) (栃木県教育委員会)『下野薬師寺跡発掘調査報告』1974
- (30) 八賀晋「地方寺院の成立と歴史的背景」『考古学研究 第20巻1号』1973
- (31) 瀧田壽陽 「下野薬師寺建立についての一考察」『淑徳短期大学学報 6号』 1968

- (32) 近年、山王廃寺の発掘調査が行なわれ、「放光寺」銘瓦が出土したことにより、山の上碑文中の「佐野三家」「放光寺僧」とさらに金井沢碑内容の解釈から山王廃寺の置かれた地域を「群馬郡下賛郷」の地に比定する説が出されている。旧説では高崎市佐野をそれにあてた尾崎喜左雄氏の前代に既に土屋文明氏が考証しておられる。土屋文明氏は「高山寺本和名鈔に群馬郡の郷上郊訓カムツサノとあるといふ。書記の郊字の用例などを見れば或はその訓が正しいのかも知れぬ。通行本の訓は加無佐土で今の群馬郡の私の出生の村の村名はそれによって附けたのである。又金井沢碑の下賛の訓はいかにあろうとも、山上碑に佐野三家とあるにより、又本集の数首の例歌によっても、上野に佐野のあったことは明らかである。和名片岡郡の郷名中の佐野は佐沼の誤と見られるから、佐野も亦片岡・群馬両郡に亘った一般的地名でそれぞれ佐野・上郊と両郡の郷名となったとも解される。」とし、サヌあるいはサトと訓じる郷名は、群馬郡・片岡郡の両郡に存在することを指摘 三四〇六を群馬郡佐野に、三四二〇を烏川周辺の佐野にあてておられ、いわばサヌの二郷説である。尾崎喜左雄氏は群馬郡にあった下賛郷(佐野)の位置について、賛が「和名鈔」片岡郡佐野郷であれば、「この片岡郡の地は、当初成立した時は烏川右岸に沿った細長い地であり、西北隅の多胡より南東端の山等(山那・山奈・山名)の地までであったが、和銅四年(711)に山等郷が多胡郡に割かれた。その折に佐野地より、烏川右岸の地は群馬郡に属せしめられ、やがて九世紀に至るまでに、その地はふたたび片岡郡に属せしめられ、「和名抄」に見える佐野郷となったとも考えられる。」と説明し、多胡郡建部の頃に賛郷(佐野)は群馬・片岡の二郡に分かれた一郷分離説を取っておられる。尾崎氏の解釈は一郷内がやがて分離され、その境界は烏川としておられるが、烏川は県内においても有数の利根川支流であって、もともと佐野郷の成立がその河川にまたがっていたとは盆地地形でもないの考え難いし、一郷内を分けて郡界を求める点も妙である。氏の「佐野」解釈における片岡郡と群馬郡界説明に無理が多い。たとえば、多胡郡建部頃に烏川右岸の地までもが群馬郡だったとする解釈であるが、片岡郡は多胡郡の建部に伴い一郷を分たれ、さらに烏川右岸までもが群馬郡に属してしまうのであるから、この段階の片岡郡規模は極端に狭い地域となってしまう、はたして三郷すらも存在しうる面積であるのか疑問が生じてしまう。こうした矛盾に点立って群馬郡下賛郷(佐野)高田里を考えれば二郡に隣接する佐野ではなく、両者ともかけ離れた佐野として考えざるを得ない。佐野を読み替えてサトとした場合、群馬郡内の中里村に地名が残されている。中里村は明治二十二年の町村制により隣接の生原・保渡田村と共に、古名称に習い上郊村となったが、現在ではさらに町村合併が進み、群馬郡箕郷町となっている。その中里村については江戸時代前期まで遡ることができるがそれ以前は判然としないので地名比定の信頼度は薄い。しかし地名同定は別としても、尾崎喜左雄氏の碑文の固有名称解釈は現状の群馬県内において定説となっており、筆者自身もそれを越えることができないが、山の上碑と金井沢碑の内容から碑文中に見える放光寺の所在を尾崎氏の固有名称解釈を援用して求めれば一つの見解が求められる。それは次のとおりである。

山の上碑の大意は、天武天皇九年十月三日記す。佐野屯倉の管理者である建守命の孫の黒壳刀自は新川臣の児であり、斯多々弥足尼の孫である大児君と娶いて生んだ児が長利僧で、母の為に碑文を記す。放光寺の僧なり。

金井沢碑の大意は、群馬郡下賛郷高田里の屯倉の子孫が七世の父母と現在の父母のために、現在へはる家刀自、池田君目刀自、また児の加那刀自、孫の物部君午足、次に瓢刀自、次に乙瓢刀自、合わせて六人とまた知識に帰依した屯倉の毛人、次に知万呂、鍛師磯部君身麻呂の合わせて三人が知識に結んで、天地に誓い願ひ仕奉る石文なり。神龜三年丙寅二月廿九日。

山の上碑文中の新川臣、大児君はともに6世紀代上毛野氏の掌握されたときされる氏族であり、ともに現在、氏族名称を赤城山南麓の地名にとどめ、また新川臣は佐野屯倉の管理者であった建守命の孫にあたるから、血縁、親族に対する土地の占有権は朝廷との関係において佐野屯倉内であったと考えられ、新川臣の居住域は上毛野氏掌握地域の一角または、6・7世紀代頃の上毛野氏の直接掌握地域が佐野屯倉の地であると類推される。上毛野氏は『記・紀』によれば、天皇の皇子を配する皇宗の流れがその淵源にあるがその本拠地域は、右島和夫氏が「東国の雄族たる上毛野君こそ本古墳群に関わる豪族層として最もふさわしいものと考えている。」と指摘されたとおり、総社古墳群の地帯と後に地方豪族と朝廷との関係において成立した律令制の時代の上野国府、国分尼寺、軍団駐屯地など上野中樞の地も含むであろう。放光寺の規模は、また平安時代後期の『上野国交替実録帳』にも同寺名が見え、碑文中の放光寺と同一寺であると考えられる「放光寺」の氏人から定額寺の除去申請が出されており、そのことから平安時代後期に至っても国庫援助を受けなくとも運営しうる状態にあったのと、定額寺対象として地域に欠くことのできない存在または、相当規模の寺院であったことが知られる。上野氏にとって7世紀代から始まる有縁の寺院は、瓦葺であった場合、かつて触れたとおり上植木廃寺が他方に存在するが、後出段階に上野国分寺式鏡瓦が供給され官寺の色彩が濃厚となり、僧長利が氏寺である放光寺僧となるのも必然性が高いと考えられる。このように解釈すると、山王廃寺の発掘調査によって出土した「放光寺」銘瓦が存在しなくとも総社古墳群の地帯の一角にある山王廃寺が放光寺である可能性は導き出される。また金井沢碑文中に見える物部君、鍛師磯部君などの本拠地域と考えられる碓氷郡と山王廃寺の関係も深く山王廃寺創建期瓦も碓氷郡で焼造されている。

尾崎喜左雄 「上野三碑と那須国造碑」『古代の日本 7 関東』(角川書店) 1970

土屋文明 「三四〇六・三四二〇」『萬葉集上野国歌私注』(煥乎堂) 1937

上島和夫 「前橋市総社古墳群の形成とその画期」『群馬県史研究 22』 1985

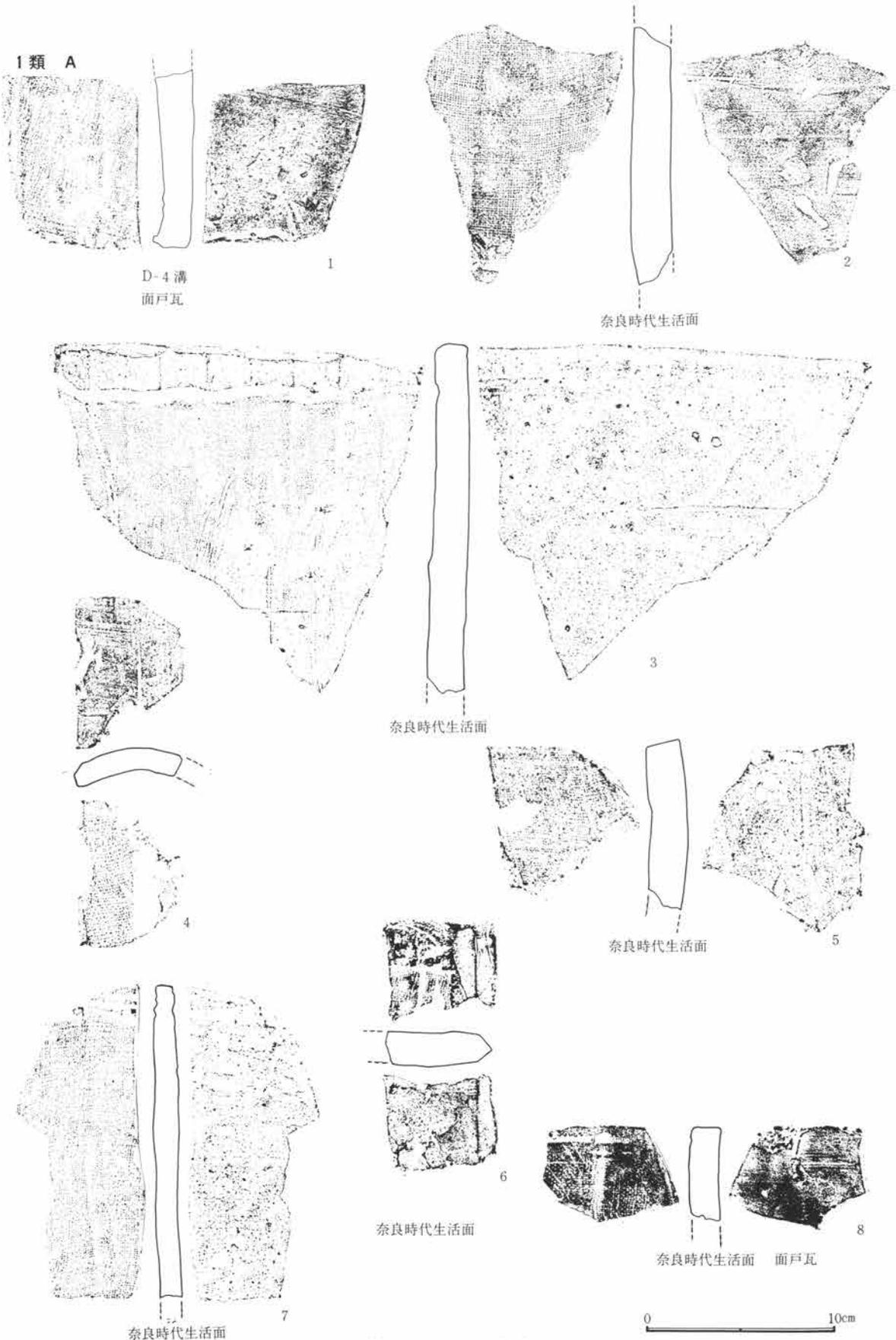
以上のとおり、筆者自身は山王廃寺を放光寺と見なし、今後、山王廃寺=放光寺跡としたい。本註はその意志表明である。

しかし、問題は解決した訳ではなく佐野屯倉設置、展開期の範囲、山の上碑、金井沢碑の存在位置からくる佐野の位置など多くの問題点がこのさされている。

- (33) 尾崎喜左雄 「多野郡でえせえ寺廃寺」『日本考古学年報』(日本考古学協会) 1947
- (34) 石塚久則 「奥原遺跡」『奥原古墳群』(群馬県埋蔵文化財調査事業団)1983、およびQ2に小片が各一点づつ報告・紹介されており、分布圏からして複弁七葉鏡瓦と推測される。
- (35) (群馬県歴史考古同人会)『関東古瓦研究会 研究資料No 3』 1982
- (36) Q7の中で瓦の出現から上野国分寺前の諸段階について触れ、さらに鏡瓦意匠について雷電山瓦窯跡とその供給を受けた上植木廃寺創建段階の系譜を雷電山・上植木系とし、秋間窯跡群とその供給を受けた山王廃寺創建段階の系譜を秋間・山王系とした。前者は古利根川以東に、後者は古利根川以西に展開を見ており、両者の分布圏には地域勢力の地域支配に伴うと考えられる差が歴然として存在する。
- (37) 稲垣晋也 「古瓦」(至文堂) 1971 稲垣氏は一連の系譜理解の中から、粟原寺複弁八葉鏡瓦の製作年代を推定しておられる。
- (38) (京都市文化観光局文化財保護課)『榎原廃寺跡』 1972
- (39) 武井廃寺瓦については木暮仁一氏保管資料2500点余りを、同氏の好意により関口功一君と一緒に検討させていただいた。すべての破片について、本稿で作成した観察表とほぼ同じ観察を行い、女瓦の格子叩の同范関係まで追求したが、2500点のグラフの作成の際、数字が一致せず、文章化を断念した。その際の資料は朋友である須田茂氏が引継いでくれたので、近年中に文章化されるであろう。
- (40) 上植木廃寺、金井沢寺、山王廃寺の創建期鏡瓦の范種類についてはQ7で触れた。
- (41) 『統日本紀』巻十九 天年勝宝五年七月条

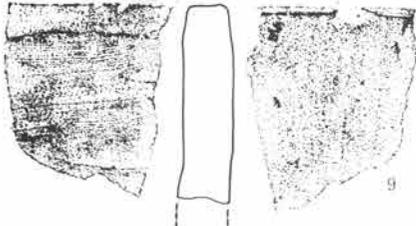
(1) 瓦 類

- (42) 渡来系の様式を指摘したのは石村喜英「軒平瓦考(一)―武蔵国分寺出土の古瓦について」『考古学雑誌第41巻1号』1955でその際大半を高句麗様式の中で理解されたが、仔細に検討すると、雷電山・上植木系の鏡瓦には新羅様式が、秋間・山王系の一群には高句麗様式が反映している。その両者の様式反映も古利根川を挟んで顕著に異なる点についても同様である。(17)に詳しい。
- (43) 造国分寺司の存在を強く感じるのは統一意匠の決定ばかりでなく、上野国分寺出土鏡瓦中の背面に布紋を伴う一群があり、それらは上野古瓦変遷観の中では国分寺前代に反映した類で第IV期に類され、おそらくは上野国分寺着手までその製作が続いていたものと考えられる。その主体分布圏は古利根川の東方地域であるから、国分寺の造営と云う大目的が働かない限り、供給されない一群である。その存在がありながら鏡瓦統一意匠の作製に踏み切ったのは大規模な組織体が目的達成のために活動をはじめたからと解釈できる。また造瓦負担の方法は武蔵国のように後出して建都された新座郡を除き全部が負担体制を取るのと異なり、上野国では創建段階の官瓦窯に笠懸窯跡群と藤岡窯跡群が造瓦を行い、瓦負担された郡として、「佐」位・「勢」多・「山田」の郡刻印も、緑野、「多」野?・「多」胡?の郡銘書銘があり、群馬・利根・吾妻・碓氷・新田・那波・邑楽などが見当たらず、今後出土したとしても少量であり、瓦負担する主体的立場になかったと考えられ、利根・吾妻郡では木材などの負担(県内の樹種同定された奈良・平安時代木製遺物中にスギ材は極めて少なく、ヒノキ材も搬入と考えられるほどで、わずかであるがモミ材が存在する。モミは自然林の中で林立するような植生ではなく、散在分布であるため、上野の場合、官衙・寺院建築用材として、用いる場合安易な入手方法としてモミなどの針葉樹を想定せざるを得ない。モミは、現在、利根・吾妻郡に比較的多く分布する。)が考えられ、瓦負担のなされなかった各郡はそうした個々の郡の特性による負担であったと推測される。そうした負担分割は強力な組織体が各郡の細かな状況を把握し、差配しなければ実現できないことであり、それらの理由から施工の中核であった造寺司は置かれていたものと考えられる。
- (44) 大江正行「清里・陣場遺跡の考古学的位置」『清里・陣場遺跡』1981の中で上野国分寺式鏡瓦についてまとめたが、当時は「上野国分寺式」と称して亜種も含めた広汎であった。しかし現在では同鏡瓦が一型式をなす独立意匠であることが判ってきたのでその鏡瓦を上野国分寺式鏡瓦と呼んでおきしつかえないと考えている。宇瓦種(註17に詳しい)については范種数を正確に数えていないので現状では上野国分寺系としておきたい。また弁形態や意匠の一部に上野国分寺式鏡瓦の意匠を用いた例については旧来通り上野国分寺系とした中で扱いたい。
- (45) (群馬県教育委員会)『十三宝塚遺跡発掘調査概報 1』1975・(群馬県教育委員会)『十三宝塚遺跡発掘調査概報』1976
- (46) (群馬県埋蔵文化財調査事業団)『清里・陣場遺跡』1981
- (47) 工藤圭章「都市へのあゆみ」『藤原京』(吉川弘文館)1967。定形化する以前に、飛鳥小墾田宮例がある。
- (48) 十三宝塚遺跡について郡衙とする根拠は極めて乏しい。回廊的な欄列と溝・土塁(築地か)で区画された南北約85m、東西約85m中に存在する方形基壇(第2基壇)、中央の長方形基壇(第1基壇)を含めた遺構は8世紀代中に建立された郡名寺院であり、東接・南東接する掘立柱建物は同時期であればその機能をまかなうための雑舎であり、同時期の堅穴住居跡はそれに直結した人々の生活址と考えられる。十三宝塚遺跡出土瓦の主体は上野国分寺式鏡瓦とその組瓦で構成され異次元の瓦は少ない。ことに女・男瓦の刻印に郡・郷名が多例あり、官の使用する瓦として重視しなければならない。東毛地域で官に直結する官衙・郡の寺院であれば使用されているも当然のこととして理解できる。遺構としては第2基壇に方形3間堂が示唆され、特に基壇は二重で、検出面より50cmの下成基壇があり、その上面に一辺7.5m(羽目石溝間)で地覆面が検出され、羽目石長と上面化粧を30cm程として上成を想定しても、基壇高は80cm以上となりさらに上に建つのであるから建物は見上げるような建物観でそんな建物が郡単位の官衙に存在するだろうか。第1基壇中の当初建物も3間×2間の東西軸掘立柱建物であるが、桁側中央の柱間が狭く、正面観は開放的な扉ではなく閉鎖的な建物観である。そんな建物が官衙の主殿としてふさわしいであろうか。寺院に直結する遺物に瓦塔および丈六を考えても不思議ではない塑像の大きな螺髪があり、そんなに大きな仏像をはたして郡衙のどこに安置したのであろうか。土器類のうち宗教的な色彩は三彩の火舎、灰釉の浄瓶に見られ、ことに三彩は8個体以上があり、現状で、官給であった三彩の出土は官衙でまとまった出土例が少なく、聖水を入れる浄瓶なども官衙に必要なものと思えない。以上、どのように解釈しても主体遺構・枢要遺物に郡衙像は求められず、佐位の郡名寺院と考えるのが自然である。郡寺を含んで郡衙とするなら(45)の時、郡に居を構えていたのであろう。碓氷郡在住の坂本氏としては『続日本紀』の天平勝宝元年(748)五月に「戊寅。上野国碓氷郡人外従七位上上野君諸弟。(中略)各献富国分寺知識物並授外従五位下」とあり上野君諸弟の名が見えるが天平勝宝5年に籍帳の改正を望む以前のため上毛野坂本君諸弟とは記載されなかったであろう。しばらく後の神護景雲元年(767)三月には「己卯。左京人正六位上上毛野坂本公男嶋。上毛野国碓氷郡人外従八位下上毛野坂本公黒盆。賜姓上毛野坂本朝臣。(以下略)」と『続日本紀』にあり、天平勝宝五年七月の条の上野君男嶋が上毛野公男嶋と記述されている。これらの史料から上野君は大正元年に上毛野坂本君に改賜姓を受け、それは上野君が大正元年の前代に碓氷郡坂本(現松井田町)の地域を基盤としたため地縁に基づく改賜姓であったと考えられる。そのほか金井沢碑をはじめ、以降に、西毛地域から吾妻郡に至るまで上野君・物部氏系氏族の名が資料に散見され、8世紀代には西毛地域はその掌握下か直接影響下に置かれたと推定される。山王・秋間系の瓦系譜も、まったく同様の地域に展開し、造瓦組織も8世紀代まで、その直接影響下に置かれていたと考えられ、仔細は(15)に詳しい。
- (49) 井上唯雄「まとめ」『上西原・向原・谷津』(群馬県教育委員会)1986。十三宝塚遺跡例と類似の方形区画内に、基壇があり、郡銘瓦・瓦塔・塑像仏などの出土があり、井上氏は勢多郡寺の可能性が強いとしておられる。勢多郡内には新里村青雲寺古瓦散布地((群馬歴史考古同人会)『関東古瓦研究会 研究資料 No.2』1982)から上野国分寺系系瓦・瓦塔が既出しており、勢多郡内における郡名寺院が一個所であるのか多少の疑問もたれる。上野国分寺式鏡瓦が一部内で2ヶ所以上に亘る郡は、旧郡の群馬・新田郡があり、また十三宝塚遺跡例、上西原例を郡名寺院とした場合、他国の郡寺例とは規模差があり過ぎ、それでも当時の上野の公は良しとしたのか、あるいはこうした郡名寺院規模が一般的であったのか今後に期されるところである。
- (50) (前橋市教育委員会)『山王庵寺第4次発掘調査概報』1978
- (51) 須田 茂「上野国分寺の軒瓦」『群馬文化 177号』1977。(4)
- (52) (51)、(4)、坂詰秀一ほか『上野・金山窯瓦址』(ニューサイエンス社)1966
- (53) 山王・秋間系瓦の系譜は西毛地域に広く浸透し、その焼造当初は7世紀後半に秋間窯跡群からはじまる。秋間の地は碓氷郡の大きな支谷地形の一つで、碓氷の谷地形の最深部に上毛野坂本君に係わる坂本の地名が残る。坂本氏は『続日本紀』巻十九の天平勝宝五年七月の記事に「戊午在京人正八位上上野君男嶋等冊七人言。己親父登与。以去大寶元年 賜上毛野坂本君姓 而子孫等籍帳猶注石上野君於理不安。望請。稍父姓欲改正之。」とあり大宝元年(701)に上毛野坂本君の姓を賜ったことと改賜姓の前には石上氏であったのがわかる。畿内の石上氏は物部氏が改氏されたもので天武朝以前には畿内の軍事の中核勢力であった。天平勝宝(753)五年七月の記事は「戊午。左京人(以下略)」とあり、石上君男嶋はこの時、郡に居を構えていたのであろう。碓氷郡在住の坂本氏としては『続日本紀』の天平勝宝元年(748)五月に「戊寅。上野国碓氷郡人外従七位上上野君諸弟。(中略)各献富国分寺知識物並授外従五位下」とあり石上君諸弟の名が見えるが天平勝宝5年に籍帳の改正を望む以前のため上毛野坂本君諸弟とは記載されなかったであろう。しばらく後の神護景雲元年(767)三月には「己卯。左京人正六位上上毛野坂本公男嶋。上毛野国碓氷郡人外従八位下上毛野坂本公黒盆。賜姓上毛野坂本朝臣。(以下略)」と『続日本紀』にあり、天平勝宝五年七月の条の上野君男嶋が上毛野公男嶋と記述されている。これらの史料から石上君は大正元年に上毛野坂本君に改賜姓を受け、それは石上君が大正元年の前代に碓氷郡坂本(現松井田町)の地域を基盤としたため地縁に基づく改賜姓であったと考えられる。そのほか金井沢碑をはじめ、以降に、西毛地域から吾妻郡に至るまで石上君・物部氏系氏族の名が資料に散見され、8世紀代には西毛地域はその掌握下か直接影響下に置かれたと推定される。山王・秋間系の瓦系譜も、まったく同様の地域に展開し、造瓦組織も8世紀代まで、その直接影響下に置かれていたと考えられ、仔細は(15)に詳しい。

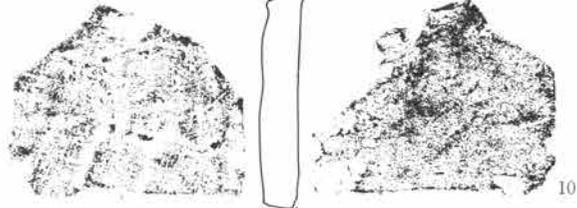


第304図 瓦 図(1)

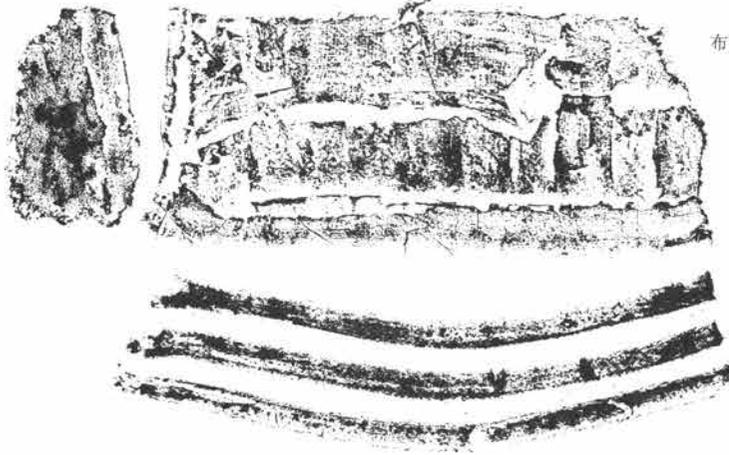
1類 A



奈良時代生活面



D-4溝 面戸瓦



布目あり

布目を残さない模骨樋痕  
模骨端部あり。



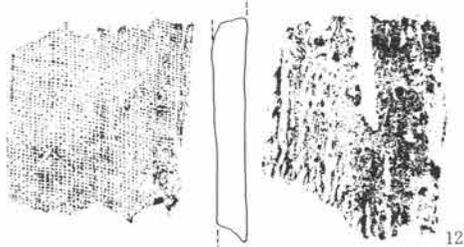
顎下隆帯は、  
上植木庵寺。  
雷電山に例あ  
り。



調査区表採

11

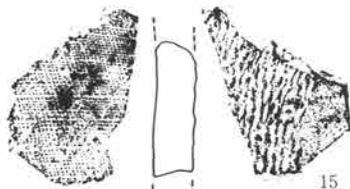
1類 B-1



D-1溝



D-1溝



D-1溝



奈良時代生活面

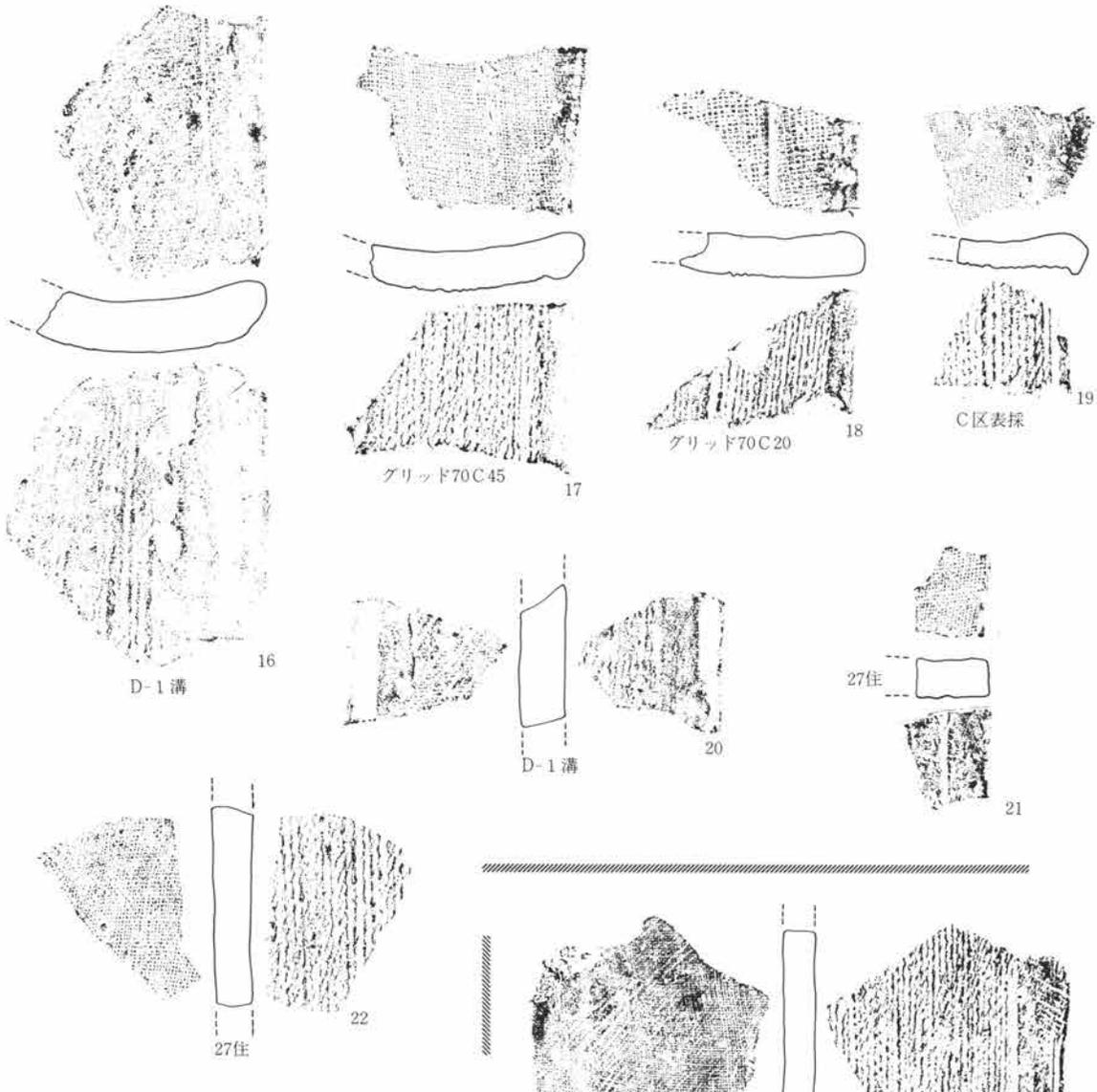


13

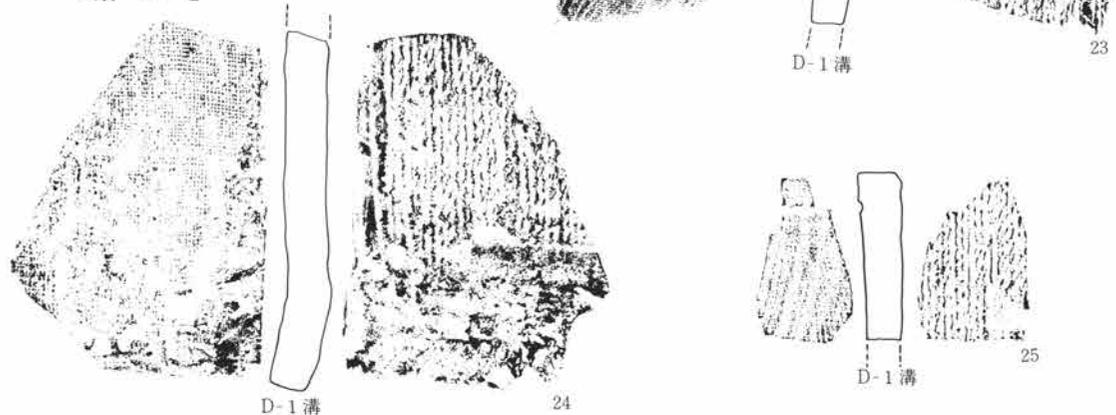


第305図 瓦 図(8)

1類 B-1



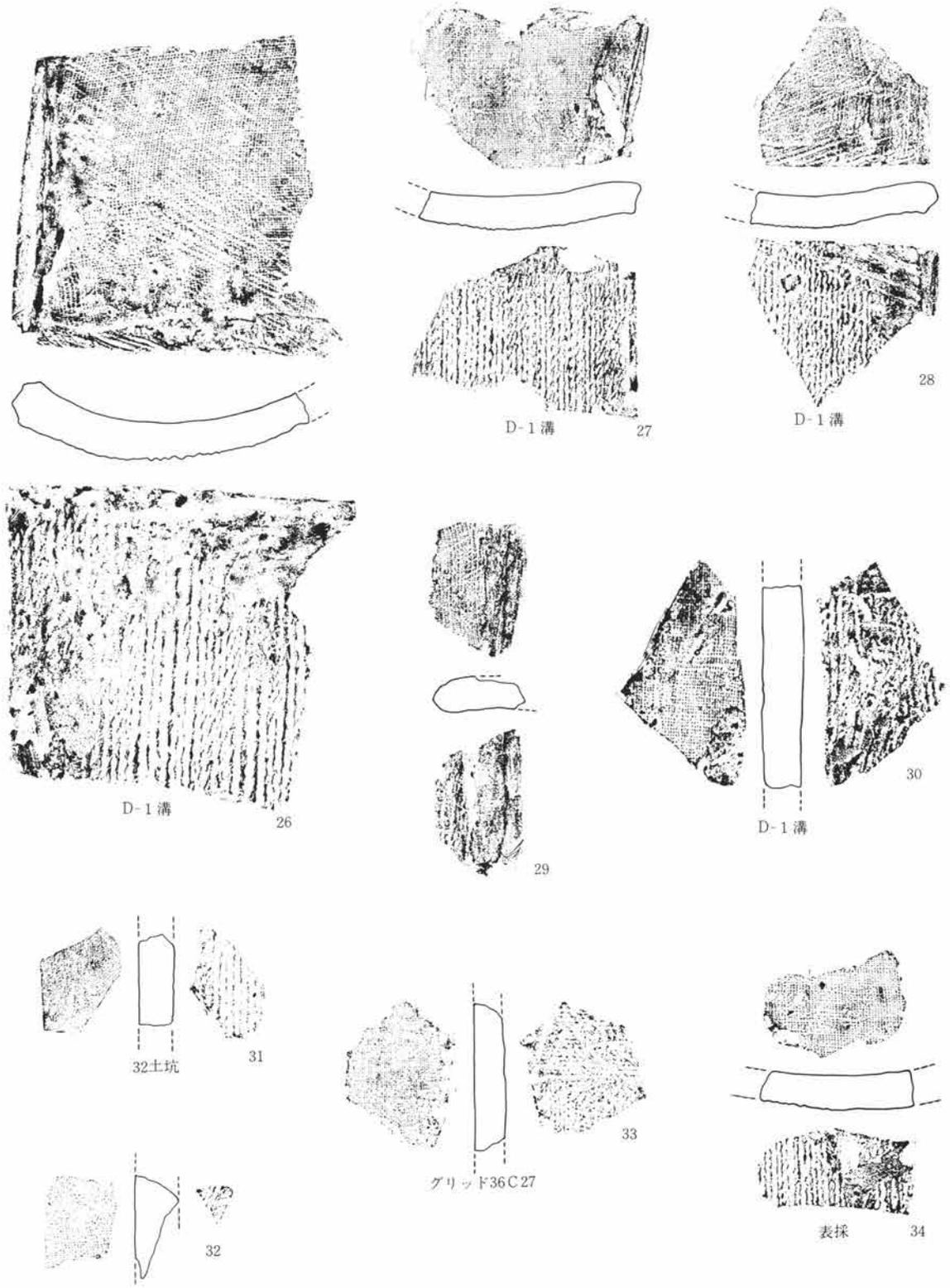
1類 B-2



0 10cm

第306図 瓦 図(3)

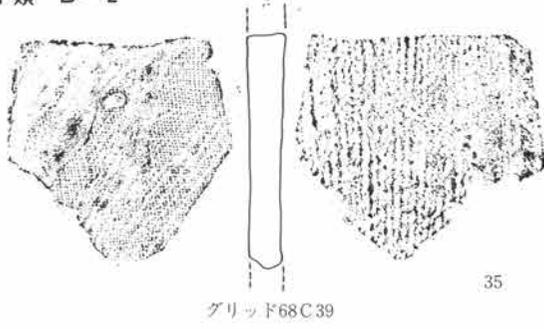
1類 B-2



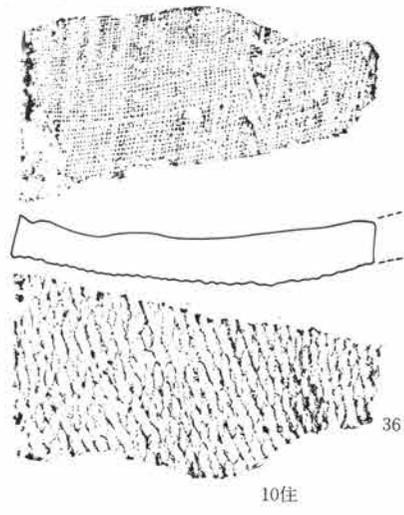
第307図 瓦 図(4)

6 考 察

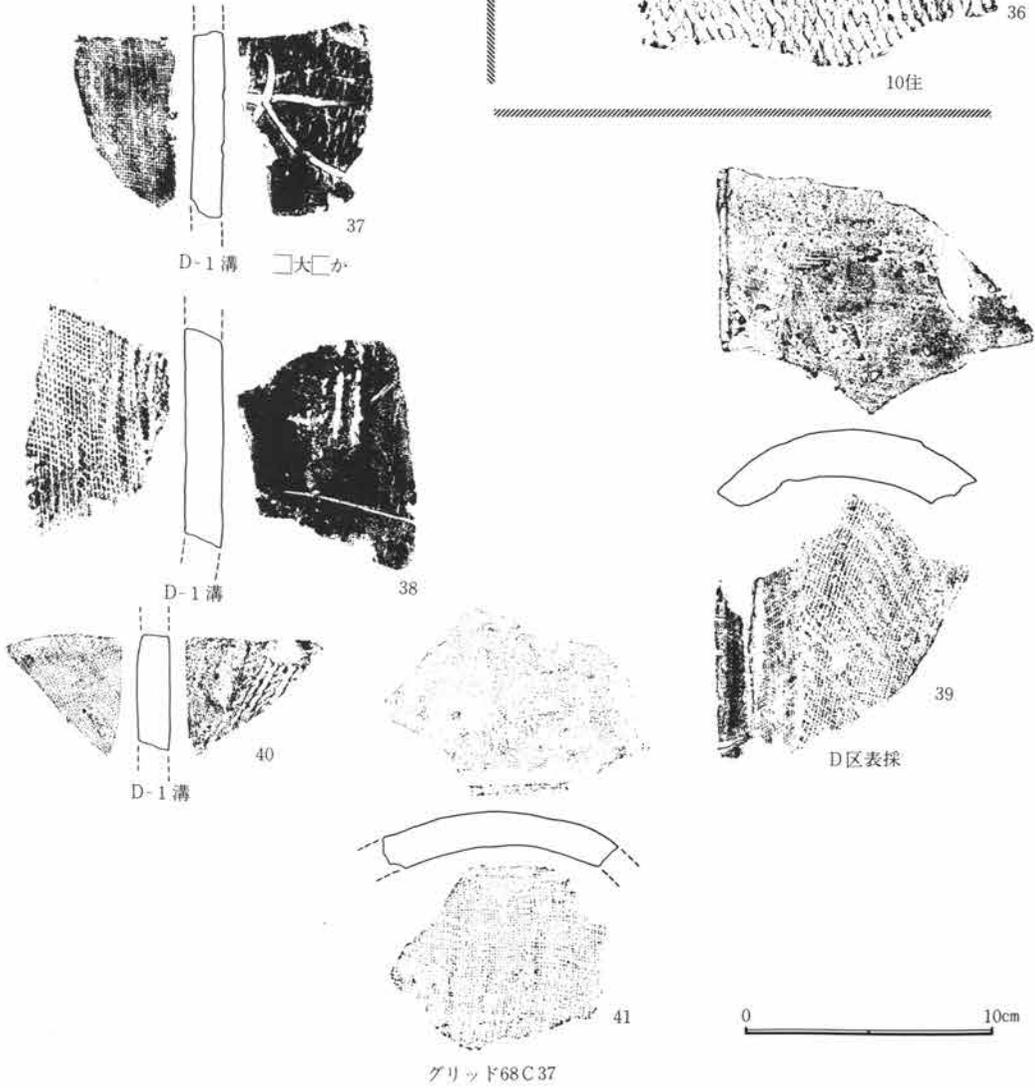
1類 B-2



1類 B-3

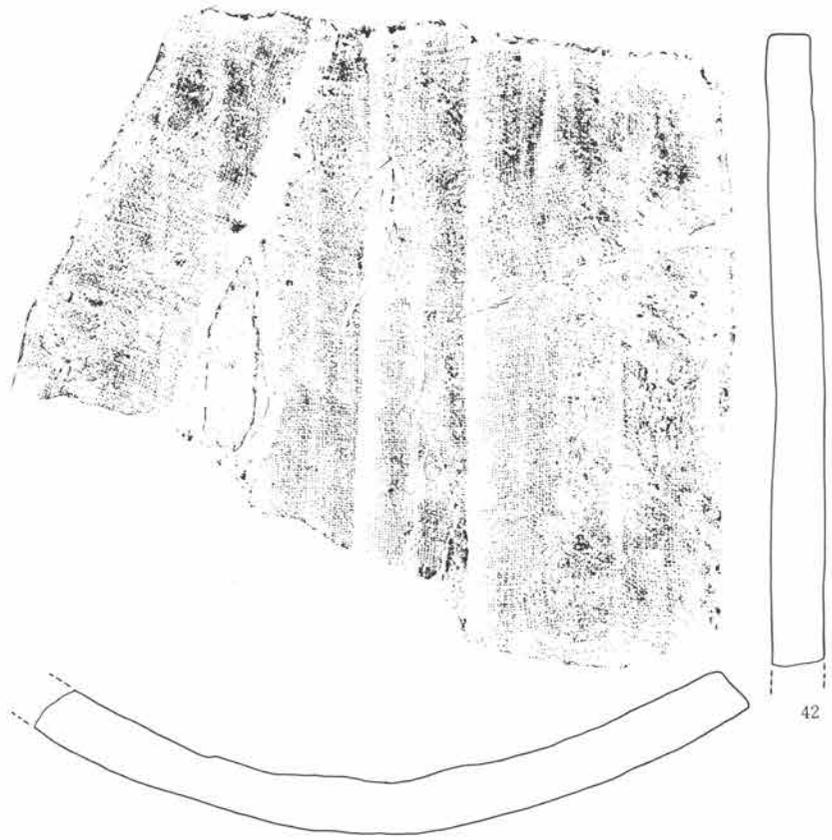


1類 B-4

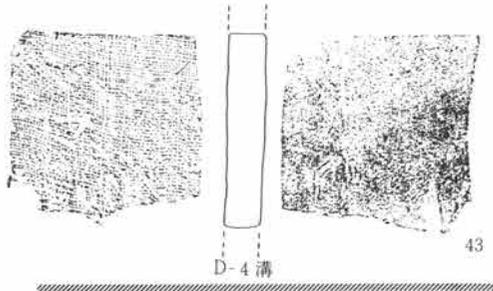


第308図 瓦 図(5)

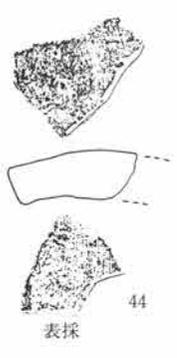
1類 C



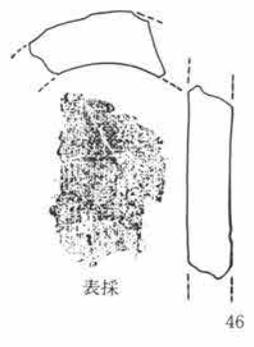
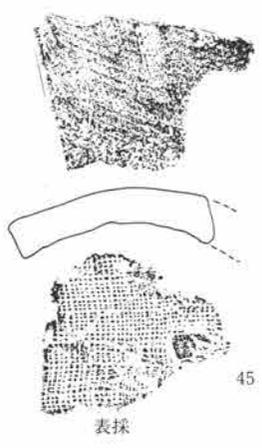
D-4 溝



2類-B



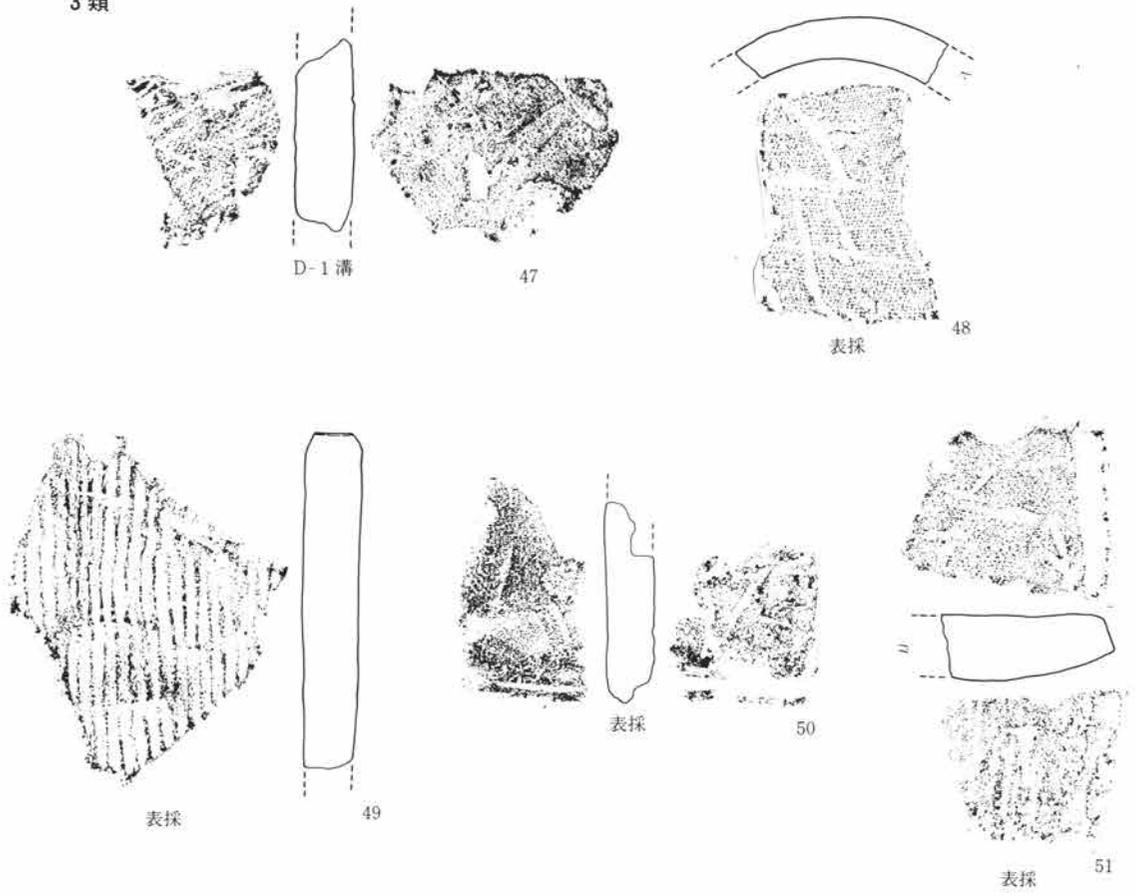
2類-A



第309図 瓦 図(6)

6 考 察

3類

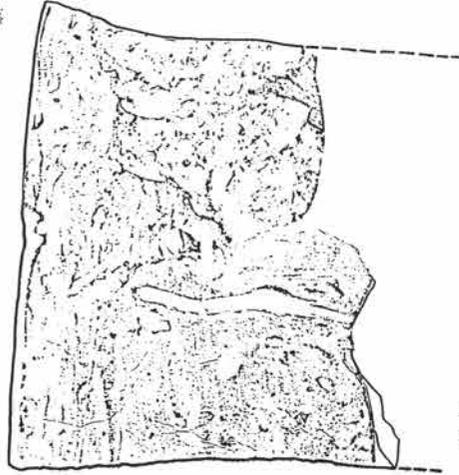


0 10cm

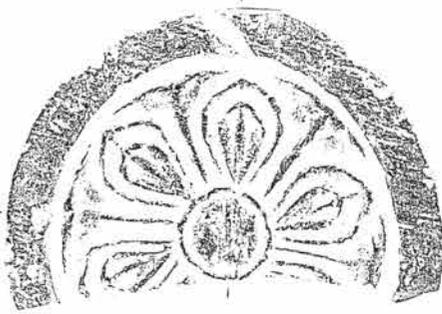
第310図 瓦 図(7)

(1) 瓦 類

このあたりの表面剥落あり、凍ハゼか。



表面には、回転に伴う擦痕あり。



瓦当面には木型の木目あり。面の風化はほとんどない。范型はシャープなため新型か。



背面は、箆か指と考えられる撫あり。



瓦当面との接合部の補強粘土がわずか貼られる。



布の合目を指で撫消す。

52

D-1 溝

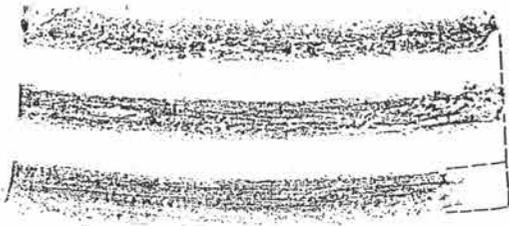
0 10cm

第311図 瓦 図(8)

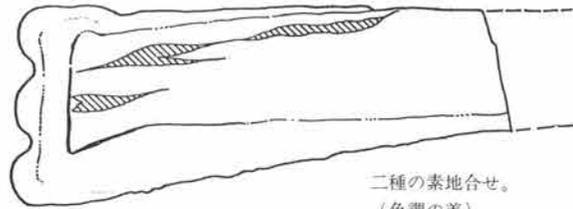
平瓦部との接合面は割れ口からしか窺えない。



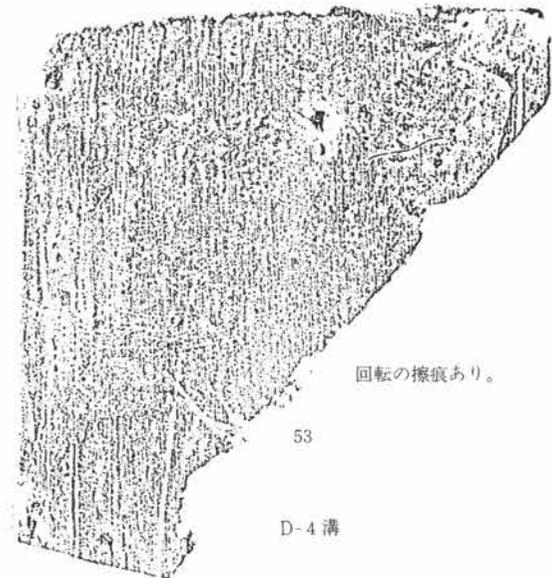
表面指撫あり。布目残らず。



重弧文は回転撫のごときシャープな撫あり。



二種の素地合せ。  
(色調の差)



回転の擦痕あり。

53

D-4 溝

0 6.7cm

第312図 瓦 図(9)

第104表 瓦観察表1類A

No	種別	出土地	厚さ	焼 成		成 形 技 法						整 形 技 法				備 考			
				焼 上 り	色 調	粘土板 系切痕		一 枚 作	桶 痕	粘 土 板 合 目	布 の 合 目	叩 目	轆 轤 痕	篋 削	布 擦		側 部 面 取		
						凹	凸								凹			凸	
1	平瓦	D-1号溝	1.7	硬	灰色			/	○				撫	○		○	/	2	
2	平瓦	D-1号溝	2.2	並	淡黄			/	○	○			撫	○			/		
3	平瓦	D-1号溝	1.2	硬	灰色			/	○				撫	○			/		
4	平瓦	D-4号溝	1.9	硬	灰色			/	○				撫	○			/		
5	平瓦	D-4号溝	1.7	締	灰色	○		/	○				撫	○			/	1	
6	丸瓦	D-4号溝	1.4	並	灰色			/	/	○			撫	○		/		2	
7	平瓦	D-4号溝	1.6	並	灰色			/	○				撫	○			/	2	
8	平瓦	D-4号溝	2.0	軟	淡黄			/	○				撫	○			/		
9	面戸瓦	D-4号溝	1.5	硬	灰色			/	○				撫	○			/	1	平瓦を利用 第304図No 1
10	平瓦	D-4号溝	1.6	並	灰色			/	○				撫	○			/	2	
11	平瓦	D-4号溝	1.3	締	灰色	○		/	○				撫	○			/	2	
12	平瓦	D-4号溝	1.6	軟	淡黄			/	○				撫	○			/	3	
13	平瓦	D-4号溝	1.8	並	淡黄			/	○				撫	○			/	2	
14	平瓦	D-4号溝	1.3	軟	淡灰			/	○		○		撫	○			/	1	
15	平瓦	D-4号溝	1.3	軟	淡黄			/	○				撫	○			/		
16	平瓦	D-4号溝	1.7	並	灰色	○		/	○				撫	○			/		
17	平瓦	D-4号溝	1.5	軟	淡褐			/	○				撫	○			/		
18	平瓦	D-4号溝	2.0	軟	淡黄			/	○				撫	○			/		
19	平瓦	D-4号溝	2.0	硬	灰色	○		/	○	○			撫	○			/		
20	平瓦	D-4号溝	1.3	軟	淡黄	○		/	○				撫	○			/		
21	平瓦	D-4号溝	1.3	硬	灰色	○		/	○				撫	○			/	1	
22	平瓦	D-4号溝	1.3	締	灰色			/	○				撫	○			/		
23	平瓦	D-4号溝	1.8	軟	黄灰			/	○				撫	○			/	1	
24	平瓦	D-4号溝	2.2	硬	灰色			/	○	○			撫(上・下)	?		○	/	3	
25	平瓦	D-4号溝	1.2	硬	灰色			/	○				撫	○			/		
26	平瓦	D-4号溝	1.7	硬	灰色			/	○				撫	○			/		
27	平瓦	D-4号溝	1.8	硬	灰色			/	○	○			撫	?			/		

6 考 察

28	平瓦	D-4号溝	1.5	硬	灰色			／	○				撫	○		／	
29	丸瓦	D-4号溝	1.3	並	淡黄			／	／				撫	○		／	2
30	平瓦	D-4号溝	1.5	軟	黄灰			／	○				撫	○		／	
31	平瓦	D-4号溝	1.7	軟	黄灰			／	○				撫	○		／	
32	平瓦	D-4号溝	1.8	硬	灰			／	○				撫	○	○	／	
33	平瓦	D-4号溝	1.3	締	灰			／	○				撫	○		／	
34	平瓦	D-4号溝	1.7	軟	灰			／	○				撫	○		／	
35	平瓦	D-4号溝	1.6	軟	淡赤褐	○		／	○				撫	○		／	
36	平瓦	D-4号溝	2.2	締	黒灰	○		／	○				撫	○		／	
37	平瓦	D-4号溝	1.9	軟	淡黄			／	○				撫	○		／	1
38	平瓦	D-4号溝	1.2	締	灰			／	○				撫	○		／	2
39	平瓦	D-4号溝	1.3	軟	黄灰			／	○				撫	○		／	
40	平瓦	奈良生活面	2.0	締	灰			／	○				撫	○		／	
41	平瓦	奈良生活面	2.3	軟	赤褐	○		／	○	○			撫	○		／	
42	平瓦	奈良生活面	1.9	締	灰			／	○	○			撫	○	○	／	×の筧記号あり。第304図No 3
43	平瓦	奈良生活面	1.8	硬	灰			／	○				撫	○	○	／	3
44	平瓦	奈良生活面	1.8	締	灰			／	○				撫	○	○	／	3
45	平瓦	奈良生活面	1.7	硬	灰	○		／	○				撫	○	○	／	
46	平瓦	奈良生活面	1.5	締	灰			／	○				撫	○		／	1
47	平瓦	奈良生活面	1.8	硬	淡黄			／	○				撫	○		／	筧傷か筧記号あり。第304図No 3
48	平瓦	奈良生活面	1.9	硬	灰			／	○				撫	○	○	／	
49	丸瓦	奈良生活面	0.8	締	灰			／	／	○			撫	○		／	2 側部に裁断目あり。
50	平瓦	奈良生活面	1.8	軟	灰			／	○				撫	○	○	／	
51	平瓦	奈良生活面	2.0	軟	赤褐			／	○				撫	○	○	／	
52	丸瓦	奈良生活面	1.9	軟	淡黄	○		／	／	○	素文・筧	？	横筧	／			2 横筧削は特殊なので細分は不可。第304図No 4
53	丸瓦	奈良生活面	1.4	軟	赤褐			／	／				撫	○		／	2 側部に裁断目あり。
54	丸瓦	奈良生活面	1.7	並	灰			／	／				撫	○		／	2
55	平瓦	奈良生活面	1.8	硬	灰			／	○				浅い 平行？	○	○	／	
56	平瓦	奈良生活面	2.3	軟	淡黄			／	○				撫	○	○	／	
57	丸瓦	奈良生活面	1.5	軟	赤褐	○		／	／		素文	？	横筧	／			1 裁断目あり。
58	平瓦	奈良生活面	1.0	軟	淡黄			／	○				撫	○		／	2

## (1) 瓦 類

59	平瓦	奈良生活面	1.7	並	淡灰	○	／	○	○	撫	○	／		
60	面戸瓦	奈良生活面	2.0	軟	灰		／	○	○	撫	○	／	1 平瓦を利用。 第304図No 5	
61	面戸瓦?	奈良生活面	1.0	硬	灰		／	○		格子・撫	撫	／	1 平瓦を利用。 第304図No 7	
62	平瓦	奈良生活面	2.0	並	灰		／	○	○	撫	○	○	／	
63	平瓦	奈良生活面	1.8	硬	灰		／	○	○	撫	○	○	／	3
64	丸瓦	奈良生活面	0.9	軟	灰		／	／		撫	○	／		
65	平瓦	奈良生活面	1.4	軟	淡灰		／	○		撫	○	／		
66	平瓦	奈良生活面	2.6	軟	赤褐		／	○		撫	○	／	3	
67	平瓦	奈良生活面	1.3	軟	淡黄		／	○		撫	○	／	2	
68	平瓦	奈良生活面	1.5	軟	淡灰	○	／	○		撫	○	／	1	
69	丸瓦	奈良生活面	2.0	軟	淡黄		／	／		篔削	○	／	篔削りは縦方向の削り。	
70	平瓦	奈良生活面	1.8	軟	淡黄	○	／	○		撫	○	／		
71	平瓦	奈良生活面	2.2	軟	淡黄	○	／	○	○	撫	○	○		
72	丸瓦	奈良生活面	1.5	並	淡黄		／	／		撫	○	／		
73	平瓦	奈良生活面	1.4	並	淡灰		／	○		撫	○	／		
74	丸瓦	奈良生活面	1.5	軟	淡黄		／	○		篔削	○	／	3 桶痕が見られるが特例か？ 第304図No 6	
75	平瓦	奈良生活面	1.3	軟	灰		／	○		撫	○	／		
76	平瓦	奈良生活面	1.5	軟	灰		／	○		撫	○	／	2	
77	丸瓦	奈良生活面	1.5	軟	淡黄		／	／		撫	○	／	1	
78	平瓦	奈良生活面	1.5	軟	灰		／		○	撫	○	／		
79	平瓦	奈良生活面	1.3	硬	灰		／	○		撫	○	／		
80	丸瓦	奈良生活面	1.3	軟	淡黄		／	／		撫	○	／	2	
81	面戸瓦	奈良生活面	1.5	軟	淡黄	○	／	○		撫	○	／	1 平瓦を利用。 第304図No 8	
82	丸瓦	奈良生活面	1.4	軟	淡黄		／	／		撫	○	／		
83	平瓦	奈良生活面	1.4	軟	淡黄	○	／	○		撫	○	／		
84	丸瓦	奈良生活面	1.3	軟	赤褐		／	／		撫	○	／		
85	丸瓦	奈良生活面	1.7	軟	淡黄		／	／		撫	○	／	2	
86	平瓦	奈良生活面	2.1	硬	灰		／	○		撫	○	／		
87	平瓦	奈良生活面	1.9	硬	灰		／	○		撫	○	○	／	2 赤色顔料付着。第305図No 9
88	平瓦	奈良生活面	1.9	並	灰		／	○	○	撫	○	○	／	
89	平瓦	奈良生活面	1.9	硬	灰	○	／	○		撫	○	○	／	3

6 考 察

90	平瓦	奈良生活面	1.2	締	灰		／	○			撫	○		／	
91	不明	奈良生活面	1.4	軟	淡黄	○	／	？			撫	○			
92	丸瓦	奈良生活面	1.2	軟	淡黄	○	／	／	○		撫	○	／		
93	丸瓦	奈良生活面	1.2	硬	灰		／	？			撫	○	／		
94	丸瓦	奈良生活面	1.5	軟	淡黄		／	／	○		撫	○	／		
95	平瓦	奈良生活面	0.9	軟	淡黄		／	？			撫	○	／		
96	平瓦	奈良生活面	1.5	軟	淡灰		／	○			撫	○	／	2	
97	丸瓦	奈良生活面	1.3	軟	淡黄		／	／			撫	○	／	2	
98	平瓦	奈良生活面	1.1	軟	淡黄		／	○			撫	○	／		
99	平瓦	奈良生活面	1.3	軟	淡灰		／	○			撫	○	／	2	
100	丸瓦	奈良生活面	1.7	軟	淡褐		／	／			撫	○	／		
101	不明	奈良生活面	1.3	硬	灰		／	？			撫	○		2	
102	軒平瓦	調査区表採	2.7	締	灰		／	○			篋横 = 篋横 = ○		／	1	三重弧文 第305図No11
103	平瓦	46C26	1.8	締	灰		／	○			撫	○	○	／	1
104	平瓦	56C17~ 64C21	1.9	軟	淡灰		／	○			撫	○	○	／	3
105	丸瓦	64C27	1.3	硬	灰		／	／			撫	○	／	2	
106	平瓦	D区溝東	1.6	並	灰		／	○			撫	？	○	／	3
107	丸瓦	56C19~ 64C29	1.3	並	灰		／	／			撫	○	／	2	裁断目あり。
108	平瓦	D区 トレンチ	1.4	硬	灰		／	／			撫	○	／	1	轆轤回転左廻り。
109	丸瓦	D-4号溝	1.4	硬	灰	○	／	／			撫	○	／	2	轆轤回転左廻り。
110	平瓦	67C31	2.0	硬	淡灰		／	○			撫	○	／		
111	平瓦	D区表採	2.2	軟	黄灰	○	／	○			撫	○	／		
112	平瓦	D区表採	1.8	軟	淡灰		？	？	？	？	？	？	？	／	
113	平瓦	D-14号溝	1.6	締	灰	○	／	○			素文	？	／	2	
114	平瓦	D区表採	1.3	硬	灰		／	○			撫	○	／		
115	丸瓦	D区表採	1.3	軟	黄灰		／	／			撫	○	／		
116	平瓦	D区表採	1.7	締	灰		／	○			素文	？	／		
117	平瓦	調査区表採	1.9	軟	黄灰		／	／			撫	○	？	／	
118	平瓦	D区表採	1.0	締	灰		／	／			撫	○	／		
119	丸瓦	D区表採	1.6	軟	淡灰		／	／			撫	○	／	3	

## (1) 瓦 類

120	丸瓦	37C15	1.2	硬	灰			/	/				燕	○		/		2	
121	平瓦	62C31	2.0	並	灰			/	○				燕	?		/			
122	平瓦	D区表採	1.8	軟	褐				?	?			燕	?		/			
123	平瓦	D区表採	1.8	硬	灰			/	○				燕	?		/			
124	面戸瓦	D-4号溝	1.5	軟	黄灰			/	○				燕	○		/		1	平瓦を転用。 第305図№10
125	平瓦	D-4号溝	1.5	硬	灰			/	○				燕	○		/		2	
126	平瓦	D-4号溝	1.6	軟	淡褐			/	○				燕	○	○	/		2	
127	平瓦	D-4号溝	1.3	締	灰			/	○				燕	○		/		2	
128	平瓦	D-4号溝	1.4	軟	淡灰	○		/	○				燕	○		/			
129	平瓦	D-4号溝	1.4	軟	黄灰	○		/	○				燕	○		/		2	
130	平瓦	D-4号溝	1.5	軟	淡褐			/	○		○	素文	○			/			
131	平瓦	D-4号溝	1.5	軟	淡黄			/	○				燕	○		/			
132	平瓦	D-4号溝	1.6	軟	黄灰			/	○				燕	○		/			
133	平瓦	D-4号溝	1.0	軟	淡褐			/	○		○		燕	○		/			
134	平瓦	D-4号溝	1.7	軟	灰	○		/	○				燕	○		/			
135	平瓦	D-1号溝	1.4	軟	淡灰	○		/	○				燕	○		/		2	
136	平瓦	D-1号溝	2.0	軟	淡灰	○		/	○				燕	○		/		2	
137	平瓦	D-4号溝	2.0	硬	灰	○		/	○				燕	○		/			
138	平瓦	D-4号溝	1.8	軟	黄灰			/	○				燕	○		/			
139	平瓦	D-1号溝	1.7	硬	灰	○		/	○				燕	○		/			
140	平瓦	D-1号溝	1.7	硬	灰			/	?				燕	?		/		2	
141	平瓦	D-1号溝	1.2	軟	黄灰			/	○				燕	○		/			
142	平瓦	D-1号溝	1.7	並	灰			/	○				燕	○		/			
143	平瓦	D-1号溝	2.0	硬	灰	○		/	○				燕	○		/			
144	平瓦	D-1号溝	1.8	硬	灰	○		/	○				燕	○		/			
145	平瓦	D-1号溝	2.1	並	灰	○	○	/	○				燕	○		/			
146	丸瓦	D-1号溝	1.5	軟	淡灰			/	/				燕	○		/		3	
147	平瓦	D-1号溝	2.1	硬	灰	○		/	○	○			燕	○		/			
148	平瓦	D-1号溝	1.7	硬	灰	○		/	○				燕	○		/			
149	平瓦	D-1号溝	1.9	硬	灰			/	○				燕	○		/			
150	丸瓦	D-1号溝	1.8	軟	淡黄	○		/	/				燕	○		/		2	

6 考 察

151	不明	D-1号溝	1.5	軟	淡灰			?	?			?	?					
152	平瓦	D-1号溝	1.8	軟	灰	○	／	?	○			撫	○		／			1
153	平瓦	D-1号溝	1.5	軟	淡灰	○	／	○				撫	○		／			
154	丸瓦	D-1号溝	1.3	軟	淡灰		／	／				撫	○		／			3
155	平瓦	D-4号溝		軟	淡灰		／	○	?			?	／	／		／		
156	平瓦	D-4号溝	1.6	軟	淡黄		／	○				撫	○		／			
157	平瓦	D-4号溝	1.5	並	淡黄	○	／	○				撫	○		／			
158	平瓦	10号掘立	1.9	並	灰	○	／	○				撫	○		／			3
159	平瓦	51号住	1.8	軟	淡灰	○	／	○	○			撫	○		／			1
160	平瓦	13号土坑	1.8	並	灰		／	○	○			撫	○		／			
161	平瓦	調査区表採	2.0	硬	灰		／	○				撫	○		／			3
162	平瓦	D区表採	1.7	軟	淡灰	○	／	○				撫	○		／			
163	平瓦	D区表採	1.5	軟	淡灰		／	○				撫	○		／			
164	平瓦	D区表採	1.7	硬	灰	○	／	○				撫	○		／			
165	平瓦	36D10	2.5	並	灰		?	?	○			撫	○		／			
166	平瓦	64C39	1.7	軟	淡褐	○	／	○				撫	○		／			3
167	平瓦	30C22	1.7	並	灰		／	○				撫	○		／			
168	平瓦	56C37~ 58C43	1.9	軟	淡灰		／	○				撫	○		／			1
169	平瓦	D区表採	1.7	軟	淡灰		／	○				撫	○		／			2
170	平瓦	61C37	2.3	軟	淡褐	○	／	○				撫	○		／			3
171	平瓦	32C25	2.0	並	淡灰		／	○				撫	○	○	／			
172	平瓦	D区表採	1.9	硬	淡灰	?	?	?				横篋	篋	○	／			
173	平瓦	32C25	2.1	軟	淡灰		／	○				撫	○	○	／			2
174	平瓦	64C27	0.9	軟	淡灰		／	○				撫	○		／			2
175	平瓦	D区表採	1.5	軟	灰		／	○				撫	○		／			
176	丸瓦	62C39	1.5	軟	淡灰		／	／				撫	○	／				
177	丸瓦	D区表採	1.7	硬	灰		／	／	○			篋	?	／				
178	平瓦	30C35~ 31C36	1.7	硬	灰		／	○				撫	○		／			
179	平瓦	52C31	1.3	軟	淡褐	○	／	○				撫	○		／			
180	平瓦	50C19~ 60C29	1.2	軟	淡灰		／	○				撫	○		／			

## (1) 瓦 類

181	平瓦	65C27	1.3	硬	灰			/						撫	○		/	2		
182	丸瓦	32C23	1.2	軟	淡灰			/	/					撫	○		/	2		
183	丸瓦	46C39	1.1	締	灰			/	/					撫	○		/	1		
184	丸瓦	32C27	1.3	軟	淡灰			/	/					撫	○		/			
185	平瓦	C区表採	1.4	硬	灰			/	○					撫	○		/	3		
186	平瓦	32C23	1.4	硬	灰			/	○					撫	○		/	1		
187	丸瓦	31C41	1.8	軟	淡褐			/	/					撫	○		/			
188	丸瓦	32C23	1.2	並	灰			/	/					撫	○		/	1		
189	平瓦	36D19	1.6	軟	淡灰			/	/	○				撫	○		/			
190	平瓦	37C19	1.5	軟	淡灰	○		/	○					撫	○		/			
191	平瓦	36C20	1.8	軟	灰			/	○					撫	○		/			
192	平瓦	1号井戸	1.7	硬	灰			/	○					撫	○		/	1		
住-4	平瓦	1号住居	1.5	軟	灰			/	○					撫	○		/		第6図No.4	
住-8	平瓦	4号住居	2.1	軟	淡褐			/	○					撫	○		/	2	第17図No.8	
住-9	丸瓦	4号住居	1.8	締	灰			/	/	○			素文			/	2	外側裁断目あり。第17図No.9		
住-10	丸瓦	4号住居	1.7	締	灰			/	/	○			素文			/	1	重みなし。第17図No.10		
住-12	平瓦	8号住居	1.2	締	灰			/	○	○				撫	○		/	2	第25図No.12	
住-11	平瓦	33号住居	1.7	硬	灰	○		/	○					撫	○		/	2	第66図No.11	
住-4	平瓦	43号住居	1.7	締	灰			/	○	○				撫	○		○	/	2	第84図No.2
住-1	丸瓦	45号住居	1.6	締	灰			/	/					撫	○		/		第88図No.1	
住-3	平瓦	48号住居	1.3	軟	淡黄			/	○					撫	○		/	3	第92図No.3	
住-1	平瓦	52号住居	1.8	軟	淡黄			/	○					撫	○		/	1	第102図No.1	
住-12	平瓦	62号住居	2.0	並	灰			/	○	○				撫	○		○	/	2	第116図No.12
住-11	平瓦	62号住居	2.0	並	灰		○	/	○					撫	○		○	/		第116図No.11
住-17	平瓦	91号住居	1.7	硬	灰	○		/	○	○				撫	○		/	3	第156図No.17	
住-1	平瓦	92号住居	1.1	硬	灰	○		/	○					撫	○		/	2	第158図No.1	
D住-4	平瓦	D住-2号	1.4	締	灰			/	○					撫	○		/	2	第181図No.4	
D住-10	平瓦	D住-3号	1.9	軟	淡黄	○		/	○					撫	○		/		第185図No.10	
D住-11	平瓦	D住-3号	1.2	軟	淡黄			/	○					撫	○		/		第185図No.11	
D住-12	平瓦	D住-3号	1.9	軟	淡黄			/	○					撫	○		/	1	第185図No.12	

6 考 察

D住-13	平瓦	D住-3号	1.5	硬	淡黄	○	/	○			撫	○		/	2	第185図No13	
D住-14	平瓦	D住-3号	1.8	並	淡灰		/	○			撫	○		/		第185図No14	
D住-4	丸瓦	D住-4号	1.5	軟	淡黄		/	/			撫	○		/		第190図No 4	
掘-1	平瓦	1号掘立	1.4	締	灰		/	○			撫	○		/		第230図No15	
掘-4	平瓦	2号掘立	2.2	軟	灰		/	○			撫	○	○	/		第230図No16	
掘-7	平瓦	2号掘立	1.7	軟	淡黄		/	○			撫	○	○	/		第230図No20	
掘-8	丸瓦	2号掘立	2.2	締	灰		/	/			撫	○		/	2	裁断目あり。第230図No17	
掘-13	平瓦	2号掘立	2.2	並	灰	○	/	○			撫	○	○	○	/	3	第230図No21
掘-19	平瓦	10号掘立	2.0	並	灰	○	/	○			撫	○	○	○	/	3	第230図No23
掘-20	平瓦	10号掘立	2.2	並	灰	○	/	○			撫	○	○	○	/	3	第230図No22
掘-22	丸瓦	11号掘立	1.3	軟	淡灰		/	/	○		撫	○		/	1	第230図No18	
掘-24	平瓦	8号掘立	2.2	並	灰		/	○			撫	○	○	○	/	3	第230図No19
土-1	平瓦	3号土坑	1.8	軟	淡灰		/	○			撫	○		/	1	第267図No 1	
土-2	平瓦	3号土坑	1.8	並	淡灰		/	○			撫	○	○	/		第267図No 2	
土-15	平瓦	30号土坑	1.4	締	灰		/	○			撫	○		/	1	第267図No 9	
土-23	平瓦	198号土坑	2.1	並	淡灰		/	○			撫	○		/	2		

第105表 瓦観察表1類B-1

No	種別	出土地	厚さ	焼成		成形技法					整形技法				備考			
				焼色	調	粘土板系切痕		一枚作	桶痕	粘土板合目	布の合目	叩目	轆轤痕	篋削		布擦目消		側部面取
						凹	凸									凹	凸	
1	平瓦	D-1号溝	0.9	並	灰			○							/	1	側部に布目あり。第305図No12	
2	平瓦	奈良生活面	1.5	並	灰			○							/	1	側部に布目あり。第305図No14	
3	平瓦	D-1号溝	1.7	硬	灰			○	/						/	2	側部に布目あり。第305図No13	
4	平瓦	D-1号溝	1.7	並	灰	○		?	?	?			?		/		第305図No15	
5	平瓦	D-1号溝	2.2	軟	淡灰	○		○							/	2	側部に布目あり。第306図No16	

## (1) 瓦 類

6	平瓦	D-1号溝	1.5	軟	淡黄			?	?			繩叩	?		／	3	側部に布目あり。第306図No20
7	平瓦	70C45	1.6	並	淡灰			○	／			繩叩			／	2	側部に布目あり。第306図No17
8	平瓦	30C20	1.5	軟	灰			○	／			繩叩			／	3	側部に布目あり。第306図No18
9	平瓦	C区表採	1.0	硬	灰			○	／			繩叩			／	2	側部に布目あり。第306図No19
10	平瓦	27号住	1.3	並	灰			?	?			繩叩			／		第306図No22
11	平瓦	27号住	1.7	軟	淡灰			○	／			繩叩			／	1	側部に布目あり。第306図No21

第106表 瓦観察表1類B-2

No.	種別	出土地	厚さ	焼 成		成 形 技 法						整 形 技 法				備 考		
				焼 上 り	色 調	粘 土 板 糸 切 痕		一 枚 作	桶 痕	粘 土 板 合 目	布 の 合 目	叩 目	轆 轆 痕	篋 削	布 擦 目 消		側 部 面 取	
						凹	凸								凹			凸
1	平瓦	D-1号溝	1.4	並	灰		○	○	／			繩叩			／	2	側部に布目あり。第306図No23	
2	平瓦	D-1号溝	1.8	硬	灰			○				繩叩			／	1	縦・横の繩叩。第306図No24	
3	平瓦	D-1号溝	1.6	軟	灰	○		○				繩叩			／	3	第306図No25	
4	平瓦	27号住	1.8	並	淡黄	○		?	?		○	繩叩			／		縦・横の繩叩。第53図No 3	
5	平瓦	D-12号住	1.2	並	灰			／	○			繩叩			／		第205図No 7	
6	平瓦	D区表採	1.6	硬	灰			?	?			繩叩			／		第307図No34	
7	平瓦	D-1号溝	1.5	締	灰			?	?			繩叩			／	3	第307図No27	
8	平瓦	D-1号溝	1.5	締	灰	○		?	?			繩叩	?		／	3	第307図No28	
9	平瓦	D-1号溝	1.9	並	灰			?	?			繩叩	?		／		第307図No30	
10	平瓦	D-1号溝	1.5	締	灰			?	?			繩叩			／	2	第307図No26	
11	平瓦	D-1号溝	2.1	軟	淡黄			?	?	?		繩叩	?		／		第307図No32	
12	平瓦	D-1号溝	1.3	軟	淡黄			?	?			繩叩	?		／			
13	平瓦	32号土坑	1.6	軟	淡褐			?	?			繩叩			／		第307図No31	
14	平瓦	68C39	1.5	軟	淡灰			?	?			繩叩	?		／		第307図No35	
15	平瓦	36C27	1.3	軟	淡灰			?	?			繩叩			／		縦・横の細繩。第307図No33	
16	平瓦	表採	1.6	軟	灰			?	?			繩叩	?		／		第307図No34	

6 考 察

第107表 瓦観察表1類B-3

No	種別	出土地	厚さ	焼 成		成 形 技 法						整 形 技 法					備 考	
				焼 上 り	色 調	粘土板 糸切痕		一 枚 作	桶 痕	粘 土 板 合 目	布 の 合 目	叩 目	轆 轆 痕	篋 削	布 擦			側 部 面 取
						凹	凸								凹	凸		
1	平瓦	10号住	1.5	軟	淡灰	○		/	○	?					/	1	第308図No36	

第108表 瓦観察表1類B-4

No	種別	出土地	厚さ	焼 成		成 形 技 法						整 形 技 法					備 考	
				焼 上 り	色 調	粘土板 糸切痕		一 枚 作	桶 痕	粘 土 板 合 目	布 の 合 目	叩 目	轆 轆 痕	篋 削	布 擦			側 部 面 取
						凹	凸								凹	凸		
1	丸瓦	D-1号溝	1.3	軟	淡灰			/	/				崖・縄叩	○	/		篋書「大」 第308図No37	
2	丸瓦	D-1号溝	1.3	軟	淡黄			/	?				縄叩	○	○	/	縄叩後回転篋削り。第308図No38	
3	丸瓦	D区表採	1.0	並	淡灰			/	/			○	縄・擦消	撫	/	○	3 第308図No39	
4	平瓦	D-1号溝	1.3	軟	淡灰			?	?				縄叩			/	第308図No40	
5	丸瓦	68C37	1.4	硬	灰			/	/				縄叩	撫		/	縄叩後、撫消し。第308図No41	

第109表 瓦観察表1類C

No	種別	出土地	厚さ	焼 成		成 形 技 法						整 形 技 法					備 考	
				焼 上 り	色 調	粘土板 糸切痕		一 枚 作	桶 痕	粘 土 板 合 目	布 の 合 目	叩 目	轆 轆 痕	篋 削	布 擦			側 部 面 取
						凹	凸								凹	凸		
1	平瓦	D-4号溝	2.1	締	灰	○		/	○		○	格子痕 撫	○		/	1	格子痕と撫。 第309図No42	
2	平瓦	D-4号溝	1.0	軟	淡黄			/	○			格子	?		/	2	格子をそのまま残す。 第309図No43	
3	平瓦	D-3号住	2.0	並	灰	○		/	○			格子	撫		/	1	格子目らしき痕跡あり。 第185図No15	

## (1) 瓦 類

第110表 瓦観察表2類A

No	種別	出土地	厚さ	焼 成		成 形 技 法						整 形 技 法				備 考			
				焼 上 り	色 調	粘土板 糸切痕		一 枚 作	桶 痕	粘 土 板 合 目	布 の 合 目	叩 目	轆 轆 痕	篋 削	布 擦 目 消		側 部 面 取		
						凹	凸								凹			凸	
1	丸瓦	87号住	1.6	軟	赤褐			?	/				平行叩			/		1	第149図No10
2	丸瓦	表採	1.3	軟	褐			/	/				素文	?		/		1	第309図No46
3	丸瓦	表採	1.6	並	褐			/	/				素文	○		/			第309図No45

第111表 瓦観察表2類B

No	種別	出土地	厚さ	焼 成		成 形 技 法						整 形 技 法				備 考			
				焼 上 り	色 調	粘土板 糸切痕		一 枚 作	桶 痕	粘 土 板 合 目	布 の 合 目	叩 目	轆 轆 痕	篋 削	布 擦 目 消		側 部 面 取		
						凹	凸								凹			凸	
1	丸瓦	35号住	1.7	軟	淡灰			/	/				撫	○		/		2	第70図No 1
2	丸瓦	D-11号住	1.6	締	黄灰			/	/				素文	?		/			第203図No 4
3	丸瓦	45号住	1.5	硬	灰			/	/				撫	○		/			第88図No 1
4	丸瓦	68C39	1.6	軟	褐			/	/				素文	?		/			第309図No44

第112表 瓦観察表3類

No	種別	出土地	厚さ	焼 成		成 形 技 法						整 形 技 法				備 考			
				焼 上 り	色 調	粘土板 糸切痕		一 枚 作	桶 痕	粘 土 板 合 目	布 の 合 目	叩 目	轆 轆 痕	篋 削	布 擦 目 消		側 部 面 取		
						凹	凸								凹			凸	
1	平瓦	D-1号溝	2.2	軟	淡灰	○		/	○				撫	○		/		吉井か不明。	第310図No47
2	丸瓦	表採	1.7	軟	黒灰	/	/	?	?	/			撫	○		/		紐作り。	第310図No48
3	平瓦	表採	1.9	軟	褐			?	?	○			平行	?		/		製作地不詳。土が軽い。	第310図No49
4	平瓦	表採	2.5	軟	褐			?	?				縄叩	?		/	3	製作地不詳。土が軽い。	第310図No51
5	軒平瓦	表採	1.6	軟	淡褐			/	○				?	?		/	1	No 3・4・5は同一製作地か？ 重弧文	第310図No50

## (2) 中・近世陶・磁器、軟質陶器、土師質土器について

当遺跡における中・近世陶磁器の出土総量は平箱(60×45×15cm)で3箱あった。これらは調査区の近世以降の遺構から出土したものを主体としている。その年代幅は14世紀代の軟質陶器鉢片から現代に至る長期に亘っている。

これらの破片すべてを掲載することは紙面と整理労力の都合上出来ず、選択を余儀なくされ、本書では明治時代以前の遺構に伴う遺物を中心に45点を載せた。

観察について一覧表を作成した。それが第100表である。観察視点は従来どうりで(勸群馬県埋蔵文化財調査事業団)「陶・磁器」『下東西遺跡』1987などを参照されたい。観察の結果を以下で触れたい。

中世としうるのは23井戸から出土した第264図5の軟質陶器鉢片、39井戸から出土した同図10の軟質陶器鉢片、19井戸から出土した同図3の土師質土器皿などがあり、それぞれの地域における年代観から14・15・16世紀代の所産と見なされる。

近世に至って出土傾向とすれば、17世紀から18世紀前半にかけて美濃焼(第272図49・51)・瀬戸焼(第271図33、第264図6)などが前代からの商圏を受継ぎ、当遺跡からも多く出土している。この段階には京焼系、唐津系(第271図47)など主体ではないが九州諸窯の製品が存在している。ことに京焼系は、純粋な意味での京焼はなく九州諸窯と見られる胎土がち密・素質の両者である。片口・鉢・播鉢など大形器種についてはそれ以降も存在しているが18世紀代に至って碗、小坏など小形器種に染付磁器(第271図30・31)の多用がはじまり、磁器の多用は現代まで受継がれる。以上は県内における一般傾向であると同時に、新保遺跡の傾向でもある。

井戸 18井戸からは美濃焼鉄釉播鉢(第264図)が出土している。19井戸から近世在地製軟質陶器製内耳盤形、陶器皿、土師質土器皿の出土(第264図)があり、土師質土器皿の変遷観からすれば17世紀の年代が得られる。21井戸から18世紀代の陶器鉄釉香炉片(第264図)が出土している。26井戸から18世紀瀬戸焼、鉄・灰釉掛分の磁片(第264図)が出土している。33井戸から18～19世紀の鉄釉播鉢片、17～18世紀と考えられる在地製軟質陶器内耳盤形(第265図)が出土している。34井戸から18世紀美濃焼香炉片(第265図)が出土している。39井戸からは中世軟質陶器鉢片とともに17～18世紀代と考えられる美濃焼播鉢が出土している。

溝 127溝から15世紀後半の軟質陶器内耳鍋(第270図)の大形破片の出土があり、周辺状況からすると中世との係りの可能性が高い。128溝から18～19世紀の鉄釉灯火皿(第269図)が出土している。134溝から(第271～274図)に示した大量な遺物の出土がある。その中で最も新しい遺物は18～19世紀代と考えられる例が多く、19世紀初頭頃までに遺構年代がおさえられる。

その他の遺物(第289図)、1は17世紀後半の唐津系の緑色釉皿があり、2は17世紀後半の伊万里系皿がある。5・6は17世紀美濃焼天目釉碗が存在する。

## 7. ま と め

本書に報告した主な遺構は古墳時代後半から奈良・平安時代そして中近世にわたっている。この間古墳時代の竪穴住居跡群を皮切に奈良時代の掘立柱建物跡へ続き、平安時代に至り再び竪穴住居跡群によって占地される。中世には、環濠を伴う掘立柱建物跡群を配した屋敷跡へと変遷をたどり、検出遺構の最終段階には近世の掘立柱建物跡がある。以下それぞれの段階を追いその成果、問題点を述べるとともにまとめとしたい。

### 古墳時代

古墳時代に考えられる住居跡は12軒あり、すべてC区東側に集中して検出されたが分布の状況はやや散在的である。住居跡の特徴は竈は東壁中央あるいはやや南寄りに付設され、このうち第53号住居跡は南西コーナーに付設されている。検出された遺物は土師器坏、甕である。坏の特徴は1号住居跡に代表される口縁部の稜をもつ模倣坏が殆どである。甕は長胴形を呈する。古墳時代に比定される住居跡の坏は模倣坏が殆どである。5号住居跡出土土師器の破片には記号が施されたものがある。

### 古墳終末～奈良時代

この時期に考えられる住居跡は12軒が検出された。住居跡の分布は東側にありやや散在的である。竈は東壁中央あるいは南寄りに検出された。遺物は坏、甕が検出された。坏の特徴は丸底を呈し口縁部は短く内側に屈曲する。この時代は2号住居跡に代表され模倣坏は全く検出されていない。しかし8号住居跡には口縁部に稜を持つ坏と供伴し古墳時代から系譜がおえるものと考えられる。またD区から須恵器の蓋を伴う住居跡も検出されている。このうちD-3・7号住居跡の蓋には内側に返りを持ちD-11・12・15・16号住居跡の須恵器蓋には返りは持っていない。

住居跡は以上のように古墳時代から奈良時代まで散在的ではあるが模倣坏のみを検出する住居跡、模倣坏を持たない住居跡、さらに供伴する住居跡が見え時間的な流れを見て取れる。

また奈良時代に考えられる掘立柱建物跡が8棟検出された。C区中央部に広場的な空間を持ちながら検出され他の調査区からは検出されていない。掘立柱建物跡はC区内に東西に分かれて検出され、東側5棟、西側3棟がある。またさらに各々1棟ずつ掘立柱建物跡と考えられる小穴群があり、東側には6号掘立柱建物跡西側には11号掘立柱建物跡の2棟がある。東側の5棟の内、柱穴底面に石を持つものが4棟あり、桁側の柱間の長さは7～8尺に統一されている。柱間は奈良平安時代には7～8尺をとり時代を降るにつれて狭くなる。<sup>(1)</sup>

1号掘立柱建物跡は梁側も同じ幅を持つ。1・2号掘立柱建物跡は、他の3棟より柱穴の規模も大型である。3・13号掘立柱建物跡は桁側の柱間にややずれを生じる。両建物は構造的にみて1・2号掘立柱建物跡とは異なり簡便な作りで、小穴の規模も深さもこぶりである。また構造は桁側に柱間の広がる部分等がみられこの部分に入り口等の施設があったことが考えられる。このずれは梁の部分の先に立てその後に桁柱を張ることが考えられる。<sup>(2)</sup> 西側には3棟が検出され10号掘立柱建物跡は柱穴に石を持つが他の2棟からは検出されていない。10号掘立柱建物跡は建て替えられた痕跡がある。東西の2群はC区中央に幅約35～40mの広場的な空間を狭み対峙している。建物跡の内、1・2・10・13号掘立柱建物跡には柱穴をつなぐ溝が検出された。このような例は県内下淵名遺跡、<sup>(3)</sup> 上西原遺跡<sup>(4)</sup>で検出されている。上西原遺跡第5号掘立柱建物跡は、柱穴をつなぐ溝と言うよりも布堀に近いと考えられる。両妻側に溝の切れ目があり、出入り口が想定されている。<sup>(5)</sup> C区に検出された掘立柱建物跡の溝は深さ約20cm～40cmを測り、13号掘立柱建物跡では数cmの部分もあ

## 7 ま と め

り、掘立柱建物跡に伴う施設としてはその機能は明確ではない。下淵名遺跡ではこのような掘立柱建物跡を一般集落の中に検出している<sup>(6)</sup>。上西原遺跡は一般の集落跡とはやや異なる様相がうかがえる<sup>(7)</sup>。

1・2号掘立柱建物跡は溝を持ち、また柱穴に石を持つなど構造や企画的にも似た部分が見受けられ、両建物の内側柱穴は束柱とも取れ、床張りの可能性を示している。同じ機能を果たしていたものであろうが、両掘立柱建物跡は近接しており、2号掘立柱建物跡の柱間が広い<sup>(8)</sup>ため時間幅があると考えられる。両建物の主軸を見ると1号はN-10°-W、2号はN-13°-Eであり23°のずれを生じる。1号はさらに3号と3°、13号と2°のずれを持つ。2号は7号と1°のずれを持つ。このように東側では方位の違いが現れ2時期が想定できる。

西側を見ると9・10号は、10号の建て替え以前は全く同じ方位を持ち、N-6°-Eをとり、8号も同じ方位である。東側1号の群と同じ時期に存在したことが考えられる。10号は立て替えに際しても2°のずれに止どまる。また10号の南側梁側線と13号の南側の線も対応し、南限は確認できるが北限は染谷川により削平されているが、11号掘立柱建物跡等の存在からコの字状の配置を想定することができる。このようなことと前述したように2時期が考えられること、根石を持つ建物と簡便な建物とのグループを想定できる。

検出された遺物は少ないが瓦、須恵器、土師器坏がある。土師器坏は平底で底面を手持ちヘラ調整が施されている。瓦は前項大江の分析によれば7世紀末から8世紀代が当てられる。10号掘立柱建物跡P14からは根石上面に密着して検出された。瓦、坏等からも、また古墳時代の住居跡を壊していることから掘立柱建物跡の時期は奈良時代に当てられる。このように掘立柱建物跡に現れる2時期は主軸や構造のみではなく10号掘立柱建物跡の小穴根石に接して7世紀末の瓦が検出され時間的な幅が確認された。また2号掘立柱建物跡、10号掘立柱建物跡の各々より検出された瓦が接合された。

さらにD区に南北に主軸を持つ1・4号溝が検出された。両溝からは瓦、須恵器、土師器等が多量に検出されている。1号溝から検出された遺物の内須恵器坏は底面に回転糸切り痕を遺している。しかし、瓦の年代は掘立柱建物跡検出瓦と同じ時期が与えられるものもある。4号溝出土瓦も同様の時期に比定されるが須恵器が完形品に近い状態で多数検出された。特に蓋は約20個体に及びすべて内面に返りを持っている。このうち外面を手持ちヘラ調整するものが一点含まれている。坏は底面が平底で口縁部に向かい直状に外傾する。調整の特徴は底面はすべて回転ヘラ調整、ヘラ切りも見られる。須恵器坏はほとんどがこの器形を持ち約12点が検出された。須恵器は合計で約100点が検出された。

土師器は破片も含めて約350点が検出され、このうち器形で分類すると4類に分けられる。

- |    |                      |       |
|----|----------------------|-------|
| 1類 | 底面が平らで口縁部は直状に外傾するもの  | (8点)  |
| 2類 | 口縁部に弱い稜をもち体部に丸味をもつもの | (53点) |
| 3類 | 口縁部は短く真上に立ち上がるもの     | (81点) |
| 4類 | 口縁部に稜をもち外傾するもの       | (27点) |

※点数の合計は器型が特定できるもののみの数字である。2～3類の土師器はみな丸底である。

1類の中には内面に螺旋暗文を施される土師器が1点含まれている。4号溝からは以上須恵器、土師器が集中して検出された。土師器のうち1類に分類されるものは須恵器と器形が良く似ている。2～3類に分けられる土師器は口縁部にヨコナデ体部にヘラケズリが施され、口縁部と体部との間には中間帯を有する一群である。溝からの遺物は8世紀前半期と考えられる。

また溝からは瓦が多数検出された。検出された瓦の時期は掘立柱建物跡D区1・4号溝また遺跡内から出土した瓦は200点を越えほとんどが7世紀後半に比定されることからD1号出土須恵器とはやや時間的な幅

を持つものである。

C区内はこの配置の統一された掘立柱建物跡がその主体をなす。同時期のD4号溝からは螺旋暗文を施された土師器や瓦が検出される。同種の土師器は群馬町保渡田東遺跡<sup>(9)</sup>、鳥羽遺跡<sup>(10)</sup>、下東西遺跡<sup>(11)</sup>で検出され、国府周辺の遺跡としての特徴を示していると共に、鳥羽遺跡ではH1号掘立柱建物跡を囲む溝中から検出されているなど、一般的な集落との違いを示すものであろう。

またA区に15・16号溝、C区河川改修区に33・34号溝が検出され、D4号溝の走行とも合い東西幅240mの区画を想定することができる。C区の33・34号溝は周辺に小穴を持っている。4条の溝からは遺物の検出は少ないが15号溝中からは底面に糸切りをのこし墨書の施される須恵器が検出されている。時期的にはやや新しいと見られるが走行の共通性が見て取れる。

遺跡内で検出された瓦は200点を越え、D4号溝、C区13号掘立柱建物跡の南のくぼみからも出土しており、大半が7世紀末のものであり8世紀中庸のものも含まれるが量的には少ない。C区内の掘立柱建物跡の内、構造や企画的に見て瓦が葺かれる事が予想されるものは1・2号掘立柱建物跡であるが、瓦は周辺にはあまり検出されていないが1号住居跡覆土から瓦の破片が検出されている。溝からの出土状況も一括で出土し遠方から運ばれたようには見えず、周辺にさらに大きな区画を持つ建物跡群の存在を想定させる。

このように掘立柱建物跡は主軸に統一性がみられ、区画も正確に測られている。遺物等からD4号溝と同時期に考えられ溝出土の土器にも一般集落とは異なる様相を示している。さらに大きな区画も想定でき、瓦等の検出からも集落以外の遺構であろう。調査範囲は限られているが周辺には同時期にあるいは共通する遺物も検出されていない。さらに後続する平安時代の集落遺構の出現は時間的な幅があり継続性はみられないことなど他の遺構に伴う瓦等の意味からも東側に接した寺院等の付属施設が考えられる。

#### 平安時代

平安時代の住居跡は奈良時代住居跡、掘立柱建物跡群に後続し構築され73軒が検出された。D区では4号溝埋没後に住居跡が造られており、羽釜の検出が多く土器の系譜的なことから前代の遺構とはやや時間的な開きがみられる。竈は住居跡東壁中央部あるいはやや南よりに検出されている。住居跡の竈には瓦が使用されるものも含まれている。また69号住居跡出土羽釜は鏝の下から底面に向かいやや丸みを持ち新しい様相がうかがえる。住居跡の占地は遺跡内西側へ移動しさらには調査区域外へ広がる様相を示し、住居跡の軒数も盛期を迎える。このような住居跡の増加は遺跡地内A、B区には広がらず耕作地の可能性を示すものであろう。

#### 中・近世時代

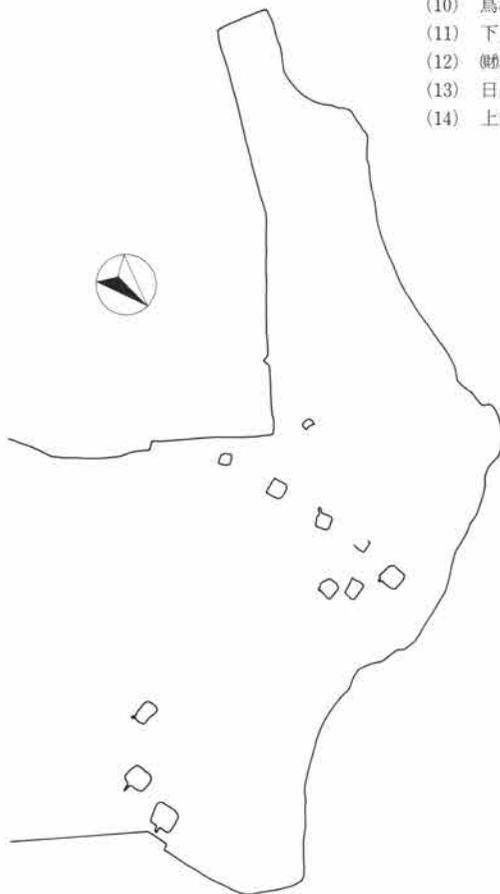
中世の屋敷跡がC区中央部に検出された。屋敷の概要はC区中央に方形に55号溝と46号溝が区画を持ち、区画の内側に掘立柱建物跡を検出した。55号溝は北・東・南を巡り西側は46(B)号溝が対応する。溝の規模は南北で約35m、東西で約50mを測る。55号溝の上幅は約4m～1m、深さ約20cm～40cmとやや浅い。46(B)号溝は、重複する平安時代の住居跡の床には届いていない。しかし南西部においては1.5mを測る部分もある。溝の覆土の最下面から浅間B軽石を検出している。区画の内側からは6棟の掘立柱建物跡と、上屋を持つ井戸が検出された。井戸は、このほかに3基が検出された。遺構はすべて区画内北東部に集中して検出され、入り口部付近も遺構と考えられるものがあるが規模が不明のため確定はできなかった。掘立柱建物跡は、一番北側に柱穴の規模の大きい建物があり、母屋と見られるが溝との走行にやはずれをみせる。掘立柱建物跡は、6号を抜かし主軸を南北にとり重複して検出されている。区画内西半部には遺構は殆ど検出されていない。母屋の西側には東西に境を示すように柵状の遺構がみえ居住空間とはやや異なる様相がうかがえる。屋敷内に

7 ま と め

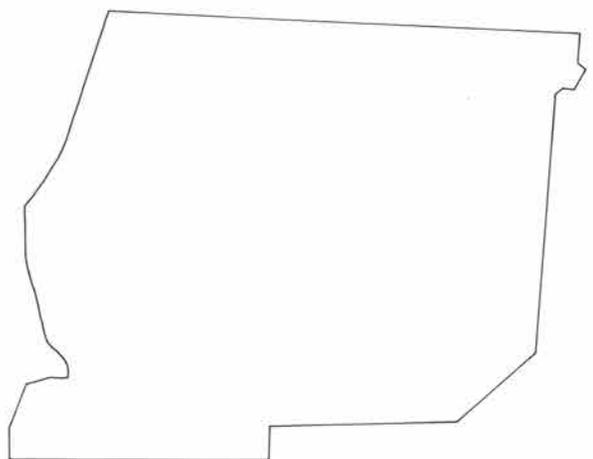
は小穴と共に長方形土坑があり、屋敷内の墓塚とみられるが、その分布にも中央部付近と北東部との2箇所に分かれ、時間的に幅があり屋敷の継続性がみられる。北東部の土坑を除くと溝に沿った内側は遺構が検出されておらず土塁状の遺構があったことが想定できる。D区にも中世から近世に至る掘立柱建物跡が6棟検出され、柱間が1.8mを取るなど新しい様相を見せるものもあり、C区の屋敷跡と何等かの関係があるものと思われる。C区に検出された22号井戸からは応永9年(1402)と読み取れることができる板碑が検出された。蛭沢遺跡からも板碑が検出され彫り込みが葉研彫りを呈しほぼ14世紀後半～15世紀前半の様相をみせる<sup>(12)</sup>。また遺構は明確ではないが近世の美濃焼きや青磁、天目茶碗等が検出されている。美濃焼きは東に接する日高遺跡<sup>(13)</sup>IVからも出土の報告があり近世期の居住域であったことがうかがえる。上野郡村誌によると、『新保村は古時青木荘にある』と記載されている<sup>(14)</sup>。青木荘は71ヶ村を数え広い範囲を示し、このうち新保村は青木荘内の南に位置している。青木荘は古く長野氏の本拠地とされている。さらに、この地は16世紀段階には武田氏、上杉氏等の進出などがあり、周辺にも上杉氏の伝承を持つ家もみられる。中・近世においても以上のような時代の変遷をみることができる。

註

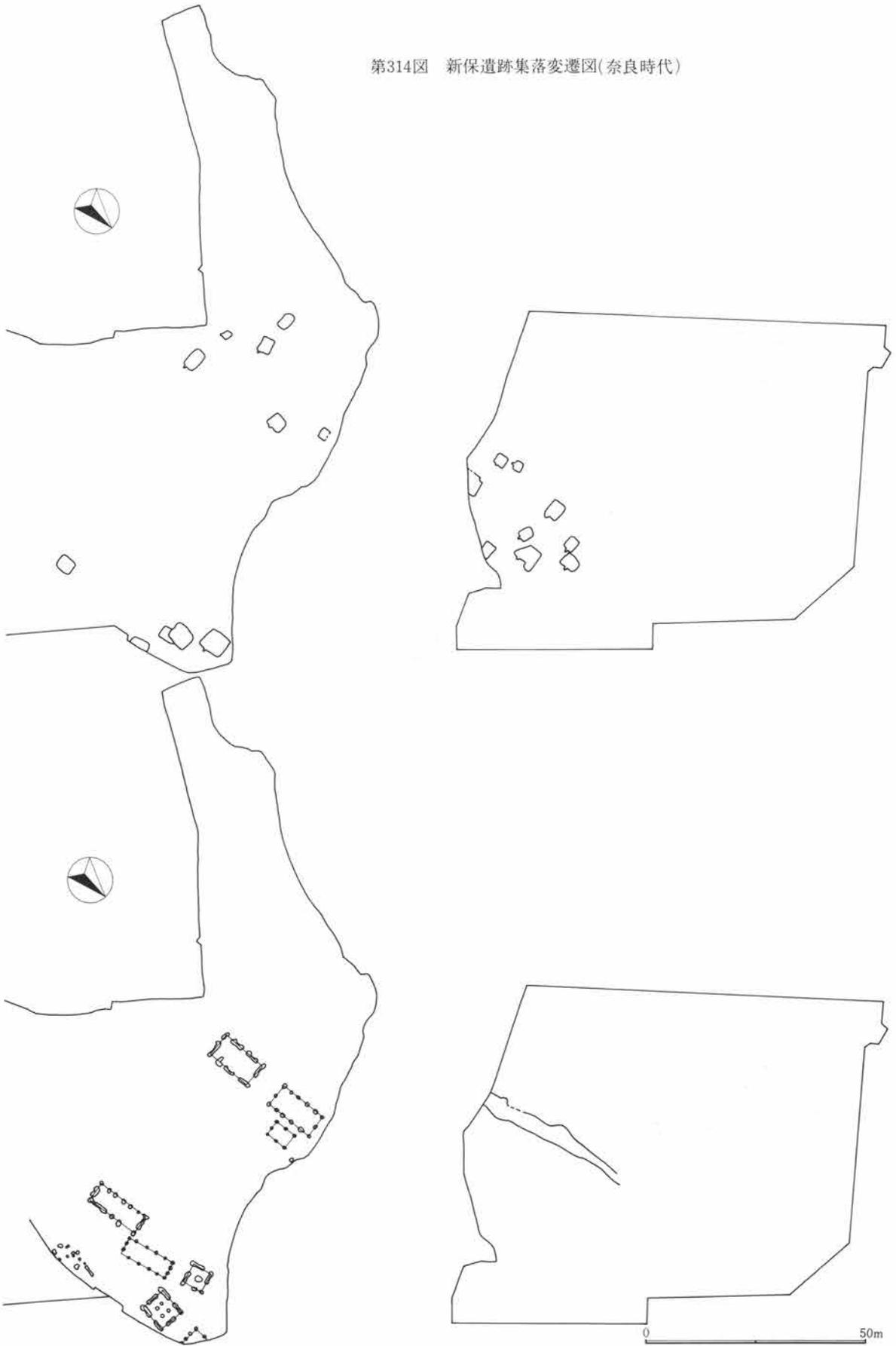
- (1) 石井栄一氏のご教授による。氏は世田谷区教育委員会古建築担当の学芸員である。
- (2) 註(1)
- (3) 上武国道地域埋蔵文化財発掘調査概報V 小角田前遺跡 下淵名遺跡 1978、3群馬県教育委員会
- (4) 上西原・向原・谷津 昭和60年度荒砥北部遺跡群発掘調査報告 1986 群馬県教育委員会
- (5) 群馬県教育委員会真下高幸氏のご教授による。
- (6) 群馬県埋蔵文化財調査事業団大木紳一郎氏のご教授による。
- (7) 註(5)
- (8) 註(1)
- (9) 保渡田東遺跡 群馬町埋蔵文化財調査報告第17集 1986 群馬県群馬町教育委員会
- (10) 鳥羽遺跡 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
- (11) 下東西遺跡 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987
- (12) 群馬県埋蔵文化財調査事業団 新倉明彦氏のご教授による。
- (13) 日高遺跡IV 高崎市教育委員会 1982
- (14) 上野郡村誌 第5巻群馬郡＝群馬県文化事業振興会 1980



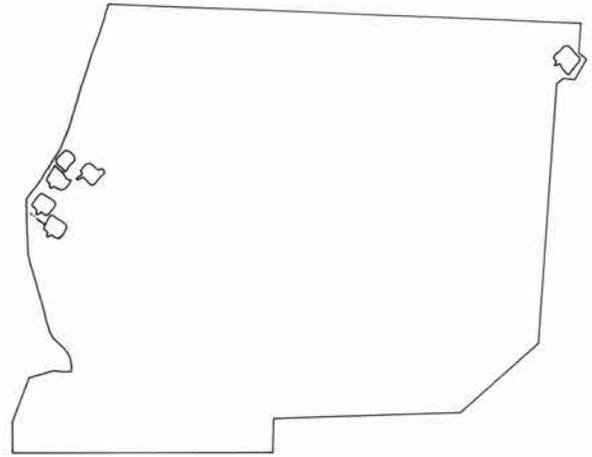
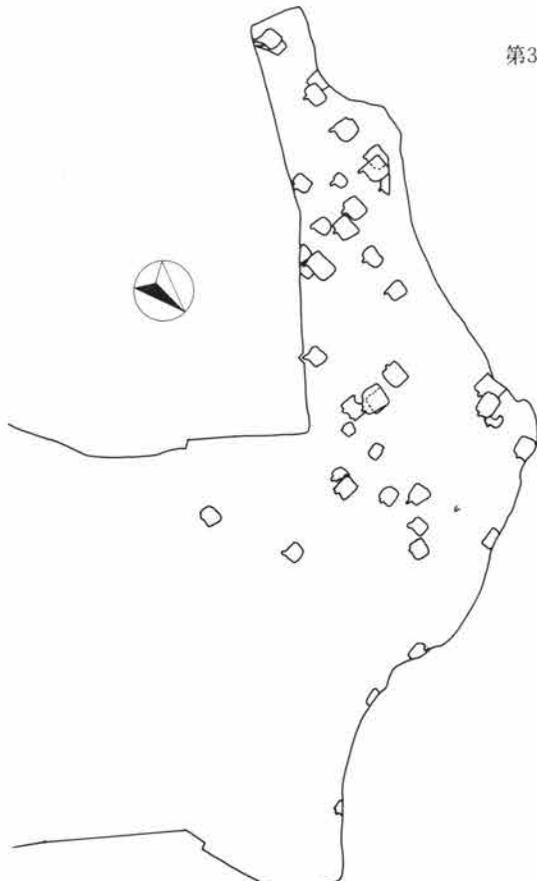
第313図 新保遺跡集落変遷図(古墳時代)



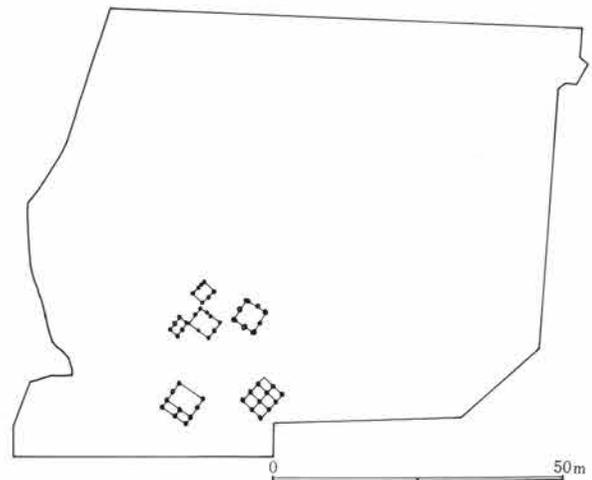
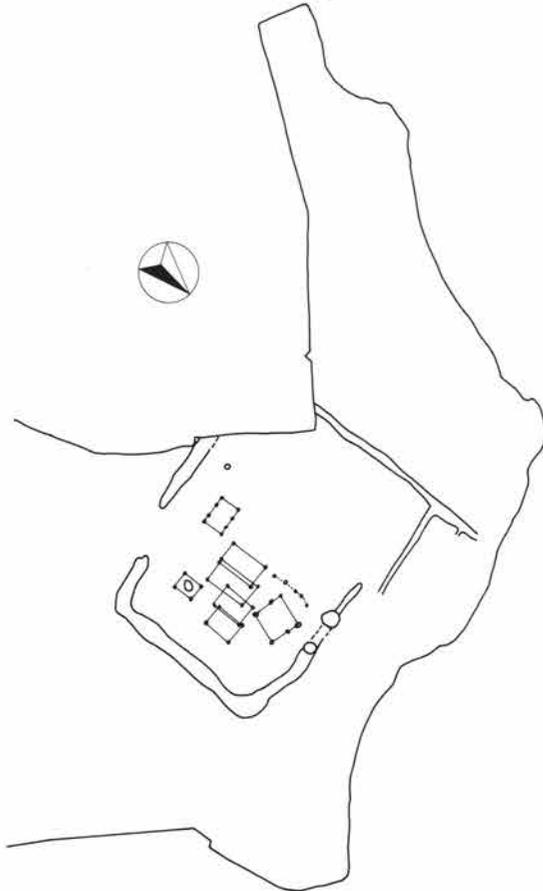
第314図 新保遺跡集落変遷図(奈良時代)



第315図 新保遺跡集落変遷図(平安時代)



(中近世)



# 蛭 沢 遺 跡



## 1. 発掘調査の経緯と調査過程

関越自動車道は埼玉県東松山インターから前橋インターまで昭和55年供用開始を目途に工事を進めて来た。埋蔵文化財発掘調査は昭和48年から開始し、基本的に東京側から調査を進めてきた。一方道路改良工事でも埋蔵文化財調査が終了した地域や非該当地については工事は進められていた。

蛭沢遺跡は改良工事中に住居跡が発見された遺跡である。遺跡周辺はすでに工事も進み、盛土もなされていた。

発掘調査は工事期間との調整の中であらたに調査体制を組むことは困難であり、本遺跡にもっとも近い新保遺跡から担当者を当て別班として調査にあたった。発掘調査にあたっては、遺跡が存在すると思われる地域に試掘を入れ遺跡の範囲を確定した。

遺跡の存在する範囲は南側の東半部に住居跡、井戸、及び土壇が検出され、西半部では河川が認められた。調査は河川の東半部を対象とし実施した。よって調査対象は東半部分に限定した。

調査の期間は下記の通りである。

昭和53年11月7日～11月27日	トレンチ予定区域の盛土除去
昭和53年11月28日～12月5日	トレンチ調査による遺構検出作業及び調査
昭和53年12月6日～12月13日	調査区の範囲確認及び表土除去
昭和53年12月14日～昭和54年1月17日	拡張区調査

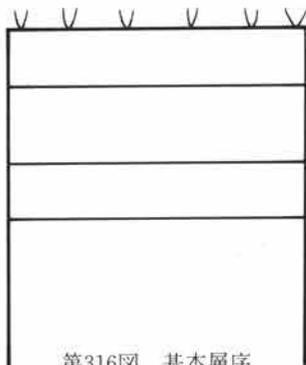
調査対象面積は1656.2m<sup>2</sup>を測る。

## 2. 調査の方法

調査の方法は工事の進捗との調整から遺跡範囲を確認することを目的としてトレンチ法をもちいた。調査は盛土されている土砂の排土から始め、遺構が存在すると想定できる範囲にトレンチを設定した。

トレンチは供用開始している側道部を除き、本線に沿って、8m×60mを2本、本線に直交して5m×45mを1本、関越道東側側道に沿う1本と計4本のトレンチを入れ遺跡の範囲をつかんだ。

## 3. 基本層序



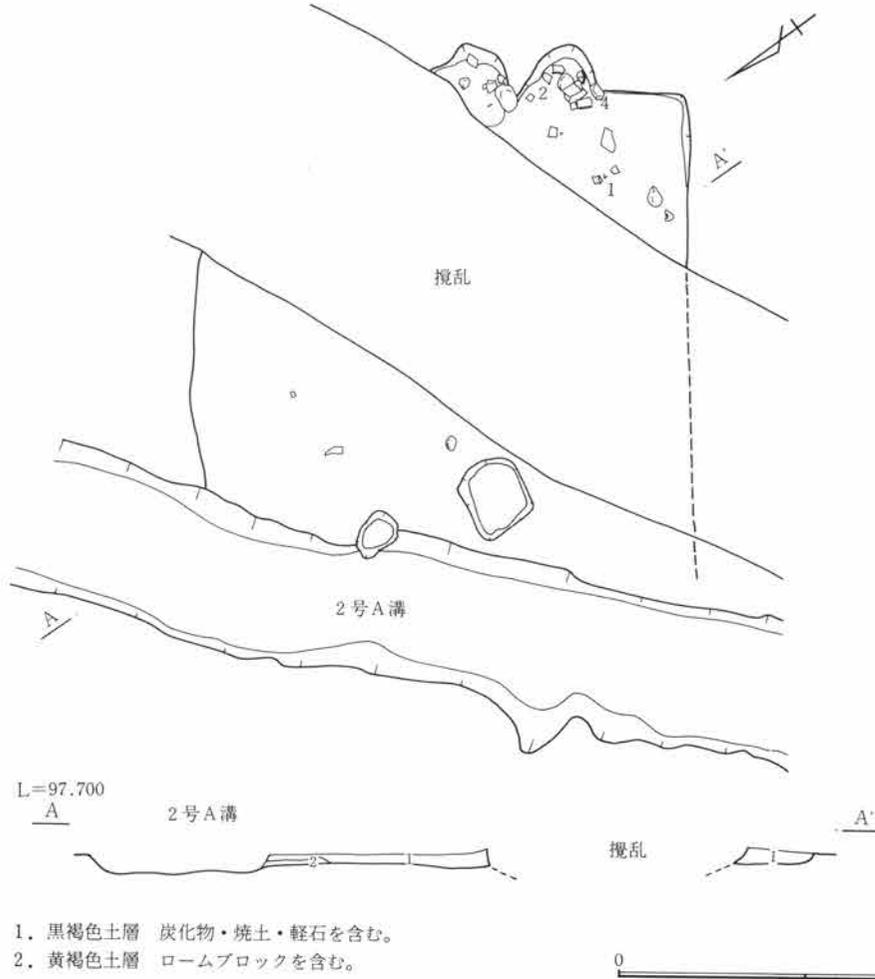
- 第1層 現水田面、厚さ約15cm
- 第2層 鉄分沈澱層、約10cm
- 第3層 灰褐色粘質土層(浅間B軽石を含む)約15cm
- 第4層 ローム層

第316図 基本層序

## 4. 検出された遺構と遺物

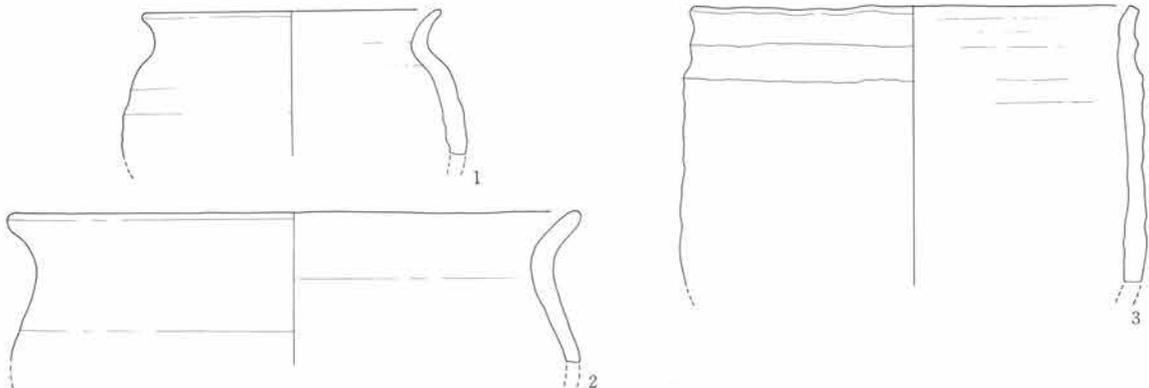
### (1) 竪穴住居跡

#### 1号住居跡 (第317図、PL91)



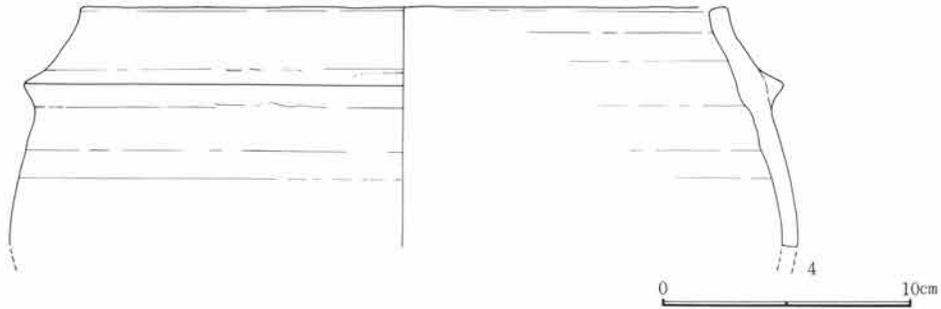
第317図 1号住居跡遺構図

当住居跡は北東部に位置し2号住居跡の南にある。他の遺構との関係は2号A溝と重複している。新旧関係は溝が新しい。また東西に溝状に幅約2mの攪乱がある。規模・平面形態は不明である。主軸方位は竈の長軸でN-143°-Eである。壁高は約5cmを測り床面は凹凸が多い。遺存状況はあまり良くない。竈は東壁に検出された。燃焼部幅約60cm、同長約40cmを測る。



第318図 1号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡



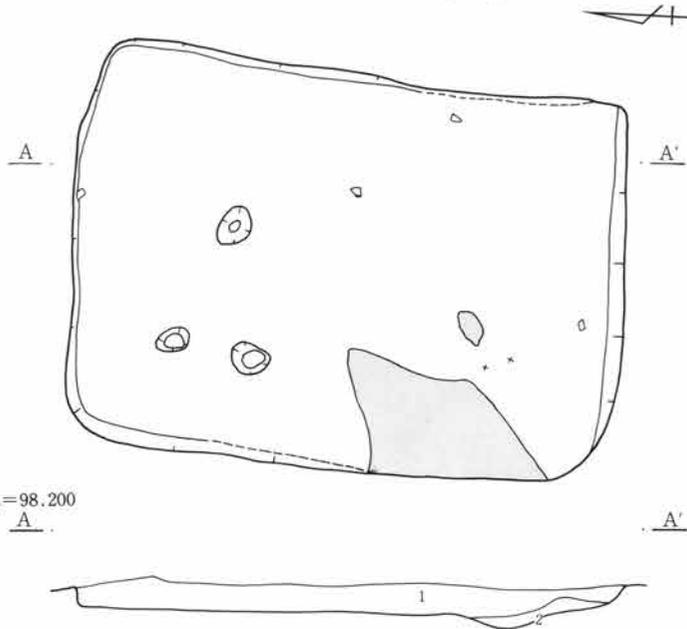
第319図 1号住居跡遺物図(2)

第113表 1号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	甕 土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面ヨコナデ。内面 ナデ。	②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁破片
No-2	甕 土師	(口)23.0	覆土	内・外面 ナデ。	②にぶい赤褐色 ③3~4mmの砂粒含む ④口縁破片
No-3	甕 土師	(口)18.0	竈 覆土	内・外面共に雑なナデ。	①軟質 ②橙色 ③5~6mmの砂粒含む ④口縁破片
No-4	羽釜	(口)26.0	覆土	鈔 短く、貼付雑。口縁部 内傾する。	①酸化 ②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁残存

2号住居跡 (第320図、PL91・93)

当住居跡は北東部に位置し1号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は東西長約3.1mを測る。平面形態は長方形を呈するものと思われる。壁高は2~3cmを測り遺存は良くない。床面はほぼ平坦をなす。



北側に小穴を東西に2基検出した。規模は各々約30cm×25cm、深さ約45cm、径約30cm、深さ約10cmである。竈は検出されていない。



- 1. 黒褐色土層 軽石・炭化物・焼土を含む。
- 2. 褐色土層 軽石を多量に含む。

第321図 2号住居跡遺物図

第320図 2号住居跡遺構図

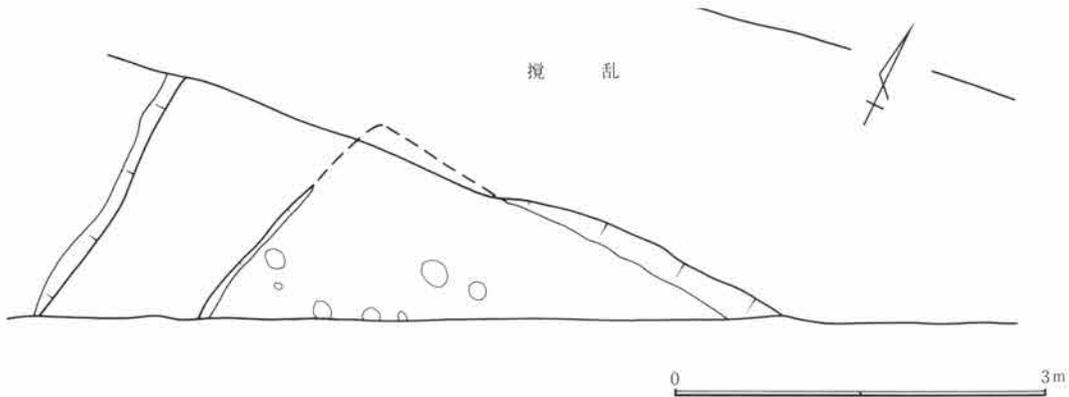
4 検出された遺構と遺物

第114表 2号住居跡遺物観察表

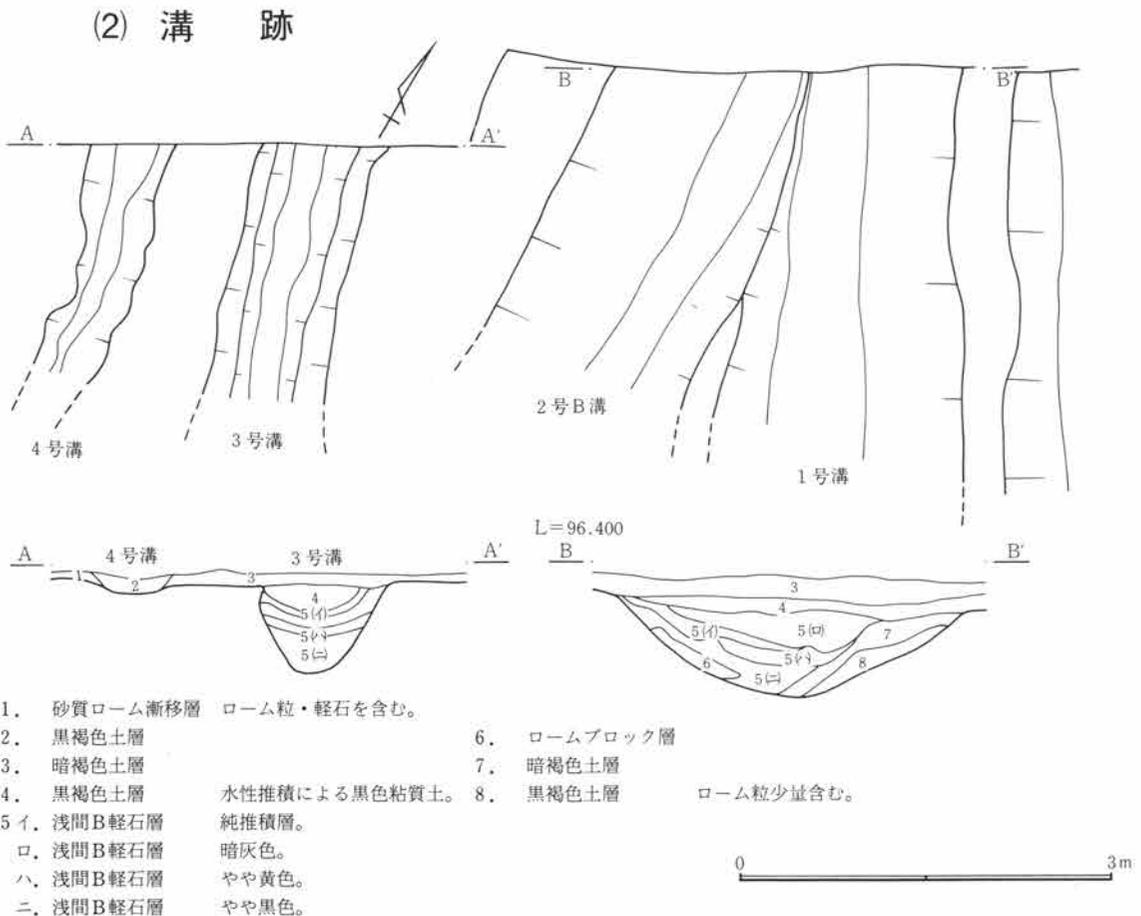
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏須恵	口-10.0 高-2.9 底-5.0	庵付近 覆土	底部 回転糸切り。右廻り。	①やや酸化 ②淡い橙色 ③1 ~2mmの砂粒含む ④%残存

3号住居跡 (第322図、PL91)

当住居跡は南端に位置し9号溝の東にある。調査区域の南端で住居跡の一部を確認した。規模・平面形態は不明である。壁高は約3cmを測り床面はほぼ平坦である。

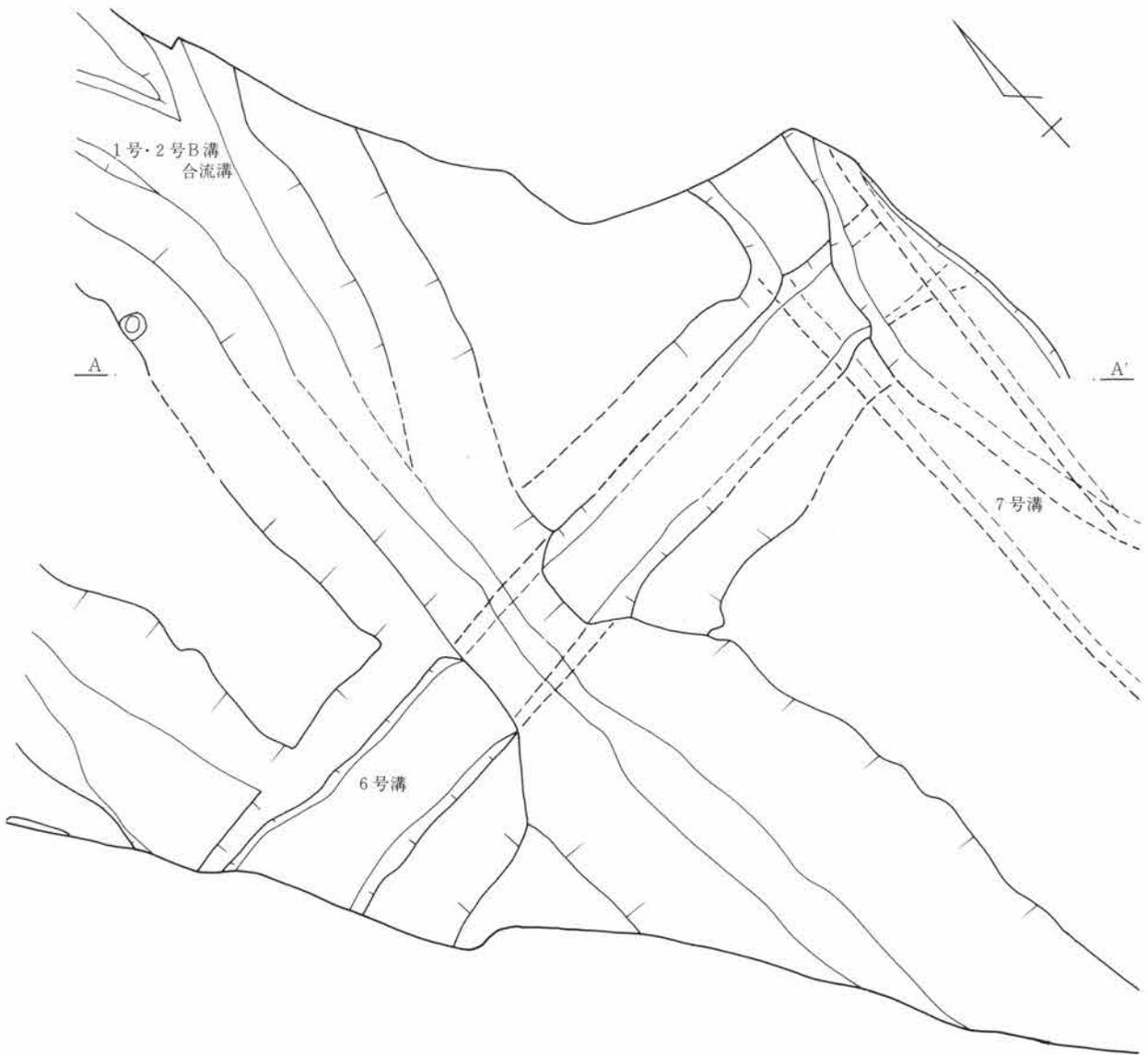


第322図 3号住居跡遺構図

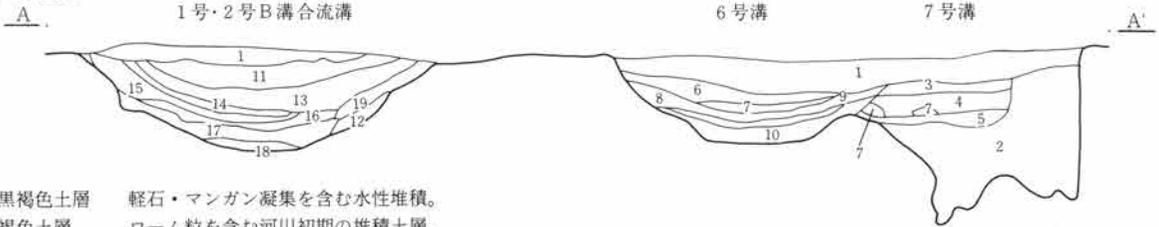


第323図 溝遺構図(1)

(2) 溝 跡



L=97.200

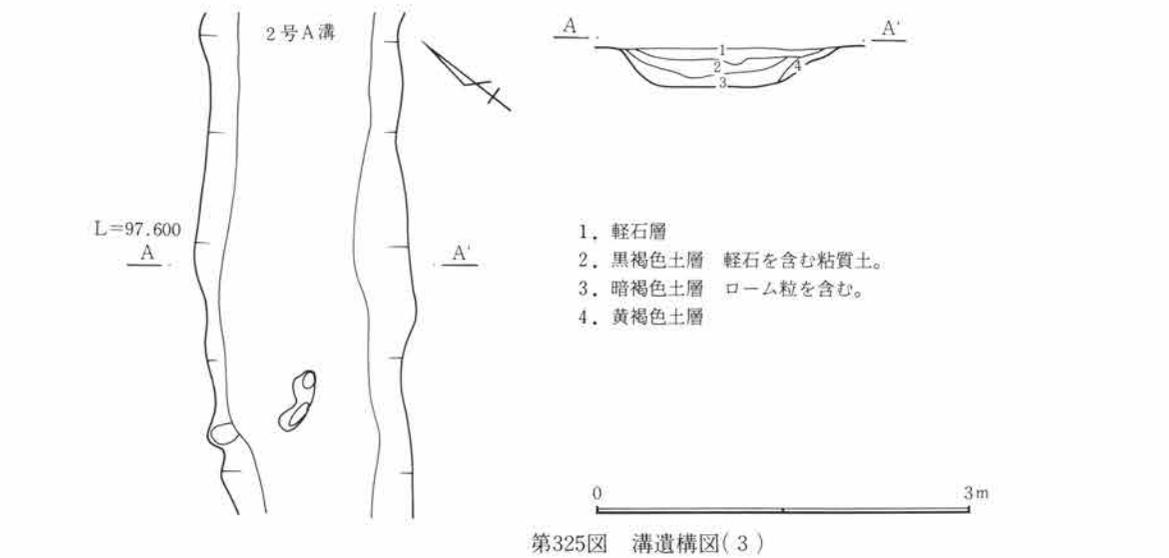


- |           |                      |
|-----------|----------------------|
| 1. 黒褐色土層  | 軽石・マンガン凝集を含む水性堆積。    |
| 2. 褐色土層   | ローム粒を含む河川初期の推積土層。    |
| 3. 灰褐色土層  | 炭化粒マンガン凝集を含む、ややシルト状。 |
| 4. 暗灰褐色土層 | B軽石を含む。              |
| 5. 軽石層    |                      |
| 6. 灰褐色土層  | ローム粒少量含む、シルト状。       |
| 7. 黄褐色土層  | ロームブロックを多量に含む。       |
| 8. 暗灰褐色土層 | ローム粒少量含む。            |
| 9. 赤褐色土層  | 鉄分沈殿層。               |
| 10. 灰褐色土層 | 軽石を含む。               |
| 11. 黒褐色土層 | B軽石を含む。              |
| 12. 黄褐色土層 | ロームブロックを含む。          |
| 13. B軽石層  | 黒褐色。                 |
| 14. B灰層   |                      |
| 15. B軽石層  | 黒褐色。                 |
| 16. B軽石層  | 暗灰色。                 |
| 17. B軽石層  | 灰白色。                 |
| 18. B軽石層  | 大粒な軽石層。              |
| 19. 黒褐色土層 | B軽石を含む。              |

0 3m

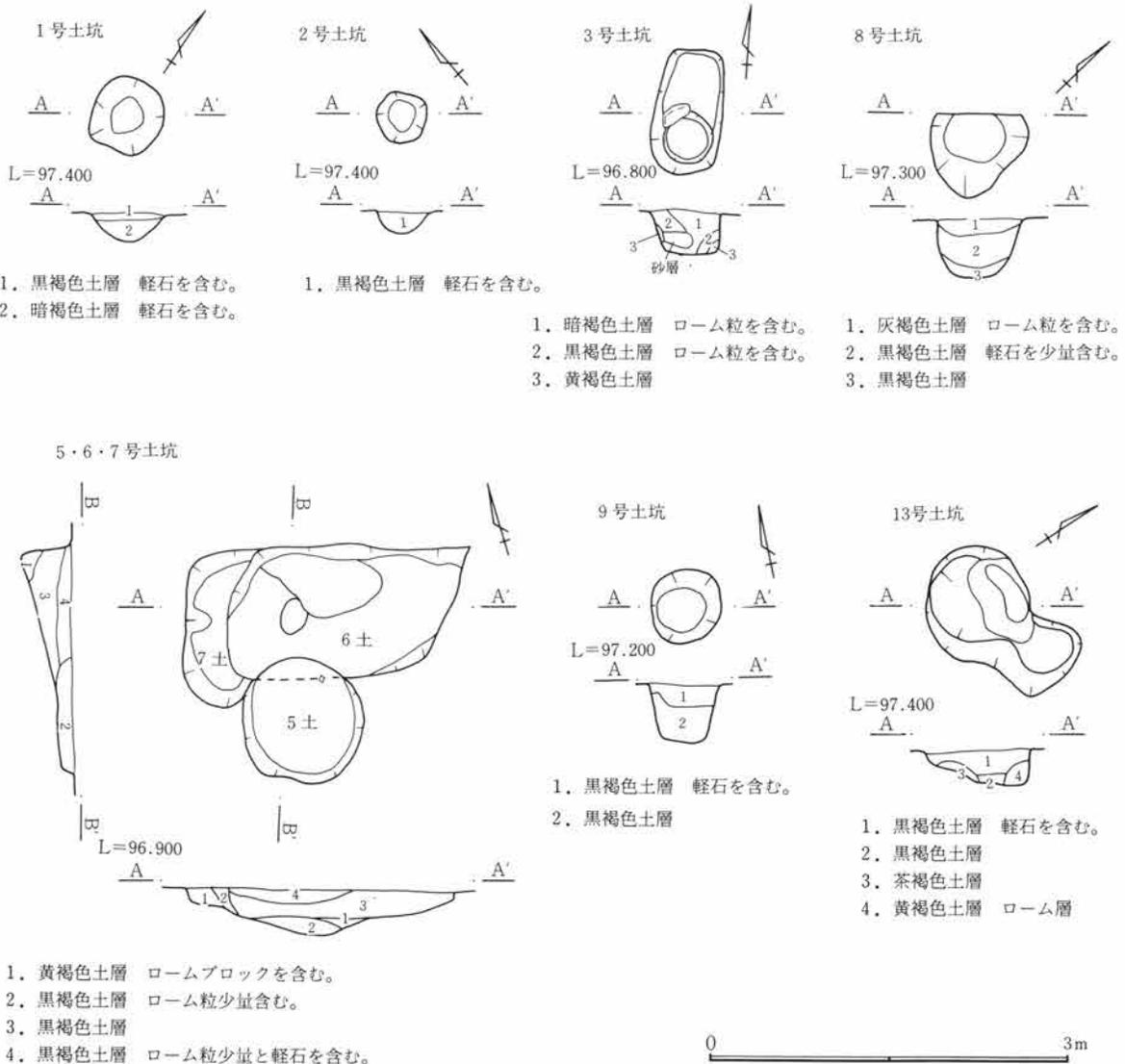
第324溝遺構図(2)

4 検出された遺構と遺物



第325図 溝遺構図(3)

(3) 土坑跡

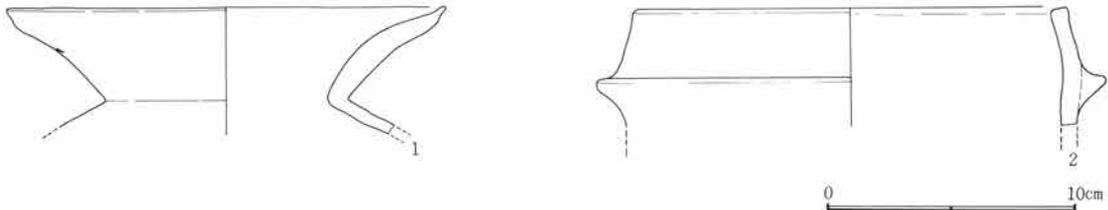


第326図 土坑遺構図(1)

(3) 土坑跡



第327図 土坑遺構図(2)



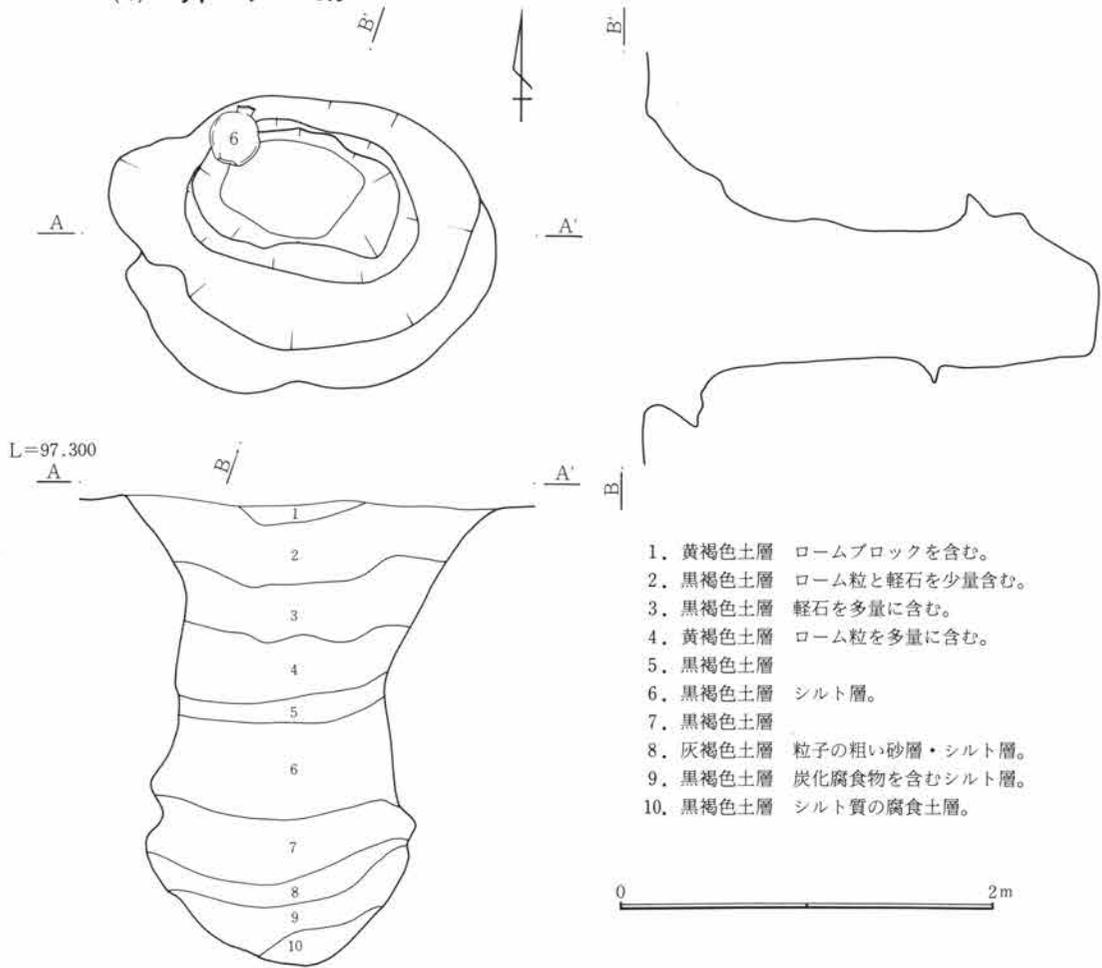
第328図 土坑遺物図

第115表 土坑遺物観察表

番号	器種・種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
3号土坑 No-1	壺 土 師	(口)17.6	覆 土	口縁端部 薄くなり、やや内湾する。ヨコナデ。	②浅黄橙色 ③細砂粒含む ④口縁片残存
5号土坑 No-2	羽 釜	(口)17.5	土 坑 内	鋳 上を向く。	②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁破片

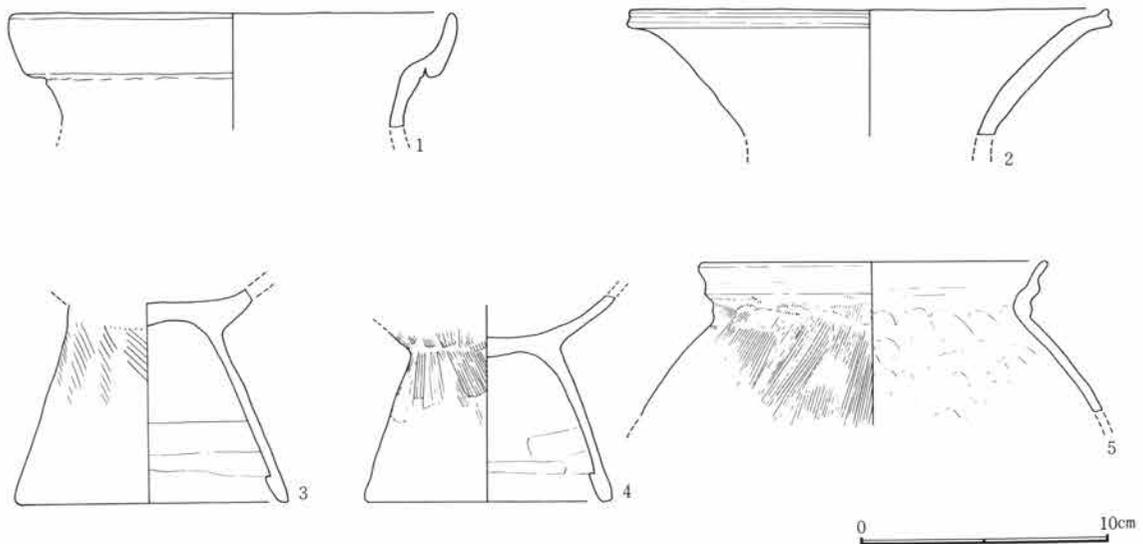
4 検出された遺構と遺物

(4) 井戸跡

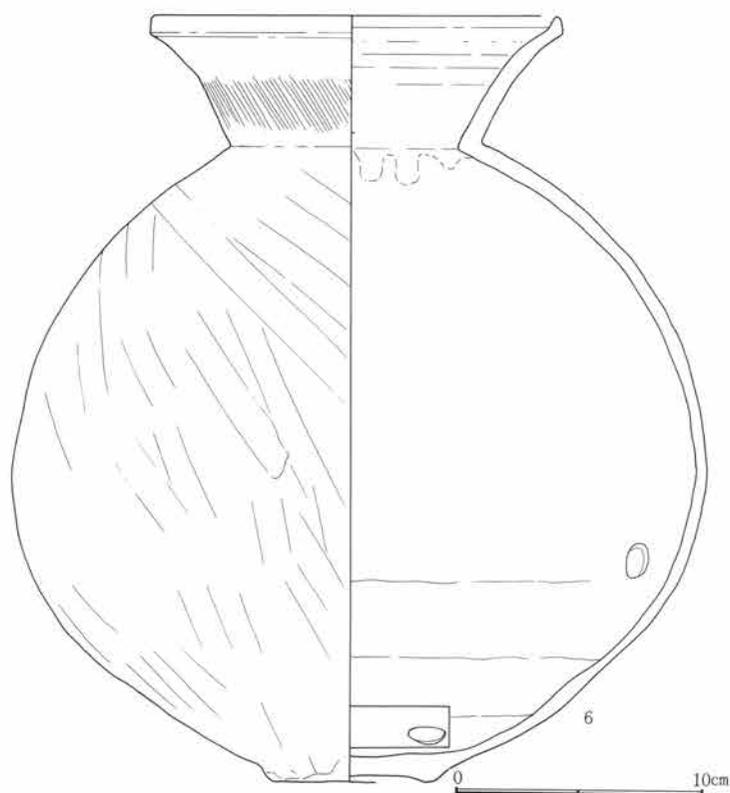


1. 黄褐色土層 ロームブロックを含む。
2. 黒褐色土層 ローム粒と軽石を少量含む。
3. 黒褐色土層 軽石を多量に含む。
4. 黄褐色土層 ローム粒を多量に含む。
5. 黒褐色土層
6. 黒褐色土層 シルト層。
7. 黒褐色土層
8. 灰褐色土層 粒子の粗い砂層・シルト層。
9. 黒褐色土層 炭化腐食物を含むシルト層。
10. 黒褐色土層 シルト質の腐食土層。

第329図 1号井戸遺構図



第330図 1号井戸遺物図(1)

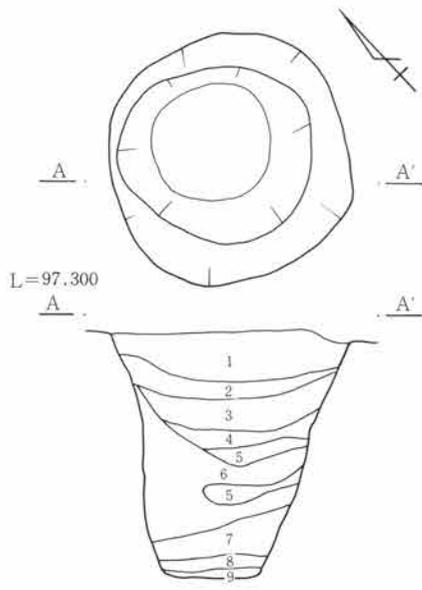


第331図 1号井戸遺物図(2)

第116表 1号井戸遺物観察表

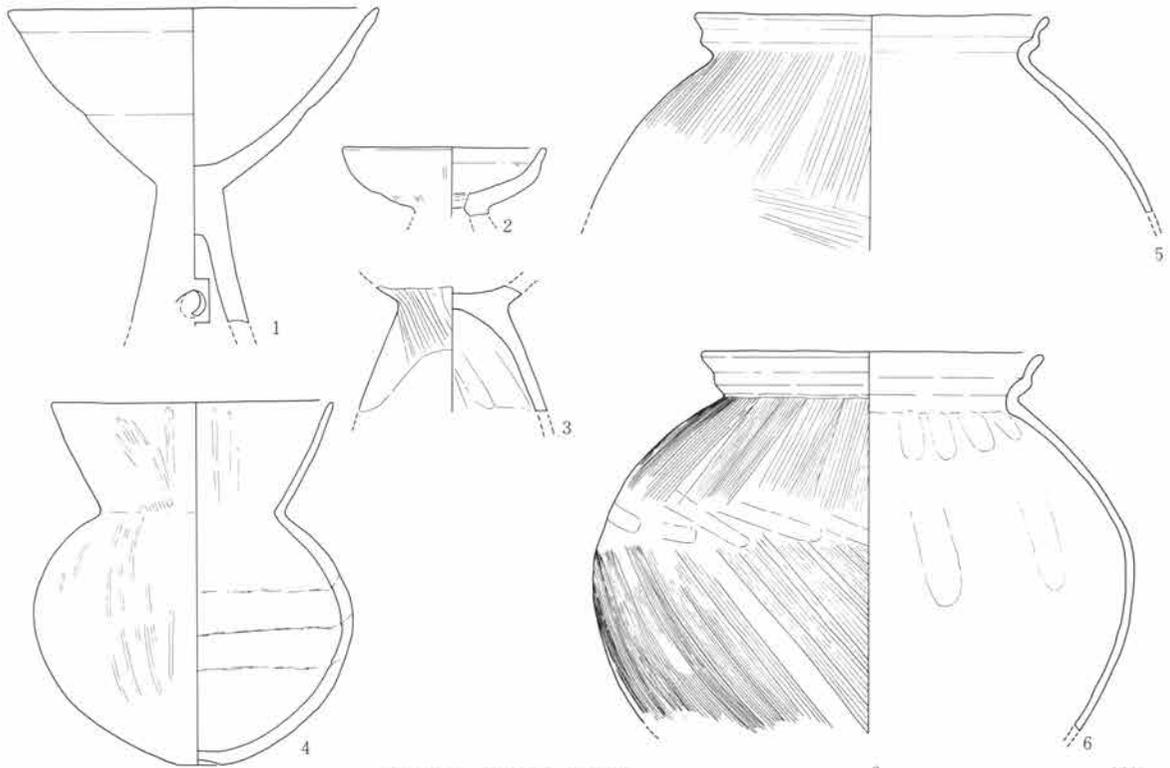
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	壺 土師	(口)18.0	覆土	口縁部 折り返し稜をもつ。	②灰白色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁破片
No-2	壺 土師	(口)19.5	覆土	口縁部 内・外面ヨコナデ。	②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁破片
No-3	台付甕 土師	底-11.0	覆土	外面 刷毛目。内面 ナデ。	②淡橙色 ③細砂粒含む ④台部のみ。台部一部欠損。
No-4	台付甕 土師	底-10.0	覆土	外面 刷毛目。内面 ナデ。	②にぶい橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④台部のみ。台部一部欠損。
No-5	甕 土師	(口)14.0	覆土	口縁部 ヨコナデ。胴部 刷毛目。内面 指頭痕。	②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁 $\frac{1}{2}$ 残存
No-6	壺 土師	(口)16.7 高-35.0 底-7.0	覆土	口縁部 刷毛整形後ヨコナデ。胴部 ヘラケズリ。内面 ヨコナデ。指頭痕。	②明褐灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④ほぼ完形(口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損)

4 検出された遺構と遺物



- 1. 黒褐色土層      ローム粒を含む。
- 2. 軽石層
- 3. ローム層          ロームブロックを多量に含む。
- 4. 暗灰褐色土層
- 5. 黄褐色土層      ロームブロックを多量に含む。
- 6. 黒褐色土層      ローム粒を多量に含む。
- 7. 黒褐色土層      ローム粒を含む。
- 8. 灰白色ローム層      ローム層水洗状態。
- 9. 暗灰褐色土層      シルト層。

第332図 2号井戸遺構図



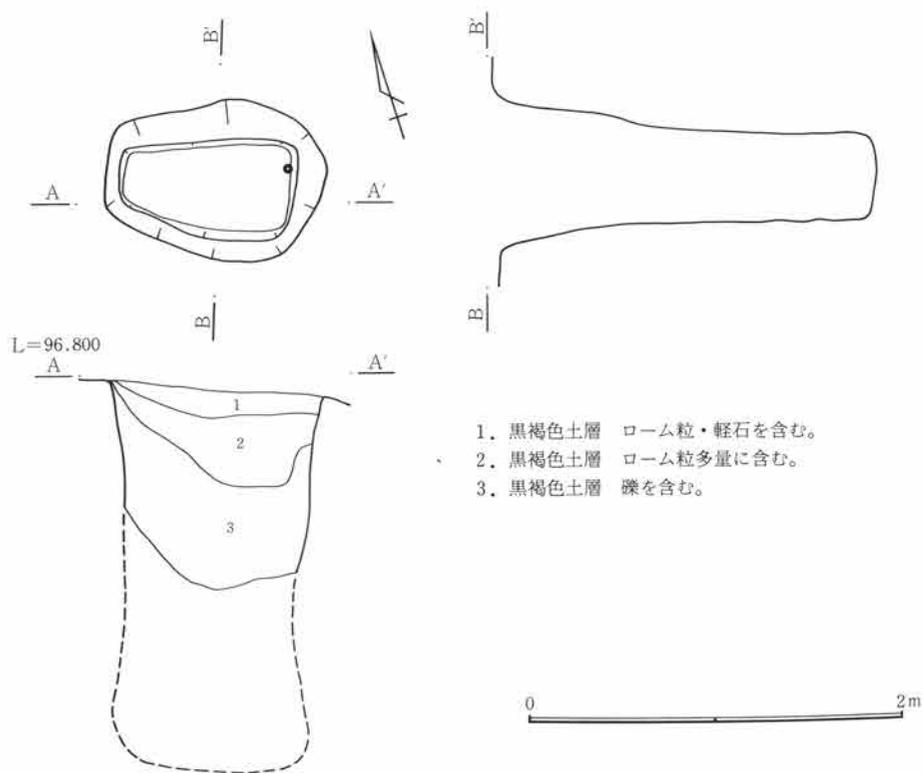
第333図 2号井戸遺物図

第117表 2号井戸遺物観察表

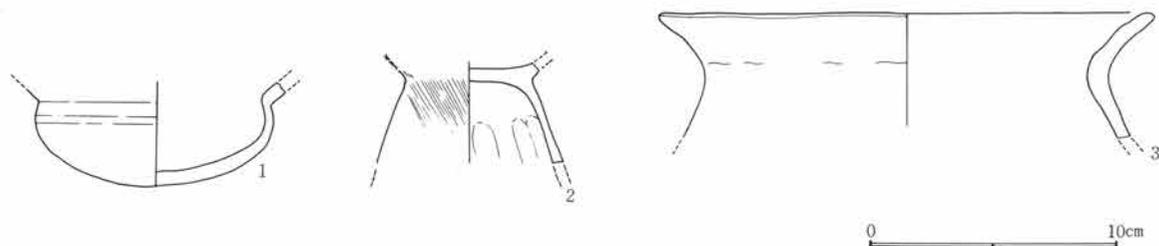
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	高土 坏師	口-14.9	覆土	口縁部 ヨコナデ。内面 ナデ。 脚に3孔有り。	②明橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④坏部~脚中位
No-2	器土 台師	口-8.2	覆土	外面 刷毛目後ヘラミガキ。内面 刷毛目。 口縁部 ナデ。	②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④器受部のみ残存

(4) 井戸跡

No-3	台付甕 土師		最上層	外面 刷毛目。内面 指ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④台上部のみ残存
No-4	壺 土師	口-11.3 高-14.5 底-1.8	最上層	外面 ヘラミガキ。	②橙色 ③4~5の砂粒含む ④完形
No-5	台付甕 土師	(口)14.2	最上層	口縁部 ヨコナデ。胴部 刷毛目。 内面 ナデ。	②浅黄橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁~胴部残存
No-6	台付甕 土師	口-13.8	最上層	外面 口縁部 ヨコナデ。胴部 刷毛目。内 面 口縁部 ヨコナデ。指ナデ。指頭痕	②褐灰色 ③細砂粒含む ④口縁 ~胴部残存

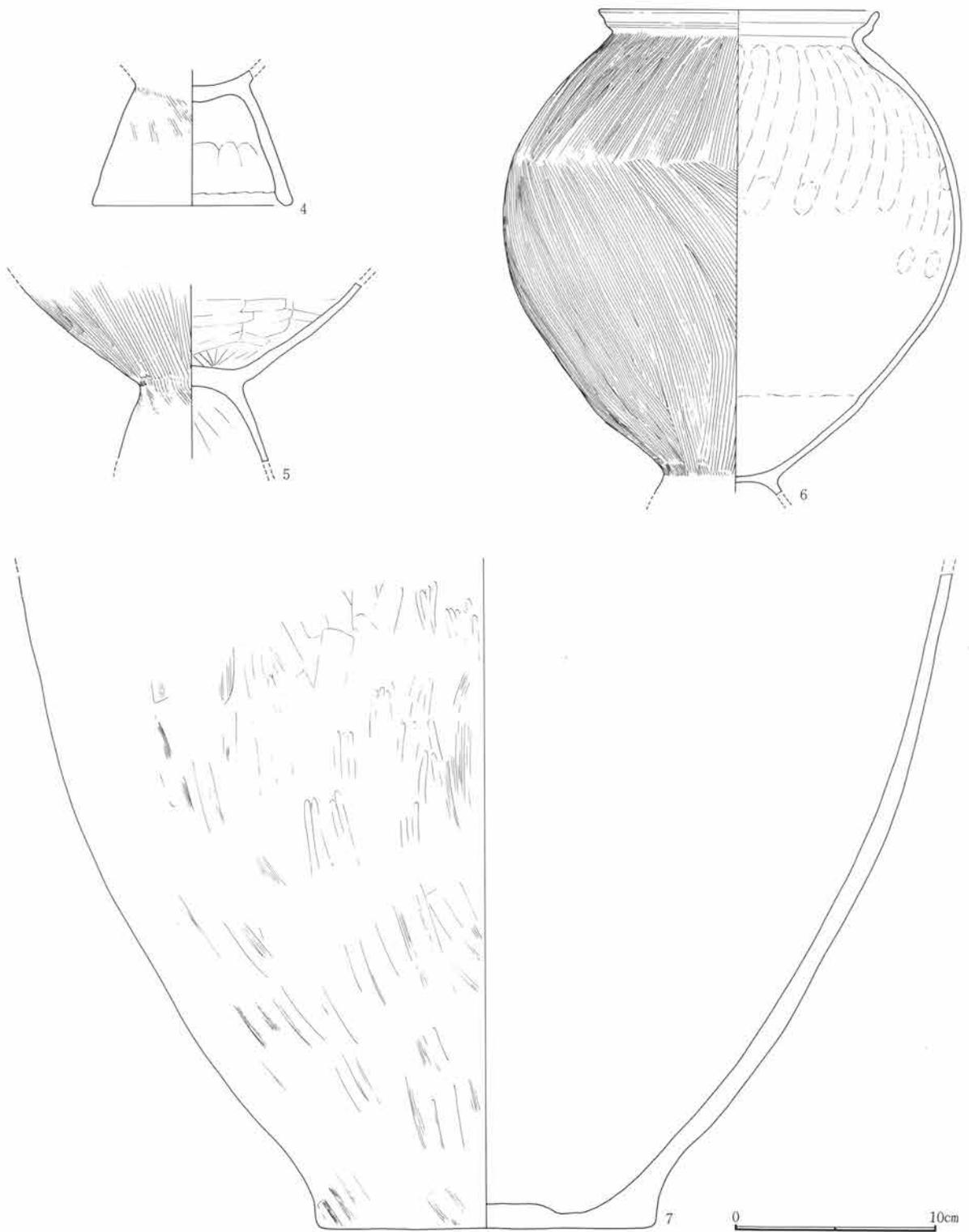


第334図 3号井戸遺構図



第335図 3号井戸遺物(1)

4 検出された遺構と遺物



第336図 3号井戸遺物図(2)

第118表 3号井戸遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴土師		覆土	内・外面共にきれいなミガキ。	②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-2	台付甕土師		覆土	外面 刷毛目。内面 指ナデ。	②にふい橙色 ③細砂粒含む ④台部上半残存
No-3	壺土師	(口)20.0	覆土	内・外面 ヨコナデ。外面 頸部に接合痕。	②にふい黄橙色 ③細砂粒含む ④口縁½残存
No-4	甕土師	底-10.0	覆土	外面 刷毛目。内面 指頭痕。	②灰白色 ③細砂粒含む ④脚部 %残存
No-5	甕土師		覆土	外面 刷毛目。内面 ナデ。	②にふい橙色 ③細砂粒含む ④胴下部～脚半部残存
No-6	台付甕土師	口-13.9 胴-22.7	覆土	口縁部 ヨコナデ。胴部 刷毛目。 内面 口縁部 ヨコナデ。胴上部 指ナデ。 指頭痕。外面 全面煤付着。	②褐灰色 ③細砂粒含む ④脚部欠損
No-7	壺土師	底-16.8	覆土	外面 刷毛目後ナデ。内面 ナデ。	②にふい橙色 ③細砂粒含む ④胴下半½残存



0 10cm

第337図 板碑

4 検出された遺構と遺物

第119表 土坑遺構一覧表

番号	形状	規模 (cm) (長径×短径×深さ)	備考	番号	形状	規模 (cm) (長径×短径×深さ)	備考
1	円形	60 × 55 × 25		13	不整長方形	150 × 90 × 30	
2	円形	42 × 40 × 18		14	円形	110 × 100 × 15	
3	長方形	102 × 55 × 38	壺出土。	15	長円形	115 × 95 × 13	
5	円形	105 × 102 × 15	羽釜出土。5号・6号・7号土坑は重複する。	16	不整形	150 × 93 × 25	
6	不整長方形	185 × 110 × 40		18	円形	80 × 80 × 13	
7	不明	130 × ? × 20		19	楕円形	60 × 40 × 12	
8	円形	80 × 65 × 50	約1/2調査区外。	20	長方形	148 × 75 × 22	
9	円形	62 × 58 × 48		21	不整円形	52 × 48 × 22	

第120表 井戸遺構一覧表

番号	形状	断面形状	規模 (cm) (長径×短径×深さ)	出土遺物	備考
1号井戸	楕円形	袋状	210 × 155 × 245	壺完形、S字台付甕、甕、種子(桃・瓜)。	
2号井戸	円形	円筒状	132 × 130 × 132	柑完形、S字台付甕、高坏、器台種子(スズメウリ、麻、山椒、瓢箪、葡萄)。	
3号井戸	長方形	筒状	120 × 85 × 205	S字台付甕、大型甕、器台、甕。	

## 5. ま と め

蛭沢遺跡で検出された遺構は住居跡3軒、溝11条、井戸3基、土坑16基等である。以下遺構別にその内容を列記し、まとめとしたい。

### 住居跡

1・2号住居跡は平安時代に比定され1号住居跡は南北方向を長辺とし、南壁に竈を付設している。床面は起伏があり軟弱である。袖部には砂岩を配し補強を施している。中央部を東西に走る溝に攪乱を受け、さらに2号A溝により北壁を壊されている。2号住居跡も攪乱を受け、床面と壁の一部を検出したのみである。3号住居跡は調査区域外へ広がり住居跡の全体を検出するには至らず検出遺物もないため時期を確定するには至らなかった。

### 溝

遺跡地内は平安時代以前より河川が流れ、次第に狭く浅くなり現在では水田の水路として使用している。それに伴って数条の溝が河川に流れ込んでいる。溝はいずれも水が流れた様子が見られるが中には人工的に溝を作り、完成直後浅間B軽石層により埋まってしまいそのまま放棄したものもあった。

### 井戸

いずれも古墳時代初頭のものであり、平面は円形、断面はフラスコ状を呈する。深さは約2mで、土師器壺、甕、種子等が検出された。

当遺跡内には北東から南西にかけて幅約15mの旧河川が走り、遺跡地の大半が河川敷きとなっていた。住居跡は当初微高地上に集落をかまえたのであろうが現在の蛭沢地区一帯は水田耕作により床面近くまで削平され遺存状態は悪い。ローム面を深く掘り込んだ遺構（井戸、土坑、溝）は遺存も良く、資料的にも価値の高い遺物が出土している。とくに1号井戸からは浅間C軽石の認められるものや土器、種子等を検出している。河川は浅間B軽石降下以前の流路であり現在は水田の水路として使用している。その間覆土中に溝の痕跡があり水路の変遷がある程度とらえられる。遺構はこの河川の左岸に広がり今回確認された部分は集落の末端に位置するものであろう。また当遺跡内出土遺物として板碑が検出されハスの葉とともにアミダの字も読み取れる。掘り込みは藁研彫りで14世紀末～15世紀初頭に考えられ、新保遺跡C区中世屋敷の時期、22号井戸検出の応永年間の彫り込みのある板碑との時期とも共通し中近世に至るまでの生活の跡を見ることができ



# 写 真 图 版





1号住居跡



1号住居跡竈



2号住居跡



2号住居跡竈



2号住居跡貯藏穴遺物



3・7号住居跡



3号住居跡竈



4号住居跡



5号住居跡



5号住居跡竈



6号住居跡



8号住居跡



8号住居跡竈



10・11号住居跡



10号住居跡竈



10号住居跡竈



11号住居跡竈



14号住居跡



14号住居跡竈



15号住居跡



15号住居跡遺物



17号住居跡



18号住居跡



18号住居跡竈



19号住居跡



19号住居跡竈



20号住居跡



20号住居跡竈



21号住居跡



21号住居跡竈



24号住居跡



24号住居跡竈



26号住居跡



27号住居跡



27号住居跡竈



28号住居跡



28号住居跡竈



30号住居跡



31号住居跡



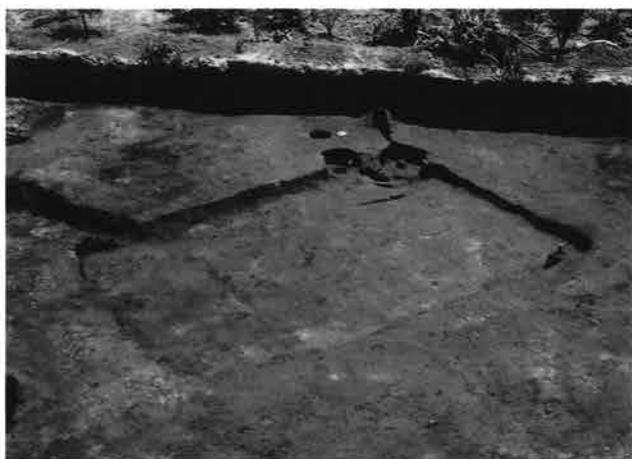
31号住居跡竈



32号住居跡



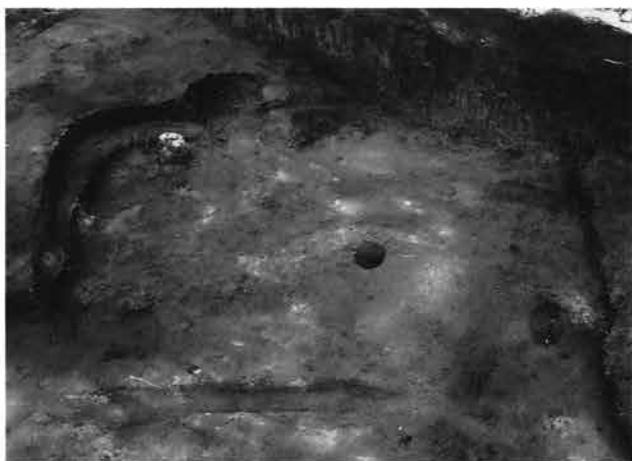
32号住居跡竈



33号住居跡



33号住居跡竈



34・66号住居跡



35号住居跡



36号住居跡竈



37号住居跡



39号住居跡



41号住居跡



41号住居跡竈



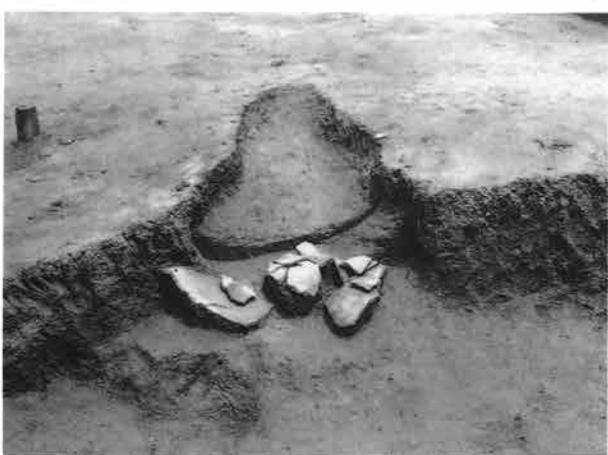
42号住居跡竈



43・61号住居跡



44号住居跡



45号住居跡竈



48号住居跡



48号住居跡竈



50号住居跡



50号住居跡竈



51号住居跡



51号住居跡竈



52号住居跡



52号住居跡竈



53号住居跡



53号住居跡竈



54号住居跡



54号住居跡竈



56号住居跡



58号住居跡



58号住居跡竈



59号住居跡



59号住居跡竈



43号住居跡遺物(瓦)



62号住居跡



63号住居跡



65号住居跡



67号住居跡



67号住居跡竈



69号住居跡



73号住居跡



75号住居跡



75号住居跡竈



76号住居跡



78号住居跡



79号住居跡



80号住居跡



81号住居跡



82号住居跡



87号住居跡



87号住居跡竈



89号住居跡



91号住居跡



93号住居跡



146号住居跡



148号住居跡



207号住居跡



207号住居跡竈



208号住居跡



208号住居跡竈



209号住居跡



210B号住居跡



211号住居跡



54号住居跡(馬齒)



D-1 号住居跡



D-1 号住居跡竈



D-2 号住居跡



D-2 号住居跡竈



D-3・9 号住居跡



D-4 号住居跡



D-4 号住居跡竈



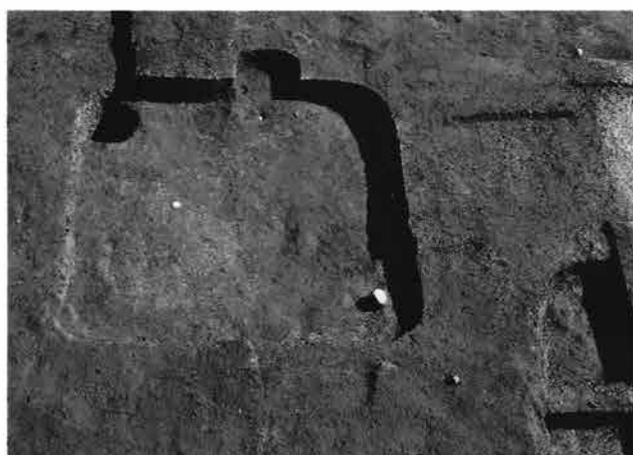
D-5 号住居跡



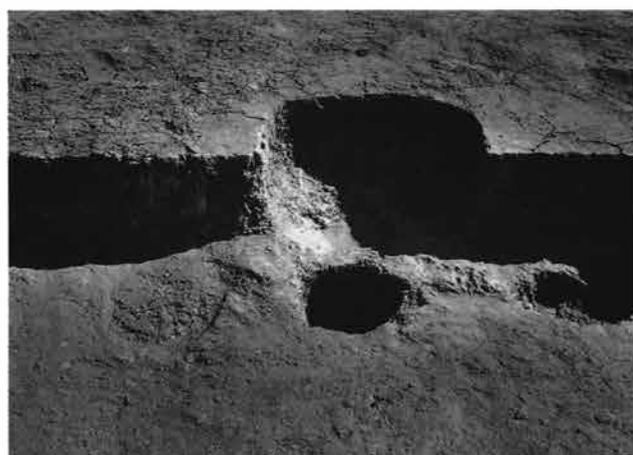
D-6号住居跡



D-6号住居跡竈



D-7号住居跡



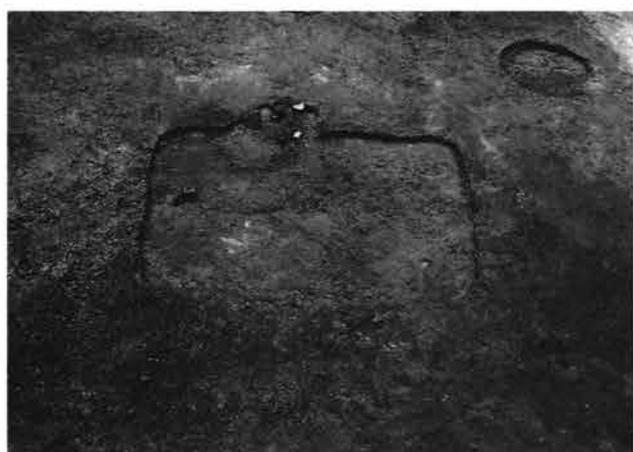
D-7号住居跡竈



D-8号住居跡



D-8号住居跡竈



D-11号住居跡



D-11号住居跡竈



D-12号住居跡



D-12号住居跡竈



D-13号住居跡



D-13号住居跡竈



D-14号住居跡



D-15号住居跡



D-15号住居跡竈



D-17号住居跡



1号掘立柱建物跡



2号掘立柱建物跡



2号掘立柱建物跡



2号掘立柱建物跡



3号掘立柱建物跡



7号掘立柱建物跡



7号掘立柱建物跡



7号掘立柱建物跡



8(手前)・9号掘立柱建物跡



9号掘立柱建物跡



10号掘立柱建物跡



10号掘立柱建物跡(P-14)



10号掘立柱建物跡



13号掘立柱建物跡



中世小穴群(55号溝区画内)



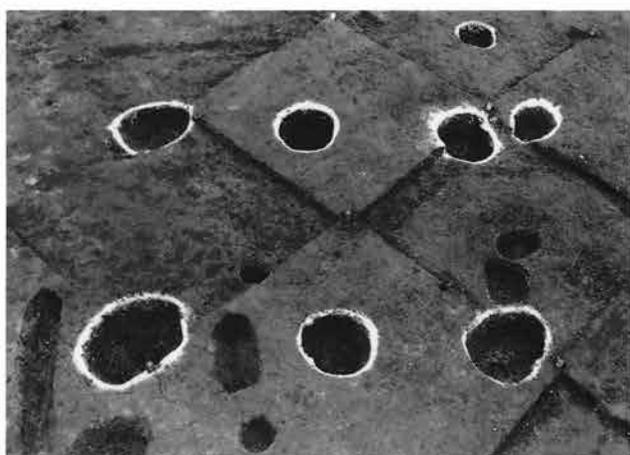
中世1号掘立柱建物跡



D-1号掘立柱建物跡



D-2号掘立柱建物跡



D-3号掘立柱建物跡



D-4号掘立柱建物跡



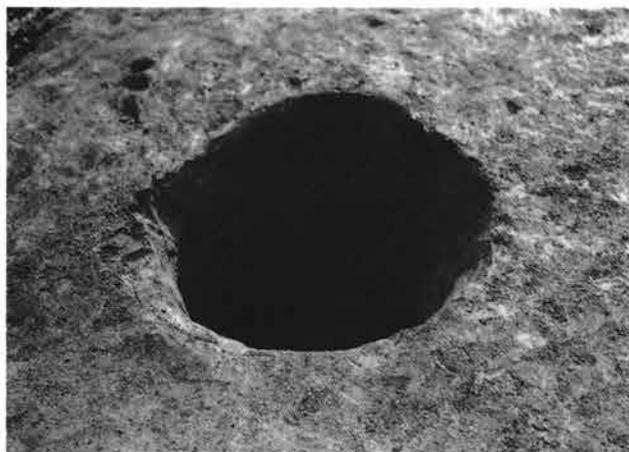
D-5号掘立柱建物跡



D-6号掘立柱建物跡



1号井戸



3号井戸



8号井戸



9号井戸



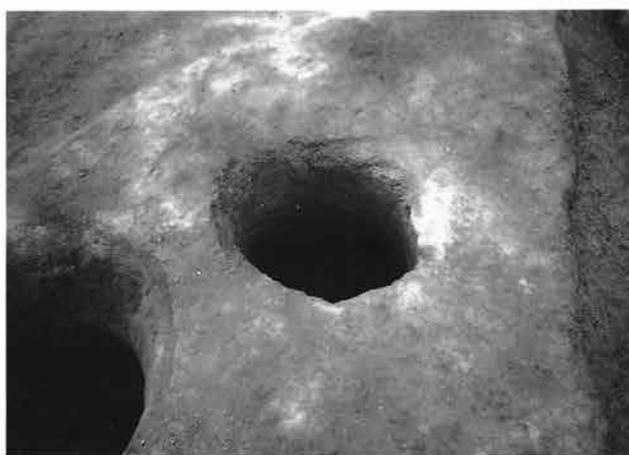
11号井戸



12号井戸



13号井戸



15号井戸



17号井戸



19号井戸



21号井戸



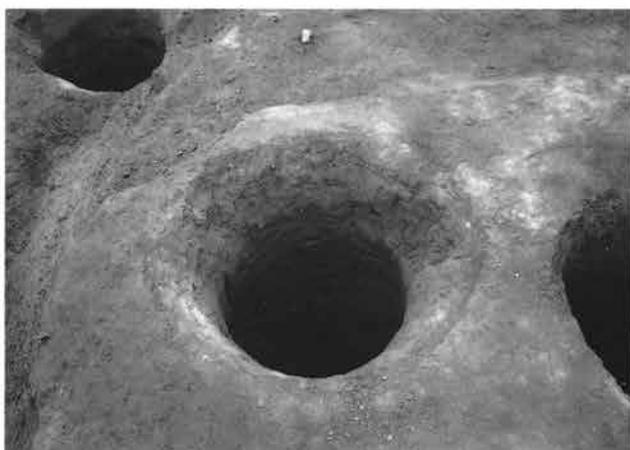
22号井戸



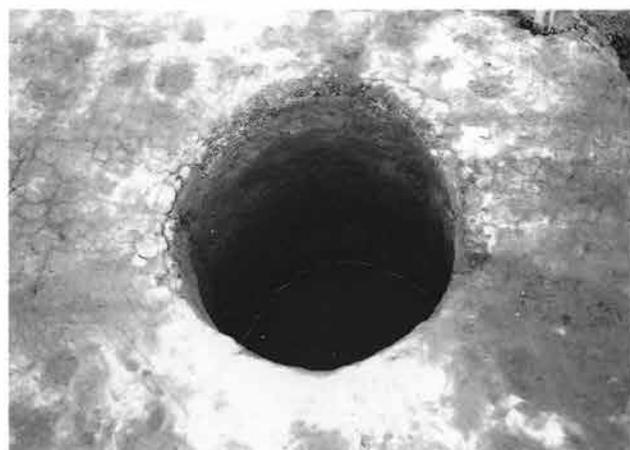
23号井戸



24号井戸



26号井戸



31号井戸



32号井戸



33号井戸(左)・34号井戸(右)



35号井戸



37号井戸(左)・36号井戸(右)



38号井戸



39号井戸



2号土坑



3号土坑



4号土坑



6号土坑



7号土坑



9号土坑



10号土坑



11·12号土坑



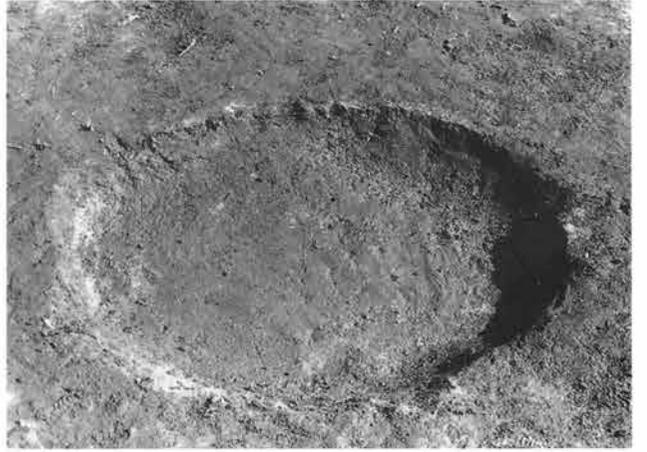
14号土坑



20号土坑



21号土坑



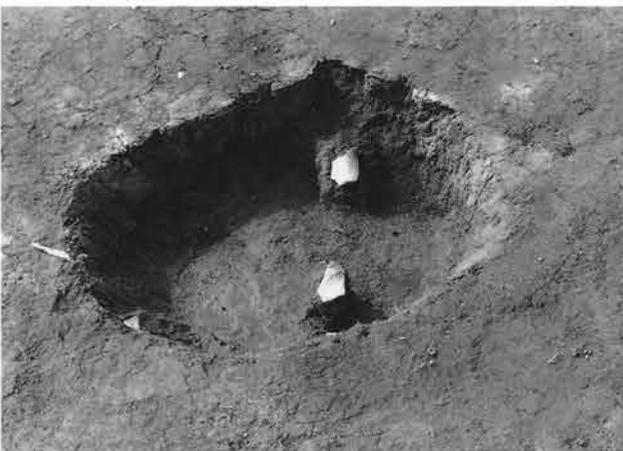
22号土坑



23号土坑



25号土坑



26号土坑



28号土坑



29号土坑



30号土坑



31号土坑



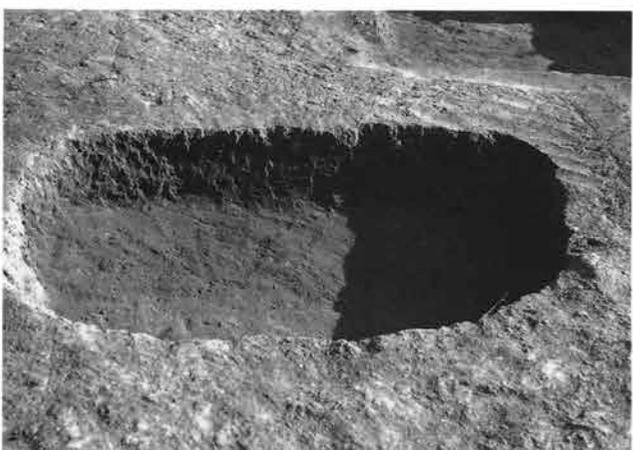
32号土坑



33号土坑



34号土坑



35号土坑



36号土坑



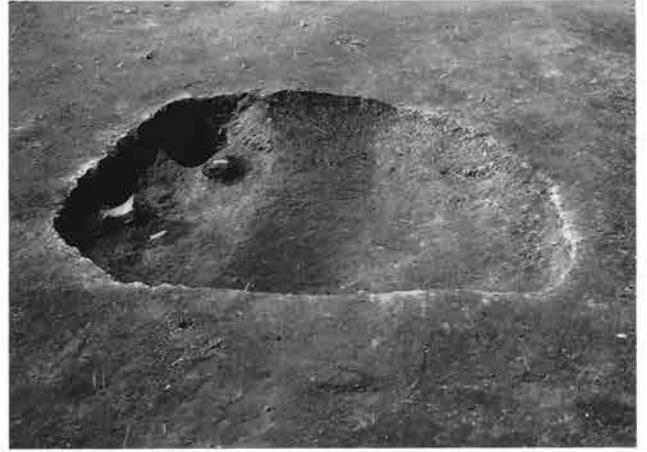
38号土坑



40号土坑



43号土坑



44号土坑



45号土坑



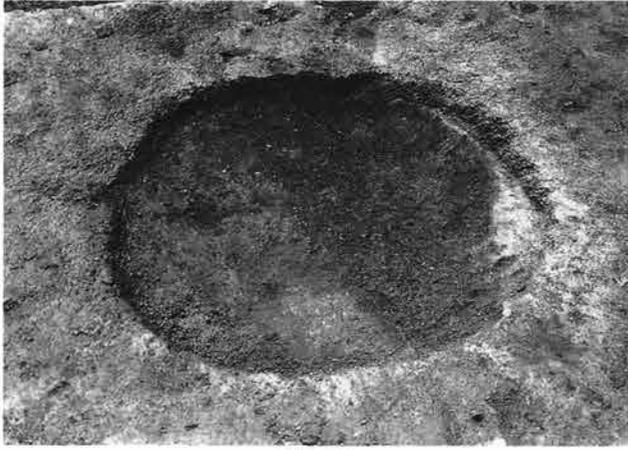
54号土坑



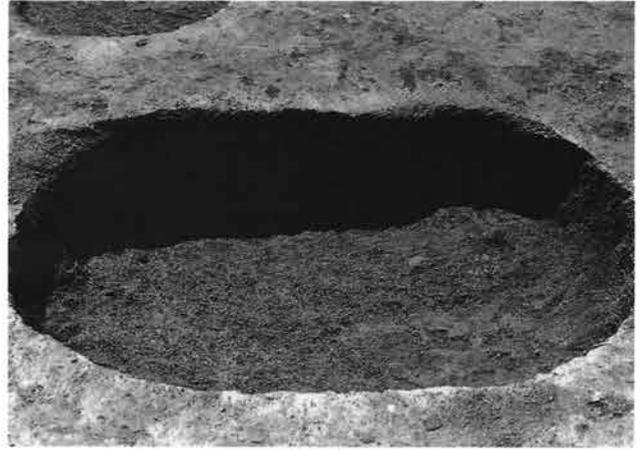
57号土坑



64号土坑



65号土坑



66号土坑



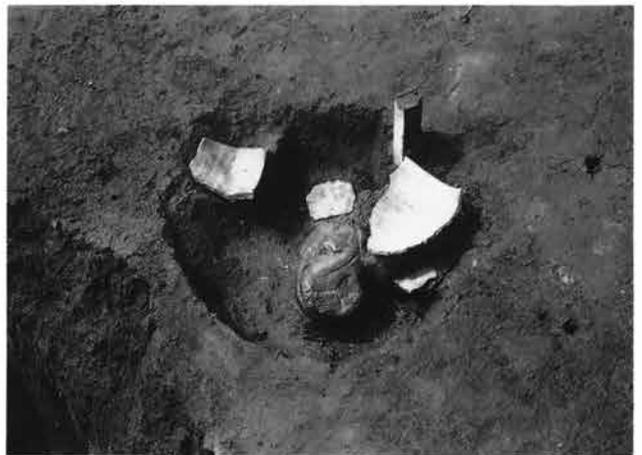
67号土坑



92号土坑



93号土坑



106号土坑



126号土坑



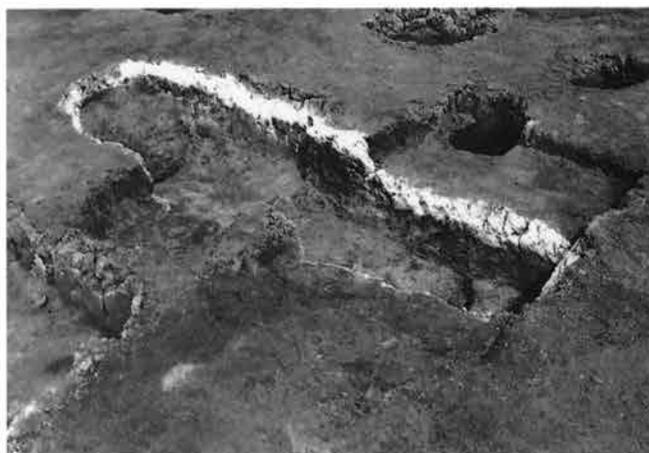
201号土坑



202号土坑



D-25号土坑



D-29号土坑



D-32号土坑



1号墓坑



3号墓坑



3号墓坑



1号沟



13号沟



16号沟



35号沟



43号沟



46号沟



59号沟



143号沟



D-4号溝



D-4号溝



1住-4



2住-1



2住-2



2住-3



2住-4



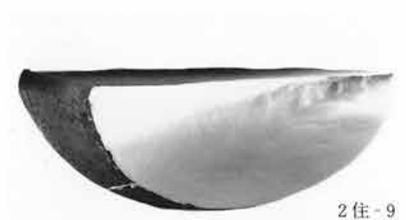
2住-5



2住-7



2住-8



2住-9



2住-10



2住-12



2住-11



2住-11



3住-3



3住-4



3住-7



3住-8



4住-2



4住-3



5住-1



5住-6



5住-3



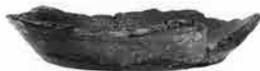
5住-4



5住-5



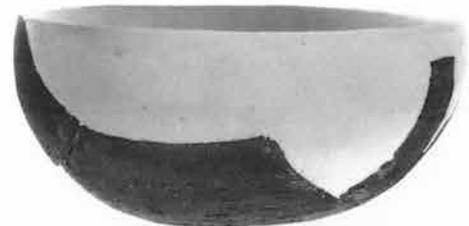
6住-1



6住-3



7住-3



7住-4



10住-1



10住-2



10住-3



11住-1



14住-1



14住-2



14住-6



15住-1



15住-2



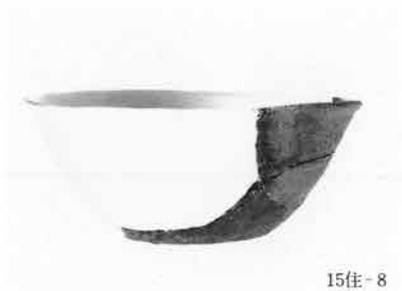
15住-3



15住-6



15住-7



15住-8



17住-1



17住-3



17住-2



17住-6



18住-3



19住-2



19住-3



20住-1



21住-1



21住-4



21住-5



21住-3



24住-1



28住-4



28住-5



30住-1



31住-4



33住-4



32住-4



32住-5



33住-8



41住-3



41住-5



41住-7



41住-13



41住-4



41住-14



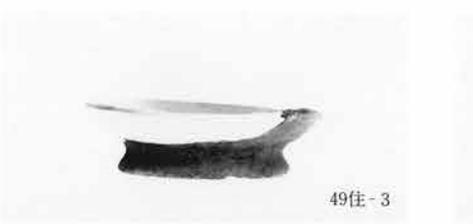
42住-5



44住-2



49住-2



49住-3



49住-6



50住-8



50住-9



50住-10



50住-1



50住-4



50住-5



50住-14



52住-2



52住-3



52住-4



53住-4



54住-2



54住-4



62住-1



62住-4



62住-7



62住-2



62住-8



67住-2



65住-4



67住-3



67住-4



67住-6



67住-7



67住-5



68住-7



73住-4



73住-3



73住-11



75住-4



75住-9



75住-12



75住-11



75住-13



79住-2



81住-1



82住-4



80住-2



87住-5



90住-3



90住-4



91住-3



91住-5



91住-6



91住-10



91住-12



91住-13



91住-14



91住-15



91住-16



93住-2

146住-1



146住-2



148住-1



207住-1



207住-3



207住-6



208住-8



208住-9



209住-7



211住-1



D-2住-7



D-2住-5



D-3住-3



D-3住-1



D-9住-1



D-9住-2



D-9住-3



D-9住-4



D-9住-6



D-4住-1



D-4住-2



D-4住-3



D-5住-5



D-4住-8



D-5住-10



D-5住-13



D-5住-16



D-5住-18



D-6住-2



D-6住-3



D-8住-1



D-8住-2



D-8住-7



D-8住-5



D-8住-8



D-12住-1



D-12住-2



D-12住-4



D-13住-1



D-14住-2



D-14住-3



D-14住-4



D-14住-5



D-15住-4



D-15住-6



D-16住-2



D-15住-7



10掘立-2



10掘立-3



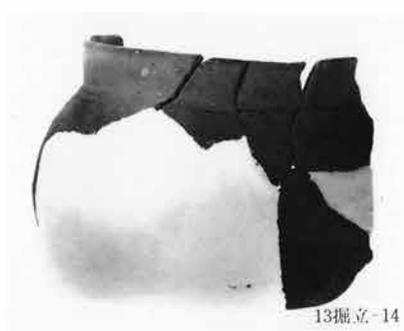
2掘立-5



3掘立-6



2掘立-7



13掘立-14



2掘立-8



9掘立-12



13掘立-13



19井戸-2



19井戸-3



21井戸-4



26井戸-6



33井戸-15



19井戸-9



19井戸-9



29井戸-8



16井戸-17



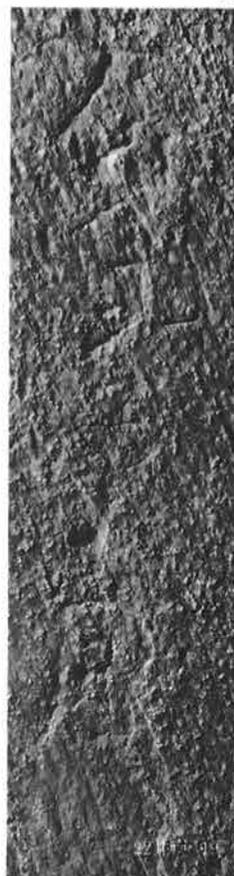
30井戸-6



30井戸-18



22井戸-19



21井戸-93



30井戸-21



23井戸-22



9土坑-3



10土坑-4



10土坑-5



12土坑-6



12土坑-8



14土坑-10



43土坑-11



54土坑-12



98土坑-14



98土坑-15



D-32土坑-18



126土坑-20



211土坑-21



211土坑-23



43土坑-24



D-25土坑-17



28土坑-13



1 溝-1



43 溝-3



33 溝-4



15 溝-5



43 溝-6



3 溝-7



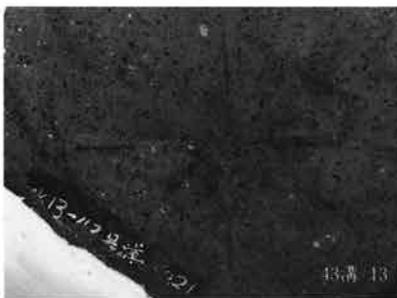
43 溝-8



15 溝-9



128 溝-10



43 溝-13



15 溝-12



43 溝-11



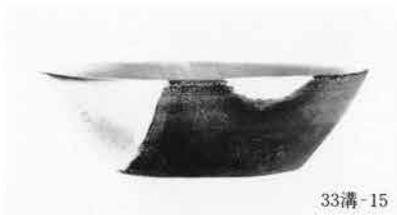
43 溝-13



15 溝-12



33 溝-14



33 溝-15



16 溝-16



3 溝-17



58 溝-18



3 溝-19



16 溝-20



1 溝-21



15 溝-23



1溝-24



43溝-25



128溝-26



38溝-28



127溝-29



127溝-29



134溝-30



134溝-33



134溝-35



134溝-36



134溝-38



134溝-41



134溝-43



134溝-46



134溝-47



134溝-34



134溝-58



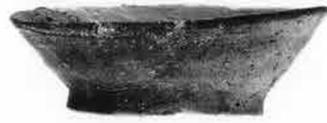
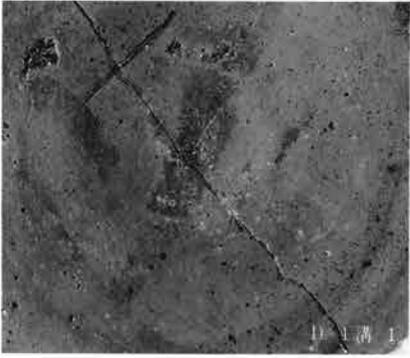
溝-59



溝-60



128溝-61



D-1 溝-3



D-1 溝-5



D-1 溝-1



D-2 溝-6



D-1 溝-8



D-1 溝-11



D-2 溝-9



D-2 溝-12



D-1 溝-13



D-4 溝-15



D-4 溝-16



D-4 溝-15



D-4 溝-16



D-4 溝-17



D-4 溝-18



D-4 溝-17



D-4 溝-18



D-4 溝-19



D-4 溝-20



D-4 溝-19



D-4 溝-20



D-4 溝-21



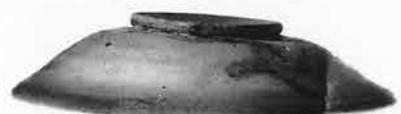
D-4 溝-22



D-4 溝-21



D-4 溝-22



D-4 溝-23



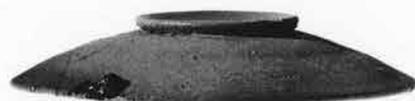
D-4 溝-24



D-4 溝-23



D-4 溝-24



D-4 溝-25



D-4 溝-26



D-4 溝-25



D-4 溝-26



D-4 溝-27



D-4 溝-28



D-4 溝-27



D-4 溝-28



D-4 溝-29



D-4 溝-30



D-4 溝-29



D-4 溝-30



D-4 溝-31



D-4 溝-32



D-4 溝-31



D-4 溝-32



D-4 溝-33



D-4 溝-34



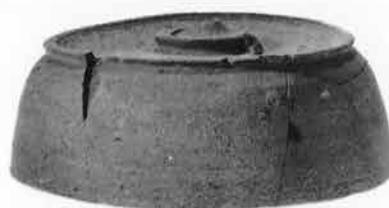
D-4 溝-35



D-4 溝-34



D-4 溝-36



D-4 溝-37



D-4 溝-36



D-4 溝-37



D-4 溝-39



D-4 溝-40



D-4 溝-41



D-4 溝-42



D-4 溝-43



D-4 溝-44



D-4 溝-45



D-4 溝-46



D-4 溝-47



D-4 溝-48



D-4 溝-49



D-4 溝-50



D-4 溝-52



D-4 溝-51



D-4 溝-53



D-4 溝-54



D-4 溝-55



D-4 溝-54



D-4 溝-56



D-4 溝-57



D-4 溝-58



D-4 溝-59



D-4 溝-60



D-4 溝-61



D-4 溝-63



D-4 溝-64



D-4 溝-67



D-4 溝-68



D-4 溝-69



D-4 溝-70



D-4 溝-72



D-4 溝-66



D-4 溝-71



D-4 溝-71



D-4 溝-74



D-4 溝-75



D-4 溝-76



D-4 溝-77



D-4 溝-78



D-4 溝-79



D-4 溝-80



D-4 溝-81



D-4 溝-82



D-4 溝-83



D-4 溝-84



D-4 溝-85



D-4 溝-86



D-4 溝-87



D-4 溝-88



D-4 溝-89



D-4 溝-90



D-4 溝-91



D-4 溝-92



D-4 溝-93



D-4 溝-94



D-4 溝-95



D-4 溝-96



D-4 溝-97



D-4 溝-98



D-4 溝-99



D-4 溝-100



D-4 溝-101



D-4 溝-102



D-4 溝-103



D-4 溝-119



D-4 溝-104



D-4 溝-105



D-4 溝-106



D-4 溝-120



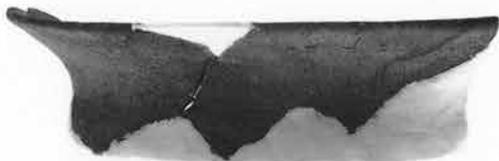
D-4 溝-121



D-4 溝-131



D-4 溝-144



D-4 溝-146



D-4 溝-148



D-4 溝-145



D-4 溝-147



D-4 溝-149



D-4 溝-152



D-4 溝-153



D-4 溝-155



D-4 溝-157



D-4 溝-158



奈良-1



奈良-2



奈良-3



奈良-4



奈良-5



奈良-6



奈良-7



奈良-13



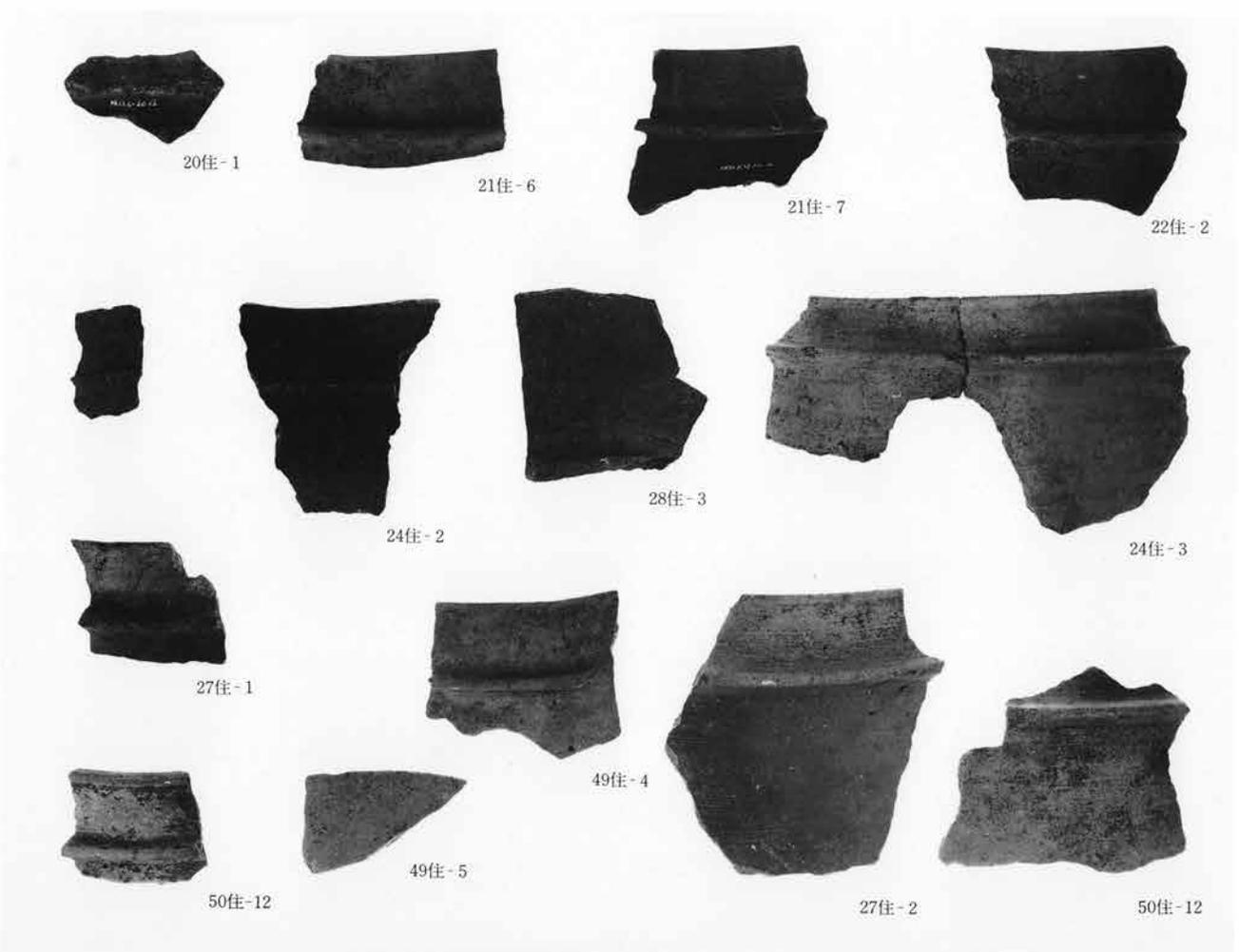
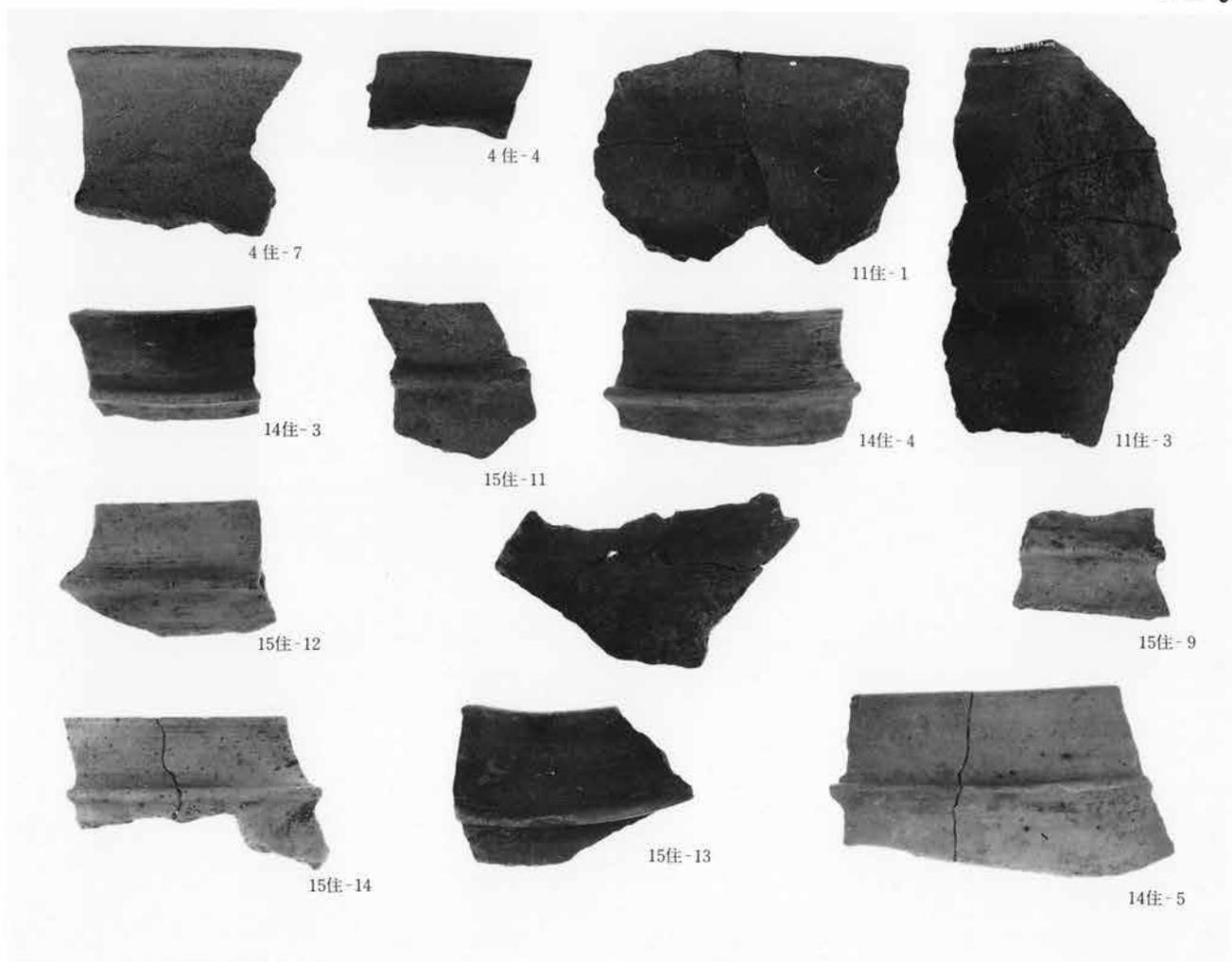
奈良-15

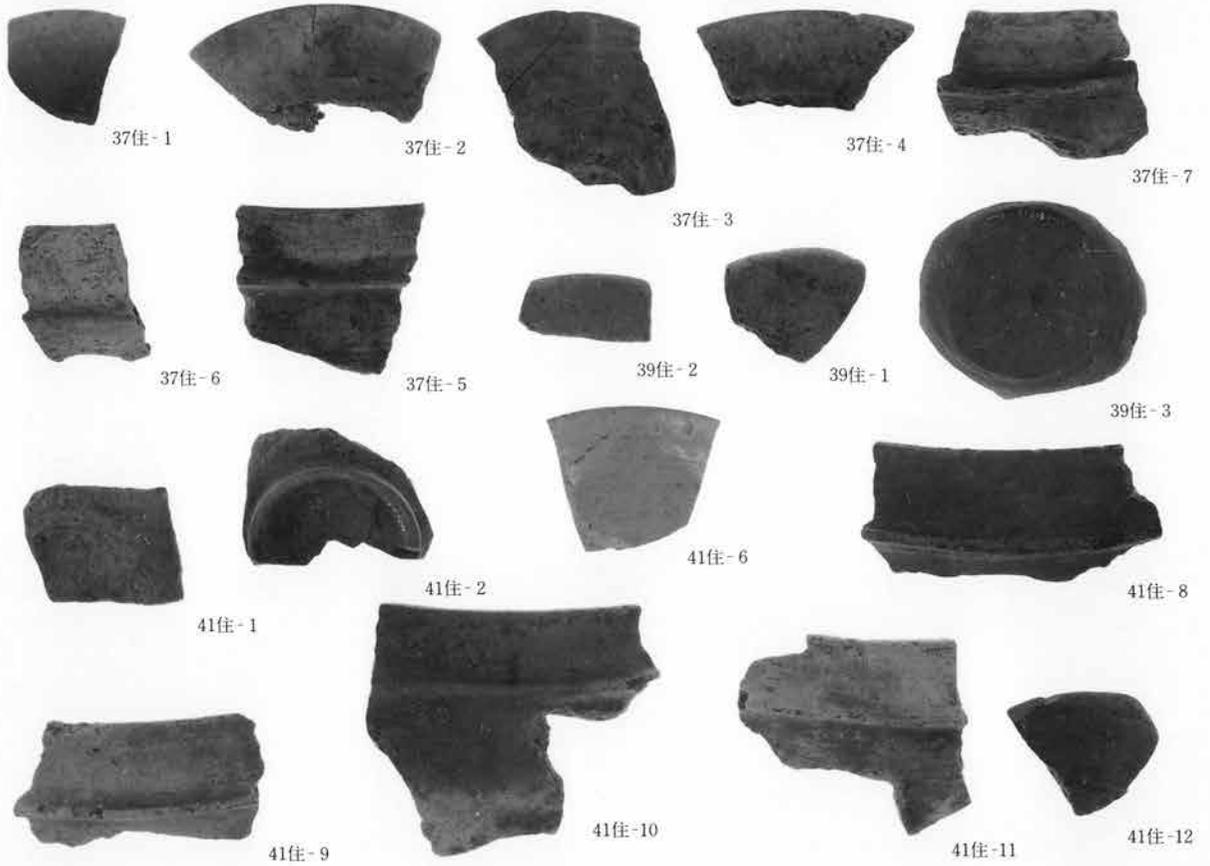
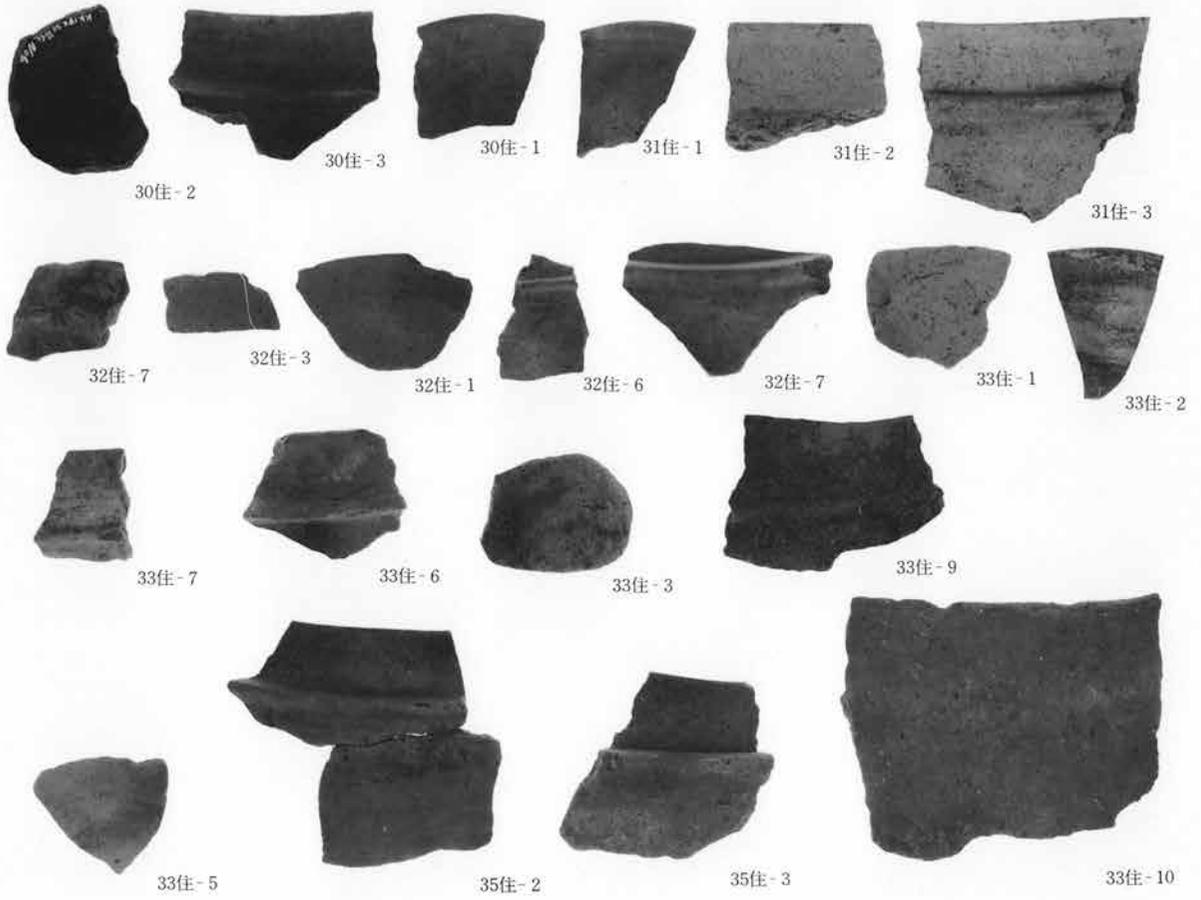


奈良-17



奈良-18







42住-1



42住-2



42住-3



42住-4



42住-6



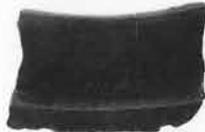
61住-2



61住-3



61住-1



43住-1



44住-1



44住-3



44住-4



47住-2



48住-1



48住-2



50住-2



51住-6



50住-7



50住-11



50住-13



51住-1



51住-5



51住-8



51住-9



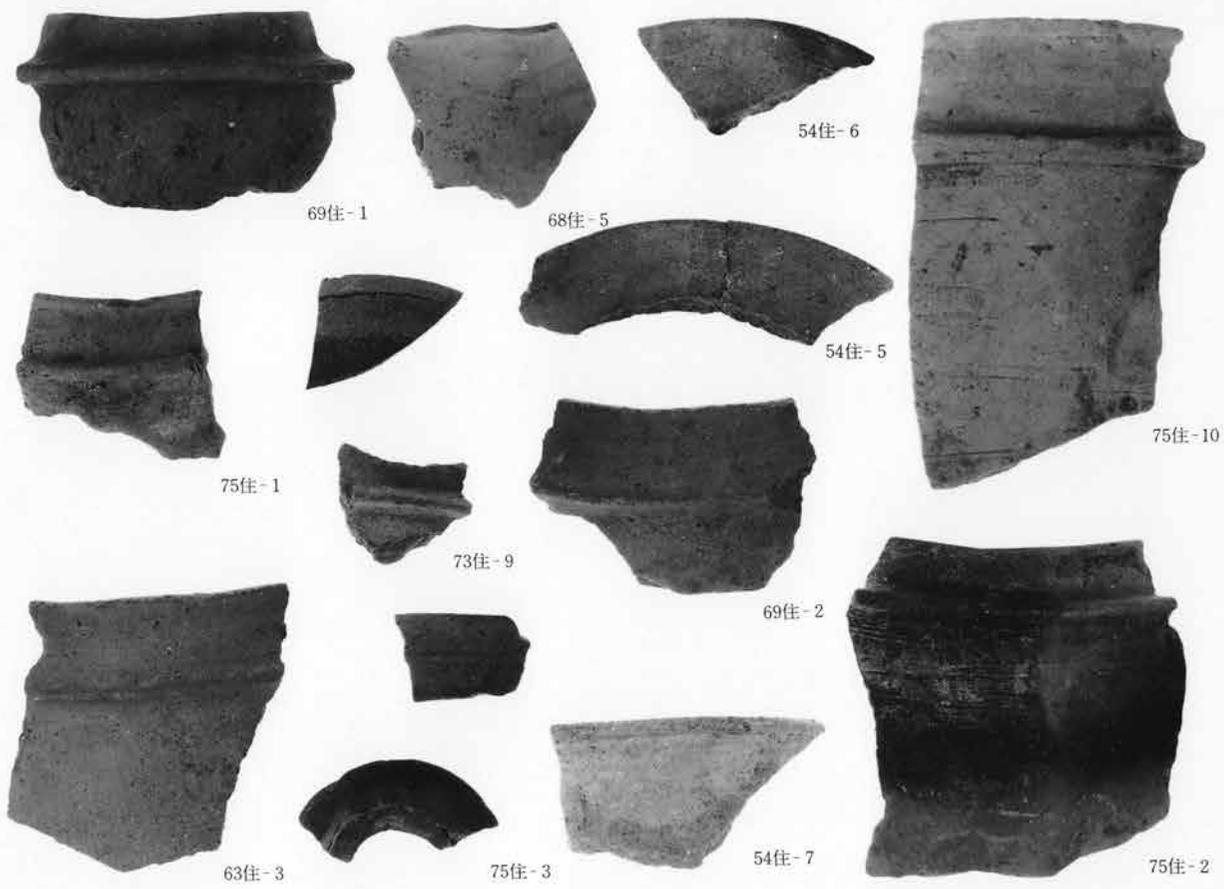
51住-7



51住-4



51住-11





79住-3



81住-2



87住-9



87住-4



87住-8



87住-7



87住-2



89住



89住-3



87住-3



87住-1



90住-1



90住-5



208住-6



91住-1



146住-3



207住-7



147住-1



207住-9



146住-4



207住-8





208住-10



208住-13



208住-12



209住-9



D-2住-7



D-3住-7



D-3住-8



D-9住-9



D-4住



D-4住-9



D-4住-5



D-5住-9



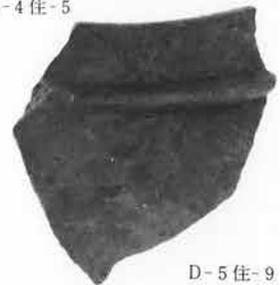
D-5住-1



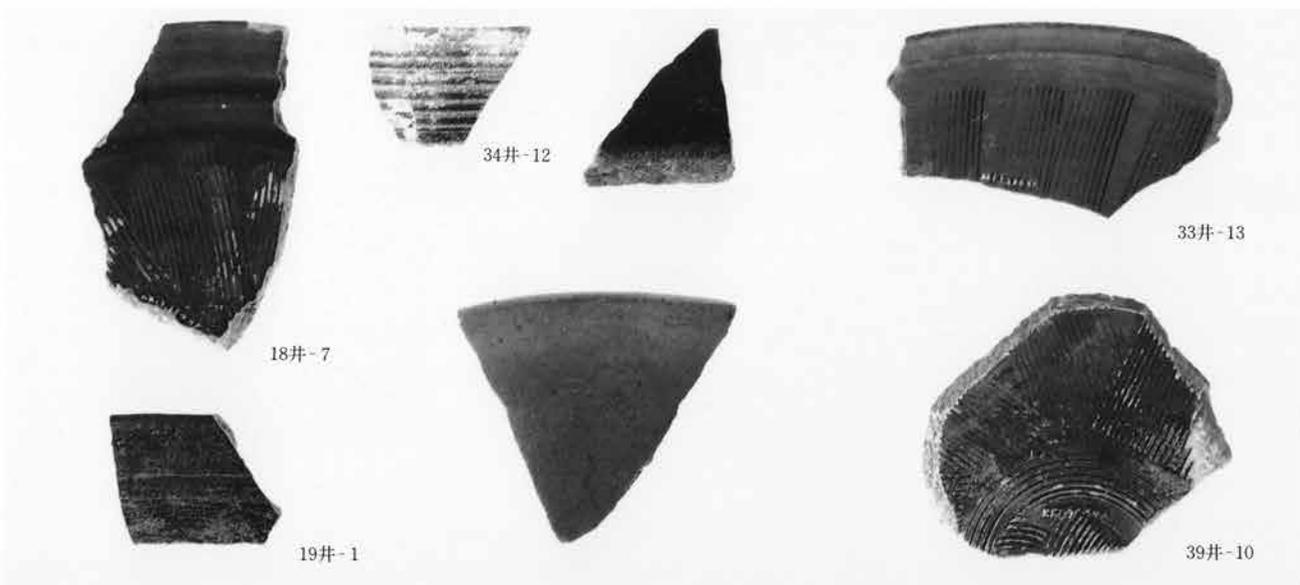
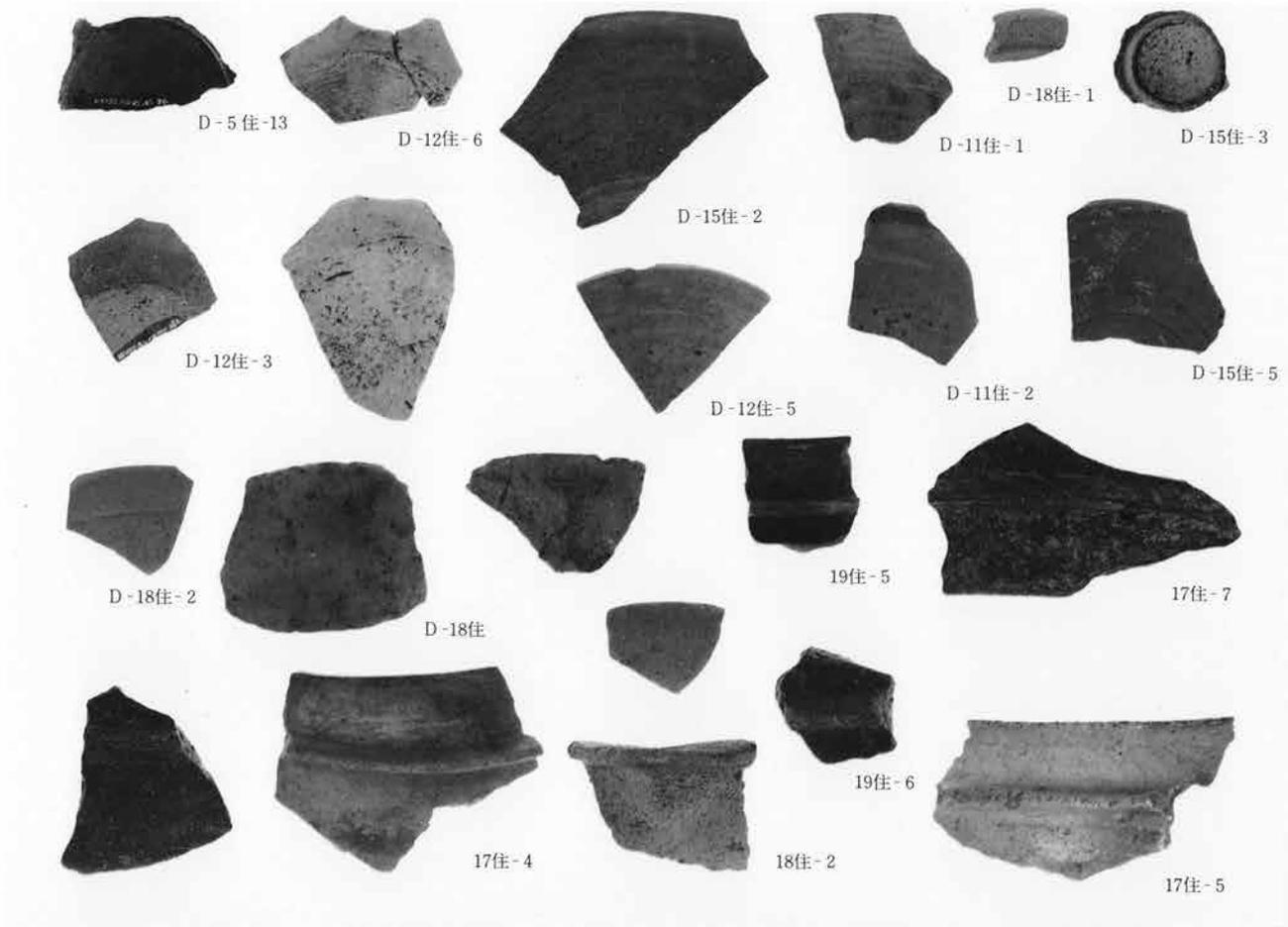
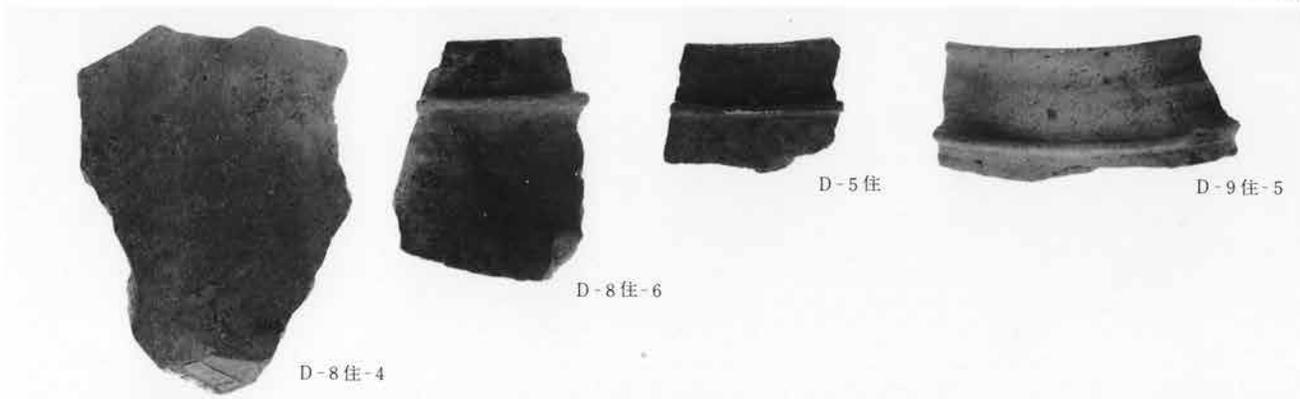
D-5住-2



D-5住-7



D-5住-9





32±-16



98±-26



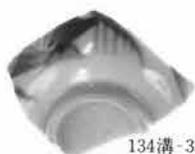
89±-19



106±-25



106±-22



134溝-32



134溝-31



134溝-37



134溝-40



134溝-39



134溝-45



134溝-42



134溝-49



134溝-48



134溝-44



134溝-50



134溝-51



134溝-58



134溝-53



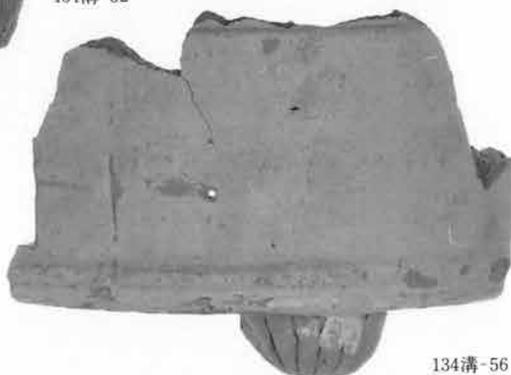
134溝-54



134溝-52



134溝-57



134溝-56





奈良-19



奈良-10



奈良-13



奈良-21

奈良時代生活面遺物



1住-4



4住-9



45住-1



27住-3



4住-10



8住-12



91住-17



4住-8



92住-1



33住-11



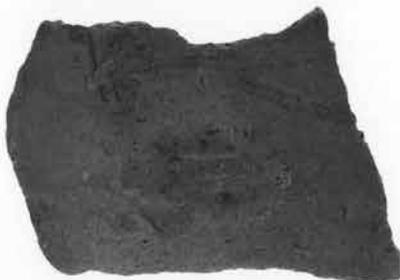
35住-1



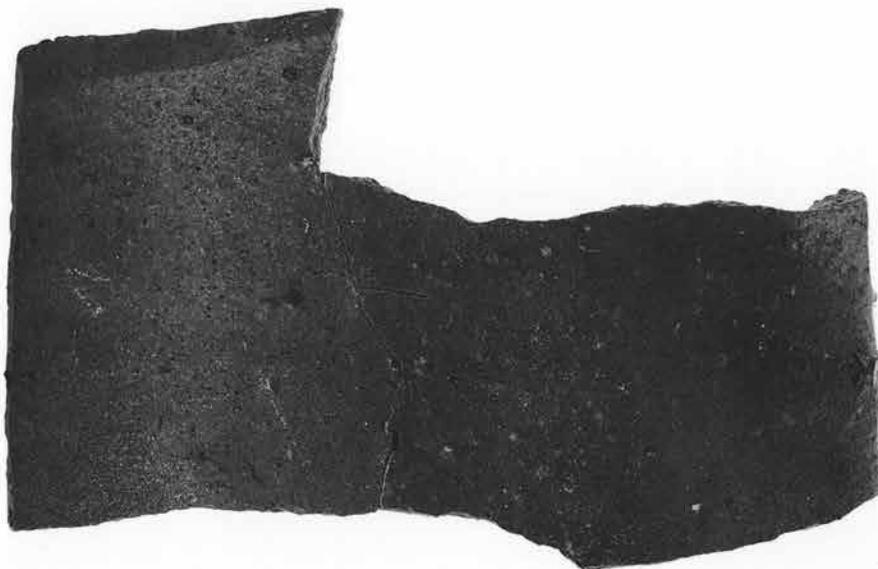
48住-3



62住-11



62住-12



43住-2



87住-10



D-2住-4



D-3住-13



D-3住-10



D-3住-11



D-3住-14



D-3住-12



D-3住-15



D-4住-4



D-11住-4



D-12住-7



1掘-15



2掘-20



2掘-18



2掘-17



8掘-19



10掘-22



11掘-18



10掘-23



2掘-21



3土-1



3土-2



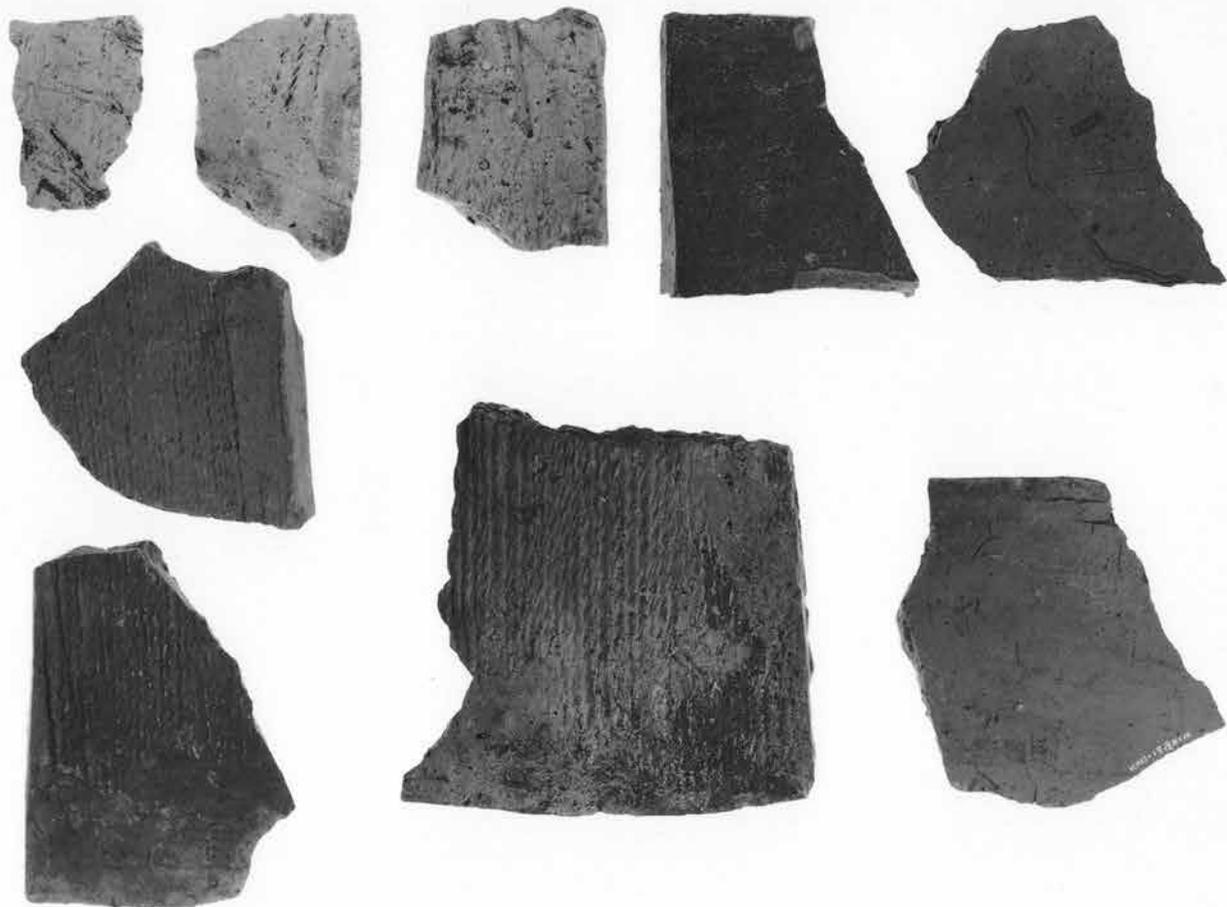
30土-9



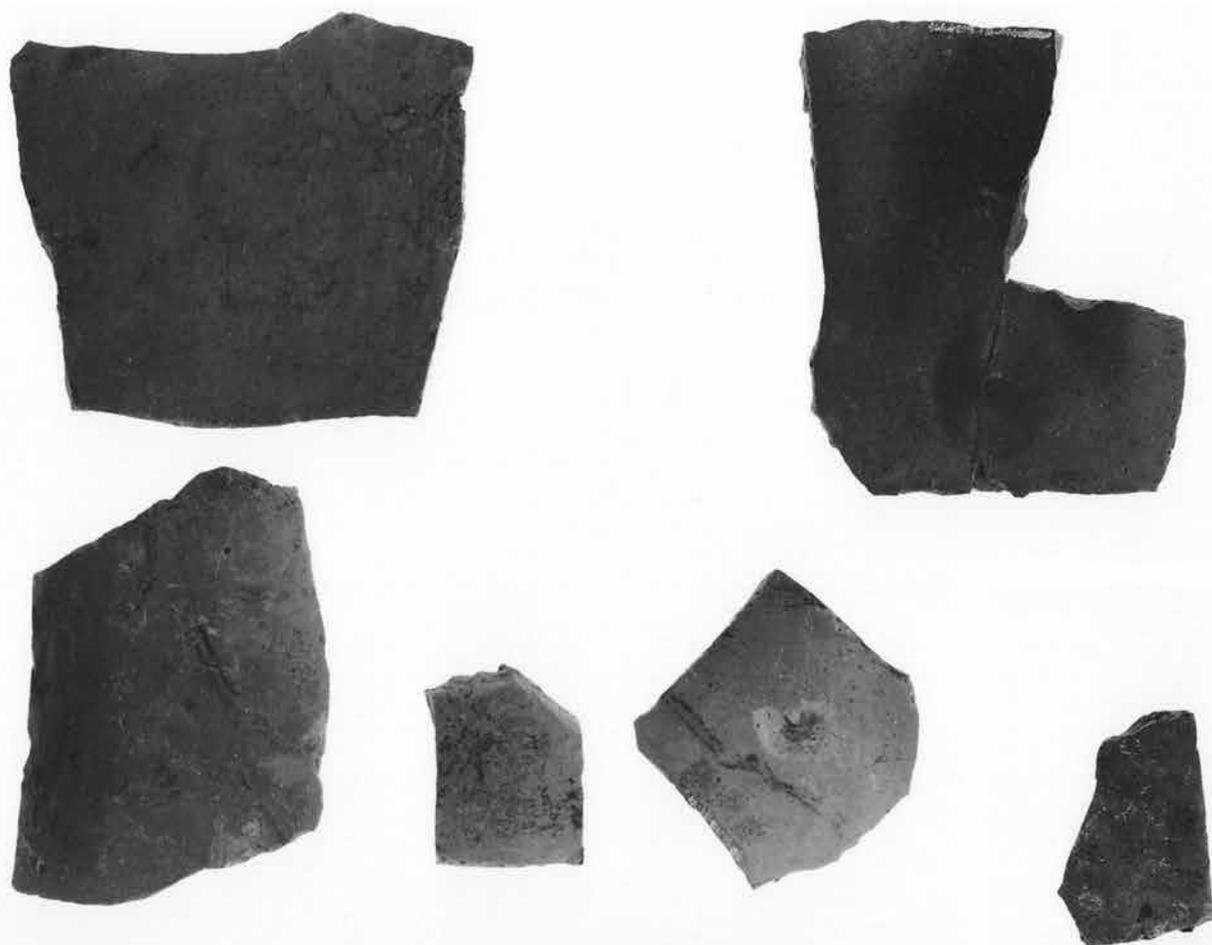
198土



D-1溝



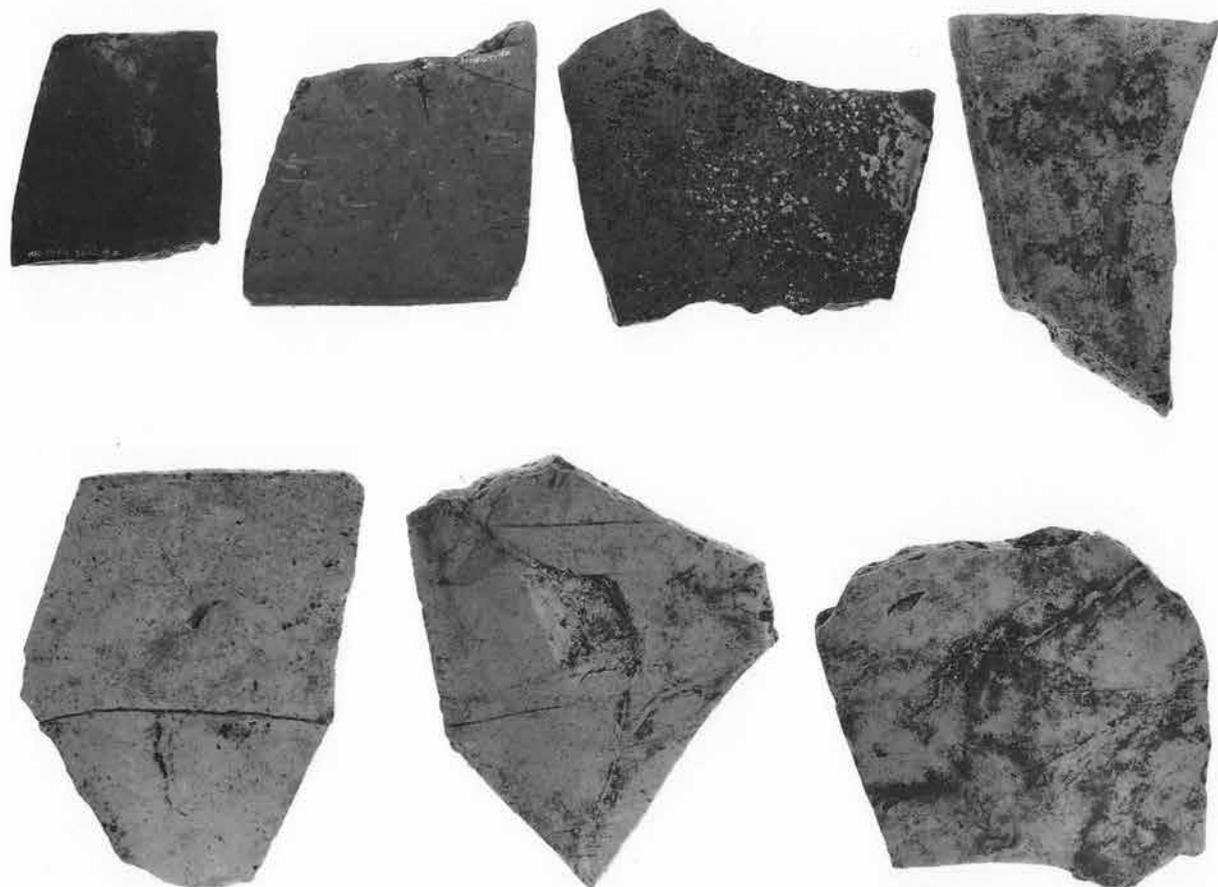
D-1号溝遺物(瓦)



D-4号溝遺物(瓦)



D-4号溝遺物(瓦)



D-4号溝遺物(瓦)



D-4号溝遺物(瓦)



D-4号溝遺物(瓦)



2住-1



2住-1



62住-7



2住



2住-33



2住-41



3住-27



3住-56



31住-59



31住-57



31住-55



3住



62住-50



3住-2



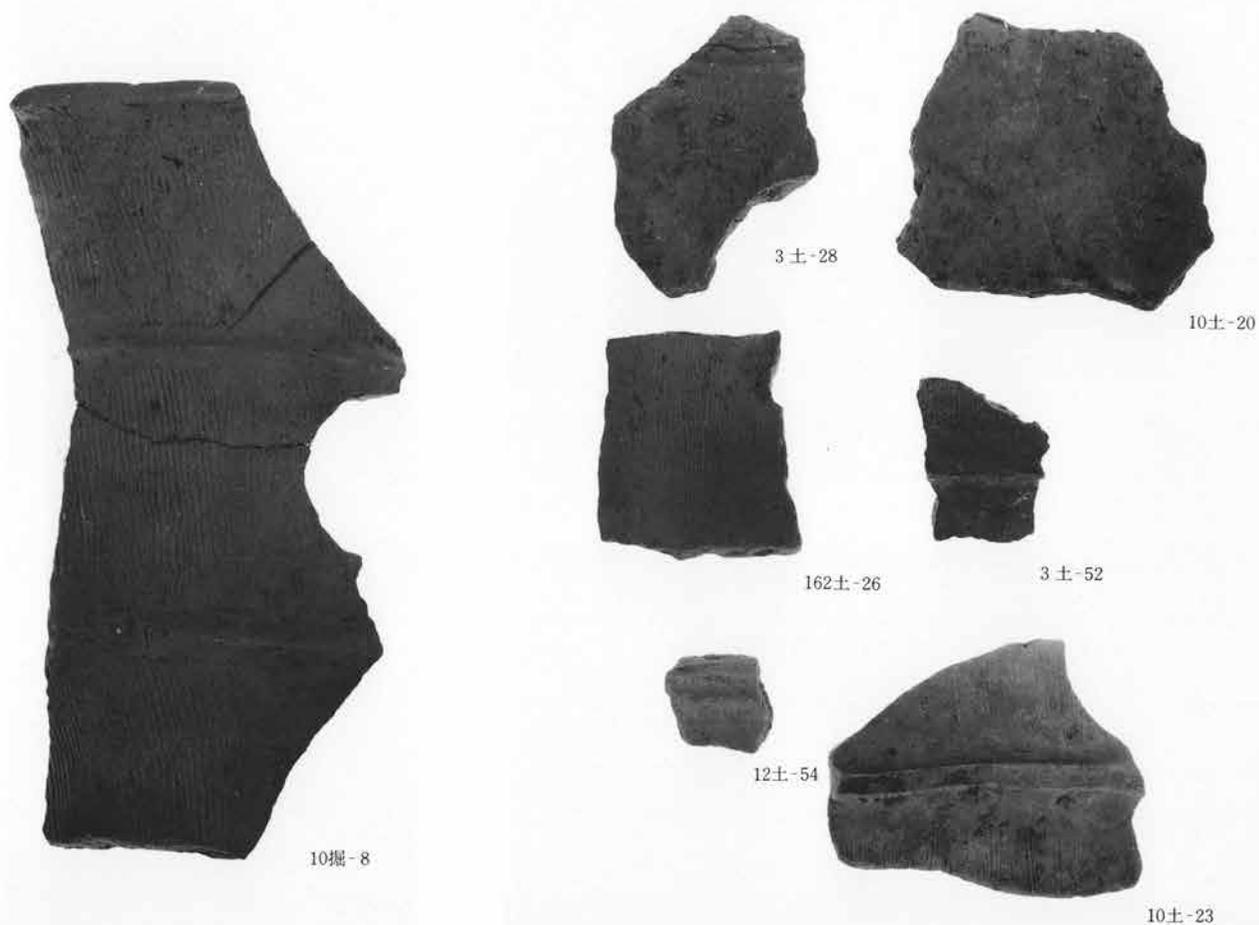
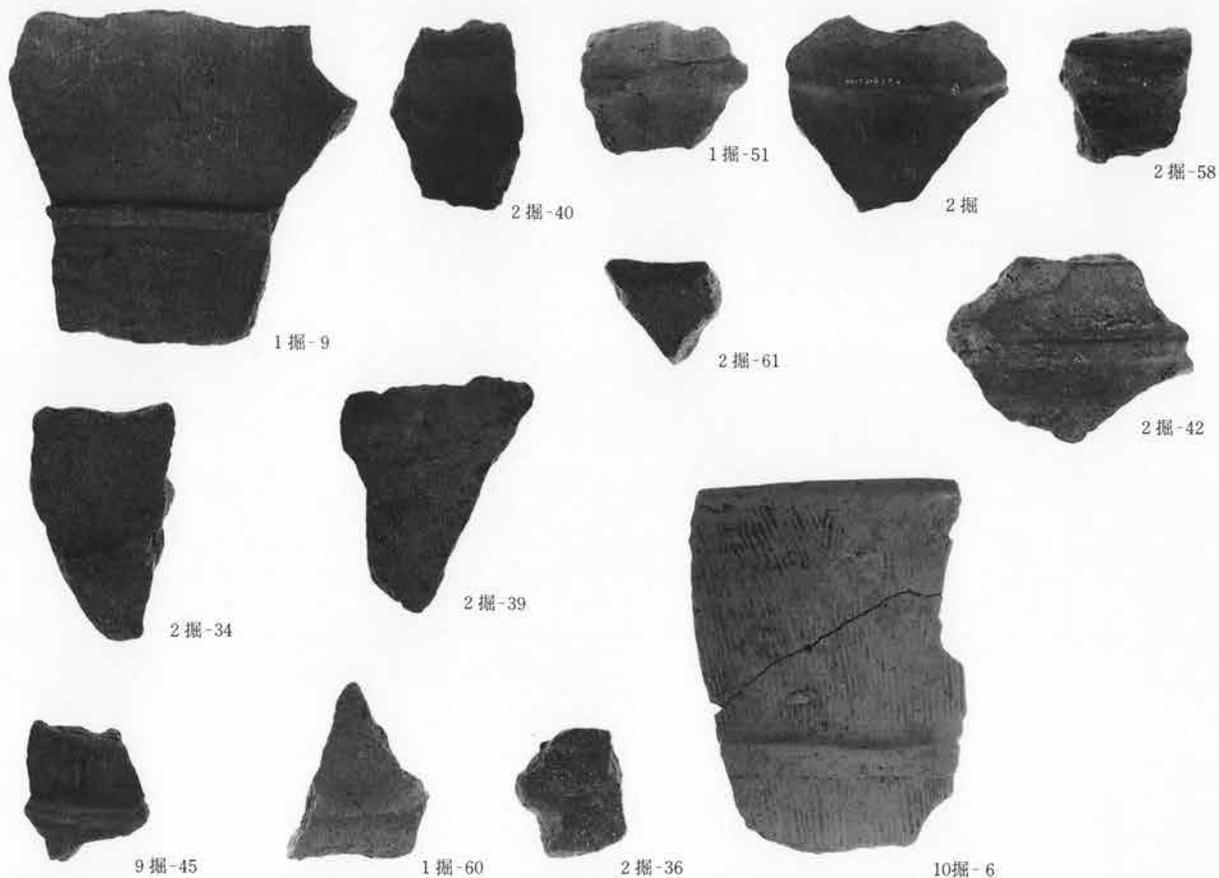
5住-22



65住-53



62住-3





奈良-4



奈良-12



奈良-25



奈良-15



奈良-11



奈良-5



奈良-16



奈良-13



奈良-14



奈良-47



奈良-17



奈良-46



奈良-38



奈良-63



奈良-29



奈良-48



奈良-21



奈良-10



奈良-43



奈良-19



奈良-18



奈良-32



奈良-31



奈良-30



奈良-24





5井戸-1



6井戸-1



6井戸-2



6井戸-3



6井戸-3



13井戸-2



6井戸-4



13井戸-1



11井戸-1



11井戸-1



16井戸-1



16井戸-2



16井戸-3



17井戸-1



18井戸-1



18井戸-3



18井戸-4



18井戸-2



22井戸-1



23井戸-1



23井戸-2



25井戸-1



26井戸-1



26井戸-2



26井戸-3



26井戸-4



26井戸-5



30井戸-1

30井戸-1



32井戸-1



32井戸-2



32井戸-2



33井戸-2



33井戸-1

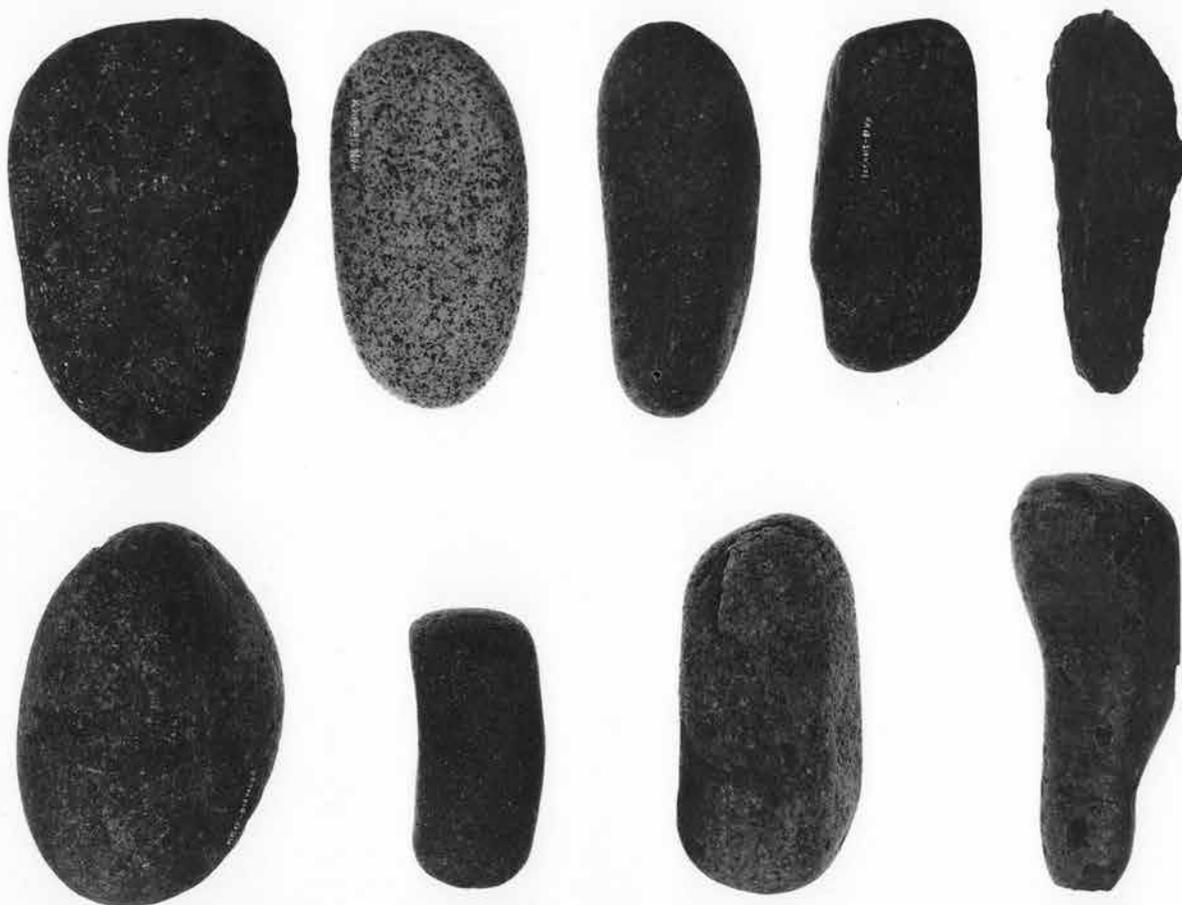


33井戸-3

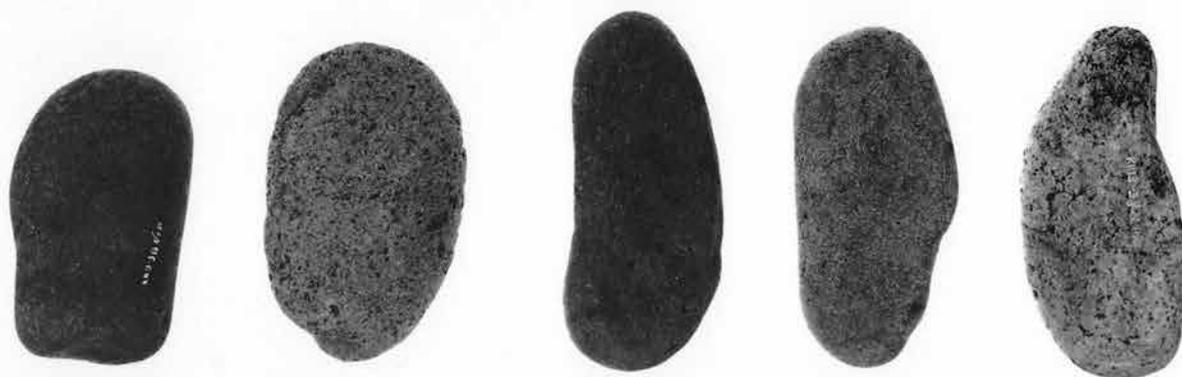
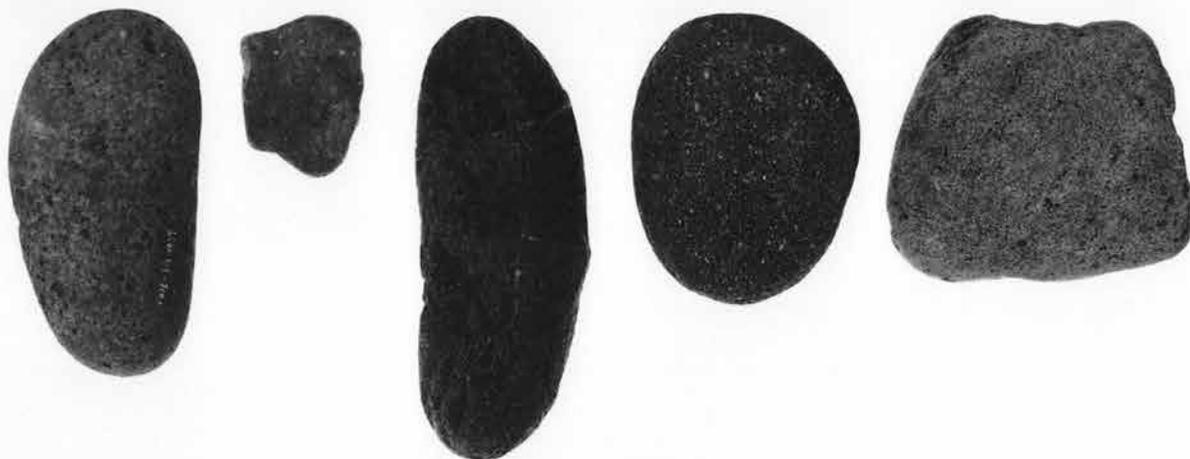




2号住居跡遺物(石)



3号住居跡遺物(石)



3号住居跡遺物(石)



3号住居跡遺物(石)



8住



8住



14住



49住



61住



44住



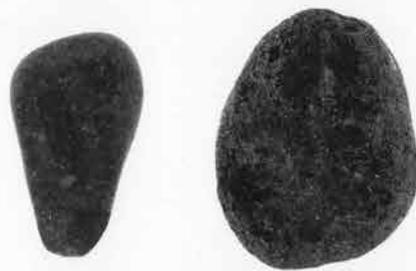
48住



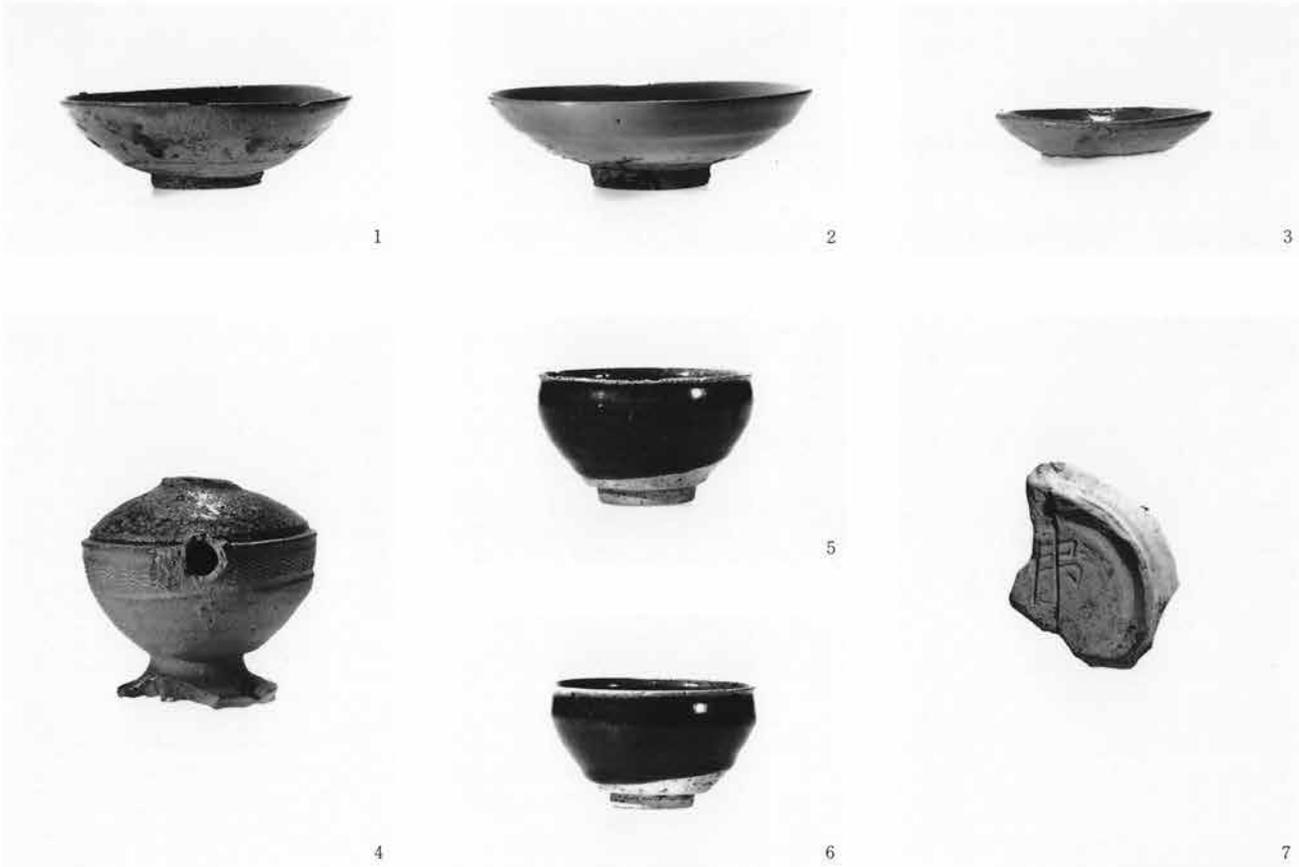
D-3号住居跡遺物(石)



D-3号住居跡遺物(石)



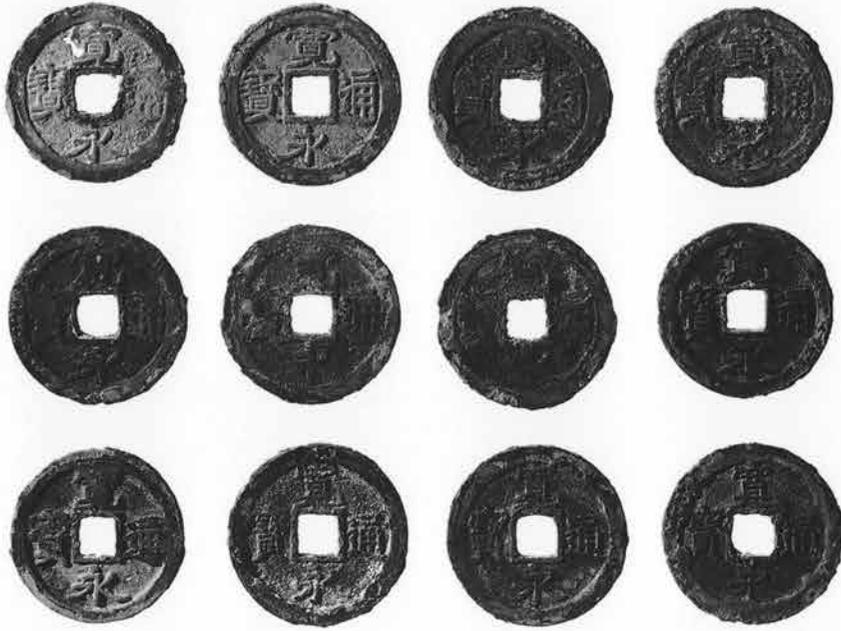
奈良時代生活面遺物(石)



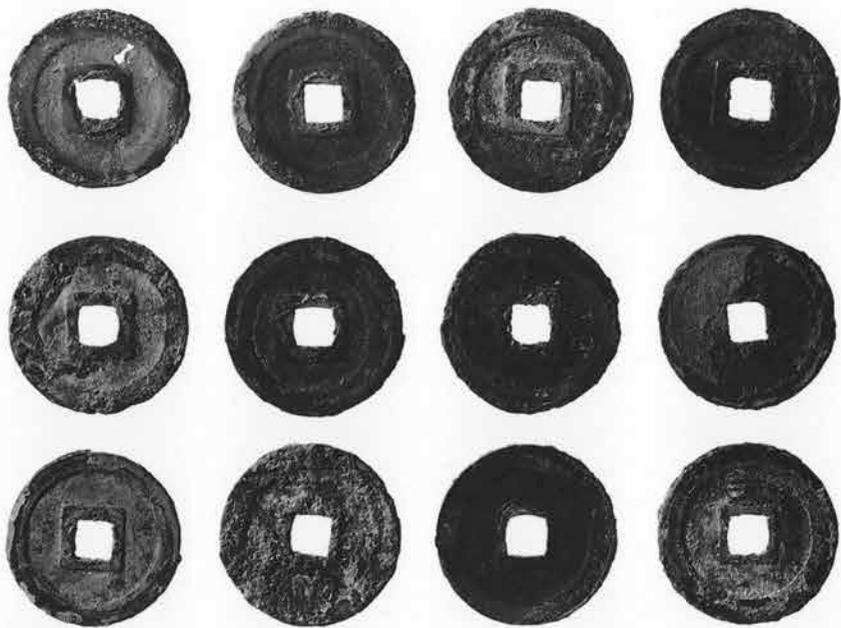
遺構外遺物



D-1号溝遺物(軒丸瓦)



古 錢 (表)



古 錢 (裏)



3号井戸(ウリ)



4号井戸(モモ)



15号井戸(クロモジ)



6号井戸(ケヤキ、クリ、スギ、イネ科地下茎)



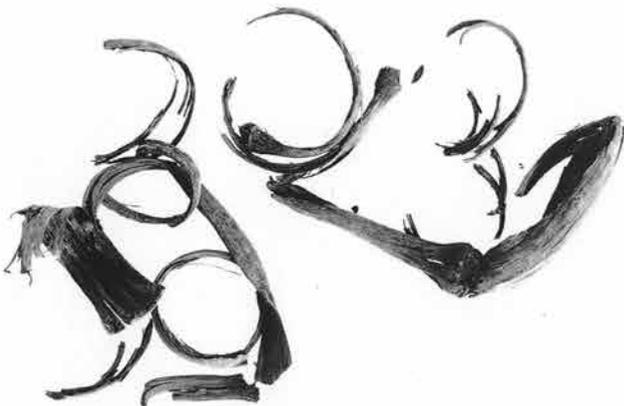
15号井戸(スギ球果)



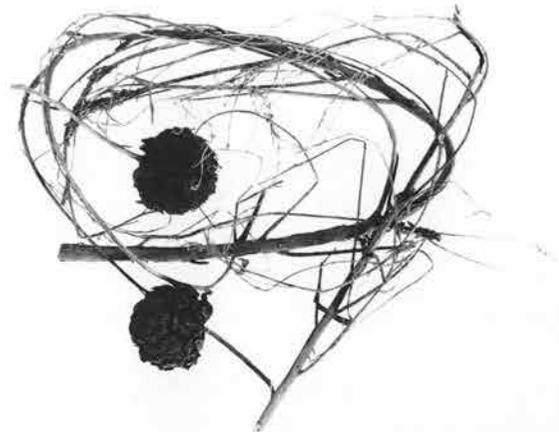
15号井戸(トチノキ)



31号井戸(モモ)



19号井戸(アシ?の茎)



26号井戸(スギ、球果つき小枝、葉は脱落)



第1トレンチ



第2トレンチ



第3トレンチ



第4トレンチ



1号住居跡



1号住居跡



2号住居跡



3号住居跡



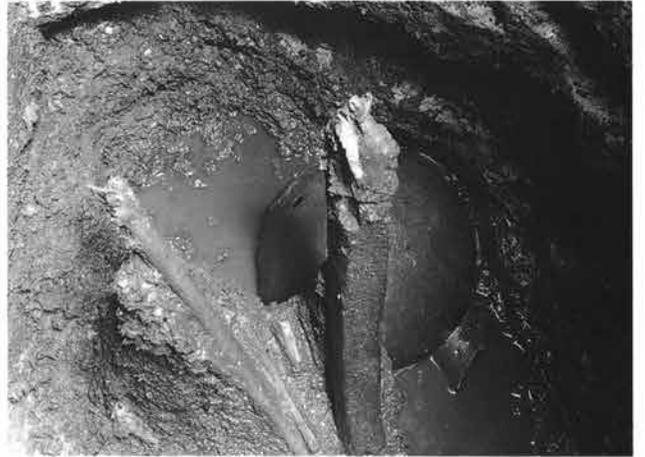
1号土坑



3号土坑



5・6・7号土坑



1号井戸



2号井戸



3号井戸



2住-1



3土-1



1井戸-3



1井戸-4



1井戸-5



2井戸-2



2井戸-3



2井戸-1



1井戸-6



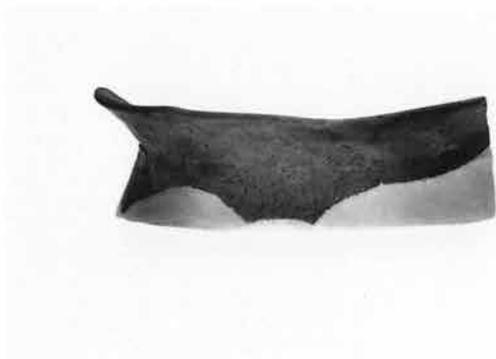
2井戸-4



2井戸-5



2井戸-6



3井戸-3



3井戸-2



3井戸-4



3井戸-6



3井戸-5



3井戸-7



住居跡・井戸・土坑遺物



板 碑



蛭沢(ブドウ、緑豆?、シソ類)



蛭沢1号井戸(ウリ、その他)



蛭沢1号井戸(モモ)



蛭沢2号井戸(ヒョウタン)



蛭沢2号井戸(モモ)



蛭沢2号井戸(ブドウ、スズメウリ、アサ、サンショウ)



蛭沢遺跡全景

# 新保遺跡Ⅲ 奈良・平安時代編

## 蛭沢遺跡

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第19集—

昭和63年2月22日 印刷

昭和63年2月28日 発行

発行／群馬県教育委員会  
前橋市大手町1丁目1番1号  
電話 (0272) 23-1111

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橋村下箱田784番地の2  
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社



01-320	群 埋 文
37	
(7)	

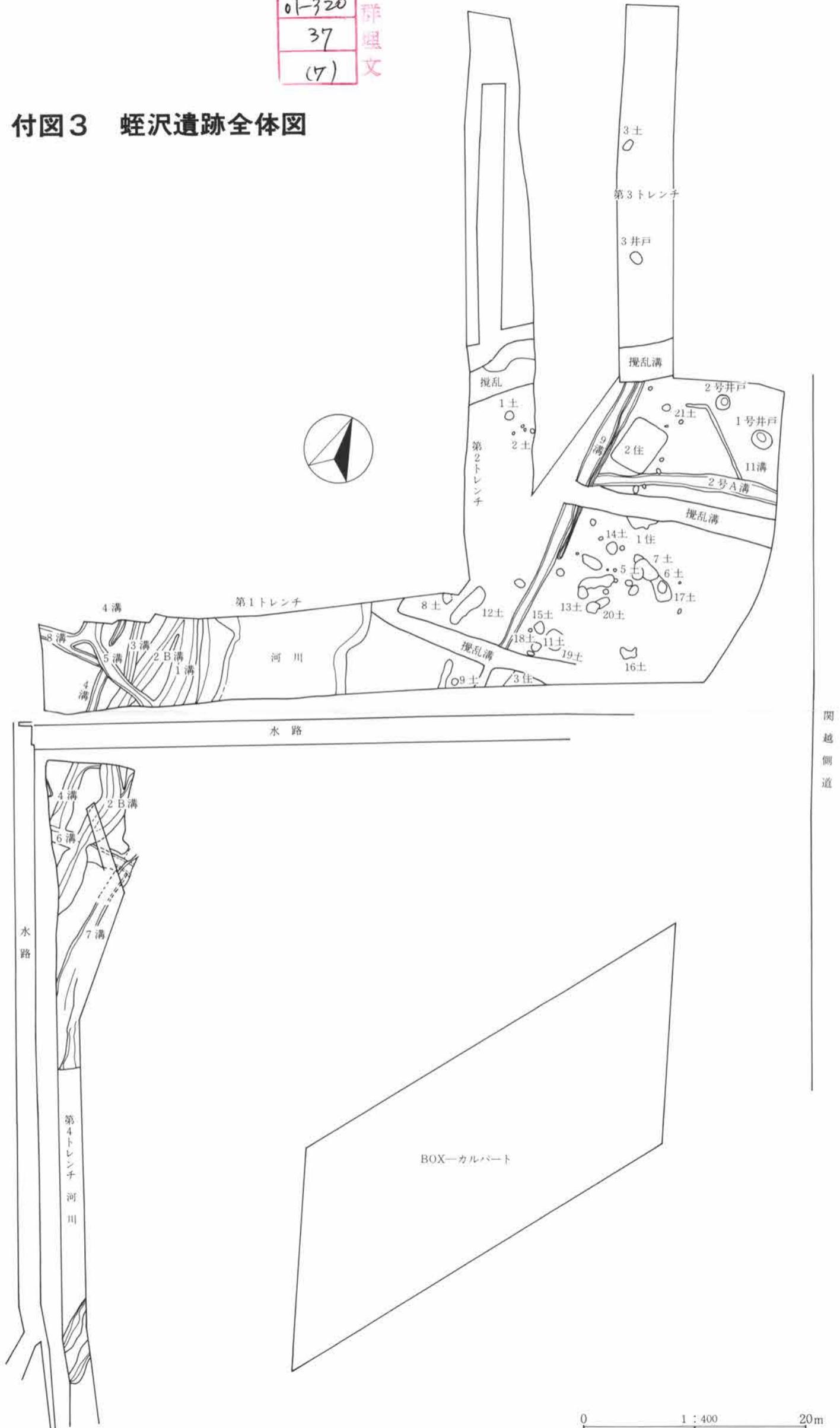
付図2 新保遺跡中世屋敷跡



0 1 : 200 10m

01-320	群 埋 文
37	
(7)	

付図3 蛭沢遺跡全体図



関越側道